

奈良県御所市

# 玉 手 遺 跡

—京奈和自動車道建設に係る発掘調査報告—

〈第2分冊〉

平成29年(2017)2月  
御所市教育委員会



ごせ  
奈良県御所市

# 玉 手 遺 跡

—京奈和自動車道建設に係る発掘調査報告—

〈第2分冊〉

平成29年(2017)2月  
御所市教育委員会



## 目次〈第2分冊〉

第5章 第4－2次調査の成果	
第8節 第8遺構面	-----1
1. 遺構面直上の遺物分布状況	(木許)---7
2. 遺構	(木許・村島)---10
(1) 建物とピット	
①建物1 (北1区)	
②建物2 (北2区)	
③建物3 (北2区)	
④建物4・建物5 (北3区)	
⑤ピット (北2・3区)	
(2) 焼土	
①焼土3 (北1区)	
②焼土4 (北2区)	
③焼土5 (北2区)	
④焼土6 (北2区)	
⑤焼土7 (北2区)	
(3) 土器棺墓	
①土器棺墓1 (北2区)	
②土器棺墓2 (北2区)	
③土器棺墓3 (北2区)	
④土器棺墓4 (北2区)	
⑤土器棺墓5 (北2区)	
⑥土器棺墓6 (北2区)	
⑦土器棺墓7 (北2区)	
⑧土器棺墓8 (北2区)	
⑨土器棺墓9 (北2区)	
⑩土器棺墓10 (北2区)	
⑪土器棺墓11 (北3区)	
⑫土器棺墓12 (北3区)	
⑬土器棺墓13 (北3区)	
⑭土器棺墓14 (北3区)	
⑮土器棺墓15 (北3区)	
⑯土器棺墓16 (北3区)	
⑰土器棺墓17 (北3区)	
⑱土器棺墓18 (北3区)	
⑲土器棺墓19 (北3区)	
⑳土器棺墓20 (北3区)	
㉑土器棺墓21 (北3区)	
(4) 土壙墓	
①土壙墓1 (北2区)	
②土壙墓2 (北2区)	
③土壙墓3 (北2区)	
④土壙墓4 (北2区)	
⑤土壙墓5 (北3区)	
⑥土壙墓6 (北3区)	

⑦土壙墓 7 (北3区)	
⑧土壙墓 8 (北3区)	
⑨土壙墓 9 (北3区)	
⑩土壙墓 10 (北3区)	
(5) サヌカイト集積土坑 (北2区)	
(6) 土坑	
①土坑 9 (北1区)	
②土坑 10 (北2区)	
③土坑 11 (北2区)	
④土坑 12 (北2区)	
⑤土坑 13 (北2区)	
⑥土坑 14 (北3区)	
⑦土坑 15 (北3区)	
⑧土坑 16 (北3区)	
⑨土坑 17 (北3区)	
⑩土坑 18 (北3区)	
⑪土坑 19 (北3区)	
⑫土坑 20 (北3区)	
⑬土坑 21 (北3区)	
⑭土坑 22 (北3区)	
⑮土坑 23 (北3区)	
2. 遺物	59
(1) 土器	(妹尾) 59
①遺構面上出土土器	
②建物・ピット群出土土器	
③焼土出土土器	
④土器棺	
⑤土壙墓出土土器	
⑥土坑出土土器	
(2) 土製品	(井ノ上) 100
(3) 石器・石製品	(影山) 106
(4) 木製品	(木許) 115
(5) 漆塗り製品 赤漆塗り糸玉	(小泉) 115
第9節 第9遺構面	116
1. 遺構	(小泉) 116
(1) 遺構面直上の遺物分布状況	
(2) 埋設土器	
①埋設土器 1	
(3) 石囲遺構	
①石囲遺構 (南1区)	
(4) 土坑	
①土坑 24 (南1区)	
②土坑 25 (南1区)	
③土坑 26 (南1区)	
④土坑 27 (南1区)	
⑤土坑 28 (南1区)	
⑥土坑 29 (南1区)	
⑦土坑 30 (南1区)	
⑧土坑 31 (南1区)	

⑨土坑 32 (南1区)	
⑩土坑 33 (南1区)	
⑪土坑 34 (南1区)	
⑫土坑 35 (南1区)	
⑬土坑 36 (南1区)	
⑭土坑 37 (南1区)	
⑮土坑 38 (南1区)	
⑯土坑 39 (南1区)	
⑰土坑 40 (南1区)	
⑱土坑 41 (南1区)	
⑲土坑 42 (南1区)	
⑳土坑 43 (南1区)	
㉑土坑 44 (南1区)	
㉒土坑 45 (南1区)	
㉓土坑 46 (南3区)	
㉔土坑 47 (南3区)	
(5) 流路	
①流路 7 (南1区)	
2. 遺物	137
(1) 土器・土製品	(小泉) 137
①中期末～後期初頭の土器の分類	
②遺構面出土の土器・土製品	
③遺構出土の土器・土製品	
(2) 石器・石製品	(影山) 184
第10節 第10遺構面	(小泉) 194
1. 遺構	194
(1) 遺物の分布状況	
(2) 炭溜まり (南4区)	
2. 遺物	194
第6章 第5-1・2次調査 (南5区(新池)・南6区(大月池)) の成果	(小泉) 200
第1節 第5-1次調査の成果	200
1. 層序と遺構・遺物の検出状況	200
2. 遺構	208
(1) 足跡	
①足跡	
(2) 埋設土器	
①埋設土器 2	
(3) 土坑	
①土坑 48	
(4) 流路	
①流路 8	
3. 遺物	211
(1) 土器・土製品	
(2) 石器	
(3) 木製品	
第2節 第5-2次調査の成果	215
1. 層序と遺構・遺物の検出状況	215
2. 遺構	222
(1) 杖列	

①杭列1		
②杭列2		
3. 遺物		222
(1) 土器		
第7章 考察		
第1節 第8遺構面 サヌカイト集積土坑の石器	(大下)	224
第2節 赤色顔料付着遺物の蛍光X線分析	(上峯)	242
第8章 まとめ		(木許) 244
参考文献		247

別表1 放射性炭素年代測定結果 一覧

別表2

1. 第4次調査第1～7遺構面出土土器 観察表
2. 第4次調査第8遺構面出土土器 観察表
3. 第4次調査第8遺構面上器棺 細部の観察結果一覧表
4. 第4次調査第9・10遺構面・第5次調査出土土器 観察表
5. 第4次調査第8遺構面出土土製品 観察表

別表3 第4次調査出土石器・石製品 観察表

別表4 第4次調査出土木製品・木片等 一覧表

# 本 文



## 第8節 第8遺構面

第8遺構面は、基本層序の12層上面に形成された遺構面である。12層自体は、今次調査地全体に認められるが、遺構は北1区・北2区・北3区で検出され、南区では認められなかった。また、遺構が検出された北区においては、後述するように、土器片等の遺物が集中的に分布する地点もあった。

ただし、それら遺構や遺物の検出高さは、図版126などに見えるように、互いに近接するものであっても約20cmの比高差がある。総じて、遺物集中部の遺物検出高や、遺構でも例えば焼土の検出高は高く、一方で、土坑などは一段下がった低い位置でその上面が検出されている。このことは、図6-12層の上面について、「第3章 基本層序」でも先述した通り、ある程度土壤化が進行していて黒褐色や暗褐色を呈していたことが原因である。このために、本来の遺構基盤層の土と遺構埋土の識別が困難な場合が多かった。そのような条件下で、例えば「焼土」は周辺の土とは色や質が明らかに異なっていたために本来の形成高さで検出することができたと考えられる。また、土器等の遺物が、破片になっていても遺構形成面の上面に一定数以上が集中して出土した場合や土器棺墓において埋置された土器が墓壙の上面近くに存在した場合は、通有どおり遺物をその場に残しつつ周囲の土を掘削する方法を探ったので、本来の遺物の高さや遺構形成面に比較的近い高さで遺構の上端を検出できている。しかし、このような状況がない場合には本来の遺構の形成面で遺構埋土の識別が容易ではなかった。そこで土壤化した部分を面的に掘り下げると、遺構基盤層は緑灰色系統の粘質土等になり、この高さでは遺構の認識、識別ができるようになり、遺構検出が可能になったという状況である。上記の比高差は、このような事情によって生じたものである。

なお、本来の遺構基盤層の最上位がある程度土壤化していることは、この第8遺構面が一定の期間埋設しないで露出していたことを示している。また、その遺構面上に一定の数量の遺物片が散布していることは、この面上において人間の活動があったことの証左のひとつである。

なお、図255にも見えるように、第8遺構面の各調査区の調査範囲は限定的に設定していて、必ずしも各調査区のすべてを全面的な調査対象としていない。

北1区の西端部は、上層で形成された流路3による搅乱がこの面を含めた下層にまで及んでいるので、この部分を調査対象から除外した。

北2区では、既述のとおり第4-1次調査による北2区1トレンチの範囲内において、12層上面に遺物が分布することが確認されていた。しかしながら、遺構は存在せず、遺物の分布密度も必ずしも濃密ではなかった。このため、遺構の存否およびその残存範囲を確認するために、図257に示したように、第7遺構面に北2区1トレンチの東側に下層確認トレンチ1を設けた。しかしこのトレンチにおいては、遺構・遺物が認められなかった。また、北3区では、その西半部について、同様に下層確認トレンチ2・3を設定して、当該地点においては第8遺構面より下層は遺構が希薄になり遺物も出土しないことを確認した。このようなトレンチ調査の結果をうけて、北2区・北3

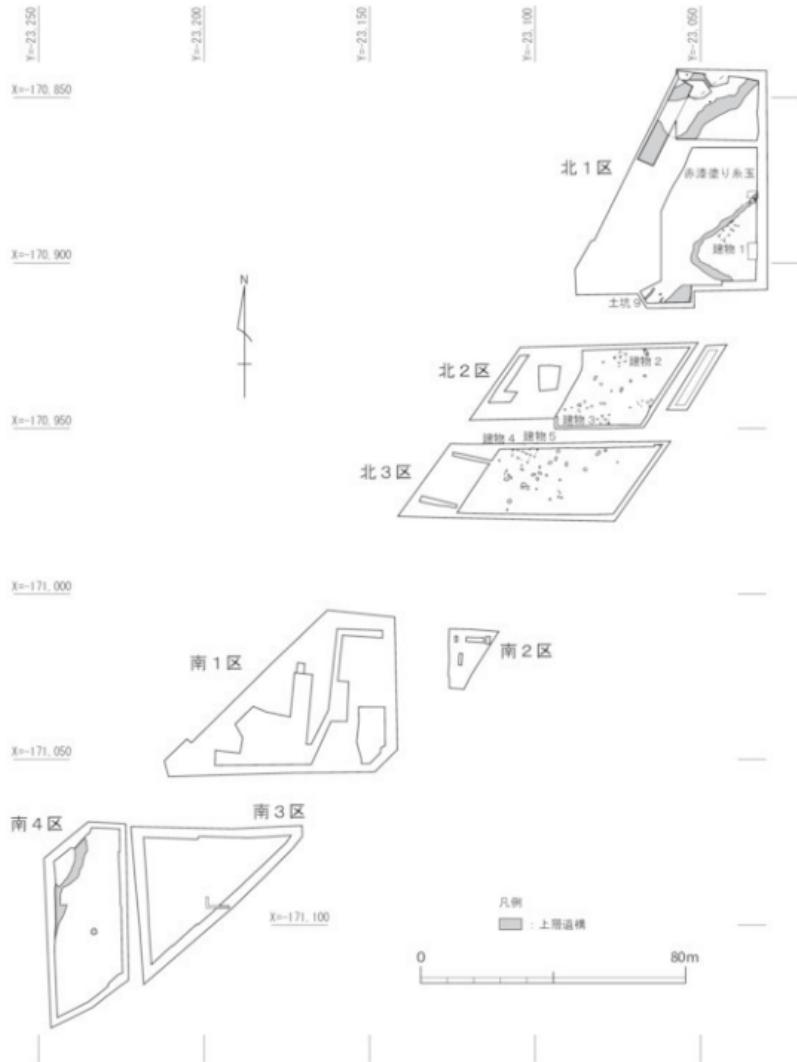


図255 第8遺構面 全体図 (S. = 1/1,700)



図256 第8遺構面 北1区の遺構 平面図 (S. = 1/500)



図257 第8道構面 北2・3区の遺構 平面図 ( $S_r = 1/500$ )

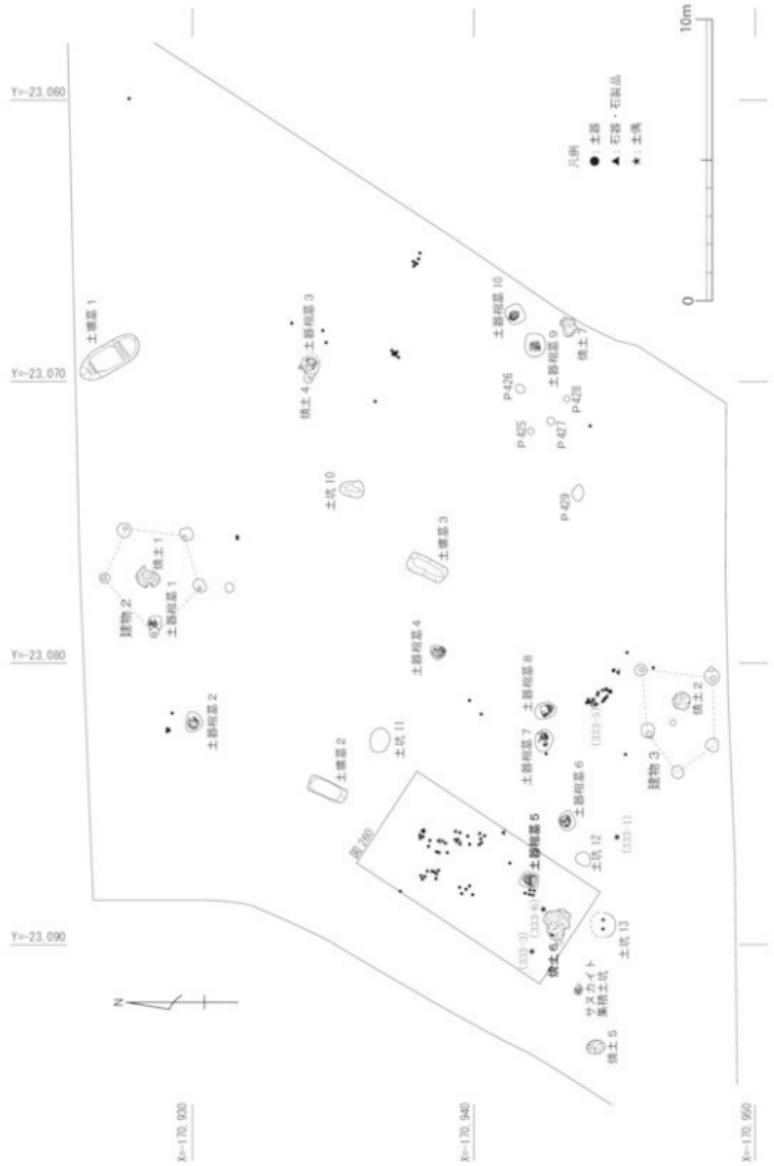


圖 258 第 8 造構面 北 2 區 平面圖 ( $S_s = 1/200$ )

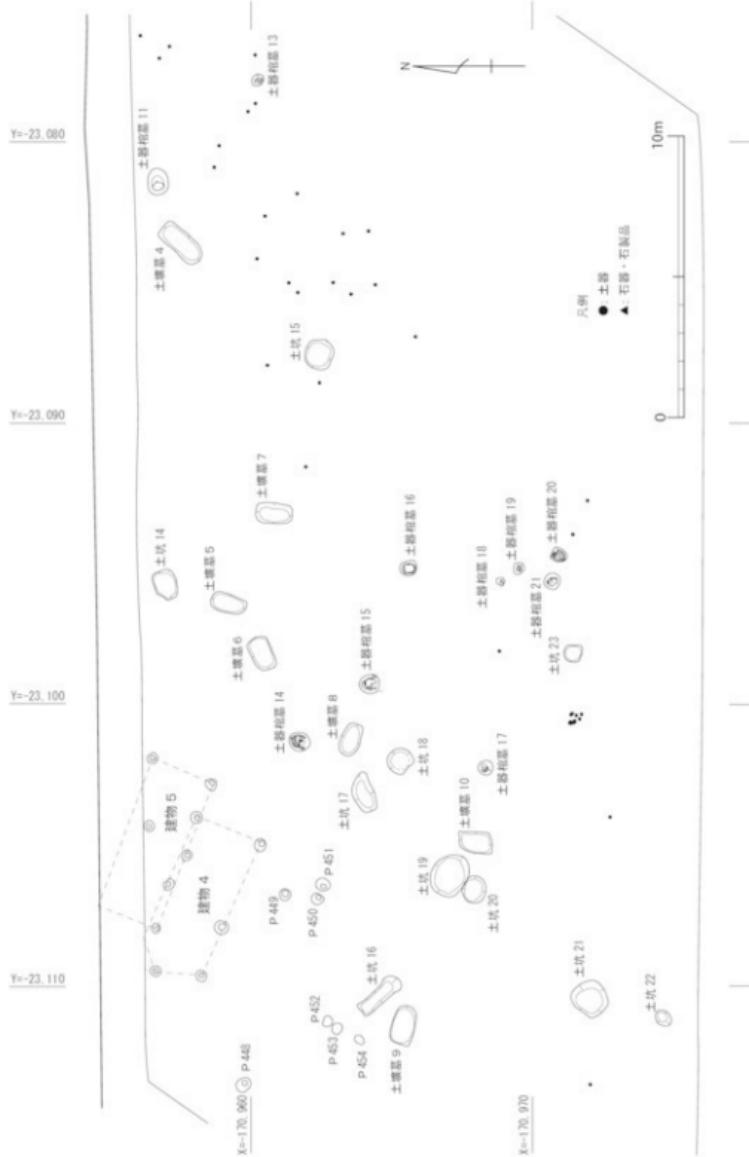


図259 第8遺構面 北3区 平面図 ( $S_r = 1/200$ )

区は各調査区の中央部から東半部を調査範囲として設定した。

南1区でも、同じく第7遺構面に小規模な下層確認トレンチを設定して掘り下げていったが、第8遺構面では遺構、遺物を検出しなかったので、下層トレンチの深さは第9遺構面にまで至った。その結果、第9遺構面に出土遺物が認められたので、このトレンチを拡張して第9遺構面の調査に遺漏がないように努めたものである。この下層確認トレンチの拡張に際して、第8遺構面においても精査を繰り返したもの、やはり遺構、遺物は確認できなかった。

南3区・南4区については、第4-1次調査によるトレンチ調査や、調査区端に設けた側溝の断面観察の所見から、下層の第9遺構面で比較的広範に土器等の遺物が出土することが知られていたので、全面的な発掘調査を行うとの方針が立てられていた。したがって、その上層に当たるこの第8遺構面についても面的に精査を行ったのであるが、結果的に、第8遺構面では遺構、遺物は確認されなかつたものである。

### 1. 遺構面直上の遺物分布状況

上記のように、北1区・北2区・北3区では、第8遺構面に当たる12層上面で土器等の遺物が散布していた。北2区と北3区では、図258・259に示したように、それが顕著で、特に北2区西半の中央付近では破片数にして100点ほどが一箇所に集中する状況も見られた。それ以外の地点では、1個体の土器のうち1/2弱と比較的破片が大きかったものが、その場で割れてさらに数片以上に分かれたという場合も少なくなかった。ただ、その場合でも必ずしも同一個体の土器片だけではなく、ほかの個体の小破片が近傍から出土しているという状況である。

これらのうち、北2区西半の中央付近の出土状況を図260として詳細図を提示した。土器棺墓5および焼土6から北側に南北約6m、東西約3mの範囲に188点の遺物が分布していた。それらの土器は、(298-40)や(302-60)などのように比較的大きな破片があるが、多くは2~5cm程度の小破片である。それらの接合関係も同図に示した。これをみると、相互に接合する遺物は約30cmの近距離で検出されている。また、特筆すべきこととして、焼土6の北側のほど近い地点で土偶の破片が(333-3)・(333-6)ほか1点の計3点が出土した。いずれも腕部などの破片であった。

土偶についてはこのほか14点あり、合計17点の土偶がこの第8遺構面上で検出されている。それらの出土地点は、必ずしもすべての破片について座標を付したうえでの取り上げに成功していないが、北2区南西部で8点、北2区北西部で3点、北2区南東部で2点、北3区北東部で2点で、その他の2点は、不詳ながら第8遺構面上の遺物として取り上げられたものである。土器等の遺物の遺構面上での分布が顕著であった北2区南西部での出土が多いことがわかる。

これらの多くは、上記と同様に腕部や脚部の破片であり接合復元などもできない資料であったが、図258にその出土位置を示し得た(333-1)は、腕部を一部欠損するものの、おむね完形に

近いものであった。頭部および右腕が胴部から割れて分離していたが、この割れは埋没の過程で割れたとみられるものである。正面（顔面・腹面）を下に向けて、すなわちうつぶせの状態で出土した。周辺には、土器棺墓 6、土坑 12、土坑 13、建物 3などの遺構がある。上述した（333-3）や（333-6）も焼土 6 の程近い地点で出土したのであるが、そのような近辺に所在する遺構とこれらの土偶の出土状態には何らかの有機的な関係があるのかもしれないが、分明ではない。

次に、注目される遺物として図 256 に示したように、北 1 区のほぼ中央で赤漆が塗布された糸玉が出土した。その出土状態の図面は図 262 に示した。糸玉は、苧麻とみられる植物繊維を撚り合わせるなどして径 0.3mm 程度までの「糸」を作り、赤漆を塗布した後に、それを幾本も束ねて太さ径約 2 cm の縄状にしたものと、円弧を描くように纏めたものである。

この糸玉は、現地調査においては、「第 8 遺構面の上面に置かれた遺物」と認識され取り上げられたのであるが、整理作業で層位を詳細に検討した結果、その認識は誤りであったとの結論に達した。

まず、糸玉の検出標高について、調査区の土層断面図や北端部で検出された焼土の高さなどを総合的に検討すると、当該地点の第 8 遺構面すなわち 12 層の上面の高さよりも約 20cm 低いことがわかった。そうであれば、この遺物の出土層位は第 8 遺構面上面ではなく、遺構基盤層である 12 層中の遺物、すなわち包含層中の遺物ということになる。しかし、12 層の最上層部は土壤化して 10 ~ 20cm は黒褐色や暗褐色を呈していたことはこれまで述べてきた。

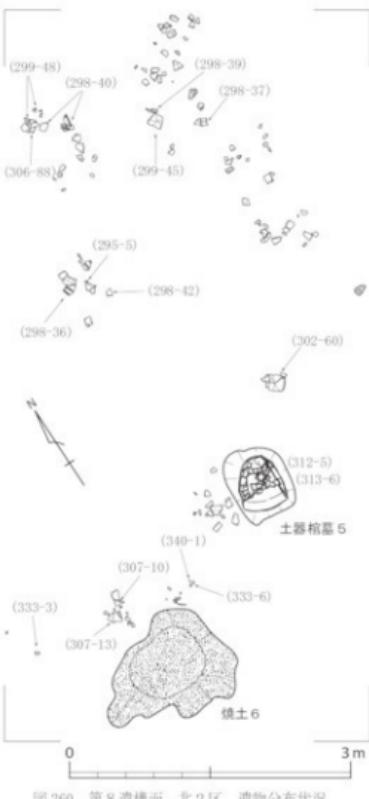


図 260 第 8 遺構面 北 2 区 遺物分布状況  
(S.=1/60)



図 261 第 8 遺構面 北 2 区 (333-1) 出土状況  
(S.=1/5)

10cm  
0

图262 第8道桥面 北1区 带漆绘玉出土状况 平面图 (S. = 1/2)



そこで、現地調査で作成された糸玉出土状態の図面に記された注記等を、原色図版に示した写真などで検証しつつ再度検討すると、この遺物は暗青灰色粘質土の面で検出されていることがわかる。つまり、糸玉は、上述した12層の最上層の黒褐色ないし暗褐色土を除去した後に検出されたと考えられる。この時に、この糸玉が12層中、すなわち包含層中の遺物であったとすると、この層でほかの土器等の遺物が全く検出されていないことは不自然である。特に、糸玉は赤色の漆塗りで検出時にその存在についてより注意を引くことがあったとはいえ、脆弱な有機質遺物である。土器などの硬い遺物が全く見過ごされてこの遺物のみが検出された可能性や、この遺物のみが含まれる包含層であった可能性は考え難いであろう。

以上の検討から、本来この遺物については、第8遺構面から掘り込まれた土坑の底に埋置されたものであったとみるが妥当であると考える。繰り返し述べているように、第8遺構面の上面は黒褐色や暗褐色を呈する粘性土であって、遺構の検出自体が非常に困難であった。注意深く発掘作業に当たっていても、実際に上端の約1/2が約20cm低い位置で検出されている土器棺墓などの遺構もある。糸玉を伴う土坑自体を検出できなかったのは、同様の事情であったと思料される。

ただ、糸玉の出土状態の評価については上記のような結論に達したが、遺構として土坑などを検出できていないので、ここでは、第8遺構面の遺物として取り扱っている。また、糸玉の取り上げについては、これだけを通常の土器等の遺物のように取り上げることは、あまりに脆弱で不可能であったので、まわりの土ごと取り上げて室内作業によって余分な土を除去し、最終的に保存処理を施した。

さて、第8遺構面上で検出した遺物のうち、土器については、図295・図296に示したように、小破片となった中期末～晚期前半の土器が若干含まれるが、それらはいずれもごく少数であって、圧倒的多数は突帯文土器期、特に口酒井期が主体である。後述するように、遺構から出土した土器もやはり口酒井式期が大半である。この状況から、遺構面上で検出された遺物と、この面に形成された遺構はともに当該期の所産と考えられる。以下に記述を進める遺構についても、建物跡などピットからの土器等の出土がなかったものに関しては、厳密には時期を特定することが困難であるが、いずれも特に断らない限り当該期のものと考えている。また、遺構のうちピットの大きさについては、表4（21頁）に纏めた。各詳細な数値については同表によられたい。

## 2. 遺構

### （1）建物とピット

#### ①建物1（図255・図256・図263～265）（北1区）

図256に示したように、北1区南東隅付近で、ピットが一定の線上に並ぶ状態で検出された。そのあり方は、図263に示したように、ピット409一同407一同405一同401が北列として並び、ピット410一同408一同412一同404が南列として並んでいる。必ずしも一直線上に並ぶもの

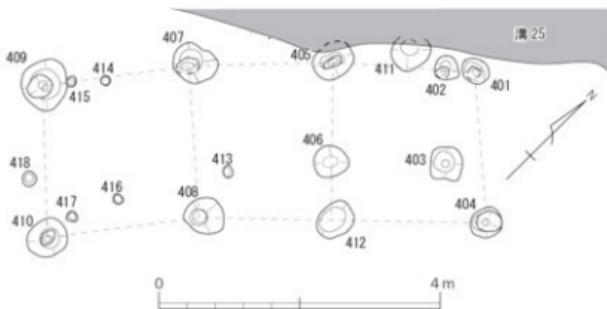
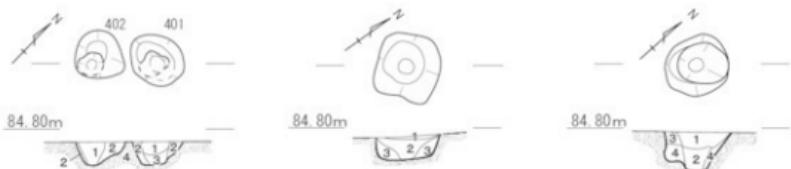


図 263 第8遺構面 北1区 建物1 平面図 ( $S.=1/80$ )



1. 灰黒色疊混じりシルト  
(炭化物をわずかに含む)  
2. 暗灰色疊混じりシルト  
3. 緑灰色シルト  
(疊わざかに含む)  
4. 暗緑灰色疊砂疊混じりシルト  
(図6-12層、第8遺構面基盤層)

1. ピット 401・402

1. 灰黒色疊混じりシルト  
(炭化物をわずかに含む)  
2. 緑灰色シルト  
(疊わざかに含む)  
3. 暗灰色疊混じりシルト

2. ピット 403

1. 灰黒色疊混じりシルト  
(炭化物をわずかに含む)  
2. 緑灰色シルト  
(疊わざかに含む)  
3. 暗灰色疊混じりシルト  
4. 暗緑灰色シルト

3. ピット 404

1. 灰黒色疊混じりシルト  
(炭化物をわずかに含む)  
2. 暗緑灰色シルト  
(疊ごくわずかに含む)  
3. 暗灰色疊混じりシルト  
4. 暗緑灰色シルト  
5. 暗緑灰色疊砂疊混じりシルト  
(図6-12層、第8遺構面基盤層)

4. ピット 405

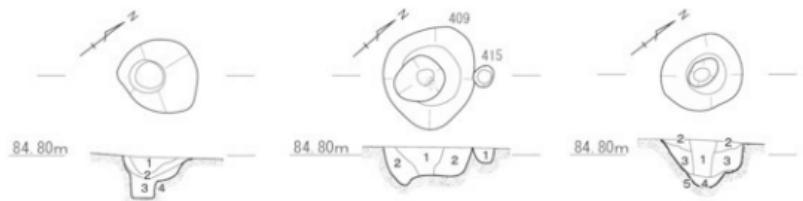
1. 灰黒色疊混じりシルト  
(炭化物をわずかに含む)

5. ピット 406

1. 灰黒色疊混じりシルト  
(炭化物をわずかに含む)  
2. 緑灰色シルト  
(疊わざかに含む)  
3. 緑灰色粘土  
4. 暗灰色疊混じりシルト  
5. 暗緑灰色シルト  
6. 暗緑灰色疊砂疊混じりシルト  
(図6-12層、第8遺構面基盤層)

6. ピット 407

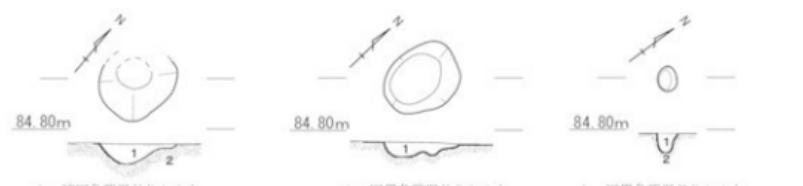
図 264 第8遺構面 北1区 建物1 ピット(1) ( $S.=1/40$ )



1. ピット 408  
1. 灰黑色縛混じりシルト  
(炭化物をわずかに含む)

2. ピット 409・415  
1. 灰黑色縛混じりシルト  
(炭化物をわずかに含む)  
2. 暗灰色縛混じりシルト

3. ピット 410  
1. 灰黑色縛混じりシルト  
(炭化物をわずかに含む)  
2. 暗灰色縛混じりシルト  
3. 緑灰色シルト  
4. 暗緑灰色縛砂混じりシルト  
(図6-12層、第8造構面基盤層)



4. ピット 411  
1. 暗灰色縛混じりシルト  
2. 暗緑灰色縛砂混じりシルト  
(図6-12層、第8造構面基盤層)

5. ピット 412  
1. 灰黑色縛混じりシルト  
(炭化物をわずかに含む)

6. ピット 413  
1. 灰黑色縛混じりシルト  
(炭化物をわずかに含む)



7. ピット 414  
1. 灰黑色縛混じりシルト  
(炭化物をわずかに含む)

8. ピット 416  
1. 灰黑色縛混じりシルト  
(炭化物をわずかに含む)

9. ピット 417  
1. 灰黑色縛混じりシルト  
(炭化物をわずかに含む)

10. ピット 418  
1. 灰黑色縛混じりシルト  
(炭化物をわずかに含む)



図265 第8造構面 北1区 建物1 ピット (2) (S.=1/40)

ではないが、これが建物であれば、図示したように、1間×3間の掘立て柱建物を復原することができる。その場合、芯々間距離をみると、梁間2.1～2.3m、桁行き6.2m程度となる。ピットの大きさはおおむね長径60cm程度で、深さが20～30cm程度のものが多い。それらのピットうち、ピット405と同411は、上層遺構である第5遺構面に形成された溝25によって、その一部が切られている。

なお、上記のような復元案の場合、ピット406は、ピット405と同412を結んだ線上に、ピット402は、ピット405と同401を結んだ線上に位置している。特にピット402は径8cmの柱痕が検出されている。これら以外にも、直径が55cm程度の相対的に大きいものとして、ピット411、同403が、直径が15～20cm程度である相対的に小さいものとして、ピット415、同414、同418、同417、同416、同413が、建物1の範囲内で検出されている。これらは、建物1の柱として補強など補足的に使用されたものとも考えられるが、定かではない。

また、柱痕が検出されたものとして、上記のピット402のほか、ピット401、同403、同404、同405、同407、同408、同409、同410があった。これによれば、建物1に使用された柱の太さは、12～18cmで、おおむね15cm前後である。

#### ②建物2（図255・図257・図258・図266～268）（北2区）

北2区北壁近くの中央付近で検出した。ピット420、同421、同422、同423、同424が、平面五角形に配置されていた。各ピットには木質や炭化物などが残存していたわけではないが、図267に示したように、埋土の観察から柱痕を確認することができた。ピットの大きさは長径37～51cmで、柱材は10cm以上で20cm程度までのものが用いられたとみられる。

建物の一边の長さは、芯々間距離で、短いもので1.41m、長いもので1.98mである。また、これら5基のピットに囲まれる範囲の中央付近で焼土1を検出した。焼土の平面形は不整形で、長軸86cm、短軸60cm程の大きさである。ピットと焼土1のこのような位置関係から、焼土1は、

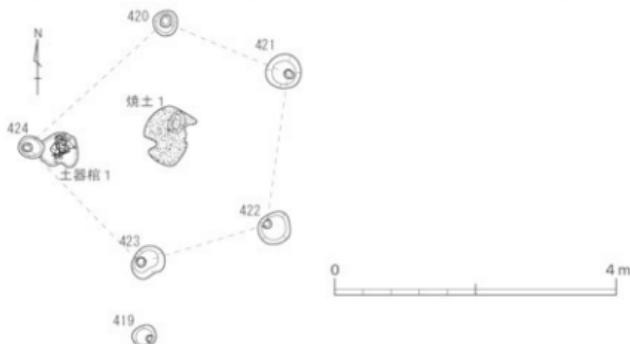
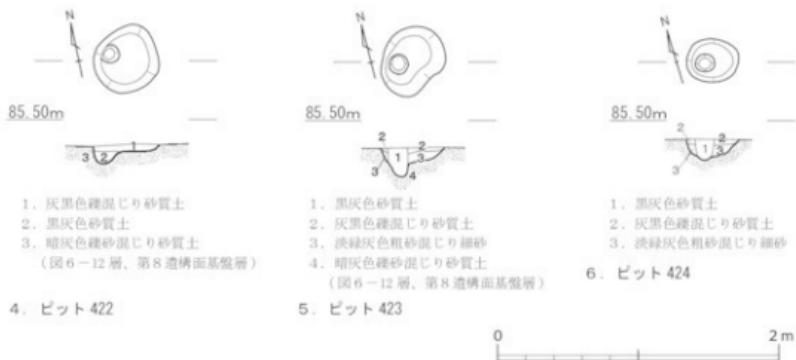


図266 第8遺構面 北2区 建物2 平面図 (S.=1/80)

建物2の屋内軒であったと考えられよう。なお、焼土1の検出高さは、ピットの上端の検出高さに比較すると約20cm高い。これは、上述のとおり第8遺構面の最上層部が土壤化して黒褐色や暗褐色化して、遺構が本来形成された面での検出が困難であったことによるものである。この焼土1で土器片が5点出土し、うち1点(307-2)を図化した。

ピットについては上記の5基のほか、図266に示したように、ピット423の南約50cmの地点にピット419が検出されている。ピット419は、上記の建物の復原に取り込むことができなかつたが、柱痕が検出されているから、柱穴であることはほぼ間違いない。しかしそれが建物の柱であつたとすれば、どの位置を占めたものか、不明である。

また、ピット424は、土器棺墓1との間に切り合い関係があり、これを切っている。後述するように、土器棺墓1は、出土土器からみれば当該遺構面で検出された遺構のなかでは例外的に古く、後期末から晩期初頭に位置づけられるものである。この検出面の関係だけを見れば、同一面で後期末の遺構と晩期の遺構が検出されたことになる。ただ、土器棺墓1は土器棺として用いられた深鉢



(308-1) がほかの土器棺に比べると破損の度合いが高く、全体の 1/3 程度にまでしか復元できなかったことがある。こうしたことから、土器棺墓 1 の当初の遺構形成面は、この第 8 遺構面の上面ではなく、本来はもう少し高い位置からの掘り込みであったと考えられる。

一方、建物 2 の屋内炉と考えられる焼土 1 が第 8 遺構面上に形成されていたので、建物 2 は、元よりこの第 8 遺構面上に形成されたと考えられるものである。つまり、建物 2 は、土器棺墓 1 が形成されたその遺構基盤層の上面が幾分割平を受けた後に、第 8 遺構面（12 層上面）が形成され、そこに遺構として形成されたと考えられる。

### ③建物 3（図 255・図 257・図 258・図 269～271）（北 2 区）

北 2 区南端付近で検出した。図 269 に示したように、ピット 430、同 431、同 433、同 432、同 434 の 5 基のピットが五角形に配置されていて、その中央付近で焼土 2 が検出された。ピットの大きさは長径が 42cm～56cm で、おむね 50cm 前後のものとなっている。柱痕は、柱材や炭化物が出土したわけではないが、埋土の土層観察によってそれを知ることができた。図 270 に示したように、上記 5 基のピットのうち、ピット 432 を除いてはその痕跡が検出された。それによれば、柱材はおむね径 15cm 前後の太さのものが用いられたとみられる。

ピットの配置を見ると、ピット 434 を除く 4 基のピットが一辺 2.4m 前後の正方形に近い配列を成しており、その西辺に当たるピット 430～ピット 432 を結ぶ線の西側 1.2m 程の地点にピット 434 が配置されて、建物の平面形として五角形を成すものである。これらのピットの中央で検出された焼土 2 は、その位置関係からみて、建物 3 に伴う屋内炉であると考えられる。その平面形は径 62～64cm の円形を呈する。図 271 に示したように、深さ 20cm 程の土坑状を呈しており、2 層に分かれる埋土の上層が焼土であった。ただし現場で作成された土層断面図に、その土質、土色等に関する註記がなされていなかった。そのため、図 271 として掲げた焼土 2 の断面図にその情報をここで提示することができない。しかし、撮影された写真で見る限りは上層が焼土があることは確実で、下層には黒灰色礫混じり粘土がみえている。この場合、下層埋土として表現されている土層は、本来は掘り込みの埋土ではなく上層の火熱を受けて基盤層の土質・土色等が変化したも

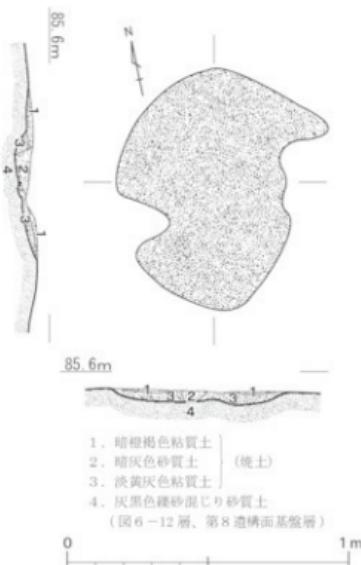


図 268 第 8 遺構面 北 2 区 焼土 1  
平面・断面図 (S. = 1/20)

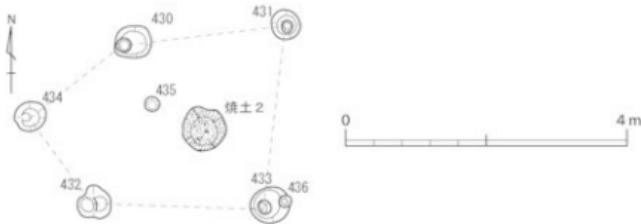
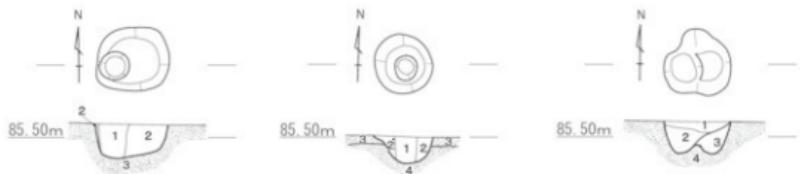


図 269 第8造構面 北2区 建物3 平面図 (S. = 1/80)



1. 黒褐色砂質土

2. 暗灰色繊砂混じり砂質土

3. 淡黄灰色繊砂混じり粗砂  
(図6-12層、第8造構面基盤層)

1. 黒褐色砂質土

2. 灰黑色砂質土

3. 黑灰色繊砂混じり砂質土  
(図6-12層、  
4. 淡黄灰色繊砂混じり粗砂  
第8造構面基盤層)

1. 灰黑色砂質土

2. 黑褐色砂質土

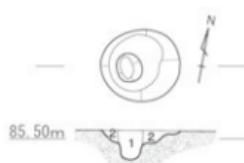
3. 黑灰色粘質土 (縦合土)

4. 淡黄灰色繊砂混じり粗砂  
(図6-12層、  
第8造構面基盤層)

1. ピット430

2. ピット431

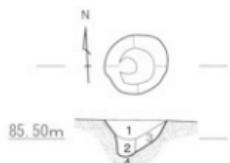
3. ピット432



1. 黒褐色砂質土

2. 暗灰色繊砂混じり砂質土

3. 黑灰色繊砂混じり砂質土  
(図6-12層、第8造構面基盤層)



1. 灰黑色砂質土

2. 黑褐色砂質土

3. 黑灰色繊砂混じり砂質土  
(図6-12層、第8造構面基盤層)

1. 黑褐色砂質土

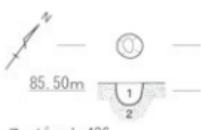
2. 淡黄灰色繊砂混じり粗砂

(図6-12層、第8造構面基盤層)

4. ピット433

5. ピット434

6. ピット435



1. 黑褐色砂質土

2. 黑灰色繊砂混じり砂質土

(図6-12層、第8造構面基盤層)



7. ピット436

図 270 第8造構面 北2区 建物3 ピット (S. = 1/40)

のである可能性も考えられるが、定かではない。

また、建物3の範囲内に、上記のピット以外にピット435・同436が検出されている。特にピット436は、ピット433の範囲内にあって、それを切っている。これらのピットは径が20cm程度と、建物を構成する主柱穴よりも小さいことが共通していて特徴的である。その機能については不明であるが、建物の上屋構造を支えるために補足的な細い柱が使用された可能性なども考えられよう。

④建物4・建物5（図255・図257・図259・図272～274）（北3区）

図257、図259に示したように、北3区の北端で11基のピットを検出した。ピットの大きさは長径が35～50cmで、40cm前後のものが多い。図273および図274に示したように、そのいずれのピットにおいても柱痕が検出された。柱痕から復原される柱材の太さは径10～15cm程度である。必ずしも柱材そのものが出土したのではないが、ピット437、同439、同444、同445からは炭化物が出土している。木材である柱材に起因するものと思われる。

これらのピットの配置を見ると、図272に示したようにおおむね北西～南東方向に、ピット442～同441～同440が、ピット447～同446～同445が、それぞれ直線上に並んでいる。調査区の端に当たるためその全容を知ることはできないが、これらのピットの並びを参考にして考えると、ピット442～同441～同440に平行するピットの並びとしてピット438～同439があることがわかる。また、ピット447～同446～同445に直交する方向で、その北東方向にピット443、ピット444がある。さらに調査区外に未検出のピットが存在することを想定し、図272に

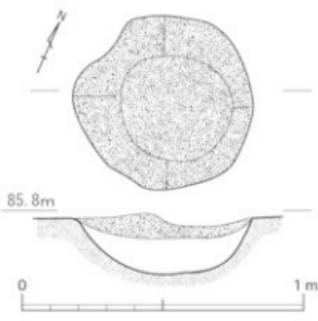


図271 第8遺構面 北2区 焼土2  
平面・断面図 (S.=1/20)

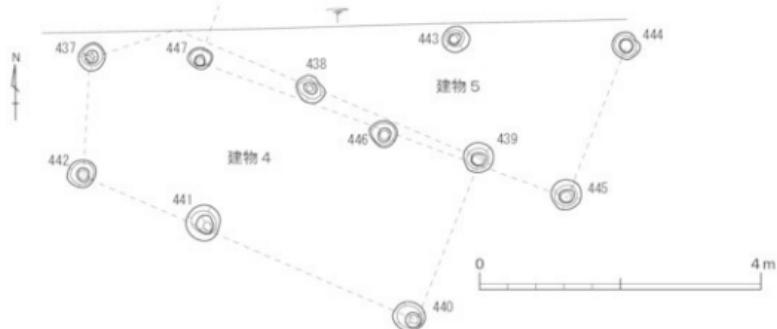


図272 第8遺構面 北3区 建物4・5 平面図 (S.=1/80)

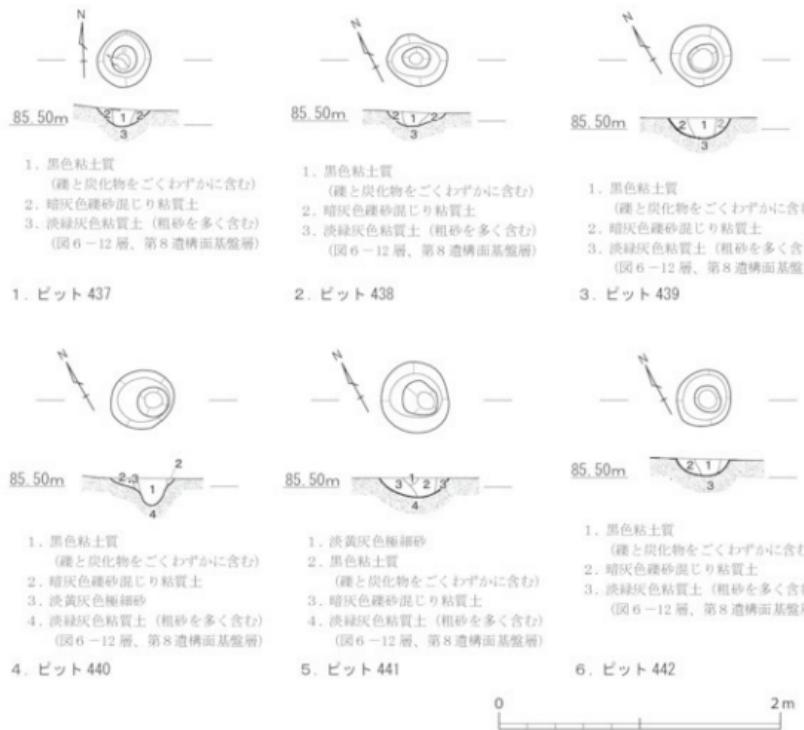


図273 第8構造面 北3区 建物4 ピット (S.=1/40)

示したように、建物4として平面五角形の建物が、建物5として平面長方形の建物を復原できると考えた。

建物4は、北端のピット1基が未検出になっていると考えるので、基本的には、建物2や建物3で認めた平面五角形のピット配置に、東端に2基のピットで桁行が延伸されたもので、その場合の南側辺の長さは芯々間距離で5.16mを想定するものである。

建物5は、1間以上×2間の建物を想定するもので、ピット447—ピット445の芯々間距離は5.6mとなる。ただしその場合にも図272に見えるように、ピット443とピット444の位置が必ずしも整合的ではない。しかし、上記のように多くが調査区外にあたるため、これ以上の検討が難しい。現状からは、ここでは図示したような2棟の建物の存在を想定したい。

#### ⑤ピット(図258・図259・図275)(北2・3区)

上記の建物を構成するピット以外のものとして、計12基のピットを検出した。ピットは、基本

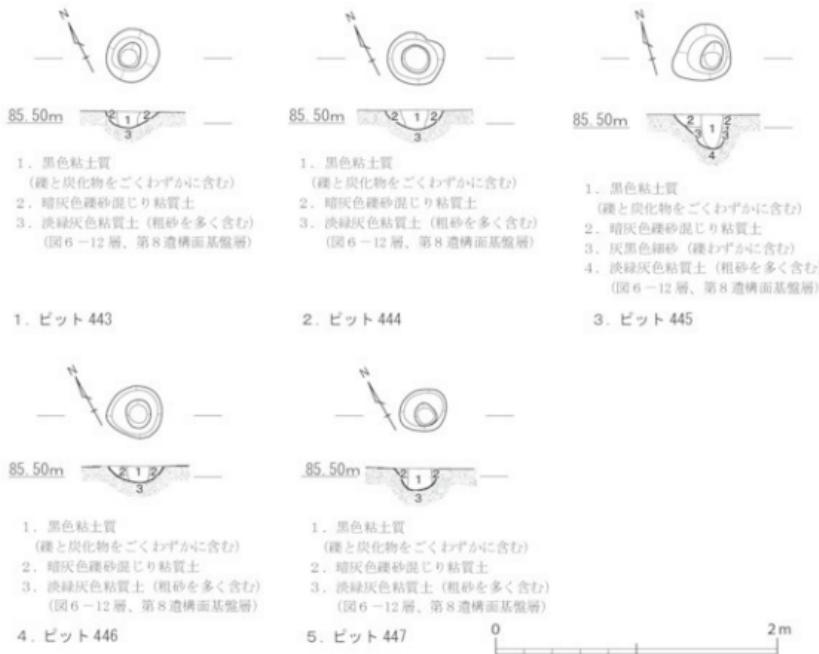


図274 第8遺構面 北3区 建物5 ピット (S.=1/40)

的には柱穴を指すものとするが、柱材が残っていない現状からその遺構の性格を厳密に規定することは難しい。ここに挙げているピットについても、土坑と区別がつきにくいものも少なくない。ここで平面形が円形を志向し、規模が比較的小さいものをピットとしたが、その性格については分明ではない。

図258に見えるように、北2区の東南部でピット425、同426、同427、同428、同429の5基のピットが比較的近い地点に集まっている状況で検出された。各遺構の平面図・断面図は図275に示した。その規模は、多くは長径20~30cm台のものであるが、ピット429が長径58cm、短径42cmとなってやや大きい。平面形もピット429は梢円形を呈していて形状が異なる。深さは、いずれも20cm程度までの浅いものとして検出されている。その埋土はピット429以外は黒色粘質土の1層のみとなっていて、ピット429についても遺構底に薄い砂質土の堆積があるものの、上層は同様の粘質土である。そしていずれの場合も、その埋土に柱痕は検出されていない。

図258によってこれらのピットの周辺状況を確認すると、東方に隣接して焼土7、土器棺墓9、土器棺墓10などが存在している。これらの遺構と5基のピットが何らかの関係を有するのかどう

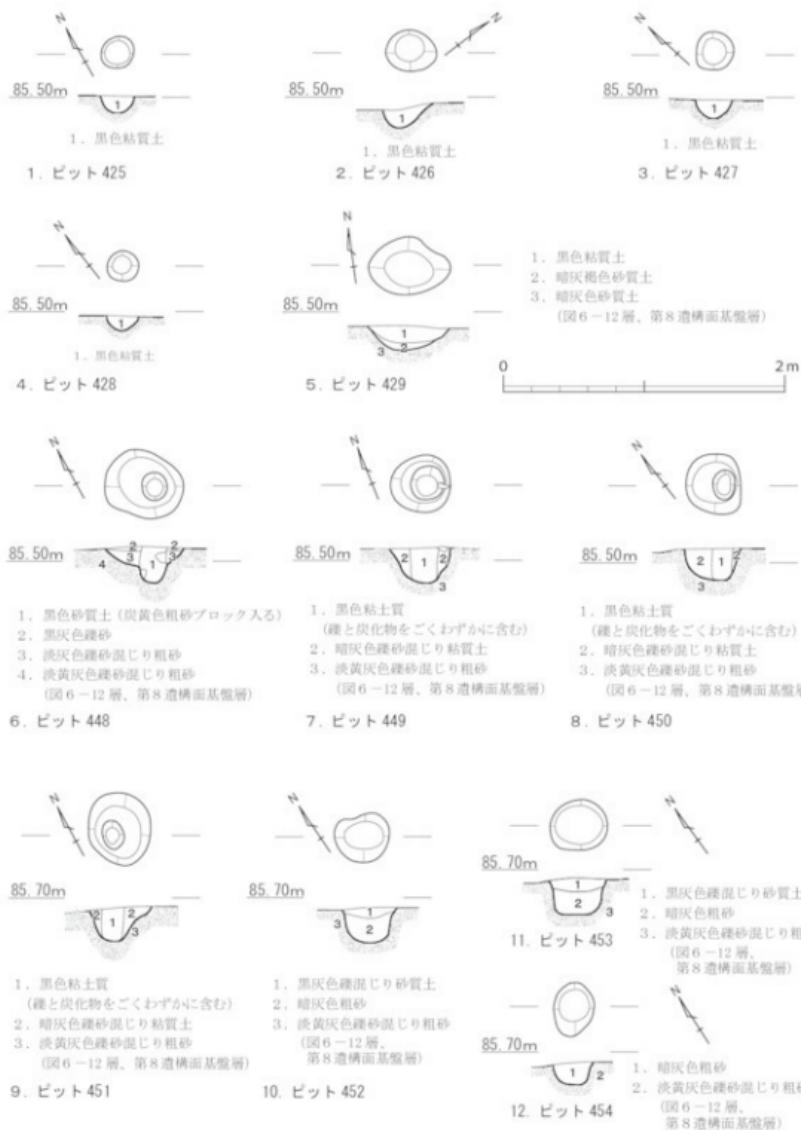


図 275 第8構造面 北2・3区 ピット425～429、448～454 平面・断面図 (S.=1/40)

表4第8遺構面 建物ほかピット群 計測表

ピット番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱痕径(cm)	備考	ピット番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱痕径(cm)	備考
<b>建物1</b>											
401	38		18	14		410	59	50	34	12	
402	36		16	8		411	58			14	
403	54	44	16	12		412	56	44	10		木片出土
404	52	40	28	13	炭化物出土	413	18	13	15		
405	60		18	16		414	14	13	11		
406	56	44	20			415	16	13	11		
407	64	28	24	18	炭化物出土	416	16	15	12		
408	58	49	29	17		417	16	14	10		
409	70	65	20	12	炭化物出土	418	21	19	7		
<b>建物2</b>											
419	34	30	18	11		422	50	44	12	14	
420	37	34	12	14		423	51	36	20	11	
421	51	49	13	12		424	37	31	14	9	
<b>建物3</b>											
430	51	46	25	17		434	44	42	26	13	
431	42	40	19	14		435	20	20	8		
432	48	47	22			436	18	16	15		
433	56	50	21	15							
<b>建物4</b>											
437	40	36	12	12	炭化物出土	440	44	40	18	13	
438	42	33	10	10		441	50	48	13	13	
439	44	43	14	13	炭化物出土	442	42	39	12	12	
<b>建物5</b>											
443	38	38	12	13		446	40	36	10	14	
444	40	36	14	14	炭化物出土	447	35	31	15	16	
445	44	39	24	11	炭化物出土						
<b>北2区</b>											
425	23	2	12			428	22	10	10		
426	36	29	12			429	58	42	18		
427	27	26	14								
<b>北3区</b>											
448	56	44	25	18		452	38	33	25		
449	43	40	24	17		453	40	36	26		
450	42	40	23	13		454	38	28	16		
451	51	43	23	14							

か、不明である。また、上記のようにピットの埋土に柱痕を認めることができず、その配置からこの場所に何らかの建物を復原的に見いだすこともできない状況である。

次に北3区では、図259に見えるように、北西部の一角で建物4・建物5の南西側に当たる位置で、ピット448・同449・同450・同451・同452・同453・同454の7基のピットを検出した。各遺構の平面図・断面図は図275に示した。その規模は、長径40cm前後のものが多いが、ピット448は長径56cm、同451は長径51cmとなっている。深さはいずれも25cm前後であるが、ピット454は16cmとやや浅い。また、ピット448・同449・同450・同451の4基では柱痕が検出

されている。それによれば、柱の直径は14～18cmとなる。これら4基のピットは、建物4により近い位置に存在するものである。ただし、これらのピットに柱が立てられていたことは確実視できると考えるが、建物4などとの関係については不明である。

## (2) 焼土

北1～3区で、「焼土」が検出された地点が7箇所あった。そのうち2箇所については建物跡に付随するものとしてそれぞれの項で既述した。ここでは残る5箇所について記す。

それらは、基本的には焚き火の痕跡かもしくは「屋外炉」と考えられるもので、12層の上面のその土自体が焼土化しているものである。ただし、7箇所のうち、後述する焼土5および焼土6は、その焼土の直下がやや深い土坑になっている。このような遺構は「焼土坑」と呼ぶのが一般的であるとも思われる。しかし、第8遺構面では、そのように土坑状の遺構として検出されたものでも、焼土がみられるのは最上層に限られている。何故にやや深い土坑を掘ったのかは不明ながら、平面的なあり方が他の遺構と共通することから、ここでは、「焼土」として纏めて報告する。

ところで、再三述べているように、第8遺構面としての本来の遺構形成面である12層の上面は、土壤化等の影響によって一般にこの面での遺構の検出が困難であった。しかし、焼土はそれ自体の土質が変化したものであるから比較的容易に検出することができ、かつその検出レベルは、当初の遺構形成面とほぼ一致する。そのため、焼土は土壤墓などの遺構よりも安定して高いレベルで検出され、本来の遺構形成面の高さを知ることにも役立っている。

### ①焼土3（図256・図276）（北1区）

北1区の北西端で検出した。当初、調査区の北壁に焼土の断面が焼土が見えたため、作業安全に配慮しつつ可能な限り平面的に拡張して平面形状の検出に努めた。結果的に、焼土の広がりは、南半を欠損しているものの、東西最大44cm、南北36cm以上の大きさになることがわかった。

焼土の厚さは最大で約6cmがあり、その下層には淡緑灰色シルトの堆積が見られた。このシルトは、一旦掘られた土坑の底に堆積した埋土ともみられるが、その直上の焚き火による被熱の結果、



図276 第8遺構面 北1区 焼土3 平面・断面図 (S.=1/20)

土質が変化しただけのものかもしれない。その場合には、ほとんど土坑状の掘削などを伴わないで、地面の上で焚き火等の行為が行われたものとみられよう。

焼土3の周辺では、図276に示したように、土器片などが出土した。土器片は合計29点あり、このうち実測可能であった1点(307-3)は凸帯文をもつ浅鉢の口縁部である。また、土器片のほかに骨片1点が出土した。

#### ②焼土4(図258・図277)(北2区)

北2区中央やや北東寄りで検出した。図277-1に示したように、土器棺墓3によって東端部が切られているが、同一面で検出したもので、その時期差は大きくはないと思われる。

図277-1の平面図に見えるように、現状では焼土は、それぞれが径14cmほどの3つのブロックとして検出されているが、同図の断面図に示しているように、その直下には砂質土が見られる。砂質土と認識された土層は、焼土3の項でも記したように、焼土直下の土質が被熱によって変化したものとも思われるが、現状では残存状況が悪いが、元の焼土の広がりは、これらの焼土ブロックを含み込む長径80cmほどの範囲があったとみられる。

焼土4の周囲からは、図277-1の平面図に示したように、北方向に20~80cmの至近の位置で赤鉄鋼の破片が検出された。また、土器片も細片ながら30点ばかり出土しており、深鉢の口縁部5点(307-4~8)を図示した。

#### ③焼土5(図258・図277)(北2区)

北2区南西端で検出した。図277-2に示したように、焼土は数個のブロック状の塊として検出された。焼土塊は4~5cmほどの厚みがあるものである。また、焼土の直下は、断面図に見えるように、長径66cm、短径48cm、深さ18cmと、深さがやや深い土坑となっている。図277-2にトーンで示したものが焼土塊であるが、ここにも見えるように、南東約46cmの地点の遺構検出面上で1個の焼土塊が出土した。

出土遺物は、土坑の外側で出土した深鉢口縁部(307-9)のほか18点の土器の細片があった。これらの土器は、赤色もしくは白色を呈しているものがあり、二次的な被熱による変色である可能性がある。

#### ④焼土6(図258・図278)(北2区)

北2区南西部で検出した。焼土の広がりは、平面形は不整形で、東西最大120cm、南北最大80cmの大きさである。焼土直下は、深さ最大14cmほどの土坑になっており、粘質土や細砂が堆積している。焼土はその埋土の最上層に形成されている。

図278の平面図に示したように、焼土周辺で遺構面の直上で土器片や土偶片が出土した。土器片は、いずれも細片であるが、合計43点があった。このうち、4点については二次的な被熱の可能性があるとみられた。土偶は、焼土の北西約80cmの地点で(333-3)など2点が出土した。また、北東20cmの至近の位置で土偶(333-6)が出土した。ただし、これらの土器や土偶がこ

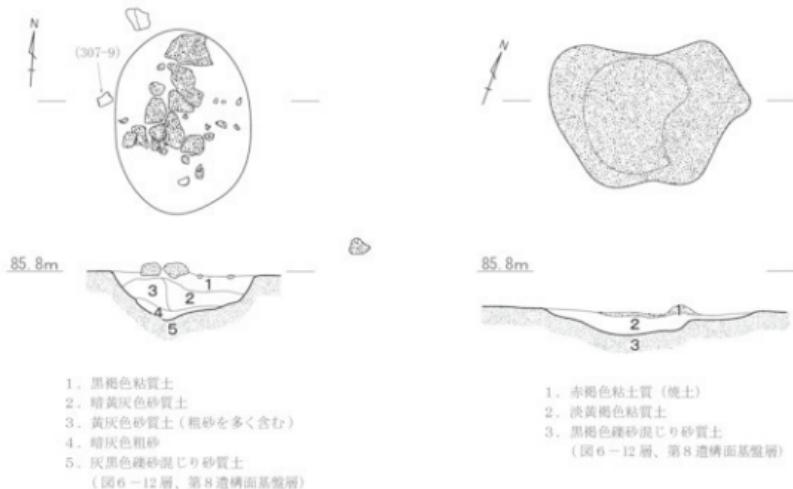
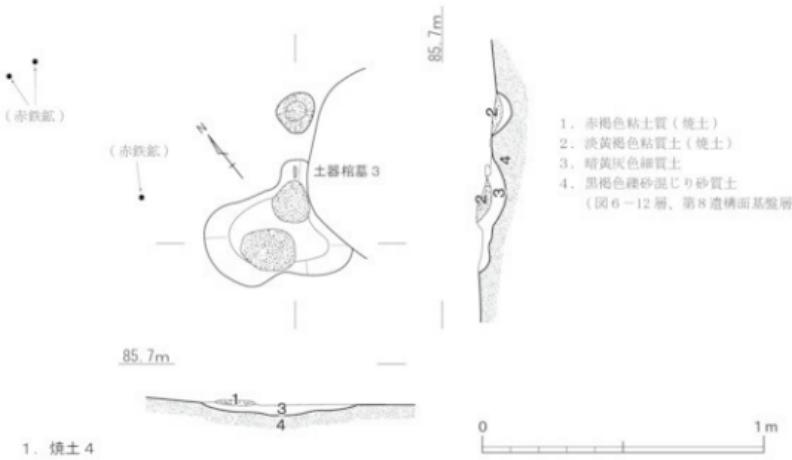


図 277 第8造構面 北2区 烧土4・5・7 平面・断面図 (S.=1/20)

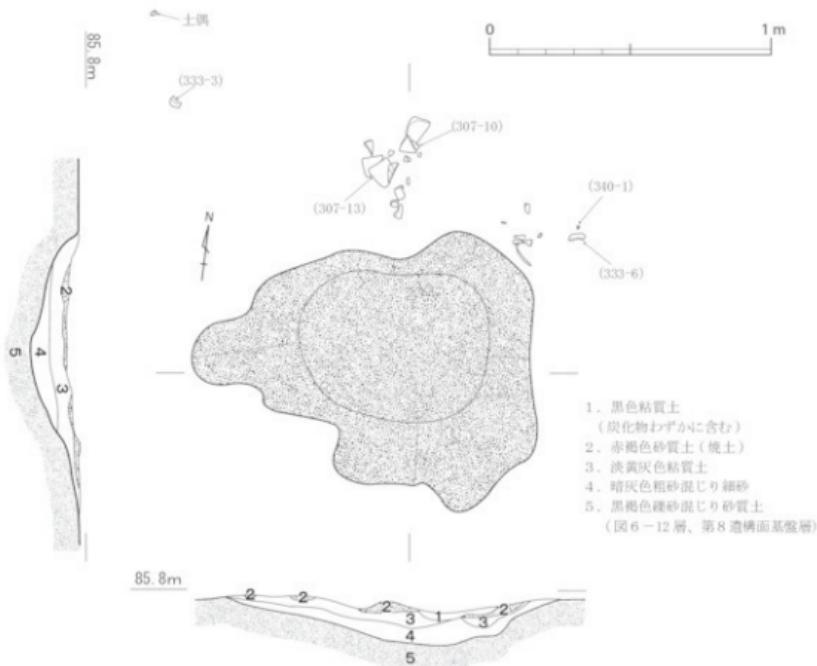


図278 第8遺構面 北2区 燃土6 平面・断面図 (S.=1/20)

の焼土とどのような関係にあるのかは不明である。

#### ⑤焼土7 (図258・図277) (北2区)

北2区南東部東壁付近で検出した。焼土の平面形は不整形で、東西に50cm、南北に46cmの大きさである。図277-3の断面図に示しているように、焼土直下の2層とした淡黄褐色粘質土は、被熱によって土質が変化したものとも思える。そうであれば、焼土7は、第8遺構面上において土坑等の施設を伴わない簡易な焼き火等の痕跡といえよう。

出土遺物は、土器片9点と石器片1点が出土した。土器片は脣部片が多いが、深鉢の口縁部1点(307-15)を図示できた。土器の他には、サヌカイト製の何らかの剥片石器の破片1点があった。石器は白っぽく変色しており被熱した可能性がある。

#### (3) 土器棺墓

北2・3区で合計21基の土器棺墓を検出した。

「第3章 基本層序」で先述した通り12層上面は、黒褐色や暗褐色を呈していて遺構埋土の識

別が困難であったため、遺構の検出高が本来の遺構形成面より 10 ~ 20cm 程度低くなっている場合が多い。

#### ①土器棺墓 1（図 258・図 279）（北 2 区）

北 2 区北壁中央付近で検出した。建物 2 に隣接し、建物 2 を構成するピット 424 に切られている。墓壙の平面形は長径 54cm、短径 43cm の不整円形であり、検出深さは最大 22cm である。墓壙底の形状は、多少の凹凸があるがおむね平坦である。ただし、図 279-1 の断面図に示したように、墓壙の法面は東側が急で西側が緩やかになっており、この形状に合わせて、墓壙底のレベルも東側がやや高い。

墓壙の底に土器棺として深鉢（308-1）が単独で埋置されていた。図 279-1 の立面図に見えるように、（308-1）は埋置状態での上半を欠損し、胴部片のみが検出された。胴部片の出土状況や上記の墓壙の形状から、土器棺は、南西方向に向けて斜位で置かれていたと考えられる。

（308-1）は、土器全体の 1/3 程度以下の残存となっているが、このようなあり方は、今次調査で検出されたほかの土器棺に比べて残存状況が悪い。また、当該遺構面で検出された土器のなかでは例外的に古く、後期末から晩期初頭に位置づけられるものである。

切り合い関係がある建物 2 ピット 424 の検出状況だけを見ると、後期の遺構と晩期の遺構が同一面で検出されたことになる。しかし、上記のように（308-1）の破損の度合いが、ここで土器棺として用いられた深鉢がほかの土器棺に比べると高いことを鑑みると、土器棺墓 1 の当初の遺構形成面は、この第 8 遺構面の上面ではなく、本来はもう少し高い位置からの掘り込みであったと考えられる。すなわち、当初は、後期末の遺構形成面のレベルが、現状での晩期の遺構形成面のレベルよりも高かったのであるが、一定の期間において削平を受けた後に、晩期の面が形成されたという考え方である。後期末の遺構の数が極端に少ないことも、このような遺構基盤層の削平があったことと関係するのではないかと考える。

#### ②土器棺墓 2（図 258・図 279）（北 2 区）

北 2 区北半やや西寄りで検出した。墓壙の平面形は長径 70cm、短径 60cm の不整椭円形であり、検出最大深さは 23cm である。墓壙底の形状は、図 279-2 の断面図に示したように、おむね平坦である。ここに、土器棺として、口縁を北東に向ける深鉢（309-2）が単独で斜位に置かれていた。（309-2）は口縁部から底部まで残存しているものの、図 279-2 の立面図に見えるように、埋置状態での上半は欠損している。しかし、墓壙の検出高と埋置状態での土器の最上部のレベルがほぼ一致するので、本来の遺構の上位が削平されていると考えられ、元は完形かもしくは完形に近い土器が土器棺として用いられたとみられよう。

また、土器棺内部の下端で、少量であるが茎様の植物質が折り重なって薄いシート状の堆積物となっている状態が認められた。土器棺の内部のことであるが、器壁に貼り付いた状態で出土したので、土器棺設置後に、土器棺の内部が空洞であるときに何らかの事情で植物質が入り込んだという

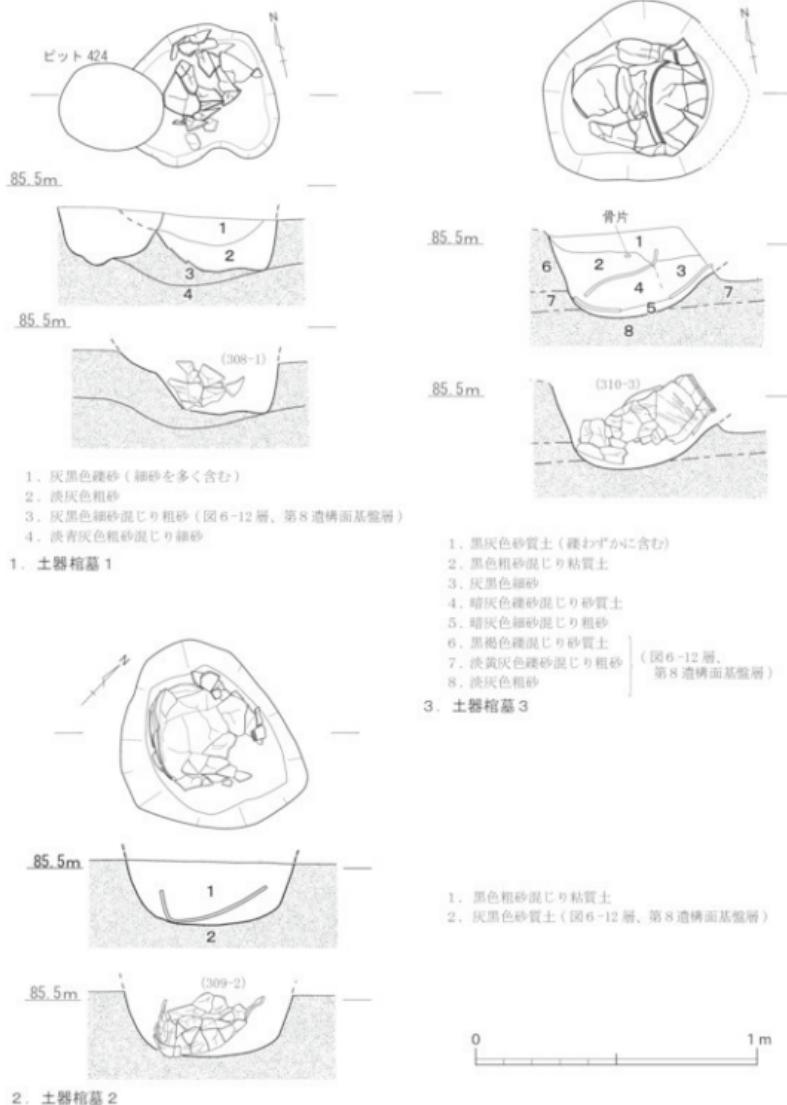


図279 第8遺構面 北2区 土器棺墓1・2・3 平面・立面・断面図 (S.=1/20)

ものではない。その出土状況からは土器棺が埋められた当初から、棺内に入れられていたものと考えるのが妥当である。その目的は定かではないが、意識的なものであるとすれば、棺内への人体の埋葬に伴って、それを植物質で覆う、あるいは緩衝材として用いる等の行為が行われた可能性などが考えられよう。

#### ③土器棺墓3（図258・図279）（北2区）

北2区東半で検出した。西側に焼土4が隣接している。焼土4とは切り合い関係があって、土器棺墓3がこれを切っている。また、図279-3の土層断面図に見えるように、墓壙の東端は西半部に比べて約20cm低い位置で検出されている。これは、繰り返し述べているように当該構造面である12層上面が黒褐色を呈するなど遺構検出が困難であったためであるが、西半が比較的高い位置で検出できたのは、遺構として認識しやすい焼土4が近い位置に存在したため、周囲を不用意に掘り下げなかったためである。

墓壙の平面形は長径73cm、短径65cmの不整橢円形であり、最大検出深さは30.5cmである。墓壙の法面は、図279-3の断面図に示したように、西半が急で東半が緩やかな斜面になっている。ここに、土器棺としてほぼ完形の深鉢（310-3）が単独で置かれていた。土器棺は、墓壙底の形状にあわせ口縁を東上方に向けた斜位で埋置されていた。なお（310-3）はほぼ完形であるものの、底部を一部欠損している。

また墓壙埋土の2層から、微細ながら骨片と赤色顔料が認められた。図279-3の墓壙埋土断面図に見えるように、土器棺外からの出土であるから、墓壙の埋戻土に混じたものであるが、何故に墓壙の埋土に骨片や赤色顔料が混じるのか、その経緯は明らかにし難い。

#### ④土器棺墓4（図258・図280）（北2区）

北2区中央付近で検出した。墓壙の平面形は長径55cm、短径47cmの不整橢円形であり、検出最大深さは25cmである。墓壙の底は平坦であり、口縁を北東に向ける深鉢（311-4）が単独で、斜位に埋置されていた。（311-4）は、図280-1の立面図に見えるように、埋置状態の上半を欠損した状態であるが、埋置状態で上側となった方は胴部の下半が残存し、埋置状態で下側となった方は口縁部から胴部の下半までが残存していた。しかし、底部は欠損していた。この出土状況は、土器棺が墓壙内に納められ埋め戻された後に上位を攪乱等によって失ったのであるが、元は、底部のみを欠損した土器が土器棺として使用されたことを示している。

#### ⑤土器棺墓5（図258・図280）（北2区）

北2区南半の東寄りで検出した。墓壙の平面形は、長軸62cm、短軸52cmで、不整形であるが東・南・西辺が直線状をなしており、方形状を呈している。検出最大深さは34cmである。墓壙底の形状は、図280-2に示したように、断面形が浅いU字状を呈している。これは、土器棺の形状にも合致したものである。

土器棺は、口縁部をおおむね南に向けた深鉢（313-6）が横位で置かれており、その胴部中

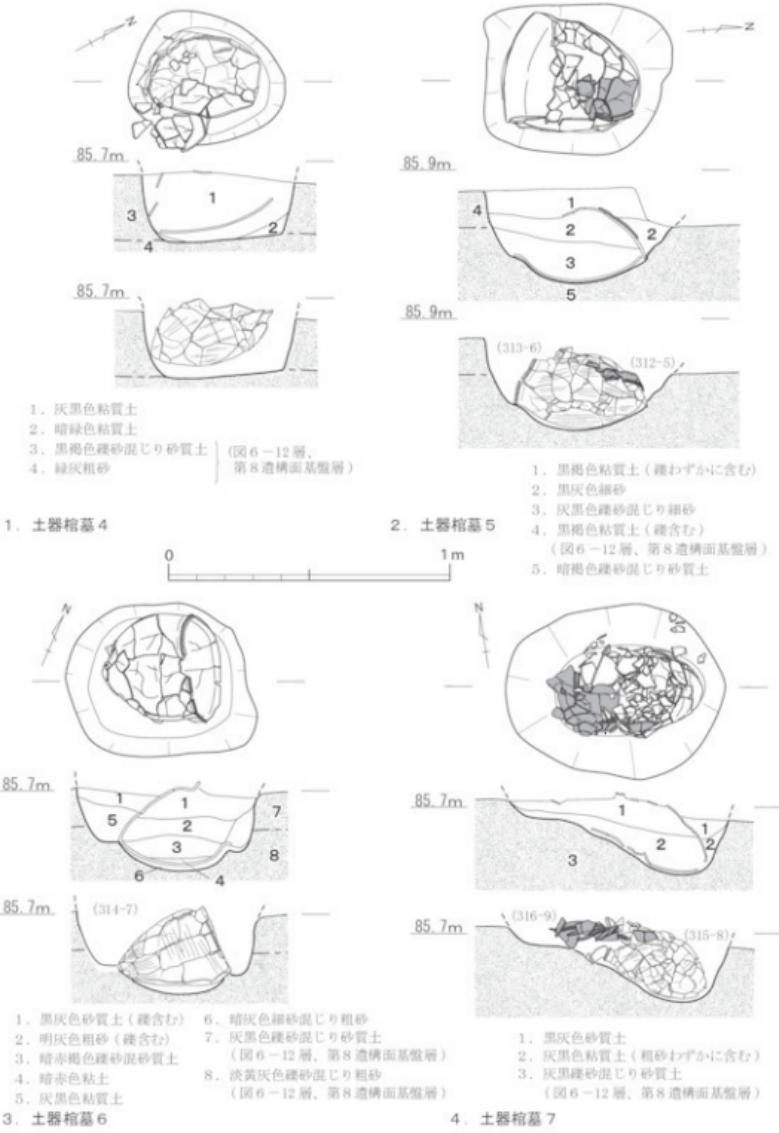


図280 第8造構面 北2区 土器棺墓4・5・6・7 平面・立面・断面図 (S.=1/20)

位のやや口縁寄りから底部にかけて、別個体の深鉢（312－5）の口縁部から胴部にかけての破片が内面を下に向けて重ね置かれていた。（312－5）の破片は、（313－6）の上に置かれたもので、口縁の方向を（313－6）の主軸の方向と直交させて南方向を向けていた。土器棺本体に用いられた（313－6）はほぼ完形にまで復元でき、埋置状態で（312－5）の破片が重ねられていた部分についても欠損しているわけではない。（312－5）は、口径36cmに復原できる深鉢の口縁部部分の1/4程が残存し、高さは口縁部から胴部にかけて約17cmほどが残っているものである。

土器棺の上に重ねられた別個体の破片は、土器の上部全体を覆うものではないもの、埋葬に際してより丁寧な行為が行われたと感じるが、その意図は定かではない。

#### ⑥土器棺墓6（図258・図280）（北2区）

北2区南半の東寄りで検出した。墓壙の平面形は、長軸64cm、短軸55cmで、南辺が直線状になつており、全体としては不整形ながら方形状を呈している。検出最大深さは30cmである。墓壙底面の中央に断面形がU字状になる深さ5cm程度の窪みを掘り、ここに土器棺を置くことで土器棺埋置時の安定が図られている。これによって土器棺は、口縁部がやや上方を向く斜位になっている。

土器棺は、完形の深鉢（314－7）が口縁を北東方向に向けて、単独で置かれていた。土器棺内の底部付近では、赤色顔料がわずかに認められた。埋葬にともなって顔料の使用をともなう行為があった可能性があるが、少量のため明確でない。

#### ⑦土器棺墓7（図258・図280）（北2区）

北2区南半の中央付近で検出した。墓壙の平面形は長径78cm、短径60cmの不整梢円形を呈する。検出最大深さは25cmである。図280－4の断面図を見ると、墓壙の法面は東側が急で、西側が緩やかな斜面になっている。この墓壙の形状に合わせて、土器棺（315－8）が口縁をおおむね西に向けて、斜位で置かれていた。（315－8）は、底部の先端を欠いていたほか、埋置状態で上部に当たる口縁部の一部を欠損していたものの、ほぼ完形にまで接合復元することができた。

棺内埋土中にわずかながら赤色顔料が認められたほか、特筆するべきこととして、墓壙埋土（図280－4、1層）から土玉（334－15）が出土した。ただし、これが意識的にここに埋められたものであるのか、墓壙埋土に偶然混じったものであるのかは、俄に判断し難い。

また、土器棺（315－8）の口縁部付近で、別個体の深鉢（316－9）の破片が散乱している状態で出土した。これらは、胎土や調整に関する観察結果から一個体と認定できるものである。破片には口縁部から底部付近とみられるものまで確認できたが、それら全ての破片に接点があるわけではなく、復元後の大きさも元の形の1/4程度までになるのみであった。したがって、（316－9）は当初から完形に近い土器が置かれていたのではなく、適当なサイズに割られた土器片が無造作に重ね置かれたものと理解される。以上の状況から、深鉢（316－9）は、土器棺（315－8）を設置した後に、その口縁付近を覆うために意識的にここに置かれたと考えられる。

#### ⑧土器棺墓 8（図 258・図 281）（北2区）

北2区南半中央で検出した。墓壙の平面形は長径 77cm、短径 53cm の不整楕円形であり、検出最大深さは 23cm である。墓壙の形状は、図 281-1 の断面図に見えるように、底は断面形が丸みをもった U 字形になり、法面は北側が南側が急で、北側が緩やかな斜面になっている。図 281-1 に示したように、土器棺として深鉢（317-10）が、その底部を墓壙底の南端付近に置いて口縁部をおおむね南北西方向に向けた状態で、単独で置かれていた。なお深鉢（317-10）は、墓壙底の形状に合わせて口縁をやや上位に向ける斜位となっている。

土器棺墓 8 は墓壙の本来の形成面より幾分か下がった状態で検出されており、土器棺も埋置状態の上部が攪乱を受けて欠損している。この部分以外については、胴部下半の一部を除いて接合復元が可能だったので、元は、ほぼ完形に近い深鉢が土器棺として使用されたと考えられる。

また、出土遺物として茎状の植物質が折り重なって薄いシート状の堆積物となったものが取り上げられていた。植物遺体には「土器棺下半」との趣旨の注記があるので、棺内から出土したことが確実であるが、現地調査で作成された図面には、その出土地点に関する記録が残されていなかった。このため、詳細は不明であるが、上述の土器棺墓 2 と同様に、人体の埋葬に関わって植物の束が使用された可能性などが考えられよう。

#### ⑨土器棺墓 9（図 258・図 281）（北2区）

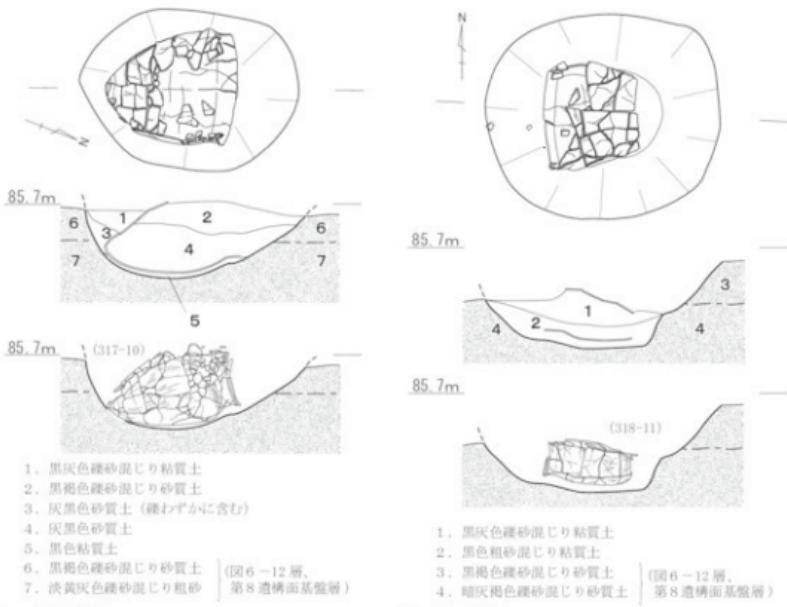
北2区南半東壁付近で検出した。墓壙の平面形は長径 83cm、短径 72cm の不整楕円形であり、検出深さは最大 30cm である。図 281-2 の断面図に見えるように、土器棺墓 9 の東半は 12 層の比較的の上位、すなわち遺構形成面に近い地点で検出しているが、西半はこれより 10cm 以上下がったレベルでの検出になっている。墓壙の断面形状は、底に近いところで深さ 10cm ばかりが 2 段堀のようになっているが底面自体はほぼ水平に掘り出されている。

土器棺は、ここに口縁をおおむね西に向ける深鉢（318-11）が横位で置かれていた。（318-11）は、図 281-2 の立面図に示したように、土圧の影響でやや扁平な状態で検出された。これを復元接合してみると口縁部から胴部まではほぼ完周するほどに残存していた。しかしながら、底部から胴部下端までは大きく欠失していた。このような状況から、土器棺墓 9 では、埋置以前に底部を大きく欠いた深鉢が土器棺として用いられたものと考えられる。

#### ⑩土器棺墓 10（図 258・図 281）（北2区）

北2区南半東端付近で検出した。墓壙の平面形は長軸 77.5cm、短軸 66cm の隅れ方形状を呈している。検出最大深さは 17cm である。墓壙の底の断面形は、図 281-3 の断面図に示したように、緩やかな丸みを持つがほぼ平坦になっている。

土器棺は、墓壙底に深鉢（319-13）が、口縁を南東方向に向けて横位で置かれていた。（319-13）は、埋置状態の上部が割れて棺の内部に落ち込んでいた。これらの破片を接合復元したところ、口縁部や、底部に近い胴部の下端部の一部を欠くものの、全体の 9 割以上にまで復元するこ



1. 黑褐色縞砂混じり粘質土  
2. 黑色縞混じり砂質土  
3. 灰黒色縞砂混じり砂質土  
(図6-12層、第8造構面基盤層)

3. 土器棺墓 10

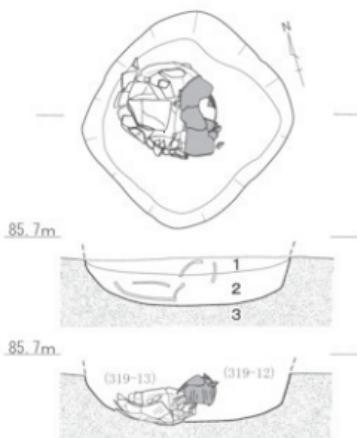


図281 第8造構面 北2区 土器棺墓 8・9・10 平面・立面・断面図 (S.=1/20)

とができた。このうち、口縁部の欠損は埋置後に遺構形成面自体に及んだ攪乱、削平による可能性があるが、底部近くについては、土器棺として使用された時点ですでにあった欠損とみられる。

棺内から、埋土に混じって歯の破片が出土した。同定を担当したパリノサーヴェイ株式会社からの報告によれば、ヒトの右下顎1/2大臼歯の歯冠部の破片であり、幼児から小児程度のものとされる。

また、図281-3に示したように、土器棺(319-13)の口縁部付近で浅鉢(319-12)が出土した。(319-12)は、口縁部を下に向けて、土器棺の口縁を上から覆うように置かれたものである。口縁部の一部などが欠損しているものの、器形全体の9割程度までは残存している。出土状態からみて、浅鉢(319-12)が土器棺(319-13)の口縁部を上からふさぐ目的で置かれた合口棺と考えられる。

#### ⑩土器棺墓11(図259・図282)(北3区)

北3区北東部の北壁付近で検出した。墓壙の平面形は長径90cm、短径77cmの楕円形であり、深さは50cmである。墓壙の断面形を見ると、図282-1の断面図に見えるように、平面に対して深さが深い形状になっており、また、法面は傾斜角度に偏りがあまりない。墓壙の下端のラインは緩やかな傾斜変換となって明確な稜線をなさないが、底の形状はおむね平坦である。

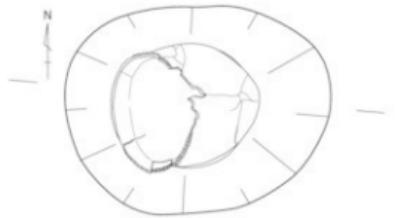
土器棺は、口縁部と底部のそれぞれ一部を欠損するものの、ほぼ完形の深鉢(320-14)が口縁をおおよそ西方向に向け斜位で置かれていた。底部の欠損は、埋置以前に穿孔されたものらしく、長径3.5cm、短径2.3cmの孔があいている。

なお、図282-1に墓壙埋土および土器棺埋土の断面図を掲げたが、現地で作成された図面に土質等の注記がなされていなかったため、遺憾ながらここではそれを示すことができない。

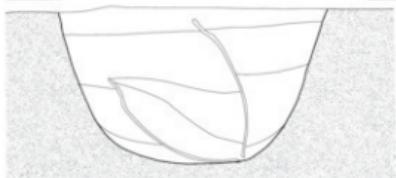
土器棺の埋土からは骨の細片が出土し、赤色顔料も微量ながら認められた。

#### ⑪土器棺墓12(図257・図282)(北3区)

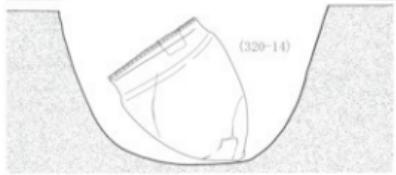
北3区北東端で検出した。調査区の端部にあったため、遺構は、調査区の側溝を掘る作業中に検出された。そのため遺構面上での平面の検出ができないままに土器が出土する等の事態が生じている。しかしながら、比較的大きさのある土器が出土したことから、現地調査においてそこに土器棺墓等の遺構が存在することがすぐに気づかれたようで、土器を残しつつ断面の精査が行われ、本来の遺構形成面からある程度下がってからのレベルではあるが、遺構の平面も検出されている。ただし、遺構の北半部が調査区外に当たるため、その全容は検出されていない。墓壙の平面形は、検出部分から見ると東・南・西の各辺が直線状をなしていることから、隅丸方形を呈するとみられる。北西-南東間が約54cmで、深さは最大28cmである。墓壙底の形状は、図282-2の断面図に示したように、土器棺が据えられる部分について断面が浅いU字状になるように掘り窪められている。後述するように、検出された土器棺はその多くを欠損した状態であるため確定はできないが、土器棺を埋置した時に斜位になるように土器の直下の墓壙底を掘り窪めて調整したものと思われ



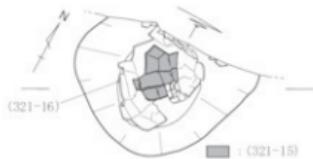
86.0m.



86.0m.



1. 土器棺墓 11



86.0m.

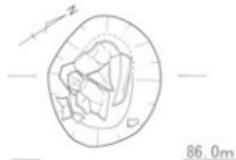


86.0m.



1. 黒褐色粗砂混じり粘質土 (図6-12層、  
2. 灰黒色鍾砂混じり粘質土 第8遺構面基盤層)

2. 土器棺墓 12



86.0m.



86.0m.



3. 土器棺墓 13

図282 第8遺構面 北3区 土器棺墓 11・12・13 平面・立面・断面図 (S.=1/20)

る。

土器棺は、胴部から底部にかけて約半周のみ残存した深鉢（321-16）が墓壙の底で出土した。上記したように、この土器棺墓12は調査区の端部に存在したために、調査区の側溝を設ける作業中に検出されたものである（図版147参照）。したがって、欠損している部分の多くは、その側溝掘削の時に失われたものとみられる。つまり、（321-16）は現状では非常に残存状況が悪いのであるが、本来はほぼ完形に近い深鉢が土器棺として用いられたとみられる。発掘作業の方法上やむを得ないこととはいえ、残念なことである。なお、図282-2の断面図は、調査区端の壁面を精査して作成されたものであるから、國化されている土器が検出された時点では、墓壙埋土の上半は失われている状態であった。

以上のように考えた場合、（321-16）の底部が調査区の壁際で検出されているので、土器棺は口縁をおむね南西に向けて斜位で置かれていたと考えられる。

この土器棺（321-16）の内部から、図282-2にトーンで示したように、別個体の深鉢の破片（321-15）が内面を上にして、（321-16）に重なった状態で出土した。（321-15）は、口縁部から胴部上端付近までのうちの1/3程の大きさのもので、破片としては比較的大きい。このような大きな破片が当初から土器棺の内部に収められていたとは考え難い。（321-15）の口縁部が（321-16）の底部に向いた状態で出土しており、互いに口縁部が相対するように埋置されていたと復原できることから、口縁部同士を合わせる合口棺であったと推察される。

#### ⑩土器棺墓13（図259・図282）（北3区）

北3区の北東部で検出した。墓壙の平面形は長径46cm、短径39cmの不整円形を呈する。検出最大深さは10cmである。図282-3の断面図や立面図に見えるように、墓壙の検出レベルより土器棺の方が高く突出している状況が見て取れる。このことからも、本来の遺構の形成面よりも相当低い高さで遺構が検出されたことがわかる。

墓壙底で、土器棺として置かれた深鉢（322-17）を検出した。検出時には口縁部は棺内に落ち込んでいたが、本来は口縁を西方向に向け、斜位で埋置されていたと考えられる。ただし、遺構自体と同様に、この土器も残存状況が良くない。口縁部から胴部下半では残っているが、その部分の1/4から1/3程度の残存率である。しかし、底部が全く欠損していることは、上記の土器棺の設置状況からみると、後の削平や攪乱によるものとは考えにくい。したがって、この場合には底部から胴部の下端部分までを欠損した深鉢を土器棺として使用したものとみられる。

#### ⑪土器棺墓14（図259・図283）（北3区）

北3区中央のやや北西寄りで検出した。墓壙の平面形は、長径78cm、短径65cmの不整円形であり、検出最大深さは22cmである。墓壙の底は断面形が浅いU字形を呈している。

図283-1の断面図および立面図に見えるように、土器棺の埋置時の上位に当たる部分が、遺構の検出面よりも下がっている。このことは、遺構の検出がその形成面よりも低いレベルでおこな

われたことを示しているが、遺物としての土器棺は、比較的高い位置で検出することができたということである。このため、同図には墓壙埋土はその最上層が記録されておらず、また棺内埋土についてはその埋土の厚みは示されるものの、土質等の注記が欠けているという不具合が生じている。

さて、土器棺は、墓壙底に口縁をおおよそ南南西に向ける深鉢（323－18）が横位で置かれていた。（323－18）は、埋置状態で上部となった側の胴部の欠損が目立ち、口縁部も一部を欠損しているものの、全体としては残存状況が良好である。ただし、底部近くの、胴部下端で径5cm程の欠損がある。これが意識的な穿孔であるかどうかは定かではない。

#### ⑯土器棺墓 15（図259・図283）（北3区）

北3区中央のやや北西寄りで検出した。墓壙の平面形は長径71cm、短径62cmの不整円形であり、検出最大深さは20cmである。

墓壙の底の形態は、図283－2の断面図に示したように、南側法面の傾斜が急で北側に向かって緩やかに高くなっている。この場合、土器棺の口縁を高い方、つまり北側に向けて斜位に設置するのが自然であると思われるが、（324－19）は南側に口縁を向けている。このため、低くなっている所に多少の土を埋め戻して横位にしている。

また、図283－2の断面図および立面図に見えるように、墓壙の検出高さと同じレベルで土器棺の残存する最上部が検出されている。土器棺（324－19）は埋置状態で上位になる側の胴部および口縁部をまったく欠いている。すなわち、土器棺墓15は、本来の遺構形成面から、おそらく15～20cm程度は下がったレベルで検出されている状態である。

土器棺（324－19）は上記の事情で、口縁部から胴部にかけて半周弱が欠損している状況である。ただし、底部付近については、内面において粘土紐の接合痕での剥離が認められるものの、胴部下端部までほぼ完存している状況が認められる。

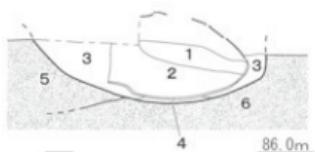
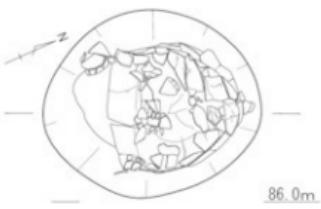
#### ⑰土器棺墓 16（図259・図283）（北3区）

北3区中央部で検出した。墓壙の平面形は長径60cm、短径54cmの不整円形であり、検出最大深さは23cmである。

墓壙底は水平であり、ここに口縁を北方向に向ける深鉢（325－20）が斜位で置かれていた。ただし、図283－3の断面図として掲げているように、現地調査で残された図面には、土器棺内の埋土については一部注記がなされておらず、不完全なものになっている。また、墓壙埋土については層離線が描かれず土質に関する注記もなかった。

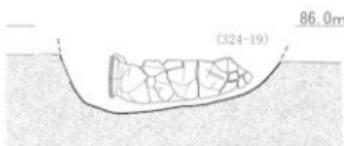
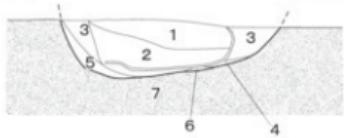
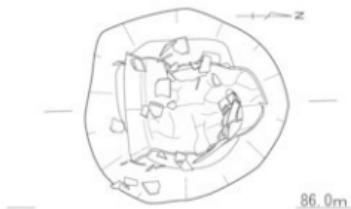
残された図面で墓壙と土器棺の位置関係を観察すると、墓壙は土器棺に比べて深く掘削されており、現状では棺は墓壙の底に置かれていません。おそらく墓壙底に土を埋め戻した後に棺を設置していたと想定されるが、残念ながら調査記録としてそのことを示すことができない。

なお、（325－20）は、口縁部から胴部にかけて半周弱が欠損している。これは、図283－3の断面図および立面図に示した、土器棺の設置時の上位に当たる部分である。すなわち、土器棺墓



1. 黒褐色細砂（礫もがきに含む）
  2. 黒灰縦面じり細砂
  3. 灰黒粗砂混じり砂質土（礫含む）
  4. 淡黃灰色細砂混じり粗砂
  5. 黑灰色砂質土
  6. 淡黃灰色縦砂
- 〔図6-12層、第8遺構面基盤層〕

1. 土器棺墓 14



1. 黒褐色細砂混じり細砂土
2. 黒色縦混じり細砂土
3. 灰黑色縦砂混じり砂質土
4. 黑色細砂
5. 黑灰色砂質土
6. 淡黃灰細砂
7. 淡灰縦砂（図6-12層、第8遺構面基盤層）

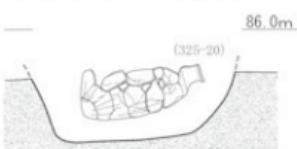
2. 土器棺墓 15



1. 黑灰色縦砂
2. 晴黃灰色縦砂混じり細砂



86.0m.



3. 土器棺墓 16

図283 第8遺構面 北3区 土器棺墓14・15・16 平面・立面・断面図 (S. = 1/20)

16は元の遺構形成面からは幾分下がった状態で検出されているので、欠損部はその上位部分の攪乱ないし削平によって失われたものと考えられる。つまり、土器棺（325－20）は当初はほぼ完形の深鉢であったとみられよう。ただし、底部および胸部下端に関してはほぼ完周しており、この部分については欠損していないことが確認できる。

⑩土器棺墓 17（図 259・図 284）（北3区）

北3区中央付近のやや南西寄りで検出した。墓壙の平面形は長径 55cm、短径 54cm の不整円形を呈する。検出最大深さは 11cm である。墓壙の断面形態は、図 284－1 の断面図に示したように、墓壙底が平坦にならずに、中央部が深くなるように掘り窪められている。

また、同図に見えるように、墓壙の検出面のレベルで、横位に置かれた土器棺（326－21）の残存部の最上部を検出した。（326－21）は、頭部から胸部下半の 1/4 周程度が残存するのみで、口縁部や底部を欠いていた。このような状況から、土器棺墓 17 は、上位は攪乱ないし削平を受けている、本来の遺構形成面からは相当下がったレベルでその上面が検出されたことがわかる。

土器棺の残存状況から、土器棺は、おおむね口縁部を北東方向に向けて、横位に置かれたとみられる。その際に、図 284－1 の断面図を見ると、一旦深く掘った墓壙底に暗褐色砂質土を埋め戻して、土器棺を設置する際の地廻しをしているらしい。しかし、墓壙の上位の大部分が失われている状況から詳細は不明とせざるを得ない。

⑪土器棺墓 18（図 259・図 284）（北3区）

北3区中央部やや南寄りで検出した。墓壙の平面形は直径 30cm の不整円形を呈する。検出最大深さは 7 cm である。墓壙上位の大部分が削平を受けている状態であるため詳細は明かではないが、残存部分からみると墓壙底の断面形態は U 字形を呈している。この底部分に一旦土を埋め戻しているらしく、またその埋戻し土の上面のレベルと遺構の検出面のレベルがほぼ同様であったようで、この高さで、底部のみ残存する深鉢（326－22）が正置された状態で出土した。

このような出土状態から、確定的ではないが、この遺構は深鉢（326－22）が土器棺として使用された土器棺墓であると考えた。ただし、深鉢（326－22）の底部が平底であることや、口縁を上に向けた正置状態であることなどは、今次調査で検出されたほかの土器棺とは異なる。これらの点を考慮すれば、土器棺墓とは性格が異なる、その他の土坑である可能性もある。

なお、現地調査における記録作成時の不手際があり、図 284－2 の断面図には埋土についての土質等の注記ができていない。

⑫土器棺墓 19（図 259・図 284）（北3区）

北3区中央部やや南寄りで検出した。今次調査地において検出したほかの土器棺と比べると、土器自体が小さい。このため、土器棺とは異なる性格の遺構である可能性もあるが、次に述べるように、出土状態に共通点があることから、ここでは土器棺墓とした。

墓壙の平面形は長径 46cm、短径 36cm の不整梢円形であり、最大検出深さは 10.5cm である。

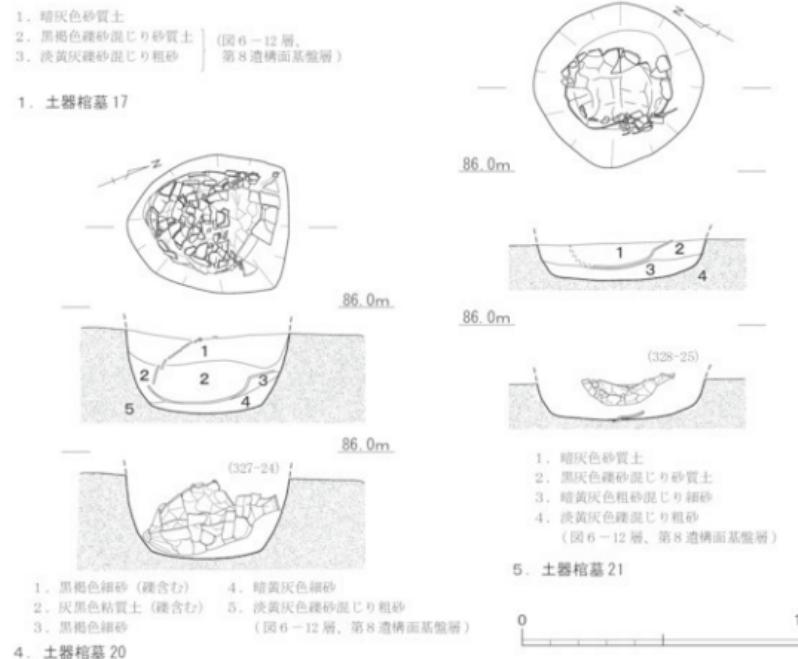
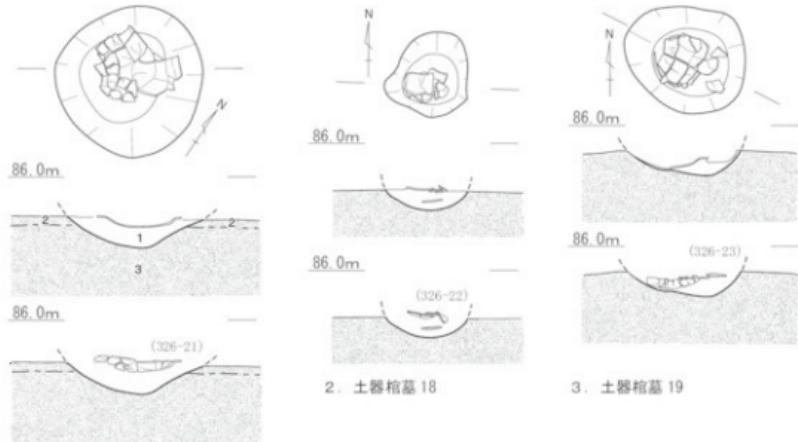


図284 第8造構面 北3区 土器棺墓17・18・19・20・21 平面・立面・断面図 (S.=1/20)

墓壙法面は、図 284－3 の断面図に見えるように、南東側が急で、北西側が緩やかになっている。しかし、深鉢（326－23）は、墓壙底に一旦土を埋め戻した後に埋置されているので、墓壙の形状のように斜位にはならず、横位になっている。口縁はおおむね南東に向いていた。ただし、現地調査における記録作成時の不手際があり、図 284－3 の断面図には埋土についての土質等の注記ができていない。このため、上記のように埋戻しを伴う墓壙底の整形があったと思われるが、ここではそれを調査記録として提示することができない。

図 284－3 に示しているように、墓壙の上位の大部分は削平を受けており、これに伴い土器棺も大きく損傷していた。すなわち、(326－23) は設置状態の上部を欠いている状態で、残存部分は口縁部から胴部下半までの 1/4 周ほどである。底部は全く欠いているが、出土状態からみると、これがその際の削平によるものとは考えにくく、土器棺として設置された時点で底部を欠損してたと考えられる。

#### ⑧土器棺墓 20 (図 259・図 284) (北3区)

北3区中央部の南寄りで検出した。墓壙の平面形は、北、東、西の各辺が直線上を呈し、南は外側に突出する「く」字状になっている。全体的には、不整五角形を呈するようにも見えるが、コーナー部分が緩やかに屈曲するため、いずれにせよ歪な形状で、明瞭な五角形が意識されたものではないだろう。長軸は 57cm、短軸 48cm の大きさである。検出最大深さは 28cm である。

墓壙底の形状は平坦で、ここに、土器棺として深鉢（327－24）が口縁を北東方向に向け、斜位で置かれていた。図 284－4 の断面図に見えるように、墓壙の検出高と土器棺の設置状態での最上位がほぼ同じ高さで検出されているので、遺構の本来の形成面は、この検出面のレベルよりもさらに高かったと考えられる。つまり遺構の上位部分は幾つかの攪乱ないし削平を受けており、そのため (327－24) についてもこの部分が欠損しているものと考えられる。すなわち、(327－24) は、現状では口縁部はその 1/5 程が残るのみで、胴部上端も出土状態の最上位部分が欠損しているが、元はほぼ完形の深鉢が土器棺として用いられたと考えられる。

#### ⑨土器棺墓 21 (図 259・図 284) (北3区)

北3区中央部の南よりで検出した。墓壙の平面形は直径 57cm の不整円形であり、検出最大深さは 12cm である。墓壙底の形状は平坦で、ここに土器棺として、口縁を南東に向けた深鉢（328－25）が斜位で置かれていた。墓壙は、図 284－5 の断面図に示したように、一旦掘削された後に、厚さ 5～6 cm 程度の 3 層が埋め戻されており、その上面に土器棺が埋置されていた。同図に見えるように、墓壙の検出高さと埋置状態の土器棺の残存最上部がほぼ同じレベルで検出されていることから、土器棺墓 21 は本来の遺構検出面からは相当な深さが攪乱ないし削平を受けていることがわかる。このため、土器棺の埋置状態での上半部を大きく欠損しているため、土器棺を埋置した時の状況を詳細に知ることは難しい。しかし、土器棺は、出土状態で墓壙の南東端に深鉢の口縁端部が残っており、そこから胴部の下端付近まで、内面を上にした状態で検出されている。この残存部

分から、上記したように、土器棺は斜位に置かれたとみられるので、3層とした埋め戻し土は、そのような状態での土器の安定を保つ目的があったのかもしれない。

土器棺自体の残存状態は、上述のように良好ではなく、口縁部に関しては1/5程度が残るのみであったが、胴部以下については全体の1/3程度に接合できた。また、底部については胴部に接合復元することはできなかったものの、胎上からみて同一個体とみられる破片が、棺内部に落ち込んだ状態で出土した。このような状況からみて、元はほぼ完形に近い深鉢が土器棺として用いられたと考えられよう。

なお、墓壙埋土3層に混じてサヌカイト製スクレイバー(340-3)が出土した。3層は上記のように、おそらく土器棺の安定を図る目的で埋め戻された土であるから、(340-3)は墓壙掘削時に生じた残土内に含まれていたか、元は第8遺構面上に分布したものかは墓壙の埋戻土に混じたと考えるのが妥当であろう。つまり、土器棺の埋置にかかる遺物ではないと判断される。

#### (4) 土壙墓

土壙墓は北2・3区で合計10基を検出した。ただし、棺や副葬品を伴わない墓であるが故に、それを土壙墓とするのか土坑とするか、判断が難しいのが実態である。ここでは、根拠薄弱ながら基本的には壠方の平面形が長方形を呈するもの、もしくはそれを志向したと見えるものを土壙墓と認定した。

また、いずれも本来は12層上面に形成されたものと考えているが、上述しているように、12層の上面は土壤化の影響を強く受けており、遺構を検出することが技術的に困難な状態であった。そのため、以下に説明する遺構の、特に深さについては本来のそれよりも浅くなっている。

##### ①土壙墓1(図258・図285)(北2区)

北2区北端で中央よりやや東寄りで検出した。この遺構は、後述するように、今次調査で土壙墓としたほかの遺構と比べると、遺構の底の形状や遺物のあり方が異なっていること、獸骨が出土していることなどから、一般的な土壙墓とは異なる可能性がある。ここではその性格は不分明ながら、平面形態などから土壙墓として報告する。

墓壙の平面形は長径240cm、短径97cmの不整楕円形を呈する。墓壙の主軸をN-29°-Eに置いている。墓壙底の深さは、南東が浅く北西が深くなっているため均一ではないが、中央付近で28cmを測る。

墓壙の底は特異な形状をしている。図285に示したように、墓壙底の北西端と、南東端から50cmの地点で主軸と直交する幅16cm、深さ5cm程度の溝がある。北西端のそれは2条の溝が相接して平行に掘られている。図285の縦断面図に示しているように、うち2条は埋土中にわずかに炭化物が含まれる。

遺物は、埋土に混じて土器片188点のほか、サヌカイトの細片1点が出土した。土器片の多くは一辺が5cm以下に小片化したもので、互いに接合できるものではなかった。このうち、深鉢口

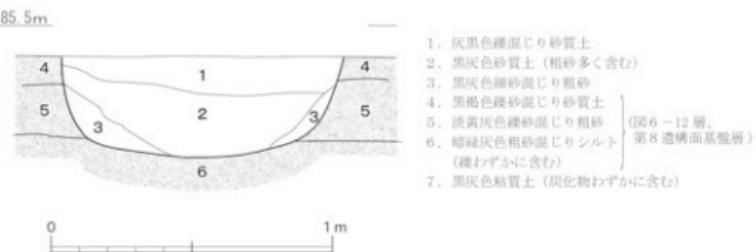
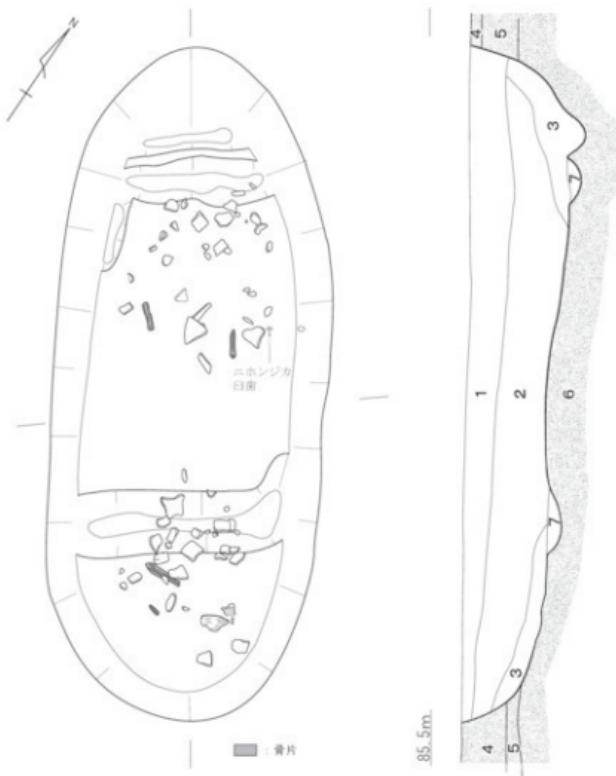


図285 第8遺構面 北2区 土壌墓1 平面・断面図 (S.=1/20)

縁部片 15 点、浅鉢口縁部片 2 点、底部片 4 点を確認できたが、その他は胴部などの破片である。これらの中から図化可能な 5 点を抽出し、図 329 に示した。

このほか、動物骨 5 点や歯冠の一部が出土した。種の同定に関してパリノサーヴェイ株式会社に委託したが、残存状況が悪く骨は「獸骨」とされるのみでそれ以上の特定まではできなかった。しかし、歯に関してはニホンジカの白歯との結果を得た。同定に供することができた骨片は墓壙の底近くから、歯は墓壙埋土の最上位付近で出土したものである。

冒頭にも述べたとおり、以上の状況からこの遺構は一般的な土壙墓とはいさか様相が異なっている。遺構の底で検出した主軸に直交する溝についても、それがどのような機能を有したものか定かではない。この遺構が土壙墓であれば、底板のようなものがあってそれが根太を伴ったなどの想像ができなくもないが、確証がない。ただ、土器や獸骨などの生活残滓を捨てた土坑としても、遺構底の溝の機能がうまく説明できない現状である。このようなことで、特にこの遺構の性格については確定的ではない。

#### ②土壙墓 2 (図 258・図 286) (北 2 区)

北 2 区西半で検出した。墓壙の平面形は長軸 142cm、短軸 56cm の隅丸長方形を呈する。墓壙の主軸は N - 25° - E に置いている。検出深さは 10 ~ 12cm で、墓壙底はおおむね平坦になっているが、図 286-1 に示したように、南端の下端付近がやや窪んでいる。

土器等の遺物はなかったが、北東半の底面で 5cm 程度以下の骨片が出土した。

#### ③土壙墓 3 (図 258・図 286) (北 2 区)

北 2 区中央付近で検出した。墓壙の平面形は長軸 145cm、短軸 62cm の隅丸長方形を呈し、墓壙の主軸は N - 27° - E に置かれている。検出最大深さは 5cm で、残存状況が悪いため墓壙底の形状しかわからない。図 286-2 に示したように、墓壙の底面はほぼ平坦である。

遺物等の出土はなかった。

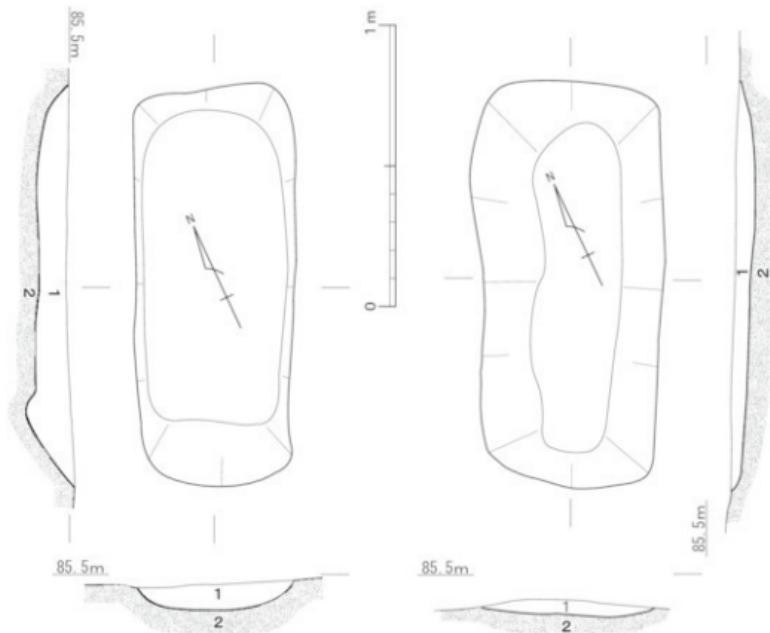
#### ④土壙墓 4 (図 259・図 286) (北 2 区)

北 3 区北東部の北端近くで検出した。墓壙の平面形は長軸 175cm、短軸 74cm の隅丸長方形を呈するが、南東の小口辺は丸みを帯びて円弧を描いているので、全体としては不整形になっている。深さは最大 20cm を検出したが、図 286-3 の断面図に示したように、墓壙底の縦断面を見ると四凸が目立ち、横断面は、図化されている地点によろうが、浅い U 字形をしていて、平坦ではない。

遺物等の出土はなかった。

#### ⑤土壙墓 5 (図 259・図 287-1) (北 3 区)

北 3 区北半の中央付近で検出した。墓壙の平面形は長軸 127cm、短軸 65cm の隅丸長方形を呈するが、南西のコーナーが特に丸みを帯びており、不整形なものとなっている。墓壙の主軸は N - 18° - E に置かれている。墓壙の最大検出深さは 10cm である。図 287-1 の断面図に示したように、墓壙の底の形状は平坦ではなく、やや凹凸がある。遺物等の出土はなかった。



1. 灰黑色繩砂混じり砂質土  
2. 暗黃灰色繩砂混じり砂質土  
(図6-12層、第8造構面基盤層)

1. 土壌基2

1. 灰黑色繩砂混じり砂質土  
2. 暗黃灰色繩砂混じり粗砂  
(図6-12層、第8造構面基盤層)

2. 土壌基3

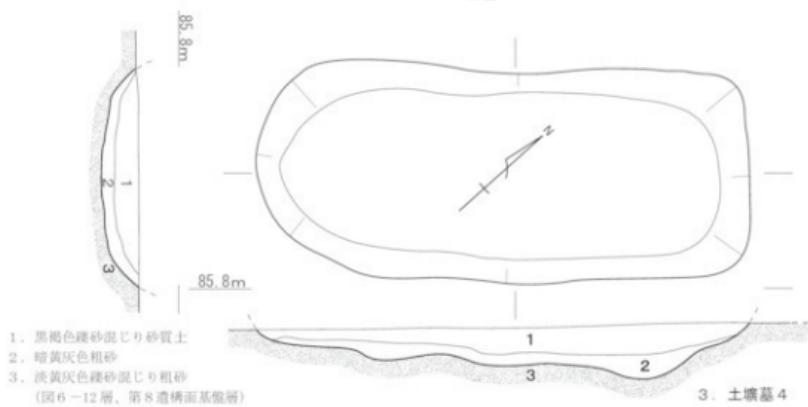
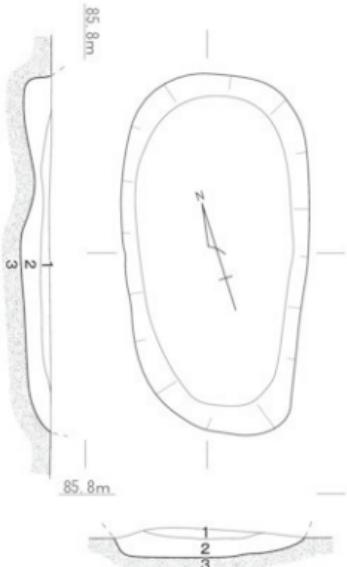


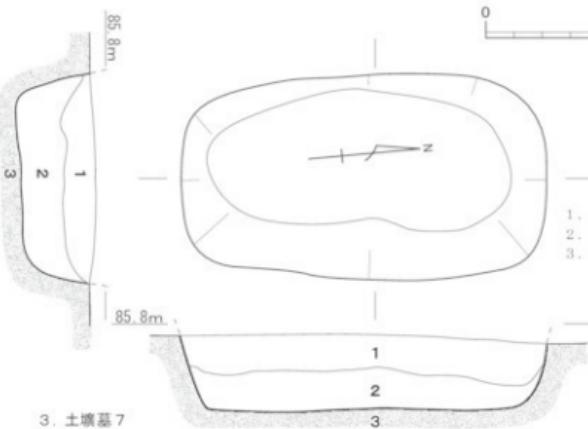
図286 第8造構面 北2・3区 土壌基2・3・4 平面・断面図 (S.=1/20)



1. 土壙墓 5  
1. 黒褐色縞砂混じり砂質土  
2. 暗黄灰色砂質土  
3. 淡黄灰色縞砂混じり粗砂  
(図 6-12 層、第 8 遺構面基盤層)



2. 土壙墓 6  
1. 暗黄灰色砂質土  
(灰黒色砂質土のブロック、疊合む)  
2. 淡黄灰色縞砂混じり粗砂  
(図 6-12 層、第 8 遺構面基盤層)



3. 土壙墓 7  
1. 灰黒色縞砂混じり砂質土  
2. 暗灰色砂質土  
3. 淡黄灰色縞砂混じり粗砂  
(図 6-12 層、第 8 遺構面基盤層)

図 287 第 8 遺構面 北 3 区 土壙墓 5・6・7 平面・断面図 (S.=1/20)

#### ⑥土壤墓6（図259・図287）（北3区）

北3区北半の中央付近で検出した。墓壙の平面形は長軸122cm、短軸75cmの隅丸長方形を呈するが、東辺が外側に突出した形状になり、全体としてやや不整形なものになっている。墓壙の主軸はN-66°-Eに置かれている。検出最大深さは12cmであるが、墓壙底のレベルはわずかに西が高く、東が低くなっている。

遺物等の出土はなかった。

#### ⑦土壤墓7（図259・図287）（北3区）

北3区中央付近の北寄りで検出した。墓壙の平面形は長軸130cm、短軸73cmの隅丸長方形を呈し、墓壙の主軸はN-6°-Eに置かれている。検出最大深さは26cmである。墓壙底の形状はおおむね平坦である。

遺物等の出土はなかった。

#### ⑧土壤墓8（図259・図288）（北3区）

北3区中央付近や北西よりで検出した。墓壙の平面形は長軸119cm、短軸70cmの隅丸長方形を呈するが、西辺が丸みを持った円弧を描き直線的ではないので、方形と言うには歪な不整形なものになっている。墓壙の主軸はN-65°-Eに置かれている。検出最大深さは19cmであるが、墓壙底のレベルは西端が高く東端がやや低くなっている。

遺物等の出土はなかった。

#### ⑨土壤墓9（図259・図288）（北3区）

北3区西半の中央付近で検出した。平面径は長軸137m、短軸82cmの隅丸長方形を呈するが、西辺が丸みを帯びて直線的ではないため、全体としては不整形なものになっている。墓壙の主軸はN-74°-Wに置かれている。検出最大深さは12cmである。

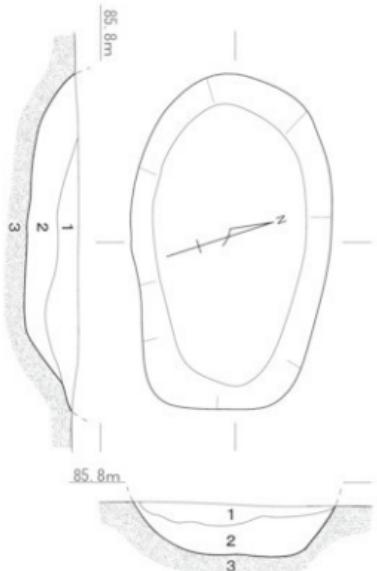
遺物等の出土はなかった。

なお、土壤墓12は、調査時の不手際があつたらしく、遺構をクローズアップした状態での写真が残されていなかった。このため、図版にも同写真を掲載することができていない。

#### ⑩土壤墓10（図259・図288）（北3区）

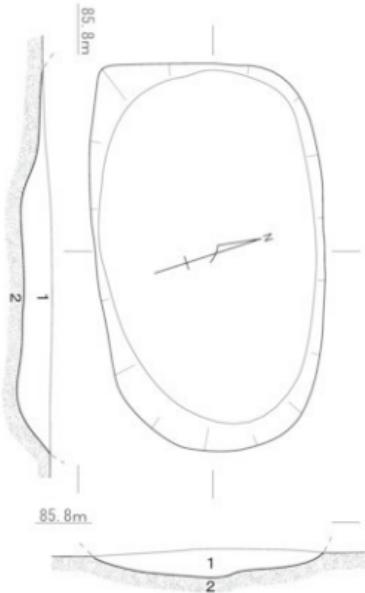
北3区西半の中央付近で検出した。墓壙平面形は長軸117cm、短軸75cmの隅丸長方形を呈するが、北西のコーナーが丸みをもって円弧状になっており、全体としては不整形なものになっている。墓壙の主軸はN-6°-Eに置かれている。検出最大深さは22cmである。墓壙底の形状は、図288-3の縦断面図に示したように、断面形が丸みをもった浅いU字形になっており、平坦に整形されたものではない。

出土遺物は、墓壙の南西端において墓壙埋土の2層中から浅鉢（329-7）の口部頸部および胴部上端の破片が各1点出土した。この2片は互いに接合しなかったが、胎土や調整から同一個体とみられる。（329-7）は口径55.5cmに復原できる土器であるが、残存部分はその1/8程度である。



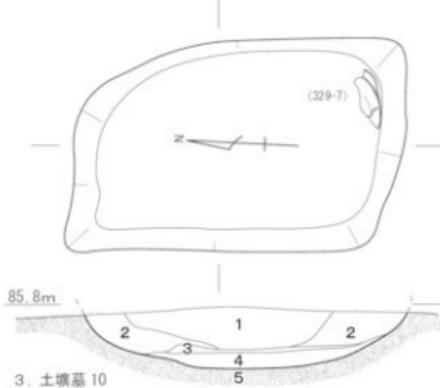
1. 土壌基 8

1. 黒褐色疊砂混じり砂質土
  2. 晴黃灰色砂質土
  3. 淡黃灰色疊砂混じり粗砂
- (図 6-12 層、第 8 遺構面基盤層)



2. 土壌基 9

1. 黒褐色疊砂混じり砂質土
  2. 淡黃灰色疊砂混じり粗砂
- (図 6-12 層、第 8 遺構面基盤層)



3. 土壌基 10



1. 黒褐色細砂混じり疊砂
  2. 暗灰色粗砂（疊わざかに含む）
  3. 黄灰色細砂
  4. 暗黃灰色砂質土（疊わざかに含む）
  5. 淡黃灰色疊砂混じり粗砂
- (図 6-12 層、第 8 遺構面基盤層)

図 288 第 8 遺構面 北 3 区 土壌基 8・9・10 平面・断面図 (S. = 1/20)

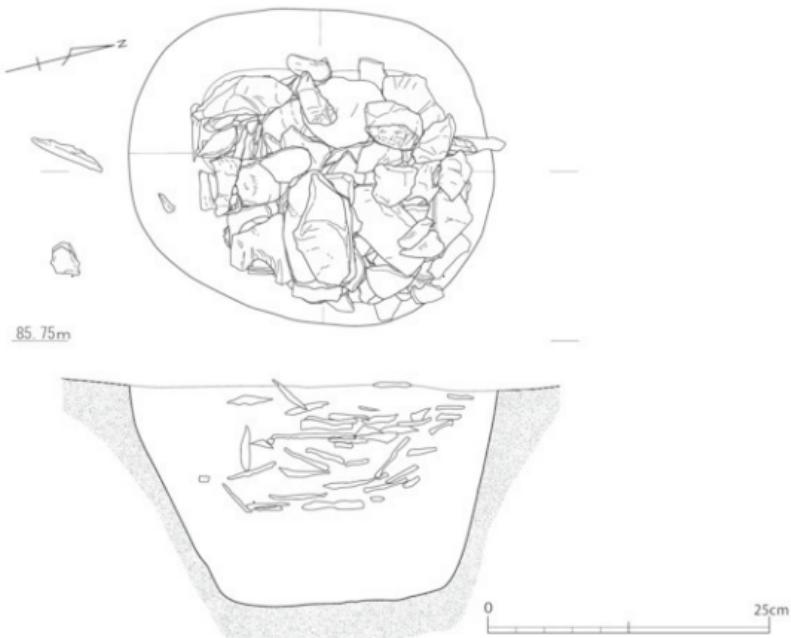


図289 第8遺構面 北2区 サスカイト集積土坑 平面・断面図 (S. = 1/5)

##### (5) サスカイト集積土坑 (図258・図289) (北2区)

北2区南西部で検出した。平面形は長径33cm、短径28cmの不正楕円形で、検出最大深さは19cmである。図289の断面図に示したように、土坑底は平坦面をなし、断面形がバケツ状を呈する。土坑の埋土の状況および土質については、遺憾ながら現地調査時の不手際により記録が十全に残されていなかったため、不明である。図289に示したように、遺物の出土状況を見るかぎり、土坑の半分程度が埋め戻されたのちに石器が集積して埋められたものと考えられる。

遺物は、土坑の上半部において、サスカイト片が137点集中して出土した。縄文時代晩期後半から弥生時代にかけて、意図的に石材を集積したとみられる土坑の検出があり、本例もこれと同種のものと判断される。出土した石器および本例の位置づけについては、第7章第1節の大下報告を参照されたい。

##### (6) 土坑

北1～3区で計15基の土坑を検出した。土坑は他の遺構と同様に土壤化した12層上面を除いてから検出している。よって土坑も遺構形成面より低い位置で検出しているものが多い。

### ①土坑9（図256・図290）（北1区）

北1区の南端で検出した。南壁から約1mの地点である。周辺に遺構が乏しく、この遺構のみ單独で検出されている。

土坑9の北端部は、図290-1や図版162に見えるように、先行するトレンチの掘削のために欠損している。このトレンチは、第3遺構面で検出された溝11の底に打たれた杭列の状況を確認するために設定したものであった。

そのようなことで元の全体の形状が不明ではあるが、平面形は長径79cmで、短径は60cm程の不整楕円形であったとみられる。検出最大深さは29cmであった。その断面形は図290-1に示したように、土坑の法面が比較的急で底面は平坦に近い形状である。ただ、土坑の埋土について、遺憾ながら現地調査時の不手際により記録図面に土質等の注記がなされていなかった。不正確ながら残された写真によれば、上下2層に分けられた土層は、いずれも暗灰色を呈する砂礫混じりの粘質土に見え、色調は上層がやや明るく、下層がやや暗いことなどが窺える。

遺物は、その埋土の上層から点数にして50点程度の土器片が出土した。そのほとんどは長さ2～5cm程度の小破片化したものであったが、実測図を掲載することができた深鉢(330-1)は、幅20、高さ23cmほどの比較的大きな破片であった。(330-1)と同一個体とみられる破片として、高さ15cmほどの口縁部の破片が3点あるが、それらは互いに接点を持たないものであった。また、そのいずれもが胴部までの破片であって、底部の破片は検出されていない。このほか、固化可能であったものに別個体の深鉢(330-2)や(330-3)があったが、それらは、長辺でも5～10程度まで的小破片であって、他の破片とは接合しない。

これらの土器片の出土状況をみても、最も破片の大きい(330-1)は、外面を上に向かた状態であったから、完形に近い土器が納められたが遺構の上位が削平を受けたという状況とは考えにくい。すなわち、これらの土器片は、それぞれ破片化したものが土坑の中に入れられものとみられる。

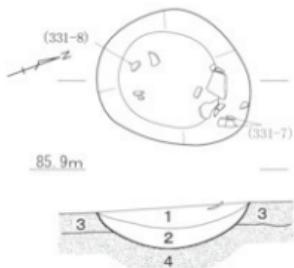
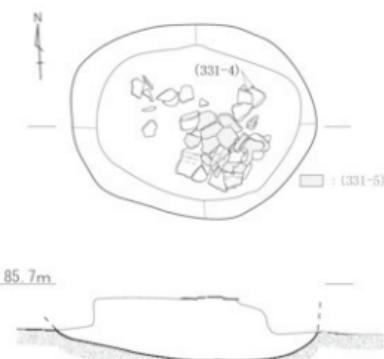
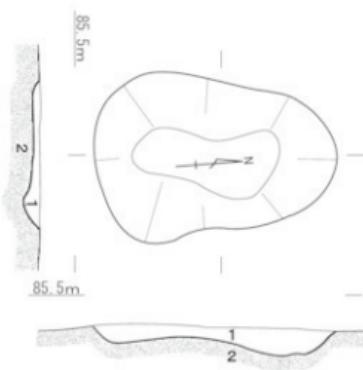
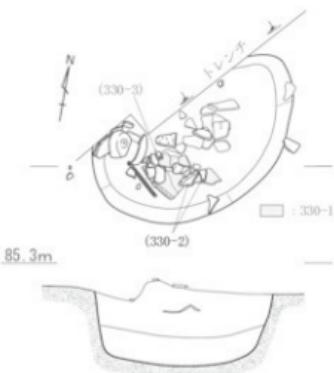
### ②土坑10（図258・図290）（北2区）

北2区中央部で検出した。土坑の平面形は長径85cm、短径52cmの不整楕円形を呈し、長軸がおおむね南北方向を向いている。検出最大深さは10cmである。図290-2の断面図に示したように、墓壙の底の形状についても、中央部付近が浅く北半部が深くなるなど不整形である。

遺物の出土はなかった。

### ③土坑11（図258・図290）（北2区）

北2区中央のやや西寄りで検出した。土坑の平面形は長径82cm、短径67cmの楕円形を呈している。図290-3に示したように、土坑11は、遺物が土坑の上端の検出レベルより約10cm高い位置で検出された。つまり、本来は、遺物を検出したレベルよりも上位から土坑が掘り込まれていたと考えられる。しかし、遺構面の状態から遺構形成面での遺構の検出が困難で、その存在が比較的容易に知られた土器をその場に残しつつ精査を行うことで辛うじて遺構の下位でその平面形が



1. 灰黒色砂質土
2. 黒色粘土質(炭化物をわずかに含む)
3. 黒褐色縞砂混じり砂質土  
(図 6-12 層、第 8 道構面基盤層)
4. 淡黄色縞砂混じり粗砂  
(図 6-12 層、第 8 道構面基盤層)

4. 土坑 12



図 290 第 8 道構面 北 1・2 区 土坑 9・10・11・12 平面・断面図 (S. = 1/20)

確認できたものである。

このような事情で、遺構の検出深さは、図 290-3 の断面図に示したように 10cm 程度であるが、土器の出土レベルから見ると 22cm になる。本来はこれよりもさらに深い遺構の深さであったと考えられる。遺構底の形状は、同図に見えるように、断面形がごく浅い U 字形を呈している。なお、同図において、土坑の埋土については、記録作成上の不手際があつて土質等の注記がなされていなかったために、ここに示すことができていない。ただし、平面図に示されている遺物については出土時のレベルが記録されており、それによれば、遺物はいずれも埋土の上半から出土したことがわかつている。

土器片は、破片化したものが折り重なって出土した。その破片数は 70 点ほどあったが、その中には複数個体の土器が含まれていた。そのうち、実測可能であったものの 3 点を図 331-4・5・6 として掲げてある。多くの破片が一辺 2~5cm ほどの小破片になっていたが、その中でも大きさが比較的大きかったものは、深鉢（331-4）と同（331-5）である。（331-5）は口縁部から胴部下半までの破片で、口縁部の約 1/3 ほどが残存している。内面を上にして出土した。なお（331-5）は 19 片以上に割れていた破片を接合復元したものであるが、図 290-3 の平面図にも見えるように、それぞれの破片が隣接して出土したもので、土坑に埋没後にその場で割れたものである。

（331-4）は（331-5）の下に重なって出土したもので、やはり数片の破片となっていたが、その場で出土したものを探合復元すると幅 20cm、高さ 10cm ほどの破片になった。（331-4）は、外側を上に向けて出土した。

このような土器の出土状態から、土器は、完形のものが埋設されたのではなく、複数個体の破片化した土器が、集められて埋められたものとみられる。

#### ④ 土坑 12（図 258・図 290）（北 2 区）

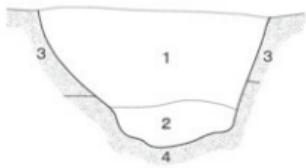
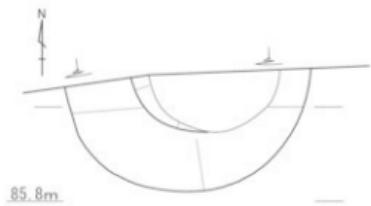
北 2 区南西部で検出した。土坑の平面形は長径 52cm、短径 46cm の不整円形であり、検出深さは 35cm である。図 290-4 の断面図に示したように、土坑 12 の埋土は 2 層に分層される。このうち、1 層の下半から土器片が、2 層から炭化物が検出された。

土器片は 13 点があり、このうち、図化可能であった深鉢と浅鉢の口縁部各 1 点について図 331-7・8 として掲げた。

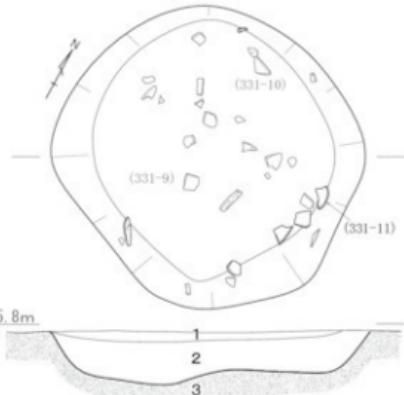
#### ⑤ 土坑 13（図 258・図 291）（北 2 区）

北 2 区南半西寄りで検出した。土坑 13 は、第 8 遺構面に設定、掘削した下層確認トレンチ 6 によってその北半を欠損した状態で検出された。なお下層確認トレンチ 6 の調査区内での相対的な位置は、図 343 に示しているので参照されたい。

土坑 13 の検出に関してこのような不具合が生じたのは、当初、第 8 遺構面の平面的な精査を行つた時点で、この遺構の存在に気づかれなかつたことによる。前述したように、北 2 区では、第 4-



1. 土坑 13



3. 土坑 15



2. 土坑 14



図 291 第 8 遺構面 北 2・3 区 土坑 13・14・15 平面・断面図 (S. = 1/20)

1次調査において、その西と東にトレンチ1と同2をそれぞれ設けて、今次調査地の遺構面の数や遺構の広がりについて確認しているところである。しかし、第8遺構面より下層については、作業の安全性の確保のためなどの理由で、部分的な掘削を除いてはトレンチ調査が及んでいない箇所が多かった。そこで、第8遺構面の調査終了後に、適宜その面にトレンチを設定して、下層調査の必要性の有無を確認することとした。このような目的で図343に示した下層確認トレンチ4も設定したのであるが、このトレンチの南壁断面を精査したところ、その西端付近に第8遺構面から掘り込まれる土坑の断面が確認された。そして、これを手がかりにして改めて第8遺構面上の該当箇所を精査し平面検出ができたものである。

土坑の平面形は、元は円形を呈していたとみられる。東西88cm、南北42cm以上、深さ47cmの規模である。出土遺物は、土器の細片1点があった。

#### ⑥土坑14（図259・図291）（北3区）

北3区北半北端部中央付近で検出した。土坑の平面形は長軸106cm、短軸81cmの不整梢円形を呈す。北辺や東片が直線的であり、北西隅が歪であるが、これらの形状を重視すれば、元は隅丸方形を呈したものかもしれない。図291-2の断面図に見えるように、深さは最大11cmであるが、底の形状平坦ではなく、西がやや浅く中央付近に段があって、東が深くなっている。

遺物は、胴部片とみられる土器の小片が2点のみであった。

#### ⑦土坑15（図259・図291）（北3区）

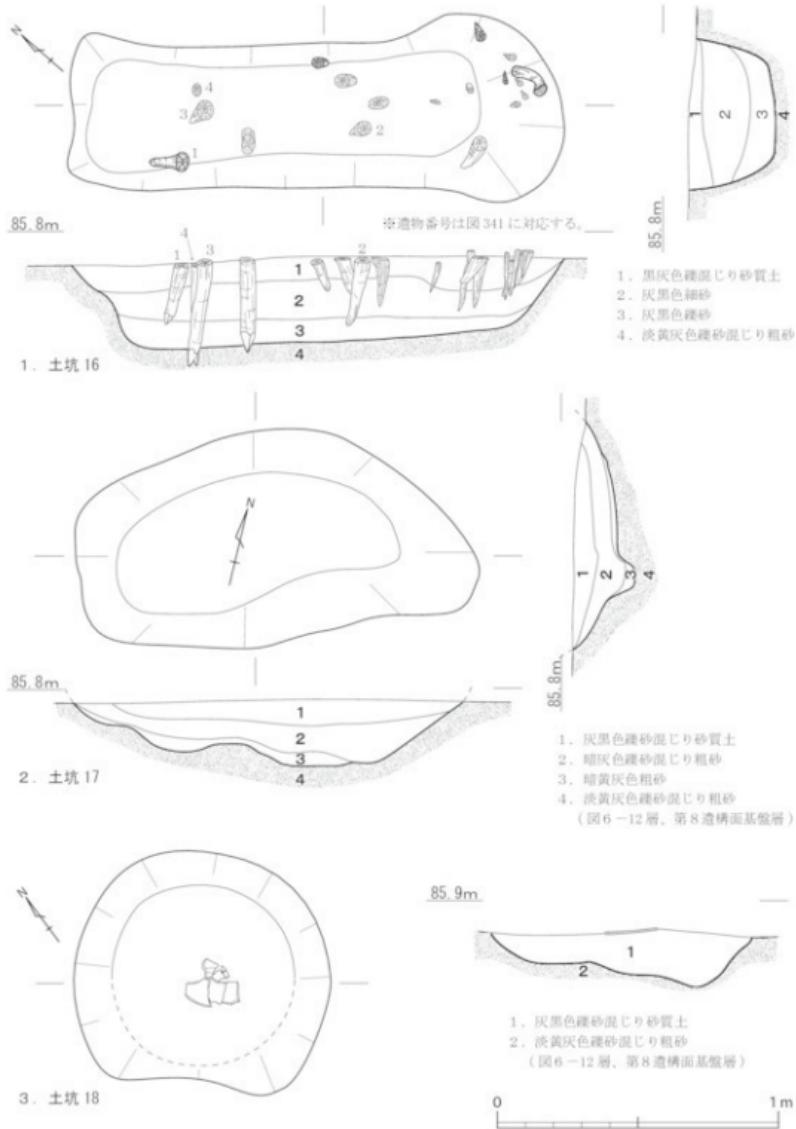
北3区中央のやや北東寄りで検出した。土坑の平面形は長軸113cm、短軸108cmの不整梢円形を呈すが、北辺や東辺が直線的で、方形プランの平面形にも見える。図291-3の断面図に見えるように、土坑の底は平坦ではなく東半が浅く、西半が深くなっている。検出最大深さは18cmである。出土遺物は、同断面図に記した2層から土器片が約70点があった。それらはいずれも互いに接合できるものはなかったが、図化可能であった3点を図331に掲げてある。また、埋土中の詳細な位置は不明であるが、動物の歯冠の一部と思しき骨片が数点出土している。

#### ⑧土坑16（図259・図292）（北3区）

北3区の西端付近で検出した。土坑の平面形は長軸1.7m、短軸0.5mの長方形を呈する。最大検出深さは32cmである。長軸方向を北西-南東方向に向いている。

土坑の断面形は、図292-1の断面図に示したように、小口面と側面の法面が斜めに立ち上がり、底は比較的平坦になっている。埋土は、同図に見えるように、3層の黒灰色系統の砂質土等が堆積している。

この土坑の特異なことは、この埋土に対して、直径3~6cm、残存長12~40cmの杭18本が突き刺さった状態で検出されたことである。一般に、杭の元の上端は残存していないので、杭が本来どの層位から打ち込まれたかを検証することは極めて難しい。この場合も、第8遺構面より上層から杭が打たれた可能性もまったくないわけではなかろう。ただし、ここでは、杭が検出されるのが、



この土坑 16 の範囲内だけであることが重要である。もし上層から 18 本もの杭が打たれて、それがすべて土坑 16 の埋土に刺さっているのであればよほどの偶然を考えねばならない。そのような偶然は考えにくいから、これらの杭は土坑 16 を埋めた直後にその埋土に打ち込まれたと考えるのが妥当である。

ただし、そうした場合には、何故にそのような杭が打ち込まれたのかは不明と言わざるを得ない。土坑内からはほかに遺物等が出土していないので、土坑の性格を考えることも困難である。例えば、土坑の形状が土塙墓にも似ていることから、そこに人を埋葬したのちに杭を繁打ちしたと考えるであれば、何らかの宗教的な儀礼が行われたと想像できなくもないが、まったく定かではない。

なお、杭のうち保存処理を施して樹種を同定できたものは、別表 4 - 847 ~ 850 として一覧した。それによれば、いずれもイヌガヤが用いられていた。また、実測図を掲載した（341 - 4）について、放射性炭素による年代測定をおこない、その結果を別表 1 - 9 に記した。そのうちの最も確立の高い数値をとれば、暦年校正年代は、Cal Bc597-412 である。

#### ⑨土坑 17 (図 259・図 292) (北 3 区)

北 3 区の中央部やや西寄りで検出した。土坑の平面形は長径 142cm、短径 76cm の不整橢円形を呈す。墓壙の断面形は、底の形状が一様ではない。図 292-2 の断面図に示したように、底に凹凸があり、東半部が深い。検出最大深さは 24cm である。

遺物の出土はなかった。

#### ⑩土坑 18 (図 259・図 292) (北 3 区)

北 3 区中央部のやや西寄りで検出した。土坑の平面形は円形を志向したものに見えるが、図 292-3 の平面図に示したように、南西部がやや内湾しており、不整形なものになっている。東西の径は 92cm である。土坑の断面形は、同図の断面図に見えるように、底の高さが一定ではなく、東半部が深くなっている。検出最大深さは 16cm である。

出土遺物は、埋土の最上面から一辺が 3 ~ 5 cm 程度の破片になった、同一個体とみられる土器の破片が 8 点あった。このうち口縁部破片（331-12）を図示した。

#### ⑪土坑 19 (図 259・図 293) (北 3 区)

北 3 区の西半の中央部付近で検出した。後述する土坑 20 と切り合い関係があって、土坑 20 を切っている。土坑の平面形は長径 145 m、短径 125 m の不整橢円形を呈している。土坑の断面形は図 293-1 の断面図に示したように、底の形状がおむね平坦になっており、法面は地点により異なっているが、やや湾曲しながら立ち上がっている。検出最大深さは 28cm である。

また、同図によって埋土の状況を確認すると、土坑底の外周部にまず 4 層が堆積し、その後中央付近に 1・2・5 層となる土砂が入り込んだことが窺える。このような状況は、よほど意識的でない限り、特に 4 層については自然に埋まったものと思われる。

この埋土中から、150 点ばかりの土器片が検出された。出土地点を明確にできたも

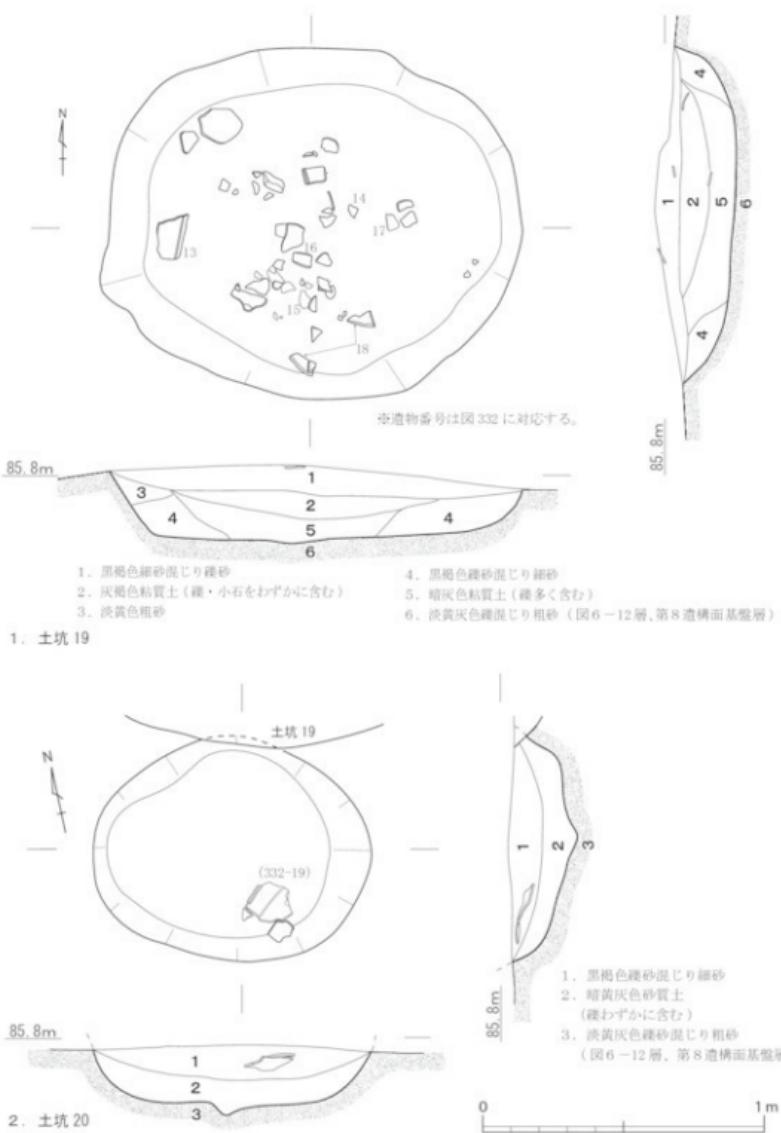


図 293 第8遺構面 北3区 土坑19・20 平面・断面図 (S.=1/20)

のは、埋土中でも特に1層または2層からの出土となっていた。これらの土器片は、図293-1の平面図に示したように、(332-18)の底部片が接合できたほかは基本的に互いに接合復元できるものではなかった。同一個体と見られる土器片も少なく、(332-13)について別の3点の土器片と、胎土や調整からみて同一個体の可能性が考えられた以外には、そのような土器片を見いだすこともできなかった。出土遺物としてはこのほかに、極少量の赤色顔料と、何らかの動物の骨の細片1点があった。

埋土と出土遺物のこのような状況から、土坑19は、掘削されたのちしばらくの期間はそれが埋まらないで、土器片など生活残滓の廃棄土坑として利用されたと考えられる。

#### ⑪土坑20(図259・図293)(北3区)

北3区西半の中央付近で検出した。土坑19と切り合い関係がある、土坑の北端を土坑19に切られている。土坑の平面形は長径98cm、短径は80cm程度とみられる不整橢円形である。図293-2に示した断面形を見ると、墓壙底は中央に向かって深く掘り窪められていて、平坦に整形されているものではない。最大検出深さは26cmである。

遺物は、土坑埋土の1層から深鉢(332-19)が出土した。(332-19)は口縁部から胴部上半までの破片で、口径47.8cmに復原できる土器であるが、口縁部に関してはそのうちの1/20程度の残存率である。

#### ⑫土坑21(図259・図294)(北3区)

北3区南西部で検出した。土坑の平面形は、北西部が隅丸方形のコーナーのようになっているので方形を志向するように見える。しかし、東から南にかけて上端が円弧状を描いていることから、不明確である。方形であれば長軸127cm、短軸120cm程の大きさになる。検出最大深さは20cmである。図294-1の断面図に見えるように、埋土はまず3層が法面上に堆積し、その後、黒色系統の砂質土が堆積している。出土遺物はなかった。

#### ⑬土坑22(図259・図294)(北3区)

北3区の南西部の調査区南壁近くで検出した。土坑の平面形は長径61cm、短径52cmの不整橢円形を呈する。土坑の断面形は、図294-2の断面図に示したように、底の形状が平らではなく緩やかなU字形をしている。検出最大深さは深さ18cmである。出土遺物はなかった。

#### ⑭土坑23(図259・図294)(北3区)

北3区の中央部南寄りで検出した。土坑の平面形は、一辺60~65cmの隅丸方形を呈する。ただし、北片がやや丸みを持って外側に張り出すなど、不整形なものになっている。土坑の断面形は、図294-3の断面図に示したように、底の形状が平坦ではなく東半深くなっている。検出最大深さは12cmである。出土遺物は、敲石(340-5)があった。

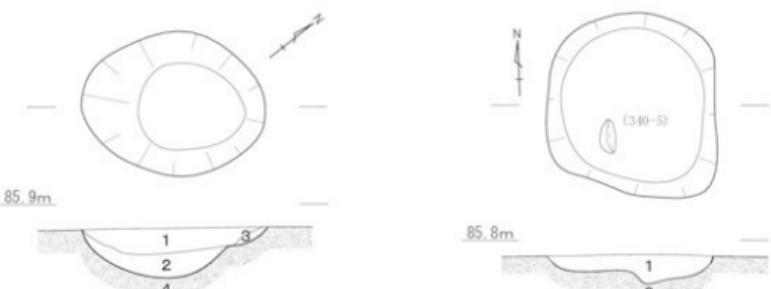
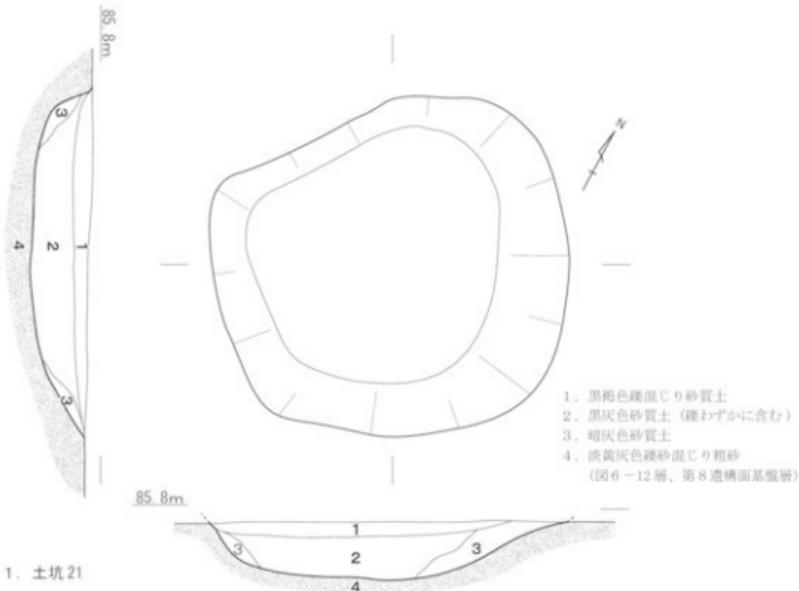


図294 第8造構面 北3区 土坑21・22・23 平面・断面図 (S.=1/20)

### 3. 遺物

#### (1) 土器

##### ①遺構面上出土土器（図 295－1～図 306－100）

第8遺構面より出土した土器の多くは、遺構面直上に貼りつくような状態であったことが特筆される。そのため、遺構に伴わなかった土器群を遺構面出土として扱うこととする。大半の土器は、凸帯文土器2期前半に属すが、縄文土器型式によって中期末から晩期末まで、比定される土器をふくみ、内容は多様である。したがって、短期間のまとまりをもつ土器群ではあるが、厳密には他時期の遺物の流入や混入があり、一括資料として扱えるものではない。以下、各時期の土器を既定の縄文土器型式にしたがって報告する。ただし、主体を占める晩期後半については、筆者の編年観（妹尾 2014）にしたがって詳述する。

295（295－1～19）は、中期末から後期の土器群である。（295－1・2）は中期末・北白川C式の深鉢形土器の胴部片である。いずれも縄文地に沈線文を描出す。（295－3～11）は後期前葉に属す。（295－3～8）は北白川上層式1～2期に比定される。（295－3）は深鉢形土器の口縁部から胴部の破片で、口縁内面に円形状の突起をもつ。（295－4）は深鉢形土器の口縁部で、口縁の内外面に文様をもつ。（295－5）は深鉢形土器の突起部である。内外面に刺突文を施す。（295－6～8）は深鉢形土器の口縁部で、（295－6・7）は口縁を肥厚させ、外面に縄文のみをほどこした単純な文様帶をもつ。（295－8）は口縁が弱く肥厚する土器で、内外面に横方向の巻貝条痕をもつ。（295－9・10）は関東地方に特徴的にみられる文様構成をもつ深鉢形土器の口縁部で、（295－9）は堀之内1式、（295－10）は堀之内2式～加曾利B1式に類似する。（295－11）は注口土器の胴部で、加曾利B1式の影響を受けた文様構成をもつ。北白川上層式3期に比定される。（295－12・13）は後期中葉に属す。（295－12）は注口土器で、一乗寺K式に比定される。（295－13）は波状を呈する深鉢形土器の口縁部で、元住吉山I式に比定される。（295－14）は深鉢形土器の胴部の小片で縄文土器型式は比定できないが、LRの撚りの縄文を施し、後期に属すと考えられる。（295－15・16）は後期後葉に属す。ともに宮滝1式に比定される深鉢形土器で、（295－15）は口縁部、（295－16）は胴部である。（295－17・18）は後期末に属す。ともに宮滝2式から滋賀里I式にみられる浅鉢形土器である。（295－19）は後期後葉にみられる深鉢形土器の口縁部から胴部で、内外面に巻貝条痕をもつ。

（296－20～30）は晩期前葉の土器群である。（296－20・21）は形態的な特徴から後期末までさかのぼる可能性もある。ともに深鉢形土器で、（296－20）は胴部片で巻貝条痕をもつ。（296－21）は口縁部から胴部で、口縁部外面の刻みをもつ。（296－22～30）は滋賀里II式に比定される。（296－22～25・27・29）は深鉢形土器である。（296－22）は内外面に横方向の二枚貝条痕をもつ。（296－23）は口縁部の内面に二条の沈線文をほどこす。（296－24）は外面に、二枚貝条痕の上に沈線による斜格子状の文様をもつ。（296－25・27）は口縁部がゆるく波状を

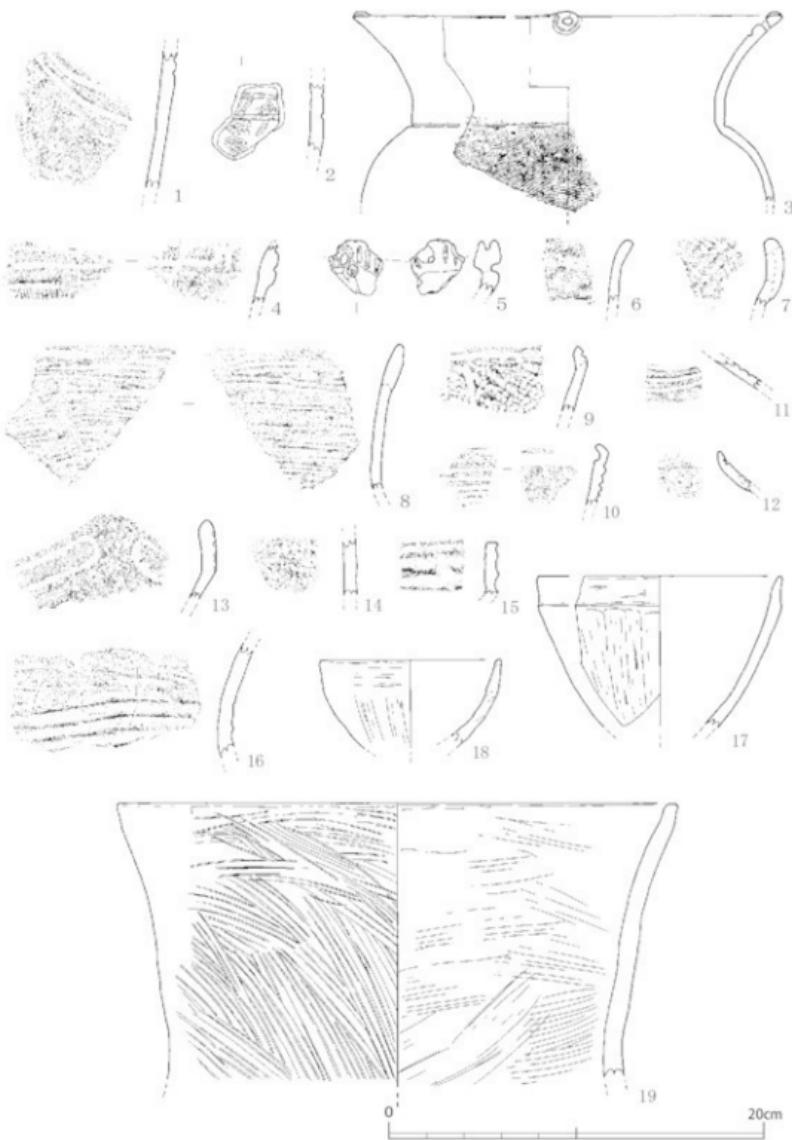


图 295 第 8 遗构面 遗构面上 出土土器 (1) (S. = 1/3)

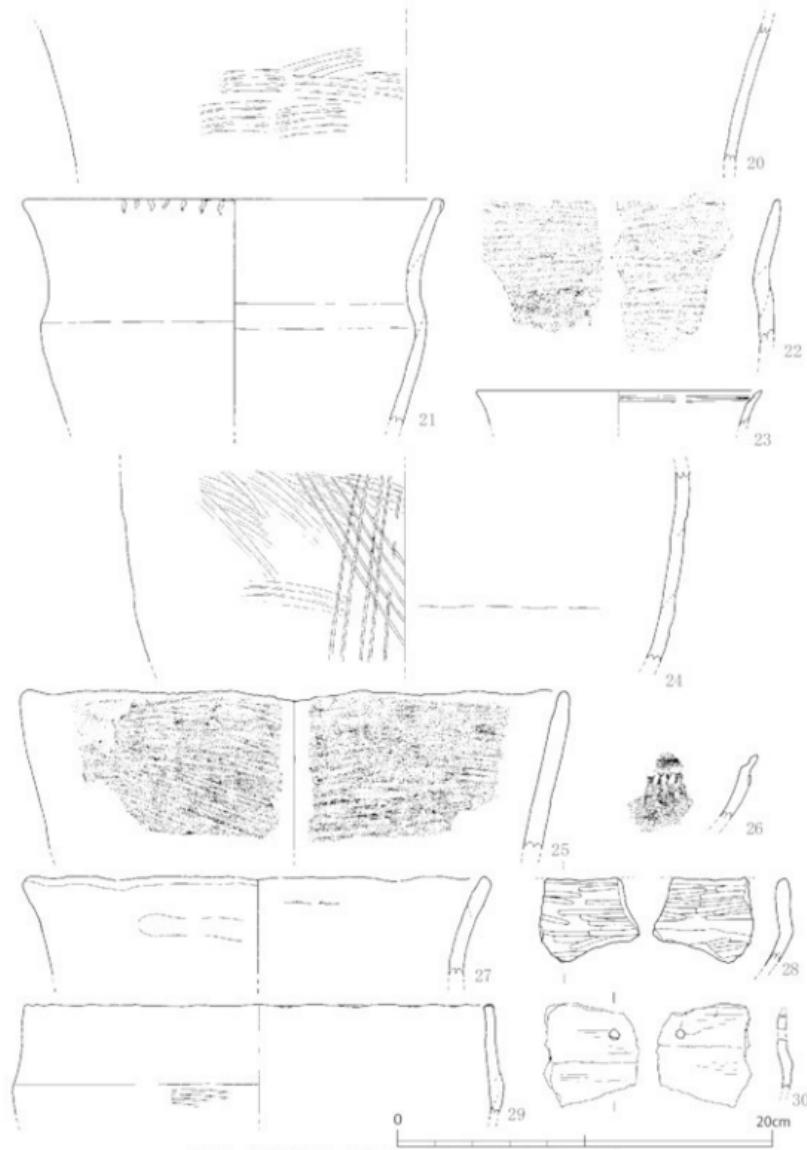


図 296 第8遺構面 遺構面上 出土器(2) (S. = 1/3)

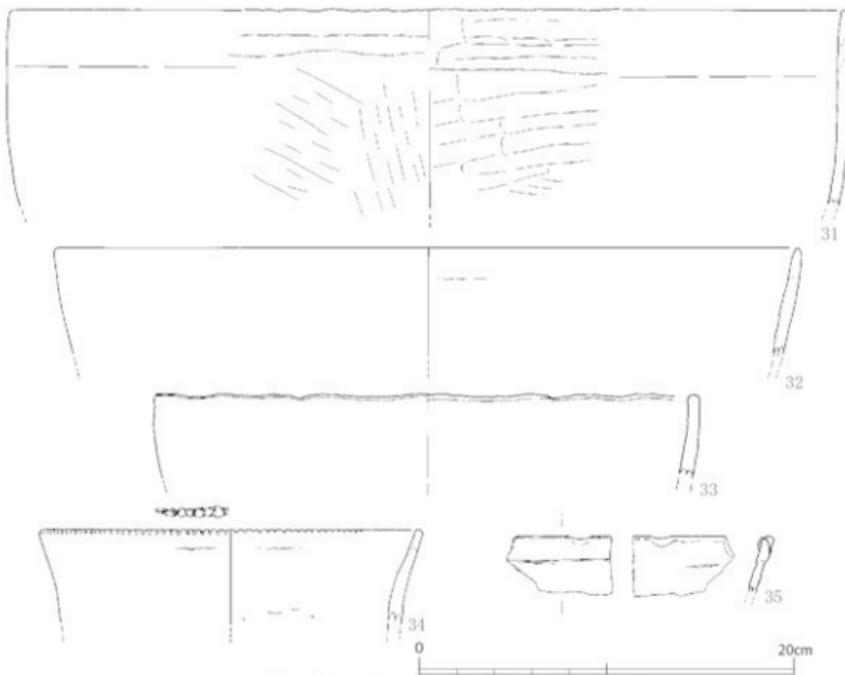


図297 第8遺構面 遺構面上 出土土器(3) (S. = 1/3)

呈する。(296-26・28・30)は浅鉢形土器である。(296-26)は胴部に刻み列をもつ。(296-28)は横方向のミガキ調整が顕著にのこる。(296-30)は(296-29)と同様な器形を呈し、小型の深鉢形土器の可能性もある。補修孔が見受けられる。

(297-31～35)は晩期中葉の土器群で、縞原式に比定される。(297-31～33)は砲弾状を呈する深鉢形土器で、ゆるく波状を呈する口縁をもつ。(297-31)は胴部外面にケズリ調整を残す。(297-34)は外反する口縁形態となる深鉢形土器で、口縁端部に刻みをもつ。(297-35)は浅鉢形土器で、口縁端部に指頭状の圧痕をもつ。

(298-36～306-100)は晩期後半の土器群である。図298から図304には凸帯文深鉢形土器を、図305・306には浅鉢形土器をまとめて掲載した。(298-36～44)は、口縁部の上端に面を形成し、刻みをほどこすもので、凸帯は上下を押さえて貼り付ける。凸帯上の刻み形状は、(298-36)は斜位方向のV字状、(298-37・39・41)はD字状、(298-38・40・43・44)はV字状、(298-42)はO字状をなす。これらは、いずれも凸帯文土器Ⅰ期の特徴をもつが、口縁部から胴部にかけての屈曲がよわく凸帯も扁平なものが多いことから、従来の凸帯文土器Ⅰ期

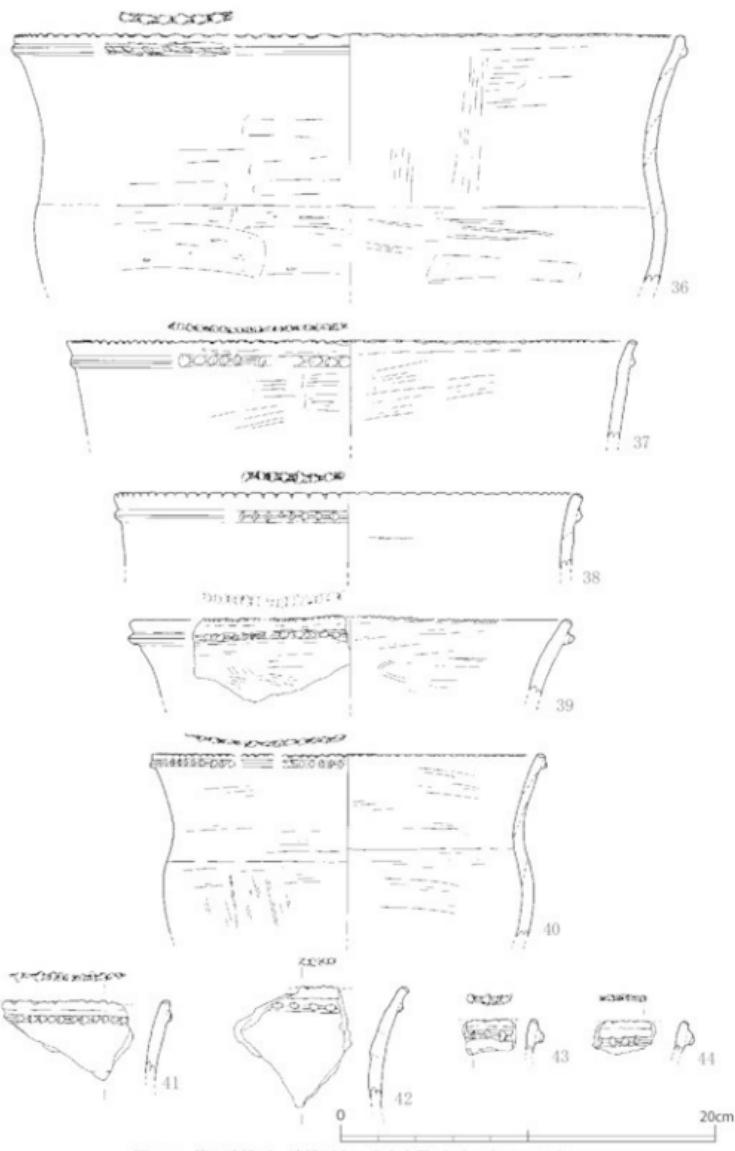


图 298 第8道構面 道構面上 出土土器 (4) (S. = 1/3)

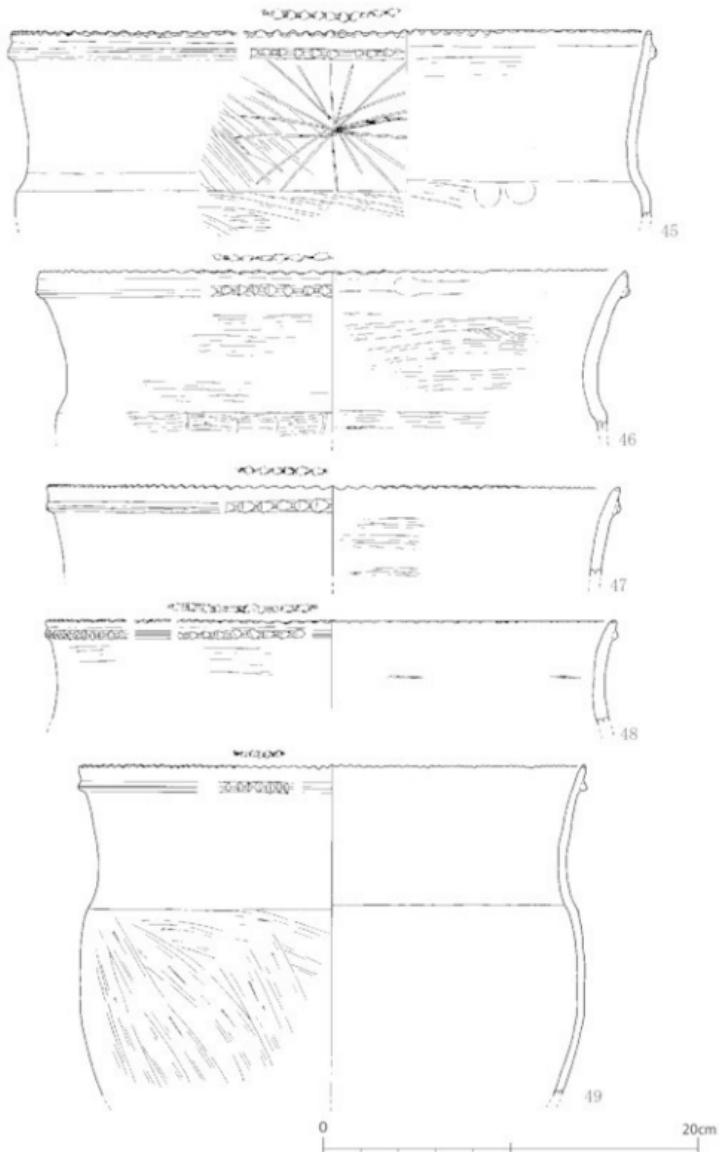


図299 第8遺構面 遺構面上 出土土器 (5) (S. = 1/3)

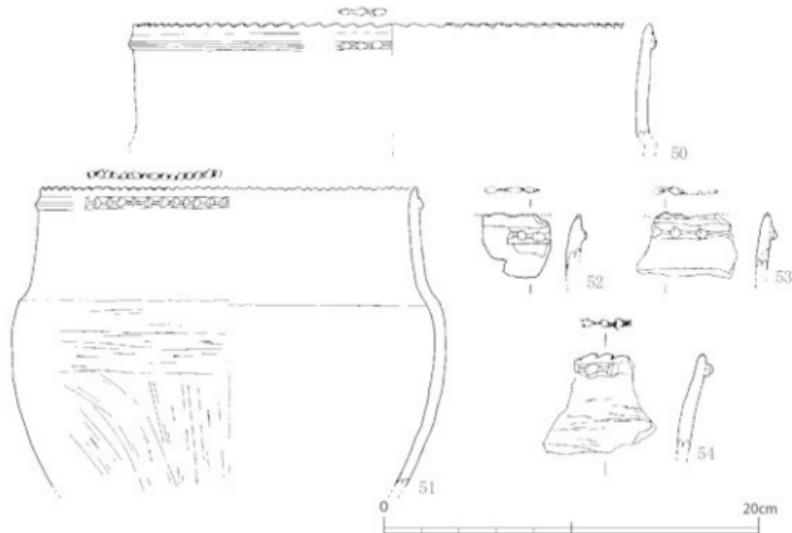


図300 第8遺構面 遺構面上 出出土器（6）（S. = 1/3）

の特徴からすると、型式学的に時期がくだる可能性が高い。ただし、凸帯文土器2期前半の典型ではない。ここでは時期的な断定を避けて、凸帯文土器1期から2期前半のものとしておきたい。こうした特徴をもつ凸帯文深鉢形土器が安定的に時期をもって存在するのか、その検証が今後の課題である。

(299 - 45 ~ 49) は、口縁部の上端にヨコナデの痕跡がなく、刻みをもつもので、凸帯は上下を押さえて貼り付ける。凸帯上の刻み形状は、(299 - 45・47・48) は D 字状、(299 - 46) は O 字状、(299 - 49) は V 字状をなす。(299 - 45) の外面、凸帯の直下には、沈線による放射状の文様が描出されており、土器の正面を意識させている。この種の文様に類似したものは、瀬戸内地域にみられる。これらは凸帯文土器2期前半の典型的な特徴をもつ一群である。

(300 - 50 ~ 54) は (299 - 45 ~ 49) と同じく、凸帯文土器2期前半の典型的な特徴をもつものであるが、口縁が立ち上がる形態をなす。こうした特徴は、つづく凸帯文土器2期後半に近い。また、(301 - 55 ~ 303 - 65) は口縁部の上端にヨコナデの痕跡がなく、刻みをもたないもので、凸帯文2期後半の特徴をもつ。しかしながら幅広で高さをもつ凸帯を貼り付けており、胴部凸帯はみられないことから、凸帯文土器2期前半の特徴をもつ。凸帯文土器2期の凸帯文深鉢形土器を、前半と後半に明確に分けられるかは、いまだ議論が残るところである。したがって、図300～図303に示した凸帯文深鉢形土器は、凸帯文土器2期として捉えておく。これらも図298の土器群と同様に、安定的な時期をもつのか、その検証が今後の課題である。

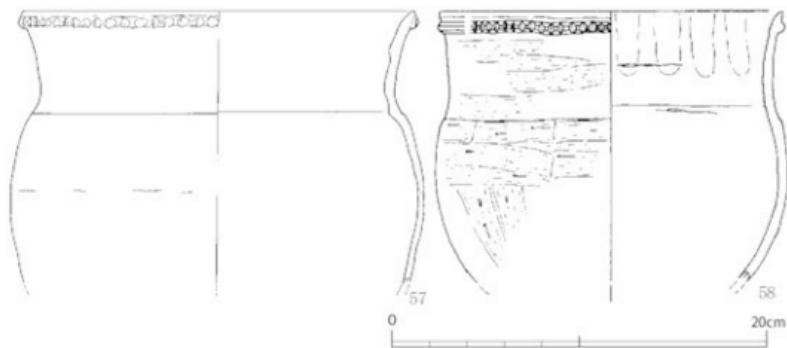
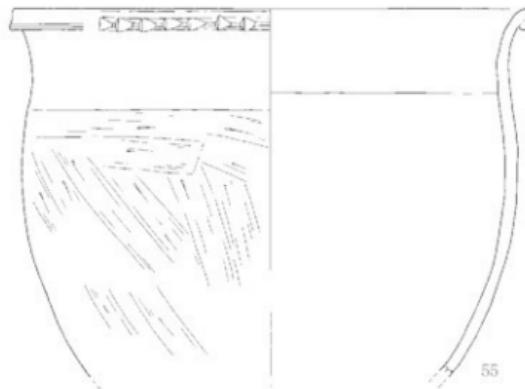
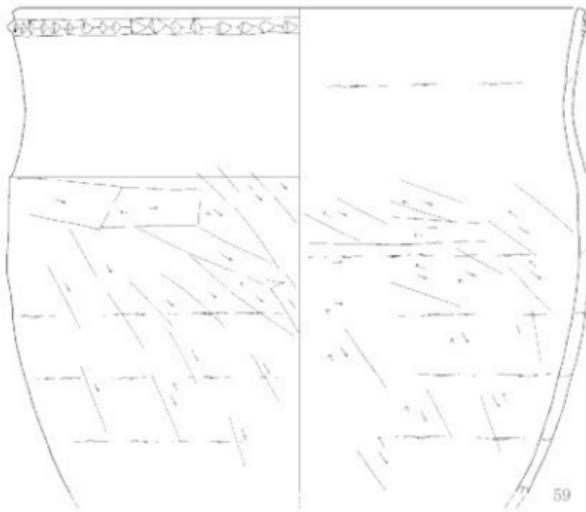


図301 第8遺構面 遺構面上 出土土器 (7) (S. = 1/3)



59



60



図302 第8遺構面 遺構面上 出土土器 (8) (S.=1/3)

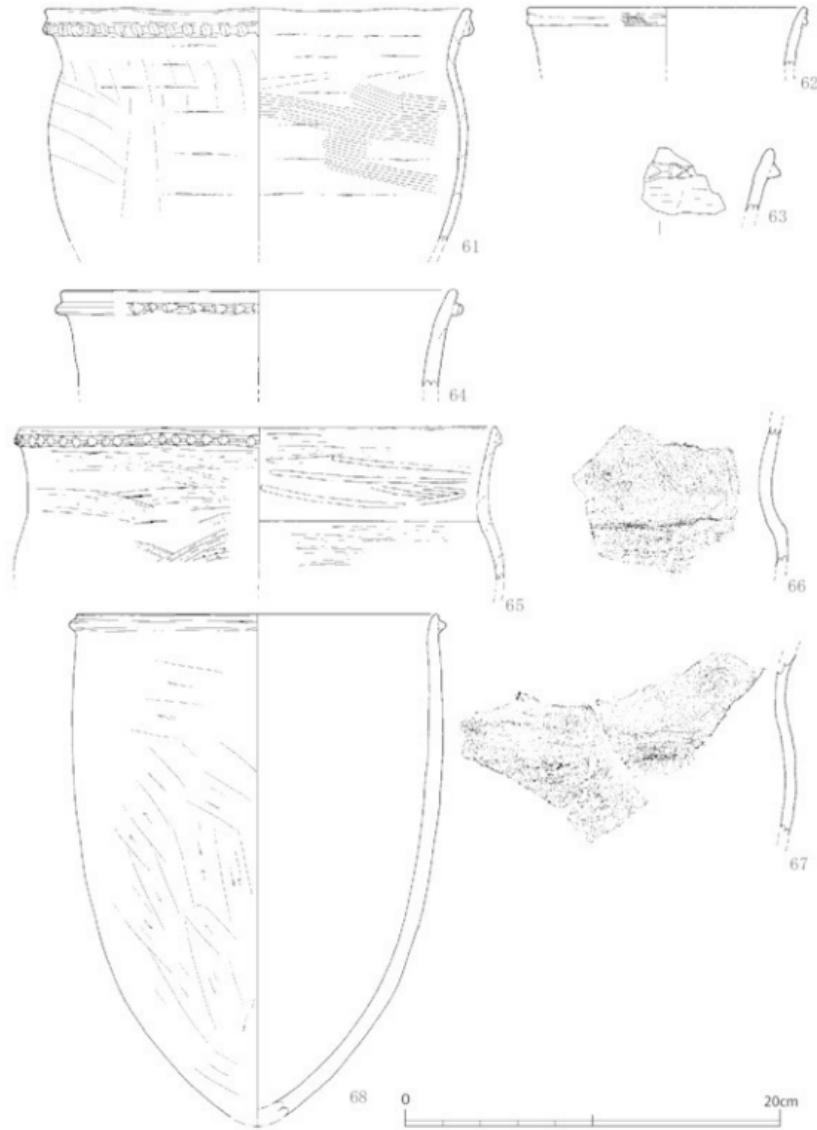


图303 第8号遺構面 遺構面上 出土土器(9) (S. = 1/3)

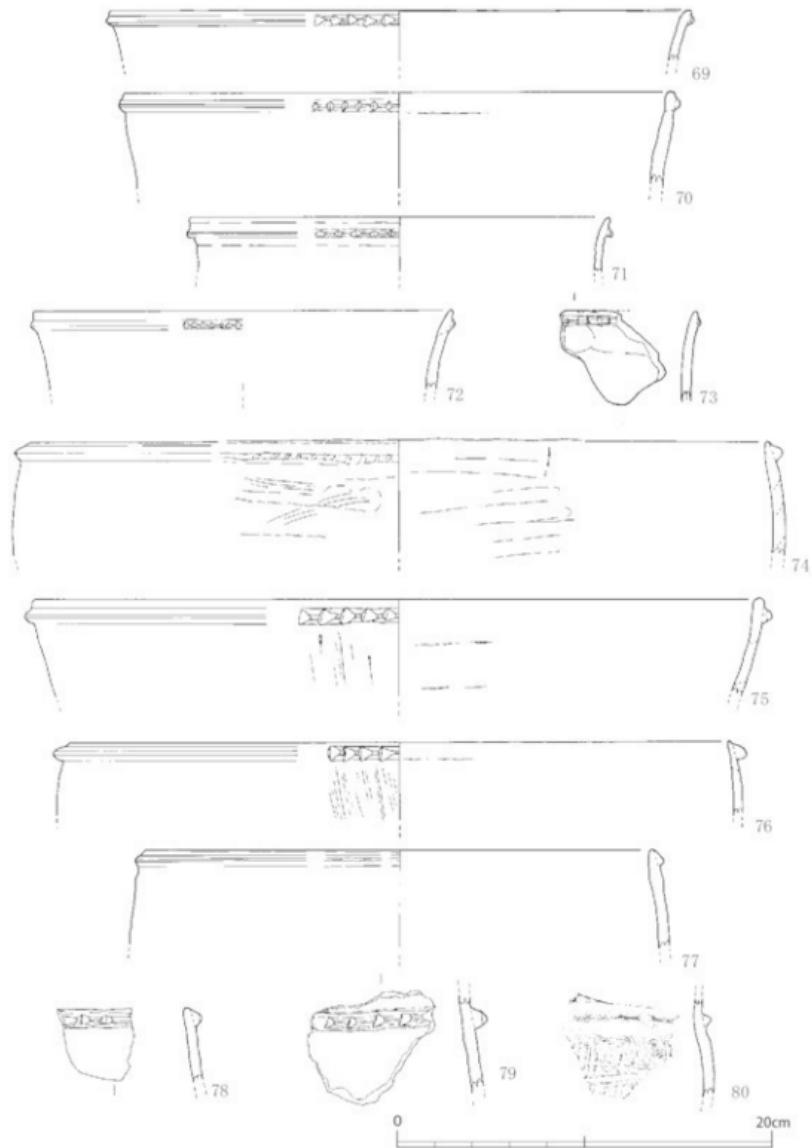


図304 第8遺構面 遺構面上 出土土器(10) (S. = 1/3)

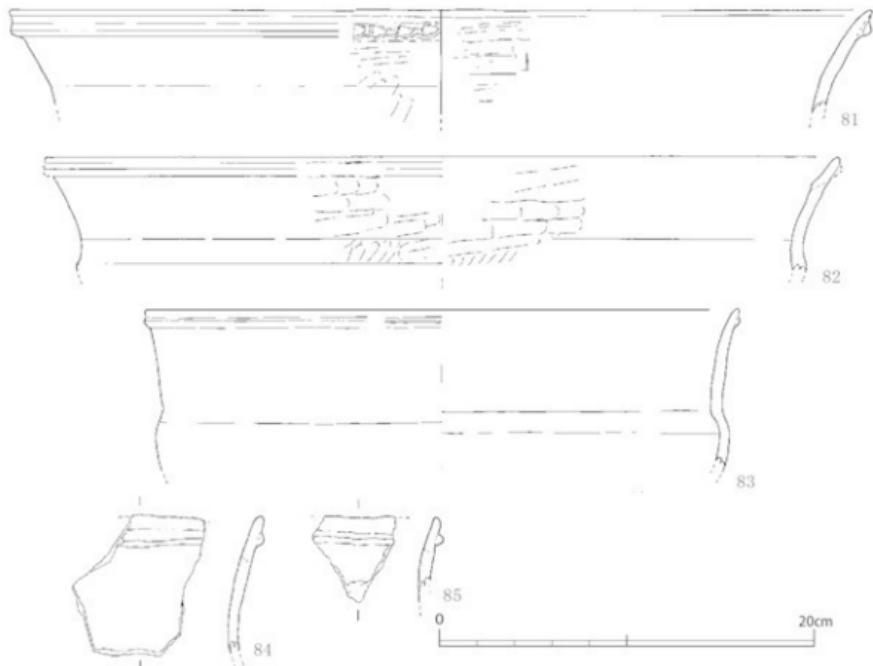


図305 第8遺構面 遺構面上 出土土器(11) (S. = 1/3)

(303 - 66・67)は、凸帯文深鉢形土器の胴部片である。口縁部と胴部の境をヨコナデしており、凸帯文土器2期前半の特徴を示す。(303 - 68)は砲弾状をなす凸帯文深鉢形土器である。凸帯文土器2期から3期までみられる器形であるが、底部が丸底を呈するため、凸帯文土器2期前半に比定できると判断する。

(304 - 69 ~ 73)は、凸帯文土器2期後半に比定される凸帯文深鉢形土器である。ゆるく外反した口縁をもち、口縁直下に、上下から押さえて凸帯を貼り付けることを特徴とする。凸帯下部の貼り付けが弱く、一部に剥離も認められる。このうち、(304 - 72・73)は凸帯が小ぶりで、高さもないため、凸帯文土器3期までくだる可能性もある。

(304 - 74 ~ 78)は凸帯文土器3期に比定される凸帯文深鉢形土器である。内彎した口縁をもち、口縁に沿うか、口縁直下の位置で、凸帯上部を押しつけて貼り付けており、口縁端部と凸帯が一体化していることを特徴とする。(304 - 79・80)は凸帯文深鉢形土器の胴部片である。ともに胴部の屈曲が弱く、断面が横向き三角形状となる凸帯を貼り付ける。凸帯文土器3期に比定される。

(305 - 81 ~ 306 - 92)は、凸帯文土器2期前半を特徴づける凸帯文浅鉢形土器である。(305

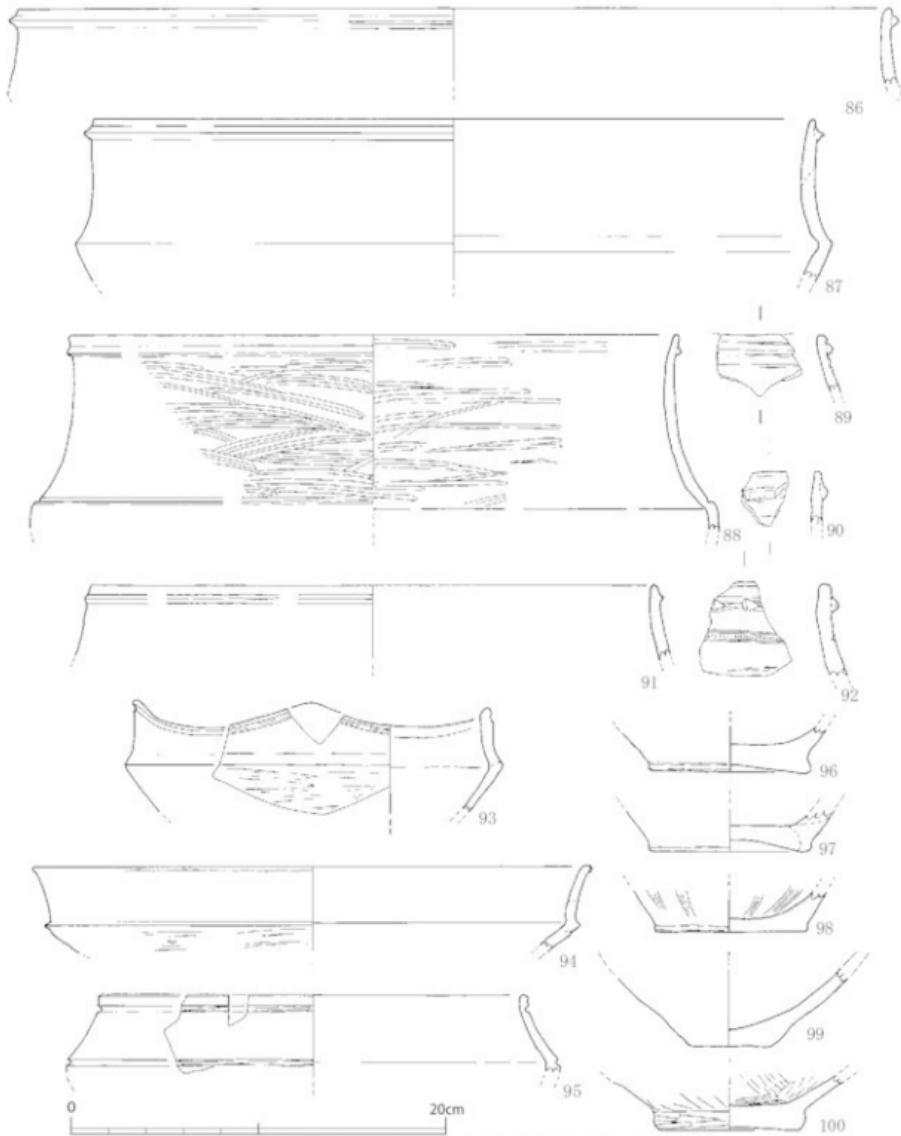


図 306 第 8 遺構面 遺構面上 出土土器 (12) (S. = 1/3)

— 81～85) は口縁が外反する。(305—81) は凸帯上に D 字を連続上に刻み、凸帯文土器 2 期後半にみられる凸帯上の刻みの施文方法に類似するため、少し時期がくだる可能性がある。(306—86～92) は口縁が内傾ぎみに立ち上がる形態をなす。(306—88) は屈曲部に一条の沈線をひく。(306—92) は凸帯の下部に二条の沈線をひき、その間を刺突列で充填する。(306—93～95) は凸帯をもたない浅鉢形土器である。(306—93) は波状を呈する口縁をもち、口縁外面に沈線を一条ほどこす。晩期中葉から発達をみせ、凸帯文土器 2 期前半で終焉する波状方形黒色磨研浅鉢の系統をひくものと考えられる。(306—94) は口縁端部を外面へつまみ出している。ともに凸帯文土器 2 期前半に比定できる。(306—95) は口縁部と屈曲部に、それぞれ沈線を一条ひくもので、凸帯文土器 2 期後半に比定できる。(306—96～100) は底部である。(306—96・97) は凹底をなす深鉢形土器の底部であり、後期に属す。(306—98) は平底をなす深鉢形土器の底部で、卷貝による調整痕と形態的な特徴から、晩期前半に位置づける。(306—99) は凸帯文深鉢形土器の底部で、凸帯文土器 2 期後半から 3 期のあいだの時期のものである。(306—100) は浅鉢形土器の底部で、晩期に属す。

#### ②建物・ピット群出土土器 (307—1・2)

建物・ピット群は、北区全域で検出されているが、遺構より出土している土器は細片が大半である。このうち、建物 4 にともなうピット 437 から出土した(307—1) と、建物 2 の焼土 1 から出土した(307—2) のみ図化できた。

(307—1) は凸帯文深鉢形土器で、口縁部の上端に面を形成し、刻みをほどこすもので、凸帯文土器 1 期の特徴をもつが、凸帯の幅が狭く、口縁部から胴部にかけての屈曲がよわいため、型式学的に時期がくだる可能性が高い。図 298 と同じく凸帯文土器 1 期から 2 期前半のあいだの時期で捉えておく。

(307—2) は、晩期中葉に属す浅鉢形土器の口縁部である。口縁小片のみのため、縄文土器型式は比定できない。

#### ③焼土出土土器 (307—3～15)

何らかの活動痕跡を示す焼土は、北 1 区と北 2 区で、7 か所検出されている。このうち、建物にともなわないものは、焼土 3～7 の 5 か所である。これらの焼土の時期は、出土土器の特徴から、いずれも凸帯文土器 2 期前半に比定できる。

(307—3) は焼土 3 から出土した凸帯文浅鉢形土器の口縁部である。

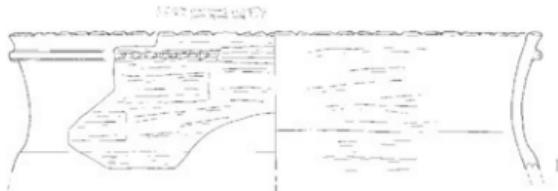
(307—4～8) は焼土 4 から出土した。(307—4) は凸帯文深鉢形土器の口縁部、(307—5～8) は凸帯文浅鉢形土器の口縁部である。(307—8) は凸帯上に刻みをもたない。

(307—9) は焼土 5 から出土した凸帯文浅鉢形土器の口縁部である。

(307—10～14) は焼土 6 から出土した。(307—10) は凸帯文深鉢形土器の口縁部、(307—11・12) は凸帯文浅鉢形土器の口縁部、13 と 14 は椀状を呈する浅鉢形土器である。

建物 4

(ピット 437)



建物 2

(焼土 1)



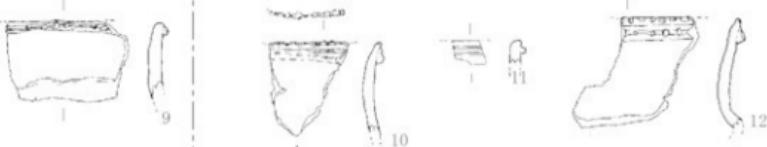
焼土 3



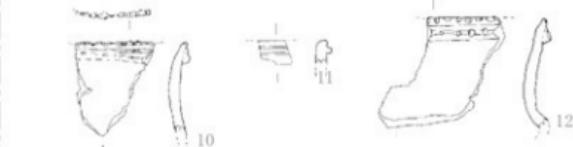
焼土 4



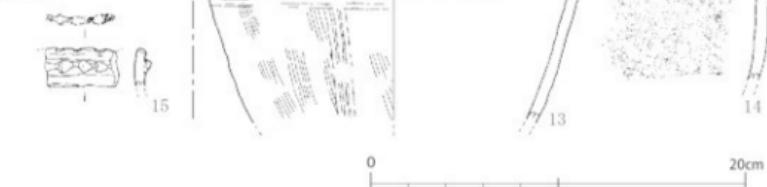
焼土 5



焼土 6 周辺



焼土 7



0

20cm

図 307 第 8 遺構面 建物・焼土 出土土器 (S. = 1/3)

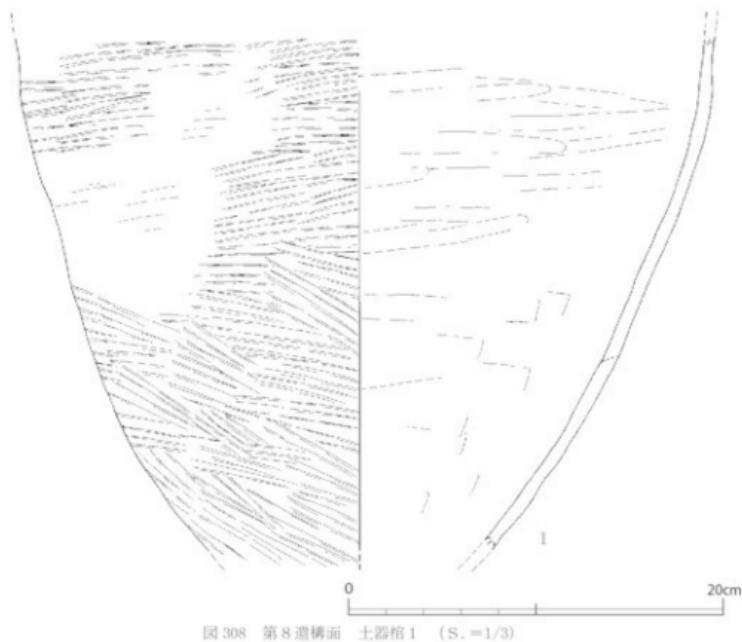


図 308 第 8 遺構面 土器棺 1 (S. = 1/3)

(307-15) は焼土 7 から出土した凸帯文浅鉢形土器の口縁部である。

#### ④土器棺 (308-1~328-25)

土器棺は、北 2 区と北 3 区で 21 基が出土した。出土は北 2 区から 10 基（土器棺 1 ~ 10）、北 3 区から 11 基（土器棺 11 ~ 21）、である。土器棺墓の時期は、土器棺 1 が後期末から晩期初頭に位置づけられるほかは、いずれの土器棺も凸帯文土器 2 期の特徴を示し、土器棺墓はこの時期に集中的に形成されたと考えられる。また土器棺は、基本的に水平に近い斜位で、土坑に埋設されて土器棺墓をなす。基本的に単独の深鉢形土器が利用されているが、4 基（土器棺 5・7・10・12）は、検出状況から、身となる深鉢形土器の上方に、別の浅鉢形土器および深鉢形土器を蓋とするよう、口縁を合わせて埋設されていたと考えられる。

(308-1) は土器棺 1。墓坑が焼土 3 と重なっており、焼土 3 で取り上げた破片と接合している。深鉢形土器で、胴部のみ残存し、外面に横方向を基調とした巻貝調整が顕著に残る。後期末～晩期初頭に位置づけられる。

(309-2) は土器棺 2。深鉢形土器で、口縁部から底部まで残存している。口縁部と胴部の境に明瞭な段をもつ。形態は、胴部からいったん内に入った後、ほぼ垂直に立ち上がる口縁にいたる。

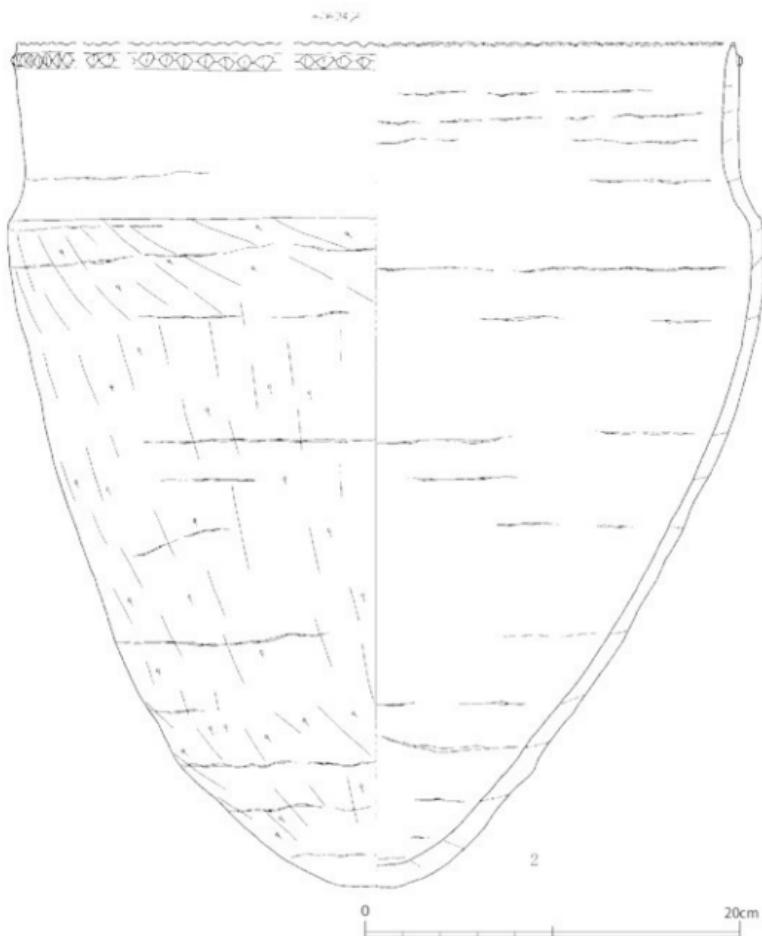


図 309 第8構造面 土器棺 2 (S. = 1/3)

口唇部上の刻みはO字状を呈する。凸帶は上下を押さえて、貼り付ける。凸帶上は深いD字状の刻みをほどこす。外面調整は、口縁部をユビナデ後ヨコナデ、口縁部と胴部の境をヨコユビナデ、胴部をタテケズリで整える。内面調整はヨコナデがおもである。底部は丸底を呈する。調理具としての使用痕跡が認められず、土器棺用に製作された可能性がある。口径約37.8cm、器高42.6cm。

(310-3) は土器棺3。焼土2を切る形で検出されている。深鉢形土器で、口縁部から底部まで残存する。口縁部と胴部の境に段をもつが、不明瞭である。口縁は外反気味に立ち上がる形態を

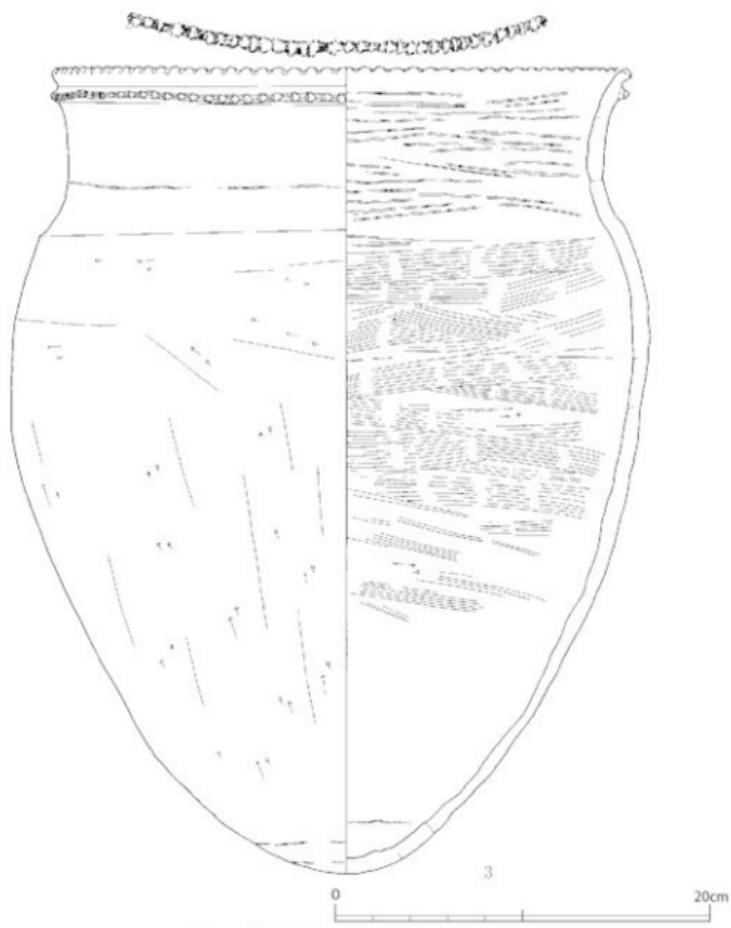


図310 第8遺構面 土器棺3 (S. = 1/3)

なす。口唇部上は逆D字状の刻みをほどこす。凸帯は上下を押さえて貼り付け、凸帯上にD字状の刻みをつける。外面調整は、口縁部をヨコナデ、口縁部と胴部の境をヨコケズリ、胴部をタテケズリで整える。内面調整はおもにケズリ気味のヨコナデ、外面にスス・コゲの付着が顯著である。口径約34.4cm、器高43.2cm。

(311-4)は土器棺4。深鉢形土器で、口縁部から胴部まで残存している。口縁部と胴部の境に明瞭な段をもつ。形態は、胴部からいったん内に入った後、ほぼ垂直に立ち上がる口縁にいたる。



図311 第8遺構面 土器棺4 (S. = 1/3)

口唇部上の刻みはO字状を呈する。凸帯は上下を押さえて貼り付け、連続した指頭状押捺痕が認められるが、一部剥離がみられ、貼り付けが弱い。凸帯の上下に刻みがあり、上部は右下がりのO字状刻み、下部は左下がりのO字状刻みをほどこす。外面調整は、口縁部をヨコナデ、口縁部と胴部の境をヨコケズリ、胴部をタテケズリで整える。内面調整は口縁部をヨコナデ、胴部をタテナデで整える。口径約28.0cm。

(312-5・313-6)は土器棺5。土器棺5は、南北方向に横位で埋置された(313-6)の上に、(312-5)が東西方向に横位で重なっていた。

(312-5)は深鉢形土器で、口縁部から胴部上半まで残存している。口縁部と胴部の境に段をもたず、胴部が大きく張りだし、いったん内轉したのち外反して口縁に至る。口唇部上は逆D字状



図 312 第 8 遺構面 土器棺 5-1 (S. = 1/3)

の刻みをほどこす。凸帯は上下を押さえて貼り付け、凸带上は浅いD字状の刻みをつける。外面調整は、口縁部をヨコナデ、口縁部と胴部の境をユビナデ、胴部をヨコケズリで整える。内面調整はヨコナデがおもである。口径約36.0cm。

(313-6)は深鉢形土器で、口縁部から底部まで残存している。口縁部と胴部の境に段をもつが不明瞭である。形態は、内彎した胴部から、外反気味に立ち上がる口縁にいたる。口唇部上はD字状の刻みをほどこす。凸帯は上下を押さえて貼り付け、連続した指頭状押捺痕が認められるが、一部に剥離がみられ貼り付けが弱い。凸帶の上下に刻みがあり、上部は右下がりのO字状刻み、下部は左下がりのO字状刻みをほどこす。外面調整は、口縁部をヨコナデ、口縁部と胴部の境は明瞭ではなく、胴部をタテケズリで整える。内面調整はおもにヨコナデ、外面のスス・コゲの付着が顕著である。口径約36.2cm、器高43.2cm。

(314-7)は土器棺6。深鉢形土器で、口縁部から底部まで残存している。口縁部と胴部の境に段をもつが、不明瞭である。形態は、内彎した胴部から垂直気味に立ち上がる口縁にいたる。口唇部上は竹管状の工具による刻みをほどこす。凸帯は上下を押さえて貼り付けるが、一部剥離がみられ貼り付けが弱い。凸帶上には右下がりの刻みをほどこす。外面調整は、口縁部をヨコナデ、口縁部と胴部の境をユビナデ、胴部をタテケズリで整える。内面調整はおもにヨコナデ、内外面のスス・コゲの付着が顕著である。また内部底面に、赤色顔料が付着している。口径約32.0cm、器高34.2cm。

(315-8・316-9)は土器棺7。土器棺7は、東西方向に西を下にして、蓋(315-8)と身(316-9)が口縁を合わせるように埋置されていた。

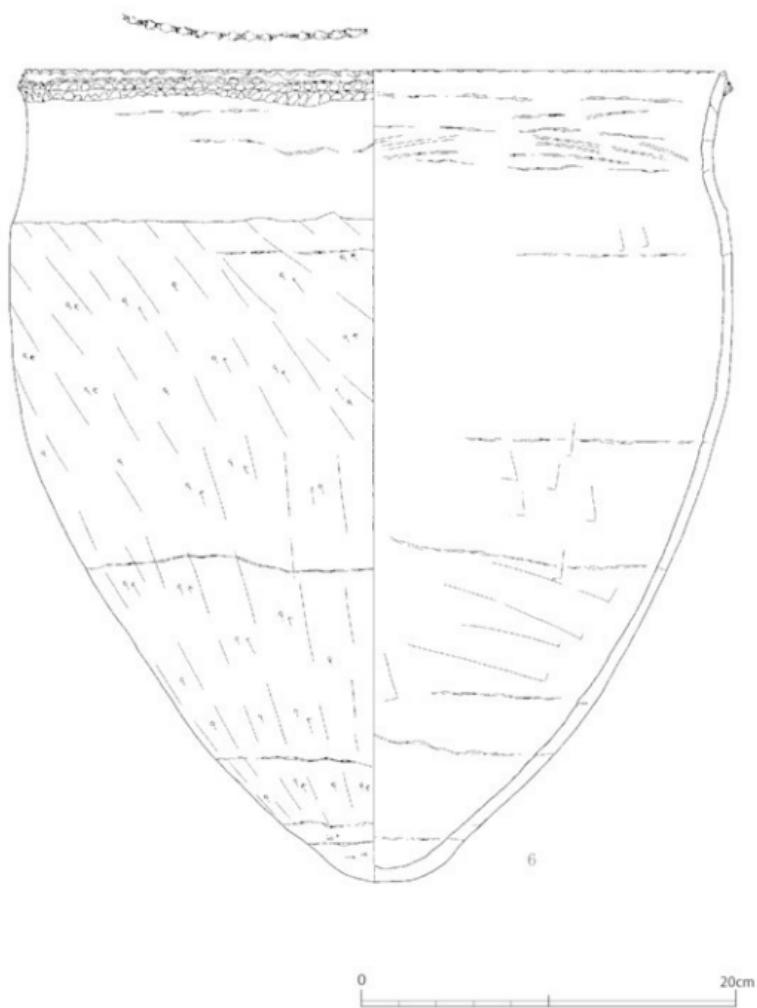


図313 第8遺構面 土器棺5-2 (S. = 1/3)

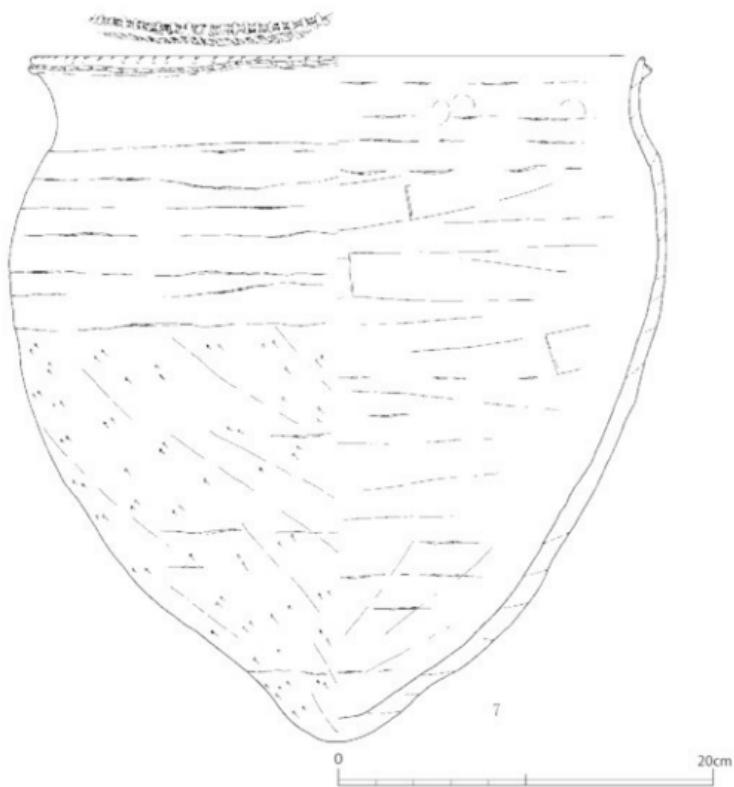


図314 第8遺構面 土器植6 (S. = 1/3)

(315-8) は深鉢形土器で、口縁部から底部まで残存するが、底面が打ち欠かれている。口縁部と胴部の境に、段をもつが不明瞭である。形態は、内側した胴部から外反ぎみに立ち上がる口縁にいたる。口唇部上は面調整をしたのちV字状を刻む。凸帶は上下を押さえて貼り付け、凸帶下部には強いヨコナデ痕が残る。凸帶上は連続的なD字状の刻みをほどこす。外面調整は、口縁部をヨコナデ、口縁部と胴部の境を不明瞭なヨコケズリ、胴部をタテケズリで整える。内面調整はおもにヨコナデ、内外面のスス・コゲの付着が顕著である。口径約24.7cm、推定器高37.8cm。

(316-9) は深鉢形土器で、口縁部から底部まで残存するが、底面が打ち欠かれている。口縁部と胴部の境に段をもたず、大きく張りだした胴部が内側したのち、外反して口縁に至る。口唇部上は面調整をしたのち、D字状を狭い間隔で連続的に刻む。凸帶は上下を押さえて貼り付けるが、下部の貼り付けが弱い。凸帶上にも口唇部と同じく連続的なD字状の刻みをほどこす。外面調整は、

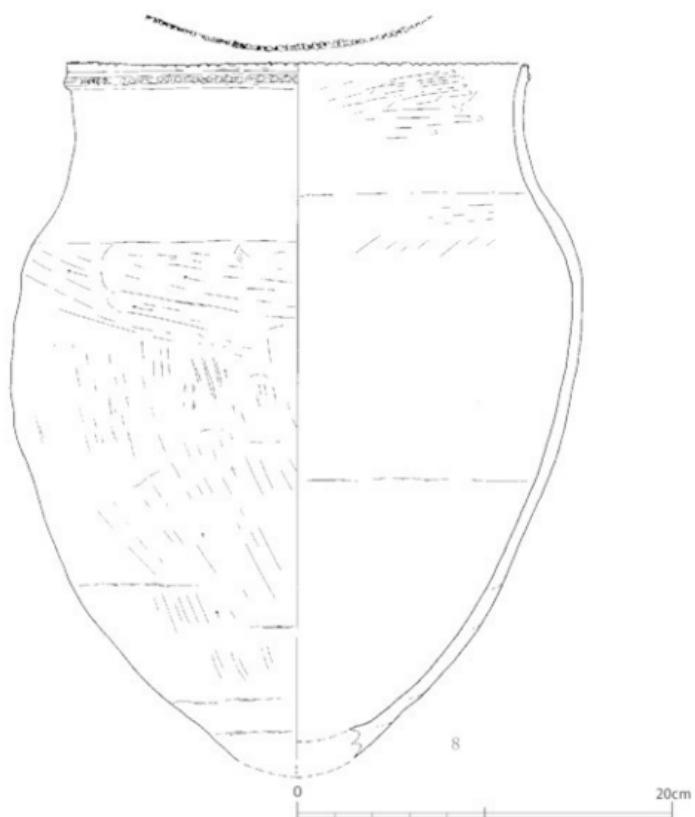


図315 第8遺構面 土器棺7-1 (S. = 1/3)

口縁部をヨコナデ、口縁部と胴部の境をヨコケズリ、胴部をタテケズリで整える。内面調整はヨコナデがおもである、口径約34.4cm、推定器高44.7cm。

(317-10)は土器棺8。深鉢形土器で、口縁部から底部まで残存している。口縁部と胴部の境に段をもつが、不明瞭である。内縁した胴部から外反ぎみに立ち上がる口縁にいたる。口唇部上はD字状を挟い間隔で、連続的に刻む。凸帯は上下を押さえて貼り付けるが、下部の貼り付けが弱い。凸帯上にも口唇部と同じく連続的なD字状の刻みをほどこす。外面調整は、口縁部をヨコナデ、口縁部と胴部の境をヨコケズリ、胴部をタテケズリで整える。内面調整はヨコナデがおもである、口径約37.2cm、器高42.6cm。

(318-11)は土器棺9。深鉢形土器で、口縁部から胴部まで残存している。口縁部と胴部の

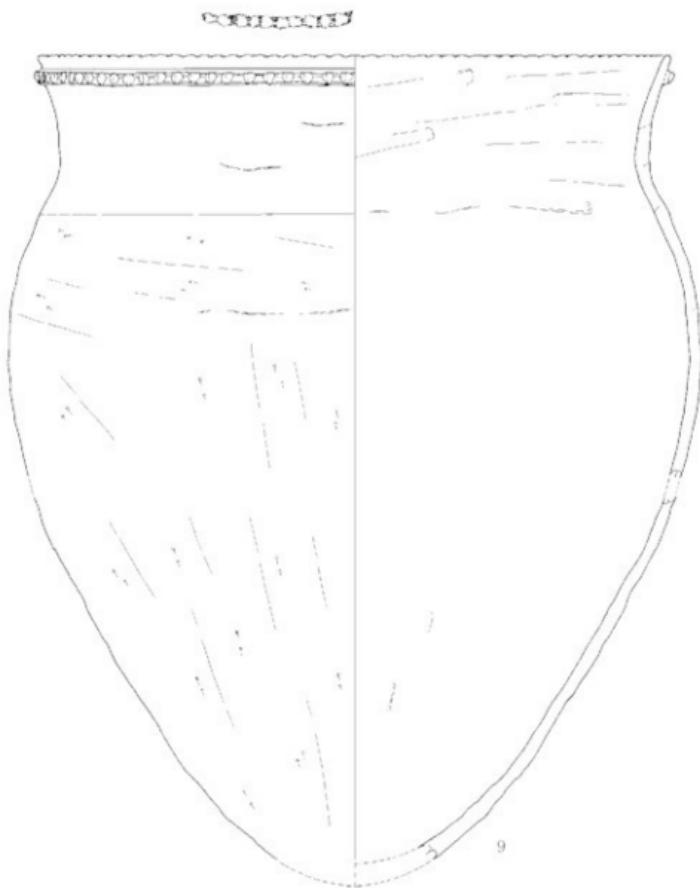


図 316 第 8 遺構面 土器棺 7-2 (S. = 1/3)

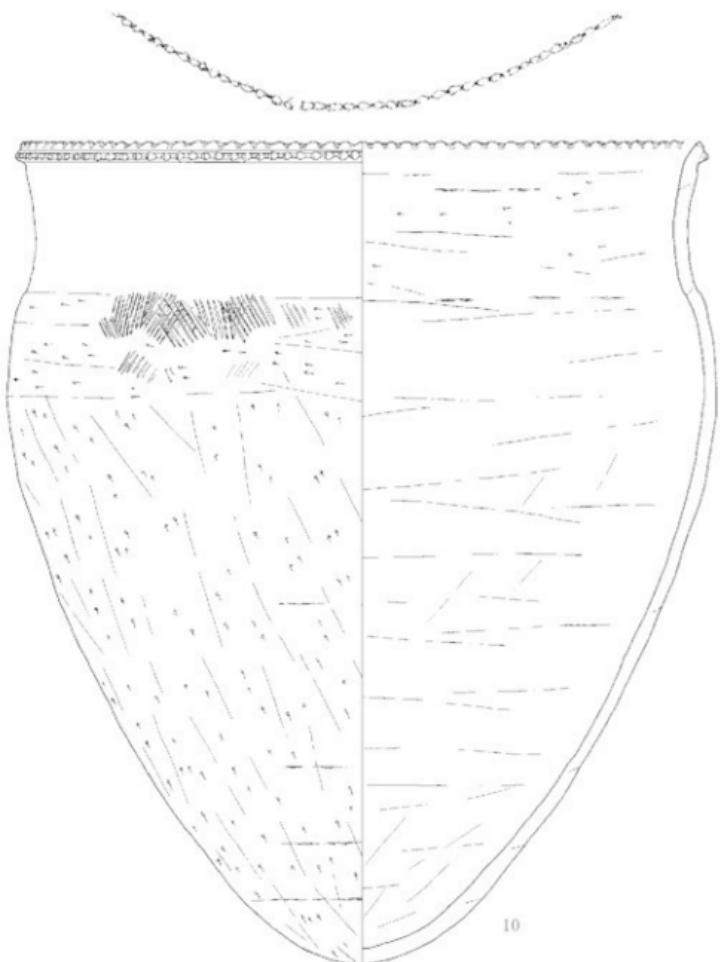


图317 第8遺構面 土器塗8 (S. = 1/3)

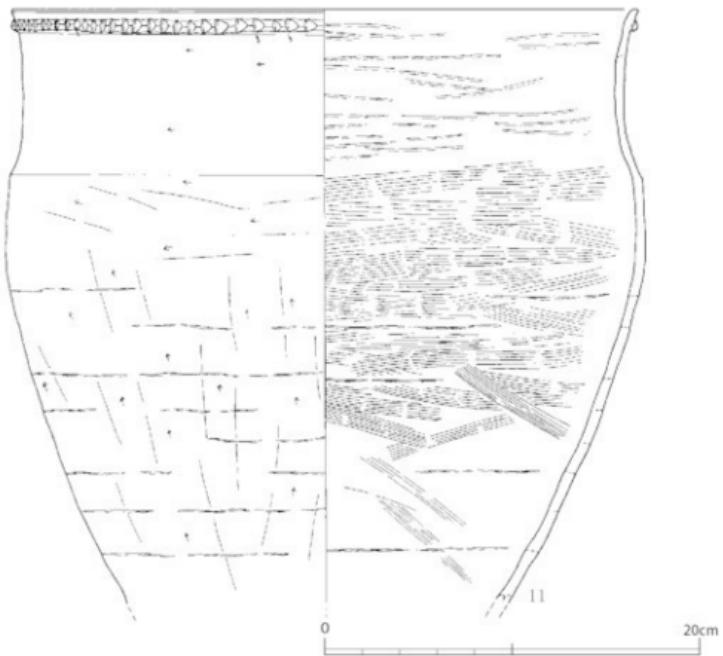


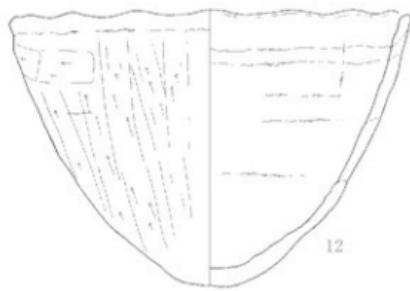
図318 第8遺構面 土器棺9 (S, =1/3)

境に段をもつ。形態は胴部からいったん内に入った後、立ち上がる口縁にいたる。口唇部上に刻みではなく、弱いヨコナデをほどこす。凸帯は上下を押さえて貼り付けるが、一部剥離がみられ、貼り付けが弱い。凸帯上は深いD字状の刻みをほどこし、凸帯の貼り付けをかねている。外面調整は、口縁部をヨコナデ、口縁部と胴部の境をヨコケズリ、胴部をタテケズリで整える。内面調整はヨコナデがおもである。口径約30.6cm。

(319-12・13)は土器棺10。土器棺10は横位で北西を下にして、蓋(319-12)と身(319-13)が口縁を合わせるように埋置されていた。

(319-12)は、砲弾状を呈する浅鉢形土器である。口縁部から底部まで残存する。口縁は波状をなす。調整は外面をタテケズリで整え、内面にはヨコ方向の条痕が残る。口径約21.6cm、器高14.6cm。この土器の埋土からは、人骨が出土している。パリノサーベイ分析の結果では、ヒトの右下顎1/2大臼歯の歯冠部での破片で、幼児～小児程度とされる。

(319-13)は深鉢形土器である。口縁部から底部まで残存するが、底面が打ち欠かれている。形態は、胴部の上半が内傾して、そのまま口縁に至る。北部九州地域の山ノ寺式で主体的にみられ



0 20cm

図319 第8遺構面 土器柵10 (S. = 1/3)

る形態に類似する。口唇部は無刻みで、口縁端部の調整は粗雑である。凸帯は上下を押さえて貼り付け、凸帯上に刻みはもたない。外面調整は、口縁部をヨコナデ、胴部をタテケズリで整える。内面はヨコナデがおもである。口径約 25.6cm、推定器高 26.8cm。

(320-14) は土器棺 11。深鉢形土器で、口縁部から底部まで残存しているが底面が打ち欠かれている。口縁部と胴部の境に明瞭な段をもち、区画をなす。形態は、胴部からいったん内に入った後、口縁がやや内傾ぎみに立ち上がる。口唇部上には、楕円状の刻みを狭い間隔で連続的に刻む。凸帯は上下を押さえて貼り付ける。凸帯上の刻みは D 字状を呈し、深く刻む結果、凸帯下部が波状を呈する。外面調整は、口縁部をヨコナデ、口縁部と胴部の境をヨコケズリ、胴部をタテケズリで整える。内面調整はヨコナデがおもである。口径約 38.2cm、推定器高 50.8cm。

(321-15・16) は土器棺 12。土器棺 12 は、(321-15) と (321-16) の口縁部を向かい合わせて、(321-16) の内側に入り込むように (321-15) が置かれた状況で検出された。

(321-15) は深鉢形土器で、口縁部から胴部まで残存している。口縁部と胴部の境に段をもたず、胴部は球胴形を呈する。口縁はゆるやかに外反する形態を呈する。口唇部上の刻みはない。凸帯は上下を押さえて貼り付けるが、一部に剥離がみられ、押さえが弱い。凸帯上に繩状の圧痕をほどこし、さらに凸帯下部に爪形状の刺突列をめぐらせる。外面調整は、口縁部をヨコ方向の二枚貝条痕、口縁部と胴部の境をヨコケズリ、胴部をタテケズリで整える。内面調整はヨコ方向の二枚貝条痕がおもである。この凸帯上の施文や器面調整の特徴をもった土器は、報告例は少ないが、奈良県南部～三重県山間部に分布すると考えられる。口径約 22.0cm。

(321-16) は深鉢形土器で、胴部から底部のみが残存する。外面調整は、口縁部と胴部の境をヨコケズリ、胴部をタテケズリで整える。内面調整はヨコナデがおもである。丸底を呈する。

(322-17) は土器棺 13。深鉢形土器で、口縁部から胴部まで残存している。口縁部と胴部の境に段をもつが、不明瞭である。形態は、胴部からいったん内に入った後、外反する口縁にいたる。口唇部上には D 字状の刻みをもつ。凸帯は上下を押さえて貼り付けるが、下の押さえが弱い。凸帯上の刻みは D 字状を呈し、深く刻む。外面調整は、口縁部をタテナデ後ヨコナデ、口縁部と胴部の境をヨコケズリ、胴部を左上がりのケズリで整える。内面調整はヨコナデがおもで、胴部上半につよいナデ痕が残る。口径約 32.0cm。

(323-18) は土器棺 14。深鉢形土器で、口縁部から底部まで残存している。口縁部と胴部の境に明瞭な段をもち、区画をなす。形態は胴部からいったん内に入った後、外反ぎみに立ち上がる口縁にいたる。口唇部上には D 字状の刻みをもつ。凸帯は上下を押さえて貼り付け、さらに凸帯下部をヨコナデすることで、凸帯が下向き三角形状の断面形状を呈する。凸帯上は D 字状の刻みをもつ。外面調整は、口縁部をヨコナデ、口縁部と胴部の境をヨコケズリ、胴部をタテケズリで整える。内面調整は、口縁部に顕著なヨコナデが認められ、それ以下は左上がりのナデ調整をする。底部は丸底を呈する。口径約 39.4cm、器高 46.7cm。

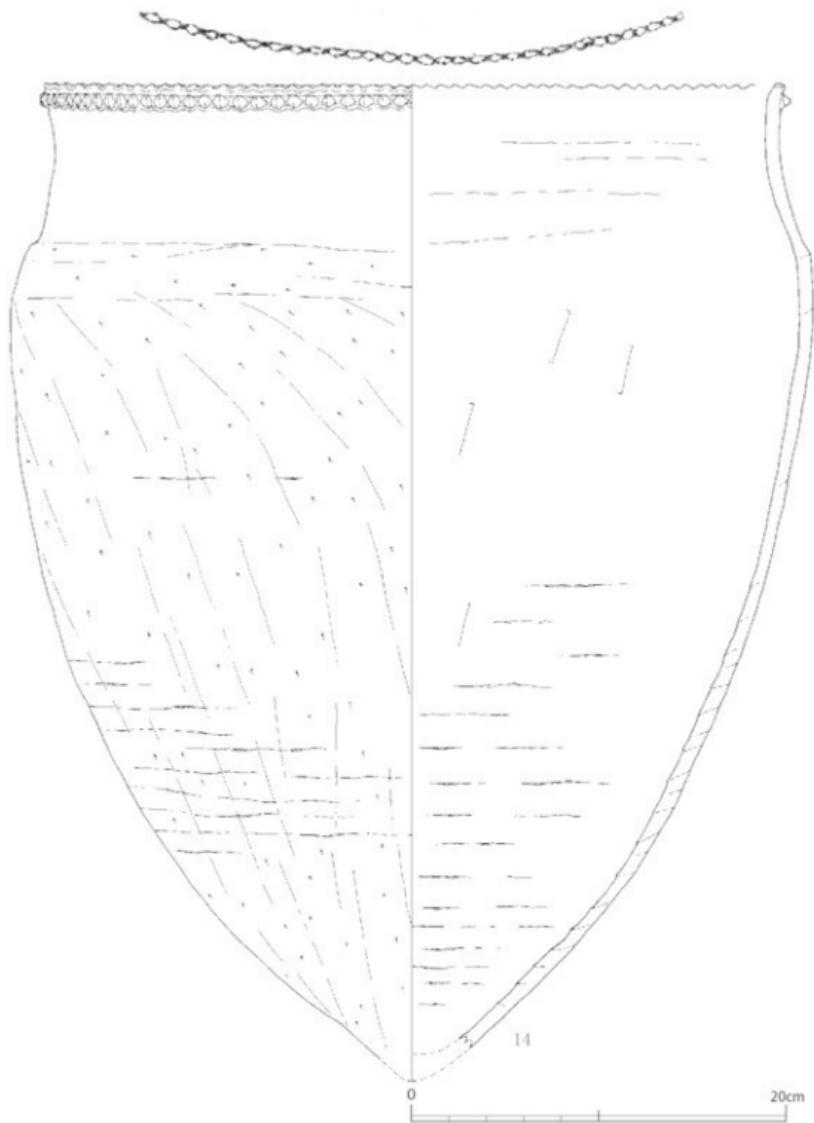


図320 第8遺構面 土器棺11 (S. = 1/3)

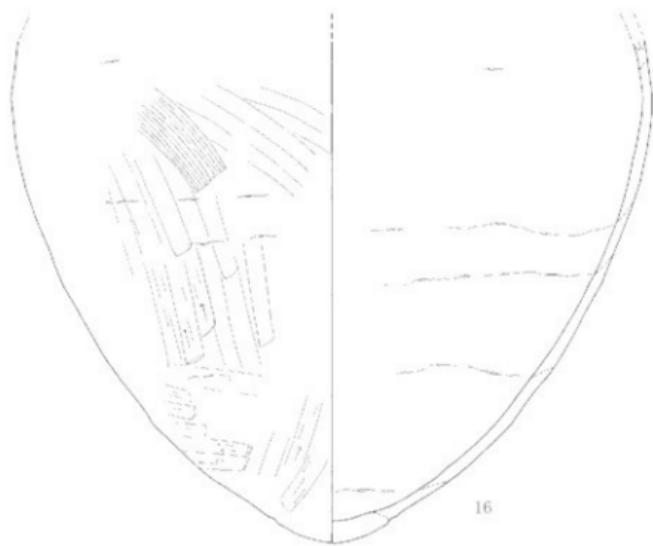


図321 第8遺構面 土器棺12 (S. = 1/3)

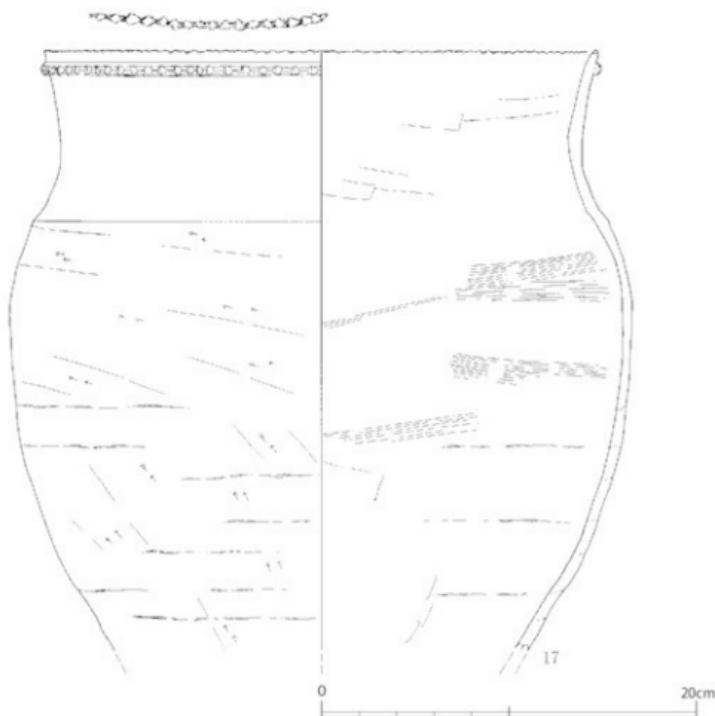


図322 第8遺構面 土器棺13 (S. = 1/3)

(324—19) は土器棺 15。深鉢形土器で、口縁部から底部まで残存している。口縁部と胴部の境に段をもち、内側する胴部から、短い口縁が立ち上がる。口唇部上にはO字状の刻みをもつ。凸帯は上下を押さえて貼り付ける。凸帯上はO字状とD字状の2種の刻みが認められる。外面調整は、口縁部をヨコナデ、口縁部と胴部の境をヨコケズリ、胴部を垂直に近いタテケズリで整える。内面調整はヨコナデがおもである。底部は丸底を呈する。口径約 38.0cm、器高 48.7cm。

(325—20) は土器棺 16。深鉢形土器で、口縁部から底部まで残存している。口縁部と胴部の境に段をもつ。形態は、胴部からいったん内に入った後、外反ぎみに立ち上がる口縁にいたる。口唇部上の刻みはない。凸帯は上下を押さえて貼り付けるが、下の押さえが弱い。凸帯は口縁直下に貼り付けられている。凸帯上はD字状の刻みをもつ。外面調整は、口縁部をヨコナデ、口縁部と胴部の境を、口縁部とは異なる単位でヨコナデ、胴部をタテケズリで整える。内面調整はヨコナデがおもである。底部は丸底を呈する。口径約 38.0cm、器高 46.2cm。

(326—21) は土器棺 17。深鉢形土器で、口縁部下半から胴部のみ残存し口縁と底部が欠損し

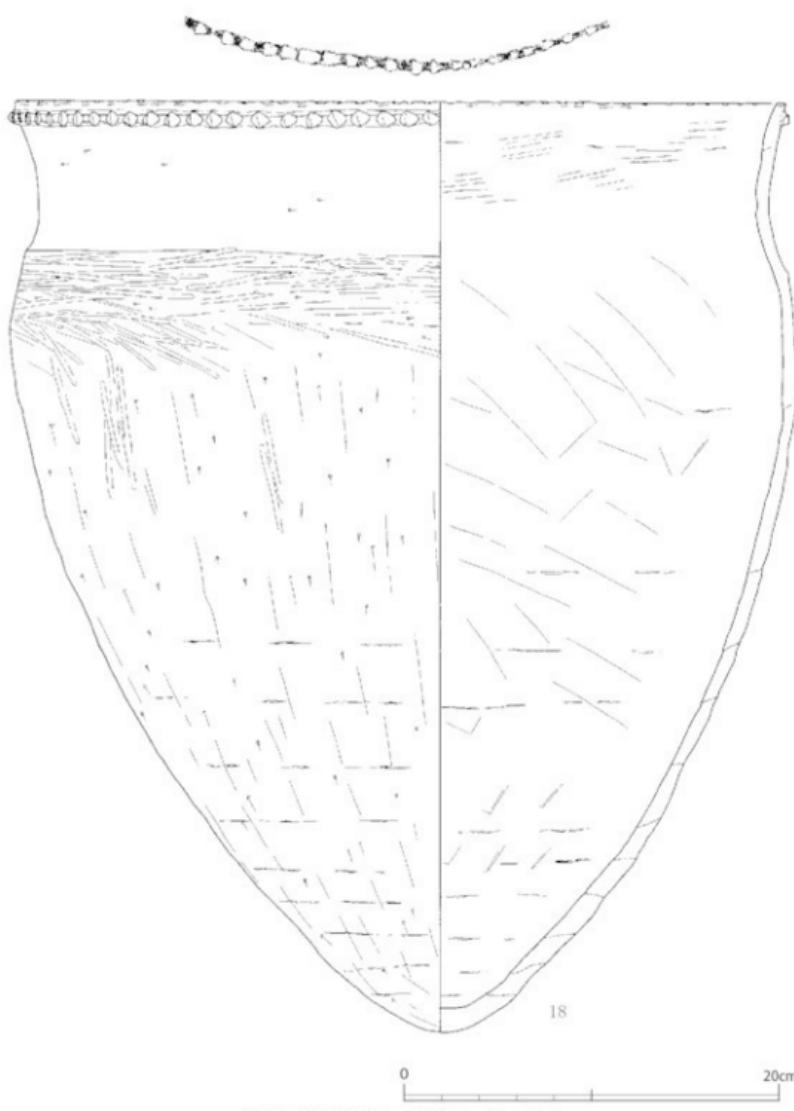


図 323 第8 遺構面 土器棺 14 (S. = 1/3)

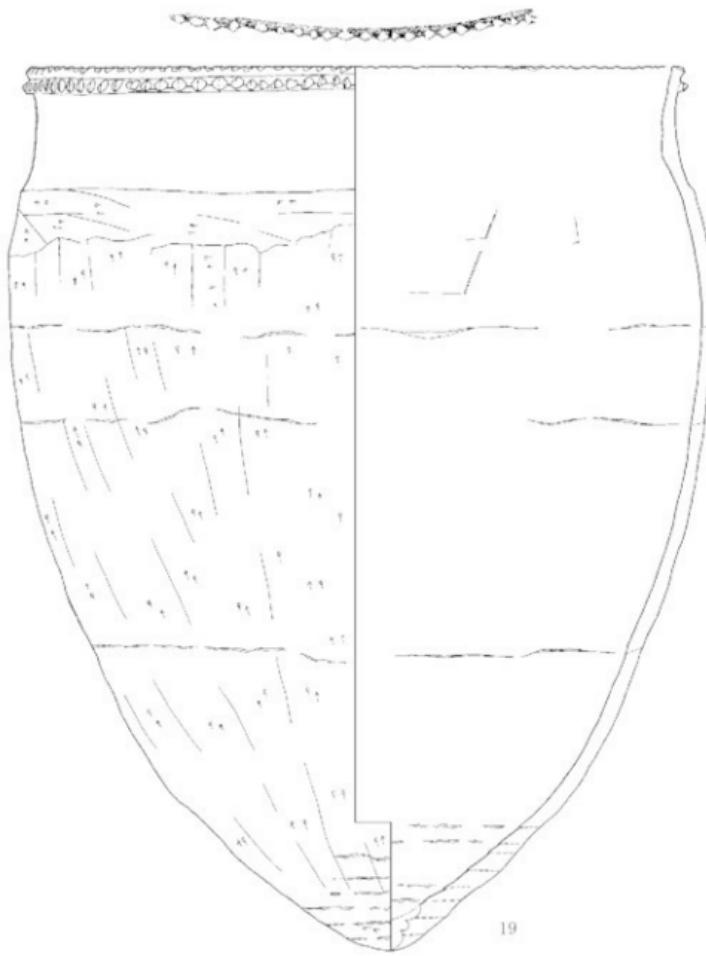


図 324 第 8 遺構面 土器棺 15 (S. = 1/3)

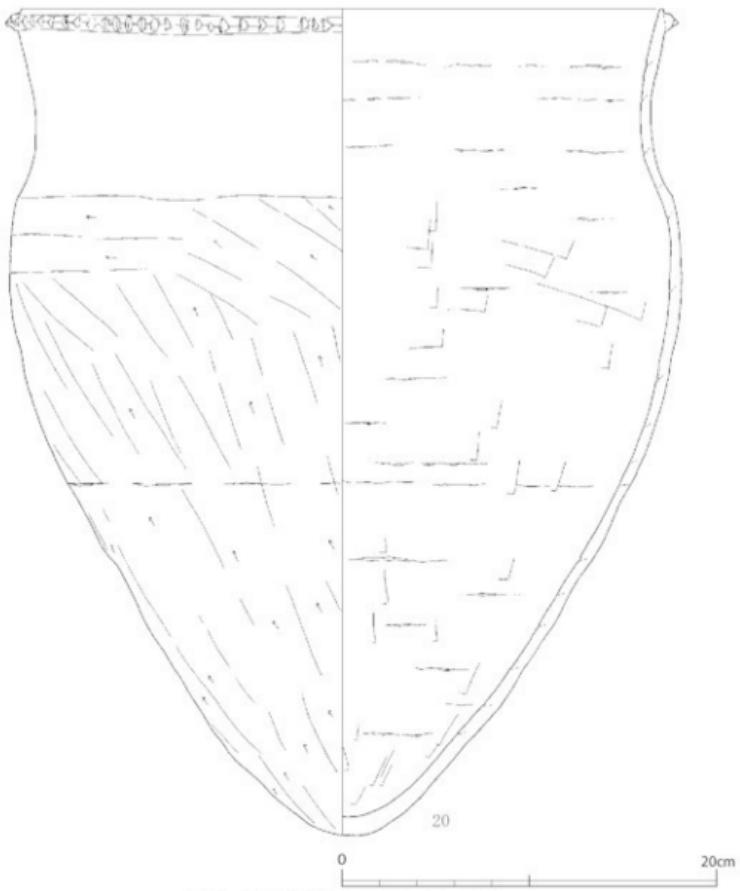
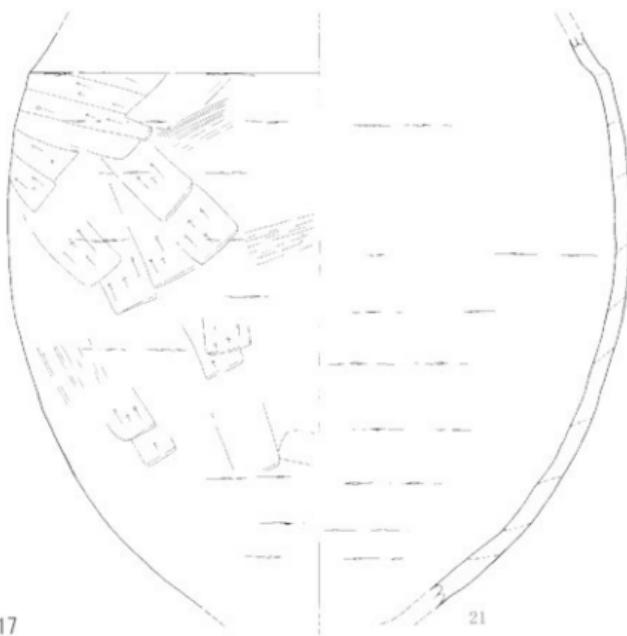


図 325 第 8 遺構面 土器棺 16 (S. = 1/3)

ている。口縁部と胴部の境に段をもつ。外面調整は、口縁部をタテナデ、口縁部と胴部の境をヨコケズリ、胴部を左上がりのケズリで整える。内面調整はヨコナデがおもである。外面に炭化物が多量に付着している。

(326-22) は土器棺 18。胴部から底部のみの残存である。おもに二枚貝による調整の後、ナデ調整されている。底部に種子状の圧痕がのこる。

(326-23) は土器棺 19。小型の深鉢形土器で、口縁部と胴部の境に段をもたず、胴部は球胴形を呈し、口縁は外反ぎみに立ち上がる。口唇部上の刻みはない。凸帯は上下を押さえて貼り付け



土器棺 17

土器棺 18

土器棺 19

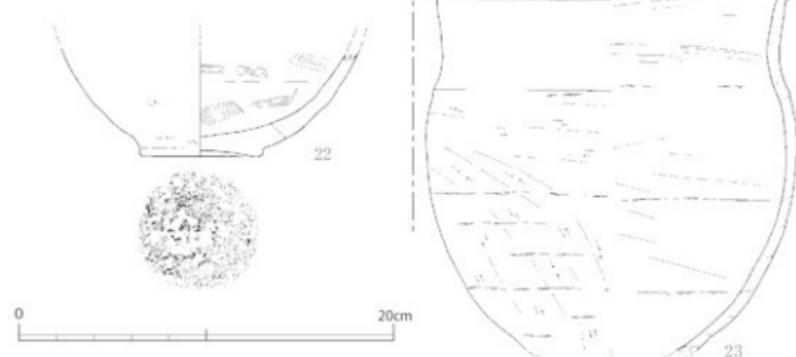


図 326 第 8 遺構面 土器棺 17・18・19 (S. = 1/3)

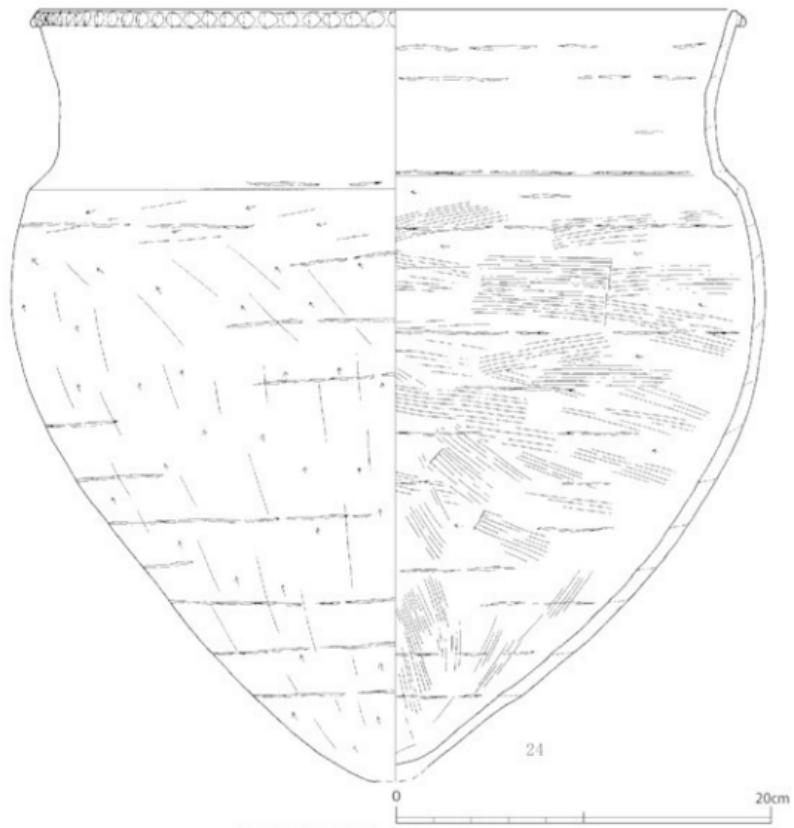


図327 第8遺構面 土器棺20 (S. = 1/3)

る。凸带上はV字状の刻みをもつ。外面調整は、口縁部をタテケズリ後ヨコナデ、口縁部と胴部の境をヨコケズリ、胴部を左上がりのケズリで整える。内面調整はヨコナデがおもである。底部は丸底を呈する。口径約18.0cm、推定器高21.1cm。

(327-24) は土器棺20。深鉢形土器で、口縁部から底部まで残存している。底面が少しだけ打ち欠かれているが完全に穿孔はない。口縁部と胴部の境でつよく内側に折れ明瞭な区画をなす。口縁は外反ぎみに立ち上がる。口唇部上の刻みはない。凸帶は上下を押さえて貼り付ける。凸带上はD字状の刻みをもつ。外面調整は、口縁部をヨコナデ、口縁部と胴部の境をヨコケズリ、胴部を左上がりのケズリで整える。内面調整はヨコケズリがおもである。底部は丸底を呈する。口径約31.8cm、器高43.0cm。



図328 第8遺構面 土器棺21 (S. = 1/3)

(328-25) は土器棺21。深鉢形土器で、口縁部から底部まで残存している。口縁部と胴部の境に段をもたず、胴部は球胴形を呈する。口縁は外反ぎみに立ち上がる。口唇部上の刻みはない。凸帯は上下を押さえて貼り付ける。凸帶上はV字状の刻みをもつ。外面調整は、口縁部をタテケズリ後ヨコナデ、口縁部と胴部の境をヨコケズリ、胴部を左上がりのケズリで整える。内面調整はヨコナデがおもである。底部は丸底を呈する。口径約28.2cm、器高32.6cm。

##### ⑤土壤墓出土土器 (329-1~7)

土壤墓は北2区と北3区で検出されている。出土土器は少なく細片が多いが、土壤墓1・2・10から出土した土器が図化できた。

(329-1~5) は土壤墓1から出土した土器群である。(329-1) は凸帯文深鉢形土器で、口縁端部に刻みをもち、凸帯は上下を押さえて貼り付けている。(329-2) は凸帯文浅鉢形土器で、凸帶上を刻まない凸帯を口縁部に貼り付ける。(329-3) は浅鉢形土器の口縁部である。口縁内面に沈線を一条ひく。(329-4) は壺形土器の口縁部である。凸帶上を刻まない凸帯を口縁部に貼り付ける。口縁部片のみで全体の形態は判明しないが、短頭の壺形を呈すると考えられる。(329-5) は深鉢形土器の平底を呈する底部片である。(329-1~3) は凸帯文土器2期前半の特徴

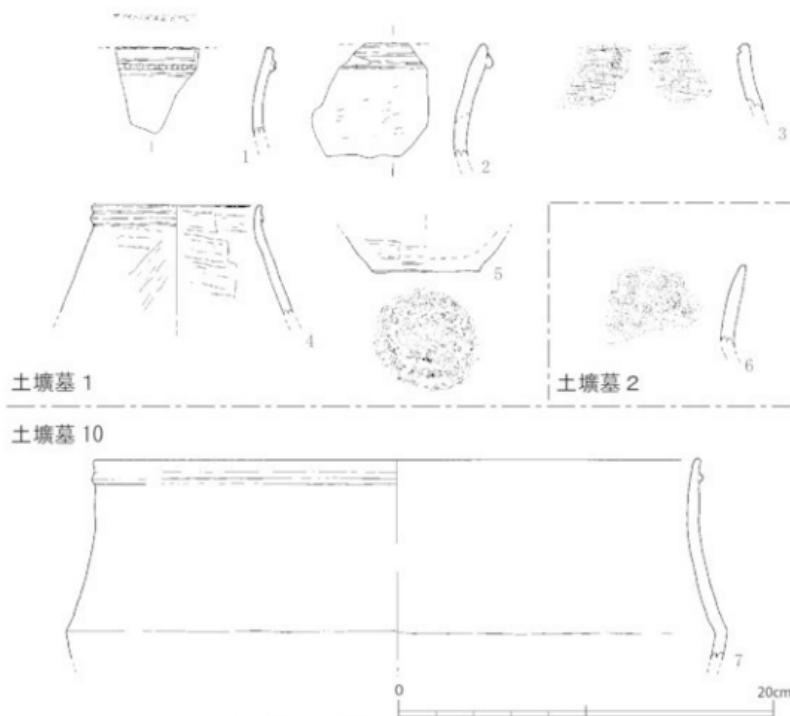


図329 第8遺構面 土塚墓1・2・10 出土土器 (S. = 1/3)

をもつが、(329-4・5)は凸帯文土器2期後半に特徴的にみられる土器である。したがって、土塚墓1の時期は凸帯文土器2期として捉えておく。

(329-6)は土塚墓2から出土した浅鉢形土器の口縁部である。外面をミガキ調整によって仕上げる。晩期中葉によくみられる特徴を示すが、口縁部小片のみの残存のため、縄文土器型式の比定はできない。

(329-7)は土塚墓10から出土した。凸帯文深鉢形土器の口縁部から胴部で、口縁端部に面をもたず、刻みをつけるのみで、凸帯は上下を押さえて貼り付けている。凸帯文土器2期に比定される。

#### ⑥土坑出土土器 (330-1~332-19)

土坑は北区全域から検出されているが、北1区には少なく、北2区・北3区に偏る。

(330-1~3)は土坑9から出土した土器群である。1は凸帯文深鉢形土器の口縁部から胴部で、口縁端部に面をもたず、刻みもつけない。凸帯文土器2期後半の特徴をもつが、胴部形態に2期前

土坑9

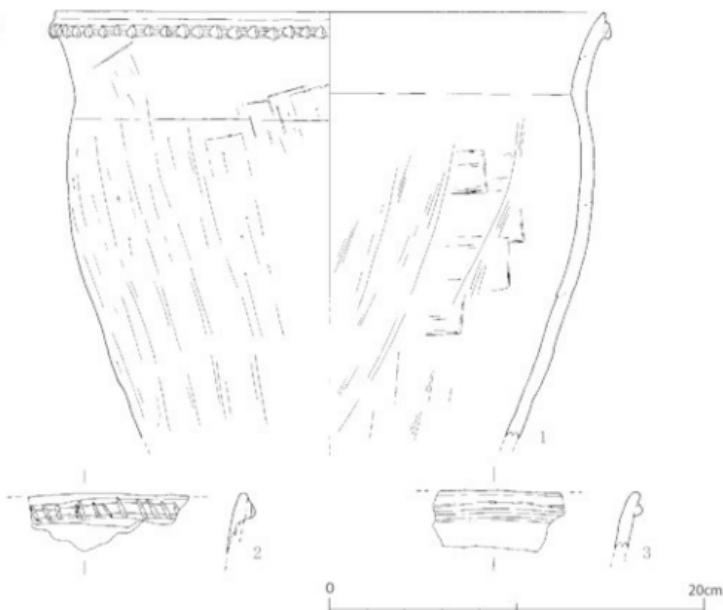


図330 第8遺構面 土坑9 出土土器 (S. = 1/3)

半の特徴をのこし、時期がさかのぼる可能性もある。また、土器の残存状態から土器棺墓を形成する土器棺であった可能性もある。(330-2)は凸帯文深鉢形土器の口縁部で、口縁端部と凸帯が一体化し、凸帯上の刻みも小ぶりなことから、凸帯文土器3期の特徴と一致する。残存状態が悪いので、土坑内に混入した可能性が高い。(330-3)は凸帯文浅鉢形土器の口縁部で、凸帯文土器2期前半に比定される。

(331-4~6)は土坑11から出土した土器群である。(331-4)は凸帯文浅鉢形土器の口縁部から胴部で、口縁に無刻みの凸帯を貼り付ける。口縁が長く立ち上がる形態をなし、凸帯文土器1期から2期前半の特徴をもつ。(331-5)は凸帯文深鉢形土器の口縁部から胴部である。口縁部の上端をナデ調整し面を形成したのち、刻みをつけている。口縁部と胴部の境も明瞭で、凸帯文土器1期の特徴をもつ。(331-6)は深鉢形土器の底部片で丸底をなす。晩期中葉から凸帯文2期前半までの深鉢形土器の底部形状と一致する。(331-4・5)の残存状態から、土坑11はこれらが組み合う土器棺墓の可能性もある。

(331-7・8)は土坑12から出土した。(331-7)は凸帯文深鉢形土器の口縁部で、凸帯文土器2期前半に比定される。(331-8)は浅鉢形土器の口縁部で、凸帯文土器1期から2期後半の時期にみられる。

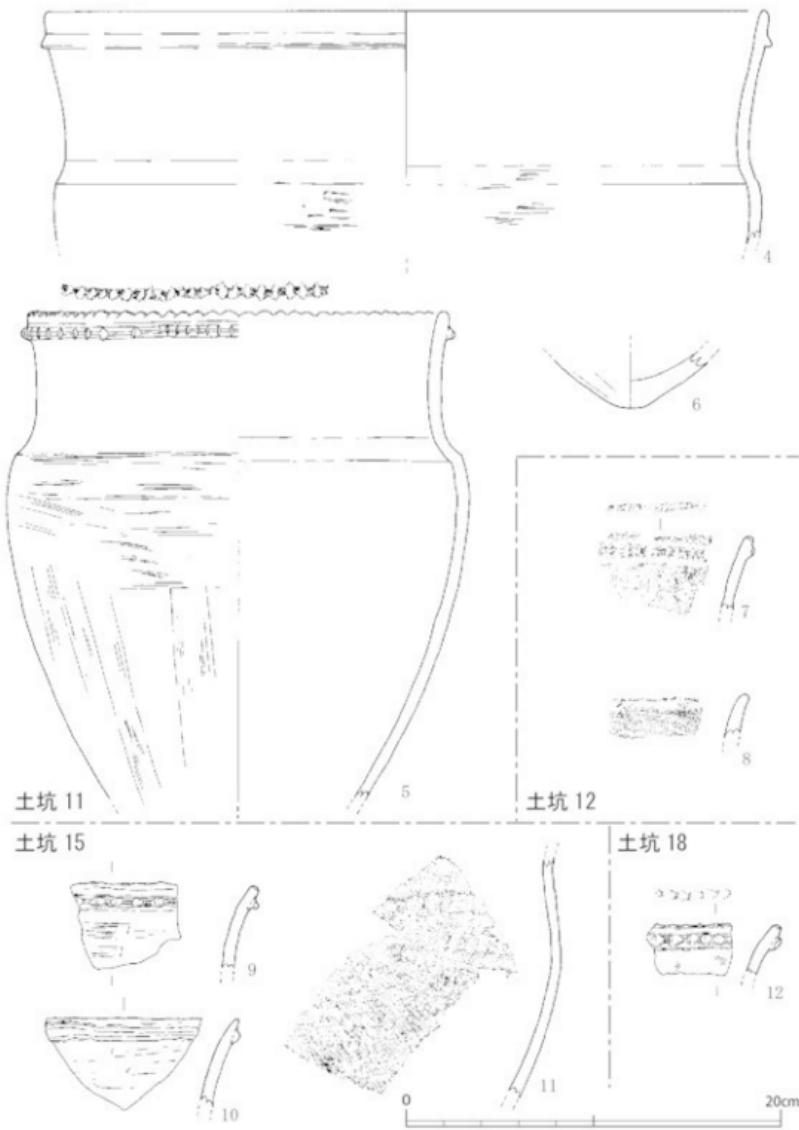
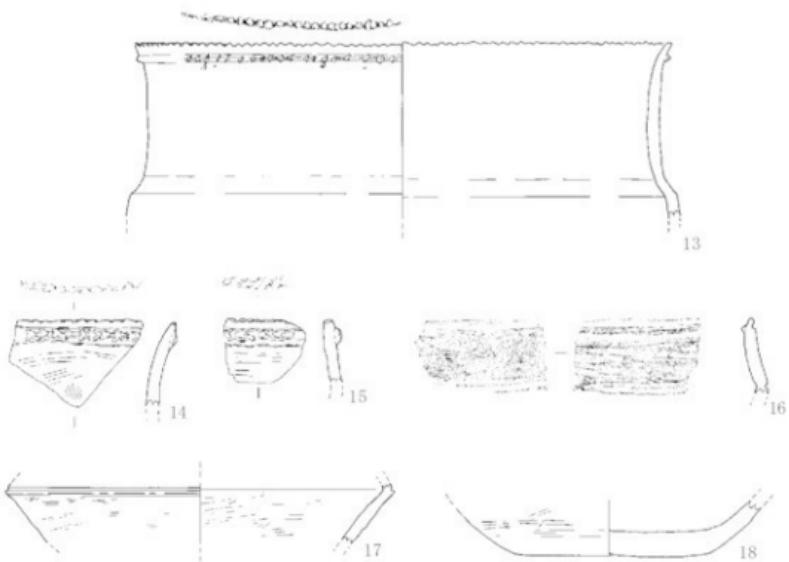


图331 第8遗构面 土坑11·12·15·18 出土土器 (S. = 1/3)



土坑 19

土坑 20

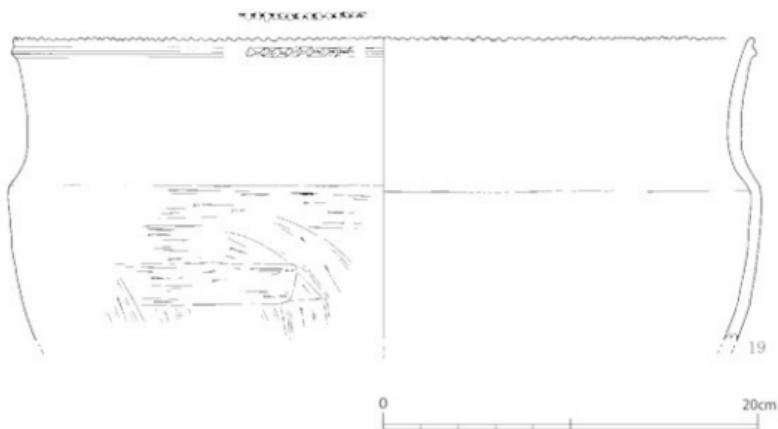


図 332 第 8 遺構面 土坑 19・20 出出土器 (S. = 1/3)

(331-9～11) は土坑 15 から出土した。(331-9) は凸帯文深鉢形土器の口縁部、(331-10) は凸帯文浅鉢形土器の口縁部で、ともに凸帯文土器 2 期前半に比定される。(331-11) は凸帯文深鉢形土器の胴部で、凸帯文土器 2 期の特徴をもつ。

(331-12) は土坑 18 から出土した。凸帯文深鉢形土器の口縁部で、凸帯文土器 1 期に比定される。

(332-13～18) は土坑 19 から出土した土器群である。(332-13・14) は凸帯文深鉢形土器の口縁部、(332-15) は凸帯文浅鉢形土器の口縁部、(332-16) は浅鉢形土器の口縁部、(332-17) は浅鉢形土器の胴部、(332-18) は浅鉢形土器の底部である。(332-16) は口縁内外と屈曲部に一条ずつの沈線をひく。(332-17) は屈曲部に沈線をひく。いずれも凸帯文土器 2 期前半の特徴を有し、一括性の高い資料と考える。

(332-19) は土坑 20 から出土した凸帯文浅鉢形土器の口縁部から胴部の破片である。口縁に凸帯を貼り付け、口唇部を刻む。凸帶上の刻みは大振りで、やや右に流れる V 字状刻みを呈する。胴部はヘラ状工具による、横方向を主体とするミガキ調整をする。凸帯文土器 2 期前半に比定される。

## (2) 土製品

当該遺構面では 19 点の土製品を確認し、そのうち土偶 13 点、不明土製品 1 点、土玉 1 点を図化した。なお、寸法や重量などの詳細は計測表（別表 2-5）に記したので参照されたい。

(333-1～334-13) は土偶である。

(333-1) は左腕の一部を欠損するものの、頭部から脚部まで残存している。頭部の表面形は緩やかな山形をしている。顔面に細い隆帯による「Y」字形の眉と鼻の表現が見られる。なお、この鼻筋の先端には長さ 4.5mm、幅 1 mm ほどの溝が、「Y」字の鼻筋の両側に沿って 2ヶ所見られる。これについては、鼻を成形する時に付いたものか、鼻を強調させるものなのか、鼻腔の表現なのかなど、様々な解釈ができるが定かではない。この鼻から 2 mm ほど下に、指の押圧によって径 8 mm ほどの円形に凹ませることで、口を表現している。さらに、この口の内側には径 2 mm ほどの凹みがあるのだが、意図的な刺突痕というよりは、胎土に含まれる砂粒が剥がれた痕跡とみるべきだろう。また耳の表現としては、奈良県橿原遺跡（岡崎 2011）で見られるような、穿孔による耳の表現はないが、指の押圧によって少し凹む箇所がある。

このような顔立ちをする土偶は、奈良県庵治遺跡出土の凸帯文期の土偶（米川 2005）や橿原遺跡出土の土偶（岡崎 2011、図 74-9・10）がある。

一方、後頭部には、頭頂部から 1 cm ほど下がったところに、長さ 3.4cm、幅 8 mm の三日月状の剥離痕が認められる。この剥離痕は、器のようなものが付けられていた痕跡のように見える。

つぎに肩部から腕部は、頭部下端から水辺にのびて肩部を作ったのち、約 60 度に曲げて腕部としている。この肩部から腕部は、左右を比較した時に、左半身側にやや下がっている。右腕のみ残

存していて、これを見ると腕の全体は丸みをもって仕上げられている。また手部の先端の平面形も丸い。

胸部は脚部まで直線的にのび、側面は面取りされている。前面側の中央部は、僅かながらも直線的に凹んでおり、これは半身ずつ成形した後に、中央で繋ぎ合わせた痕跡とみられる。一方、背面側は、頸部の直下、胸部の中央付近に径 7 mm ほどの円形の凹みがある。臀部は、縦 3.3cm、横 3.7cm の楕円形をした臀部の表現が見られる。この臀部は厚さ 6 mm の粘土を貼り付け、中央を深さ 3 mm ほど凹ませているため、その周縁が隆起している。

脚部は、足の裏の平面形は径 2.2cm ほどの楕円形で、平らに仕上げられている。このため、やや前傾姿勢ではあるが、自立する。脚部の長さは 1.3cm ほどで、胸部に対して短い作りとなっている。

(333-2) は頭部である。残存部は剥離している箇所が多いが、平面形は緩やかな山形を呈するものとみられる。顔面の大きさは残存最大長 4.9cm、同幅 4.8cm である。顔面には眉、鼻があり、粘土帶を貼り付けた微隆起線で表現されている。この表現方法は (333-1) と共通している。

(333-3) は腕部である。全体形が弧状を呈し、断面形は丸い。また手部先端の平面形も丸く仕上げられている。その先端から上に 1 cm のところに、長さ 4 mm、幅 1 mm ほどの細長い刺突文が 6ヶ所に不規則に施文されている。

(333-4) は腕部である。緩やかに彎曲する腕は、外面の中央を幅 1 cm ほどの線状の凹みが、残存部全体にわたって見られる。断面形は楕円形である。先端は破損部分が多いものの、平面形は丸みをもっているとみられる。

(333-5) は腕部である。他の土偶に比べて、胎土に砂粒などがあまり含まれず、精緻な作りである。また、(333-3・4) と比較して、腕部の彎曲度合いは弱い。断面形は楕円形を呈する。手部先端の平面形は楕円形で、平たく仕上げられている。文様としては、片側一方にのみ径 1 ~ 3 mm ほどの刺突文列が 4 条施されている。

(333-6) は肩部から胸部である。肩部両面には、赤色部が認められる。(333-6) は肩部までしか残存していないが、その形状から、(333-1) のように、肩部から鈎の手状に屈曲して繋がる腕部になるとみられる。また、(333-3) と同様の外面中央に幅 1 cm ほどの線状の凹みが、肩部と頸部の付け根付近から破損部までみられる。

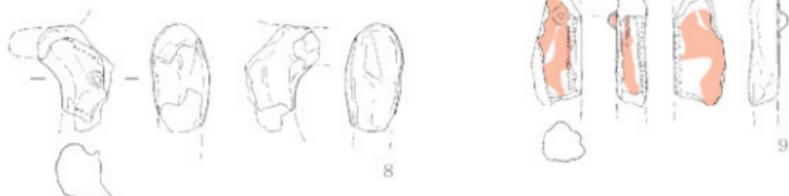
胸部は肩部から直線的に繋がっている。胸部の断面形は方形を呈す。残存部の下端には径 1.2cm ほどの円形の剥離痕があり、これは粘土を貼り付け、乳房を表現した痕跡と考えられる。このことから、残存部は土偶の右半身である。

(333-7) は腕部から胸部である。一部に赤色部分が認められる。腕部は、(333-1・4・5) が丸みをもって仕上げられているのに対し、(333-7) は扁平な作りで、断面形は長方形に近い。この時期の土偶は、(333-1) のように、肩部が胸部から水平にのびるものが多いが、(333-7) は、



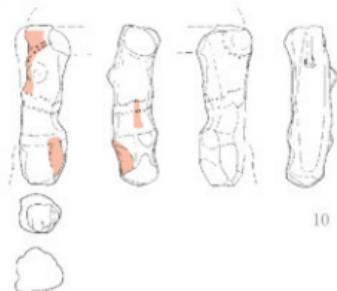
図 333 第 8 遺構面 遺構面上 出土土製品 (1) (S. = 1/3)

遺構面上



8

9



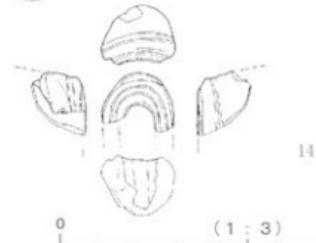
10

11



12

13



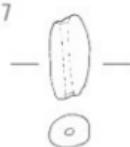
14

0

(1 : 3)

20cm

土器棺墓 7



15

0

(1 : 1)

4cm

図334 第8遺構面 遺構面上 出土土製品 (2)・土器棺墓18 出土土製品 (S.=1/3・1/1)

肩部が胴部から斜め上方向にのびたのち、腕部を鉤の手状に約 80 度に曲げて成形している。また、肩部の中央に厚さ 1 cm ほどの粘土帯を貼り付けて盛り上げている。このような形状をする土偶は、近畿地方ではいまのところ類例がないため、搬入品の可能性がある。

つぎに胸部を見てみると、残存部下端に向かって反る形状をしているので、腰が張り出すものとみられる。胸部全体が研磨され、丁寧に仕上げられており、特に（333－7）の左図の面と側面は、研磨によって平坦な面を有している。一方、右から 2 番目の図の面は、残存部中央が線状にやや隆起している。胸部の断面形は、隆起する箇所があるものの、方形を呈す。さらに、手部先端は、これも他の土偶とは異なり、平面形が長方形を呈す。また、左図の面の腕部と胸部の付け根付近には、長さ 3 cm ほどの細長い瘤が付けられている。これに対し、右から 2 番目の図の面では、同様の箇所に径 1 cm ほどの円形の瘤が 2 ケ所に見られる。

文様は、指とみられる手部先端に幅 1 mm ほどの沈線がある。この指の表現は 3 本見られ、中央の 1 本以外は胸部にまで繋がっている。左図の面では胸部中央部まで、右から 2 番目の図の面では腕と胸の付け根付近まで、それぞれ弧状に描かれている。

（334－8）は右半身の肩部から胸部である。肩部は水平にのびるものとみられる。胸部の断面形は、丸みのある方形を呈す。胸部前面に径 8 mm ほどの円形の凹みがみられる。この凹みは、位置的に乳房の表現とするべきだが、後述する（334－9・10）のように、乳房は粘土帯の貼り付けによって表されるのが通常である。ゆえに乳房とは断言できないが、きわめてその可能性は高い。文様としては、径 2 mm の刺突文列が、肩部から胸部上端と、凹みから 1.5 cm ほど下がったところに、2 条が平行するように左斜め上方向にのびている。（334－8）の右図は破断面であるが、これを見るとその中央に幅 5 mm ほどの直線的な凹みが見られる。これは成形する際に、棒を渡して接合させた痕跡と考えられる。

（334－9）は左半身である。全面にわたって赤色顔料が認められる。胸部は直線的に成形されている。胸部の断面形は、扁平な方形を呈す。胸部の上端に径 9 mm、厚さ 5 mm ほどの粘土帯の貼り付けによる乳房の表現が見られる。文様は、前面、背面ともに、側面に近い箇所に、2 条の平行する刺突文列が施されており、全体で 4 条認められる。

（334－10）は左半身で、肩部から脚部まで残存している。胸部の断面形は、やや丸みを帯びた方形である。胸部は脚部まで直線的に仕上げられているものの、残存部頂から 4.3 cm 下がったところで括れているので、ここで腰を表現しているとみられる。また胸部上半には、径 1 cm ほどの粘土を貼り付けて、乳房が表現されている。この乳房を挟んで、平行する 2 条の刺突文列が 2 ケ所に施されている。上側の列は、前面の腕部の付け根付近で終息している。一方、下側の列は、背面側まで至っている。この下側の列から少し下がったところに、幅 1.7 cm ほどの粘土紐を背面側まで回して貼り付けている。これをもって、胸部と脚部の境にしているとみられる。また背面側の残存部頂に、径 1.5 cm ほど、厚さ 6 mm ほどの粘土帯が貼り付けられ、瘤のようになっている。

これを囲むようにして刺突文が円形に施される。

脚部は、断面形が方形で、足の裏の平面形は梢円形をし、丸みをもって仕上げられている。また、足先の前面側はやや突出して、つま先を表現しているようみえる。

つぎに割れ口を見ると、側面に5mmほどの直線的な凹みがあるので、棒を支柱に接合されていた痕跡と考えられる。また、肩部の割れ口はやや凹んでいるため、ソケット状に接合された痕跡ともみられる。

(334-11)は右半身である。胸部から脚部まで直線的に成形されている。胸部の断面形は、方形である。胸部上端にはごく僅かではあるが、径1cmほどの円形の凹みが認められるので、乳房を表現していたとみられる。胸部下半には幅1cmほどの粘土紐を一周させて貼り付けている。脚部は、前面側に円形の粘土帶を貼り付けて膨らみをもたせている。断面形は長径2.1cmの梢円形をしている。また足先は僅かに前面に突出し、そこに3本線刻を施して指の表現がされている。足の裏の平面形は、所々に括れが見られ、例えば先端にある括れは足趾と前足部を区別するもので、今次調査検出の土偶のなかで最も人間に近い足の形状をしている。

つぎに成形方法を見ると、側面の上端に、径6mmの孔がある。これは本来腕部に凸部があり、胸部の痕跡はそれに対応する凹部であると考えられるため、腕部と胸部はソケット状に繋がっていたことが窺える。

(334-12)は左下半身である。前面は胸部、脚部とともに特に顯著な装飾は施されていないが、凹凸のない丁寧な調整がされている。一方、背面側には残存部頂から1cmほど下がったところに、径2.6cmの円形の凹みがある。これは(333-1)と同様に臀部であると見られる。この臀部の横、背面から側面にかけて、幅1cmほどの粘土紐の貼付隆帯がある。

脚部は、臀部から1.1cm下がったところに、厚さ5mmほどの貼瘤がある。このような貼瘤は、ふくらはぎを表現した可能性がある。足の裏の平面形は方形で、平坦に仕上げられている。

(334-13)は脚部である。ごく微細ではあるが、赤色顔料の付着が認められる。脚部の断面形は梢円形である。胸部は残存していないものの、残存部頂を見ると、やや外反しているため、胸部は直線的に作られたのではなく、やや彎曲して括れて腰を表現していたとみられる。残存部頂から2.5cmほど下がったところまでは、外側に張り出す形状をしている。また、この張り出している箇所は、全面に粘土帶を貼り付けて、隆起させている。さらに、左図を見ると、(334-12)のように、貼瘤をして盛り上がる箇所がある。これをふくらはぎとすると、左図の面が前面ということになる。このことは、脚部の先端に指と見られる2本の線刻があることからも窺える。しかし、この線刻は明確ではないものの、足の裏まで至っているので、必ずしも指の表現とは言い切れない。足の裏の平面形は梢円形で、中央がやや凹んでいる。

(334-14)は土製品である。残存部から、土器などの把手の可能性があるが、定かではない。全体が丸みをもって、平面形は弧状に成形されている。表面には、幅4mmほどの沈線が1条、弧

状に施されている。側面側にも、同様の沈線が1条施されている。

(334-15) は土玉である。土器棺墓7(図280)から出土した。形状は長さ1.5cmの平面形が瘤玉形をしている。両端は、図の上側の面では凹凸を残したまま成形されているものの、下側の面は平坦である。この両端に径2mmほどの穿孔が縦方向に貫通している。特に目立った装飾は施されず、作りも凹凸があり、粗雑な作りをしている。

以上のように、第8遺構面から出土した土器品のうち、多くが土偶である。これらのうち、関東地方を中心に広まっていた山形土偶と共に共通する表現を有する土偶が幾つか見られる。頭部の形状が山形をし、顔面に「Y」字形の隆帯を持つ(333-1・2)や、足の爪の表現がある(334-11)がそれである。しかしながら、山形土偶の特徴をすべて満たしている土偶ではなく、両者の関係性を精査する必要がある。

また、第8遺構面出土の土偶の中には、(333-1・334-12)のように、臀部に凹みが認められるものがある。岡崎晋明氏は、玉手遺跡からほど近い奈良県橿原遺跡の土偶の特徴のひとつとして、臀部の凹みを挙げており(岡崎2011)、奈良盆地南部域の地域的特徴として抽出できる可能性がある。

### (3) 石器・石製品

図335～339に第8遺構面直上から出土した石器を掲載した。

(335-1・2)は四基式石鐵である。(335-1)は基部の一部を欠失する。(335-2)は両側縁部を鋸歯状に加工する。(335-3～6)は石錐である。(335-3)は板状の剝片を逆三角形状に加工したものである。錐部断面は紡錘形を呈する。(335-4)は棒状の錐である。原礫面が残る部分の反対側を錐として利用する。錐部断面は菱形を呈する。(335-5)は丸い頂部と長い錐部をもつ。原礫面が頭部から側縁部にかけて残る。錐部断面形は三角形である。(335-6)は両側縁が切断面となる柱状の剝片を用いたものである。原礫面の残る頂部と反対側に細部調整を施し、錐部を作り出す。錐部には厚みがあり、摩耗が観察できることから未成品と考えられる。(335-7)は原礫面の残る石核である。以上は全てサヌカイト製である。

(335-8)は扁平な棒状の結晶片岩である。わずかに摩耗が見られるが人為的なものかは判断できない。

(335-9)は不正形な自然礫を使用した敲き石である。器表の敲打痕のようにみられるものは器表の荒れである。自然礫ではあるが、全体の形状が山形の石冠を思わせるものであり、使用痕の位置とあわせて石冠として意識されていたことがうかがえる。

(336-10)は御物石器もしくは石冠の可能性がある。石材には、重量のある硬質の黒色砂岩を用いている。残存する器表は丁寧な研磨が施され、一部には擦痕も残る。破損面は上縁からの加熱により形成されており、平坦である。上縁には潰れ状の剥離痕が連続して形成される。器体分割の際の剝離と一連のものか、再利用に伴うものかは判断できない。断面形状は隅丸の縦長二等辺三

角形を呈する。石冠の可能性が高いが、無紋の御物石器の一部とも考えられる。御物石器と考えるならば、頭部を欠失し、体部の大半が残存している状態である。

(336-11)は結晶片岩である。扁平な礫表の中央部分が溝状に凹み、わずかに摩耗が見られるが人為的なものかは判断できない。

(336-12・13・15)は石斧もしくはそれと思しき石器である。(336-12)は砂岩製の小形の磨製石斧である。(336-13)は結晶片岩製の打製石斧未成品である。(336-15)は石斧もしくはその素材となる可能性がある石である。砂岩を用いる。

(336-14)は緑泥片岩製の方形の台石の破片と思われる。

(336-16)は打製石斧である。バチ形の平面形を呈し、両側縁部には細かな敲打により握り部をつくりだしている。刃部には摩滅がみられる。片麻岩製である。

(337-17・18)は石鋸である。石目に沿った側縁部には摩耗がみられる。板状の紅簾片岩を用いている。

(337-19)は打製石包丁もしくは石鎌である。刃部は著しく摩耗している。結晶片岩を用いる。

(337-20)円礫を素材とする磨石の小片か。表面は全体に平滑だが、磨面の形成は明瞭ではない。剥離により分割されている。砂岩製である。

(337-21)は敲き石である。楔形に割れた円礫であり、長軸の両頂部に敲打の集中する部分がみられる。片麻岩製である。

(337-22)は不整な楕円形を呈する自然礫である。石錘の素材として持ち込まれたものか。砂岩製である。

(337-23)は磨石の小片である。残存する表面の全体が平滑な磨面となっている。砂岩製である。

(337-24)は結晶片岩を素材とする石器の未製品であろうか。石材の性質上観察が難しいが、周縁のほぼ全集から剥離が成されていると考えられ、なんらかの石器製作を意図したと思われる。

(337-25)は大形で厚手の重量のある楕円礫を素材とする敲き石の破片である。約1/3を残す。残存する片面の中央には深い敲打の集中が複数見られる。その周辺は磨面となっている。他的一面に敲打痕は見られずほぼ平坦な磨面となっている。残存する側面にも軽微な敲打痕が広く見られ、一部は帯状の面を形成している。砂岩製である。

(338-26)は全面が授熱している円礫の破片である。表面は黒褐色に変色しており、一部淡橙色に変色した部分も見られる。石器か否かは判断できない。砂岩製である。

(338-27)は磨石の小片を転用した楔形石器である。平坦面はやや弱い磨面、側縁は使用痕が面をなしており、いわゆる「石剣形」となるものであろうか。楔形石器としては破損面の三方から敲打によるつぶれ状の剥離が形成されており、のこる一つの側縁は折断面となっている。砂岩製である。

(338-28)は敲き石である。厚手の不整形な円礫を素材とする。表面の3箇所に使用痕の集

中が見られる。面をなす礫表のほぼ中央に線状の敲打痕が連続しており、側縁にも軽微な線状の敲打痕の集中が見られる。裏面には全体に浅い凹凸が見られるが、周辺は授熱により灰色に変色している。使用によるものが授熱に起因するものは判断できない。なお、他の器表もほぼ全体が淡橙色、もしくは灰色に被熱により変色する。砂岩製である。

(338-29) は厚手の不整形な円礫を素材とした磨石である。約 1/2 を欠損する。両面の平坦面に磨面が形成される。斑レイ岩製である。

(338-30) は厚手の円礫を素材とした敲き石の破片である。残存する平坦面の中央に軽微な敲打痕の集中が見られる。破損後に破損面の周縁を潰すように全周に敲打痕が形成されており、楔状の再利用がなされている。砂岩製である。

(339-31) は整った厚手の楕円礫を素材とする敲き石である。約 1/2 を欠失する。残存する両平坦面の中央に敲打の集中による窪みがみられ、その周辺は平滑な磨面が形成される。側縁部付近にも、強い敲打痕が連続して見られる。砂岩製である。

(339-32) は厚手の亜円礫を利用した石皿の破片である。片面に使用面と考えられる平坦面が見られる。周縁には敲打もしくは剥離が見られ、一部は薄片剥離状の部分を有する。砂岩製である。

(339-33) は断面が三角形を成す、不正形な長亜円礫を素材とする敲き石である。平坦面の一つに敲打の集中部が見られる。側縁の稜線上の一部にも敲打痕がわずかに見られる。磨面は見られない。斑レイ岩製である。

図 340 に、第 8 遺構面の検出遺構から出土した石器を掲載した。

(340-1・2) は焼土 6 より出土した石鏃である。(340-1) は平基式石鏃である。基部の一端を欠損する。

(340-2) は凸基式石鏃の未成品である。茎、片側縁には細部調整がみられるが、意図した大きさの石鏃にならないと判断され、廃棄されたものと思われる。

(340-3) は土器棺墓 21 より出土した。厚手横長の薄片を素材とする削器である。刃部は素材下縁の全体に両面からの調整によってやや凹刃が形成されている。

以上の石材は全てサヌカイトである。

この他、土坑 9 からは (340-4) が、土坑 23 からは (340-5) が出土した。どちらも敲き石である。

(340-4) はほぼ正円を成す厚手の整った円礫を素材とする敲き石である。両面の中央に敲打の集中によるくぼみが形成される。その周辺はともに磨面として使用されている。周縁も全周が敲打により使用され、広く帶状に面が形成されている。安山岩製である。

(340-5) は敲き石である。断面が隅丸三角形を呈する。不正形な厚手の長楕円礫を用いる。3 面のうち、2 面の平坦面は中央からやや偏って軽微な敲打痕の集中が見られる。その周縁には磨面が形成される。いまひとつの面はやや窪んだ凹凸のある面を成し、そのほぼ全体に線上の敲打痕

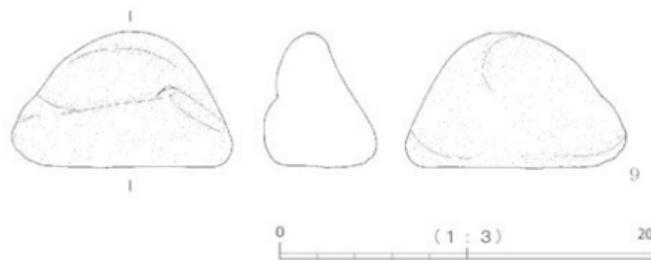
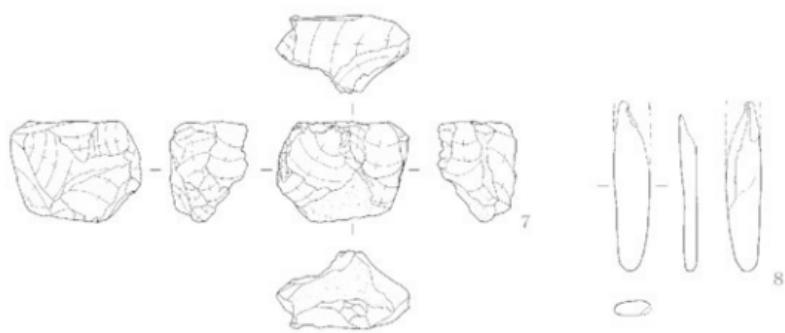
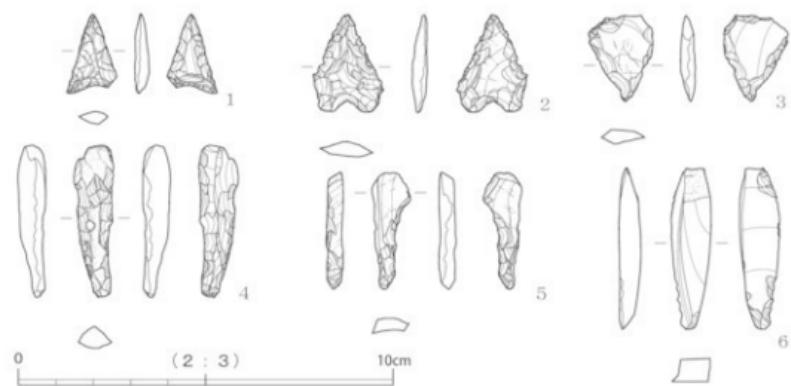


図 335 第8遺構面 遺構面上 出土石器 (1) (1~6 ; S. =2/3, 7~9 ; S. =1/3)



图 336 第8遗构面 遗构面上 出土石器 (2) (S. = 1/3)



图 337 第 8 遗构面 遗构面上 出土石器 (3) (S. = 1/3)

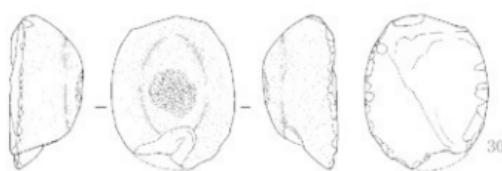
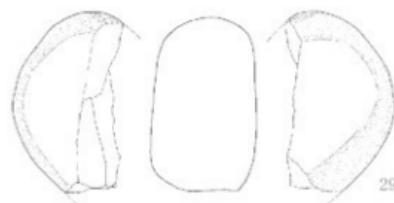
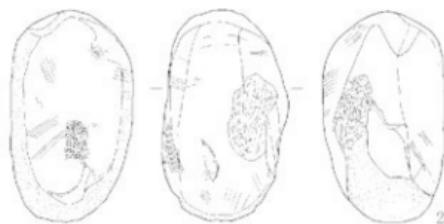


図338 第8遺構面 遺構面上 出土石器(4) (S. = 1/3)

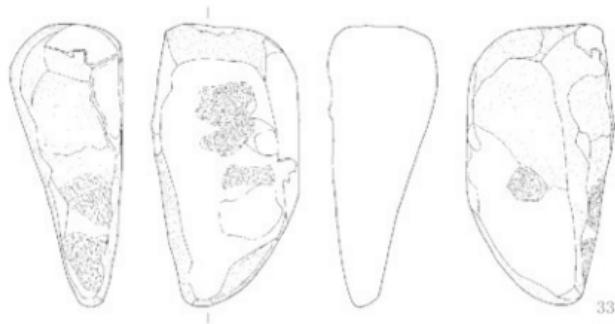
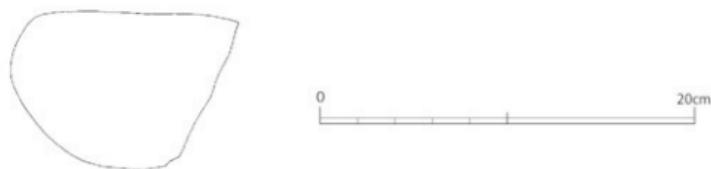
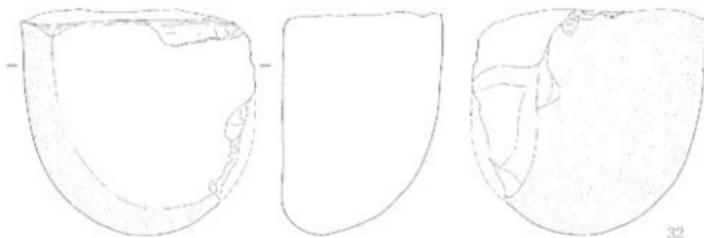
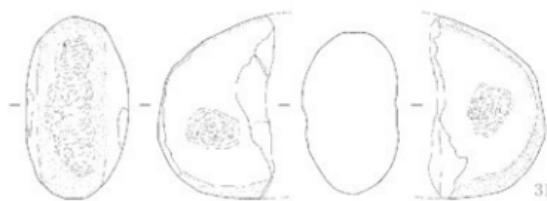


图339 第8遗构面 遗构面上 出土石器 (5) (S. = 1/3)

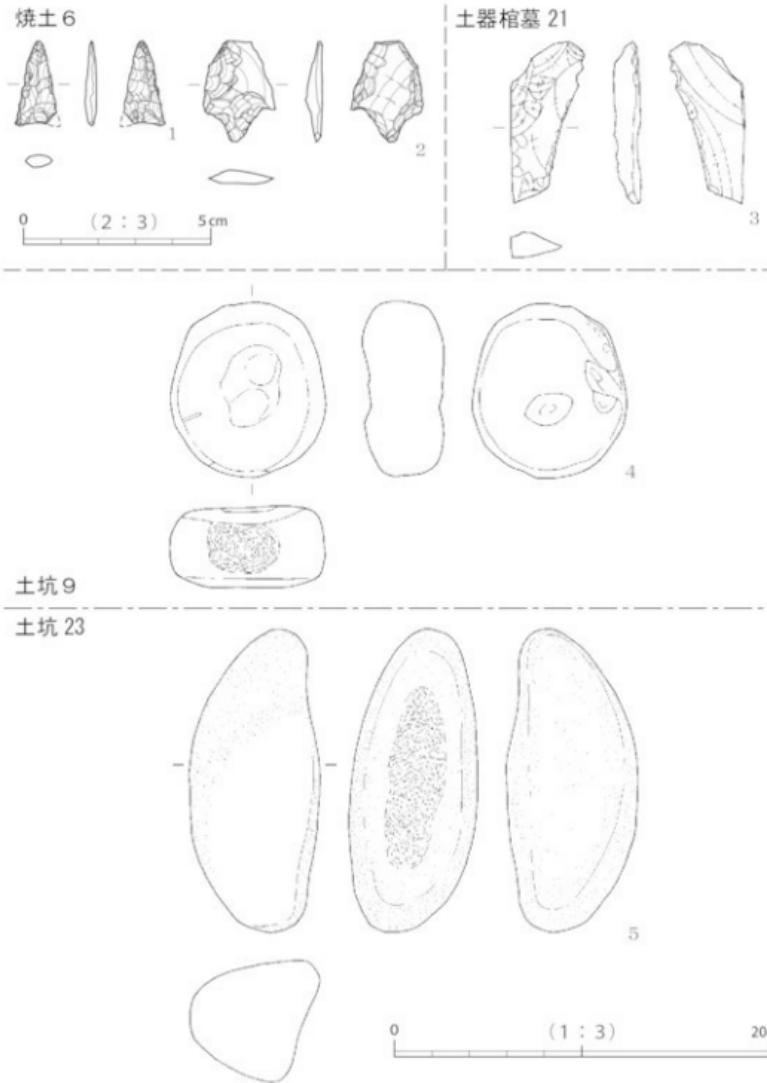


図340 第8遺構面 烧土6・土器棺墓21・土坑9・土坑23 出土石器  
(1・2; S=2/3, 3~5; S=1/3)

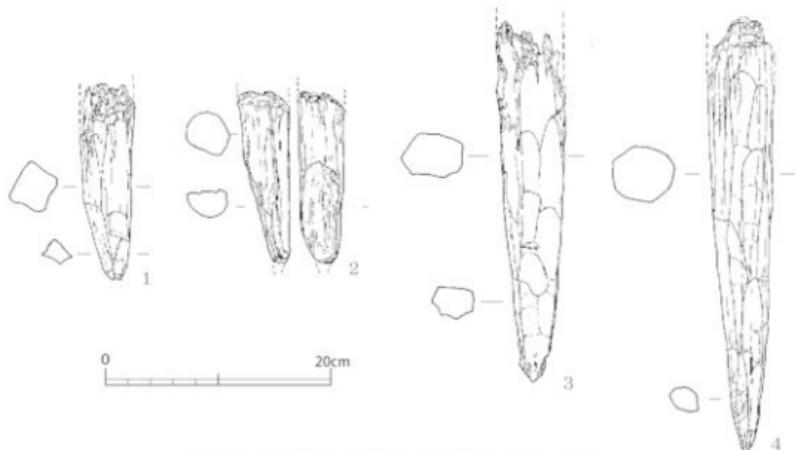


図 341 第 8 遺構面 土坑 16 出土木製品 (S. = 1/5)

が連続して見られる。その面と対向する稜線上の中央には軽微な敲打痕による面が形成されている。両端にも軽微な敲打痕が見られる。砂岩製である。

#### (4) 木製品

第 8 遺構面では土坑 16 で木杭が出土した。それらを一覧して別表 5 として後掲しているので参考されたい。土坑 16 では、遺構の項で詳述したように、土坑の埋土に対して 18 本もの杭が打ち込まれた状態で検出された。そのうち 17 点について遺物として取り上げていたが、ここから残存状態が比較的良好な 4 点を任意に選んで、実測図を図 341 に掲げた。

この地点で検出された杭は、残存長が最大 39cm で、太さは径 1.5 ~ 5.5cm までのものがあった。多くは、丸木杭であるが、やや不明確ながら半裁杭とみられる杭が 1 点あった。また、実測図を掲載した 4 点の樹種は、いずれもイヌガヤであった。

なお、(341-4)について、放射性炭素による年代測定をおこない、その結果を別表 1 に記した。そのうちの最も確立の高い数値をとれば、暦年校正年代は、Cal Bc597-412 となっている。この年代は、層位的に検出した遺構面の年代観とはやや齟齬がある。

#### (5) 漆塗り製品

北 1 区では、赤漆塗り糸玉が出土した。図 262 に示したこの糸玉は、苧麻とみられる植物繊維を纏り合わせて作った細い糸に赤漆を塗り、それらを數十本ずつ束ねた糸束にして輪状にまとめたものである。糸束は少なくとも 3 束が確認できる。2 束は梢円形につながり、南東部には結び目が認められる。また、この結び目に對向する位置には捻りが加えられている。残りの 1 束はこれらの下位に、投げ縄のような形状で残存していた。同様の製品は東北・北陸において知られているものの、関西地方での出土は初であり、両者の関係性の解明が課題となろう。

## 第9節 第9遺構面

第9遺構面は、13層上面で検出した遺構面である。13層は、今次調査地全体に認められたものの、遺構は南1区・南3区のみで検出すに留まり、それ以外の地区では確認されなかった。

北1区～北3区では、図342・343に示した下層確認トレンチによる調査の結果、遺構が存在する兆候がみられず、遺物の出土もほとんど無かったことから、面的な調査は実施しなかった。

南1区では、下層確認トレンチによる調査の結果、調査区北半は遺構・遺物とともに希薄であった。一方、南半に遺物・遺構が濃密に分布することが判明した。そこで、調査区南半に設定したトレンチを中心拡張し、一部で面的な調査をおこなった。南1区の調査区が、図344に示したように、部分的な調査となっているのは、こうした経緯による。

なお、第9遺構面は、後述する遺構面上の遺物分布状況などから見て、若干の削平があるとしても縄文中期末から後期初頭に形成された当時の生活面をほぼ残しているものと考えられる。ただし、南1区の西端付近で検出された土坑30からは、後述するように、後期後葉および晩期前半とみられる土器片が出土した。この土坑30が形成された遺構基盤層を見ると、最上層の埋没時期が後期初頭以降にあたる流路7の堆積土に対して構築されていることがわかる。このような層位にある遺構としては、土坑30の周辺で検出した土坑24～29があり、これらは、他の第9遺構面の遺構よりも新しい時期の所産といえる。これは同一遺構面に年代差を示す遺構が同時に存在している状況である。

しかし、出土土器片の点数が、中期末から後期初頭のものに対して、後期後葉のものは圧倒的に少なく、第9遺構面上には見られない。したがって、比較的長期にわたって第9遺構面が露出していたとは考えにくい。

この状況を整合的に理解しようとすれば、土坑24～30については、発掘調査では検出されなかつたが本来は第8遺構面との間のより上位に別の遺構面があつて、そこから掘り込まれた可能性が高いと考えるのが妥当であろう。これらの土坑以外にも、遺物が出土しなかつたり型式不詳の土器片が出土した土坑については、より上位から掘られた遺構であった可能性がある。しかし、その数は、上記のように当該期の遺物量の絶対量の少なさからみて、決して多くは無いであろう。おそらくは当該期の主要な活動領域は、調査区西方の調査区外に展開していたものと考えられる。

### 1. 遺構

#### (1) 遺構面直上の遺物分布状況

第9遺構面では、図344・345に示したように、遺構・遺物が粗密をもって分布する状況を確認した。検出した遺物は、縄文時代中期末葉から後期初頭のものが大半を占める。遺物の分布状況については、図346～349に示したように、南1区中央南半、南1区東南部、南3区中央部、南4区北東部で特に集中していた。なお、図に示しているものは、第9遺構面出土の遺物のうちト

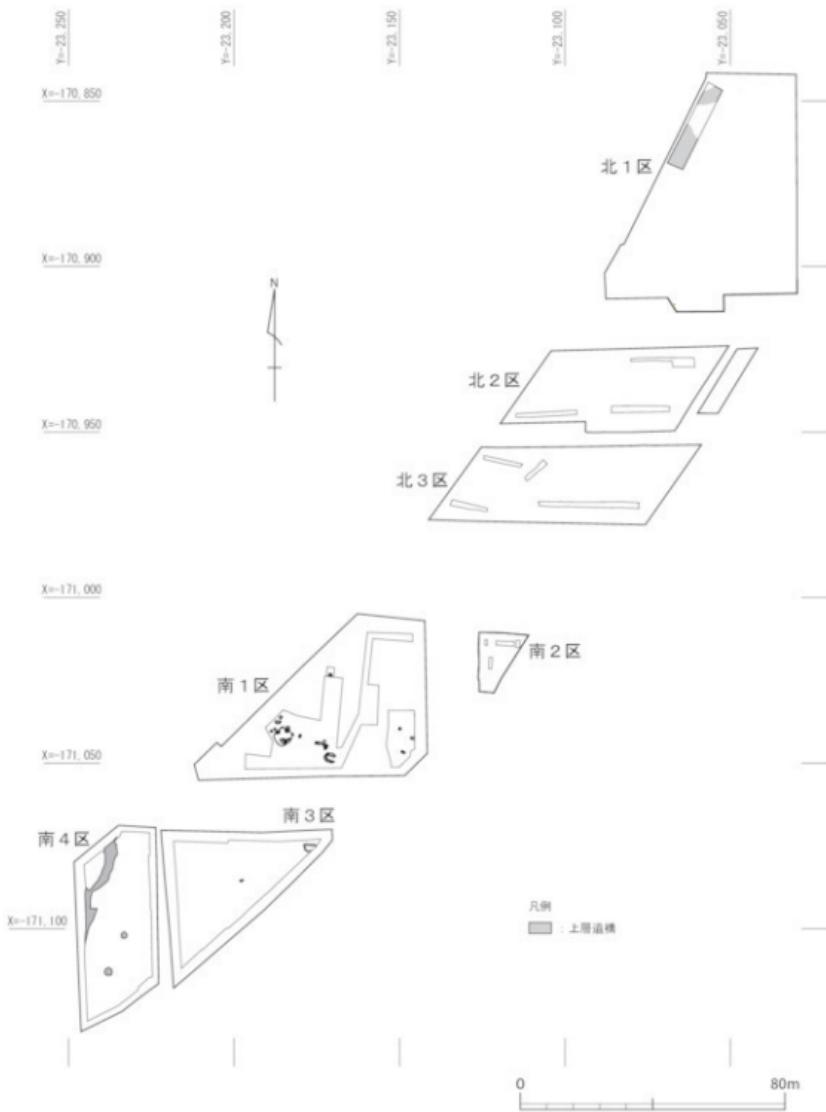


图 342 第9道構面 全体図 (S. =1/1,700)



図343 第9階構面 北2・3区の造構 平面図 (S.=1/500)



図344 第9遺構面 南1・2区の遺構 平面図 (S.=1/500)

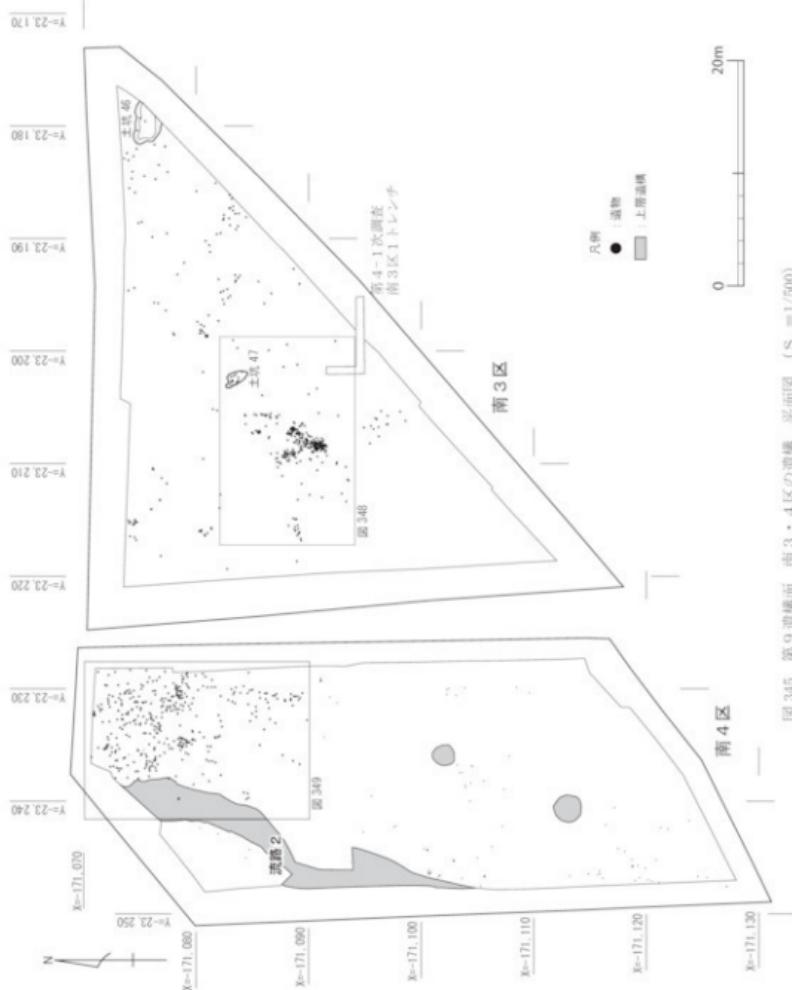


図345 第9排水面 南3・4区の境界 平面図 ( $S_r = 1/500$ )

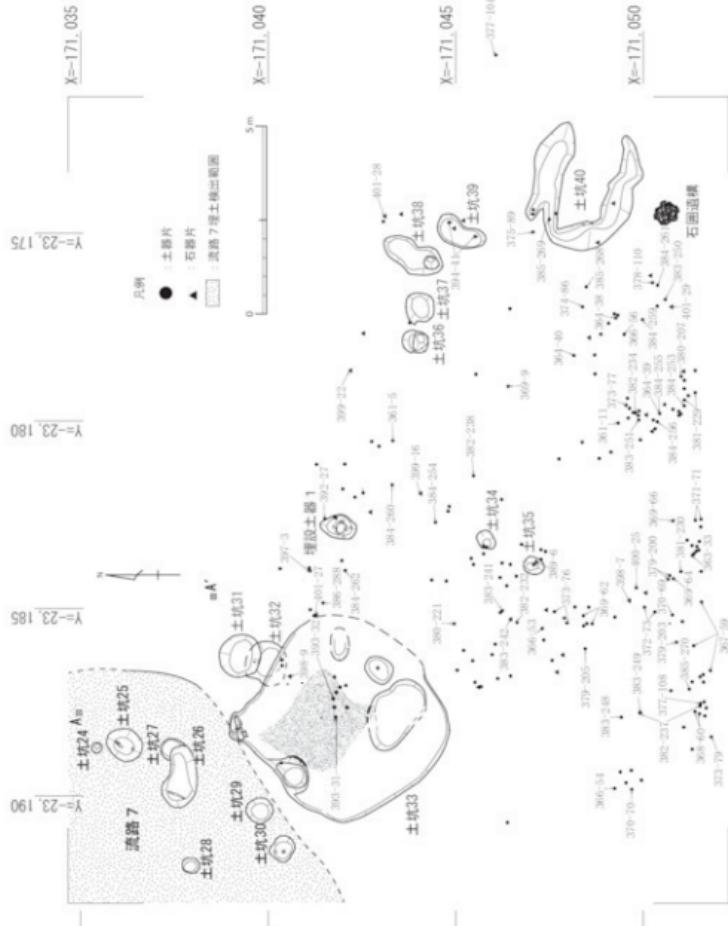


图 346 第9道墙面 南1区 遗物分布状况 (1) (S. = 1/150)

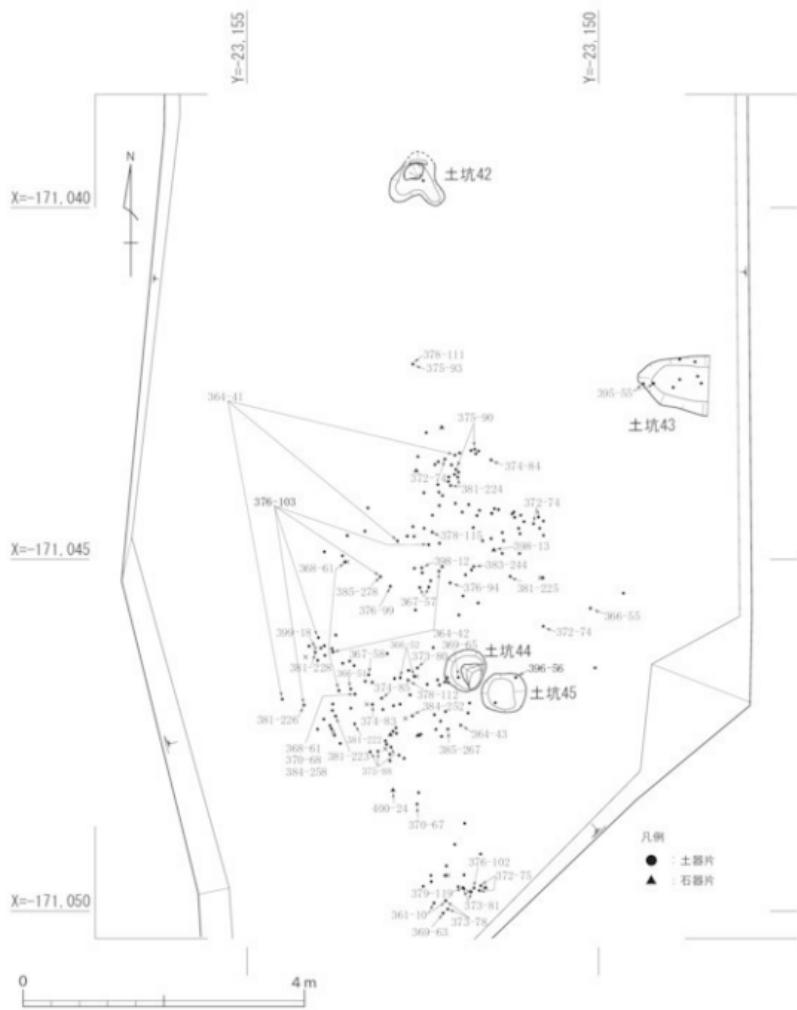


図347 第9遺構面 南1区 遺物分布状況(2) (S.=1/80)



图348 第9面南3区 遗物分布状况 (S. = 1/100)

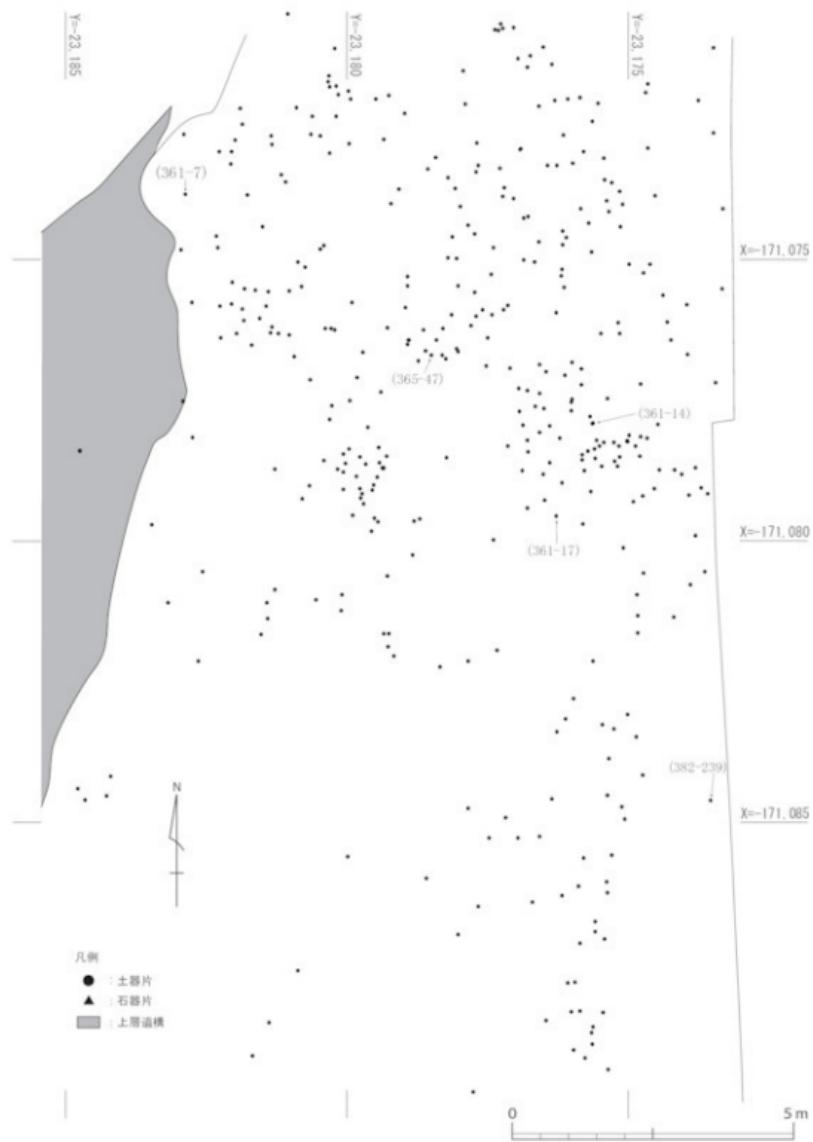


图 349 第9遗构面 南4区 遗物分布状况 ( $S_{\cdot} = 1/100$ )

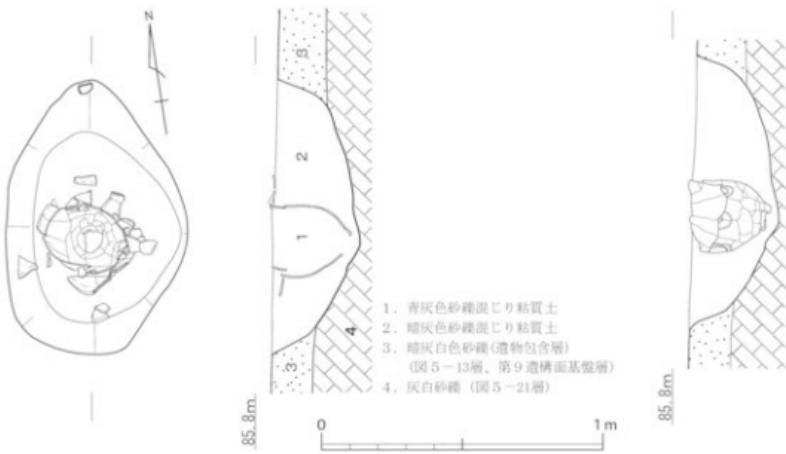


図350 第9遺構面 南1区 埋設土器1 平面・立面・断面図 (S. = 1/20)

タルステーションによって検出時の原位置を記録したものののみで、全ての遺物の出土状況を反映している訳ではない。

### (2) 埋設土器

#### ①埋設土器1 (図346・350) (南1区)

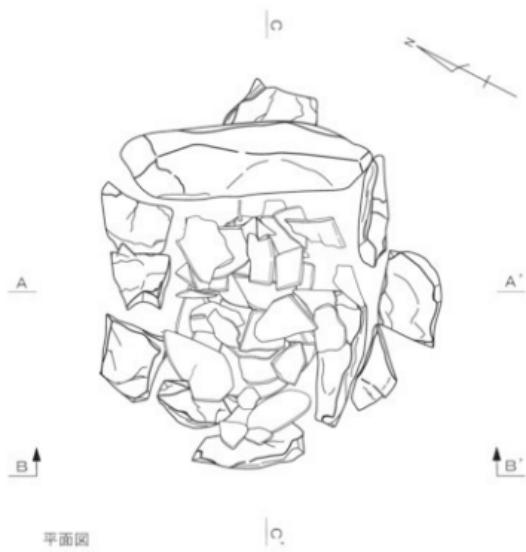
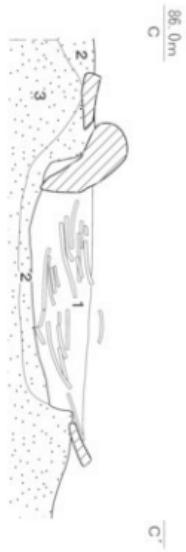
南1区の西半で検出した。図350に見えるように、不整梢円形の土坑内に深鉢(387-1)が口縁を上に向け、立位で埋置されていた。土坑の規模は長径98cm、短径65cmで、深さ31cmである。深鉢(387-1)の底部は欠損しており、口縁部は破片化して外方に広がった状態で検出した。土器内部の埋土からは、0.5~1.5cm角の削片(サヌカイト)18点を検出した。また、土坑の埋土からは、埋設土器とは別個体とみられる中期末から後期初頭の土器片が33点出土した。

### (3) 石圓遺構

#### ①石圓遺構 (図346・351) (南1区)

南1区南半の中央で検出した。扁平な礫を方形に配列したもので、同様の構造のものは一般に住居址にともない、石圓炉と呼ばれる。この遺構の場合、周囲に関連する遺構が確認されなかったこと、また図351に見えるように、遺構内には焼土や炭化物がみられず土器片が埋置されていたこと、被熱痕も明確でないことから、炉としての機能を積極的に認め得なかつたため、石圓遺構とした。用いられている石材は、北東辺のみ花崗岩で、その他の辺は片岩を複数個組み合わせて構築されている。炉の内部には、土器片(388-1・2)がほぼ全て内面を上に向け、折り重なった状態で埋置されていた。出土した土器は全て同一個体とみられ、全体の7割程度が残存していたことから、

断面図 (C-C')



1. 青灰色粘土  
2. 青灰色砂礫混じり粘質土 (図5-13層、  
3. 青灰色砂礫(Fe多く沈着) 第9遺構面基盤層)

断面図 (A-A')

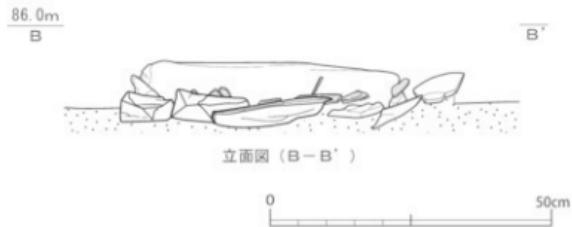


図351 第9遺構面 南1区 石圓遺構 平面・断面・立面図 (S. = 1/10)

完形に近い個体を破片化したのちに、意図的に炉内へ埋納したものと考えられる。炉の底面に土器を敷く「土器敷き炉」とは機能・性格を異にするものとみられ、むしろ何らかの儀礼的行為を示すものとも理解できよう。

#### (4) 土坑

土坑は南1区で22基、南3区で2基、合計24基を検出した。土坑の規模にはばらつきがあり、大形のものは径5mを超え、小形のものは径30cm程度である。多くが性格不明の土坑であるが、一部には柱穴や貯蔵穴、竪穴住居の可能性が考えられるものもある。ただし、いずれも断定が困難であるため、これらも土坑としたうえで、その性格について個別に記述する。

##### ①土坑24(図346・352)(南1区)

南1区西端付近で検出した。流路7の堆積土上に形成されている。平面形は、長径30cm、短径25cmの楕円形で、深さは45cmである。遺物の出土は無かった。

##### ②土坑25(図346・352)(南1区)

南1区西端付近で検出した。流路7の堆積土上に形成されている。平面形は長径1m、短径84cmの楕円形で、深さは74cmである。埋土の最下層(7層)にドングリなどが遺存しているため、貯蔵穴として機能していた可能性がある。図352-2に示したように、土坑の北半と南半で杭が出土した。南半の杭(別表4-865)は土坑の側面に刺さった状態で検出された。残存長36cm、径8cm、厚さ6.5cmで、半裁された材をもちいており、樹皮は無く、先端には加工痕がある。北半の杭(別表4-866)は土坑の壁面にもたれた状態で検出された。残存長33cm、径7cmの樹皮の残る丸木の杭で、先端に加工痕がある。両者とも樹種は不明である。このほか、型式不明の土器片1点、敲石1点(403-1)が出土している。

##### ③土坑26(図346・352)(南1区)

南1区西端付近で検出した。流路7の堆積土上に形成されている。土坑27と切り合い関係を有し、西側にある土坑26が東側の土坑27を切る。平面形は長径164cm、短径76cmの不整楕円形である。図352-3に見えるように、深さは東が22cm、西が54cmと、西側が深くなっている。西半の底面では杭(別表4-864)が横たわった状態で検出された。残存長66cm、径7.5cmで樹皮は無く、先端には加工痕がみられる。樹種は不明である。このほか、型式不明の土器片が1点出土している。

##### ④土坑27(図346・352)(南1区)

南1区西端付近で検出した。流路7の堆積土上に形成されている。図352-3にみえるように、土坑26に南西部分を切られている。平面形は長径73cm、短径58cmの楕円形で、深さは31cmである。遺物の出土は無かった。

##### ⑤土坑28(図346・352)(南1区)

南1区西端付近で検出した。流路7の堆積土上に形成されている。平面形は長径48cm、短径45cmの不整円形で、深さは11cmである。遺物の出土は無かった。

#### ⑥土坑 29 (図 346・352) (南 1 区)

南 1 区の西端付近で検出した。流路 7 の堆積土上に形成されている。平面形は長径 115cm、短径 110cm の不整円形で、深さは 20cm である。図 352-5 に見えるように、柱痕状の埋土が確認出来ることから、柱穴であった可能性がある。ただし、周間に関連する遺構は見いだせない。出土遺物は、型式不明の土器片が 3 点ある。

#### ⑦土坑 30 (図 346・352) (南 1 区)

南 1 区西端付近で検出した。流路 7 の堆積土上に形成されている。平面形は長径 70cm、短径 56cm の不整椭円形で、深さは 51cm である。底面付近で後期後葉・元住吉山 II 式の深鉢 (389-1) を検出した。この他に、晩期前半とみられる底部片 (389-2) と、型式不明の土器片 3 点がある。

#### ⑧土坑 31 (図 346・353) (南 1 区)

南 1 区の西端付近で検出した。図 353 にみえるように、土坑 32 と切り合い関係を有し、土坑 31 が土坑 32 の北半を切っている。平面形は長径 115cm、短径 110cm の楕円形で、深さは 20cm である。遺物の出土は無かった。

#### ⑨土坑 32 (図 346・353) (南 1 区)

南 1 区の西端付近で検出した。図 353 にみえるように、土坑 31 および土坑 33 と切り合い関係を有し、北半を北側の土坑 31 に切られ、また南西半を南に隣接する土坑 33 によって切られている。平面形は長径 122cm、短径 110cm の不整椭円形で、深さ 30cm である。出土遺物は、深鉢胸部片 (390-3)、底部片 (390-4) のほか、中期末～後期初頭の土器 1 点と、型式不明の土器片 7 点がある。

#### ⑩土坑 33 (図 346・354・355) (南 1 区)

南 1 区西端で検出した。北東辺が土坑 32 に接し、その南半を切っている。平面形は一辺 5.2m 前後の隅丸方形を呈し、深さは浅いところで 8cm、深いところで 26cm を測る。ただし、深いところは後述する小土坑にあたる部分である。他の土坑に比べてかなり大形であり、かや柱穴は明確でないものの、平面形および断面形などから竪穴住居址の可能性がある。なお、遺構の平面規模に比して掘り込みが浅いため、上部は削平を受けているものと見られる。

図 354 に見えるように、土坑の中央やや北寄りに、東西約 260cm、南北約 300cm の広い範囲で炭化物が多く含まれる黒色粘質土層（1 層）が認められ、特に中央付近では炭化木片が多く含まれる。また、遺構内には、埋土を掘り込む小土坑が 5 箇所ある。検出状況から見れば、これらの小土坑は土坑 33 とは別の遺構として扱う必要があろう。しかし、小土坑内から出土した土器片と土坑 33 の埋土から出土した土器片とが接合関係を有すること、出土した土器片が 15cm 角以上のものを多く含んでいることから、これら小土坑も土坑 33 に付随する性格のものと判断し、一連の遺構として捉えた。

出土遺物は、コンテナにしておよそ 5 箱分ある。このうち、土器は 24 点 (391-15 ~ 394-38)、石器は 3 点 (404-1 ~ 3) を図示した。接合検討をし、接合関係が明らかになったものは

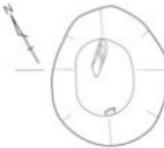


85.7m



1. 黒色粘土
2. 淡暗灰色粘土(青灰色粘土塊含まれる)
3. 青灰色粘土(流路8堆積土)

1. 土坑24

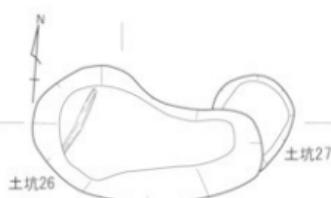


85.7m



1. 黒色粘土
2. 暗灰色粘土(砂礫混じる)
3. 黒色粘質土
4. 暗灰色粘土(粗砂混じる)
5. 淡暗灰色粘土  
(青灰色粘土塊混じる)
6. 暗灰色粘土  
(青灰色粘土塊混じる)
7. 黒色粘土  
(有機物・どんぐり・木の葉など含む)
8. 青灰色粘土(流路8堆積土)

2. 土坑25



85.7m

1. 淡黒色砂礫混じり粘土
2. 青黒色粘土
3. 暗灰色粘土(青灰色粗砂塊が含まれる)
4. 暗灰色砂礫混じり粘土
5. 灰色砂礫混じり粘土(炭化物混じる)
6. 暗灰色粘土(青灰色粗砂塊が含まれる)
7. 青灰色粘土(流路8堆積土)

3. 土坑26・27



0 2m

85.7m



1. 暗灰色粘質土(炭化物混じる)
2. 緑灰色粘土(流路8堆積土)

4. 土坑28



85.7m

1. 暗灰色砂礫混じり粘質土
2. 灰色粘質土と緑灰色粘土の混在層
3. 暗灰色砂礫混じり粘質土
4. 灰色砂礫混じり粘質土
5. 暗青灰色粘土(流路8堆積土)

5. 土坑29



85.7m

1. 暗灰色砂礫混じり粘質土
2. 明暗灰色砂礫混じり粘質土
3. 明暗灰色粘質土
4. 淡黒色粘土
5. 青灰色粘土(流路8堆積土)

6. 土坑30

図352 第9遺構面 南1区 土坑24・25・26・27 平面・断面図 (S. = 1/40)

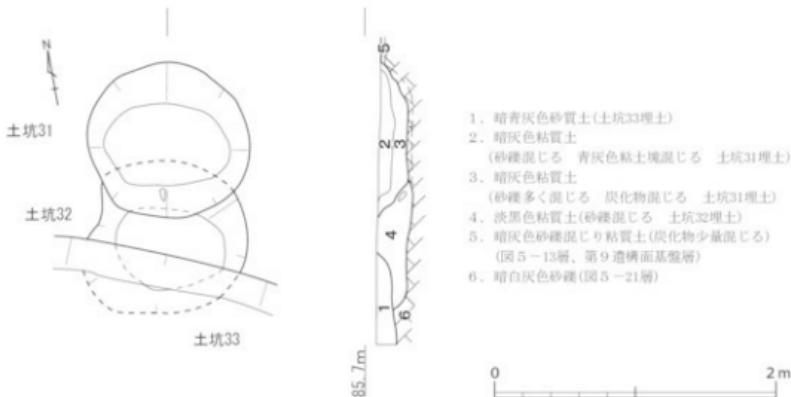


図 353 第9遺構面 南1区 土坑 28・29・30・31・32 平面・断面図 (S. =1/40)

図 354 に矢印記号で明示した。浅鉢(393 - 27)は、遺構外出土のものとも接合関係を有している。遺構埋土中から出土した土器群は、わずかに後期初頭のものを含むものの、中期末葉が主体である。したがって、遺構の埋没時期は中期末葉以降とみられる。一方、構築・使用時期については、床面出土遺物が明確でないため直接的には決定することは難しい。ただし、第9遺構面出土遺物の大半が中期末葉・北白川C式以降のものであることから、構築・使用時期も北白川C式期に当たる可能性が高いと言える。

特筆すべき点として、土坑北隅では最大長 66.6cm の棒状碟(404 - 1)と残存長 16.4 の円碟片(404 - 3)が検出されたことが挙げられる。棒状碟(404 - 1)は長辺を東西方向に向けて遺構床面に半分程度が埋まった状態で、円碟はその棒状碟の南東部上面に接していた。周囲に同様の碟は無く、何らかの意図をもって持ち込まれたものと言える。遺構との積極的な関連性を見出すことは難しいものの、立石や大形石棒は近畿地方の中期末～後期初頭の遺跡で散見され、それらと関係するような性格をもつことが示唆される。

#### ⑪土坑 34 (図 346・356) (南1区)

南1区南西半で検出した。平面形は長径 55cm、短径 43cm の不整梢円形で、深さは 15cm である。出土遺物は、深鉢(390 - 5)のほか、中期末に比定される深鉢胴部片が 1 点ある。

#### ⑫土坑 35 (図 346・356) (南1区)

南1区南西半で検出した。平面形は長径 55cm、短径 43cm の梢円形で、深さは 13cm である。出土遺物は、深鉢(390 - 6)がある。

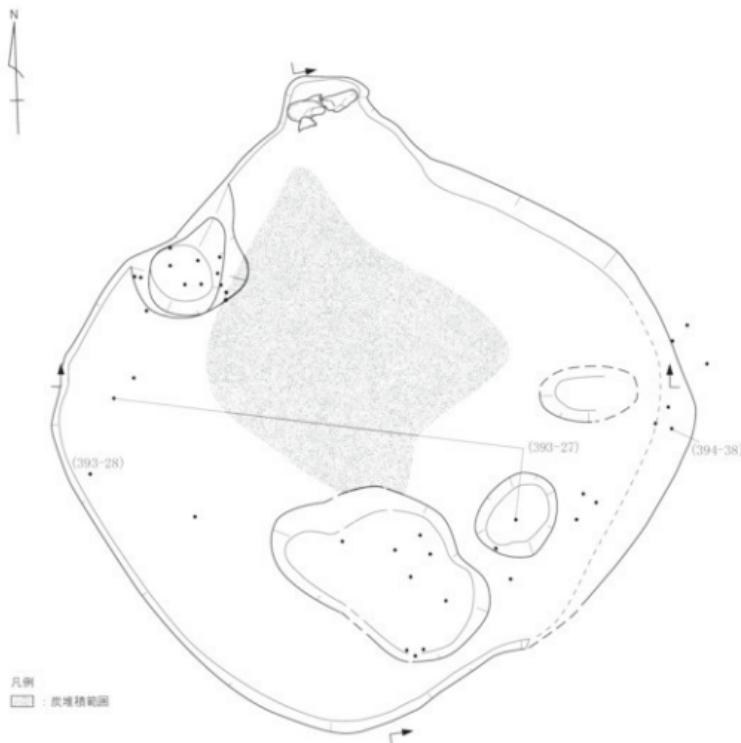


図354 第9遺構面 南1区 土坑33 平面・断面図 (S. = 1/50)

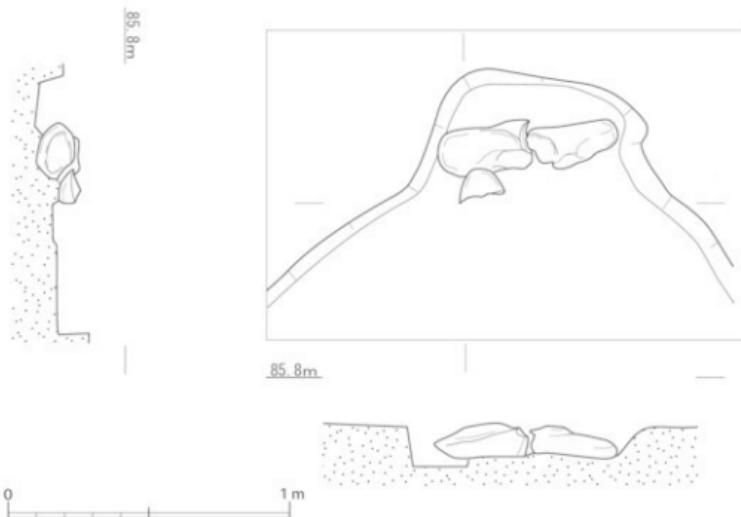


図355 第9遺構面 南1区 土坑33北端部 繰出土状況 平面・立面図 (S. = 1/20)

⑪土坑36(図346・356)(南1区)

南1区中央付近で検出した。平面形は長径68cm、短径60cmの楕円形で、深さは41cmである。出土遺物は、深鉢(390-7・8)のほか、磨消繩文をもつ深鉢・鉢の胴部片が各1点と、型式不明の土器片が15点ある。

⑫土坑37(図346・356)(南1区)

南1区中央付近で検出した。平面形は長径84cm、短径70cmの楕円形で、深さは20cmである。遺物の出土は無かった。

⑬土坑38(図346・356)(南1区)

南1区中央部で検出した。平面形は長径168cm、短径70cmの不整楕円形で、深さは25cmである。図356-5に見えるように、南半に径41cm、深さ16cmの窪みが認められる。出土遺物は、深鉢胴部片(390-9)、底部片(390-10)、砥石(403-2)のほか、中期末～後期初頭に比定される土器片4点と、型式不明の土器片10点がある。

⑭土坑39(図346・356)(南1区)

南1区中央付近で検出した。平面形は長径135cm、短径65cmの不整楕円形で、深さは12cmである。出土遺物は、後期初頭に比定される土器(395-39～43)、石錘(403-3・4)のほか、後期初頭の土器片4点と、型式不明の土器片13点がある。

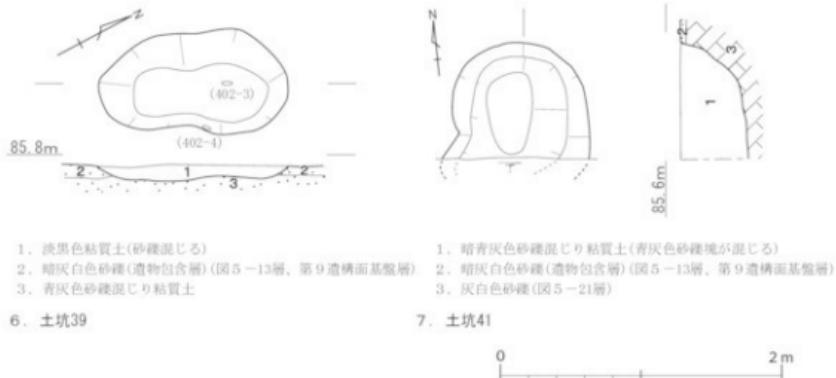
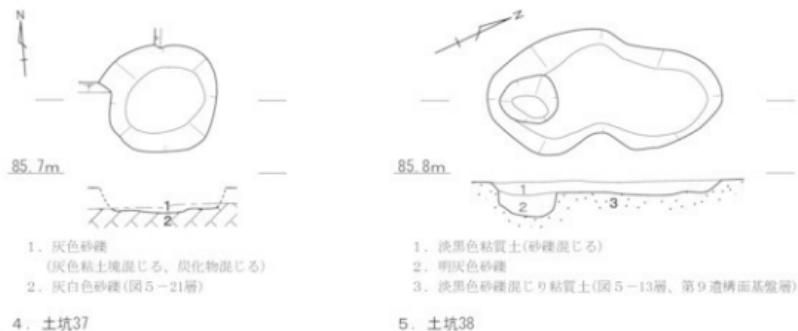
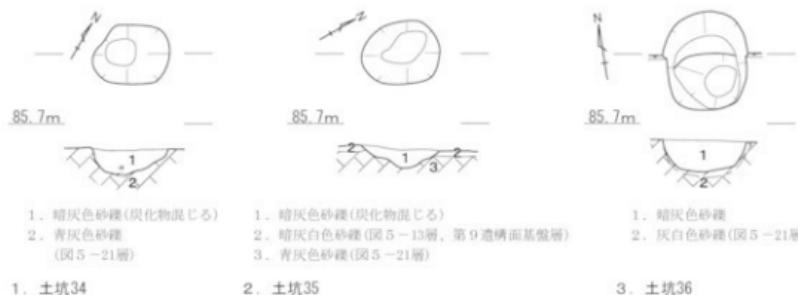


図356 第9造構面 南1区 土坑34・35・36・37・38・39・41 平面・断面図 (S. = 1/40)

#### ⑩土坑 40 (図 346・357) (南 1 区)

南 1 区中央の南寄りで検出した。幅 34cm ~ 74cm、深さ 15cm の溝が「コ」の字形に巡る。出土遺物は、鉢 (390 - 11)、底部片 (390 - 12 ~ 14) のほか、中期末~後期初頭に比定される土器片 12 点と、型式不明の土器片 1 点がある。

#### ⑪土坑 41 (図 344・356) (南 1 区)

南 1 区北半で検出した。平面形は径 94cm の不整円形になるとみられ、深さは 46cm である。出土遺物は、中期末~後期初頭の土器 (396 - 44 ~ 48) のほか、型式不明の土器片 38 点がある。

#### ⑫土坑 42 (図 347・357) (南 1 区)

南 1 区南東に設けたトレンチの北半で検出した。平面形は長径 80cm、短径 55cm の不整楕円形で、深さは 20cm である。図 357 - 2 に見えるように土坑の底面には起伏があり、土坑の底では長径 32cm、短径 22cm の板状礫 (403 - 5) を検出した。このほかに、中期末~後期初頭の土器片 (396 - 49 ~ 53)、磨消繩文をもつ深鉢胴部片 4 点と、型式不明の土器片 119 点が出土した。

#### ⑬土坑 43 (図 347・357) (南 1 区)

南 1 区南東に設けたトレンチの北半東端で検出した。土坑の東半は調査区外に展開している。平面形は長径 100cm 以上、短径 80cm の楕円形になるとみられ、深さは 14cm である。図 352 - 3 に示したように、土坑北側壁面でサヌカイトの剥片が出土した。このほか、中期末~後期初頭の土器 (396 - 54・55) が出土した。

#### ⑭土坑 44 (図 347・357) (南 1 区)

南 1 区南東に設けたトレンチの南半で検出した。平面形は長径 60cm、短径 55cm の円形で、深さ 10cm である。遺物の出土は無かった。

#### ⑮土坑 45 (図 347・357) (南 1 区)

南 1 区南東に設けたトレンチの南半で検出した。平面形は径 60cm の円形で、深さ 13cm である。出土遺物は、焼成粘土塊 (397 - 56) と、平底の底部 1 点、型式不明の土器片 3 点がある。

#### ⑯土坑 46 (図 345・358) (南 3 区)

南 3 区北東端で検出した。土坑の東半は調査区外に続いている。平面形は東西径 2.7m 以上、南北径 2.3m の不整楕円形になるとみられ、深さは 20cm である。出土遺物は、型式不明の土器片 3 点がある。

#### ⑰土坑 47 (図 345・359) (南 3 区)

南 3 区の中央部で検出した。平面形は長径 2.2m、短径 1m の不整楕円形で、深さ 14cm である。土坑の中央には深さ 18cm の窪みがあり、無文深鉢 (397 - 61) はこの窪みに沿うような状態で出土した。(397 - 61) は胴部下半と器体の三分の二程度を欠失しており、内面が上を向いた状態で検出された。この他に、中期末葉に比定される土器片 (397 - 57 ~ 60) と、型式不明の土器片 8 点が出土している。

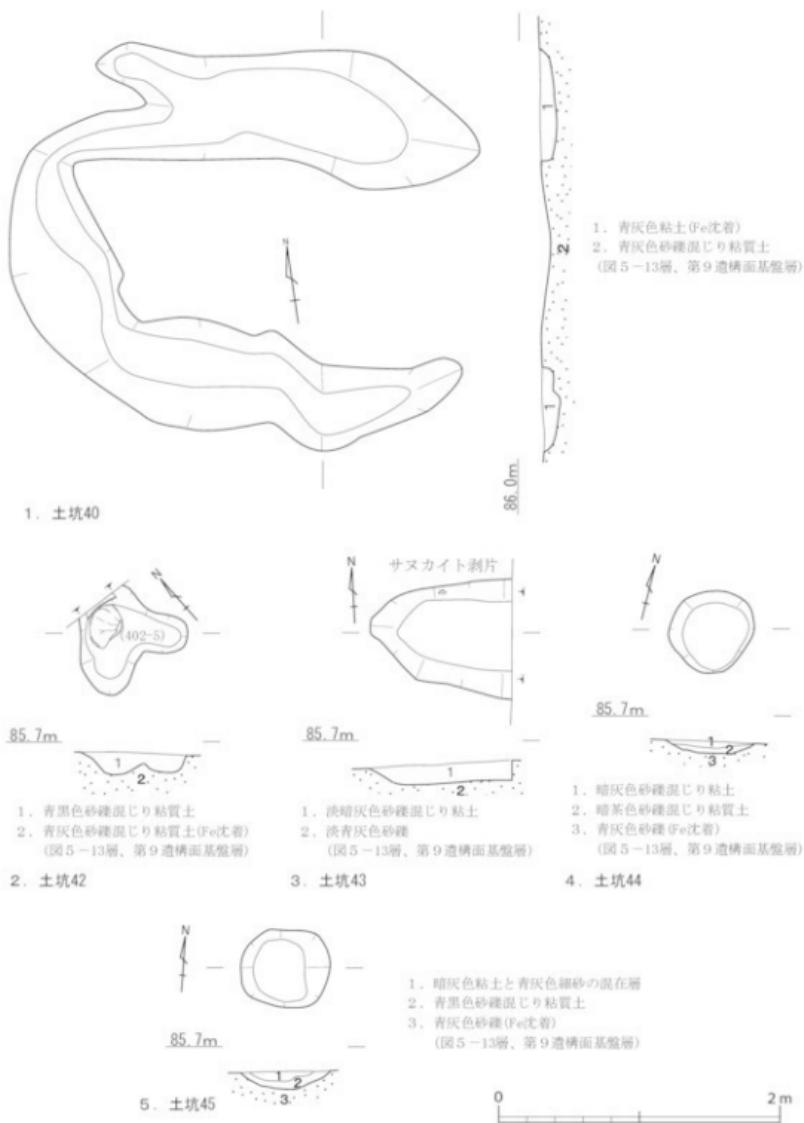


図357 第9遺構面 南1区 土坑40・42・43・44・45 平面・断面図 (S. = 1/40)

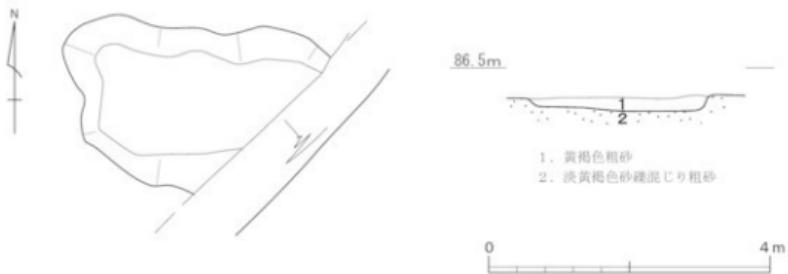


図 358 第9遺構面 南3区 土坑46 平面・断面図 (S.=1/80)

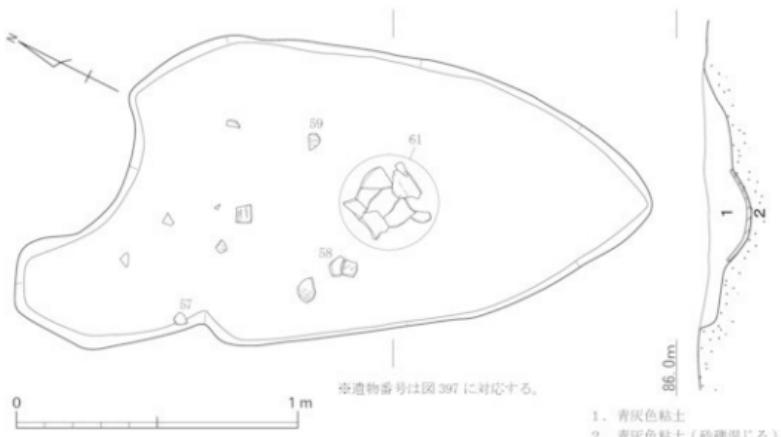


図 359 第9遺構面 南3区 土坑47 平面・断面図 (S.=1/20)

### (5) 流路

#### ①流路7 (図346・360) (南1区)

南1区の調査区西端で検出した。検出状況から北東—南西方向の流路であるらしいことが窺えるが、多くが調査区外に当たるため不詳である。検出幅4m、同深さ1.1mであるが、いずれも流路の一部を検出したものであるため、流路の規模はそれ以上になる。

出土遺物は肩部から後期初頭に比定される土器がある。このことから、流路7の埋没時期は後期初頭を過らないことがわかる。また、この年代観から、本章の冒頭に記したように、流路7の埋土上に構築された土坑24～30は、ほかの遺構よりも新しいものであると考えられる。

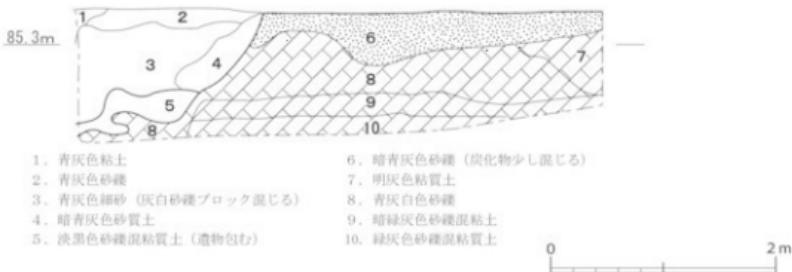


図 360 第9遺構面 南1区 流路7 断面図 (S. = 1/50)

## 2. 遺物

### (1) 土器・土製品

第9遺構面出土の土器・土製品は、縄文時代中期末葉から後期初頭にかけてのものが大半を占める。このほか、縄文前期初頭、中期前葉、後期後葉、弥生前期に比定できるものがごく少量ある。以下では、第9遺構面出土の土器・土製品について、中期末葉から後期初頭に比定される土器群については分類を設定のうえ記述する。その他の時期のものについては、既往の土器型式編年に即して記述する。

#### ①中期末～後期初頭の土器の分類

当該期の土器群には、深鉢、鉢、壺の3つの器種が認められる。主として、口径が器高よりも小さくなるものを「深鉢形土器（以下、深鉢）」、口径が器高より大きくなるものを「鉢形土器（以下、鉢）」、口径が胴部径より著しく小さくなるものを「壺形土器（以下、壺）」とした。以上の器種のうち、特に深鉢と鉢について、形態と文様の特徴から、以下に示す分類群を設定した。

**深鉢 I 群** 脇部にゆるいくびれをもつ器形で、口縁部と脇部の文様が分かれているもの。各文様帶には、隆帯文、沈線文、刺突文、磨消縄文など、多様な手法が組み合わさって施文される。ほぼ中期末葉・北白川C式（泉 1985）の範疇であるが、後述のE類のなかには後期初頭に下るものも含んでいる。口縁部の形態と口部断面形態、および文様構成から、以下のA～E類に分類する。

**A類** ゆるい波状口縁で、口縁部と脇部を隆帯によって区分するもの。波頂部に渦巻き文などの主文様を配し、その両側に方形区画などの側文様を置く文様構成をとる。

**B類** 平縁またはゆるい波状口縁で、口縁端部よりやや下がったところに楕円形または長方形の隆帯区画文を配するもの。隆帯区画内には羽状文や刺突文が施される。

**C類** 富士山形を呈する大ぶりの波状口縁をもつもの。口縁部と脇部が形態上区分されず、多重弧線文など文様によって区分される。ただし、口縁端部が屈曲または肥厚し、ここに区画文または鉤状沈線を施すものもある。

D 類 平縁またはゆるい波状口縁で、口縁部と胴部は形態上区分されず、多重沈線文など文様によって区分するもの。口縁部文様は、A 類と同じく主文様と側文様で構成されるものと、主文様をもたず波状文または弧線文のみをもつものとがある。

E 類 平縁で、口縁部文様が刺突文または矢羽状文のみのもの。口縁部と胴部を段によって分離するものと、形態上区分しないものの二者がある。

深鉢II群 胴部にくびれをもつ器形で、口縁部と胴部の文様が連続的なもの。主として磨消繩文によって施文され、他の手法はふるわない。後期初頭・中津式から福田 KII 式(玉田 1989)の範疇である。主として胴部の文様構成によって、以下の A ~ D 類に分類する。

A 類 口縁部に横位に展開する文様を施し、その下に紡錘文や垂下帯文など垂下する文様を描くもの。

B 類 胴部に縱長の J 字文をもつもの。一段の J 字を描くものと、J 字を縱に 2 段連ねたものとがある。

C 類 渦巻文や横長の J 字文などが横向方に展開するもの。

D 類 不定形な磨消繩文の意匠をもつもの。

深鉢III群 胴部にくびれをもつ器形で、文様意匠をもたないもの。用いられる施文具の差異により、以下の A ~ D 類に分類する。

A 類 平縁で、帯状繩文によって施文するもの。口縁部に横位の帯状繩文、胴部に縱位の帯状繩文が等間隔に施されるものが多い。

B 類 施文をもたず、調整痕のみを器面にのこすもの。無文土器。

C 類 柳歛状の工具による条線によって施文されるもの。

D 類 繩文のみを施すもの。

深鉢IV群 中期末～後期初頭の所産とみられるもので、異系統土器、または上述の I ~ III 群にあてはまらないものを一括して IV 群とする。

鉢I群 沈線文、刺突文、隆帯文、繩文などを組み合わせて施文するもの。ほぼ中期末葉・北白川 C 式(泉 1985)の範疇である。器形と文様によって、以下の A ~ C 類に分類する。

A 類 ゆるい波状口縁または平縁で、口縁部と胴部を屈曲によって区分するもの。口縁部文様に主文様と側文様を有する Aa 類、口縁部に刺突文のみをほどこす Ab 類、隆帯文のみの Ac 類に細分される。

B 類 平縁で、文様意匠をもたず、口縁部に環状把手のみをもつもの。

C 類 口縁部を形態上区分せず、皿形の器形となるもの。

鉢II群 磨消繩文によって施文するもの。後期初頭・中津式(玉田 1989)の範疇である。器形によって以下の A・B 類に分類する。

A 類 底部から外反して立ち上がり、口縁部が内彎して椀形の器形となるもの。

B類 底部から直線的に立ち上がって口縁部に至り、筒形の器形となるもの。

鉢Ⅲ群 文様意匠をもたないもの。器形によって次のA～B類に分類する。

A類 口縁部と胸部を屈曲によって分離するもの。

B類 口縁部を形態上区分せず、皿形の器形となるもの。

底部破片については、上述の器種分類に当てはめることが困難なものが多いため、以下に設定する底面の形態分類にそくして記述した。

平底 底面が平坦で、全面が接地するもの。

凹底 底面の外縁部のみが接地するもの。

高台底 底面外縁部が立ち上がり、底面の断面がH字状になるもの。

## ②遺構面出土の土器・土製品

(361-1～5)は深鉢I群A類。

(361-1)は、波頂部に隆帯によって円文を描き、内部はナデて無文とする。両側の方形区画内には、斜下方からの刺突による羽状刺突文を充填している。(361-2)は口縁端部を欠失するが、波頂部付近になるとみられる。主文様は三角形状の隆帯文になるとみられ、隆帯に沿って引かれる沈線は押し引き状を呈する。胸部には多重連弧文が描かれる。(361-3)は半円文の区画内に竹管状工具による円形刺突をほどこす。(361-4)は三角形の隆帯区画内に押し引き沈線による多重半円文をほどこす。(361-5)は波頂部に円形の隆帯文を配し、その両側に方形区画をもつ。隆帯文および方形区画に沿って押し引き沈線が施され、その内部には縄文が充填される。

(361-6～9)は深鉢I群B類。いずれも小破片で明確な資料に乏しい。

(361-7)は長方形の隆帯区画文の連結部付近とみられる。隆帶上には縄文が付される。胸部にはやや太い沈線によって磨消縄文的な垂下文がほどこされる。(361-8)は高い隆帶をもち、隆帶上には縄文が付される。隆帶区画内には円形刺突文が施される。内面は剥離している。(361-9)は眼鏡状隆帶の連結部付近で、隆帶区画内には円形刺突文が施される。隆帶下には渦巻き文が配される。

(361-10～362-24)は深鉢I群C類。

(361-10～17)は口縁端部が無文または縄文のみのもの。(361-10)は、口縁にそって2条の弧線文を配し、その下に円文を描く。(361-11)は、波頂部に3本単位の沈線が「人」字状に垂下する。(362-18～24)は、端部に沈線文をもつもの。(362-18)は沈線内に円形刺突をもつ。波頂部の角から斜位に垂下する隆帶をもち、その両脇に沈線が加えられる。(362-20～24)は同一個体。胸部まで残存する唯一の例で、くびれが弱くバケツ形に近い形態をとる。(362-20～22)はいずれも波頂部付近の破片であるが、文様意匠は少しずつ異なっている。胸部半ばには多重連弧文が連続して配され、その下に2本の沈線が垂下する。波頂部の端部には円形刺突列が施され、波底部はL字の沈線間に円形刺突が配される。胎土には角閃石が目立つ。



图 361 第9遗构面 遗构面上 出土土器 (1) (S. = 1/3)



图 362 第9遺構面 遺構面上 出土土器 (2) (S. = 1/3)



図363 第9遺構面 遺構面上 出土土器(3) (S.=1/3)

(363-25~33)は深鉢I群D類。

(363-25・26)は渦巻き文を単位文にもつ。(363-25)は緩やかな波状口縁の波頂部に渦巻き文を配し、その横には2列の刺突列を充填した方形区画文が施される。その下には多重連弧文が配される。渦巻き文は施文後のナデ調整と縄文施文によって一部が潰れている。口縁端部は面取りののち縄文が付される。(363-26)は波頂部の端部がやや肥厚し、縄文が付される。(363-27・28)は凹点列を主文様にもつ。(363-28)は口縁部直下に1条の沈線をもち、その下には凹点と方形区画文が配される。その下には多重連弧文が配される。(363-29~33)は単位文をもたない。(363-30)は口縁部に沿った2条の平行沈線の下部に連弧文をもつ。波頂部では平行沈線と連弧文の間隙に円形またはD字形の刺突文を充填する。(363-29)は口縁部に沿って2条の連弧文を配し、その下に短い波長の波状文を描く。縄文が地文として用いられているが、摩滅のため不明瞭となっている。(363-33)はLRの縄文地に、口縁に沿った2条の平行沈線と多重連弧文を連続的にほどこす。描線が細く、ヘラ状工具の先端または半截竹管の内側で施文していると考えられる。

(364-34~43)は深鉢I群E類。

(364 - 34 ~ 36) は、沈線区画内に刺突文を充填するもの。口頭部界ののこる (364 - 34・35) は、ともに段によって口縁部を区画している。区画内の文様は、(364 - 34) のみ 1 条の押し引き風の刺突列で、その他は 2 ~ 4 条の下方からの連続刺突による羽状刺突文をもつ。(364 - 34) の胴部には、垂下する磨消繩文帯が等間隔に配される。(364 - 38 ~ 43) は、区画を伴わず羽状刺突文または羽状沈線文のみを配するもの。(364 - 37) は口頭部界に段をもち、胴部には 2 ~ 3 本の沈線による長方形区画文の内部に縱位繩文を施した文様を配すると見られる。後述の土坑 47 出土の (397 - 58) と同一個体とみられる。(364 - 38 ~ 40) は、胴部に磨消繩文による横位展開の文様が付されている。これらは口縁部文様と胴部文様が互いに独立しているものの、胴部文様に整った磨消繩文によるモチーフをもつことから、後期初頭・中津式に位置づけられる可能性が高い。口縁部に羽状文をもち、胴部に磨消繩文意匠をもつ例は、奈良県下茶屋地蔵谷遺跡、同大官大寺遺跡下層、同布留遺跡や和歌山県市脇遺跡などで見られる。紀伊半島南半に多く見られるもので、中津式の地域性を示すもの一つであると認識されている（玉田 1989）。(364 - 41 ~ 43) は胴部が無文となるもの。(364 - 43) は口縁端部を面取りしたのち、刻みをほどこしている。端部の刻みと外面の羽状文とは対応関係がなく、別個に施文されている。(364 - 42) は、短い棒状隆帯を貼り付ける。他に比べて刺突の幅が狭く小さい。

(365 - 44 ~ 50) は深鉢 I 群の胴部片。

(365 - 44 ~ 46) は、縱位展開の文様をもつもの。(365 - 44) は胴部径 15.0cm に復元される小形の土器で、くびれ部で文様が上下 2 段に分かれ。(365 - 46) はやや太い沈線によって、縱位の繩文施文後に蛇行沈線と二条の垂下沈線が施される。(365 - 47 ~ 50) は、横位展開の文様をもつもの。(365 - 47・49) は、多重沈線による連弧文をもつ。(365 - 48・50) は、短い平行線を 2 ~ 3 本重ねている。(365 - 50) は、繩文が 1 条ごとに深浅を繰り返す特徴的な撲りをもつ。

(366 - 51 ~ 56) は深鉢 II 群 A 類。いずれも胴部上半のみ残存しているため、文様下端のあり方は不明である。

(366 - 51・52・55) は、小 J 字文の下部に紡錘文が重れ下がるような文様構成となる。また、(366 - 53) は同様の文様構成がくずれたものと考えられる。口縁部には、球形の突起と扁平な突起が交互に配されている。(366 - 51) の紡錘文は、中半に突出部をもつ碇付き紡錘文になるとみられる。口縁部には、波頂部に L 字状の磨消繩文意匠が描かれ、その両脇には凹点と方形区画文が配される。口縁端部は、波頂部にはキザミがほどこされ、その他は繩文が施文される。口縁部下の文様と胴部文様の間に無文部を見出すことができる。このような文様構成は、大きく波状する器形とともに、I 群 C 類との系統的繋がりを見出すことができよう。

(367 - 57 ~ 370 - 70) は、深鉢 II 群 B 類。

(367 - 57) は口縁部に弧状の区画文をもち、胴部には一段の縱長 J 字文をほどこす。描線はや

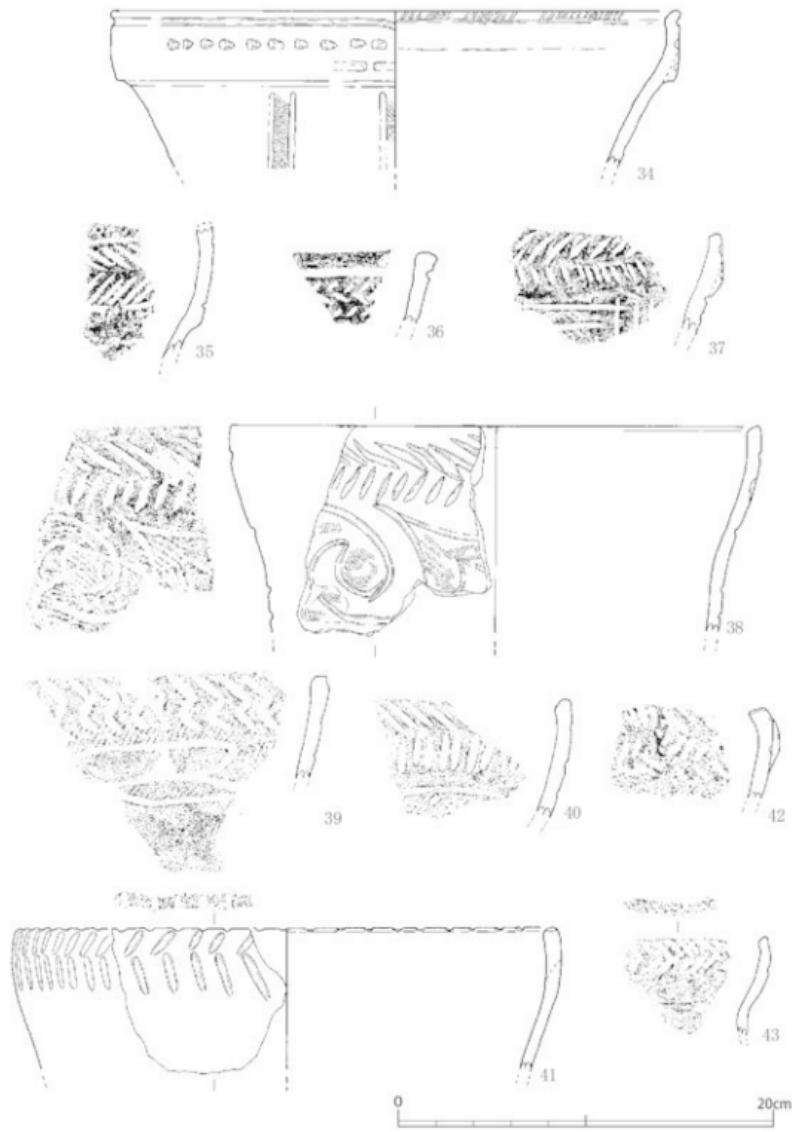


図364 第9造構面 造構面上 出土土器 (4) (S. = 1/3)

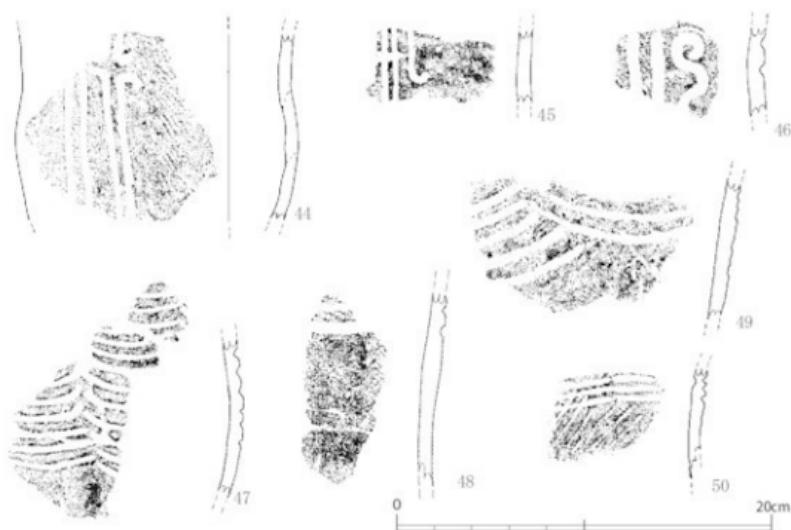


図 365 第9遺構面 遺構面上 出土土器（5）(S. = 1/3)

や太く浅い。口縁部から胴部上半にかけて直線的で、胴部の張りが強い器形となる。(367-58)は波頂部下に大ぶりのJ字を描くが、下半を欠失するため全体の文様構成は不明である。

(367-59~70)は、胴部に縦位2段のJ字文をもつ。(367-59~369-62)は、口縁部に区画文をもち、胴部には縦位の2段J字文と、J字文間にすきま埋めの区画文を配する文様構成をとる。(369-64~370-68)も同様の文様構成をとるとみられ、(369-63)は胎土および形態・文様の特徴から(367-59)と同一個体と考えられる。(369-65)の外面には赤色顔料が付着しており、分析の結果、水銀朱が用いられていることがわかっている。詳細は第7章第2節を参照のこと。なお、(369-65)はオオバコ原体の擬繩文がほどこされている。

縦位2段のJ字文を中心とする文様構成は、関東地方の称名寺式に特徴的なものとされ、称名寺式の変遷において中段階の指標となっている(鈴木1990、石井1992)。近畿地方ではこれまで、同様の文様構成をとる例はほとんど見出されておらず、当資料群は中津式／称名寺式の展開における東西地域の関係性を知る上で重要な資料である。これらの文様構成上の特徴として、いずれも口縁部に区画文をもつ点が挙げられる。称名寺式では、この段階には口縁部文様をもつものが少なくなっていることと対照的で、口縁部文様が継続する中津式の影響がうかがわれる。文様下端の処理は多様で、(369-60)ではJ字文の描線下端が区画文と繋がる一方、(367-59・368-61)はJ字文の描線どうしが連絡している。また、(369-62)独立した連弧文によって文様下端が明確に区画されている。なお、いずれの土器も胎土について他の土器と明瞭な差異はないため、搬入

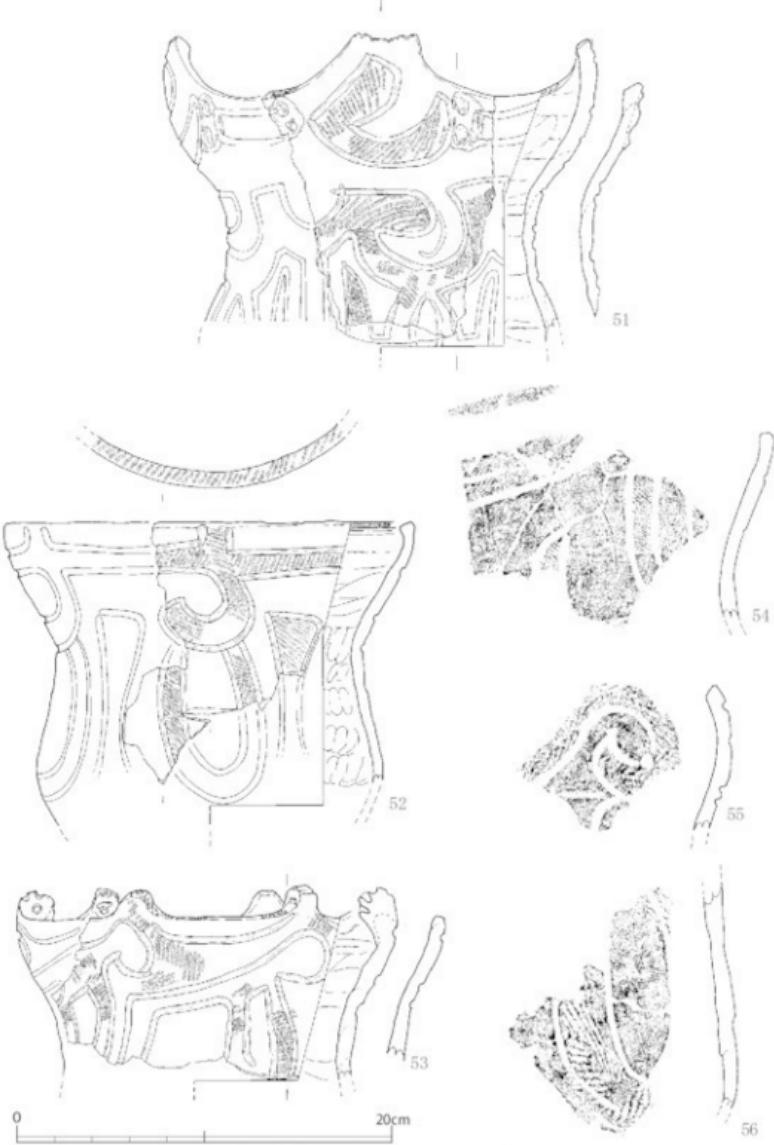


図 366 第 9 構造面 遺構面上 出土土器 (6) (S. = 1/3)

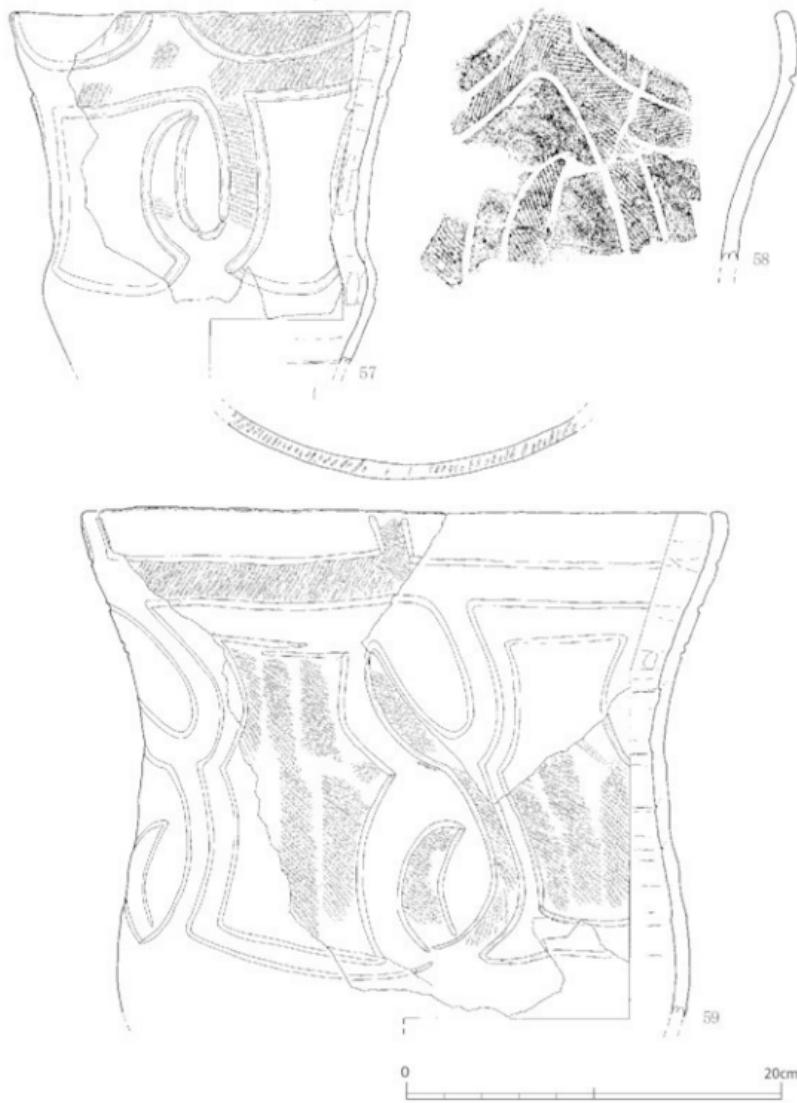


图367 第9遗構面 遗構面上 出土土器(7) (S. = 1/3)

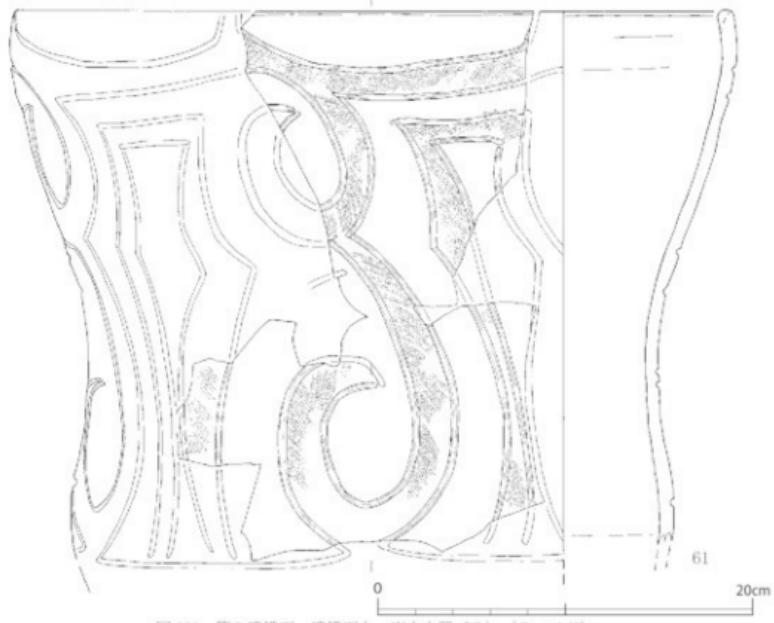
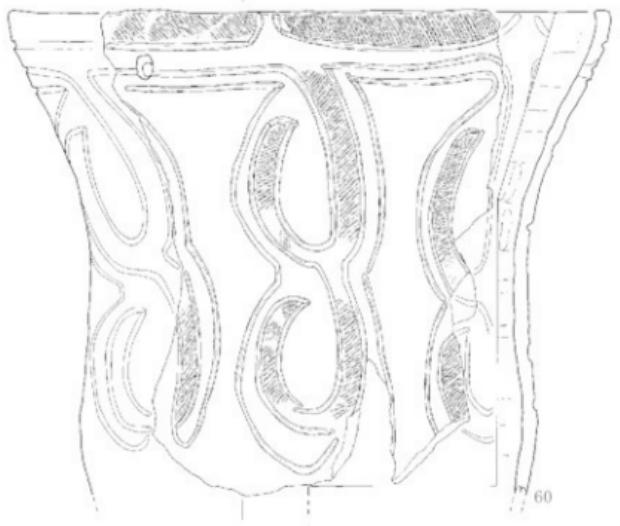


図 368 第9遺構面 遺構面上 出土土器 (8) (S. = 1/3)

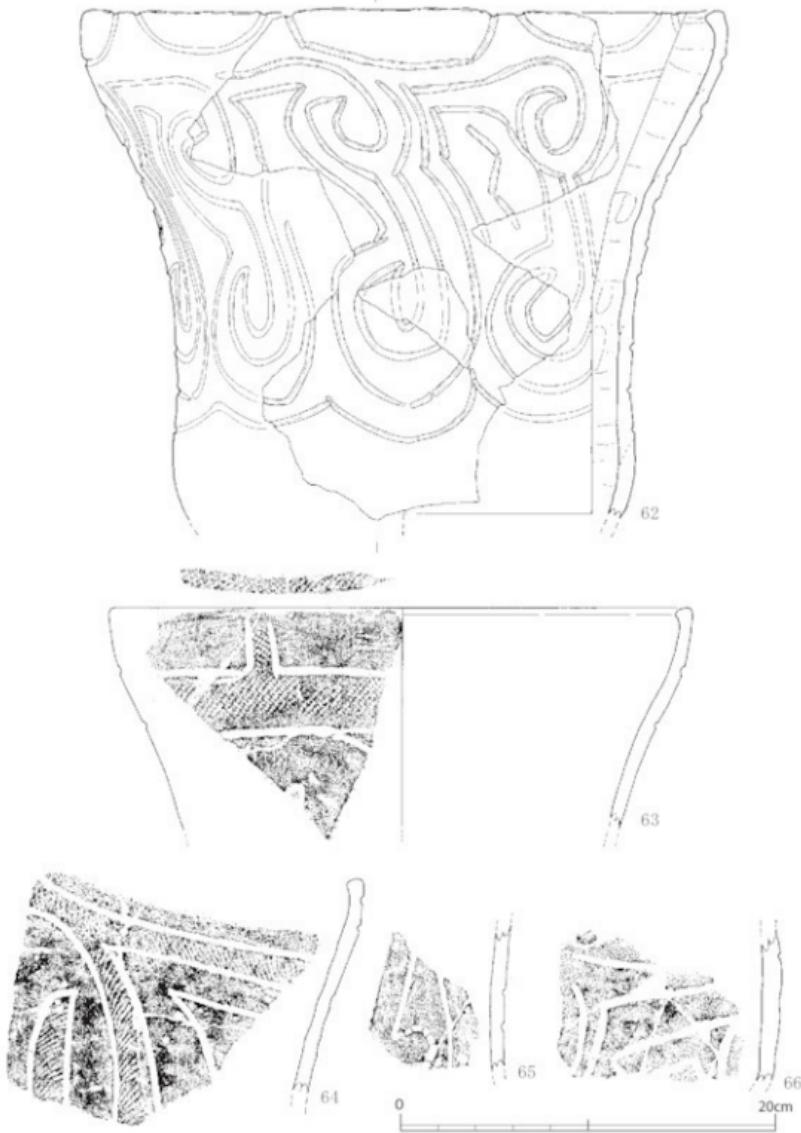


図369 第9遺構面 遺構面上 出土土器(9) (S.=1/3)

品である可能性は低い。また、関東地方の後期初頭土器はミガキ調整が顕著で、器壁 10mm 前後と厚みもあるが、本遺跡のものにそうした特徴はみられず、製作技術の面で違いがおおきい。したがって、これらの土器は在地集団が関東的な意匠を模倣して製作したものと考えられる。

(370 - 69・70) はおそらく 2 段となる継位 J 字文の間に垂下文を配し、下端は小 J 字文を単位的に配する弧状の縄文帯によって連絡している。型式的には、先述の J 字文間にすきま埋め文様を配するものに先行する位置付けが与えられる。(370 - 69) は器面にオサエによる凹凸が目立つ。

(371 - 71 ~ 374 - 86) は深鉢 II 群 C 類。

(371 - 71) は、口縁部に枠状区画をもち、胴部には中段で連絡する二段の渦巻き文が配される。上下で渦巻き文の形態が異なっており、上段に比べて下段のものは扁平である。内面のミガキ調整は幅 1.5cm とやや広く、光沢も顕著ではない。(371 - 72) は口縁部に縄文帯をもち、その下位に無文部で渦巻き文を描出する。渦巻き文の間には、垂下する帯状縄文がほどこされる。(371 - 73) は、横長の J 字文が 2 段に分かれて配される。上段は縄文部、下段は無文部で意匠が描出されている。施文原体にはオオバコが用いられている点、特徴的である。上段の文様は、ペダル形文と小 J 字文が交互に配されるものと考えられる。(372 - 74) は残存部からみて、(371 - 72) のように、胴部に無文部によって描出される渦巻き文が施されるものと考えられる。(372 - 75) は、口縁部に区画文をもち、胴部に横位に連続する小 J 字文を描くものとみられる。(372 - 76) は縄文帯の幅が狭く、福田 K2 式に近い特徴をもつ。(372 - 77・79・80・82) は波頂部が平坦となる大ぶりの波状口縁を呈し、深鉢 I 群 C 類からの系統的繋がりを見て取ることが出来る。(373 - 77) は波頂部の内外面口縁部下と口縁端部に竹管状工具による刺突が加えられている。(373 - 80・82) は口縁部に弧状の区画文をもち、大ぶりの渦巻き文を描くものとみられる。(374 - 83) は J 字文または渦巻き文の下半であると考えられる。下端は弧線によって連絡される。器壁が厚く、内面には接合痕を明瞭に残している。(374 - 85) は(371 - 71) の下段の渦巻き文のような、横長の渦巻き文の一部と考えられる。(374 - 86) は平行沈線間に細線を充填している。縄文の代わりに細線を充填するものは東海西部に類例が多い。

(375 - 87 ~ 90) は深鉢 II 群 D 類。

(375 - 87) は全体の構成は不明であるが、J 字文が崩れたものと見ることができる。口縁部下に幅の狭い無文帯があり、その下に縄文部によって意匠が描出される。(375 - 88) は山形の波状口縁で、三單位波状に復元できる。口縁端部はやや内面に突出し、その上面には縄文と単位的な短沈線がほどこされる。胴部には渦巻き文が崩れたような曲線的な沈線文が施され、一部は磨消縄文となるが、明確な意匠をなさない。文様下端の連絡はなく、閉じずに解放している。底部は平底で、胴部にかけて直線的に立ち上がる形態をとる。(375 - 89・90) はいずれも口縁部に弧状の区画文をもつが、胴部文様には描線に乱れが多く、明確な意匠をなさない。(375 - 89) は口縁

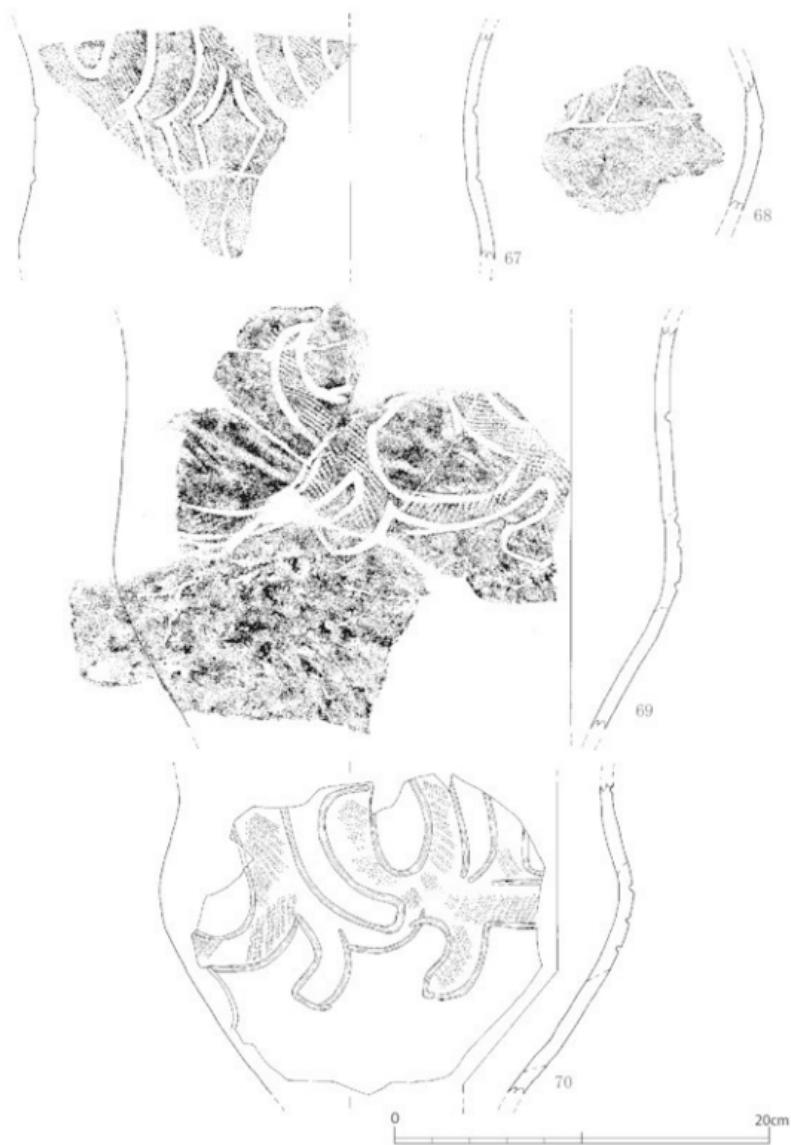
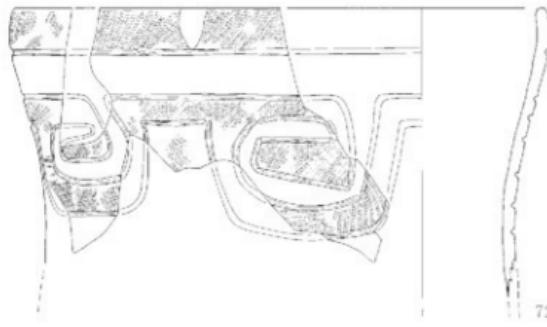
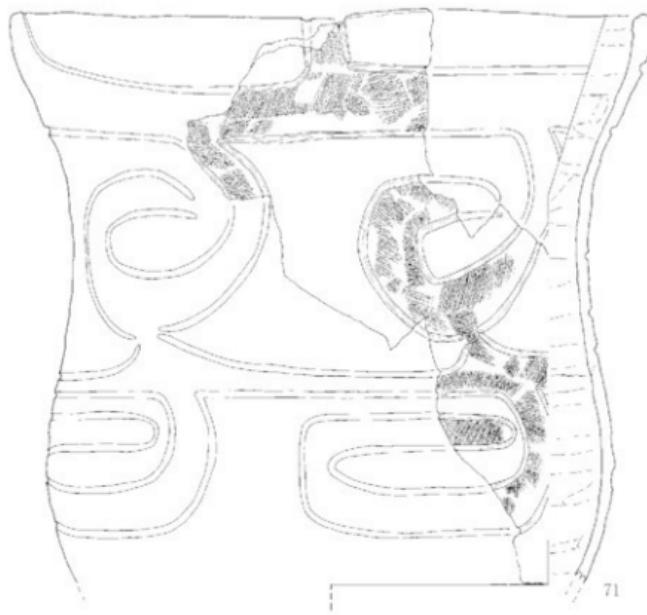
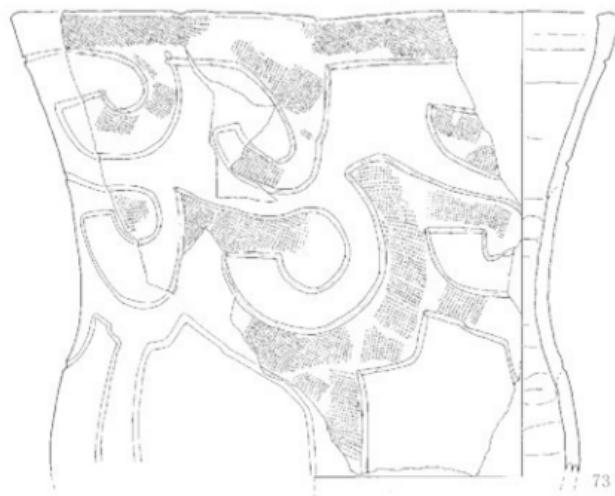


图 370 第 9 遗构面 遗构面上 出土土器 (10) ( $S_r = 1/3$ )



0 20cm

图 371 第9遗构面 遗构面上 出土土器 (11) (S. = 1/3)



73



74



20cm

図372 第9遺構面 遺構面上 出土土器 (12) (S. = 1/3)

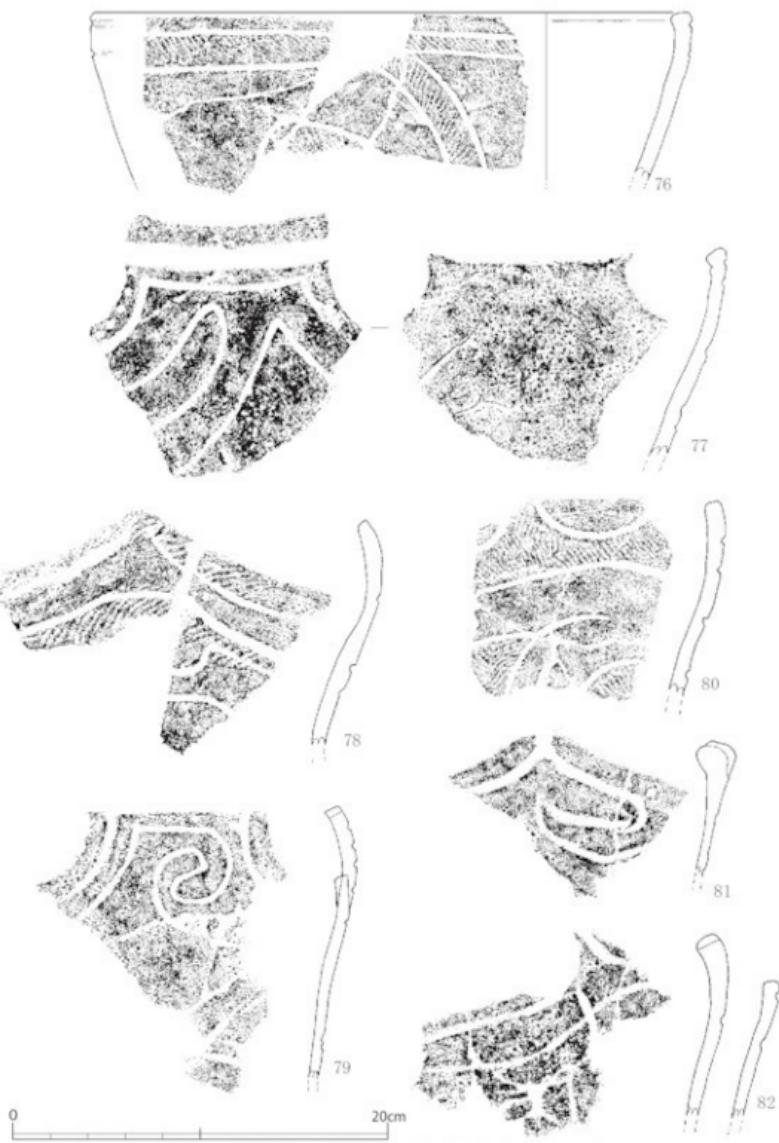


图 373 第9遺構面 遺構面上 出土土器 (13) (S. = 1/3)

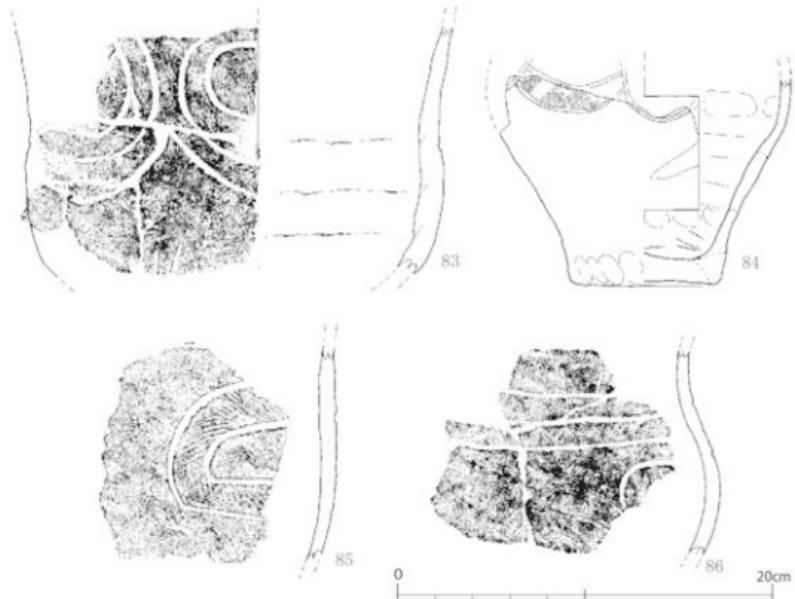


図 374 第 9 遺構面 遺構面上 出土土器 (14) (S. = 1/3)

端部に竹管状工具による刺突をほどこす。(375—90) は端部に縄文のような圧痕がみられるが、撲りや織維痕が明瞭でなく、原体は不明である。

(376—91~103) は深鉢Ⅱ群にあたるが、細分類の不明なもの。

(376—91・92) は口縁部に方形区画文をもつ。(376—91) に四点と棒状隆帯が、(376—92) には継連の凹点列がほどこされている。(376—93・94) は同一個体とみられ、土坑 43 より出土した (396—54) とも同一とみられる。波頂部下に円孔をもち、それを囲うように円形の縄文帯が描かれる。(376—95) は波頂部が肥厚して筒状の突起をなし、その上面には円形の凹みが施される。縄文原体がきわめて細く、オオバコを原体とした擬縄文であると考えられる。(376—100・101) は、細い縄文帯によって意匠を描いており、福田 K 2 式に近い特徴を有する。(376—103) は、口縁部下に沈線をめぐらせ、意匠は不明であるものの、縦位展開の文様をほどこすものとみられる。残存部からみて、体部にくびれをもたない砲弾形の器形と考えられる。

(377—104~378—116) は、深鉢Ⅲ群 A 類。

(377—104~107) は、段によって口頸部界を区分するもの。口縁部をやや肥厚させるとともに、ナデ調整によって口頸部に段を作り出している。(377—104) には、口縁部に鋸歯状の沈線文が施されている点、特徴的である。

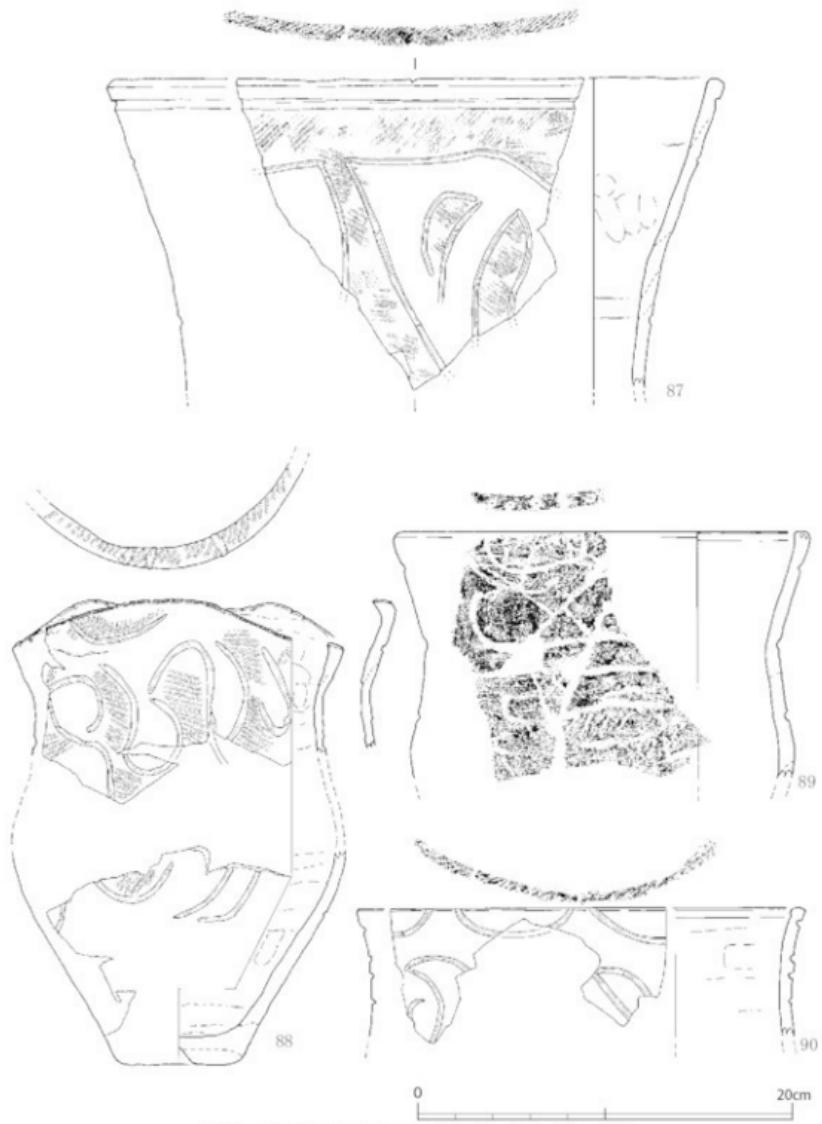


图375 第9遗构面 遗构面上 出土土器 (15) (S. = 1/3)

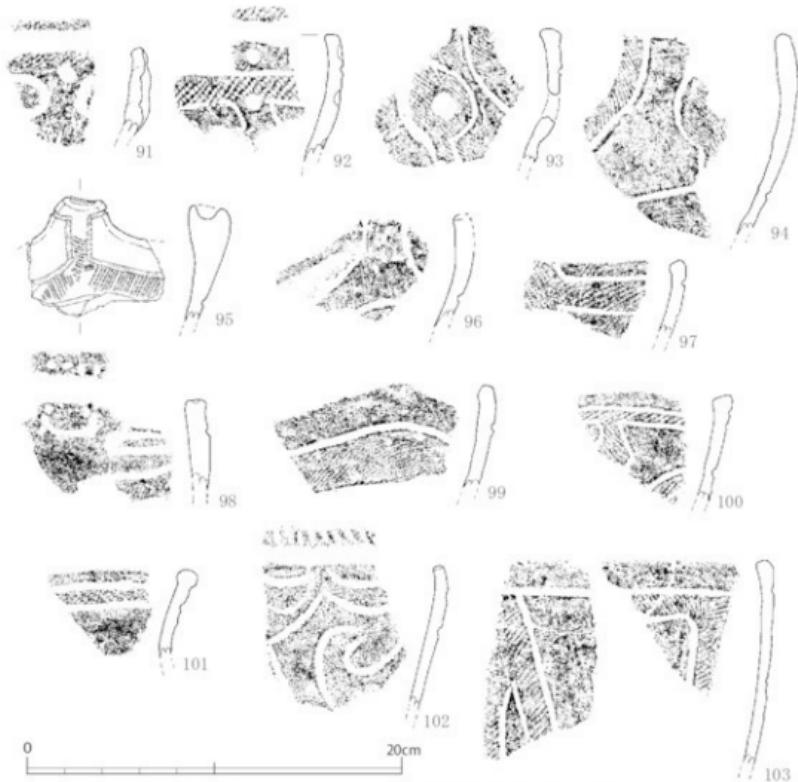


図376 第9遺構面 遺構面上 出土土器(16) (S.=1/3)

(377-108~378-110・113・114)は、口頸部界が形態上区分されないもの。(377-108~378-110・115)は口縁部に横位の帯状繩文をもつが、(378-113・114)はこれを持たず、垂下する帯状繩文のみが施される。

(378-116)は、隆帶によって口頸部界を区分するもの。口縁部下は横位の繩文が配され、口頸部を区画する隆帶上にはD字状の刻みが加えられる。隆帶下は無文である。この種の土器は後述する上述の帯繩文土器とともに、「馬場川O式」に特徴的なものとされ、泉分類の北白川C式深鉢B類（本稿の分類では深鉢I群B類にほぼ相当）からの変遷を想定されている（中村1980）。一方で、同様の手法により口頸部界を区画する土器群は、瀬戸内地方の矢部奥田式（矢野1994）のほか、中部・東海地方の中期後葉～末葉の土器群にも見受けられることから、より多様的な変遷過程があったことが想定される。

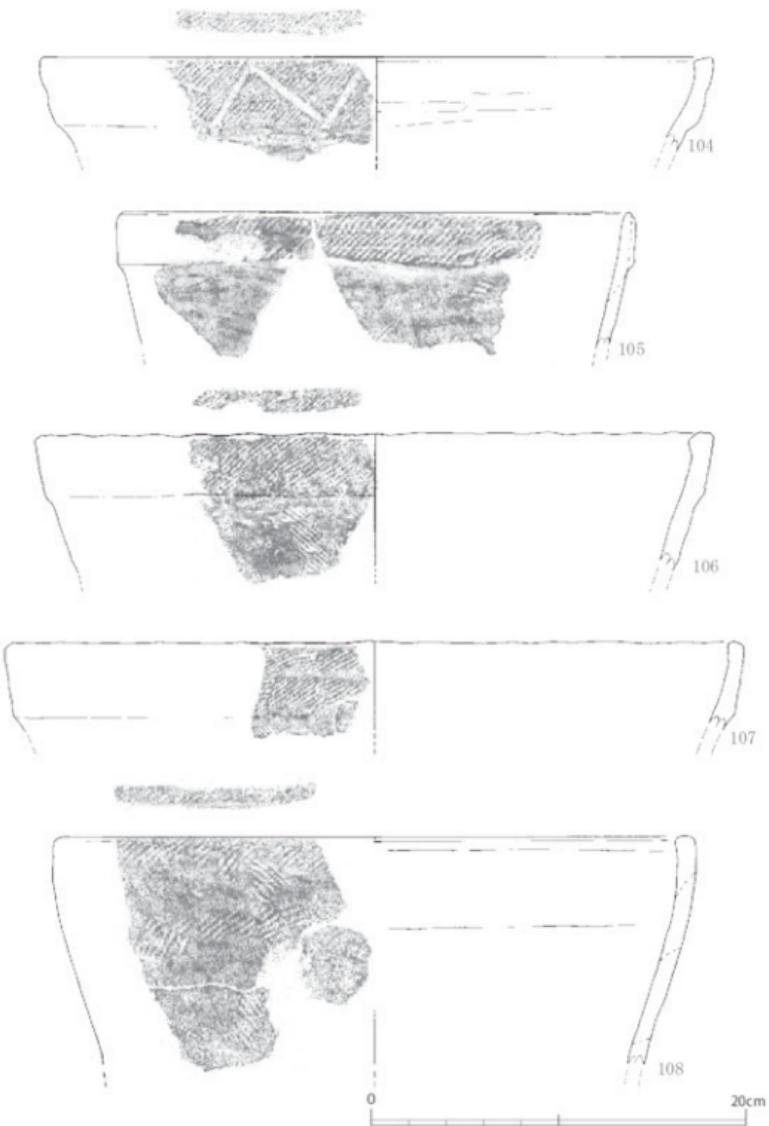


图 377 第9道構面 道構面上 出土土器 (17) (S. =1/3)

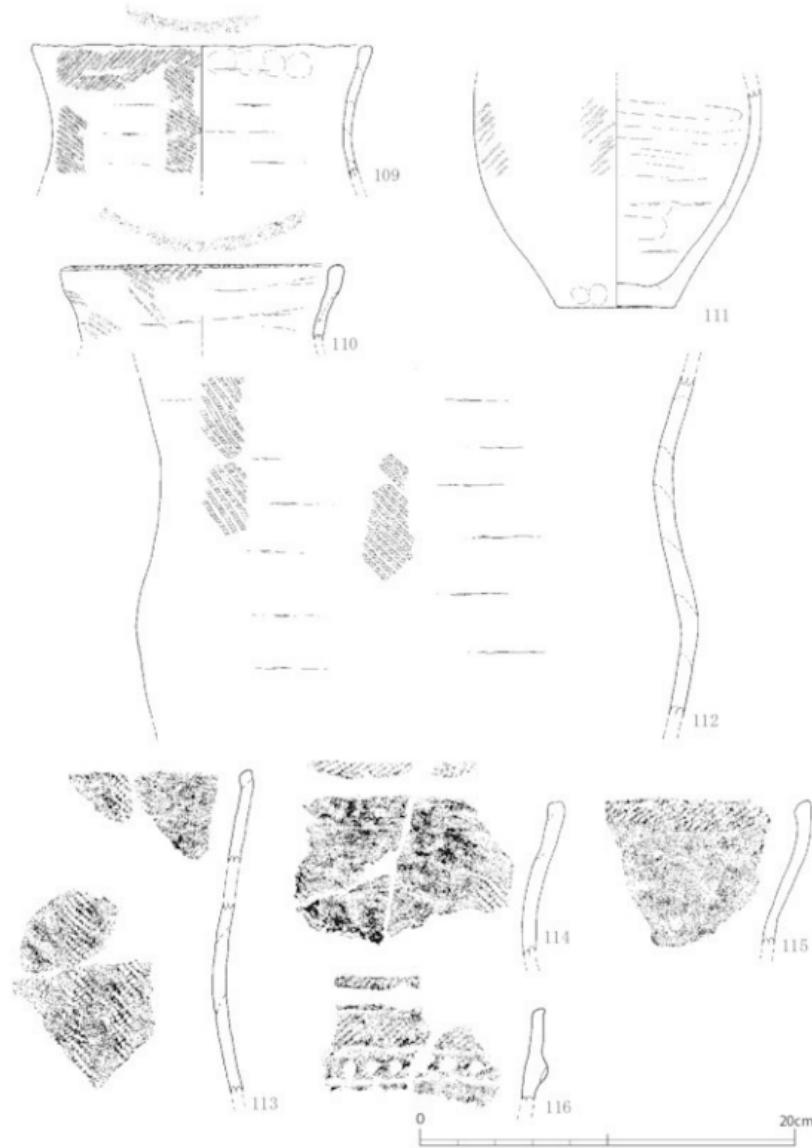


图 378 第9道構面 道構面上 出土土器 (18) (S. = 1/3)

(379－117) は深鉢Ⅲ群B類。口縁端部には丸棒状工具による刺突が施される。なお、本遺跡では無文土器の出土が少ないことが特徴として指摘できる。

(379－118～120) は条線施文をもつ深鉢Ⅲ群C類。(379－118) は口縁部からやや下がったところに、横方向の5条の条線をもつ。(379－119) は口縁部に横方向の条線をほどこし、その下位に斜位または縱位の条線が加えられる。(379－120) は胴部くびれ部に横方向の条線をほどこし、そのうち縱位の条線が加えられて、格子状の条線文となる。

(379－121・122) は縄文のみをほどこす深鉢Ⅲ群D類。(379－121) は縄文の施文単位が小さく、非連続的である。(379－122) は波状口縁となる。口縁部が断面三角形状に肥厚し、その上面には縄文がほどこされる。

(379－123～126) は深鉢IV群。

(379－123) は彎曲する口縁部をもつ平縁深鉢。縄文の節が他の土器よりやや大きい。口縁部には横方向の縄文のみを施し、その下にやや太い沈線による二重の長方形区画文を配する。区画内には縱位の縄文がほどこされる。彎曲する口縁部や節の大きいRL縄文といった要素は、深鉢I群・II群とはやや様相を異にし、東海・関東地方の中期末葉の土器群との関連がうかがわれる。

(379－124・125) は、滑車形の突起をもつ波状口縁の深鉢。(379－124) は口縁直下が無文となり、口縁部下端区画として突起から続く隆帶が内外面に付される。隆帶以下には縄文がほどこされる。この種の突起は、関東地方・加曾利E IV式、およびその影響をうけた称名寺式閑沢類型に特徴的なものである。

(379－126) は、内彎する口縁部にS字状の隆帶を貼り付けている。隆帶による施文は中部・東海地方の中後葉に盛行する手法であり、これらとの関連するものと理解しうる。

(380－127～141) は鉢I群。

(380－127～129) は、内屈する口縁部に、隆帶と沈線および刺突を組み合わせて施文する鉢I群Aa類。(380－127) は隆帶文の両脇に区画文を配し、区画内に下方からの円形刺突を充填する。(380－128) は半円形の隆帶文内に縱位の短沈線をもち、その両側に二列の細い梢円形区画文を配する。これらはいずれも、口縁部の文様構成が深鉢I群A類と共通する。(380－129) は縱位の隆帶の両側に方形区画をもつもので、隆帶の頂部には凹点が施される。

(380－130～135) は内屈する口縁に、刺突文のみをほどこす鉢I群Ab類。(380－130) は半円形の隆帶文をもつが、これに含めた。これらの土器に施される刺突文には、二個一対の梢円形刺突(380－130)、羽状沈線文(380－131)、下方からの交互刺突による羽状刺突(380－132)、棒状工具による円形刺突文(380－133・134)、押し引き沈線(380－135)などがある。

(380－136) は、隆帶文による施文をもつ鉢I群Ac類。内屈する口縁部に縱位の短い隆帶を連続的に貼り付け、胴部には縄文がほどこされる。口縁端部は玉縁状に弱く肥厚し、端部はナデによって面が形成されている。

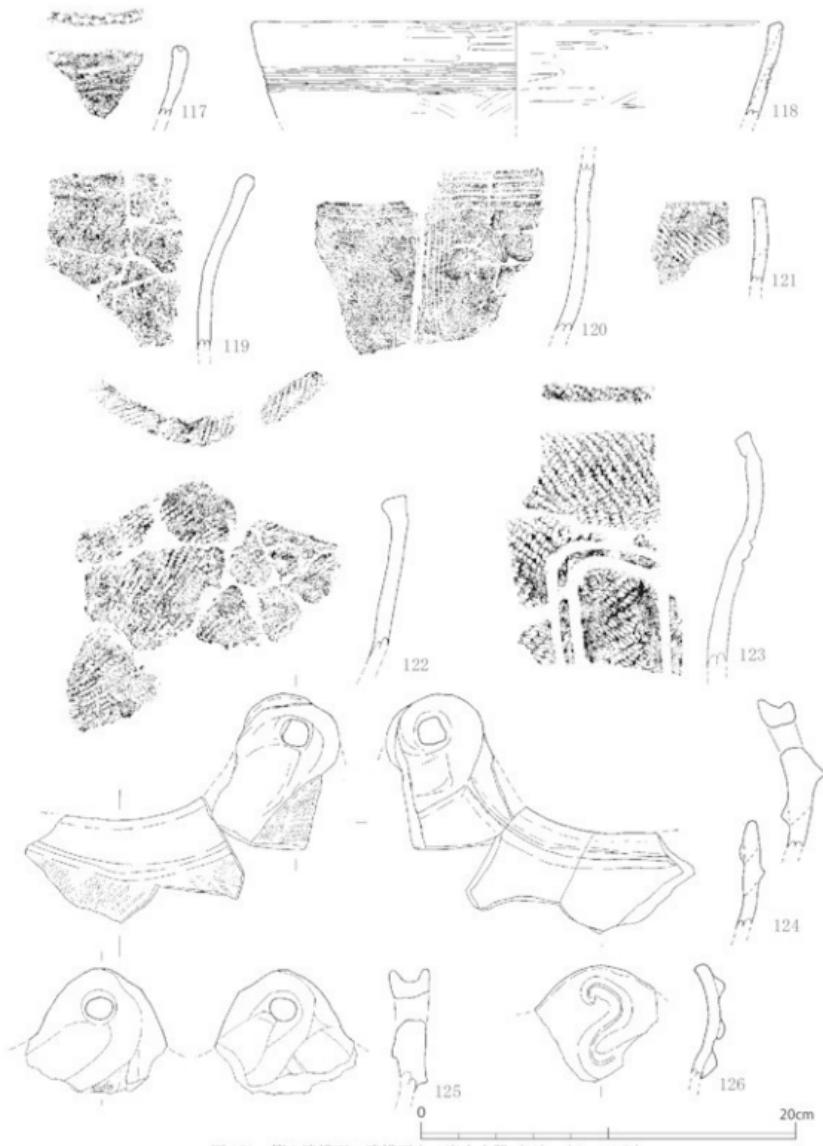


図379 第9遺構面 遺構面上 出土土器 (19) (S. = 1/3)

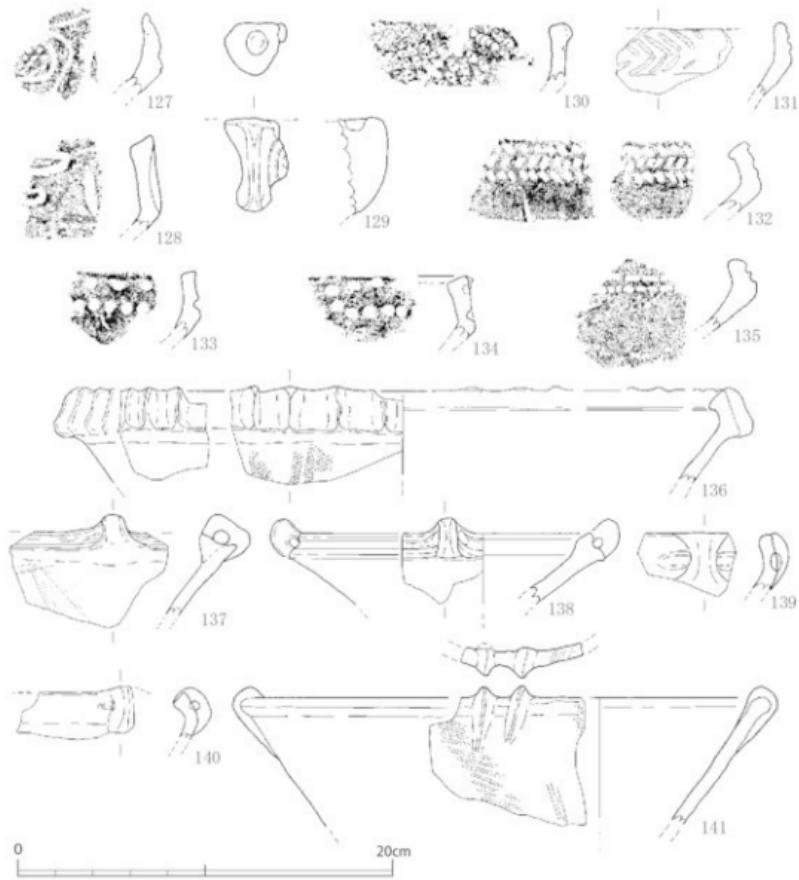


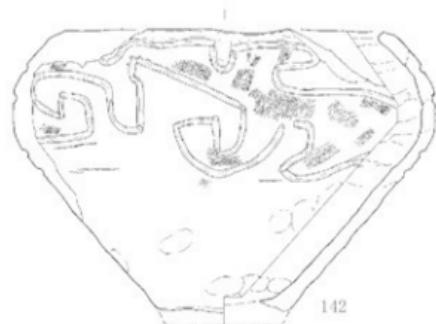
図 380 第9道構面 道構面上 出土土器 (20) (S. = 1/3)

(380—137～140) は、口縁部に環状把手をとりつける鉢Ⅰ群B類。(380—137・138) は口縁端部が三角形状に肥厚し、その上面に一条の太い沈線と環状把手をとりつける。(380—139・140) は内屈する口縁部に環状把手をとりつける。

(380—141) は、皿形の器形となる鉢Ⅰ群C類。口縁端部に二個一対の縱位降帯が付され、胴部には縱位の帶繩文が間隔をあけて施される。

(381—142～150) は鉢Ⅱ群。

(381—142～148) は、胴部が外反して内捲する口縁部につづく鉢Ⅱ群A類。(381—142



142



145



146



143



147



144



148



149



150

0

20cm

図 381 第 9 遺構面 遺構面上 出土土器 (21) (S. = 1/3)

～145)は、口縁部直下に無文帯をもち、その下位に繩文部描出による意匠が展開する。(381～142)は残存部の文様は一筆書きで描かれ、内部に繩文が充填される。意匠は横位展開のJ字文を基本とするが、整った構成をとらない。(381～143・144)は、横位の繩文帯にJ字文などがとりつく構成をとるものと考えられる。(381～143)は口縁部の屈曲がつよく、他に比べて扁平な印象をうける。やや幅広な繩文帯によって文様が描出される。(381～144)は、繩文帯がやや細く、胴部には小J字文が描かれる。(381～146～148)は、口縁部直下に繩文帯がくるもの。(381～147)は口縁部に横長のJ字文が描かれるものと考えられる。

(381～149)は直線的に立ち上がる鉢II群B類で、口縁端部付近のみやや内傾する。胴部の文様は横位展開の磨消繩文で、L字文とペダル文が二段に分離して描かれる。(381～150)は底部付近のみの破片であるが、底部の形態や胴部への立ち上がりなどから、(381～149)と同様の形態をとると見られる。

(382～151～154)は無文で口縁部が内屈する鉢III群A類。(382～152)は、山形の波状口縁となり、波頂部に縱位の隆帯が貼り付けられる。口縁端部は肥厚し、ナデ調整により内傾する面が形成される。(382～153)は、半円形の隆帯文をもち、隆帯文の内部はナデ調整が施される。

(382～155・156)は無文で皿形の器形となる鉢III群B類。(382～155)は波状を呈する皿形の浅鉢で、波頂部に穿孔をもつ。口縁端部はやや肥厚し、玉縁状を呈する。(382～156)は穿孔をもち、内面に段をもつ。

(382～157～159)は壺。(382～157・158)は橋状把手をもつ。(382～157)は、口縁端部は欠失するものの、それ以下は底部まで残存する。胴部の文様はほぼ一筆書きで描かれ、内部に繩文を充填する。意匠は横長のJ字文を基本とするが、整った意匠とはならない。これらの点は、鉢II群B類の(381～142)と共通する特徴である。やや幅広の橋状把手を対向する位置に付すものと見られ、その中間には円形浮文が配される。磨消繩文による意匠描出であることから、後期初頭・中津式に比定できる。しかし、当該期の壺形上器は二個一対の棒状突起に縦に穿孔した把手をもつ「双耳壺」が一般的で、橋状把手をもつ例は僅少である点、注意をひく。(382～158)も同様に、頸部をめぐる二条の隆帯をつなぐように橋状把手が付される。なお、胴部文様は押し引き沈線によって描かれている。(382～159)は把手をもたない。繩文部によって渦巻き文が表現されるが、その文様描線が途切れたり組んでいる。こうした描線の特徴は、福田KII式古段階に特徴的なものである。

(383～160～385～198)は底部片。

(383～160)は台付深鉢の台部付近と考えられる。胴下部には楕円形区画内に羽状沈線が充填され、台部にも楕円形区画が配されるものと見られる。近畿地方では類例は多くない一方、東海・北陸など中部地方では中期後半に台付深鉢が一定量組成するため、これらの地域との関係がうかがわれる。

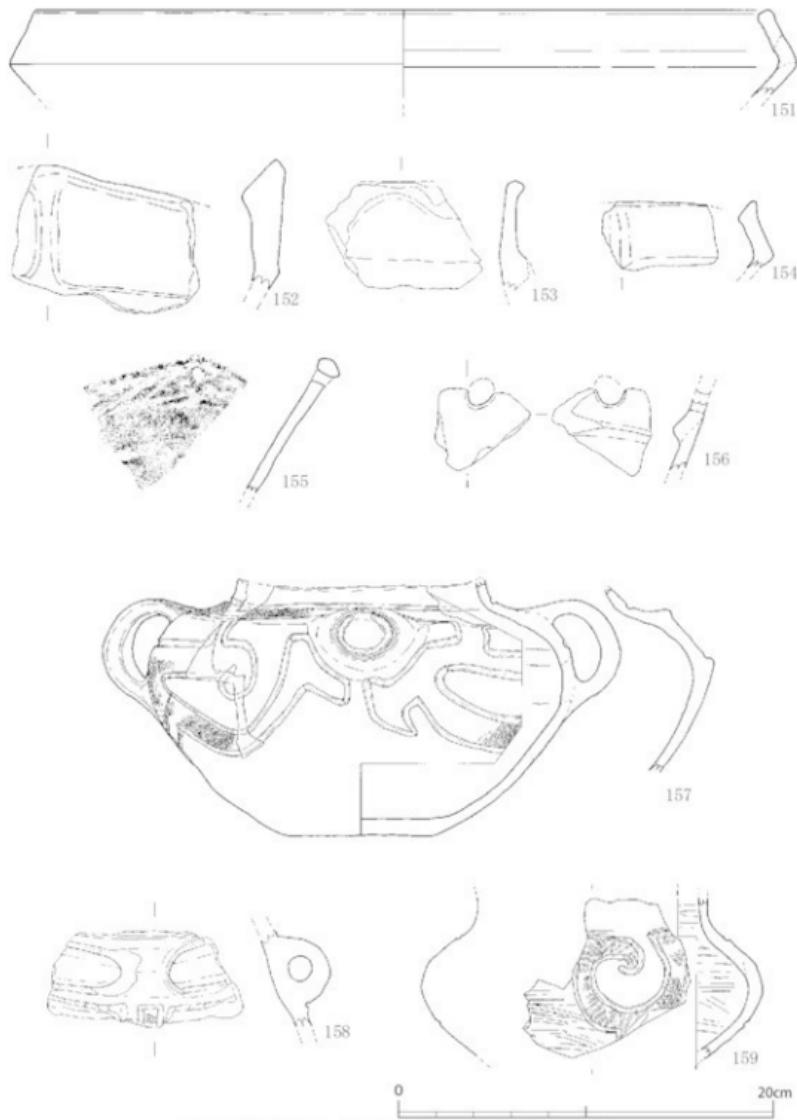


図382 第9遺構面 遺構面上 出土土器(22) (S.=1/3)

(383 - 161 ~ 166・385 - 198) は平底を呈するもの。(383 - 161・162・164・165) は底部から直線的に立ち上がる形態をとる。(383 - 165) は底部の厚みに比して底径が小さい点、特徴的である。(383 - 163・166) は底部がやや張り出し、くびれをもって立ち上がる形態をとる。(385 - 198) は胴部胴部の立ち上がりがなだらかで、胴部と底部の境界が明確でない。このような底部の形態は、壺形土器である(382 - 157) に近しく、(385 - 198) も同様の器形となると思われる。

(383 - 167 ~ 385 - 191) は凹底。外周から 2 ~ 3cm 程度が接地し、それより内側は基本的にはナデ調整が残る。接地部分は使用による擦れ痕が観察される。(385 - 188) は、底径に比して胴部の開きが大きく、(381 - 142) のような鉢形の器形になると思われる。

(383 - 192 ~ 197) は高台底。底面の外周に粘土帯を付加することで高台部を作出する。高台の高さは 3 ~ 5mm 程度が多いが、(385 - 196) は 13mm 程度とやや高い。

(386 - 199 ~ 207) はその他時期または分類不明の土器。(386 - 199) は薄手で、内外面に二枚貝による貝殻条痕がのこる。口縁部下には、二枚貝による 3 字状の刺突文が施される。前期初頭・羽島下層 II 式に比定できる。縄文前期の土器は、玉手遺跡 1 次調査でも検出されており、周囲に当該期の集落などがあったとみられる。

(386 - 200) は、波頂部付近の口縁部破片。外面には爪形文と縦位の凹点列がほどこされる。口縁端部は細い粘土紐を付加して、その上に爪形文を施す。(386 - 201) は長大な節の目立つ縄文をもつ胴部破片である。いずれも、中期前半の船元式に比定できる。

(386 - 202) は口縁端部を肥厚させる無文の深鉢。(386 - 203・204) は有文深鉢の胴部破片。(386 - 203) は縄文地に三条の沈線によって文様を描く。(386 - 205) は底部破片で、底面に網代圧痕が残る。いずれも後期前葉・北白川上層式に比定できる。なお、これらは北 2 区より出土しており、他の遺物とはやや地区が異なっている。

(386 - 206) は口頸部がく字形に屈曲し、胴部がややふくらむ壺形の器形になると思われる。内外面はていねいなナデ調整で、口縁端部はナデによる面が形成される。大和第 1 様式の壺形土器と考えられる。

(386 - 207) は橋状把手の一部。外面中央には竹管状工具による円形刺突列が配され、その両脇には縄文が施される。

(386 - 208・209) は土製品。

(386 - 208) はミニチュアの鉢形土器。手づくね成形で、口縁部下には円孔列が配される。

(386 - 209) は耳栓形の耳飾り。上下面の中央部に刺突をもつが、貫通孔はない。3mm 前後のやや大粒の砂粒が多くふくまれている。

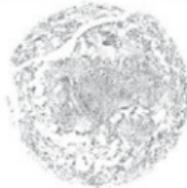
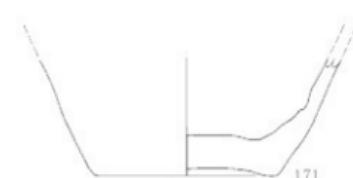
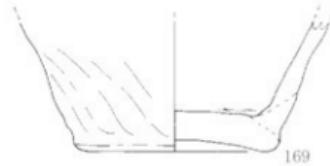
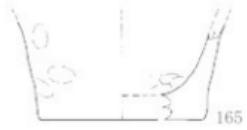
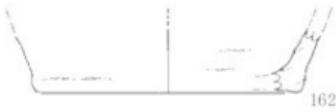
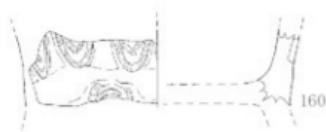


図 383 第9遺構面 遺構面上 出土土器 (23) (S. = 1/3)

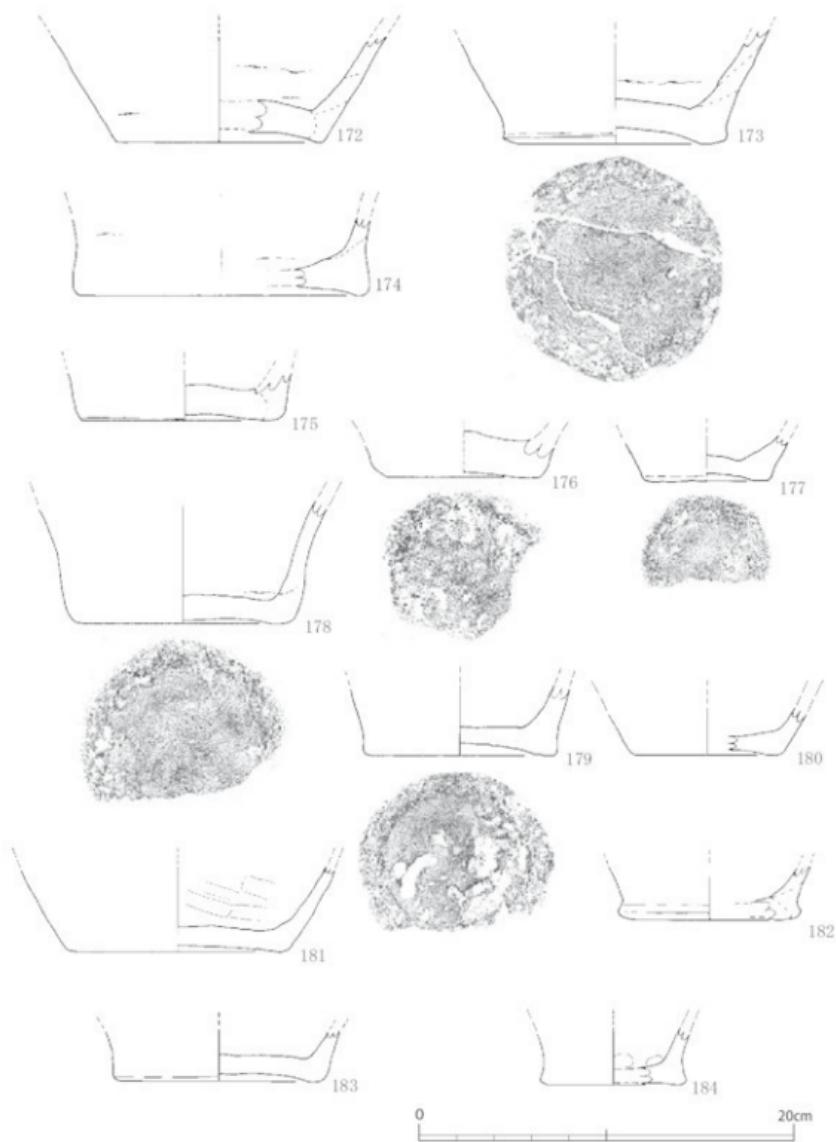


図 384 第9遺構面 遺構面上 出土器 (24) (S. = 1/3)

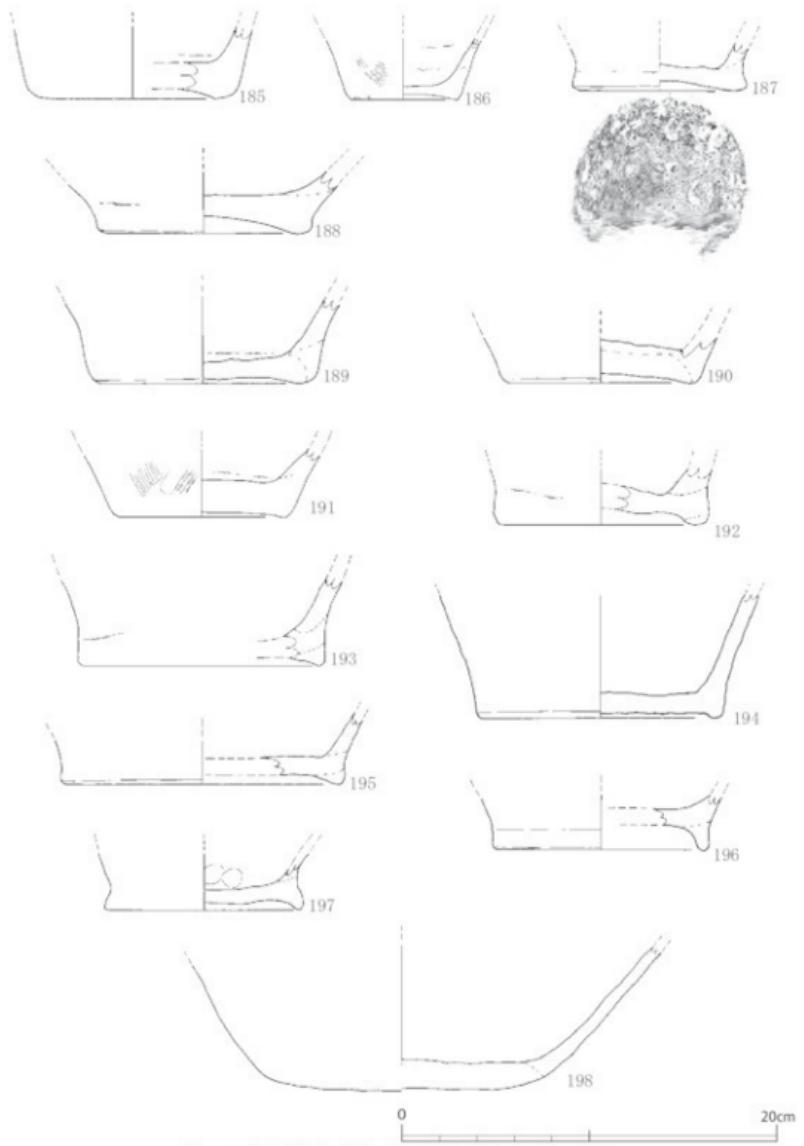


図385 第9遺構面 遺構面上 出出土器 (25) (S. = 1/3)

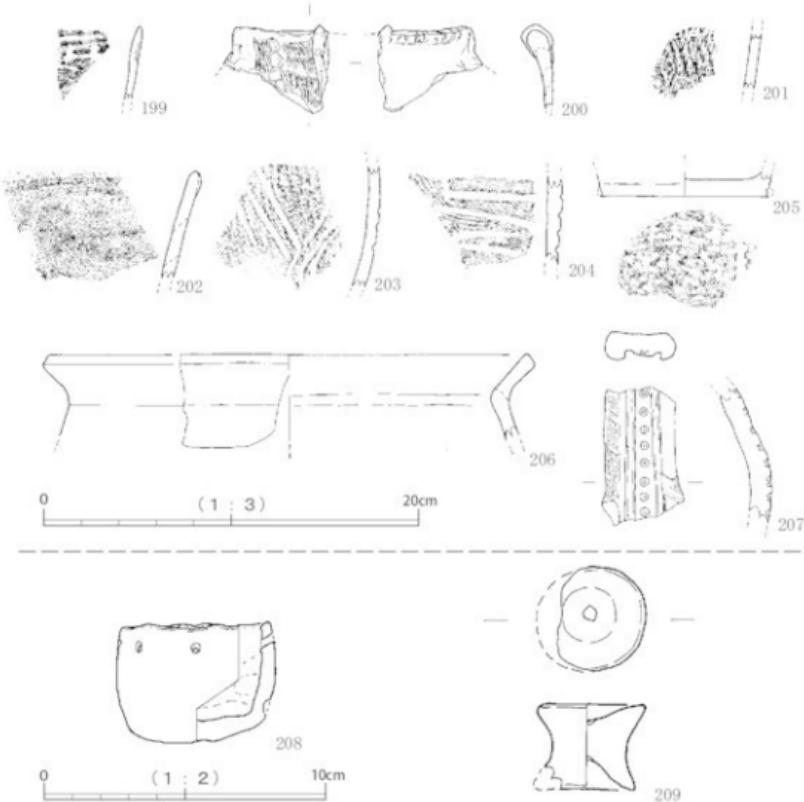


図386 第9遺構面 遺構面上 出土土器 (26) (S.=1/3)・土製品 (S.=1/2)

### ③遺構出土の土器・土製品

(387-1) は埋設土器1。深鉢II群A類にあたる。6単位の波状口縁で、口縁端部には縄文をほどこす。太く浅い沈線によって、口縁部には帯状区画と円文を、胴部には紡錘文を描く。紡錘文は胴部上半に留まり、下端の連絡もない。胴部の内外面には、ユビオサエ痕が残り、器面の凹凸が顕著である。底部は平底で、一部を欠失している。

(388-1・2) は石開遺構出土土器。いずれも同一個体と考えられる。深鉢II群D類にあたる。4単位の波状口縁となり、口縁端部がやや肥厚する。縦方向を志向した幾何学的な文様で、滋賀県白王遺跡に文様構成の類似するものがあるほかは類例に乏しい。縦位方向の文様である点では、関東地方・称名寺式との関係を認めうるが、独自的な要素が強い。縄文部と無文部が均等に器面を埋

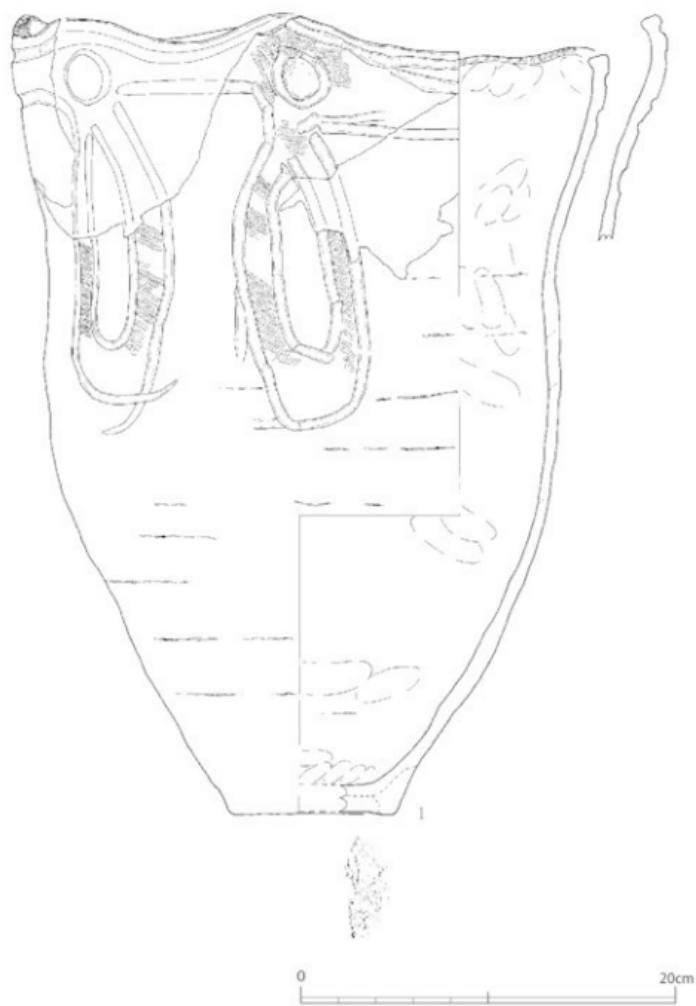


図387 第9遺構面 埋設土器1 (S. =1/3)

めていることから、称名寺式の編年（鈴木 1990、石井 1992）では中段階ごろに比定できるものと考えられる。

（389－1・2）は土坑 30 から出土した。

（389－1）は小形の深鉢の下半部。外面はミガキ、内面は二枚貝条痕調整がほどこされる。胴部屈曲部より上には丁寧に磨かれた凹線と、その上下に巻き貝殻頂部による刺突列が配される。またボタン状貼付の上からの巻き貝押圧痕が単位的に配される。以上の特徴から、後期後半・元住吉山II式に比定される。

（389－2）は底部。底面は凹底で、中央部に指頭状の押圧がある、いわゆるヘソ底となる。外面は下から上へのケズリ調整が、内面には二枚貝条痕調整がほどこされる。以上の特徴から、晚期前半のものと考えられる。他の遺構とは時期が異なっている。

（390－3・4）は土坑 32 から出土した。

（390－3）は深鉢 II 群の胴部下半。

（390－4）は底部片で、中央部のみやや弧状となる凹底。底径はやや小さく、胴部への立ち上がりは直線的である。

（391－15～38）は土坑 33 から出土した。第 9 遺構面の遺構のなかでは、もっとも遺物の量が多い。

（391－15・16）は深鉢 I 群 A 類。（391－15）は 4 単位の波状口縁で、口頭部を低い隆帯によって区画する。波頂部には重半円文を置き、その両脇には 2 条の刺突列を充填した方形区画を配する。胴部には、2～3 条の垂下沈線を配する。（391－16）は 6 単位の波状口縁で、口頭部を低い隆帯によって区画する。波頂部に渦巻き文を置き、その両脇に 3 条の刺突列を充填した方形区画を配する。方形区画には長いものと短いものがあり、波頂部を挟んで交互に配置される。胴部には 4～5 条の垂下沈線と垂下する帶状繩文を交互に配し、下端は 6～7 条の多重連弧文によって連絡し、単位的に渦巻き文が配される。

（392－17・18・393－21）は深鉢 I 群 D 類。（392－17）は繩文地にやや太めの沈線で、口縁部下に 2 条の平行沈線を描き、その下に方形状区画と凹点を配する。頭胴部界には連弧文がほどこされる。（392－18）は口縁部下に 1 条の沈線をもち、その下部には渦巻き文と三角形区画が配される。7～9 条の連弧文がその下部に連なり、そこから垂下する帶状繩文が配される。胴部下半は繩文を施文する。（393－21）は口縁部下に 1 条の平行沈線を配し、その下に連弧文を描く。口縁端部は面とりののち、繩文が施される。

（393－20）は深鉢 I 群 B 類。口縁端部を欠失するが、眼鏡状の隆帯区画文をもち、隆帯上にも繩文を施文する。口縁部はやや内轉し、体部には垂下する帶状繩文を配する。（393－22）はやや形態を異にするが、同じく深鉢 I 群 B 類に含めておく。波状口縁で、口縁部はやや内轉する。波頂部がヘラ状に突出し、口縁部よりやや下がったところに隆帯が巡る。口縁部直下外面と波頂部

石圓遺構

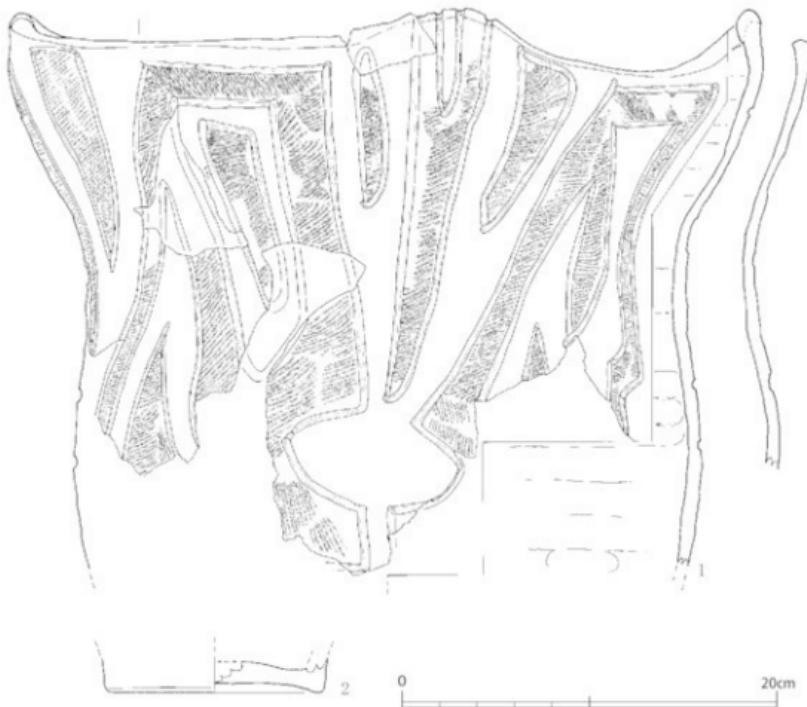


図 388 第9遺構面 石圓遺構 出土土器 (S. = 1/3)

土坑 30

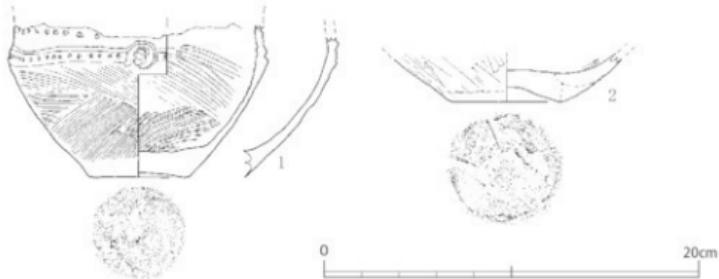


図 389 第9遺構面 土坑 30 出土土器 (S. = 1/3)

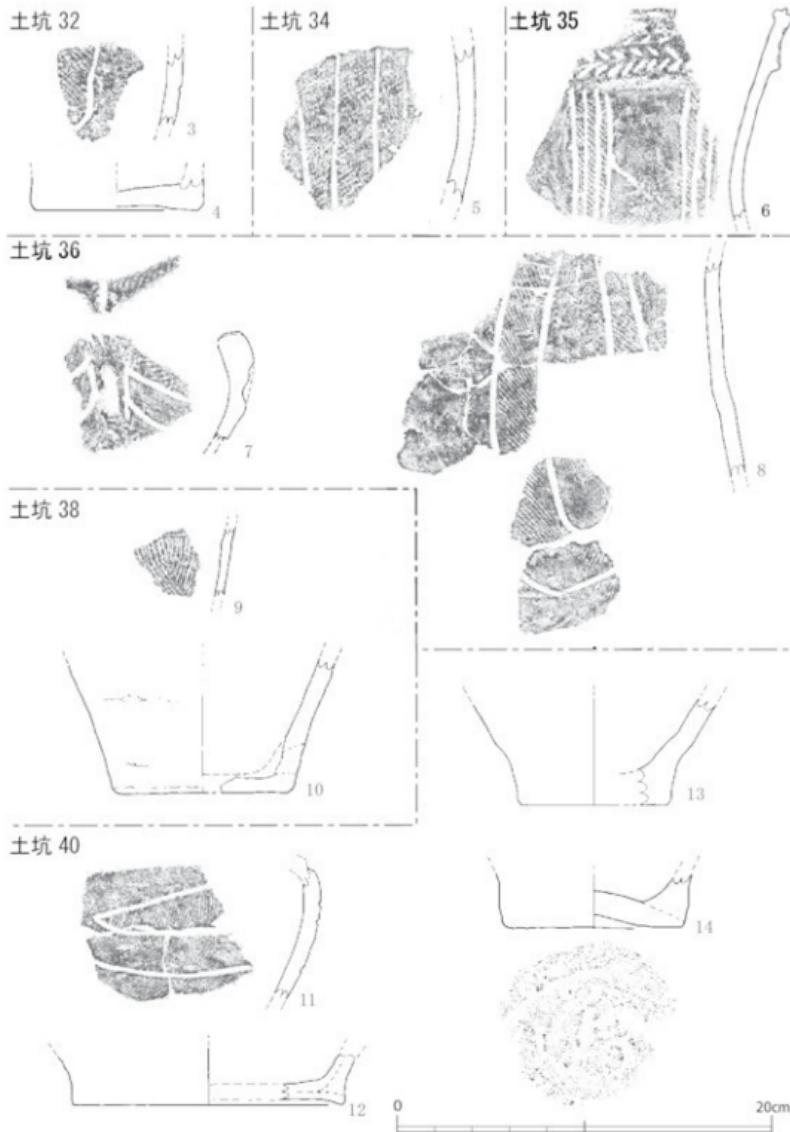


图 390 第 9 遗构面 土坑 32・34・35・36・38・40 出土土器 (S. = 1/3)

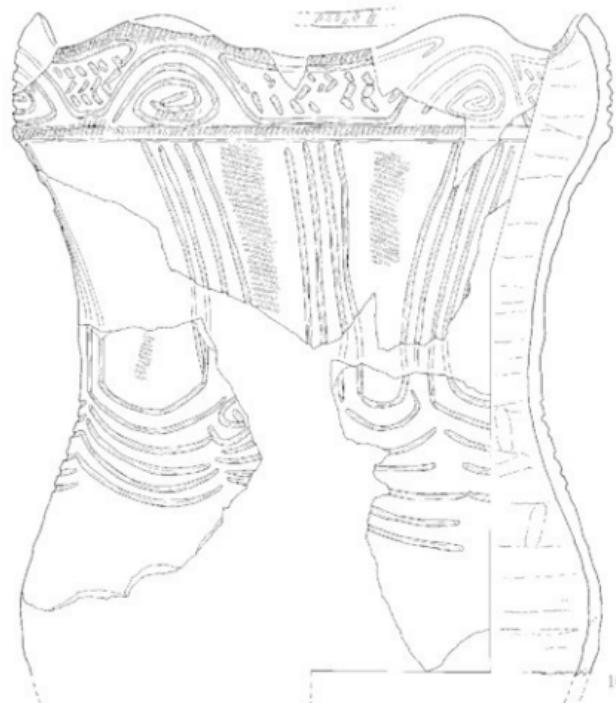
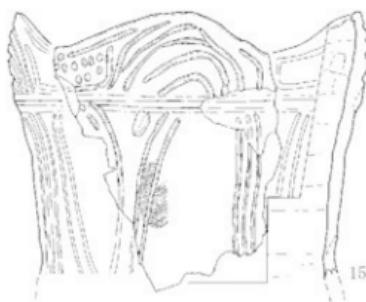


図391 第9遺構面 士坑33 出土土器(1) (S. = 1/3)

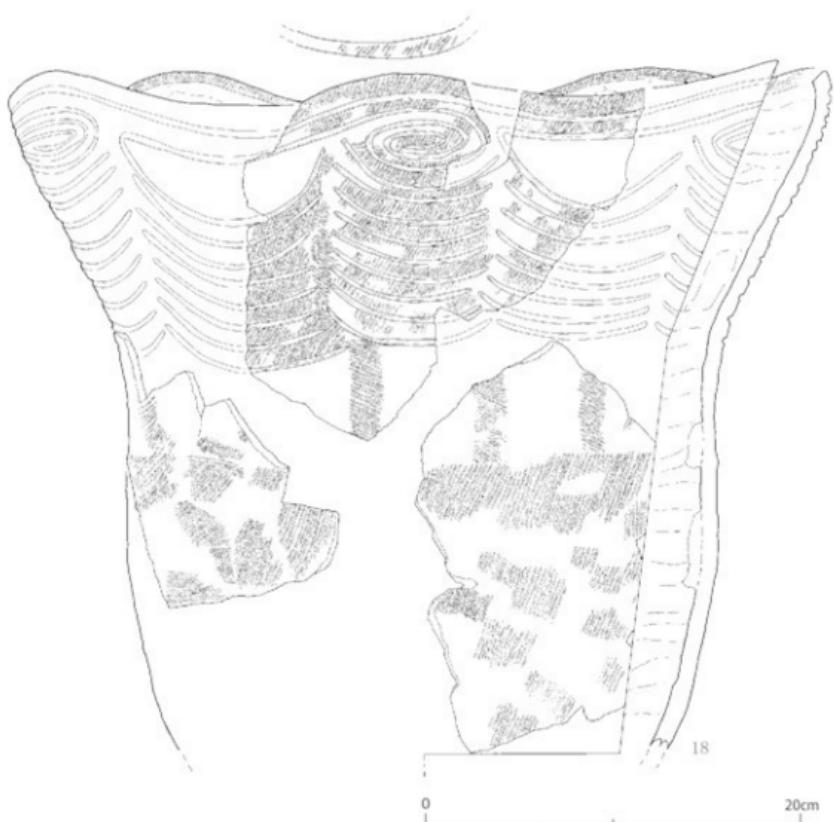
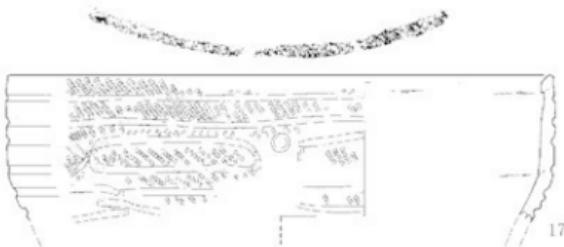


図 392 第9遺構面 土坑33 出土土器(2) (S. = 1/3)

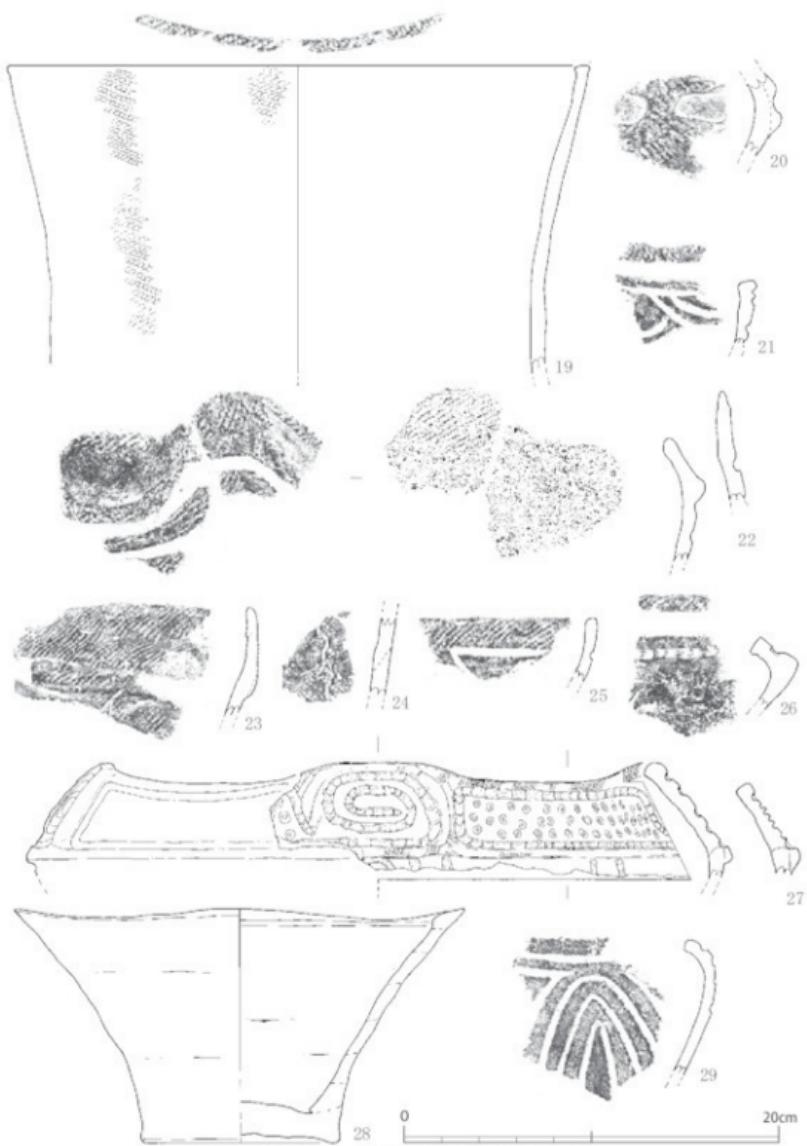


图 393 第9号構面 土坑33 出出土器(3) (S. = 1/3)

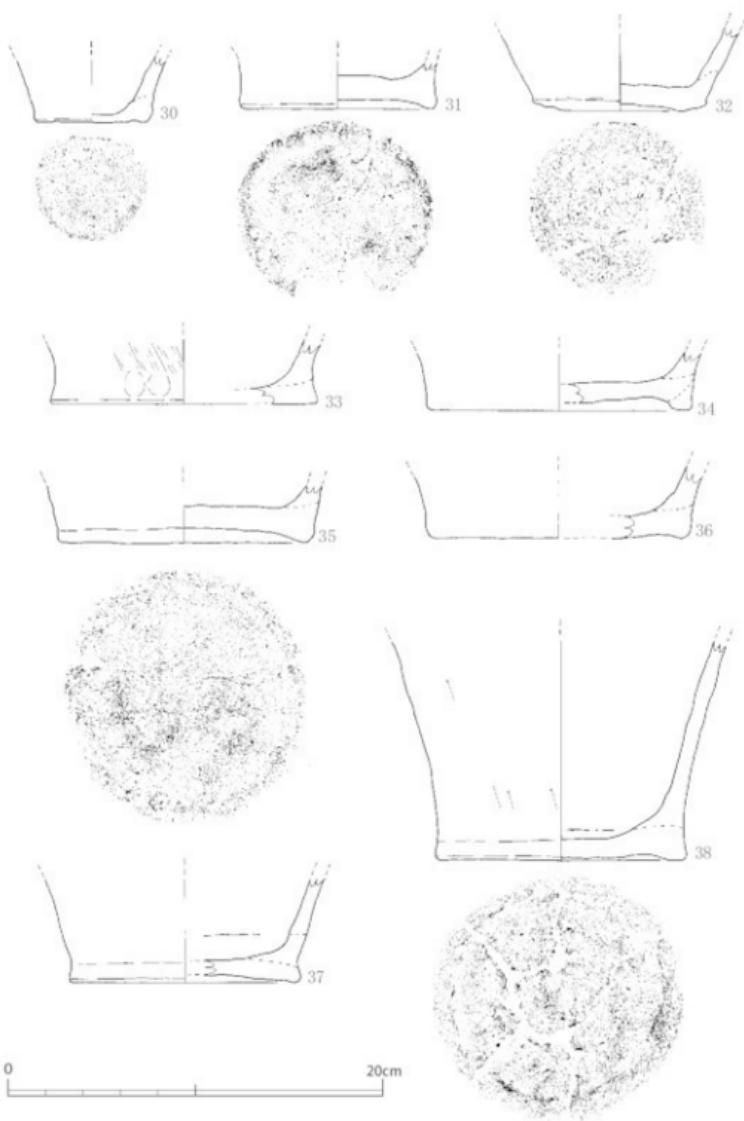


図394 第9遺構面 土坑33 出土土器(4) (S. = 1/3)

内面に縄文が施される。

(393-19・23・24) は深鉢Ⅲ群 A 類。(393-23) は口頭部を段によって区分する。口縁部には横方向の縄文が、胴部には縦方向の帯状縄文が施される。(393-19) は口頭部を形態上区分しない。口縁端部に縄文を施し、口縁部から胴部にかけて、間隔をあけて垂下する帯状縄文を配する。内面は比較的丁寧なヨコナデ調整が施される。(393-24) は垂下する結節縄文を施す。小片であるため断定は難しいものの、東海や北陸などでみられる結節縄文を施す土器との関係がうかがわれる。

(393-25) は深鉢Ⅱ群 A 類。方形区画を口縁部に配すると思われるが、文様構成は不明である。

(393-27) は鉢Ⅰ群 Aa 類。4 単位の波状口縁で、波頂部は隆帯区画内に、両脇の方形区画文から連続する押し引き沈線による渦巻き文を施す。方形区画内には三列の竹管状工具による刺突文が充填される。口胴部界は屈曲と隆帯によって区分され、胴部には垂下沈線などの意匠がほどこされる。

(393-26) は鉢Ⅰ群 Ab 類。短く内屈する口縁部に、1 条の押し引き沈線が配される。

(393-28) は鉢Ⅲ群 B 類。4 単位のゆるい波状口縁で、口縁部内面に幅 2.0cm 程度の肥厚帯をもつ。施文はなく、内外面ともにナデ調整を施す。底部から胴部の立ち上がりは直線的で、底面は凹底となる。

(393-29) は鉢Ⅱ群 A 類。内摺する口縁部をもち、口縁直下を無文帯とし、その下には磨消縄文による二重の紡錘文が配される。外面の無文部と内面はミガキ調整が施されている。

(394-30~38) は底部片。(394-30・33) は平底の底部。(394-30) は底径が小さく、底面の器壁も薄い。底部から胴部へは直線的に立ち上がる。(394-33) は底部から胴部にかけての立ち上がりにくびれをもつ。(394-32・35~37) は凹底の底部片。(394-37) は底部外面がやや張り出し、胴部にかけてくびれをもって立ち上がる。(394-32・35・36) は直線的に立ち上がる。(394-31・34・38) は高台底となる底部片。(394-38) は底部外面がやや張り出し、胴部にかけてくびれをもって立ち上がる。(394-31・34) は底部から直線的に立ち上がる。

土坑 33 出土土器は、若干の後期初頭土器を含むものの、大破片はすべて中期末・北白川 C 式期の所産である。なかでも北白川 C 式 3 期(泉 1985)の特徴を有したまとまりをもっており、奈良盆地における縄文中期土器群の編年上のひとつの定点として評価しうる。

(390-5) は土坑 34 から出土した。深鉢Ⅰ群の胴部。縦方向の縄文地に、垂下する沈線を 4 条以上ほどこす。

(390-6) は土坑 35 から出土した。深鉢Ⅰ群 E 類にあたる。口頭部は段によって区分される。口縁端部の直下に短沈線列を配し、その下に方形の隆帯区画と、3 列の羽状刺突文をほどこす。羽状刺突はすべて下方からの刺突によって 1 列ずつ施文されている。胴部には 4 本一組とする垂下

沈線に縄文を充填したものを、間隔をあけて配する。

(390-7・8) は土坑 36 から出土した。

(390-7) は深鉢 II 群 A 類か。波頂部に棒状隆帯を貼り付け、両脇に方形区画を描く。隆帯は一部欠失しているが、隆帯上にも縄文施文が見られる。波頂部の口縁端部には短沈線をほどこす。

(390-8) は深鉢 II 群の胴部。紡錘文で、文様下端は連絡しない。内面はヨコナデ調整がほどこされる。なお、両者は胎土の特徴の差から、別個体と判断される。

(390-9・10) は土坑 38 から出土した。

(390-9) は深鉢 I 群の胴部片。器壁は薄く、外面には撲り糸文が施される。

(390-10) は平底を呈する底部で、底面の内側は剥離している。胴部への立ち上がりは直線的である。内外面ともにナデによる調整をほどこす。

(395-39~43) は土坑 39 から出土した。

(395-39) は深鉢 II 群 C 類。縁部に区画文をもち、その下を縄文帶としている。胴部には無文部描出の J 字文が描かれる。波頂部の口縁端部は玉縁状に肥厚する。

(395-40) は深鉢 II 群 B 類。口縁部直下に幅の狭い縄文帶を配し、波頂部下には縱長の J 字文を描く。沈線は浅く、J 字文も粗雑な印象を受ける。波頂部の口縁端部は玉縁状に肥厚する。

(395-41・42) は深鉢 II 群の口縁部片。(395-41) は口縁部に区画文を配する。口縁端部内側に粘土紐を付加して断面三角形状に肥厚させ、その上端に縄文をほどこしている。(395-42) は、沈線のみによって施文する。口縁端部は内面側に肥厚し、内傾した面を形成する。内面には巻き貝条痕調整がのこる。

(395-43) は深鉢 III 群 C 類。器壁はやや厚手で、口縁部が内轉して胴部が直線的な形態をとる。縄文と条線を組み合わせて施文し、縄文が条線に先行する。縄文、条線とともに、口縁部には横方向に、胴部には縱方向に施文することを基本とする。

(390-11~14) は土坑 40 から出土した。

(390-11) は鉢 II 群 A 類の胴部片。無文帶が横長の J 字文を描くものと考えられる。内面はていねいなナデもしくはミガキによる調整がほどこされる。

(390-12~14) は底部片。いずれも胴部にかけての立ち上がりは直線的で、(390-13) は平底、(390-12・14) は凹底となる。(390-14) には、離れ砂と考えられる砂蹠圧痕が顕著に残る。

(396-44~48) は土坑 41 から出土した。

(396-44) は深鉢 I 群 C 類。口縁端部が T 字状に肥厚し、面を形成する。やや太い沈線で、口縁端部に 2 条の平行沈線を、外面に垂下沈線を描く。外面には沈線間に縄文を充填している。

(396-45) は深鉢 I 群 A 類。口頸部界に段を有しており、段より下は無文で口縁部と胴部の文様が分離している。口縁部にはやや太い沈線によって、内側を無文帶とする区画文を配するものと考えられる。口縁端部は面取りののち、縄文をほどこす。

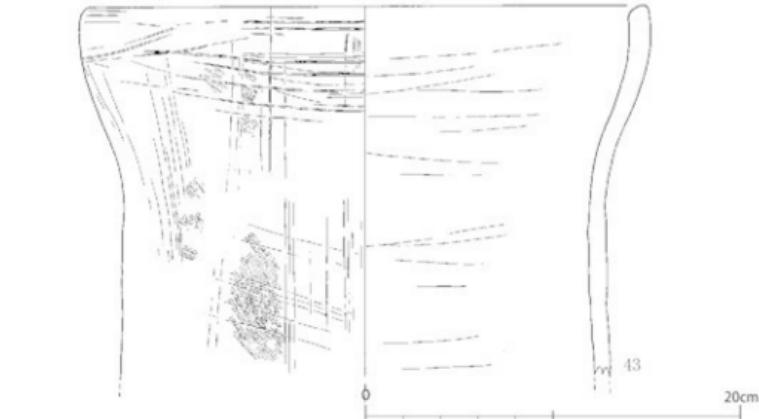
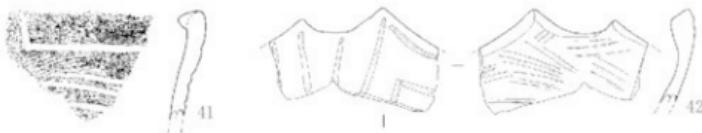


図 395 第9遺構面 土坑39 出土土器 (S. = 1/3)

(396 - 46) は深鉢II群の口縁部。口縁端部直下を無文帯とし、その下に縄文帯を配する。口縁端部は面取りしている。

(396 - 47) は深鉢III群A類。口頸部を形態上区分しない。口縁部から胴部にかけて垂下する帶状縄文のみを配する。

(396 - 48) は深鉢I群の胴部。縦位の沈線と帶状縄文をもつ。

(396 - 49 ~ 53) は土坑42から出土した。

(396 - 49・50) は深鉢I群の胴部。(396 - 49) は横位の沈線2条を斜位の沈線が切っている。

(396 - 50) は多重連弧文がほどこされている。

(396 - 51・52) は磨消縄文による施文をもつ深鉢II群の胴部片。(396 - 51) は紡錘文の一部とみられる。(396 - 52) は小J字文の一部とみられる。

(396 - 53) は深鉢III群A類か。破片の一部にのみ縄文が確認され、内外面はナデ調整がほどこされている。

(396 - 54・55) は土坑43から出土した。

(396 - 54) は深鉢II群の口縁部片。波頂部下には穿孔があり、それを囲うように縄文部描出の円形文が施される。遺構面出土の(376 - 93・94)と近似しており、同一個体と考えられる。

(396 - 55) は深鉢I群C類。台形状となる大波状口縁で、波頂部以外は口縁部が短く内折する。太い沈線によって施文され、屈曲直下には押し引き沈線がほどこされ、その下部に沿うように隆帯が配される。波頂部下には沈線区画内に半截竹簡によるC字形の刺突文が充填される。

(397 - 56) は土坑45から出土した。焼成粘土塊で、胎土に砂粒をほとんど含まない。

(397 - 57 ~ 61) は土坑47から出土した。

(397 - 57) は深鉢I群D類。口縁部に3条の波状沈線をめぐらせていている。

(397 - 58) は深鉢I群E類。遺構面出土の(364 - 37)と同一個体であると考えられる。口縁端部は欠失しているが、隆帯によって区分された口縁部に、羽状刺突文がほどこされる。口縁部を区分する隆帯の下には2条の平行沈線がめぐり、それと直交する2~3本単位の垂下沈線が間隔を開けて配される。

(397 - 60) は深鉢I群の胴部。縄文地に、短く多重の上限連弧文を描き、単位的に渦巻き文を配している。

(397 - 59・61) は深鉢III群B類。(397 - 59) は、口縁端部よりやや下がったところに、断面三角形状の隆帯を1条貼り付けている。(397 - 61) は胴が張り、頸部でややくびれて外反氣味に立ち上がる口縁部へとつづく。内外面に巻き貝条痕が顕著に残る。口縁端部は面取りしている。やや薄手であるものの、胎土中には大粒の砂粒が顕著であることから、共出遺物との関係も踏まえ、中期末葉段階の無文土器と判断した。

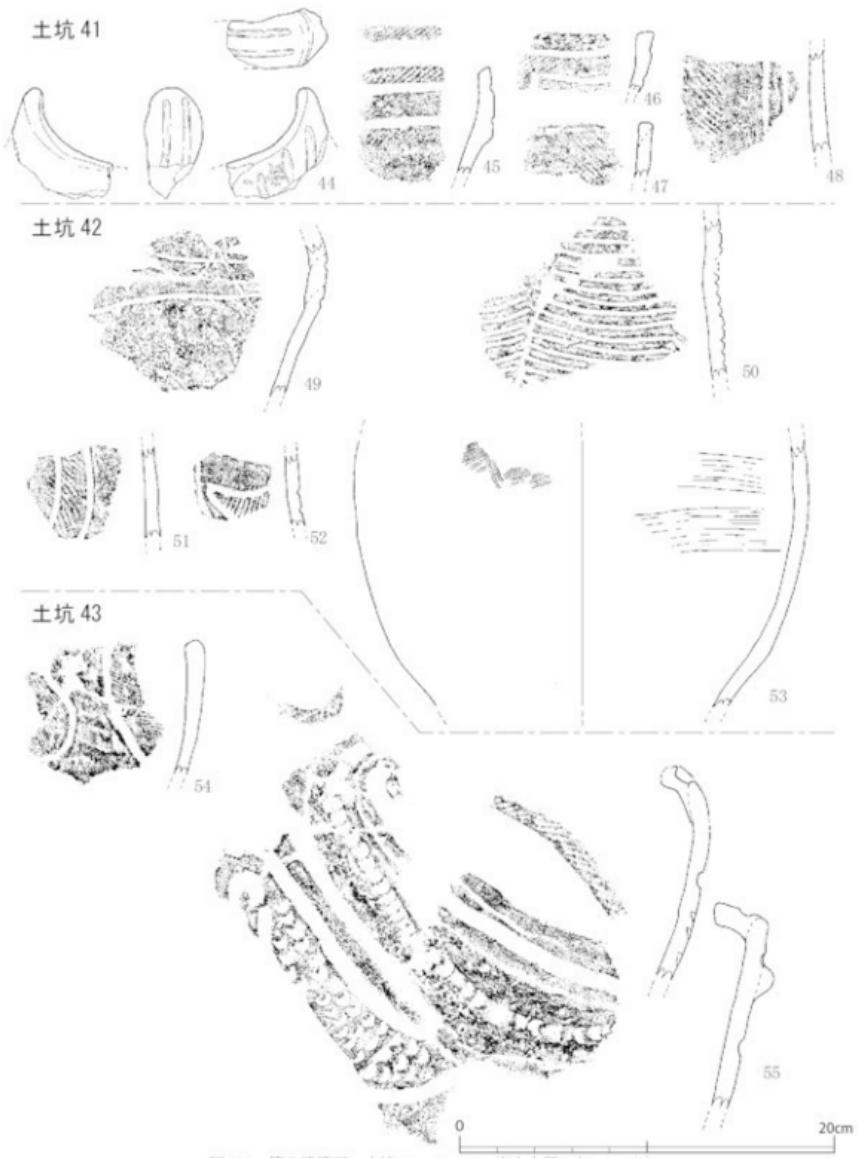
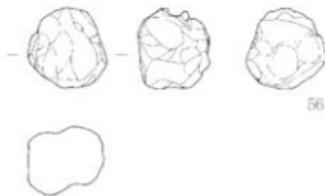


图 396 第 9 遗构面 土坑 41·42·43 出土土器 (S. = 1/3)

土坑 45



土坑 47

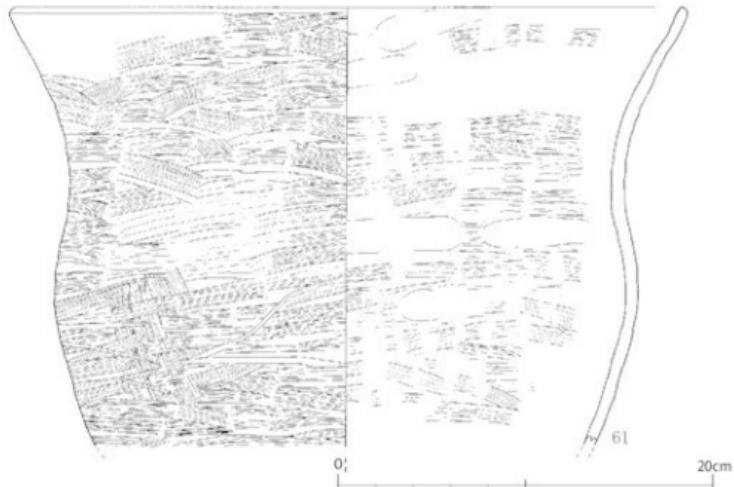
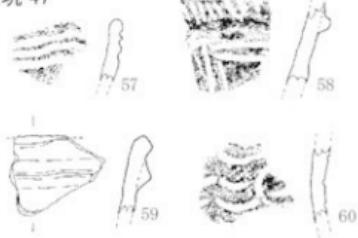


図 397 第9遺構面 土坑 45・47 出土土器・土製品 (S. = 1/3)

## (2) 石器・石製品

(398 - 1 ~ 3) は石鉈である。つまみ状の小突起を有し、片面あるいは両面からの細部調整により刃部を作り出す。(398 - 1) は原礫面を有する剝片を用いる。欠損部が大きいもの、横長のものであろうと判断できる。つまみ部は中心軸からはずれた場所につくられる。(398 - 2) は縦長のものである。つまみ部はほぼ中心軸に位置する。(398 - 3) は若干の反りをもった縦長のものである。つまみ部は中心軸に乗るものではない。以上 3 点ともに細部調整は中央部に及ぶものは見られず、周縁部のみの調整加工にとどまる。石材は全てサヌカイトである。

(399 - 4 ~ 6) は打欠石錘、(399 - 7 ~ 9) は切目石錘である。(399 - 4・8・9) は結晶片岩、(399 - 5) は砂岩、(399 - 6) は泥岩、(399 - 7) はチャートを用いる。

(399 - 10) は打製石斧と思われる。短冊板状の緑泥片岩を用いている。握り部と思しき部分

には抉りがつくられる。刃部と思われる部分は全体的に石の稜線が丸く潰れており、使用痕の可能性がある。

(399 - 11) は厚みのある亜円礫を用いた石皿の破片か。凝灰岩製である。

(399 - 12) は扁平な楕円礫を素材とする磨石の破片である。両面が磨面として利用され、残存する側縁部にも磨面が形成されている。花崗岩製である。

(399 - 13) は磨石もしくは敲き石である。残存する磨面の中央に深い敲打痕、周縁部に打ち欠きがみられる。両面を磨面として利用しているが、不明瞭である。斑レイ岩製である。

(399 - 14) は台石の欠片である。作用面と思われる部分に赤色顔料が付着している。円礫を整形、加工し、張り出しのある台部をつくりだしている。赤色顔料をすり潰すための台石として使用したものと思われる。安山岩製である。

(399 - 15) は敲き石もしくは磨石片と思われる円礫である。砂岩製である。

(400 - 16) は磨石片である。一部平滑な磨面があり、全体に摩滅が見られる。砂岩製である。

(400 - 17) は円礫を素材とする敲き石の破片である。平坦面の一部に敲打痕が見られ、周縁は磨面として使用されている。砂岩製である。

(400 - 18) は扁平な楕円礫を素材とする敲き石の破片である。残存する両面の平坦面に敲打痕の集中が見られ、その周縁には広く磨面が形成される。周縁にも帶状に敲打痕が形成されている。凝灰岩製である。

(400 - 19) は磨石である。扁平な円礫を素材とする。側縁の一部、および両面に平滑な磨面が形成されるも軽微であり、人為的なものかは判別できない。凝灰岩製である。

(400 - 20) は扁平な楕円礫を素材とする敲き石の破片である。残存する側縁の一部に敲打痕の集中する部分が見られる。砂岩製である。

(400 - 21) は楕円礫を素材とする敲き石の破片である。残存する周縁部、平面部に敲打痕がある。両面に摩滅が見られる。砂岩製である。

(400 - 22) は磨石である。扁平な円礫を素材とする。側縁の一部、および両面に平滑な磨面が形成される。流紋岩製である。

(400 - 23) は厚手の楕円礫を素材とする敲き石である。約 1/2 を消失する。片面の平坦面に敲打の集中がみられる。敲打の周辺には磨面が形成される。裏面は磨面の形成は明瞭ではない。周縁に敲打痕はみられない。砂岩製である。

(401 - 24) は厚みのある円礫を素材とする敲き石もしくは磨石である。周縁部全周に敲打痕がみられる。中央部にある敲打による窪みが深く、長期間の利用が考えられる。砂岩製である。

(401 - 25) は板状の円礫を素材とする敲き石である。周縁部、平面部に敲打痕があり、両面に摩滅が見られる。凝灰岩製である。

(401 - 26) は厚みのある円礫を素材とする敲き石である。周縁部の敲打痕が軽微であるが一

部帯状になる。砂岩製である。

(402-27) は厚手の円礫を素材とする敲き石である。片面の平坦面に敲打の集中がみられる。両面に磨面が形成される。周縁に敲打痕はみられない。砂岩製である。

(402-28) は板状の円礫を素材とする磨石である。約 1/3 を欠失する。周縁部、平面部に敲打痕、両面に摩滅が見られる。砂岩製である。

(402-29) は厚手の楕円礫を素材とする磨石である。片面の平坦面に敲打の集中がみられる。両面に磨面が形成される。周縁に敲打痕はみられない。砂岩製である。

(402-30) 柱状の片麻岩の破片である。目立った加工痕は確認できない。

図 403・404 に、土坑から出土した石器・石製品を掲載した。

土坑 25 出土の (403-1) は、円礫を用いた敲き石である。全体の 1/2 を欠損する。凝灰岩製である。土坑 38 出土の (403-2) は、板状の礫を素材とする砥石と思われる。片面の平坦面に擦痕の集中がみられる。凝灰岩製である。土坑 39 出土の (403-3・4) は、ともに切目石錐である。長軸方向の頂部に切込みを施す。全体に擦痕がみられる。泥岩製である。土坑 42 出土の (403-5) は、台石と思われる。板状礫を用いる。平坦面のほぼ中央に敲打痕の集中が見られる。結晶片岩製である。

土坑 33 からは (404-1~3) が出土した。

(404-1・3) は大形自然礫。(404-1) は、棒状を呈する結晶片岩である。現状では、3 片に分割しているが、出土状況や破損面の観察から、人為的な破損ではなく、埋没の途中もしくは埋没後に土圧によって自然に割れたものと理解される。表面に研磨や敲打などの痕跡は一切見られない、全くの自然礫である。(404-3) は、長径 30cm 以上を計ると推定される大型円礫の約 1/3 を残す破片である。破損面は平坦だが、人為的に分割された可能性が考えられる。元の礫表は極めて滑らかである。元の礫は正球体に近いと推定される。

棒状礫は、出土状況から判断して、本来は西側を下にして立てて設置され、「立石」として機能していた可能性が高いと考えられる。円礫片は、破片のままで置かれていたのか、本来完形であったのかは、出土状況のみからは判断できない。

土坑 33 はその規模から住居址である可能性があるが、本突出部が住居址に附属していると考えた場合に、いわゆる「祭壇」的な意味を考えることができようが、同時期にこうした事例は皆無であり、断定はできない。但し、中期末から後期初頭の自然石を用いた立石については、布留遺跡堂垣内地区（天理市）や日野寺谷遺跡（京都市）などで類例が検出されており、それらと一連のものであると考えることはできよう。

(404-2) は扁平な楕円礫を素材とする敲き石の破片である。1/2 を欠失する。残存する平坦面の一部に敲打痕の集中する部分が見られる。安山岩製である。

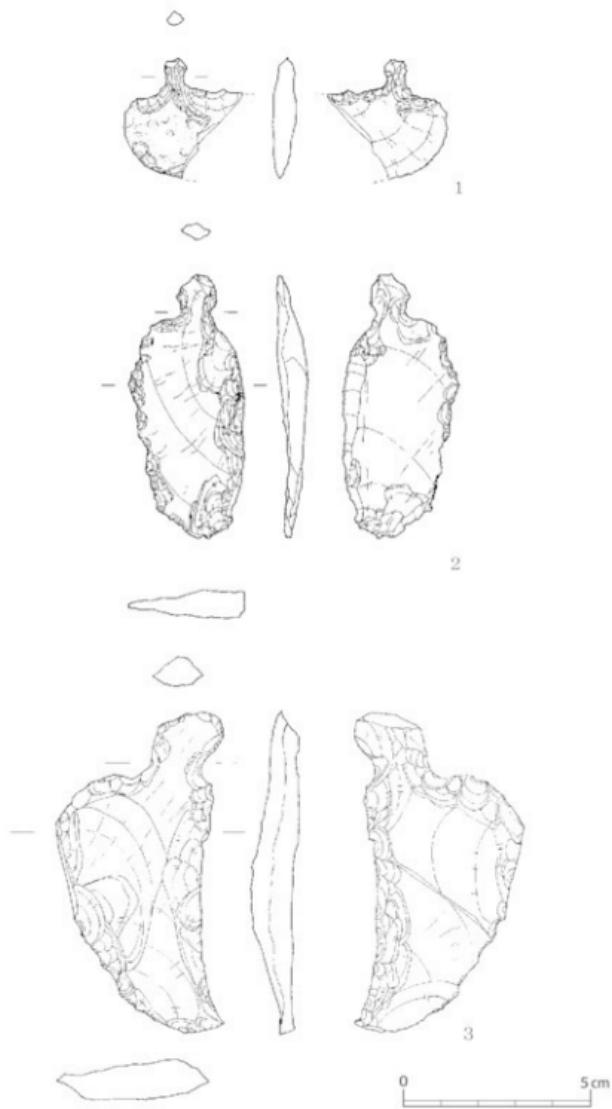


图 398 第9遺構面 遺構面上 出土石器 (1) (S. = 2/3)

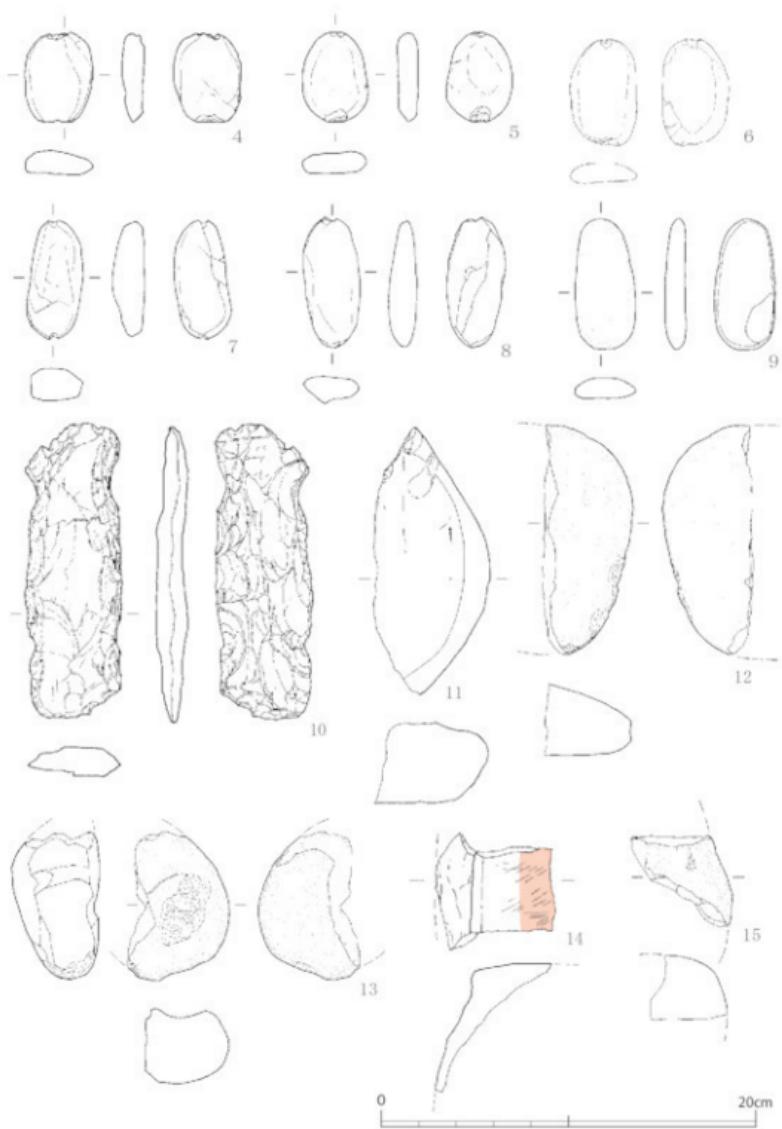


図399 第9遺構面 遺構面上 出土石器(2) (S. = 1/3)

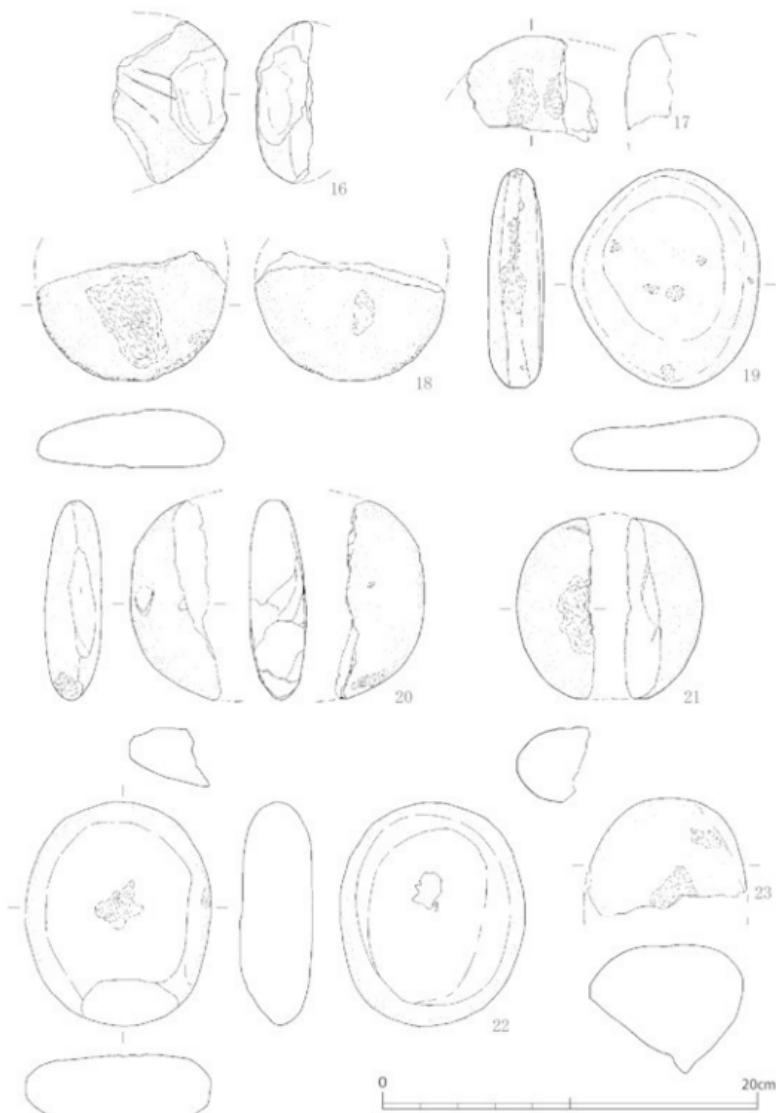
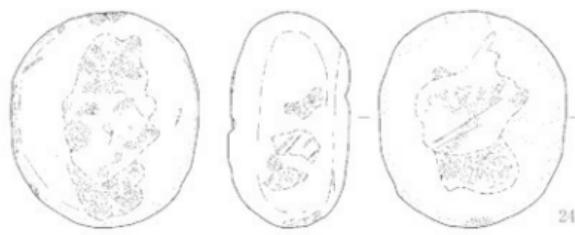
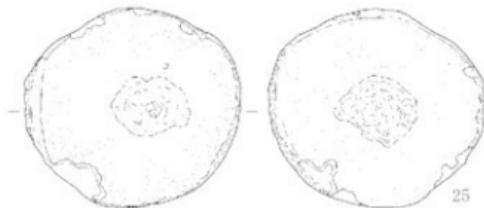


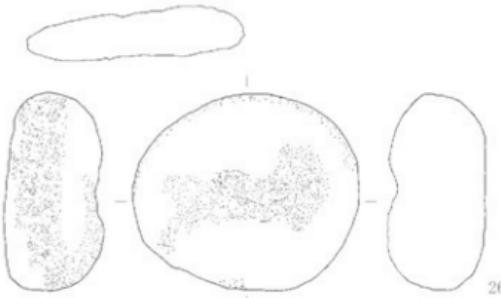
図 400 第9遺構面 遺構面上 出土石器 (3) (S. = 1/3)



24



25



26



図 401 第9遺構面 遺構面上 出土石器 (4) (S. = 1/3)

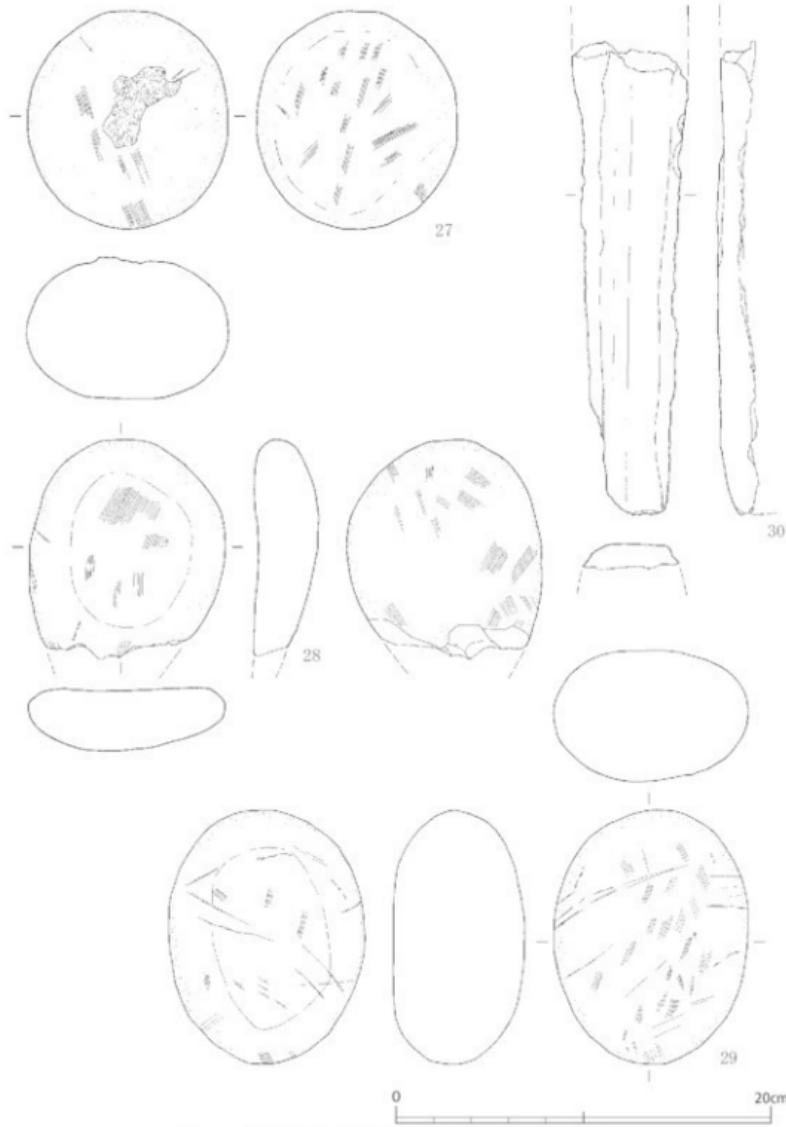
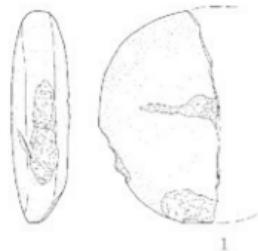
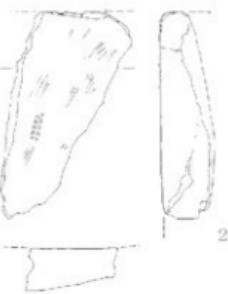


図402 第9遺構面 遺構面上 出土石器 (5) (S. = 1/3)

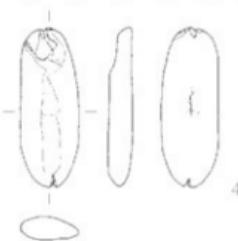
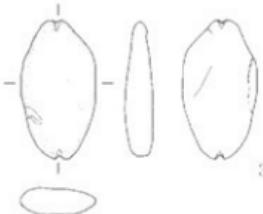
土坑 25



土坑 38

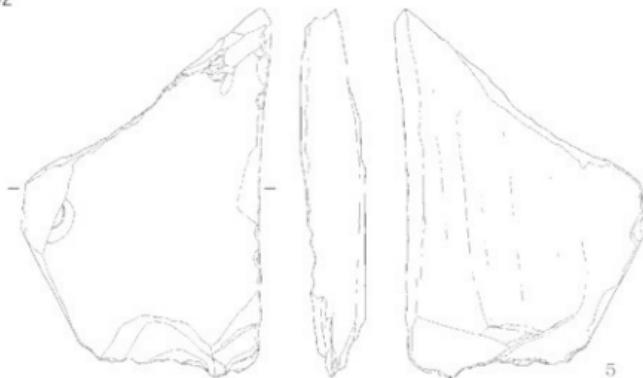


土坑 39



0 (1 : 3) 20cm

土坑 42



0 (1 : 6) 40cm

图 403 第9遗构面 土坑 28・41・42・45 出土石器 (1~4 ; S. = 1/3, 5 ; S. = 1/6)

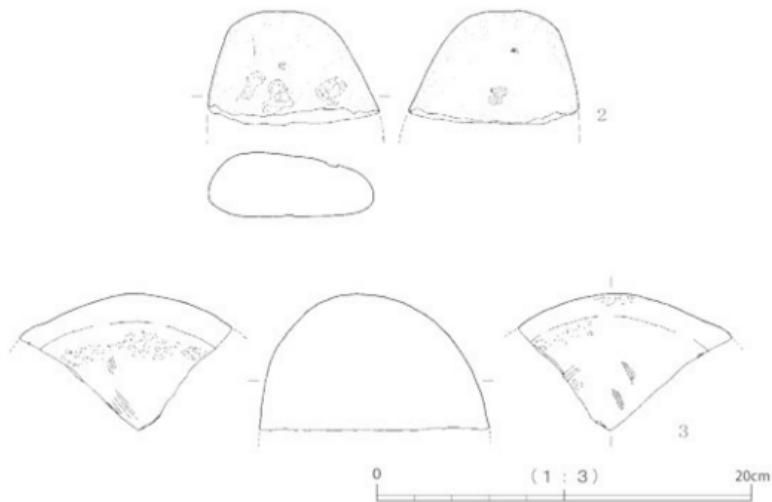
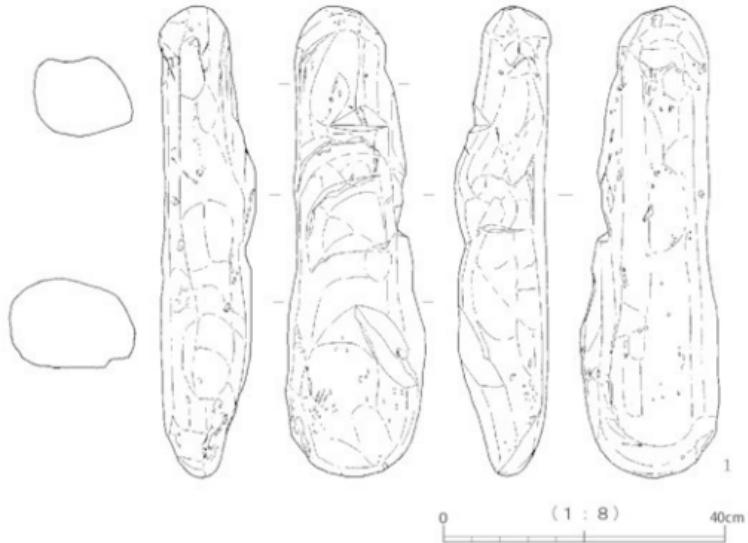


図 404 第9遺構面 土坑33 出土石器 (1 : S. = 1/8, 2・3 : S. = 1/3)

## 第 10 節 第 10 遺構面

第 10 遺構面は、14 層上面で検出した遺構面である。14 層は南 4 区南半でのみ検出した。当該遺構面では明確な人為遺構は見られなかったが、第 9 遺構面と同様に土器が面的に散布する状況が認められたほか、炭溜まりを一箇所確認した。

### 1. 遺構

#### (1) 遺物の分布状況

遺構面上には、土器・石器が南 4 区南半にまばらに出土している。土器片は小破片が多いものの、時期の判明するものはいずれも縄文中期末葉に比定できる。

なお、南 4 区南半の中央付近では土器集中部を確認した。図 408 に示したように、直径 0.7 m の範囲に 30 点ほどの土器片が密集して出土した。検出した土器片はすべて同一個体 (410-1) とみられ、接合の結果、口縁部から胴部上半にかけての 1/6 程度が復元できた。

#### (2) 炭溜まり (南 4 区)

南 4 区南半の中央付近で検出した。土器集中部の北東約 2 m に位置する。南北 70cm、東西 60cm で、平面形は不整梢円形である。炭化物の堆積の厚さは最大 10cm である。出土遺物は、型式不明の土器片が 1 点ある。この炭溜まりの性格は不明であるが、比熱の痕跡が明確でないことから、人為的な遺構でない可能性も考えられる。

### 2. 遺物

第 10 遺構面出土の遺物は土器のみ確認した。出土土器は、個体数は少ないものの、いずれも中期末葉の北白川 C 式に比定できるものである。以下、第 9 節で設定した分類に従って記述する。

(410-1) は、深鉢 I 群 B 類。平縁を呈し、やや外反気味の口縁部の上段を縄文帯とし、その下に二条の隆帶による区画が配される。隆帶区画内には棒状工具による右下方からの刺突が充填され、隆帶上には縄文が付される。体部には磨消縄文により H 字状のモチーフが描出される。同様のモチーフは奈良県下茶屋地蔵谷遺跡にも見られる。口縁部と胴部の文様帯は明確に分離されながらも、胴部には整った磨消縄文が用いられていることから、北白川 C 式でも終末段階に位置づけうる。

(410-2) は深鉢 III 群 B 類の胴部下半。胴部最大径付近では横方向、それ以下では斜め方向に、板状工具によるナデがほどこされる。

(411-3) は深鉢 III 群 C 類。平縁で、口縁端部はナデによる面が形成される。外面には横方向の条線が施される。

(411-4) は高台底となる底部片。立ち上がりは 7mm 程度とやや高い。

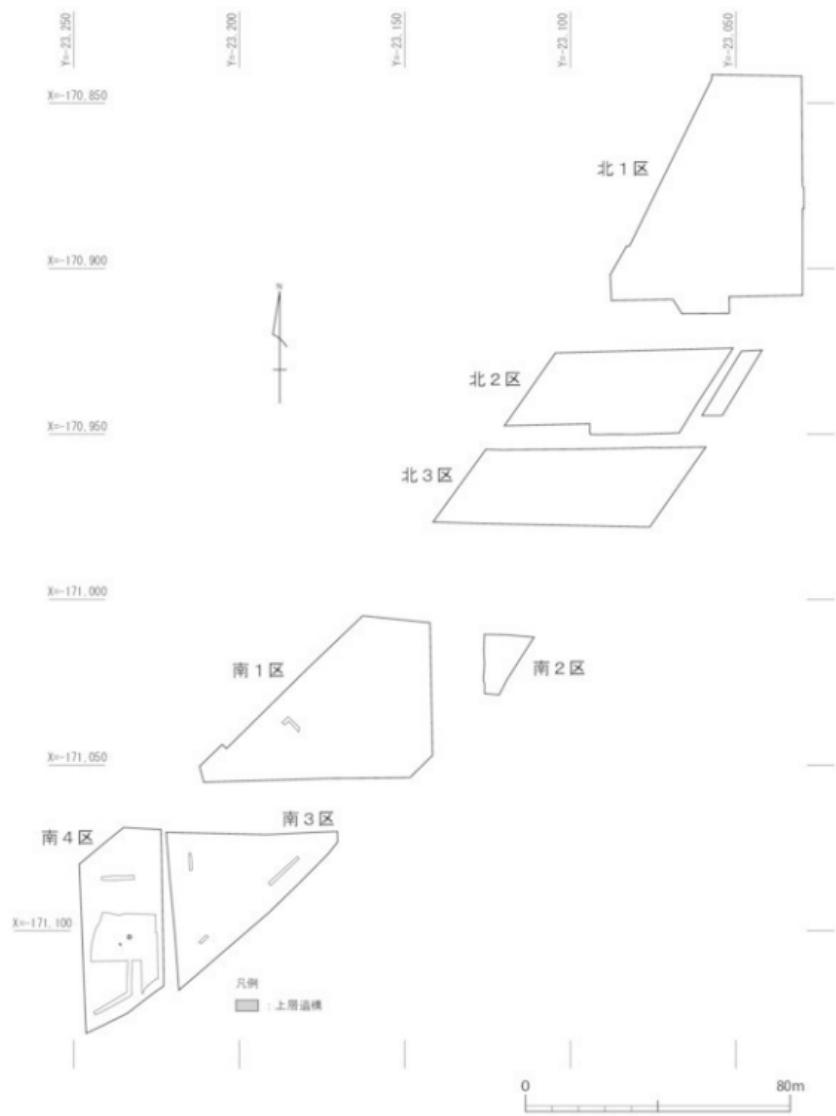


図 405 第10 遺構面 全体図 (S. = 1/1,700)

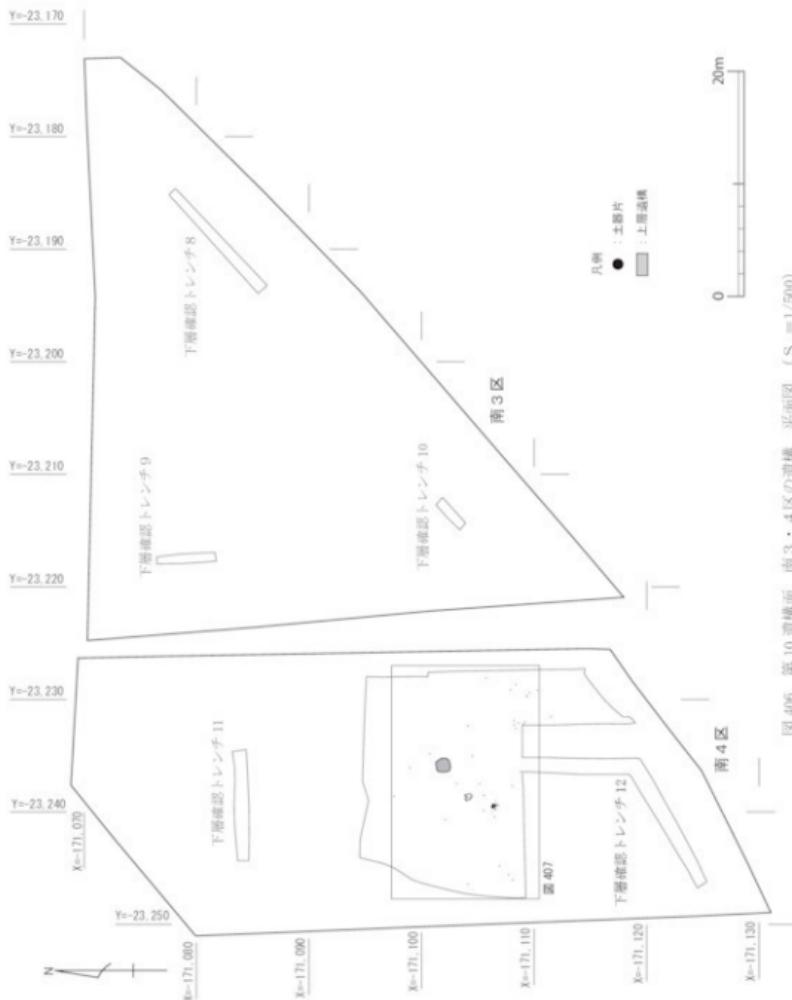
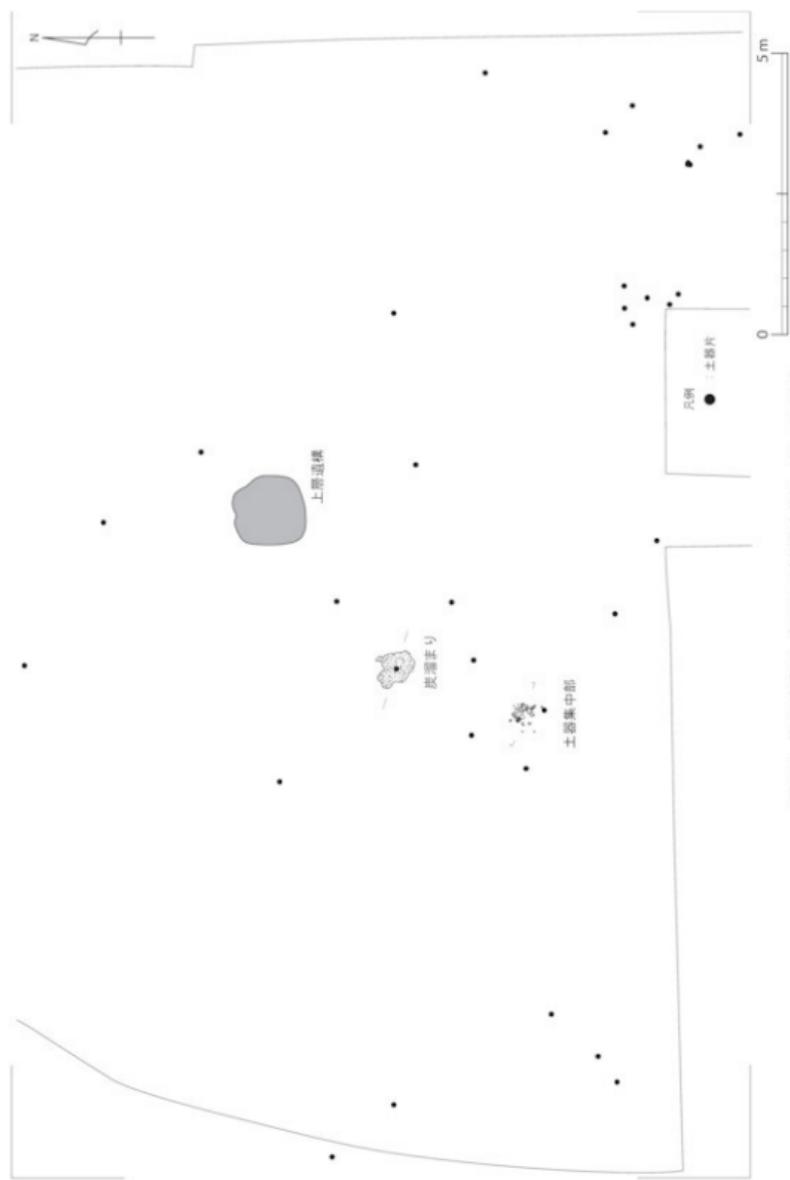


図407 第10遺構面 南4区 遺物分布状況 ( $S_r = 1/100$ )



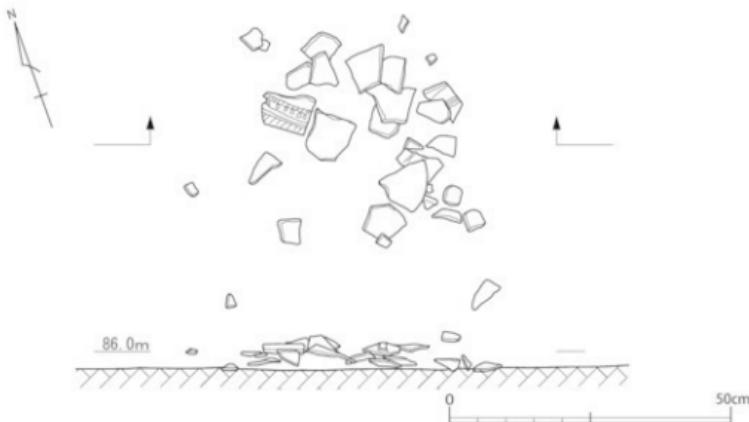


図 408 第10遺構面 南4区 土器集中部 ( $S_r = 1/10$ )

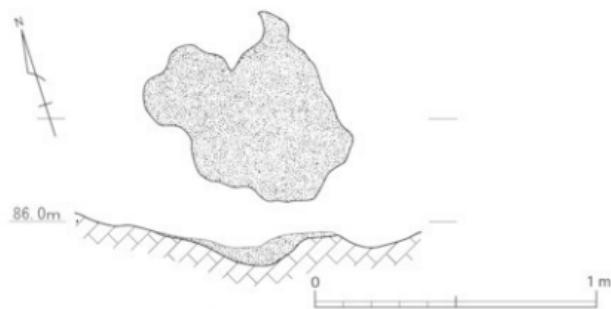


図 409 第10遺構面 南4区 炭溜まり ( $S_r = 1/20$ )

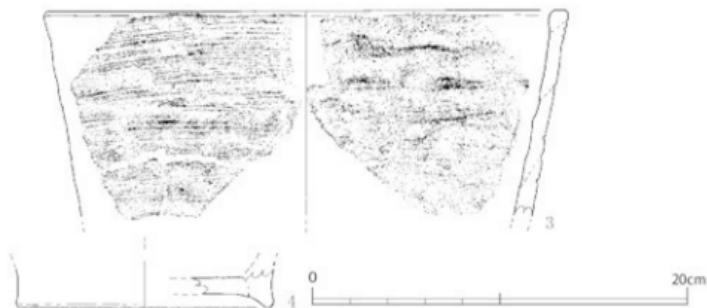


図 411 第10遺構面 遺構面上 出土土器 (2) ( $S_r = 1/3$ )

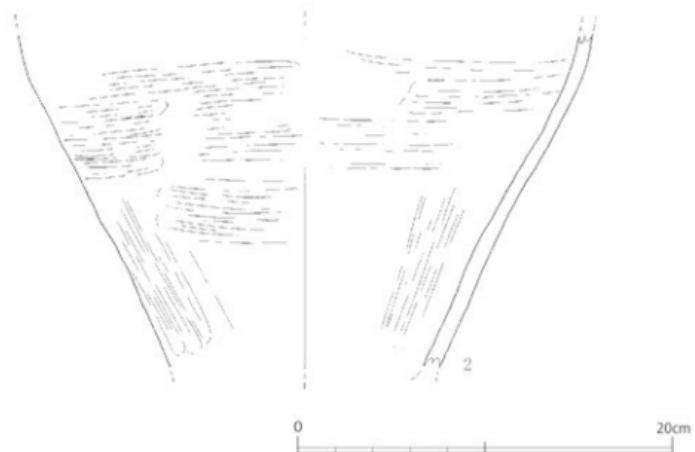
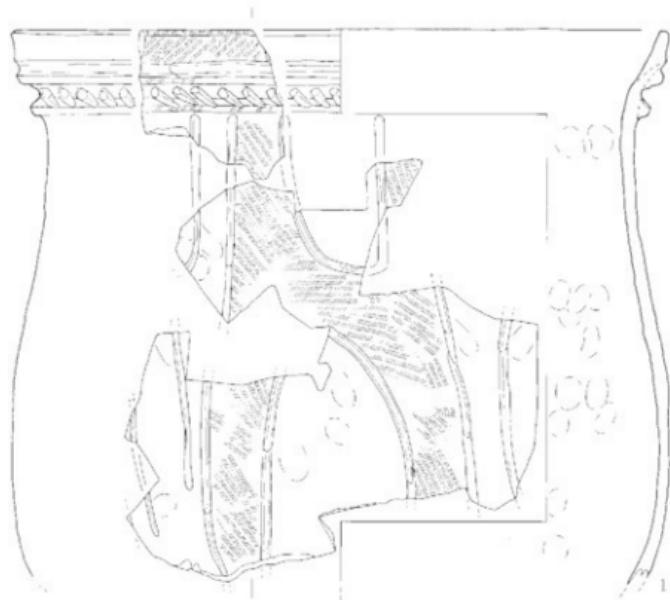


图 410 第 10 遗构面 遗构面上 出土土器 (1) (S. = 1/3)

## 第6章 第5－1・2次調査

### (南5区(新池)・南6区(大月池))の成果

#### 第1節 第5－1次調査の成果

本調査区は南4区の南西に隣接する。調査対象となった範囲は、新池と呼ばれる溜め池内に当たっている。地底の標高は87.4mであり、第4次調査で確認した遺構面の多くは存在しないと思われたものの、南4区の第9遺構面上面が標高86.2mであったことから、これに対応する遺構面は残存していることが予想された。発掘調査は、図412に示したように、調査区内の高速道路橋脚にあたる新池内の北東部と南西部の2箇所に方形のトレントを設けて実施した。トレントの名称は、北東部のトレントを「1トレント」、南西部のトレントを「2トレント」とした。

#### 1. 層序と遺構・遺物の検出状況

1トレントは調査区北東部に位置する、長辺12.6m、短辺10.4mの方形のトレントである。

1トレントの層序を、図414・415に示した。最上層（1層）は工事着手前に行われた土壤改良後のヘドロ層で、その厚さは約60～80cmであった。この改良土の下層では、一部にヘドロ（2層）が残存していた。これらの層の除去後、トレント北東部の約15m<sup>2</sup>の範囲にのみ3－1層を、その他の範囲では3－3層を検出した。両層の下には粘質土や砂礫などが水平に堆積していた。これらの層は、4次調査における第8遺構面基盤層（図5－12層）と同様の土質および層序を示していることから、これに対応すると考えられる。したがって、これらの層の上面には第8遺構面に相当する遺構面があったとみられるが、池の浸食によってその遺構面は失われたと考えられる。

図413に示したように、3層上面が露出した段階で遺構精査をおこない、足跡、埋設土器、流路を検出した。上述のように、本来の遺構面は失われていたため、これらの遺構の時期を層位的に決定することは難しい。足跡については、4次調査では弥生時代の水田遺構にともなって検出されている。したがって、本調査で検出したものも同様に、弥生時代に帰属する可能性が指摘できる。一方、埋設土器については、調整や器形から縄文後期前葉のものとみられる。以上から、この検出面上には複数の時期にわたる遺構が含まれていると考えられる。

3－3層および3－4層には、縄文後期前葉を中心とする遺物が包含されていた。4次調査における第8遺構面基盤層（図5－12層）に対応する層中からの出土であり、上述のように当該期に比定できる埋設土器も確認されたことから、ここに未確認の遺構面が存在した可能性があった。しかし、遺物の出土地点は面的な広がりをもたず、遺構面を確認することはできなかった。

3層の除去後、4層上面で土器片をわずかに検出した。土質と層序の対比から、4－1層は4次調査における第9遺構面基盤層（図5－13層）に相当するものと判断され、この上面が第9遺構面に対応する遺構面であると考えられる。したがって、この遺構面の時期は縄文中期末葉～後期初

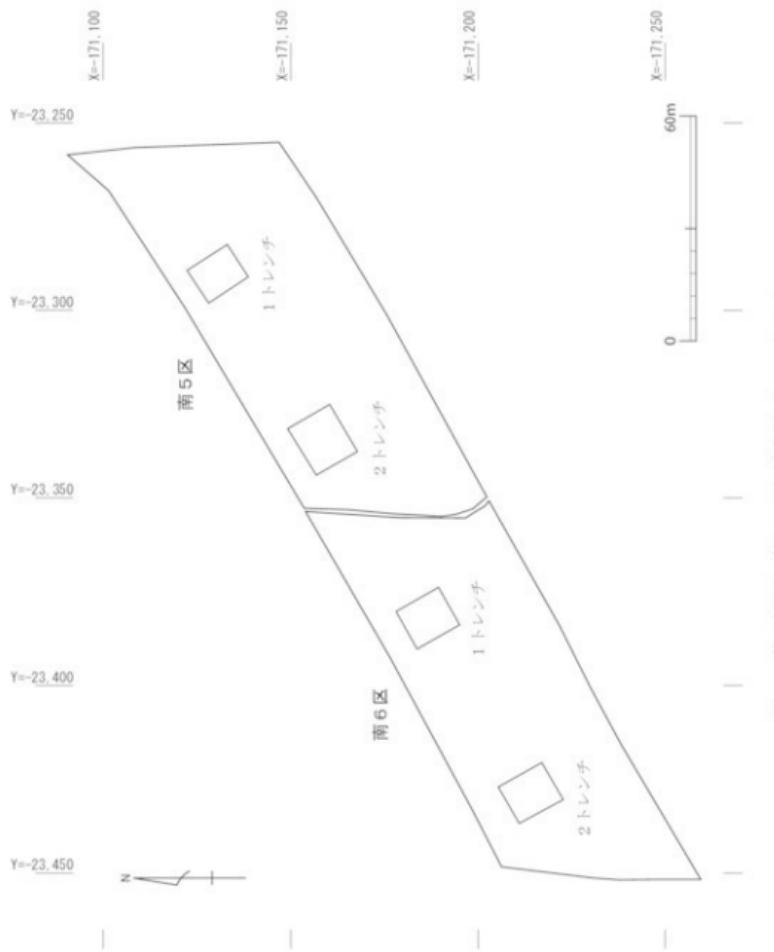


図412 第5次調査 南5・6区 全体図 ( $S_r = 1/1,500$ )

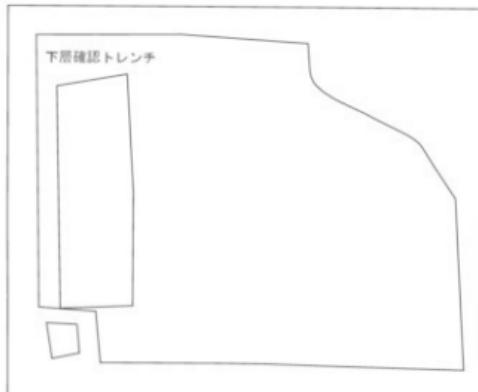
z  
+  
x



平面図（3層上面）

※アルファベット記号は図421に対応する。

z  
+  
x



平面図（4層上面）



図413 南5区 1トレンチ 3層・4層上面 (S.=1/150)

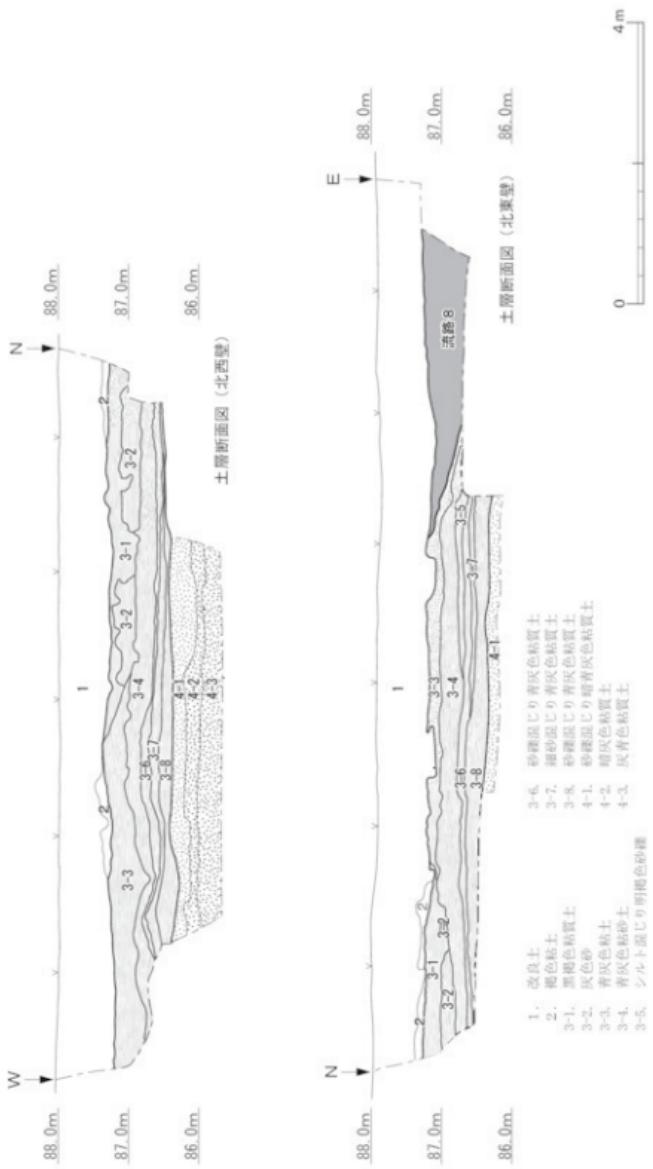


図 414 南5区 1 トレンチ 北西壁・北東壁 土層断面図 ( $S_r = 1.80$ )

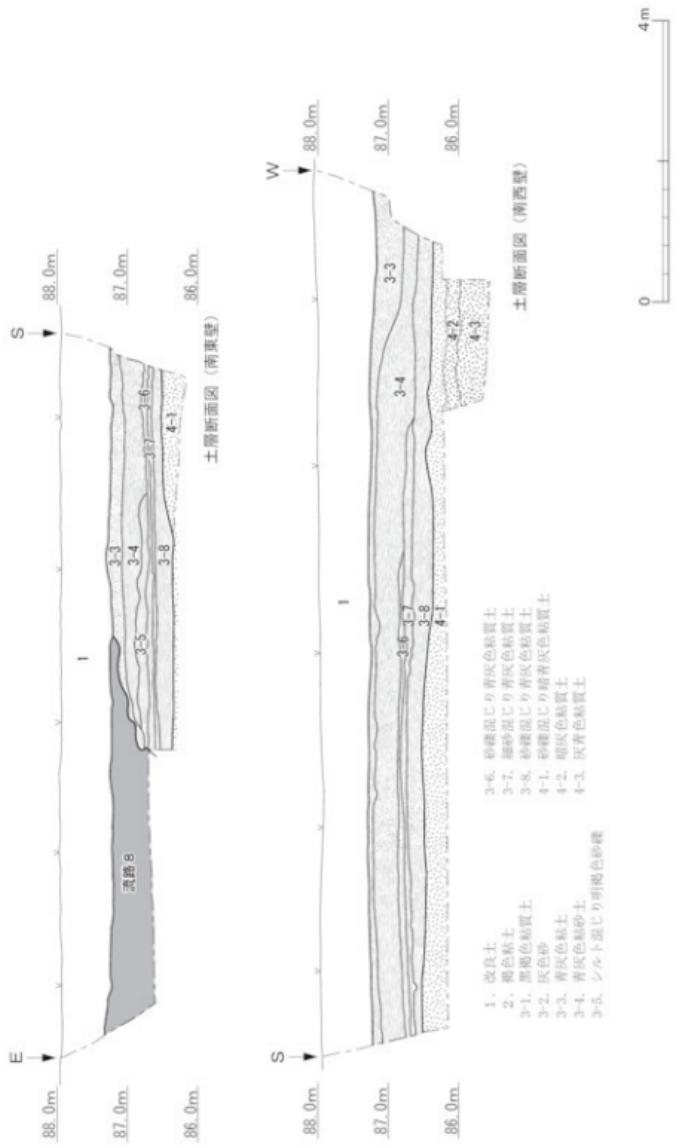


図415 南5区 1トレanche 南西壁・南東壁 土層断面図 (S.=1/80)

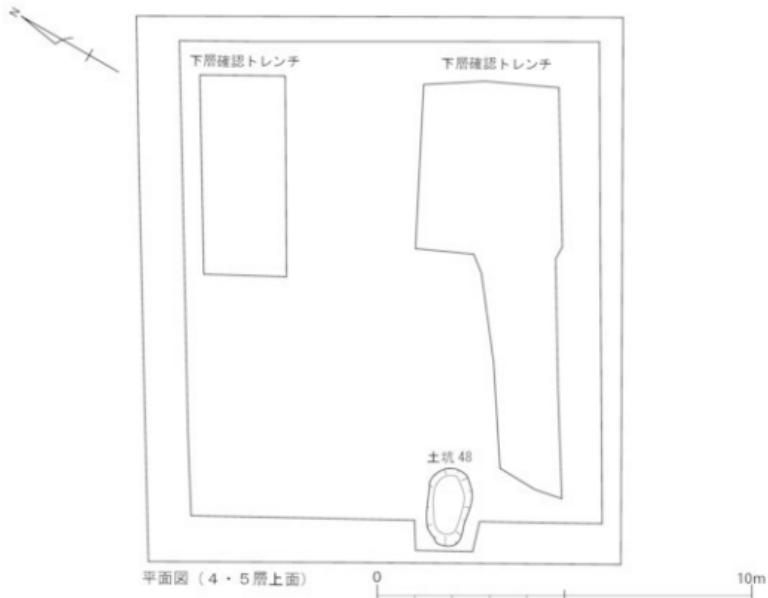


図416 南5区 2トレンチ 平面図 (S.=1/150)

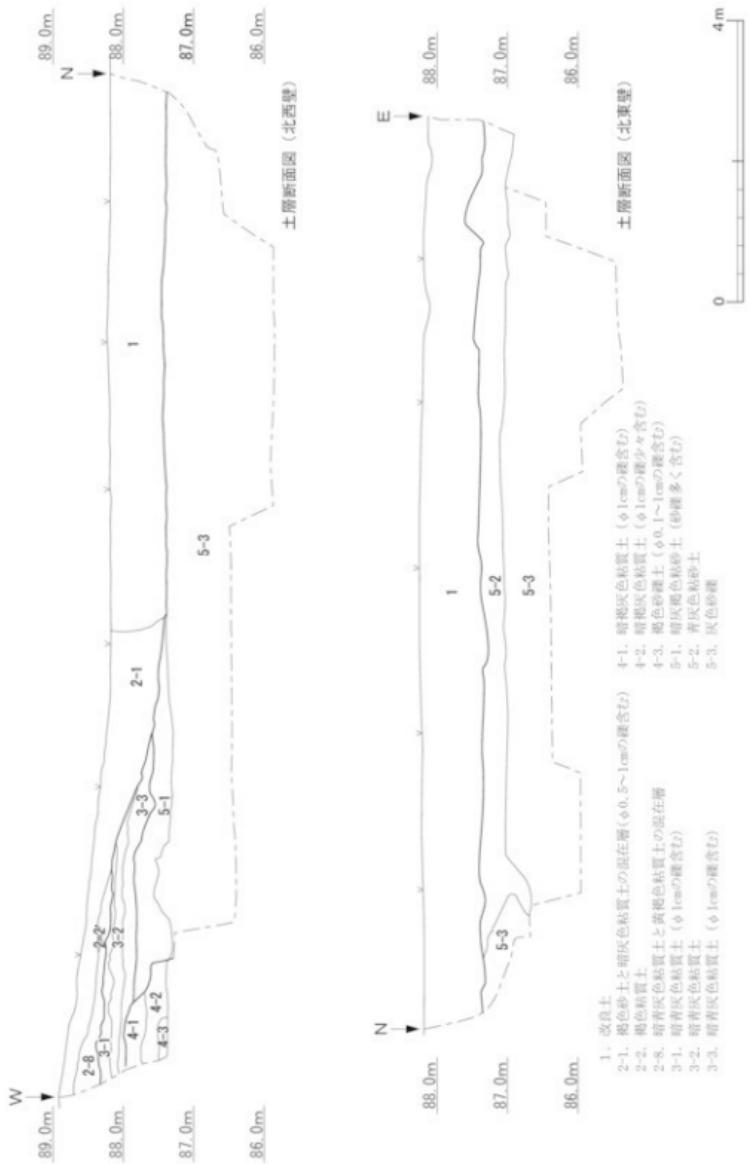
頭にあたると推察される。ただし、出土した遺物は型式不明の土器小片が5点と僅少で、これを確認することはできなかった。また、周囲には遺構も見られなかった。

4-1層上面の精査後、図413にみえるように、トレンチ北西部に下層確認トレンチを設定し約80cm掘り下げた。この結果、4-1層の下に粘質土が水平に堆積する状況が確認された。土質と層序の対比から、4-2層上面が4次調査における第10遺構面基盤層（図5-14層）に対応する可能性があったが、遺物や遺構は認められなかつたため、これを確認することはできなかった。なお、4層以下では遺物および遺構の存在する兆候が見られなかつたため、これ以下の掘削を行わなかつた。

2トレンチは調査区南西部に位置する、長辺14.5m、短辺13mの正方形に近いトレンチである。

2トレンチは西端が池堤防の立ち上がりに接する位置にある。このため、図417・418にみえるように、トレンチ西端付近では池底の標高が高くなつており、1トレンチよりも池の浸食による影響は少なかつた。また、ヘドロの土壤改良についても、トレンチ西端から南端付近にかけては行われていない。1層は土壤改良後のヘドロ層、2層は改良が行わなかつたヘドロである。

これらの層を除去したのち、トレンチ西端の10mほどの範囲で3層を確認した。3層上面では、



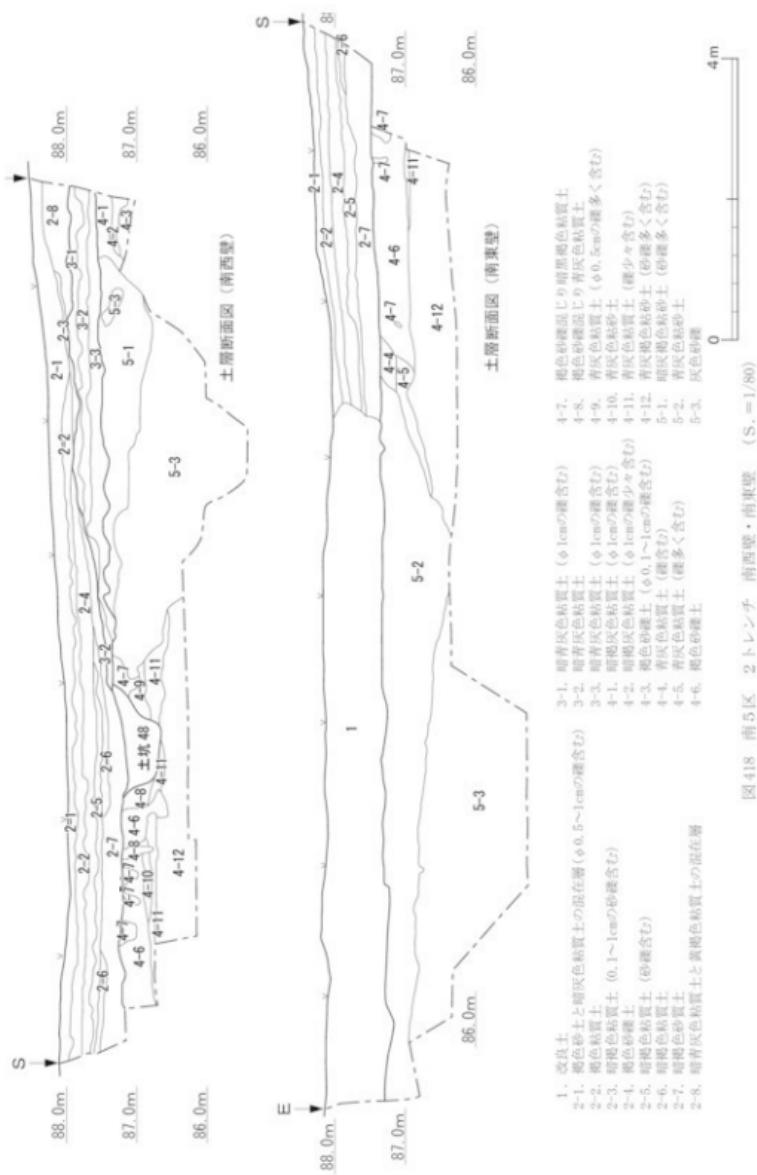


図418 南5区 2トレンチ 南西壁・南東壁 (S.=1/80)

1. 改良土
- 2-1. 黄褐色砂土と褐灰色粘質土の混在層 ( $\phi 0.5\sim1cm$ の礫含む)
- 2-2. 褐色砂質土
- 2-3. 新規砂粘土 ( $0.1\sim1cm$ の砂礫含む)
- 2-4. 黄色砂質土
- 2-5. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 0.1\sim1cm$ の礫含む)
- 2-6. 新規砂粘土質土
- 2-7. 黄褐色砂質土
- 2-8. 緑青灰褐色粘質土と黄褐色粘質土の混在層
- 3-1. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 1cm$ の礫含む)
- 3-2. 緑青灰褐色粘土
- 3-3. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 1cm$ の礫含む)
- 4-1. 新規砂粘土 ( $\phi 1cm$ の礫含む)
- 4-2. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 1cm$ の礫少々含む)
- 4-3. 黄褐色砂土 ( $\phi 0.1\sim1cm$ の礫含む)
- 4-4. 黄灰褐色粘土 ( $\phi 1cm$ の礫含む)
- 4-5. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 1cm$ の礫含む)
- 4-6. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 1cm$ の礫含む)
- 4-7. 棕褐色砂粘土 ( $\phi 1cm$ の礫含む)
- 4-8. 緑青灰褐色粘土
- 4-9. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 0.5cm$ の礫多く含む)
- 4-10. 黄褐色砂粘土
- 4-11. 黄褐色砂粘土
- 4-12. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 0.1\sim1cm$ の礫含む)
- 4-13. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 0.1\sim1cm$ の礫含む)
- 4-14. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 0.1\sim1cm$ の礫含む)
- 4-15. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 0.1\sim1cm$ の礫含む)
- 4-16. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 0.1\sim1cm$ の礫含む)
- 4-17. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 0.1\sim1cm$ の礫含む)
- 4-18. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 0.1\sim1cm$ の礫含む)
- 4-19. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 0.1\sim1cm$ の礫含む)
- 4-20. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 0.1\sim1cm$ の礫含む)
- 4-21. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 0.1\sim1cm$ の礫含む)
- 4-22. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 0.1\sim1cm$ の礫含む)
- 4-23. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 0.1\sim1cm$ の礫含む)
- 4-24. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 0.1\sim1cm$ の礫含む)
- 4-25. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 0.1\sim1cm$ の礫含む)
- 4-26. 黄褐色砂粘土 ( $\phi 0.1\sim1cm$ の礫含む)

土器片が2点出土したが、いずれも1cm角程度の細片のため時期の特定には至らなかった。また、周間に遺構も見られなかった。

3層の下には、5層がトレンチ西北側から東半にかけて、深さ2m以上にわたって堆積していた。湧水が激しく、この層の下限を確認することはできなかった。5層中からは縄文土器を中心に、須恵器や弥生土器、サヌカイト片が出土した。この層は砂礫層を中心とすることから、自然流路または谷地形を埋める埋土であったと考えられる。

一方、トレンチ南端付近では、5層上面とほぼ等しい標高で4層を確認した。この4層上面では土坑48を検出した。図417にみえるように、土坑48は直上にヘドロ層があり、上部が削平を受けている可能性があるため、帰属する遺構面を層位的に特定することはできなかった。また、土坑内からは遺物の出土もないため、時期・性格ともに不明である。4層下は50cm以上堆積していた。ここからは遺物の出土ではなく、また遺構の存在する兆候も無かったことから、これ以下の掘削を行わなかった。

以上に述べたように、2トレンチでは安定した遺構面を検出できず、遺構および遺物の残存状態が良好でなかった。また、トレンチの大部分が自然流路または谷地形に当たっていたものとみられ、堆積状況も他の調査地区とは異なっていた。

## 2. 遺構

### (1) 足跡

#### ①足跡（図413）

1トレンチの南西半で検出した。長径5~25cm程度の不整椭円形の小穴群が、およそ南北方向に列状に形成されている。第4次調査では、同様の遺構が第7遺構面で水田遺構にともなって多く確認され、その形状や大きさからヒトの足跡と理解されている。調査時の所見から、この小穴群も同様にヒトの足跡と判断される。帰属時期については、4次調査での成果を踏まえると、第7遺構面よりも上層の遺構面に帰属する可能性が指摘できる。

### (2) 埋設土器

#### ①埋設土器2（図413・419）

1トレンチ南半で、埋設土器2を検出した。図419にみえるように、直径67.5cm、深さ16cm以上の不整円形を呈する土坑に、無文深鉢（図422-1）が北に若干傾いた状態で埋設されていた。この土器は頸部以上を欠失していることから、上部は削平を受けたものと考えられる。土坑の内部や埋設土器内部からの遺物の出土は無かった。

### (3) 土坑

#### ①土坑48（図416・420）

2トレンチの南端付近で、土坑48を検出した。図420にみえるように、埋土は単層で、長軸約2m、

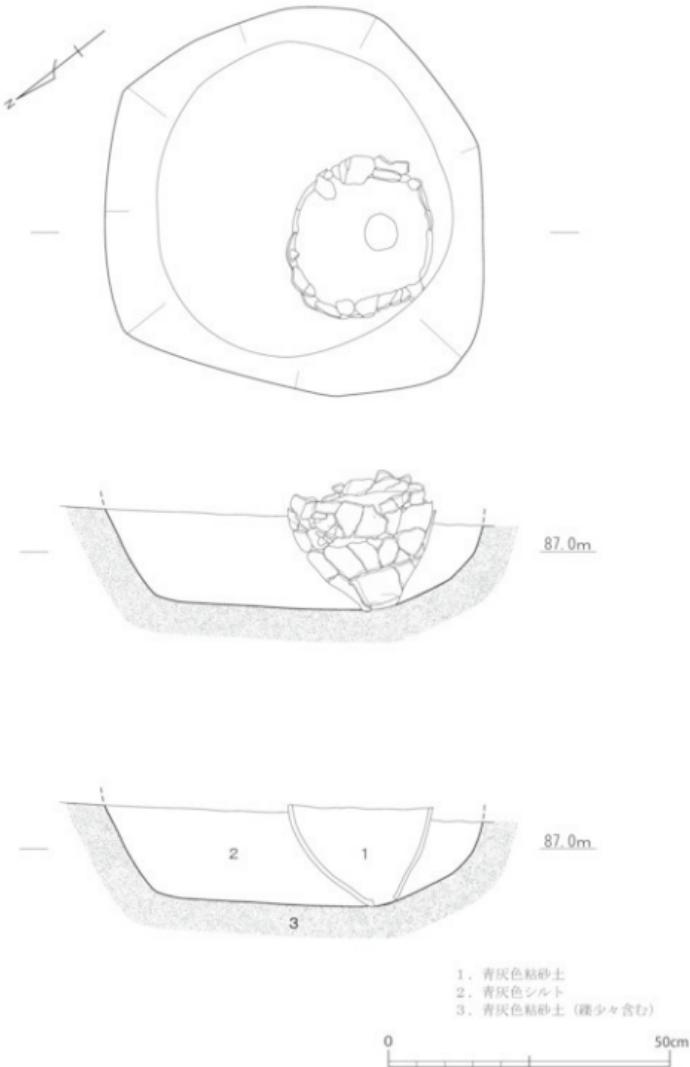


図419 南5区 1トレンチ 埋設土器2 平面・立面・断面図 (S. = 1/10)

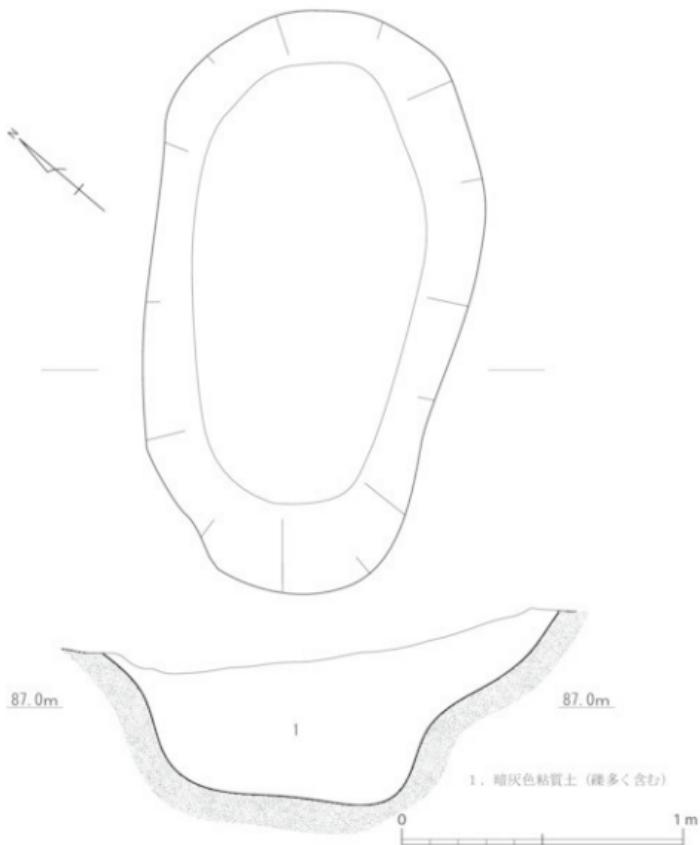


図420 南5区 2トレンチ 土坑48 平面・断面図 (S. = 1/20)

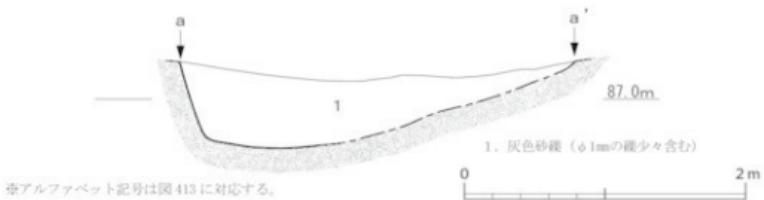


図421 南5区 1トレンチ 流路8 断面図 (S. = 1/40)

短軸約1.2mの楕円形を呈し、深さは35cmである。遺物の出土はなく、時期・性格とともに不明である。

#### (4) 流路

##### ①流路8（図413・421）

1トレンチの東端で検出した。検出長は南北5.2m、深さ0.7m以上で、南北方向に伸びる。図414・415の北東壁および南東壁に見えるように、流路8は3層よりも上層から掘り込まれたものと考えられる。流路内からは土器片が5点出土したが、いずれも細片のため時期の特定には至らなかった。

### 3. 遺物

#### (1) 土器・土製品（図422・423）

南5区出土の土器・土製品は、多くが1トレンチからの出土である。出土した土器は、縄文時代から古墳時代にまでおよぶが、多くが縄文後期前葉に位置づけられるものである。なお、縄文後期前葉の資料は第4次調査では希薄である一方、第1次調査ではこの時期の資料が多く検出されていることが注目される。

（422-1）は埋設土器2に用いられた深鉢。内外面に巻貝条痕を残す、無文土器である。頸胴部のくびれがつよく、その形態から芥川式～北白川上層式期に比定しうる。頸部以下のほとんどが

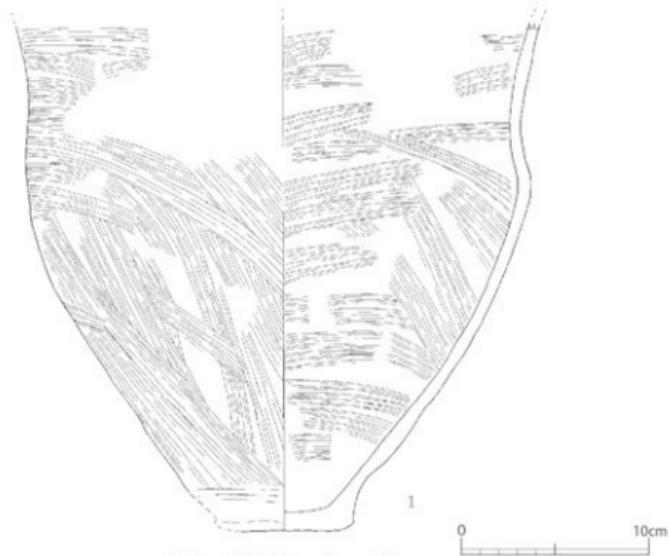


図422 埋設土器2 (S.=1/3)

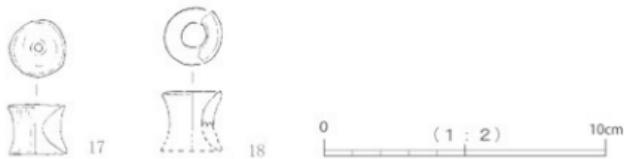
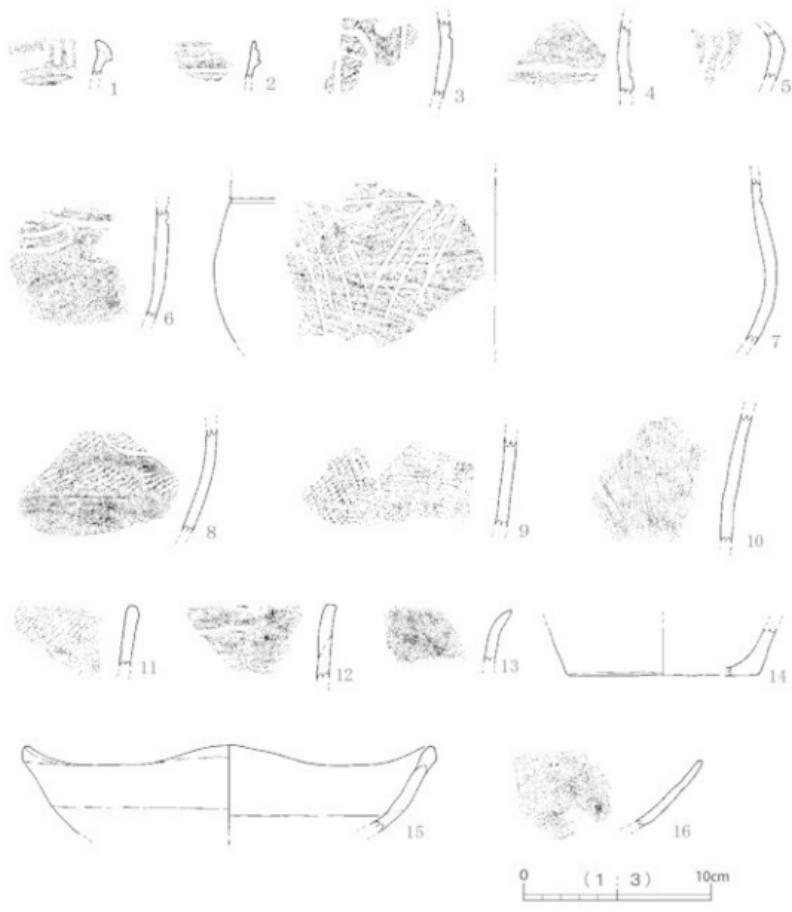


図423 南5区 出土土器 (S. = 1/3)・出土土製品 (S. = 1/2)

残存するが、底部は一部欠損がある。この土器の出土の状況から、埋設以前に底部が打ち欠かれていた可能性がある。

(423-1・2)は、有文深鉢の口縁部片。いずれも口縁部外面をやや肥厚させて文様帶としており、後期前葉の芥川式～北白川上層式に比定しうる。器壁が薄く、小形の土器と考えられる。

(423-3～8)は、有文深鉢の胴部片。いずれも頸部がくびれて胴部が張るキャリバー形の器形をとると考えられ、後期前葉のものと判断した。(423-3・6)は、刺突文や区画文、磨消繩文などによって施文しており、施されるモチーフも関東の堀之内式との類似が認められる。こうした堀之内式類似土器は、当該期に一般的に用いられる。(423-5・7)のように、複数本の斜行沈線が垂下する文様は在地的な変遷を追うことの出来るもので、北白川上層式の特徴のひとつに数えられる。(423-7)は巻貝条痕が外外面によく残っている。(423-8)はモチーフが不明であるが、形態および横位の繩文に沈線が加えられるという特徴から、後期前葉のものと判断した。

(423-9)は、型式不明の深鉢胴部片。外面は巻貝条痕のちナデ調整をほどこし、一部にRL繩文が残る。

(423-10)は、櫛歯状工具による施文をほどこす深鉢胴部片。内面に幅1.5cmほどの板状工具によるナデをほどこす。

(423-11)は、口縁部に繩文のみ施文する深鉢口縁部片。口縁部がやや肥厚し、その部分に繩文が施されている。芥川式～北白川上層式に比定できる。

(423-12・13)は、無文の深鉢または鉢の口縁部片。(423-12)は、口縁端部に面を形成する。内面には巻貝条痕が残る。暗赤褐色で、角閃石・雲母を多くふくむ、いわゆる「生駒西麓産」と称される胎土の特徴をもつ。(423-13)は口縁部が外反する鉢になると想われる。

(423-14)は底部片。平底で、器壁はやや薄手である。

(423-15・16)は皿形を呈する無文鉢の口縁部片。(423-15)は、波状口縁になるとみられ、波頂部付近のみ口縁部が肥厚する。内外面はミガキ調整がほどこされる。(423-16)は器壁が薄く、暗赤褐色で、角閃石・雲母を多くふくむ、いわゆる「生駒西麓産」と称される胎土の特徴をもつ。

(423-17・18)は土製品で、耳栓形を呈する耳飾りである。いずれも胎土に小さな砂粒しか含まず、精良な印象をうける。(423-17)は断面三角形状で、中央に小さな穿孔をもつ。ミガキ調整が顕著で、赤色顔料の付着が全面に確認できる。この赤色顔料には水銀朱が用いられていることが判明している。詳細は第7章第2節を参照されたい。(423-18)は断面弓状で、両端が外反する筒状の形態をとる。

## (2) 石器(図424)

(424-1)は厚みのある円錐を素材とする敲石である。周縁部全周に帯状に打痕がみられる。両平坦面全体に敲打によるくぼみがあり、長期間の利用が考えられる。流紋岩製。

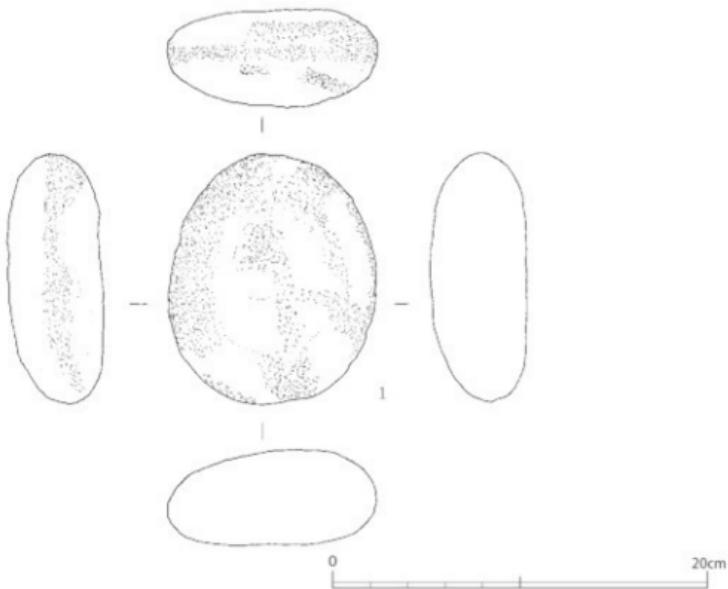


図424 南5区 2トレンチ 出土石器 (S. =1/3)

(3) 木製品 (図425)

(425-1) は先端加工のある杭。5区1トレンチ  
3層上面精査時に、トレンチ東側の流路付近から出  
土した。上部は削平をうけて欠失している。残存長  
28.5cm、径 4.3cm。

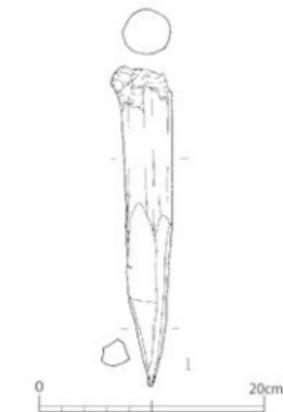


図425 南5区 1トレンチ 出土木製品  
(S. =1/5)

## 第2節 第5—2次調査の成果

本調査区は、南5区（新池地区）の南西隣接地にあたる。南5区と同じように、調査地は大月池と呼ばれる池内にあたっている。

本調査区の発掘調査は、調査区内の高速道路橋脚にあたる大月池の中央東部と中央西部の2箇所に方形のトレントを設けて実施し、東部のトレントを「1トレント」、西部のトレントを「2トレント」とした。

### 1. 層序と遺構・遺物の検出状況

1トレントは、調査区の中央東半部に位置する、長辺11m、短辺10mの正方形に近いトレントである。

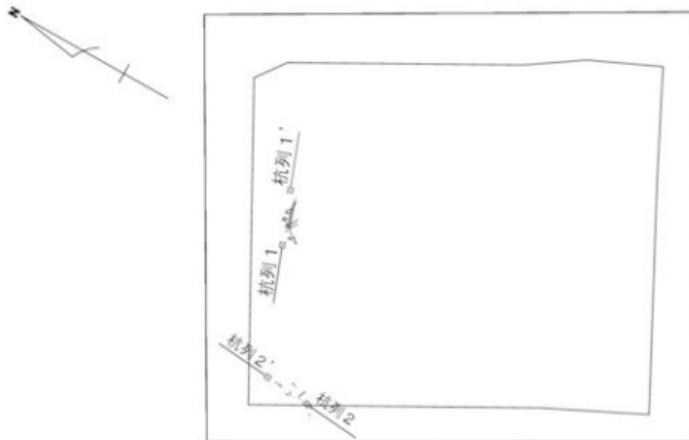
図427にみえるように、最上層（1層）は工字着手前に行われた土壤改良後のヘドロで、その厚さは50～140cmと一定ではなかった。この改良土の直下から土器片が出土した。この改良土の下層には2m以上にわたって、砂礫や粗砂を主体に部分的にシルト、粘質土などが混じた層が堆積していた。これらはいずれも遺構面を形成するような安定した土層とは見えず、自然流路もしくは谷地形の埋土であったと考えられる。こうした堆積層は、改良土上面から少なくとも3.5mの深さまで確認できたが、それ以下は湧水が激しく下限を見出すことはできなかった。

トレントの北半では、2層中で、2列の杭列を検出した（図426）。杭は上部が削平を受けており、残存長は50cmほどのものから5cm程度のものまで様々であった。これらの杭は上層より打ち込まれたもので、池の浸食などによって削平を受けたものと考えられる。杭の直上は改良土であるため、これらの杭が本来属していた遺構面は不明である。1トレントからは、縄文時代～中世の土器のほか、サヌカイト片が出土した。

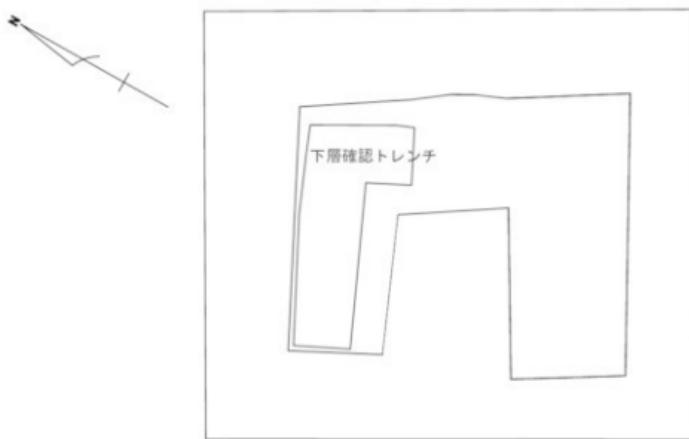
2トレントは、調査区西部に位置する、長辺13m、短辺11mの方形のトレントである。

図429にみえるように、最上層（1層）は土壤改良後のヘドロで、厚さは60cm～120cmと一定ではなかった。改良土直下では、1トレントと同じく2m以上にわたって砂礫や粗砂を主体として、部分的にシルト、粘質土などが混じた層が堆積していた。したがって、2トレントについても1トレントと同様に、トレント全体が自然流路もしくは谷地形に当たっていたとみられ、流水による堆積と開析が繰り返されていたと考えられる。遺物は、2層から縄文土器と見られる型式不明の土器片1点が出土したのみである。

以上のように、1トレント、2トレントともに改良土の下には2m以上にわたって粗砂、細砂が堆積し、部分的にシルト、粘土が混じていた。したがって、南6区では第4次調査の層序とは大きく異なり、全体が自然流路または谷地形に当たっていたと考えられる。いずれも安定した堆積環境下にあったとはみられず、遺構面も確認されなかった。ただし、1トレントでは杭列を検出しておらず、第4次調査では弥生時代の遺構面において同様の杭列を確認していることから、残存していた



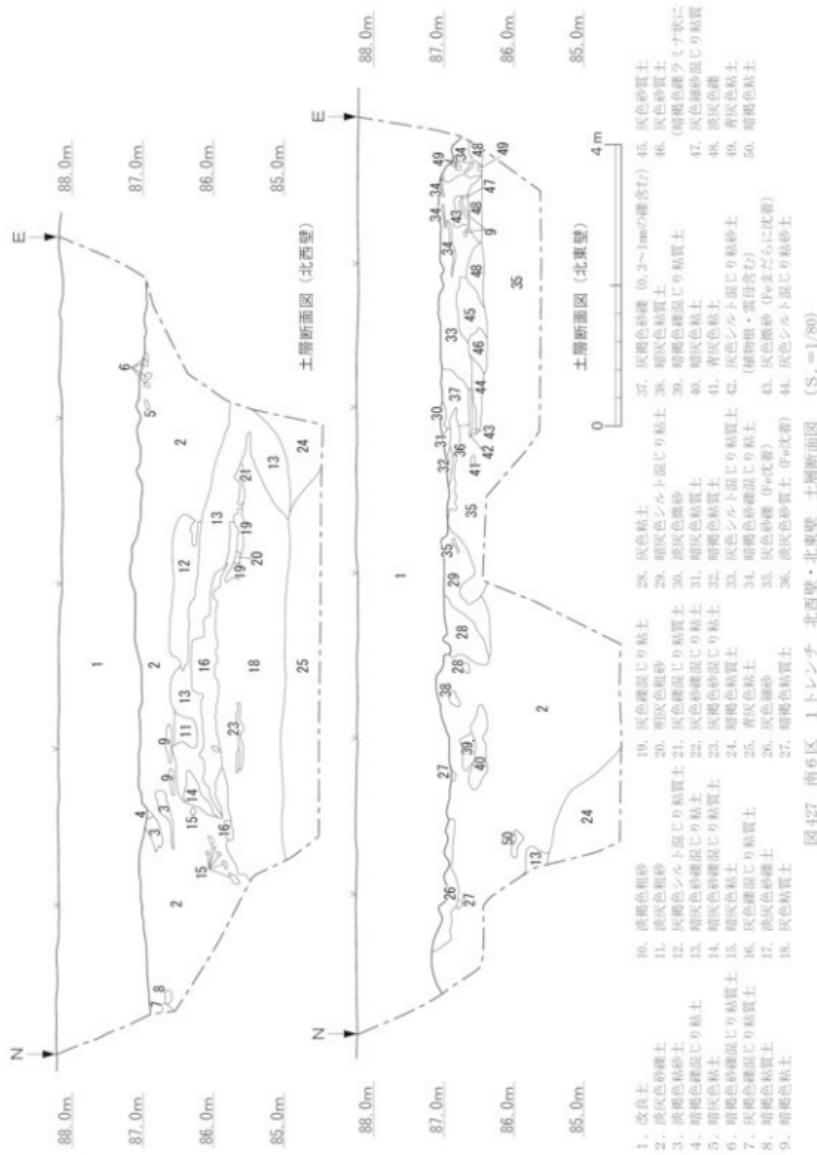
平面図（1層除去後）

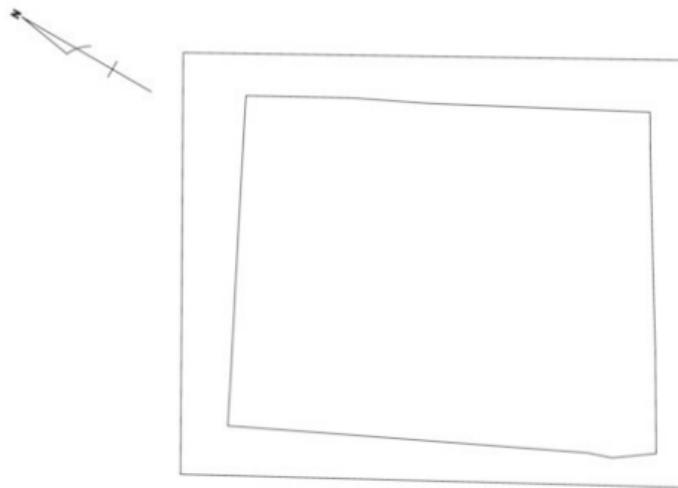


平面図（下層掘削状況）

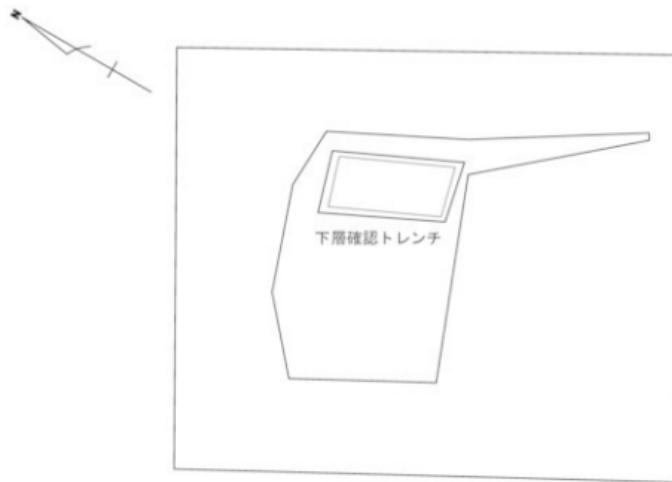


図 426 南6区 1トレンチ 平面図 (S. = 1/150)





平面図（表土除去後）



平面図（下層掘削状況）



図 428 南6区 2トレンチ 平面図 (S. = 1/150)

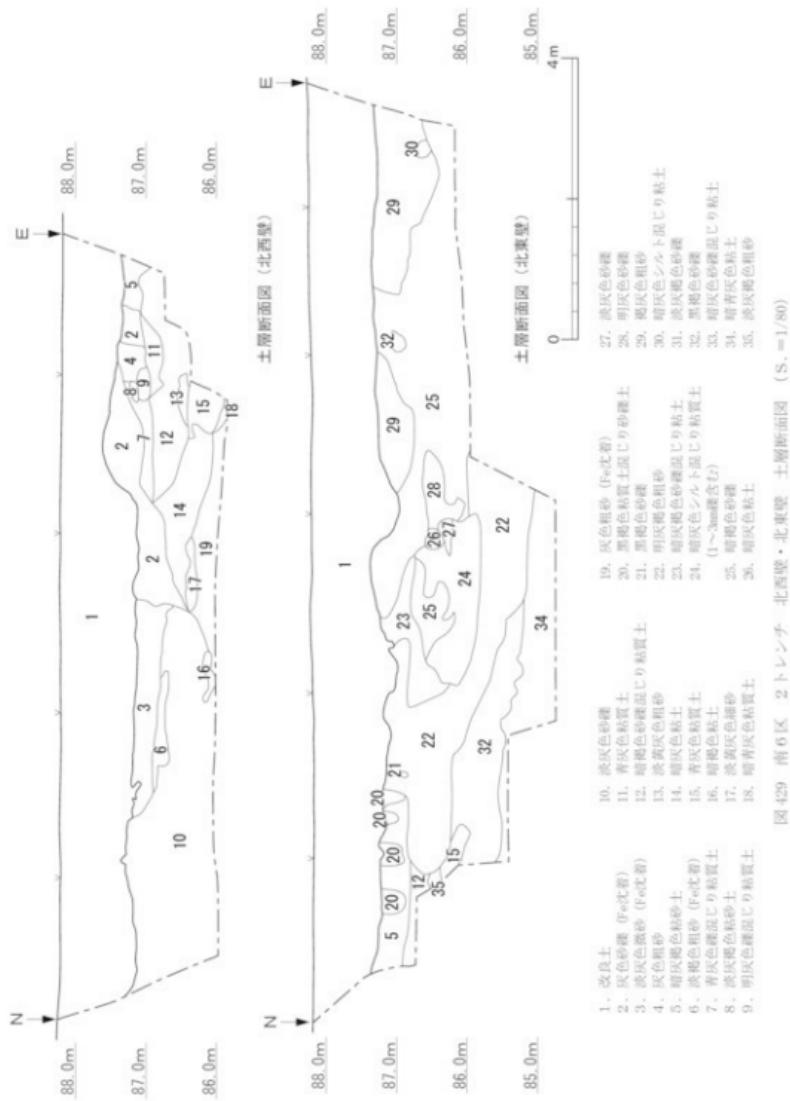
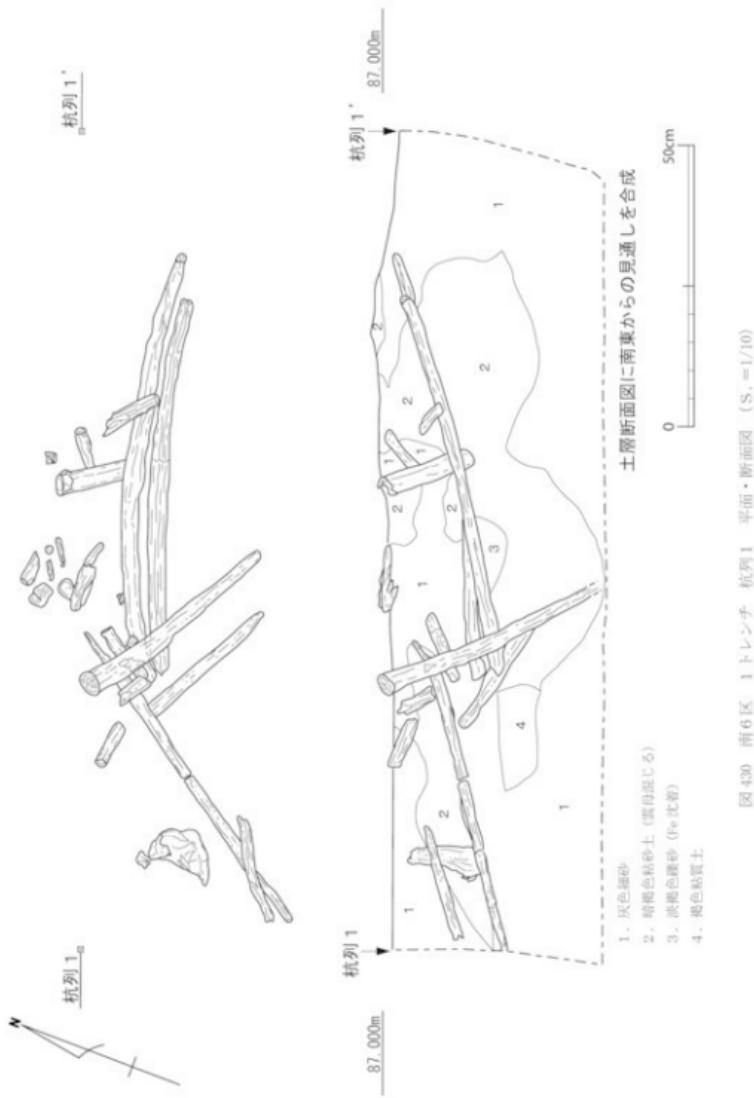


図 429 南6区 2 トレンチ 北西壁・北東壁 土層断面図 (S. = 1/80)



—

○



柱列 2  
柱列 2'

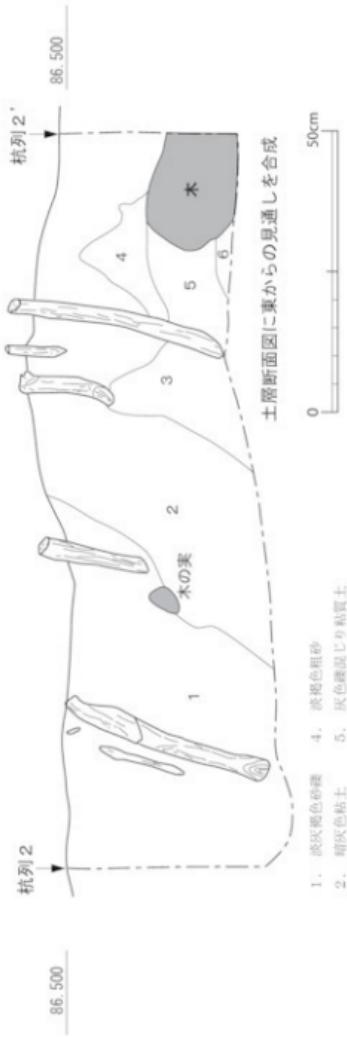


図431 南6区 1トレンチ 柱列2 平面・断面図 (S. = 1/10)

層よりも上層には遺構面が形成されていた可能性があったが、池の浸食によりこれらが失われたものと考えられる。

## 2. 遺構

### (1) 杭列

#### ①杭列1 (図430)

1トレンチ北側の中央西よりで検出した。図430に見えるように、丸木の木杭が13本以上、長さ1.2mほどの範囲で縦横に組み合わさった状態であった。杭列の性格および機能については不明である。

#### ②杭列2 (図431)

杭1トレンチ西端で検出した。図431に見えるように、丸木の木杭が少なくとも15本以上、長さ1.3m、幅40cmほどの範囲で縦に打ち込まれた状態であった。杭列の性格および機能については不明である。

## 3. 遺物

### (1) 土器 (図432)

南6区からは、縄文時代から中世にかけての遺物が出土した。

(432-1)は、縄文中期末・北白川C式の深鉢胴部片。太く浅い沈線によって文様が描かれている。

(432-2~4・6)は、縄文後期前葉・北白川上層式に比定できる。(432-2)は、口縁部外面が弱く肥厚し、LR繩文がほどこされる。頸部には櫛歯状工具による鋸歯状沈線がほどこされる。外面全体に、にぶい光沢をもつ黒色付着物が確認できる。(432-3)は、口縁部外面が肥厚し、重弧線文がほどこされる。(432-4)は、内縁する口縁部にRL繩文のみがほどこされる。(432-6)は、凹底の底部片とみられる。底面には網代痕をナデ消したような痕跡が認められる。

(432-5)は、縄文晩期末・長原式の壺胴部片。断面三角形の細い凸帯の頂部にヘラ状工具によるキザミがほどこされる。外面はミガキ調整によって仕上げられている。

(432-7~10)は、弥生後期~古墳前期の所産とみられる。(432-7)は壺の口縁~頸部。口縁部が外反し、内外面にナデ調整をほどこす。外面にスヌとみられる黒色付着物が確認できる。畿内V様式に属すると考えられる。(432-8・9)は壺の底部片。(432-8)は平底で、外面にタタキ調整をほどこす。畿内V様式に属すると考えられる。(432-9)も平底を呈し、内外面はナデ調整をほどこす。(432-10)は、高杯の口縁部片。杯部に稜をもち、口縁部が短くやや外反する。内外面はナデ調整をほどこす。布留式に属すると考えられる。

(432-11)は土師器皿。口径13.2cmに復元されるやや小形の皿で、口縁部下のナデ調整によって稜が形成される。平安後期~鎌倉期ごろの所産と考えられる。

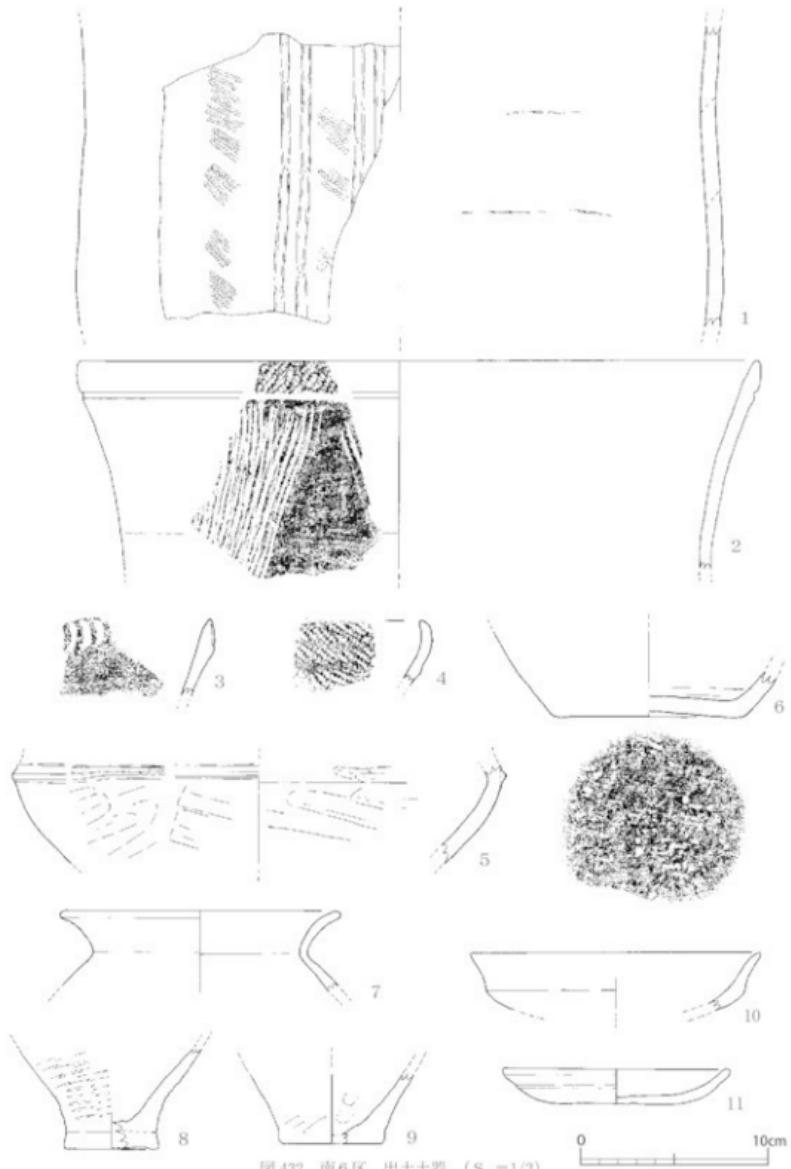


图 432 南6区 出土土器 (S. = 1/3)

## 第7章 考察

### 第1節 第8遺構面 サヌカイト集積土坑出土の石器

学校法人 雲雀丘学園中学校・高等学校

教諭 大下 明

#### 1. はじめに

ここで検討の対象とする土坑出土の資料は、137点ある。各石器の法量と属性は、表5に示した。なお、取上げ番号は「138」まであるが、「27」は土器片であったことが整理時に判明したため、石器一覧表（表5）は「27」を欠番としている。以下の記述は、この取上げ番号をそのまま使用して行う。なお、一覧表の器種名のうち、「剝片」としたものには、本来は二次加工として把握すべき折断による分割が見られるものも含んでいることを断っておきたい。

これらの石器は、遺構の項で述べたように、平面形が不正円形で、断面形はバケツ状を呈する土坑の上部から検出された。石器埋納前はやや深いボウル状を呈すると考えられる（図289）。深さは約19cmを測り、検出された上面に近い石器の状況から、石器に影響のある上部の削平はないと考えられる。

埋設状態を見ると、剝片の大小や表裏などに対する埋設時の規則性は特に観察されず、ほぼ水平に積み重ねるように埋められている。坑底に近い部分ではやや立っているように見受けられるものもあるが、坑底に沿って置かれた結果であり、意図的なものではないと判断される。

調査時には、出土状況図を何面も作成しながら丁寧に掘り下げた。遺構内土壤の水洗選別は実施していないが、調査時の遺物の遗漏がないと判断される。それを受け、資料を見ると最大長2cm以下の碎片は全く含まれていない。この在り方から、この土坑には石器製作時に出た不用物の全てではなく、一定の大きさ以上の剝片を選択して埋設していることがわかる。

出土した石器の剝離面は、いずれもほとんど風化していない状態を示し、稜線の摩滅や全体の転磨などは観察されない。また、個々の剝片間に剝離面の風化度の差は見られない。この観察から、これらの剝片は、剝離作業が行なわれた直後に本土坑に埋設された可能性が高いと考えられる<sup>35</sup>。

遺物整理に当たっては、まず、素材となった原礫（母岩）の個体識別を行った。個体識別は、原礫表に残された冷却時の気泡痕の形状と剝離面の性状の二者の観察によった。但し、石理の方向、生成時の状況、転磨・水磨の差によって、さらに同一原礫の表面でも部位により気泡痕の在り方が異なっているものもあり、その特徴のみで単純に区分することはできない。サヌカイトは、原礫表の気泡痕以外の特徴に乏しく、個体識別そのものが困難な石材であるため、今回は母岩数を9個体と報告したが、実際にはもっと少ない母岩数に集約できる可能性が考えられる。また、各母岩の残存率が高ければ、接合作業を行う過程でより多くの接合が確認されるはずだが、個々の母岩の残存

率が低いために、接合例が少なく、個体識別も困難になっていると考えられる。なお、母岩番号・接合資料番号は整理時に任意に付けたものを継承しており、その順番に特に意味はない。そのため、記述は番号が前後する。

## 2. 遺物の内容

出土資料を母岩別に記述し、各母岩の特徴と全体の傾向、図示していない資料のうち剥片以外の器種としたものについて述べることとしたい。各母岩に含まれる接合資料も、その中で合わせて記述する。なお、実測図は、接合資料のみを掲げた。他の資料については、図版に全点の背・腹両面を掲載しており、そちらを参照願いたい。

母岩1 2点1組の接合資料⑦(図439)を含む比較的大型の剥片5点をこの母岩とした。

原礫表は、円形の浅い凹みが見られ、端部では一部層状を為す。剥離面には、やや毛羽立つようなフィッシャーが見られる。2mm前後の石英粒を時折含む。

接合資料⑦は、63・64の近接して出土した2点が接合している。2回の連続した剥離ではなく、本来は1点の剥片が剥離時の衝撃により2つに折れたものであろう。

母岩2 11点をここに含めた。原礫表は母岩1に近似するが、やや肌理が粗い。3点1組の接合資料を含む。

図示していない資料では、135は腹面側にも複数の剥離痕をもち、石核とも考えることができる。しかし、得られた剥片は小型で、積極的な剥片獲得の意図を認識できないことから、二次加工ある剥片とした。

接合資料②(図435)は、3点が接合している。いずれも原礫表を打面とし、打点を左右に移動させながら、3→42→92の順に横長の剥片を連続して剥離している。3の剥離以前にも同様の小型で横長の剥片を連続して剥取していたことが、3点の背面に残る先行する剥離痕からわかる。92は他の二者に比べて大型となっているが、意図したものでないと思われる。

母岩3 11点をここに含めた。周縁部では層状を為す原礫表を特徴とする。剥離面は、全体に肌理が細かい。灰色を呈し、黒い縞が薄く入る。図示していない資料に、特に特徴的なものはない。

母岩4 接合資料⑥を含む9点ある。全体に細かい凹凸をもち、一部に爪形の深い気泡痕をもつ原礫表を特徴とする。

接合資料⑥(図438)は、50と82の2点が接合している。50を剥離した後に、反対方向から大型の82を剥取している。いずれも背面に広く原礫表を残しており、それを取り除くことを意図した剥離とも考えられるが、82は腹面側にネガティブな剥離面が複数形成されており、その剥離が素材剥片獲得を意図したものかは不明だが、器種名は石核とした。石核としての打面の対向縁辺に階段状剥離が観察され、両極打法に近い剥離が為されたとも考えられる。なお、階段状剥離を含む二次加工は腹面左側縁にも観察される。

母岩5 23点と最も多くの資料がここに含まれる。凹凸の大きい気泡痕をもつ原礫表を特徴とする。剥離面の性状などは母岩2に近いが、黒い縞はみられない。あるいは同じ母岩の異なる部位かもしれない。

母岩6 接合資料③を含む21点をこの母岩とした。浅い円形の凹みをもち、所々に小さな深い凹みが混じる礫表を特徴とする。剥離面は全体に肌理が細かく、淡い灰色を呈する。礫表を広く残す比較的大型の剥片を多く含む母岩である。母岩2と同一母岩である可能性がある。

この母岩に含まれる資料のうち、44は、小型の剥片だが腹面にネガティブな剥離面を残し、一部に二次加工の連続する部分も見られる。器種は二次加工ある剥片とした。積極的な器種形成の意図はないと考えられる。106は、上下に打点が見られることから、一覧表の備考に「両極」と記載されているが、一方は剥離時ではなく、原石の段階で礫表から入った衝撃痕の可能性が考えられる。

接合資料③(図436)は、原礫表を打面として、連続して剥離されたものである。打面と対向する原礫表まで剥離が突き抜けている。背面構成を見ると、ほぼ90度打面を転換して剥離が為されていることがわかる。

母岩7 接合資料①・④・⑧を含む21点で構成される。原礫表の平坦な部分では凹凸の少なく、転磨が進んでいる感を受けるが、縁辺では層状を為すことを特徴とする。

この母岩に含まれる接合資料①(図434)は、4点で構成される。いずれも礫表を打面としている。5→128→68→29の順に剥離されている。5は不整形な剥片である。末端が折断面となっており、剥離がきれいに抜けきらずに止まったようである。統いて、大型の128が剥取されている。側縁から底面にかけても原礫表が付着し、板状の素材礫の形状を窺うことができる。次に68が剥離されている。最後に大型の29が取られている。29の背面切合は、実測図ではうまく表現されていないが、先行する3枚の剥離痕が残されている。

接合資料④(図437)は、薄手の剥片2点が接合している。2点共に、打面も対向する面も原礫表となっており、剥離が突き抜けて裏面に達している。この素材礫も板状であったことがよくわかる。

接合資料⑧(図440)は、大型横長で比較的厚手の剥片2点が接合している。31は打点付近が折断により欠損している。

母岩8 接合資料⑤を含む13点をこの母岩とした。端部では層状を為す、粗い原礫表を特徴とする。

接合資料⑤(図437)は、58と132の2点が接合している。原礫の薄く尖った縁辺から最初に58を剥離し、統いて現存しないもう1枚を剥離した後に132を剥離している。

母岩9 17点をここに含めた。凹凸の激しい気泡痕をもつ礫表を特徴とする。剥離面は肌理が細かく、灰白色を呈する。65は上面(打面)と下面が共に原礫表となっており、この母岩も板状であったことがわかる。

以上の他に、本来はいずれかの母岩に所属する可能性が高いが、今回判断できなかったものが6点ある。26・34・40・75・102・136をここに含めた。

26・34は、いずれも大型の剥片である。34は、礫表をもたないことから母岩の判定ができなかつた。75は、母岩4に似る爪形の凹部をもつ礫表を特徴とするが、剥離面の性状が母岩4に比して粗いことから、別母岩と判断した。136も原礫表が付着しておらず、剥離面の性状からは判断できなかつたものである。

### 3. 資料の検討

まず、石器の埋設状況については、前述の通りである。一点付け加えるならば、渡辺誠氏が、石田遺跡（京都府）のサヌカイト剥片集積の検討の中で、横尾貝塚（大分市）での籠（原報告では「バスケット」）入り黒曜石原石の出土例（大分市教委編 2008）を受けて、石田遺跡でも籠などの有機物に入れられていた可能性を指摘している（渡辺 2008）。しかし、本遺構ではそうした痕跡は確認されていない。

次に石器について、検討する。前述したように個々の資料の法量と特徴は一覧表（表5）に示している。

打面は、大半が原礫表を打面とする自然面打面である。但し、接合資料⑥のような資料を見る限りは、素材礫の原礫表を除去し、剥離面打面を形成する意識もあったという理解も成立する。しかし、他の資料を観察した時にその大半が自然面打面であることを考えるならば、この接合資料をもって剥離面打面作出の意図を積極的に見出すことが出来ない。剥離面を打面とする場合も、基本的には自然面の除去や打面調整などを意図的に行なったものではなく、連続する剥離の中で打面の転換を行なったりした際に、たまたま剥離面が打面となったものがあると考えておきたい。また、自然面が全く見られないものは、34・56・83・156の4点のみであり、他は背面あるいは底面の一部に自然面が付着しており、一面の大部分が自然面となるものも多い。しかし、一方で述べたように接合点数が極めて少ないとこは、各母岩のかなりの部分がここに残されていないことを示している。そう考えるならば、自然面が付着する小型の剥片は、石器製作のために自然面を取り除いた残滓かもしれない。つまり、自然面をもたない部分は大半が利用されたとも考えられる。

接合作業は、母岩を大まかに区分した後に各母岩内で実施し、母岩間でも実施した。十分な時間を割くことができたこともあり、8例を数えるに過ぎない。この接合資料の少なさは、接合作業の不十分さを示しているともいえるが、接合作業の際の観察から、礫表が同じで断面形も近似した形態の2点が接合せず、その間に明らかに数枚の剥片が欠落している例がいくつか見られた。このことは、石器素材としての使用、あるいは他所への持出しによって、ここに残されていない剥片数の多さを示しているといえよう。一方で、大型剥片を含むここに残された石器の在り方は、現代の我々の目から見れば、石質も大きさも十分に石器素材として使用し得るもののが残されているよう

に見える。しかし、この剥片剥離を行なった人間から見ると、一つの母岩の中で、ここに残されている剥片は、何らかの理由で石器素材として使用不能と判断されたものであり、明らかに不用品であったと考えられるのである。

剥片の平面形については、一覧表ではその単純な長幅の比較から「横長剥片」と「縦長剥片」とを区分して表示した。その数は、折断などによる不明 12 点を除く 125 点のうち、「横長」は 66 点、「縦長」は 59 点とほぼ拮抗している。実際の計測値の平均でも、長さ 47.51cm に対して、幅 45.95cm とほぼ同じとなる。現物の平面形を俯瞰すると、不整な矩形ないし三角形を呈するものが大半であり、横長が若干多いのは、特に意図したことではなく、サヌカイトの特性が現れたものといえよう。

また、両極の剥離痕を残す資料があるが、少数で特に意図したものではなく、剥片剥離の際に、打点と対向する面がたまたま台石などに接していたために生じたものかもしれない。あるいは、原礫の状態で礫表から受けたダメージが、たまたま打点と反対側にあり、対向する剥離面のように見えると考えられるものもある。こうした在り方は、少なくともこの資料では、原礫から素材剥片を剥取する段階で、両極打法は積極的に用いられていなかったことを示していると考えられる。

次に、打面に対向する面も原礫表であるものが多数みられる。これは素材となったサヌカイト礫が、分厚い円礫ではなく扁平な板（盤）状を呈することを示している。各剥片の原礫表の状態や法量から、素材礫の大きさと形状は、いずれも最大長でも 15cm 程度、厚さ 6 cm 前後の偏平な亜角礫ないし亜円礫と推定することができる。この素材礫の大きさは、森川実氏の国府型ナイフ形石器とサヌカイト原礫の大きさとの相関関係の研究（森田 2007）を受けて、筆者が旧稿（2009）で近畿地方出土の縄文時代のサヌカイト原礫や搬入石材の大きさは「長径 15cm を超えるものは稀で、10cm 程度のものが一般的」とし、二上山から搬出された素材礫は「拳大から小児頭大（長径 20cm 程度まで）の亜円礫・亜角礫」と推定したが、その推定を裏付けるものといえる。

今回出土した資料の剥片剥離には、旧石器時代のような「剥片剥離技術」と呼び得る一定の規則性があるわけではない。また、このように大量の剥片を廃棄している在り方も、この時期の剥片剥離が一定の法則性をもち得ないことの何よりの証左といえる。つまり、特定の形状をもった剥片を計画的に剥取し、その剥片から特定の器種を製作するという旧石器時代的な剥片剥離技術ではなく、剥離した剥片の中から目的とする器種に適した剥片を選択し、二次加工によってその形態と機能部を作出するという縄文時代以降に普遍的に見られる石器製作の在り方（山田 1985）を端的に示したものである。二次加工こそが縄文的石器製作の要點であるということが再確認できる資料であるといえよう。今回出土した資料から想定される、板状の亜角礫を小口から打ち割っていくという剥離の方法は、すでに多くの先学により指摘されているように、弥生時代にも継続してみられる普遍的な剥片剥離の在り方であり、サヌカイトという石材の特性を利用した最も当たり前の剥片剥離を行った結果であったと理解すべきであろう。また、サヌカイトという石材の扱いに慣れているこ

の時代の人間をして、剥片剥離に際してこれだけのロスを生じるということを示していることも、興味深い。

最後に、本土坑の性格について考えてみたい。こうした石材集積遺構に関しては、「貯蔵」あるいは「デボ」・「埋納遺構」といった特殊な意義付けをする場合が多くみられるが、筆者は、基本的には不必要な剥片を埋設したと考えている。すでに多くの先駆が指摘しているように、もし「貯蔵」であると考えた場合、後で使うために埋めたのであれば、残されていることの意義付けを説明できないからである。

さらに、筆者がかつて若干の言及を行なったように（大下 2009）、こうした剥片などの多数の資料が集積する場合と、一つないし数個の石器石材（原石・石核）の埋設とは、その意味が異なることも想定され、「石器埋設遺構」として一括するのではなく、個々の遺構とその中の資料の状況を十分に検討する必要があろう。そのうちの多数を埋設する本遺構のような資料については、「デボ」・「埋納遺構」・「祭祀」といった特殊な意義付けから、単なる不用物・危険物の片付けであった可能性まで、多様な解釈が成り立つといえよう。但し、「片付け」という行為にも、現在の我々が考えるものとは異なる何らかの意味があったことも考えられる。不用品か否かということよりも、それを埋める行為・場所に意味がある可能性を考える必要もあるろう。

さて、本遺跡の場合は、出土した剥片そのものの観察からは、遺構の性格は「石器素材として使用しなかった剥片をまとめて埋めた」という事実以上のことを導き出すことはできない。そこで、時代も出土状況も異なるものの、やはり多数の剥片が埋設された池上曾根遺跡（大阪府和泉市・泉大津市）の大形建物周辺で検出された3基の「石器埋納遺構」について、比較資料として簡単に見てみたい。

「石器埋納遺構」について検討した乾哲也氏（乾 1996）は、当初は「石器工人のまつり」と考えていたが、その後に周辺で大型建物や大型井戸や蜻蛉などその他の遺物の特殊な「埋納」などが検出されると、報告書作成のための接合作業などの分析を経て、祭祀行為の場としての意義付けを強化している。いっぽう、秋山浩三氏は、周囲の遺構の性格に影響された「祭祀的」とする乾氏の解釈に対し、「石器の製作、加工、補修等に関連した地点」として特別なものではないとしている（秋山 1998）。両氏の解釈を検討した栗田薫氏は、「動作連鎖」という視点から「石片」の形状やその埋納状況を検討し、「非日常的な行為に絡んで構築されたことは、遺構そのものの特殊性から想定される」として、その埋設の在り方に特殊性を見出し、乾氏の見解を支持するものの、明確な解釈を保留している（栗田 2010）。

結局、三氏の分析と解釈が示しているのは、こうした遺構の性格を明確にすることが難しいということだといえよう。よほど特徴的な遺物が含まれるか、あるいは周囲の「祭祀的」とされる遺構との有機的な関係が確認されない限り、個々の研究者の解釈の仕方の問題に帰結してしまう。また、個々の剥片の性状を検討することはもちろん必要だが、それが遺構そのものの性格と全く無関係な

場合もあり、技術論的あるいは統計学的分析によって導き出された数値が、分析目的と有機的関係をもった、優位な結果を示すとは限らないということを指摘しておきたい。今回の遺構に關しても、剥片の形状や数値などから遺構の性格を限定できる情報を導き出すことはできなかった。思い込みによる解釈も問題だが、統計学的・技術論的分析の限界もよく意識しておかねばならない。数値の客觀性とそれを用いた解釈の結果が正しいか否かを混同し、單なる一つの解釈を事實として独り歩きさせないように、肝に銘じておく必要があろう。

筆者は、こうした遺構に対して、「デボ」・「埋納遺構」・「祭祀」といった特殊な遺構として安直に評価することには、慎重であるべきだと考えている。しかし、今回の調査区の遺構分布から考えると、本土坑は、口酒井期とされる晚期後葉の土器棺墓・土壙墓群、焼土面と柱穴などが集中して分布する区域の中央部西端に位置している。本土坑以外の遺構の在り方は、遺構の性格や構成、單純な分布のみを見ると、本遺跡より時期がやや遅るが、そのすぐ北側に位置する観音寺本馬遺跡の在り方に近いともいえよう。また、この区域からは多数の土器と共に土偶 14 点、土玉 1 点が出上している。個々の遺構や遺物の時期的な関係を整理する必要があるが、本土坑とこの区域の墓群・土偶などの遺構・遺物との有機的な関係を敢えて意識するならば、その性格の可能性の 1 つとして、不要な剥片の「物送り」という可能性を払拭することはできない。

本事例のような石器集積遺構は、調査終了後に資料のみが石器研究者に委ねられる場合も多いが、特に出土状況に関する情報が、十分に得られていない場合も見られる。今回はていねいに取上げ状況図が複数面作成され、一定量の情報を得ることができたが、渡辺氏によって指摘された籠などの有機物存在の可能性も含めて、出土状況図の作成や取り上げ時の記録・観察項目など、こうした遺構の調査時の留意点を整理しておく必要があろう。

#### 註

今回の資料は、剥離面の風化度の差は見られないが、縄文時代に限らず、弥生時代の資料でも包含層や流路などの遺構から出土した場合には、同じ母岩から剥離された資料でも、その状況により風化度に大きな差が見られるものが複数あることがあり、風化度のみをもって単純に個々の石器の古さを定めることには、慎重でありたい。

#### 引用・参考文献

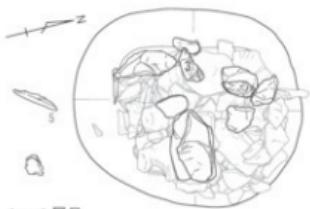
- 秋山浩三 1998 「(10) 大形建物・大形井戸周辺の遺構の性格」、秋山浩三編『史跡池上曾根 96』  
栗田 薫 2010 「弥生時代石器の技術的研究—二上山周辺地域の弥生社会にみるサヌカイトの使用—」真陽社  
乾 哲也 1996 「8 石器の埋納」、広瀬和雄ほか『池上曾根遺跡史跡指定 20 周年記念 弥生の環濠と巨大神殿』  
大分市教育委員会編 2008 「横尾貝塚」大分市教育委員会  
大下 明 2009 「近畿地方における縄文時代の打製石器石材—サヌカイトを中心に—」『環瀬戸内海地域の打製石器石材利用』  
関西縄文文化研究会・中四国縄文研究会・九州縄文研究会  
森田 実 2007 「瀬戸内技法とサヌカイト礫」『考古学に学ぶ(Ⅲ) 森浩一先生卒寿記念献呈論集』同志社大学考古学シリーズ IX、  
同志社大学考古学研究室  
山田昌久 1985 「縄文時代における石器研究序説—剥片剥離技術と剥片石器をめぐって—」『論集 日本原史』論集日本原史  
刊行会編、株式会社吉川弘文館  
渡辺 誠 2008 「調査報告 向日市石田遺跡出土の縄文時代資料」『京都府埋蔵文化財情報』第 107 号、(財) 京都府埋蔵文化  
財調査研究センター

表5 サヌカイト集積土坑 出土石器一覧表

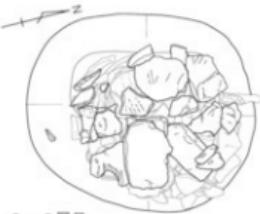
番号	接合個体番号	全長 (mm)	剥離面長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	形状	打面の 状態	打面の 剥離状態	打点の 有無	備考
1		86.43	79.09	44.29	14.31	53.8	縦長剥片	自然面	自然剥離	有	
2		43.5	43.39	38.41	12.26	14.8	横長剥片	自然面	自然剥離	有	
3	(2)	36.34	34.3	46.85	8.8	11.9	縦長剥片	自然面	自然剥離	有	
4		54.99	54.83	38.58	12.39	25.2	縦長剥片	自然面	自然剥離	有	
5	(1)	46.95	45.36	45.09	5.86	11.8	縦長剥片	自然面	自然剥離	有	
6		46.91	43.86	33.14	5.96	7	縦長剥片	自然面	自然剥離	有	
7		46.11	43.14	45.13	9.84	10.8	縦長剥片	自然面	自然剥離	有	
8		54.64	38.57	60.61	9.86	26.5	横長剥片	自然面	自然剥離	有	
9		30.19	(30.19)	(27.44)	6.75	5				無	二次加工剥片
10		73.52	72.61	70.36	17.44	55	縦長剥片	自然面	自然剥離	有	
11		40.85	37.97	38.19	9.18	15.1	縦長剥片			有	
12		22.25	31.51	48.93	5.86	9.8	横長剥片	自然面	自然剥離	有	
13		42.37	37.29	26.69	6.89	5.8	縦長剥片	加工調整	單片剥離	有	
14		38.79	(38.79)	(35.24)	6.34	6.9	(横長剥片)			無	
15		68.09	68.09	101.18	14.66	88.6	横長剥片	自然面	自然剥離	有	
16		43.5	28.3	67.52	9.46	26.9	横長剥片	自然面	自然剥離	有	
17		31.01	26.22	44.58	7.04	8.5	横長剥片	加工調整	複片剥離	有	
18		46.53	45.39	68.91	11.31	44.4	横長剥片	加工調整	複片剥離	有	石核
19		30.96	(30.96)	(36.63)	9.18	10.7	横長剥片			無	
20		40.35	40.35	37.2	6.85	11.3	縦長剥片	加工調整	單片剥離	有	
21		57.3	57.3	66.09	13.56	47.7	縦長剥片			無	
22		60.88	55.23	63.32	9.53	29.4	縦長剥片	自然面	自然剥離	有	
23		44.92	39.86	78.14	11.06	32	横長剥片	自然面	自然剥離	有	
24		66.83	66.83	76.92	19.28	72.9	横長剥片	自然面	自然剥離	有	
25		74.95	71.19	71.09	11.7	38.2	縦長剥片	自然面	自然剥離	有	
26		53.21	51.23	65.71	14.73	42.7	縦長剥片	自然面	自然剥離	有	
27											
28		31.69	29.16	45.95	11.51	15.2	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
29	(1)	47.63	44.75	76.28	10.75	38.8	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
30		55.12	51.59	41.65	7.94	11.6	縦長剥離	自然面	自然剥離	有	
31		47.56	(47.56)	(74.13)	11.13	35.8	横長剥離			無	31・39 接合
32		34.14	30.39	60.29	9.46	13.2	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
33		40.24	38.36	42.99	6.03	10.1	縦長剥離	自然面	自然剥離	有	
34		54.45	44.13	(58.03)	12.15	35.6	横長剥離	加工調整	1～2	有	一部ワレ
35		27.55	26.48	30.42	6.92	5.1	縦長剥離	自然面	自然剥離	有	
36		34.88	33.4	56.19	12.42	19.9	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
37		47.49	42.82	64.43	12.92	33.8	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
38		32.27	26.98	51.83	8.6	11.7	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
39		85.69	(85.69)	(60.39)	10.01	43.9	横長剥離			無	31・39 接合
40		29.95	(29.95)	(35.54)	4.46	3.7	横長剥離			無	
41		36.59	33.16	(56.12)	9.88	13	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
42	(2)	34.14	31.14	53.01	7.05	12.6	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
43		48.18	(48.18)	(29.19)	8.06	9.8	縦長剥離			無	
44		57.85	(57.85)	(54.5)	15.62	49.6	縦長剥離			無	石核又は二次加工のある剥片・スクライバーか?
45		29.34	27.47	46.75	10.98	11.3	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
46		58.62	(58.62)	(58.18)	12.48	43.8	縦長剥離			無	石核
47		26.38	24.74	53.69	5.58	6.5	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
48		56.98	51.56	54.89	12.55	29.4	縦長剥離	自然面	自然剥離	有	
49		51.68	48.49	46.48	9.84	17.8	縦長剥離	自然面	自然剥離	有	
50	(6)	33.72	30.26	47.06	9.79	16	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
51	(3)	60.65	47.2	6.44	17.1	縦長剥離	自然面	自然剥離	有		
52		44.87	42.06	64.46	9.63	24.9	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
53		63.55	(63.55)	(55.23)	16.39	40.1	縦長剥離	自然面	自然剥離	無	

番号	接合個体番号	全長 (mm)	剥離面長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	形状	打面の 状態	打面の 剥離状況	打点の 有無	備考
54		46.96	42.93	73.28	11.09	28.4	横長剥離	自然面	自然剥離	有	一部ワレ
55		32.05	30.78	59.56	12.04	21.4	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
56		36.05	28.37	55.16	14.7	18.9	横長剥離	加工調整	複片剥離	有	
57		38.44	37.53	47.61	4.97	6.7	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
58	⑤		30.45	38.48	4.37	3.9	縱長剥離	自然面	自然剥離	有	
59		61.84	(48.78)	(45.42)	13.05	33	縱長剥離			無	
60		52.62	46.1	44.84	9.81	27.8	縱長剥離	自然面	自然剥離	有	石核
61		55.48	49.2	50.14	10.46	25.8	縱長剥離	自然面	自然剥離	有	
62		35.16	(35.16)	(32.45)	7.87	6.3				無	一部ワレ
63		43.97	(43.97)	(27.62)	4.34	4.4				無	63・64 接合
64		66.32	66.32	40.87	7.32	16.5	縱長剥離	自然面	自然剥離	有	63・64 接合
65		62.57	(62.57)	(80.07)	12.91	52.7				無	
66		45.64	42.86	44.96	9.65	17.6	縱長剥離	自然面	自然剥離	有	
67		94.8	92.64	57.75	20.37	112.9	縱長剥離	自然面	自然剥離	有	
68	①		29.69	59.81	7.64	11.9				有	
69		24.09	21.37	43.05	9.87	9.8	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
70		45.8	40.07	48.65	9.86	15.7	縱長剥離	自然面	自然剥離	有	
71		58.84	54.65	62.55	14.47	51.3	縱長剥離	自然面	自然剥離	有	
72		32.83	29.67	47.74	6.93	11.7	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
73		30.44	(30.44)	(40.19)	10.09	12.3	横長剥離			無	
74		35.95	29.3	47.6	6.76	13	横長剥離	加工調整	單片剥離	有	
75		42.19	42.19	37.39	7.52	11	縱長剥離	加工調整	複片剥離	有	
76		35.64	(35.64)	(36.73)	5.73	6				無	
77		54.53	51.47	52.69	8.77	27.6	縱長剥離	自然面	自然剥離	有	
78		41.01	39.39	62.9	12.98	36.6	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
79		41.95	34.66	45.19	6.64	10.2	縱長剥離	加工調整	單片剥離	有	
80		43.82	41.43	32.72	7.42	8.1	縱長剥離	自然面	自然剥離	有	
81		34.02	27.92	53.81	9.35	11	横長剥離	加工調整	複片剥離	有	
82	⑥	84.42	(84.42)	(71.78)	16.66	95	縱長剥離			無	石核 内極技法
83		35.92	31.16	57.38	10.52	19.2	横長剥離	加工調整	單片剥離	有	
84		29.9	24.14	39.26	8.57	8.9	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
85		48.75	(48.75)	(77.68)	13.4	28.8	横長剥離			無	
86		37.11	35.69	(34.11)	4.62	4.8	縱長剥離	自然面	自然剥離	有	
87		46.76	(46.76)	(43.94)	10.73	19	縱長剥離			無	
88	④		36.01	83.24	10.33	35.6	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
89	①	53.97	52.52	29.63	8.86	13	縱長剥離			有	一部ワレ
90		33.55	33.55	49.27	5.62	8.6	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
91		28.23	27.02	44.36	4.09	5.1	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
92	②		43.81	90.86	14.19	48.1	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
93		44.74	42.83	49.87	14.31	26.4	縱長剥離	自然面	自然剥離	有	
94		42.15	34.59	56.49	13.12	22.9	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
95		60.24	51.64	76.23	13.07	64.5	横長剥離?	自然面	自然剥離	有	
96		57.21	56.19	34.99	7.03	12.9	縱長剥離	自然面	自然剥離	有	
97		47.46	46.59	35.7	8.74	13.7	横長剥離	自然面	自然剥離	有	被熱痕?
98		45.63	(45.63)	(27.45)	6.35	5.4	縱長剥離			無	
99		30.5	(30.5)	(38.2)	9.07	10	横長剥離			無	
100		38.19	37.63	34.52	2.83	4.4	縱長剥離	加工調整	複片剥離	有	
101	③	49.51	(49.51)	(48.22)	13.73	29.4				無	
102		61.49	59.62	39.76	12.06	21.4	縱長剥離	自然面	自然剥離	有	
103		41.66	41.66	17.26	4.05	3.2	縱長剥離	加工調整	單片剥離	有	垂直ワレ
104		47.54	44.93	35.70	6.05	10.8	縱長剥離	自然面	自然剥離	有	
105		36.32	31.43	58.09	7.65	12.9	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
106		66.88	(66.88)	(58.32)	13.37	55.8	縱長剥離			無	石核
107		28.23	25.87	53.36	10.32	17.1	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
108		52.67	50.12	63.94	18.53	29.8	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
109		50.16	49.31	31.24	6.87	10.2	縱長剥離	加工調整	複片剥離	有	内極打法

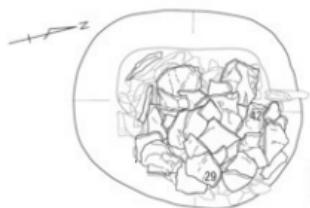
番号	接合個体番号	全長 (mm)	剥離面長 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	形状	打面の 状態	打面の 剥離状態	打点の 有無	備考
110		41.33	39.58	51.51	8.43	13.5	縦長剥離	加工調整	單片剥離	有	
111		52.35	48.88	70.99	12.76	56.9	横長剥離	自然面	自然剥離	有	石核。
112		49.06	44.59	52.47	10.39	21.1	縦長剥離	自然面	自然剥離	有	
113		38.41	36.59	28.03	7.15	6.1	縦長剥離	自然面	自然剥離	有	
114		65.88	(65.88)	(37.91)	10.79	25.9				無	
115		57.78	56.04	66.11	14.19	41.9	縦長剥離	加工調整	複片剥離	有	
116		37.42	(37.42)	(41.49)	5.76	7				無	
117		41.12	37.93	42.92	13.31	15.6	縦長剥離	加工調整	複片剥離	有	
118		30.27	20.99	46.30	7.2	10.5	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
119		50.44	49.12	44.30	8.63	18.4	縦長剥離	自然面	自然剥離	有	
120		47.12	(47.12)	(56.90)	10.96	36.8				無	
121		41.09	38.99	56.52	9.81	22.3	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
122		80.82	79.81	66.34	13.12	68.3	縦長剥離	自然面	自然剥離	有	バルバースカーミられる
123		33.14	32.27	44.71	6.38	6.6	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
124		34.83	32.38	58.35	3.65	7	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
125	④		26.85	50.64	4.49	6.2	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
126		35.03	(35.03)	(48.04)	10.3	15.3				無	
127		57.77	(57.77)	(46.65)	14.01	25				無	
128	①		58.47	86.90	10.47	47.8	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
129		31.82	(31.82)	(39.51)	6.33	8	縦長剥離			無	二次加工あり
130		31.86	30.92	72.22	10.54	29	横長剥離	自然面	自然剥離	有	石核。
131		34.09	(34.09)	(74.60)	12.86	29.5	横長剥離			無	
132	⑤		42.61	68.57	15.09	34.8	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
133		44.87	43.23	34.55	5.67	9.4	縦長剥離	自然面	自然剥離	有	
134		52.94	52.73	65.73	11.74	39.8	縦長剥離	自然面	自然剥離	有	
135		61.02	56.82	82.82	16.47	67.4	横長剥離	加工調整	複片剥離	有	石核
136		15.78	(15.78)	(26.72)	4.48	1.6				無	
137		41.9	36.64	84.43	17.15	51.4	横長剥離	自然面	自然剥離	有	
138		25.24	23.2	(35.75)	6.63	5.4	横長剥離	自然面	自然剥離	有	一部ワレ



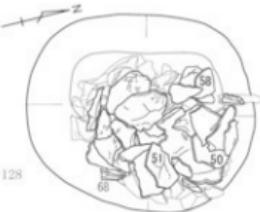
1. 1層目



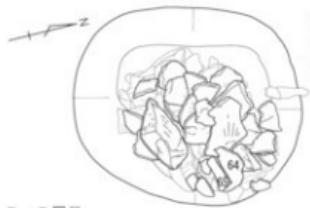
2. 2層目



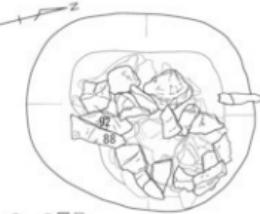
3. 3層目



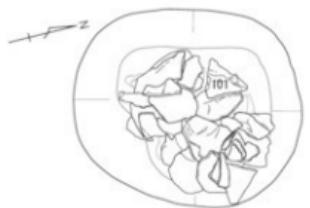
4. 4層目



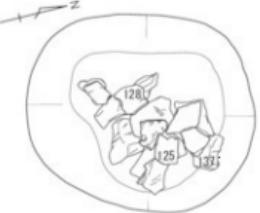
5. 5層目



6. 6層目



7. 7層目

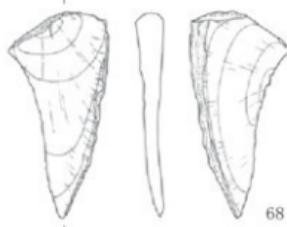


8. 8層目

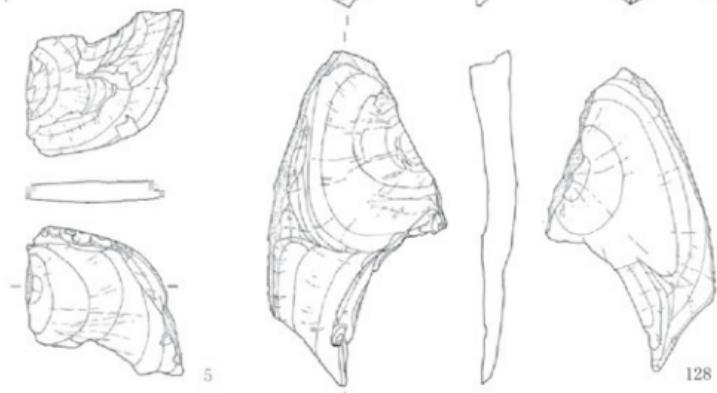


図 433 サスカイト集積土坑 遺物出土状態と接合関係 (S. = 1/8)

接合資料①



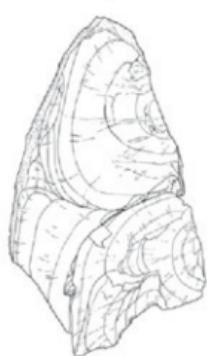
68



5

29

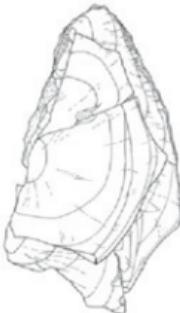
128



1



5  
29



0

5 cm

図 434 サスカイト集積土坑 接合資料① (S. = 2/3)

接合資料②

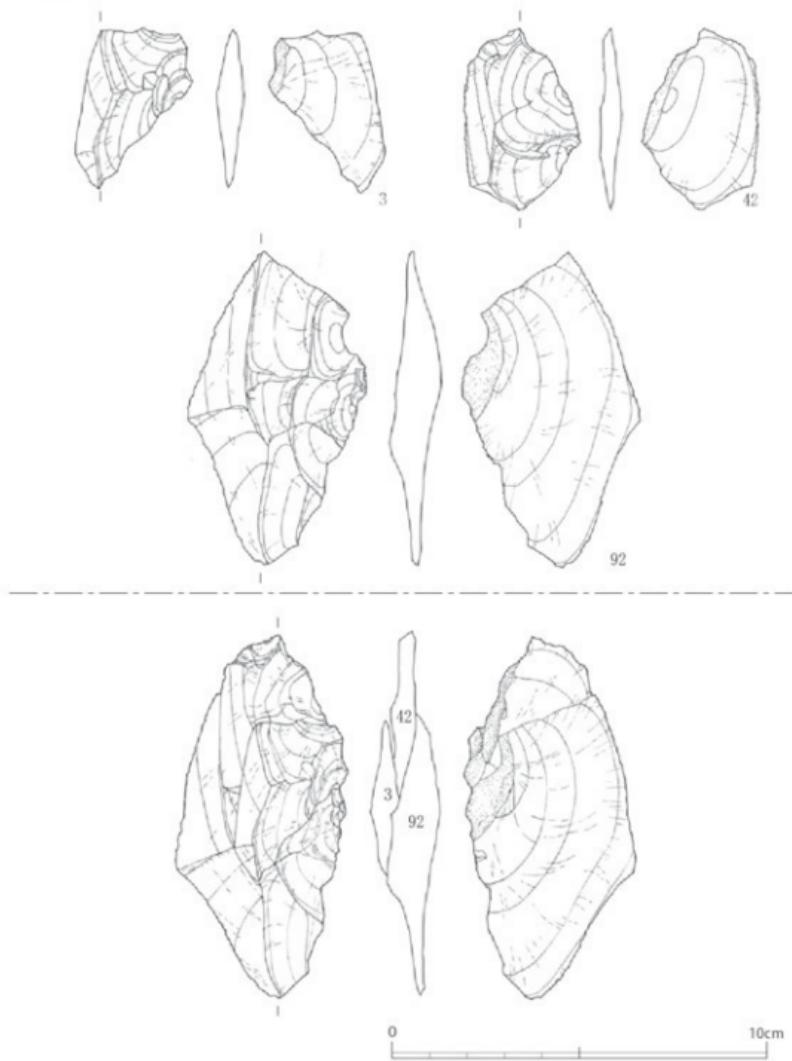


図435 サヌカイト集積土坑 接合資料② (S. = 2/3)

接合資料③

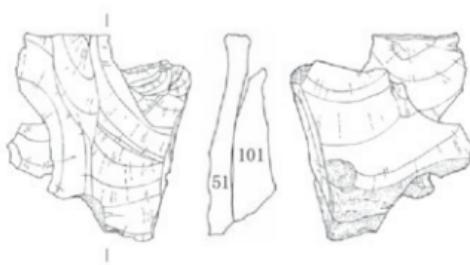
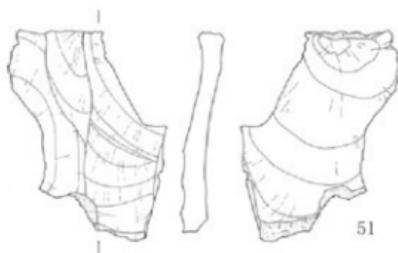
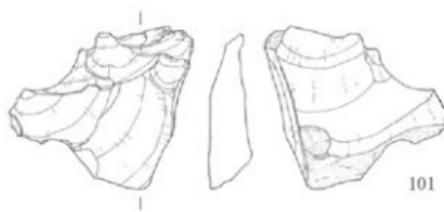
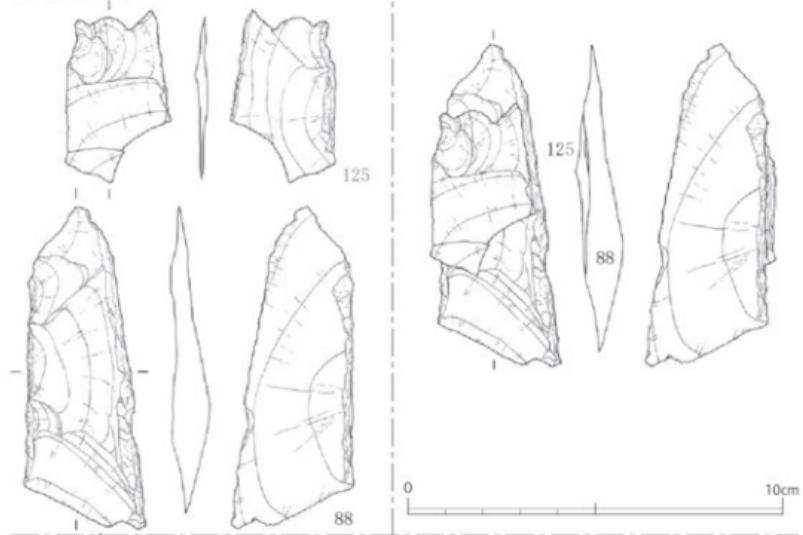


図 436 サスカイト集積土坑 接合資料③ (S. = 2/3)

接合資料④



接合資料⑤

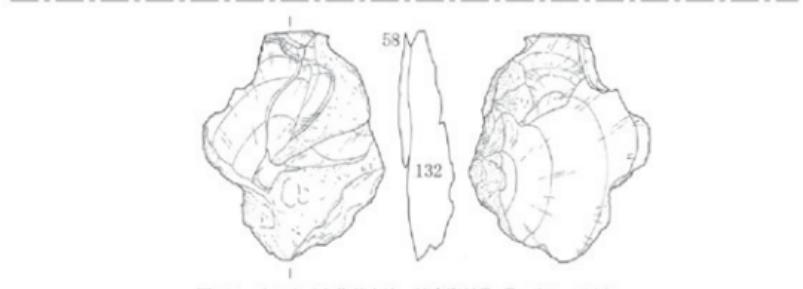
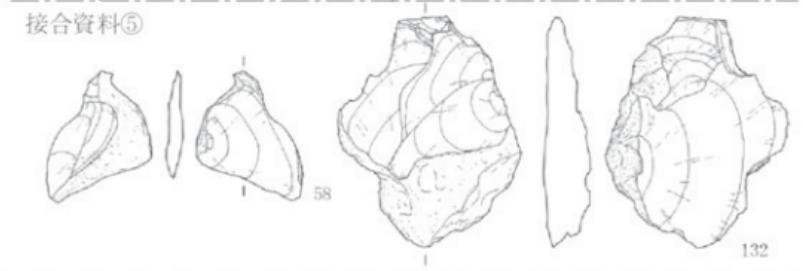


図 437 サスカイト集積土坑 接合資料④・⑤ (S. =2/3)

接合資料⑥

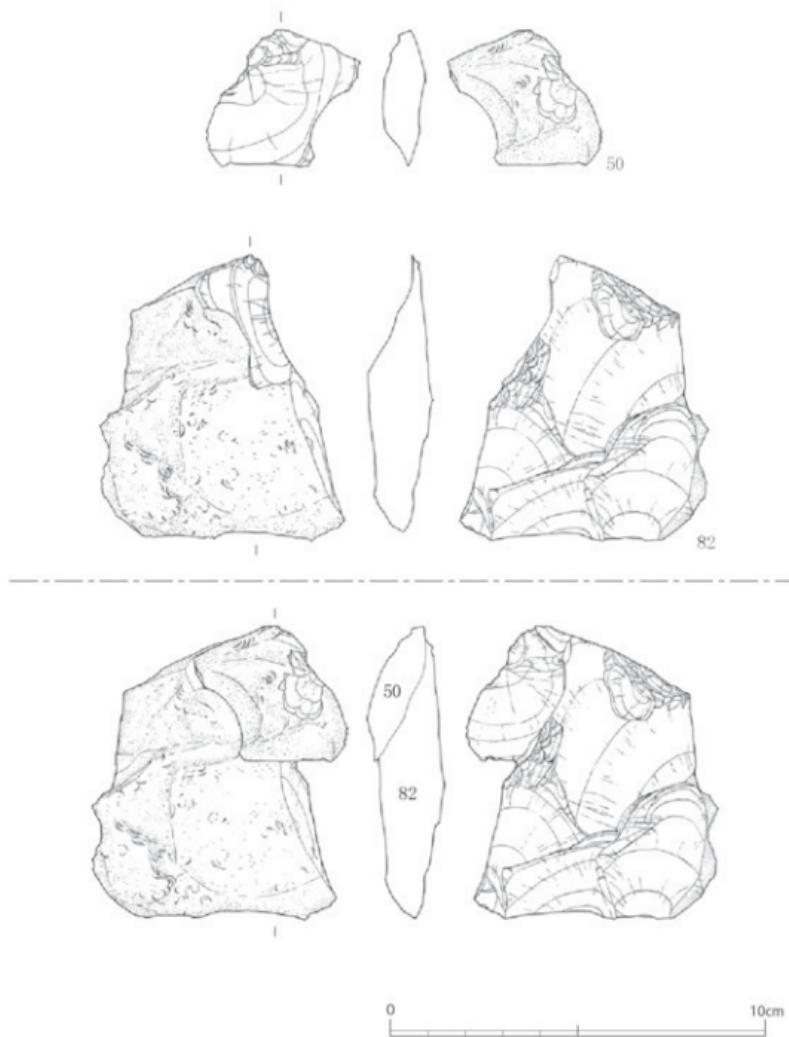
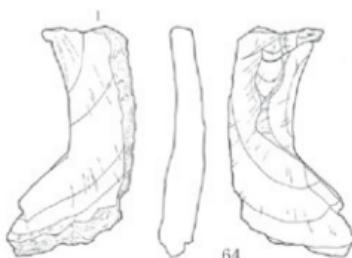
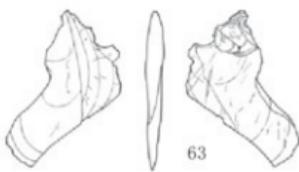


図 438 サヌカイト集積土坑 接合資料⑥ (S. = 2/3)

接合資料⑦



0 10cm

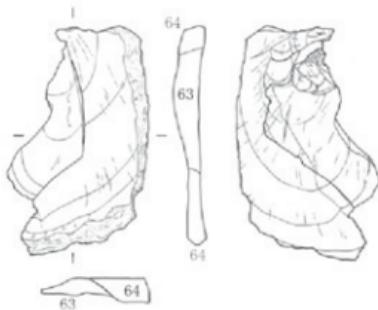


図 439 サヌカイト集積土坑 接合資料⑦ (S. =2/3)

接合資料⑧

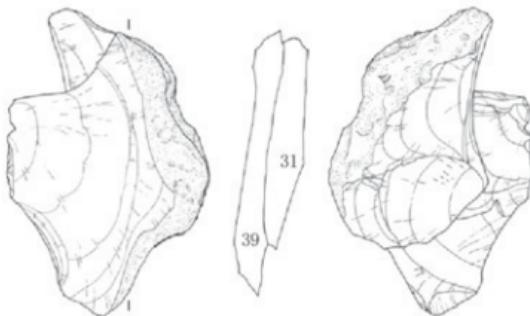
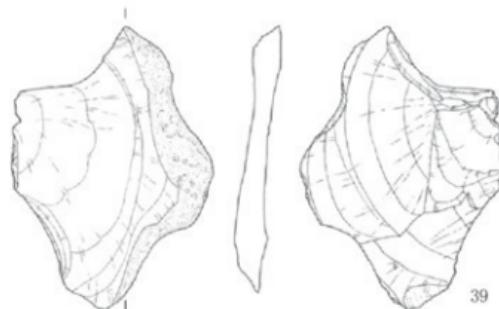
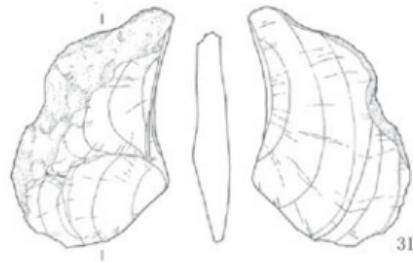


図440 サスカイト集積土坑 接合資料⑤ (S. = 2/3)

## 第2節 赤色顔料付着遺物の蛍光X線分析

京都大学白眉センター／人文科学研究所

特定助教 上峯 篤史

### 1. はじめに

玉手遺跡第4次・5次調査では、縄文時代の遺物に赤色部分が確認できるものがあり、赤色顔料を塗布している可能性が考えられた。本節では、こうした遺物について赤色顔料の同定を目的として実施した分析の内容を報告する。

### 2. 対象試料

分析の対象とした遺物は7点で、その内訳は、土偶3点(333-6,334-9,334-10)(以上、第8遺構面)、土器1点(369-65)、台石1点(399-14)(以上、第9遺構面)、耳飾り1点(423-17)(以上、南5区)である。

### 3. 分析の方法

赤色顔料の由来となる主成分元素の検出を目的として、蛍光X線分析を実施した(註)。Bruker社製ハンドヘルド蛍光X線分析装置Tracer III-SDを用いた。この測定機器には、ロジウム・ベースのX線管と、シリコンドリフト検出器(SDD)が装備されている。X線管の電圧は40kV、電流は $30\ \mu A$ とし、大気雰囲気にて、測定時間を180秒に設定して測定した。ハンドヘルド型の利点を活かして、分析対象遺物を所蔵機関から持ち出すことなく、御所市教育委員会文化財課事務所にて測定を実施した。資料の保存のため、赤色部のみをサンプリングすることはせず、資料の赤色部に測定機器を当てて測定した。

### 4. 分析の結果と顔料の同定

前述の条件により、測定によって得られたスペクトルには、赤色部ならびに非赤色部の両方に由来する元素が表われていることになる。縄文時代の赤色顔料には、酸化鉄を原料とするベンガラと、辰砂を原料とする水銀朱とが確認されている。今回の分析では、判定の容易な水銀朱の付着があるかどうかを検討するため、水銀(Hg)の有無に着目した。

結果、図441に示したように、(369-65)、(399-14)、(423-17)の3点について、水銀(Hg)が多く検出されることから、水銀朱が付着していると考えられた。ともに硫黄(S)が検出されているものがあることから、多くは硫化水銀(HgS)のかたちで残されていると判断される。一方、水銀(Hg)を検出しなかった3点(333-6,334-9,334-10)については、ベンガラの利用、あるいは土壤の付着という二つの可能性が考えられる。

(註) 蛍光X線分析に際しては亀山誠氏(ジャパンマシナリー株式会社)に多大なご配慮を頂き、蛍光X線スペクトルの解析についてはLee DRAKE氏(Bruker Corporation)からご教示を賜った。

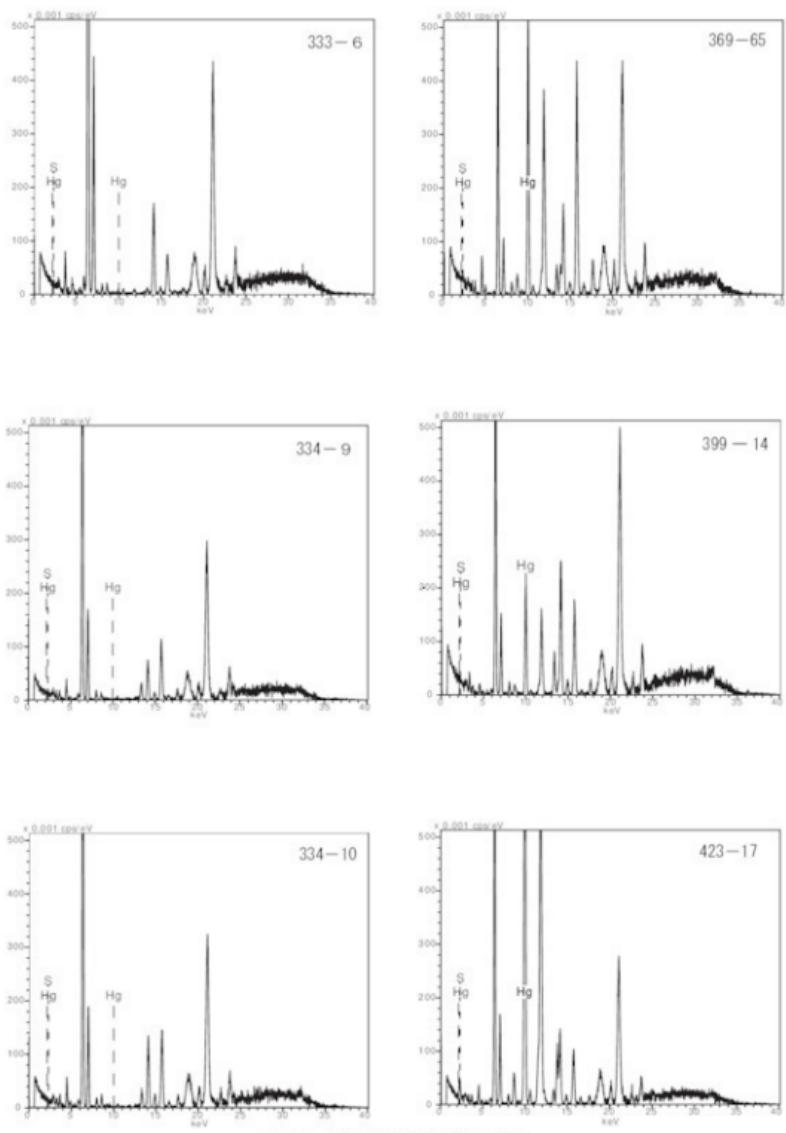


図 441 赤色顔料の蛍光 X 線分析結果

## 第8章　まとめ

前章までに詳述したように、京奈和自動車道建設に伴って玉手遺跡の発掘調査を実施した。

当初、第4次調査の対象面積は21,000m<sup>2</sup>に及ぶものであったが、発掘調査が必要な面積と深さ、遺構面の数などを確定するために、まず第4-1次調査としてトレンチ調査を実施した。トレンチ面積の合計は約2,500m<sup>2</sup>であった。このトレンチ調査を受けて、面的に実施するべき発掘調査の面積を決定し、最終的に第4-2次調査で、合計9,440m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。調査対象とした遺構面の数は、第4次調査地では合計10面に及ぶものであったから、実際に調査した面積はその数倍以上である。

第5次調査は、第4次調査地に南接する新池・大月池部分を対象としたものである。池底を対象とするため、遺構等の残存状況や特殊な環境のもとでの調査という点などに鑑みて、当面開発によって土層が攪乱される範囲のみを調査対象とした。2箇所の池に各2箇所のトレンチを設けたが、その調査面積は、南5区は計320m<sup>2</sup>、南6区は計300m<sup>2</sup>になった。

まず、第4-2次調査で検出した遺構のあらましを遺構面ごとに記す。

第1遺構面では、近代以降に形成された井戸1基、13世紀以降の素掘溝など比較的新しい遺構のほか、古墳時代の遺構を検出した。古墳時代の遺構は、掘立柱建物2棟、これとは別にピット群としてピット104基、土坑5基、溝9条、流路2本を検出した。流路のうち流路1では南1区で2箇所の堰を検出した。

特に溝2からは完形品を含む大量の土器が出土した。そして、建物1および建物2との位置関係から、これらの建物が関係する何らかの祭祀が行われたと推定できた。

第2遺構面は、全体に残存状況が良好ではなかったが、北1区でわずかに水田区画が検出された。水田は、大きさが1辺が2~3m程の小区画になることが窺え、少なくとも7区画があることが確認されたが、実際にはより広く水田面が広がっていたのであろう。このほか、北1区の西壁沿いで流路3が検出された。流路3は、より下層の第3遺構面に形成されたものであるが、埋土を堆積させつつ第2遺構面の形成時期まで存続したものとみられる。第2遺構面の形成時期は、遺構面上で出土した小形の長頸壺の年代観から、弥生時代後期後半とみられる。

第3遺構面は、弥生時代後期前半の遺構面であるが、地点によっては中世の素掘溝が弥生時代の溝と同一面で検出されている。より上層に第2遺構面として弥生時代後期後半の遺構面がありながらも、このような検出状況になるのは、第3遺構面より上位に堆積した土層が、地点によっては削平を受けていて、その後により新しい遺構が形成されたことがあったためと考えられる。

第3遺構面では、北1区・北3区・南1~4区で水田を検出したほか、溝11条、流路1本、土坑3基を検出した。

特に注目される遺構として、北1区溝11で検出した導水施設がある。これは、溝に直交する方

向に杭を多用した築堤を造り、ここに最大外径 22.3cm、同内径 17.6cm、長さ 137.6cm の一木造の導水管を埋設していたものである。築堤そのものは上部の削平を受けていたが、導水管が比較的良好な残存状況であったので、その構造について一定程度復原的な想定をすることが可能であった。

また、流路 3においては、1箇所の木樋および4箇所の堰が検出された。木樋は、その全体像がわかるものではないが、板材を組み合わせた箱形を呈していた。

第4遺構面は、遺構面の残存良好があまり良くなく、南4区において流路1本が検出されたのみである。第4遺構面の形成時期は、上下の層位の認識から、弥生時代中期から後期のいざれかの時期であるとみられる。しかし、検出された流路4の下層から出土した土器は、少數ながらも弥生時代前期のものであった。流路4は、弥生時代前期に形成され、最終的に埋没する時期が中期から後期の間であったとみられる。

第5遺構面の遺構形成時期についても、弥生中期から後期のいざれかの時期となるが、第4遺構面とは層位的に上下関係にあり、これよりも古い。

水田は、残存状況に良否があるが、調査区の全体で認められた。ただし、北区と南区では水田区画の形状に差が認められた。北区では四角形を呈するもののほか、五角形や六角形を呈するものがあり、その大きさは1区画の面積が比較的大きく1辺が10mを超えるものも多い。一方、南区では、基本的に長方形を呈している。その造り方は定型的で、まず複数の長い畦畔を平行に造り、その間に短い畦畔で繋ぐことで区画とするものである。

このほかの遺構は、溝4条、流路3本、ピット4基があった。流路のうち、流路5では護岸や堰を構成したとみられる杭などが検出された。

第6遺構面は、弥生時代中期に形成されたと考えた遺構面である。遺構等の残存状況は総じて良くないが、北2区において水田の区画が検出されたほか、北1区と北2区で溝2条が検出された。

第7遺構面は弥生時代前期の遺構面である。

遺構残存状況が比較的良好で、調査区全体で水田が検出された。水田区画のあり方は総じて定型的で整然とした印象を受ける。水田以外の遺構は、これに関連するとみられる溝3条のほか流路1本があった。

第8遺構面は、縄文時代晚期後葉の遺構面である。遺構や遺物は、南区では希薄で、北区において検出された。

第8遺構面では、まず遺構面上の土器等の破片の分布状況が注目された。土器片等は全体に散在するのではなく、北2区西半のように、一箇所に集中する状況がみられた。土器片のほかに土偶片が混じることも特徴的である。土偶は合計17点がこの第8遺構面で出土している。

遺構は、建物5棟、これとは別のピット12基、焼土塊7箇所、土器植墓21基、土壙墓10基、サヌカイト集積土坑1基、土坑15基を検出した。また、第8遺構面上として取り上げられた漆塗り糸玉については、遺構の状況が必ずしも分明ではないが、北陸地方など遠隔の交流を示す遺物で

あり注目される。

第9遺構面は、縄文中期末から後期初頭の遺構面である。遺構は南区で検出されたのみで、北区においては遺構・遺物とも全く希薄であった。

検出した遺構は、埋設土器1基、石圓遺構1基、土坑24基である。

第10遺構面は、南4区南半のみで検出した遺構面である。明確な人為的遺構は見られなかったが、土器が面的に散布する状況や、炭溜まりを1箇所で確認した。出土した土器は、いずれも縄文中期末葉に比定できるものであった。

次に、第4次調査を終えたのち、その南に位置する新池地区と大月池地区の調査を、それぞれ第5-1次調査、第5-2次調査として実施した。これらの地区は、池底での発掘調査という条件的に恵まれない側面もあることから、工事によって破壊される橋脚の基礎部分のみを調査対象とした。

既述のように、北接する第4次調査地の遺構面は、調査対象としたものだけでも古墳時代から縄文時代まで10面を数えた。この新池地区と大月池地区は、溜め池内に当たっているのでその上層部分は存在しなかったが、縄文時代に対応する土層が残っていた。

南5区（新池）では、縄文後期前葉の埋設土器のほか、土坑、足跡遺構などが検出された。南6区（大月池）では遺構の状態などが全く判然としなかった。この地点は自然流路もしくは谷地形であると判断された。

以上、玉手遺跡における第4次・第5次発掘調査の概要をまとめた。

本文に詳述したように、古墳時代、弥生時代、縄文時代においてそれぞれ重要な調査成果を挙げることができた。細かく挙げれば限界がないが敢えてピックアップすれば、古墳時代では、溝に大量に残された土器群とおそらくそれと有機的な関連を持つ建物の存在が目を引いた。弥生時代では良好な状態で検出された水田面と、それに関連する水路の堰や護岸、導水施設などの灌漑設備があった。縄文時代では、晚期後葉の土器棺墓は深鉢が完形近くにまで復元できる例も少なくなく、当該地における凸縦文土器の様相を知るには欠くことのできない資料となった。保存状態が比較的良好な当時の生活面上で、遺構としての建物や焼土と、遺物としての土器群と土偶片などを一体のものとして検出することに成功したことも今後の研究に益するところが大きいに違いない。その下層の縄文中期末から後期初頭の時期についても、検出遺構や遺物量が相対的に多く、資料的に欠落していた周辺地域における当該期の状況を今後埋めていくものとなろう。

このように瞥見しただけでも重要な成果を上げ得た今次調査であったが、特に第4-2次調査では同一地点において10面もの遺構面を調査対象にしたものであった。このような規模および複雑な内容を持つ発掘調査は、これまでに御所市教育委員会では経験したことがない。しかしそれにもかかわらず、事業を完遂するために、現地調査は臨時的な期限付の調査員が当たらざるを得ないという現実があった。さらに複数の調査員が、別の年度に、道路や鉄道で分断された別の調査区をそれぞれ担当せざるを得ないという状況もあった。加えて、現地調査を終えて、整理事業が本格化し

た時点では、現地を担当した調査員はいずれも退職していたので、主担当となった新たな臨時調査員が、各調査地点の記録として残された図面および写真画像と格闘しながら層位の対応関係を見極めていったというのが作業の実態であった。

ただし、現地調査の担当者は、いずれも整理段階のそのような状況を一定程度想定していた。したがって、原図に土層の対応関係がわからることなどを意識した注記を残すことを心がけていた。例えは、第7遺構面の基盤層など特徴的な土層は、調査員全員が認識してそれを鍵層のように利用し、図面に意識的にそのことを記した。こうした補足的な注記やメモ記録によって、辛うじて各調査区の層位の関係を繋ぐことができた。

発掘調査報告書である本書は、言うまでもなく、このような各調査員が残した記録類を総合したものであるが、その際に、筆者らは各調査員が独自に考え記したことを繋ぎ合わせることに心を砕いた。しかしながら、こうした整理事業の体制からすると、実際の調査担当者であれば犯さないであろう誤謬を、本書が犯している怖ではないとは言えない。そうであればそれはすべて編集者の責に帰するが、このことは、同時に遺跡の発掘調査を取り巻く現状の課題でもある。

#### 参考文献

- 桃山日出男・網干善教 1959 「室大墓」奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告 第18冊  
網干善教 1959 「御所市大字室 みやす古墳」「奈良県史蹟名勝天然記念物調査抄報」第12輯  
網干善教 1961 「御所市古瀬「水泥蓮華文石棺古墳」及び「水泥瑞穴古墳」の調査」「奈良県史蹟名勝天然記念物調査抄報」第14輯  
石井 寛 1990 「称名寺式土器に関する研究史」「調査研究集録」第7冊 横浜市埋蔵文化財センター  
石井 寛 1992 「称名寺式土器の分類と変遷」「調査研究集録」第9冊 横浜市ふるさと歴史財団  
石田由紀子 2008 「中津式・福田K II式土器」「総覧縄文土器」アム・プロモーション  
泉 拓良 1985 「中期末縄文土器の分析」「京都市埋蔵文化財調査報告書」  
伊藤勇輔 1986 「御所市玉手・玉手遺跡発掘調査概報」「奈良県遺跡調査概報 1984年度」第一分冊 奈良県立橿原考古学研究所  
今村啓爾 1977 「称名寺式土器の研究上・下」「考古学雑誌」63巻1・2号  
宇野隆夫 1989 「井戸考」「考古資料にみる古代と中世の歴史と社会」真陽社  
宇野隆夫 1993 「古代の土器(1)都城の土器集成」(古代の土器研究会編 著 日本考古学会 1993)  
鍛方正樹 2003 「井戸の考古学」(『ものが語る歴史』8) 同成社  
梅原未治 1922 「大和御所附近の遺跡研究」「歴史地理」第参拾九卷第四号 日本歴史地理学会  
近江俊秀編 1993 「鳴神遺跡－第2～第4次調査－」奈良県文化調査報告書第66集  
岡崎晋明 2011 「橿原遺跡の土製品」「重要文化財 橿原遺跡出土品の研究」橿原考古学研究所研究成果第11冊  
岡田憲一 2000 「西日本縄文後期後葉土器編年序論－向山遺跡出土土器の研究」「向山遺跡」大阪府文化財調査研究センター  
報告書第55冊  
岡田憲一 2008 「凹縫文系土器」「総覧縄文土器」アム・プロモーション  
岡田憲一 2011a 「近畿地方縄文晚期土器編年と奈良県下基準資料」「重要文化財 橿原遺跡出土品の研究」橿原考古学研究所研究成果第11冊  
岡田憲一 2011b 「秋津遺跡第4次調査」「奈良県遺跡調査概報 2010年度」第二分冊 奈良県立橿原考古学研究所  
岡田憲一・千義幸 2011 「橿原遺跡の縄文土器」「重要文化財 橿原遺跡出土品の研究」橿原考古学研究所研究成果第11冊  
岡田憲一・松岡淳平 2012 「秋津遺跡第5次調査」「奈良県遺跡調査概報 2011年度」第二分冊 奈良県立橿原考古学研究所  
岡田憲一・桐昌歩・中東洋行 2013 「秋津遺跡第6次調査」「奈良県遺跡調査概報 2012年度」第一分冊 奈良県立橿原考古学研究所  
岡田憲一・中野咲 2015 「秋津遺跡第7.1次・7.2次調査」「奈良県遺跡調査概報 2014年度」第一分冊 奈良県立橿原考古学研究所  
岡田茂弘 1965 「近畿」「日本の考古学 II 繩文時代」河出書房  
岡田雅彦編 2013 「觀音寺本馬遺跡I」「觀音寺Ⅲ(区)」奈良県立橿原考古学研究所調査報告第113冊  
橿原考古学研究所 2015 「中西遺跡第26次調査 現地説明会資料」

- 金澤雄太 2015 「縁ウル神古墳」「大和を擬る 33 – 2014 年度発掘調査速報編一」奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
- 河上邦彦 2001 「大和巨勢谷權山古墳の測量調査と副葬品（後期大型円墳の意義）」『実証の地域史－村川行弘先生頌寿記念論集－』大阪経済法科大学出版部
- 河上邦彦・龜田博・千賀久編 1976 『葛城・石光山古墳群』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第 31 冊
- 河上邦彦・木下 真編 2004 『「巨勢寺」奈良県立橿原考古学研究所調査報告第 87 冊
- 北中恭裕編 2007 「極楽寺ヒビキ遺跡」奈良県文化財調査報告書第 122 冊
- 稻畠歩 2015 「秋津遺跡第 8 次調査」『奈良県道跡調査概報 2013 年度』第二分冊 奈良県立橿原考古学研究所
- 木許 守編 1992 「鴨都波 11 次発掘調査報告」御所市文化財調査報告書第 11 冊
- 木許 守編 1996 「室宮山古墳範囲認証調査報告」御所市文化財調査報告書第 20 冊
- 木許 守編 2007 「巨勢山古墳群 VI」御所市文化財調査報告書第 30 冊
- 木許 守・西村慈子編 2015 「觀音寺本馬遺跡」御所市文化財調査報告書第 48 冊
- 橋本哲夫編 1978 「御所市被上羅子塚前方部周辺発掘調査概報」『奈良県道跡調査概報 1977 年度』奈良県立橿原考古学研究所
- 御所市教育委員会 1989 「ゴルフ場開発事業に伴う 第 1 回 巨勢山古墳群発掘調査成果の現地説明会資料」
- 御所市教育委員会 1990 「ゴルフ場開発事業に伴う 第 2 回 巨勢山古墳群発掘調査成果の現地説明会資料」
- 御所市教育委員会 2008 「京奈和自動車道関連道路発掘調査概報」Ⅰ御所市文化財調査報告書第 33 冊
- 御所市教育委員会 2009 「京奈和自動車道関連道路発掘調査概報」Ⅱ御所市文化財調査報告書第 35 冊
- 御所市教育委員会 2010 「京奈和自動車道関連道路発掘調査概報」Ⅲ御所市文化財調査報告書第 37 冊
- 御所市教育委員会 2011 「京奈和自動車道関連道路発掘調査概報」Ⅳ御所市文化財調査報告書第 40 冊
- 御所市教育委員会 2012 「京奈和自動車道関連道路発掘調査概報」Ⅴ御所市文化財調査報告書第 42 冊
- 御所市教育委員会編 2003 『古代葛城とヤマト政権』学生社
- 古代の土器研究会編 1992 「古代の土器 I 都城の土器集成」
- 小林行建編 1968 「弥生式土器集成」東京堂出版
- 阪本晋道 2002 「鴨都波第 16 次発掘調査報告」御所市文化財調査報告書第 27 冊
- 佐々木健太郎 2012 「長柄遺跡第 6 次発掘調査報告」御所市文化財調査報告書第 41 冊
- 佐藤小吉 1916 「稚現堂古墳」『奈良縣史蹟圖説道跡調査會報告書』第三回
- 佐藤良二・有本雅巳 1984 「北葛城郡新庄村寺口採集の有舌尖頭器」「青陵」54 号
- 島田 曜・小島俊次 1958 「布留遺跡－繩文式土器の出土状態およびその土器－」『奈良県史蹟名勝天然記念物調査抄報』第十輯 奈良県教育委員会
- 島本一 1938 「等柱形石製品の新例」『考古学雑誌』第二十八卷第六號 考古學會
- 鈴木一誠編 2014 「觀音寺本馬遺跡 II」(觀音寺 II 区) 奈良県立橿原考古学研究所調査報告第 114 冊
- 鈴木徳雄 1990 「称名寺式土器」『調査研究集録』第 7 冊 横浜市理藏文化財センター
- 闇川尚義 1989 「室大墓古墳部発掘調査報告」『奈良県道跡調査概報 1988 年度 第二分冊』
- 妹尾裕介 2014 「瀬戸内海東部における凸唇文土器の変遷と展開」『考古学研究』第 61 卷 1 号
- 田辺昭三 1966 「須恵器古窯址群 I」研究論集第 10 号 平安考古クラブ
- 田辺昭三 1981 「須恵器大成」角川書店
- 寺沢 薫・林部 均 1988 「玉手遺跡第 2 次調査」『奈良県道跡調査概報 1987 年度』奈良県立橿原考古学研究所
- 寺沢 薫編 1986 「矢部遺跡」奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第 49 冊
- 玉田芳美 1989 「中津・福田 K II 式土器様式」『繩文土器大観 4』
- 玉田芳英・岡田憲一 2010 「近畿」『西日本の縄文土器 後期』真陽社
- 千葉 豊 2008 「縄文土器」『続鑑識縄文土器 アム・プロモーション』
- 中世土器研究会編 1995 「観式 中世の土器・陶磁器」
- 富井 翼 2008 「北白山 C 式土器」『続鑑識縄文土器 アム・プロモーション』
- 永嶋正春 2004 「青田遺跡出土土器関係資料について」『青田遺跡』関連諸科学・写真図版編 新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 133 頁 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 中村友博 1980 「馬場川 O 式の型式学的位置について」『歴史手帳』8-4 名著出版
- 奈良県教育委員会 1980 「新宮山古墳」『奈良県指定文化財一覧和 54 年度版一』
- 新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県教育委員会編 2002 「川辺の櫛文集落」(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団設立 10 周年公開シンポジウム「よみがえる青田遺跡」資料集
- 坂 精編 1996 「南郷遺跡群 I」奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第 69 冊
- 坂 精編 2000 「南郷遺跡群 IV」奈良県立橿原考古学研究所調査報告 76 冊
- 種口清之 1935 「大和竹内石源時代遺跡」大和町史會
- 平岩欣太ほか 2004 「曲川遺跡の調査」『かしはらの歴史をさぐる 11』橿原市千塚資料館
- 平岩欣太 2012 「觀音寺本馬遺跡」橿原市埋蔵文化財調査報告 1 橿原市教育委員会
- 平松良雄 2005 「玉手遺跡 3 次調査」『奈良県道跡調査概報 2004 年度』奈良県立橿原考古学研究所
- 廣岡孝信・十文字健 2005 「北庄 2004-1 次調査 伏見遺跡 2004-1・2 次調査」『奈良県道跡調査概報 2004 年度』第二分冊 奈良県立橿原考古学研究所
- 藤田和尊 1986 「発掘調査現地説明会資料・小林遺跡群の概要」御所市教育委員会

- 藤田和尊 1987 「御所市・小林遺跡の調査」『季刊明白香風』第 23 号 財團法人飛鳥保存財團
- 藤田和尊 1991 「奈良県御所市名柄遺跡」『日本考古学年報』42 (1989 年度版) 日本考古学協会
- 藤田和尊編 1985 「巨勢山塙谷 10 号墳発掘調査報告」御所市文化財調査報告書第 4 集
- 藤田和尊編 1987 「巨勢山古墳群Ⅱ—御所市みどり台総合開発事業に伴う発掘調査Ⅰ—」御所市文化財調査報告書第 6 集
- 藤田和尊編 1994 「鶴原遺跡」御所市文化財調査報告書第 17 集
- 藤田和尊編 2002 「巨勢山古墳群Ⅲ」御所市文化財調査報告書第 25 集
- 藤田和尊編 1992 「鶴郡波 12 次概報」御所市文化財調査報告書第 12 集
- 藤田和尊 1992 「護岸材について」『鶴郡波 12 次概報』(『御所市文化財調査報告書』第 12 集)
- 藤田和尊・木許 守編 1999 「台風 7 号被害による室宮山古墳出土遺物」御所市文化財調査報告書第 24 集
- 藤田和尊・木許 守編 2001 「鶴郡波 1 号墳調査概報」学生社
- 松岡淳平 2011 「中西遺跡第 16 次調査」『奈良県遺跡調査概報 2010 年度』第二分冊
- 松田真一 1997 「奈良県の縄文時代遺跡研究」財團法人由良大和古代文化研究協会
- 松並尚夫 1939 「葛城山麓発見の縄文式土器遺跡について」『大和志』6 卷 7 号
- 三島町教育委員会 1990 「荒屋敷遺跡Ⅱ」
- 本村充保 2009 「觀音寺本馬道跡—京奈和自動車道（觀音寺 1 区）—」『奈良県遺跡調査概報 2008 年度』第三分冊 奈良県立橿原考古学研究所
- 本村充保・中野暁 2013 「中西遺跡第 18 次調査」『奈良県遺跡調査概報 2012 年度』第一分冊 奈良県立橿原考古学研究所
- 家根洋多 1982 「近畿地方の上器」『縄文文化の研究 4 縄文土器Ⅱ』雄山閣
- 家根洋多 1994 「縄原式の提唱—神戸市篠原中町遺跡出土土器の検討—」『縄紋晚期前葉—中葉の広域編年 一文部省科学研究費（総合 A）研究成果報告書—』北海道大学文学部
- 矢野健一 1994 「北白川 C 式併行期の瀬戸内の土器」『古代吉備』第 16 集 古代吉備研究会
- 横浜市埋蔵文化財センター 1985 「称名寺式土器に関する交流研究会の記録」『調査研究集録』第 7 冊
- 米川仁一・菊井佳弥 2010 「秋津遺跡」『奈良県遺跡調査概報 2009 年度』第三分冊
- 米川裕治 2005 「施設遺跡—京奈和自動車道「大和区間」建設に伴う発掘調査報告 VI—」(奈良県文化財調査報告 第 113 集) 奈良県立橿原考古学研究所



## 別 表

別表1 放射性炭素年代測定結果 一覧表 (パリノサーヴェイ株式会社)-----	252
別表2 出土土器・土製品 観察表	
1. 第4次調査第1～7遺構面出土土器 観察表 (影山美智代・市田英介・中野裕太)-----	254
2. 第4次調査第8遺構面出土土器 観察表 (妹尾裕介)-----	316
3. 第4次調査第8遺構面上器棺 細部の観察結果一覧表 (妹尾裕介)-----	320
4. 第4次調査第9・10遺構面・第5次調査出土土器 観察表 (小泉翔太)-----	322
5. 第4次調査第8遺構面出土土製品 観察表 (井ノ上佳美)-----	344
別表3 第4次調査出土石器・石製品 観察表 (影山美智代)-----	345
別表4 第4次調査出土木製品・木片等 一覧表-----	352

別表1 放射性炭素年代測定結果一覧表

番号	地区名	遺構	遺物番号等	樹種	處理方法	測定年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 BP	測定年代		測年校正年代(cal)		Code No
									測定	誤差	cal AD/BP	cal BP	
1	南1区 (5層上面) 沟1號	第3遺構面 引表4-13 木属	AAA	1,650 ± 20	28,37 ± 0.50 (1,587 ± 23)	1,590 ± 20 (2,259 ± 25)	o	cal AD 428 cal AD 450	- cal AD 443 - cal AD 462	cal BP 1,522 cal BP 1,500	- 1,507 - 1,488	0.188 0.138	IAAA- 93163
2	北1区 (7層上面) 沟3號前 溝11号水 施設	第3遺構面 引表4-79 ノキ 属	AAA	2,300 ± 20	27,49 ± 0.44 (2,199 ± 24)	2,260 ± 30 (2,195 ± 24)	o	cal AD 421 cal BC 389 cal BC 283	- cal AD 533 - cal BC 357 - cal BC 257	cal BP 1,467 cal BP 2,338 cal BP 2,232	- 1,417 - 2,306 - 2,206	0.673 0.530 0.247	IAAA- 93156
3	北1区 (7層上面) 沟3號前 溝11号水 施設	第3遺構面 引表4-129 サク ヲ属	AAA	2,200 ± 20	25,02 ± 0.44 (2,199 ± 24)	2,200 ± 30 (2,199 ± 24)	o	cal BC 394 cal BC 302 cal BC 356	- cal BC 300 - cal BC 326 - cal BC 311	cal BP 2,343 cal BP 2,312 cal BP 2,305	- 2,299 - 2,285 - 2,280	0.456 0.197 0.197	IAAA- 93157
4	北1区 (7層上面) 沟12號	第3遺構面 引表4-247 ケツ	AAA	2,250 ± 20	26,41 ± 0.49 (2,223 ± 25)	2,220 ± 30 (2,223 ± 25)	o	cal BC 364 cal BC 363 cal BC 299	- cal BC 198 - cal BC 351 - cal BC 227	cal BP 2,313 cal BP 2,300 cal BP 2,248	- 2,147 - 2,130 - 2,176	1.000 0.564 0.734	IAAA- 93158
5	南1区 (7層上面) 沟16號	第3遺構面 引表4-316 アカ ガシ 垂属	AAA	2,180 ± 20	30,35 ± 0.49 (2,090 ± 24)	20,050 ± 30 (2,417 ± 29)	o	cal BC 382 cal BC 327 cal BC 162	- cal BC 341 - cal BC 204 - cal BC 131	cal BP 2,286 cal BP 2,276 cal BP 2,111	- 2,235 - 2,153 - 2,080	0.479 0.324 0.382	IAAA- 93164
6	北1区 (11層上面) 沟27號	第7遺構面 引表4-248 木属	AAA	2,480 ± 30	28,96 ± 0.80 (2,430 ± 26)	2,420 ± 30 (2,417 ± 29)	o	cal BC 119 cal BC 75 cal BC 177	- cal BC 88 - cal BC 56 - cal BC 45	cal BP 2,068 cal BP 2,024 cal BP 2,126	- 2,037 - 2,005 - 1,994	0.383 0.255 1.000	IAAA- 93159
7	北1区 (12層上面) 玉 系塗り糸 玉	第8遺構面 引表4-1 木属	AAA	2,530 ± 30	30,82 ± 0.44 (2,430 ± 26)	2,430 ± 30 (2,430 ± 26)	o	cal BC 522 cal BC 522 cal BC 407	- cal BC 522 - cal BC 407 - cal BC 407	cal BP 2,471 cal BP 2,471 cal BP 2,471	- 2,356 - 2,356 - 2,356	1.000 1.000 1.000	IAAA- 93160
								cal BC 664 cal BC 562 cal BC 701 cal BC 538 cal BC 748 cal BC 655 cal BC 590 cal BC 558	- cal BC 646 - cal BC 646 - cal BC 641 - cal BC 641 - cal BC 648 - cal BC 644 - cal BC 578 - cal BC 404	cal BP 2,613 cal BP 2,613 cal BP 2,601 cal BP 2,601 cal BP 2,645 cal BP 2,645 cal BP 2,614 cal BP 2,559	- 2,595 - 2,595 - 2,350 - 2,350 - 2,645 - 2,645 - 2,593 - 2,559	0.033 0.033 0.032 0.032 0.068 0.068 0.048 0.048	

番号	地名	遺構	遺物番号等	樹種 方法	測定年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 BP	測定年代 BP		測定年代 BP		Code No.	
								誤差	calAD/BC	calBP	calBP		
8	北之区 第8遺構面 (12枚上面) 土器内面 土器底面4 土器底面4	—	AAA 311-4 AAA 2470 ± 20 AAA 2470 ± 20	— — — — — —	2530 ± 20	26.27 ± 0.48	2510 ± 30 (2505 ± 25)	○	cal BC 765 - cal BC 746	cal BP 2114 - 2695	0.145	IAAA- 93161	
					6188 - cal BC 678	cal BP 2137 - 2657	0.077						
					674 - cal BC 665	cal BP 2152 - 2614	0.078						
					646 - cal BC 587	cal BP 2195 - 2536	0.488						
					583 - cal BC 553	cal BP 2152 - 2502	0.211						
					719 - cal BC 705	cal BP 2128 - 2654	0.239						
9	北316 第8遺構面 (12枚上面) 土器16 板	— — — — — — — — — —	γ <sup>4</sup> AAA 341-4 AAA 2470 ± 20 AAA 2470 ± 20	— — — — — — — — — —	— — — — — — — — — —	2460 ± 20 (2455 ± 24)	25.74 ± 0.43	2460 ± 20 (2455 ± 24)	○	cal BC 747 - cal BC 688	cal BP 2164 - 2637	0.395	IAAA- 93162
					665 - cal BC 645	cal BP 2164 - 2594	0.128						
					589 - cal BC 580	cal BP 2158 - 2529	0.033						
					555 - cal BC 506	cal BP 2104 - 2455	0.299						
					461 - cal BC 451	cal BP 2118 - 2400	0.044						
					410 - cal BC 418	cal BP 2189 - 2367	0.101						
					753 - cal BC 685	cal BP 2102 - 2634	0.296						
					668 - cal BC 632	cal BP 2117 - 2581	0.120						
					625 - cal BC 611	cal BP 2174 - 2560	0.023						
					597 - cal BC 412	cal BP 2156 - 2361	0.562						

1) 虐理方法は、譲處理アーブルカリ処理(AAA処理)で、アルカリ濃度が1N未満の場合はAAAと表記している。

2) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を適用した。

3) BP 年代値は、1950 年を基点として毎年前であるかを示す。

4) 表記した誤差は、測定誤差(測定値の 68% が入る範囲)を年代値に換算した値。

5) 異年較正年代の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer) を使用した。

6) 異年較正年代には、補正年代の欄の括弧内に示した、一枚目を丸める前の値を使用している。

7) 異年較正年代は、群年較正曲線や年校正プログラムが改正された場合の再計算や比較を行なうように、1 枚目を丸めていない。

8) 統計的に真の値が入る確率のは 68%、2 o は 95% である。

9) 相対比は、o、2 o のそれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

別表2-1 第4次調査第1~7遺構面出土土器 観察表

団一番号 器種 出土場所	・口縁部 大きさと、調整・施文・体部 / 天井部 ・底部(脚台部・蓋台)	焼成	胎土	色調 ・外側 ・内面	備考
80-1 須恵器 杯蓋 第1遺構面 遺 構面底上	口径 13.4cm (残存 1/10 からの回転復原) 器高 4.2cm ・外側 ヨコナデ 内面 ヨコナデ ・外側 ヨコナデ・回転ヘラケズリ 内面 ヨコナデ ・-	良好	密	・N6/0 灰色 ・N5/0 灰色	・天井部と口縁 部の境には開 窓があり、口 縁端部には段 を有する。 ・TK10型式 ・ヨコノ回転方 向左回り
80-2 土師器 皿 第1遺構面 南 4区 素掘溝	口径 5.3cm (口縁部残存 1/10 からの回転復原) 残存高 1.8cm 底径 - ・外側 ナデ 内面 ナデ ・外側 ナデ 内面 ナデ ・-	良好	φ 1mm 以下の雲 母含む	・10YR4/2 黄褐色 ・10YR6/4 にぶい黄 褐色	・鍾乳時代 (13 世紀代)
80-3 土製品 土鍋 第1遺構面 南 4区 素掘溝	長さ 4.4cm (完形) 幅 1.6cm 孔径 0.5cm ・外側 ナデ 内面 ナデ ・-	良好	φ 2mm 以下の長 石含む	・10YR4/3 黄褐色 ・10YR4/2 黄褐色	・中世 ・全体風化が激 しい
80-4 弥生土器 広口 甕 第1遺構面 ピット 63	口径 - (口縁部残存 1/10 からの回転復原) 残存高 2.3cm 底径 - ・外側 波状文・円形浮文 内面 波状文 ・- ・-	良好	φ 2mm 以下の長 石含む	・SYR7/6 橙色 ・SYR7/6 橙色	・畿内第V様式 後半 ・上端には割目 を施し、端部 内外面に波状文、 外面上に円形浮文を配す る
80-5 庄内式土器 高 杯 第1遺構面 ピット 63	口径 9.45cm (杯部残存 9/10) 残存高 3.6cm 底径 - ・外側 ナデ 内面 ナデ ・- ・-	良好	φ 1mm 以下の長 石・雲母含む	・7.5YR7/6 橙色 ・7.5YR7/6 橙色	・庄内式 ・平床形の椀形 高杯
80-6 庄内式土器 裸 第1遺構面 ピット 119	口径 11.2cm (口縁部残存 1/5 からの回転復原) 残存高 4.7cm 底径 - ・外側 ナデ 内面 ナデ ・外側 ナデ 内面 ケズリ ・-	良好	φ 3mm 以下の長 石、φ 1mm 以下 の雲母含む	・SYR5/6 明赤褐色 ・SYR5/6 明赤褐色	・庄内式 ・はねあげ口縁
80-7 土師器 高杯 第1遺構面 ピット 125	口径 - 残存高 9.5cm 底径 - (瓶部残存 1/4 からの回転復原) ・外側 - 内面 ナデ ・外側 指顧压痕・ヘラミガキ・透孔 内面 ナデ	良好	φ 3mm 以下の長 石、φ 1mm 以下 の雲母含む	・10YR7/2 にぶい黄 褐色～10YR6/2 黄褐色 ・10YR7/2 にぶい黄 褐色	・古墳時代後期 中葉 ・透孔 (円形) 3孔 ・挿入付加法によ る脚台部接合
80-8 弥生土器 裸 第1遺構面 土 坑 3	口径 9.25cm (完形) 器高 7.6cm 底径 3.5cm ・外側 ナデ 内面 ナデ ・外側 ケズリ 内面 ナデ ・外側 木葉压痕 内面 ナデ	良好	φ 5mm 以下の長 石、φ 1mm 以下 の雲母含む	・10YR7/4 にぶい黄 褐色 ・10YR7/4 にぶい黄 褐色	・畿内第V様式 底面に木葉压 痕あり
80-9 土師器 裸 第1遺構面 土 坑 5	口径 11.2cm (完形) 器高 16.9cm 底径 2.0cm ・外側 ナデ 内面 ナデ ・外側 ハケ (9条/cm)・ナデ 内面 ヘラケズリ ・外側 ハケ (9条/cm)・ナデ 内面 ヘラケズリ	良好	φ 2mm 以下の長 石・赤色斑粒、 φ 1mm 以下の雲 母含む	・10YR7/4 にぶい黄 褐色 ・10YR7/4 にぶい黄 褐色	・古墳時代中期 前葉～中葉 ・体部～底部外 面に黒斑あり

固一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	口縁部 大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外側 ・内面	備考
80-10 土師器 製 第1造構面 坑3	口径 15.9cm(口縁部残存 1/3 からの回転復原) 現存高 11.3cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (5 ~ 6 条/cm) のちナデ ・内面 ハケ (6 条/cm) ・ケズリ ・ -	良好	φ 2mm 以下の石英・長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR7/4 にぶい黄褐色 ・10YR3/1 黒褐色	・布留 1 ~ 2 式 ・口縁部と体部外間に黒斑あり	
81-1 土師器 二重口 縁 第1造構面 濃 2 1区	口径 15.6cm(口縁部残存 1/6 からの回転復原) 器高 5.6cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ナデ ・内面 ハケ (4 条/cm) ・ -	良好	φ 2mm 以下の長石・雲母含む	・10YR6/4 にぶい黄褐色 ・10YR6/4 にぶい黄褐色	・布留 3 式 ・口縁部と体部の接合部の屈曲は鈍く、器壁は厚い	
81-2 土師器 小型丸 底蓋 第1造構面 濃 2 1区	口径 11.6cm(残存 1/3 からの回転復原) 現存高 10.7cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (6 条/cm) のちナデ・ケズリ ・内面 指頭压痕・ケズリ ・ -	良好	φ 1mm 以下の長石含む	・7.5YR6/6 橙褐色 ・7.5YR6/4 にぶい橙色	・布留 3 式 ・口縁部と体部外間に帯状に焼付着	
81-3 土師器 製 第1造構面 濃 2 1区	口径 15.0cm(口縁部残存 1/6 からの回転復原) 現存高 6.0cm 底径 - ・外側 ハケ (3 条/cm) ・内面 ハケ (3 条/cm) ・外側 ハケ (3 条/cm) ・内面 ケズリ ・ -	良好	φ 2mm 以下の長石・雲母含む	・5YR6/4 にぶい橙色 ・5YR6/4 にぶい橙色	・古墳時代中期	
81-4 土師器 直口壺 第1造構面 濃 2 1区	口径 9.0cm(残存 9/10 からの回転復原) 器高 16.5cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (5 条/cm) ・内面 ナデ ・外側 ハケ (6 ~ 7 条/cm) ・内面 ナデ	良好	φ 1 ~ 5mm の長石、φ 1mm の雲母含む	・5YR7/6 橙色 ・5YR8/3 浅黄褐色	・古墳時代前期末 ・口縁部と体部接合部に強いナデによるわずかな棱をもつ ・体・底部内面に斜彫状に焼付着	
81-5 土師器 製 第1造構面 濃 2 1区	口径 12.0cm(残存 3/5 からの回転復原) 現存高 11.5cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (3 条/cm) ・内面 ケズリ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石含む	・7.5YR5/4 にぶい褐色 ・10YR6/3 にぶい黄褐色	・古墳時代中期	
81-6 土師器 直口壺 第1造構面 濃 2 1区	口径 10.4cm(残存 1/2 からの回転復原) 現存高 16.5cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ナデ・ハケ (8 条/cm) ・内面 ケズリのちナデ ・外側 ナデ・ハケ (8 条/cm) ・内面 ケズリのちナデ	良好	φ 2mm 以下の長石・石英・雲母含む	・5YR6/6 橙色 ・5YR6/6 橙色	・古墳時代前期末 ・口縁部と体部接合部に強いナデによるわずかな棱をもつ ・口縁部・体部外間に黒斑あり	
81-7 土師器 鹿 第1造構面 濃 2 1区	口径 8.0cm(残存 2/5 からの回転復原) 現存高 10.4cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ナデ ・内面 ナデ・指頭压痕 ・外側 ナデ ・内面 ナデ・指頭压痕	良好	φ 2mm 以下の長石・雲母含む	・5YR5/8 明赤褐色 ・5YR5/8 明赤褐色	・布留 4 期 (古) ・穿孔 (円形) 1 孔	
81-8 庄内式土器 第1造構面 濃 2 1区	口径 - 現存高 3.2cm 底径 5.6cm(底部残存 1/2 からの回転復原) ・ - ・ - ・外側 ケズリのちヘラミガキ ・内面 板ナデ	良好	φ 1mm 以下の長石・雲母含む	・10YR5/2 暗黄褐色 ・N3/0 暗灰色	・庄内 2 ~ 3 式 ・底部外間に黒斑あり	

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚部・高台）	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
81-9 庄内式土器 濁 第1遺構面 清 2 1区	口径 - 残存高 3.5cm 底径 3.5cm（底部のみ完形） ・ - ・ 外面 ハラミガキ・ナデ 内面 ハケ（9条/2.1cm）	良好 φ 1mm以下の長石含む		・10YR6/3にぶい黄 根色 ・10YR3/1 黒褐色	・庄内2～3式 ・底部外面に黒斑あり
82-10 土師器 褐 第1遺構面 清 2 1区	口径 9.4cm（口縁部残存1/6からの回転復原） 残存高 8.2cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 ハケ（3条/cm） 内面 ナデ ・ -	良好 φ 1mm以下の長石・雲母含む		・10YR7/4にぶい黄 根色 ・10YR6/4にぶい黄 根色	・布留3式
82-11 土師器 褐 第1遺構面 清 2 1区	口径 15.4cm（残存1/5からの回転復原） 残存高 8.2cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 ハケ（7条/cm） 内面 指頭压痕・ナデ・ケズリ ・ -	良好 φ 2mm以下の長石・雲母含む		・7.5YR6/6 棕色 ・7.5YR5/6 明褐色	・布留1～2式
82-12 土師器 褐 第1遺構面 清 2 1区	口径 15.6cm（残存1/5からの回転復原） 残存高 7.3cm 底径 - ・外面 ハケ（7条/cm） 内面 ハケ（7条/cm） ・外面 ハケ（7条/cm） 内面 指頭压痕・ナデ・ケズリ ・ -	良好 φ 1mmの長石含む		・10YR6/4にぶい黄 根色 ・7.5YR7/6 棕色	・布留0式 ・口縁部・体部 外面に帯状に 煤付着
82-13 土師器 褐 第1遺構面 清 2 1区	口径 13.4cm（口縁部残存1/4からの回転復原） 残存高 7.9cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 ハケ（3条/cm） 内面 ケズリ ・ -	良好 φ 3mm以下の長石・φ 1mm以下の雲母含む		・10YR6/3にぶい黄 根色 ・10YR6/3にぶい黄 根色	・布留2～3式
82-14 土師器 褐 第1遺構面 清 2 1区	口径 13.8cm（口縁部残存1/6からの回転復原） 残存高 6.2cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 ナデ 内面 指頭压痕・ケズリ ・ -	良好 φ 6mm以下の長石含む		・10YR7/4にぶい黄 根色 ・10YR6/4にぶい黄 根色	・布留3式 ・口縁部外面 に煤付着
82-15 土師器 褐 第1遺構面 清 2 1区	口径 15.6cm（残存2/5からの回転復原） 残存高 8.9cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ハケ（6条/cm） ・外面 ハケ（6条/cm） 内面 ナデ ・ -	良好 φ 1mm以下の長石・雲母含む		・10YR5/4にぶい黄 根色 ・10YR5/2 灰黃褐色 ～7.5YR5/4にぶい 褐色	・布留0式
82-16 土師器 褐 第1遺構面 清 2 1区	口径 12.8cm（残存1/3からの回転復原） 残存高 10.8cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 ハケ（6条/cm） 内面 ケズリ ・ -	良好 φ 1mmの長石含む		・5YR6/6 棕色 ・5YR5/8 明赤褐色	・布留1式
82-17 弥生土器 褐 第1遺構面 清 2 1区	口径 - 残存高 6.0cm 底径 3.7cm（底部残存9/10からの回転復原） ・ - ・ 外面 タタキ（3条/cm）・ナデ・穿孔 内面 板ナデ	良好 φ 1mm以下の長石含む		・10YR7/3にぶい黄 根色 ・10YR7/3にぶい黄 根色	・畿内第V様式 後平 ・底部に焼成前 穿孔あり ・底部外面に黒 斑あり

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
82 - 18 上部器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 11.8cm 残存高 19.1cm (全体 9/10 残存) 底径 ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ・タタキ (3条/cm) ・外面 ナデ・タタキ (3条/cm) ・内面 ナデ	良好	φ 1~5mmの長石含む	・5YR6/6 桂色 ・10YR5/2 灰黄褐色	・布留3式 ・二重口絆化した布留式異
83 - 19 上部器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 22.2cm 器高 16.4cm (全体 9/10 残存) 底径 14.0cm ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (6条/cm) ・内面 ケズリのらハケ (6条/cm) ・外面 ハケ (6条/cm) ・内面 ケズリ	良好	φ 1mmの長石含む	・7.5YR6/4 にぶい褐色 ・7.5YR6/4 に5YR6/4 桂色	・布留0式 ・杯部外面、腹部内外筋、脚部内面に黒斑あり ・挿入付加法による脚台部接合
83 - 20 庄内式土器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 25.0cm (残存 1/2 からの回転復原) 残存高 15.2cm 底径 ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (8条/cm)・貼付支帶・ケズリ ・内面 ハケ (11条/cm) のらナデ ・外面 ナデ ・内面 ケズリ	良好	φ 4mm以下の長石、φ 1mm以下の雲母含む	・5YR6/4 にぶい褐色 ・5YR6/6 桂色	・庄内3式 ・杯部外面上に黒斑あり ・光埴法による脚台部接合
83 - 21 庄内式土器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 19.0cm (残存 2/5 からの回転復原) 器高 14.4cm 底径 11.2cm ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハラミガキか(表面摩耗) ・内面 クスリ・ナデ	良好	φ 1mmの長石含む	・5YR6/6 桂色 ・5YR6/6 桂色	・庄内1~2式
84 - 22 庄内式土器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 20.2cm (残存 1/5 からの回転復原) 残存高 6.5cm 底径 ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (3条/cm) ・内面 ハケ (3条/cm) ・-	良好	φ 3mm以下の長石含む	・10YR8/2 灰白色 ・10YR8/2 灰白色	・庄内1~2式
84 - 23 庄内式土器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 18.8cm (口縁部残存 1/10 からの回転復原) 残存高 4.9cm 底径 ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ケズリのらハケ (7条/cm) のらナデ ・内面 ハケ (4条/cm) ・-	良好	φ 1mmの長石含む	・10YR7/3 にぶい黄褐色 ・10YR7/4 にぶい黄褐色	・庄内1~2式
84 - 24 庄内式土器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 19.2cm (口縁部残存 1/10 からの回転復原) 残存高 7.3cm 底径 ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (8条/cm)・ナデ ・内面 ハラミガキ ・-	良好	φ 1mmの雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄褐色 ・10YR6/3 にぶい黄褐色	・庄内1~2式
84 - 25 庄内式土器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 23.5cm (杯部残存 1/2) 残存高 9.2cm 底径 ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (6条/cm) ・内面 ナデ (摩耗)・ハラミガキ ・-	良好	φ 1mmの長石・雲母含む	・5YR6/4 にぶい褐色 ・5YR6/6 桂色	・庄内3式 ・杯部外面上に黒斑あり ・底面に放射状ミガキ ・充填法による脚台部接合
84 - 26 庄内式土器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 19.0cm (残存 3/5 からの回転復原) 残存高 6.7cm 底径 ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ヘラミガキ ・内面 ヘラミガキ ・-	良好	φ 3mm以下の石英・長石・赤色 ・断続・ヤート・雲母含む	・5YR6/6 桂色 ・7.5YR7/6 桂色	・庄内1~2式

固一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	口縁部	焼成	胎土	外側 ・内面		備考
					色調	・内面	
84-27 庄内式土器 高 杯 第1造構面 溝 2 1区	口径 22.0cm (杯部のみ完形) 残存高 7.9cm (全体 3/5 残存) 底径 - ・外面部 ナデ ・内面部 ナデ ・外面部 ヘラミガキ ・内面部 ヘラミガキ ・ -	良好	φ 3mm 以下の石英・長石・雲母含む	• 5YR7/6 棕色 • 5YR6/8 棕色	・庄内3式 ・杯部外間に黒斑あり ・充填法による脚台部接合		
84-28 庄内式土器 高 杯 第1造構面 溝 2 1区	口径 17.4cm (口縁部残存 1/4 からの回転復原) 残存高 5.3cm 底径 - ・外面部 ナデ ・内面部 ナデ ・外面部 指頭庄底のちナデ・ナデ ・内面部 ハケ (10条/cm) ・ -	良好	φ 1mm の雲母含む	• 7.5YR4/1 棕灰色 • 7.5YR6/4 に 5Y4 棕色	・庄内3式 ・杯部外間に保付着		
84-29 庄内式土器 高 杯 第1造構面 溝 2 1区	口径 22.5cm (残存 1/2 からの回転復原) 残存高 6.3cm 底径 - ・外面部 ナデ ・内面部 ナデ ・外面部 ヘラミガキ・ハケ (7条/cm) ・内面部 ヘラミガキ ・ -	不良	φ 6mm 以下の石英・長石・チャート含む	• 5YR7/8 棕色 • 5YR6/8 棕色	・庄内3式 ・插入付加法による脚台部接合		
84-30 庄内式土器 高 杯 第1造構面 溝 2 1区	口径 17.2cm (残存 9/10 からの回転復原) 残存高 11.6cm 底径 - ・外面部 ナデ ・内面部 ナデ ・外面部 ヘラミガキ ・内面部 ヘラミガキ ・外面部 調整不明 ・内面部 シボリメ・ケズリ	良好	φ 1mm 以下の長石含む	• 10YR7/4 に 5Y4 黄褐色 • 10YR7/4 に 5Y4 黄褐色	・庄内3式		
84-31 庄内式土器 高 杯 第1造構面 溝 2 1区	口径 25.8cm (残存 1/3 からの回転復原) 残存高 7.0cm 底径 - ・外面部 ナデ ・内面部 ナデ ・外面部 ハケ (7条/1.5cm) ・内面部 ハケ (5条/cm)	不良	φ 2mm 以下の石英・長石・雲母含む	• 5YR6/8 棕色 • 5YR6/8 棕色	・庄内3式		
85-32 土師器 高杯 第1造構面 溝 2 1区	口径 17.8cm (杯部残存 4/5 からの回転復原) 残存高 5.6cm 底径 - ・外面部 ナデ ・内面部 ナデ ・外面部 ハケ (5条/cm) ・内面部 板ナデ ・ -	良好	φ 1mm 以下の長石含む	• 7.5YR6/4 に 5Y4 棕色 • 7.5YR7/6 棕色	・布留0式 ・接合法による脚台部接合		
85-33 庄内式土器 高 杯 第1造構面 溝 2 1区	口径 18.7cm 残存高 6.5cm (全体 1/2 残存) 底径 - ・外面部 ナデ ・内面部 ナデ ・外面部 ハケ (10条/cm) のちヘラミガキ・ケズリのちヘラミガキ ・内面部 ハケ (11条/cm) のちヘラミガキ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石・赤色斑粒、 φ 1mm 以下の雲母含む	• 7.5YR7/4 に 5Y4 棕色 • 7.5YR7/6 棕色	・庄内1～2式 ・充填法による脚台部接合		
85-34 土師器 高杯 第1造構面 溝 2 1区	口径 17.0cm (杯部残存 2/5 からの回転復原) 残存高 6.2cm 底径 - ・外面部 ナデ ・内面部 ナデ ・外面部 ケズリのちハケ (6条/cm) ・ケズリのちナデ ・内面部 ハケ (6条/cm) ・ナデ ・ -	良好	φ 1mm の長石含む	• 7.5YR7/4 に 5Y4 棕色 • 7.5YR6/4 に 5Y4 棕色	・布留0式		
85-35 土師器 高杯 第1造構面 溝 2 1区	口径 17.5cm 残存高 9.0cm (全体 3/5 残存) 底径 - ・外面部 調整不明 ・内面部 調整不明 ・外面部 ナデ ・内面部 調整不明 ・ -	不良	φ 3mm 以下の石英・長石・赤色斑粒含む	• 5YR5/8 明赤褐色 • 5YR5/8 明赤褐色	・布留0式 ・杯部内外間に黒斑あり		

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	口縁部	焼成	胎土	外側		備考
					・外側 ・内面	・内面	
85-36 土師器 高杯 第1遺構面 潟 2 1区	口径 17.8cm (杯部残存 2/5からの回転復原) 残存高 5.7cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ナデ ・内面 ヘラミガキ ・ -	良好	φ 1mm の長石・ 雲母含む	・7.5YR5/4 にぶい褐色 ・7.5YR5/4 にぶい褐色	・布留式 ・挿入付加法による脚台部接合		
85-37 土師器 高杯 第1遺構面 潟 2 1区	口径 16.8cm (残存 2/5からの回転復原) 残存高 4.3cm 底径 - ・外側 調整不明 ・内面 調整不明 ・外側 調整不明 ・内面 調整不明 ・ -	不良	φ 3mm 以下の石英・長石・チャート含む	・5YR6/6 橙色 ・5YR6/6 橙色	・古墳時代前期～中期		
85-38 土師器 高杯 第1遺構面 潟 2 1区	口径 16.8cm (残存 1/3からの回転復原) 残存高 6.5cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (5 ~ 6 条/cm) のちナデ ・内面 ハケ (6 条/cm) ・ヘラミガキ ・ -	良好	φ 2mm 以下の石英・長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5YR6/4 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・古墳時代前期～中期 ・杯部内面に黒斑あり		
85-39 土師器 高杯 第1遺構面 潟 2 1区	口径 19.0cm (残存 1/3からの回転復原) 残存高 6.1cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (7 条/cm) のちナデ ・内面 ハケ (7 条/cm) のちナデ ・ -	良好	φ 1mm 以下の長石・雲母含む	・2.5YR7/8 橙色 ・2.5YR7/4 淡赤橙色	・古墳時代前期～中期 ・接合法による脚台部接合		
85-40 土師器 高杯 第1遺構面 潟 2 1区	口径 17.8cm (口縁部残存 1/4からの回転復原) 残存高 6.1cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (5 ~ 6 条/cm) のちナデ ・内面 ハケ (6 条/cm) ・ヘラミガキ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石含む	・10YR6/3 にぶい黄橙色 ・10YR6/4 にぶい黄橙色	・古墳時代前期～中期 ・杯部内外面に煤付着		
85-41 土師器 高杯 第1遺構面 潟 2 1区	口径 18.0cm (残存 1/3からの回転復原) 残存高 6.2cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (7 条/cm) のちナデ ・内面 ハケ (7 条/cm) のちナデ ・ -	良好	φ 1mm 以下の長石・雲母含む	・5YR7/4 にぶい褐色 ・5YR7/6 橙色	・古墳時代前期～中期		
85-42 土師器 高杯 第1遺構面 潟 2 1区	口径 18.6cm (残存 1/3からの回転復原) 残存高 6.0cm 底径 - ・外側 調整不明 ・内面 調整不明 ・外側 調整不明 ・内面 調整不明 ・ -	不良	φ 3mm 以下の石英・長石・赤色斑粒含む	・5YR6/6 橙色 ・5YR6/6 橙色	・古墳時代前期～中期 ・挿入付加法による脚台部接合		
85-43 土師器 高杯 第1遺構面 潟 2 1区	口径 15.3cm (口縁部残存 1/2からの回転復原) 残存高 5.6cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む	・5YR6/6 橙色 ・5YR6/6 橙色	・古墳時代前期～中期 ・挿入法による脚台部接合		
85-44 土師器 高杯 第1遺構面 潟 2 1区	口径 25.2cm (口縁部残存 1/5からの回転復原) 残存高 7.9cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (6 条/cm) のちナデ ・内面 ハケ (7 条/1.3cm) ・ -	良好	φ 1mm の長石・雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・布留式 ・杯部内面に帶状に煤付着		

団一番号 器種 出土場所	・口縁部 大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
86-45 庄内式土器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 20.0cm(口縁部残存 1/2からの回転復原) 残存高 4.8cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (4条/cm)・ヘラミガキ ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 3mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	・10Y86/3にぶい黄 褐色 ・10Y86/3にぶい黄 褐色	・庄内1～2式 ・有段高杯 ・挿入付加法による脚台部接合
86-46 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 17.8cm(残存 1/3からの回転復原) 残存高 6.1cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (10条/cm)・ナデ ・内面 ハケ (10条/cm)のちナデ ・ -	良好	φ 5mm以下の石英・長石・赤色斑粒・チャート含む	・7.5Y86/6 橙色 ・7.5Y87/6 橙色	・古墳時代前期～中期
86-47 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 14.0cm(残存 3/5からの回転復原) 器高 11.4cm 底径 9.4cm ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 調整不明 ・内面 調整不明 ・外面 調整不明 ・内面 ケズリ	不良	φ 5mm以下の石英・長石・赤色斑粒・チャート含む	・7.5Y86/6 橙色 ・7.5Y87/6 橙色	・古墳時代前期～中期
86-48 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 15.8cm(残存 1/2からの回転復原) 残存高 10.5cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 調整不明 ・内面 調整不明 ・外面 調整不明・透孔 ・内面 ケズリ	不良	φ 3mm以下の石英・長石含む	・5Y86/8 橙色 ・5Y87/8 橙色	・古墳時代前期～中期 ・透孔 (円形) 3孔
86-49 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 - 残存高 6.8cm 底径 10.9cm(瓶部残存 9/10) ・ - ・ - ・外面 ヘラミガキ・ナデ ・内面 シボリメ・ケズリ	良好	φ 1mmの長石・雲母含む	・10Y86/4にぶい黄 褐色 ・7.5Y86/4にぶい黄 褐色	・庄内後期～布留式期 ・瓶部外面に黒斑あり ・瓶部内面に保付着
86-50 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 - 残存高 6.7cm 底径 11.6cm(瓶部残存 3/5からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ハケ (7条/cm)・ヘラミガキ・透孔 ・内面 ケズリ・ナデ	良好	φ 1mmの長石・雲母含む	・5Y86/6 橙色 ・5Y86/6 橙色	・庄内後期～布留式期 ・透孔 (円形) 3孔 ・瓶部外面に黒斑あり ・挿入付加法による脚台部接合
86-51 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 - 残存高 6.5cm 底径 10.0cm(瓶部残存 1/2からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ナデ ・内面 シボリメ・ケズリ・ナデ	良好	φ 3mm以下の長石含む	・5Y86/8 橙色 ・5Y86/8 橙色	・庄内後期～布留式期
86-52 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 - 残存高 7.9cm 底径 11.0cm(脚台部のみ完形) ・ - ・外面 ナデ ・内面 ケズリのちナデ ・外面 ヘラミガキ・ナデ ・内面 ケズリ	良好	φ 1mmの長石含む	・5Y86/6 橙色 ・10Y87/2にぶい黄 褐色	・庄内後期～布留式期 ・充填法による脚台部接合
86-53 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 - 残存高 8.2cm 底径 11.4cm(瓶部残存 9/10) ・ - ・ - ・外面 ヘラミガキ・ナデ ・内面 ケズリ・ナデ	良好	φ 1mmの長石・雲母含む	・7.5Y86/6 橙色 ・5Y86/6 橙色	・庄内後期～布留式期

固一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部(脚台部・高台)	口径部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
86-54 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 — 残存高 7.2cm 底径 11.3cm (脚台部のみ完形) — — ・外面部 ハラミガキ・ハケ (6条/cm)・ナデ 内面部 ケズリ・ナデ	良好 φ 1mm以下の長石、雲母含む	φ 1mm以下の長石、雲母含む	5YR6/6 橙色 7.5YR6/3に5%褐色	・庄内後期～布留式期 ・挿入付加法による脚台部接合
86-55 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 — 残存高 7.4cm 底径 12.9cm (残存1/3からの回転復原) — — ・外面部 ハラミガキ 内面部 ケズリ・ハケ (6条/cm)・ナデ	良好 φ 2mm以下の長石、φ 1mm以下の長石含む	φ 2mm以下の長石、φ 1mm以下の長石含む	7.5YR6/6 橙色 7.5YR5/4に5%褐色	・庄内後期～布留式期 ・挿入付加法による脚台部接合
86-56 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 — 残存高 6.8cm 底径 12.8cm (瓶部残存1/2からの回転復原) — — ・外面部 ハラミガキのちナデ 内面部 シボリメ・ケズリ・ナデ	良好 φ 1mmの長石含む	φ 1mmの長石含む	5YR6/6 橙色 7.5YR6/4に5%褐色	・庄内後期～布留式期
86-57 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 — 残存高 6.1cm 底径 11.6cm (瓶部残存3/5からの回転復原) — — ・外面部 ハラミガキ・ナデ 内面部 ケズリ・ナデ	良好 φ 1mmの長石・雲母含む	φ 1mmの長石・雲母含む	5YR6/6 橙色 5YR6/6 橙色	・庄内後期～布留式期 ・充填法による脚台部接合
86-58 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 — 残存高 6.5cm 底径 13.9cm (瓶部残存3/5からの回転復原) — — ・外面部 ケズリのちナデ 内面部 シボリメのちナデ	良好 φ 1mmの長石・雲母含む	φ 1mmの長石・雲母含む	5YR5/4に5%褐色 7.5YR5/4に5%褐色	・古墳時代中期 ・接合法による脚台部接合
86-59 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 1区	口径 — 残存高 6.1cm 底径 10.0cm (瓶部残存3/5からの回転復原) — — ・外面部 シボリメのち指頭圧痕・ナデ 内面部 ハケ (6条/cm) のちハラミガキ・ナデ	良好 φ 1mmの長石含む	φ 1mmの長石含む	5YR6/6 橙色 5YR6/6 橙色	・古墳時代中期
87-60 土師器 小形丸底鉢 第1造構面 潟 2 1区	口径 14.8cm (残存2/5からの回転復原) 残存高 6.0cm 底径 — ・外面部 ハラミガキ 内面部 ハケ (7条/1.1cm) のちナデ ・外面部 ハラミガキ 内面部 ハラミガキ —	良好 φ 1mm以下の長石、雲母含む	φ 1mm以下の長石、雲母含む	7.5YR6/4に5%褐色 7.5YR6/4に5%褐色	・布留0～1式
87-61 土師器 小形丸底鉢 第1造構面 潟 2 1区	口径 8.3cm 器高 7.7cm (全体4/5残存) 底径 3.4cm ・外面部 ナデ 内面部 ナデ ・外面部 ハケ (6条/cm)・ナデ 内面部 指頭圧痕・ナデ ・外面部 ナデ 内面部 ナデ	良好 φ 2mm以下の長石、雲母含む	φ 2mm以下の長石、雲母含む	7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/4に5%褐色	・布留1～2式
87-62 土師器 小形丸底鉢 第1造構面 潟 2 1区	口径 7.3cm (口径部残存1/2からの回転復原) 残存高 6.6cm 底径 — ・外面部 ハケ (3条/cm) のちナデ 内面部 ナデ ・外面部 ハケ (3条/cm) 内面部 指頭圧痕・ケズリ —	良好 φ 3mm以下の長石、φ 1mm以下の長石含む	φ 3mm以下の長石、φ 1mm以下の長石含む	7.5YR5/6 明褐色 7.5YR5/6 明褐色	・布留3式～古墳時代中期

図-番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部(脚部台・高台)	口縁部 口径 31.2cm(口縁部残存 1/5 からの回転復原) 底径 11.1cm	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
87 - 63 土師器 直口 第1造構面 潟 2 1区	口径 17.8cm(口縁部残存 1/4 からの回転復原) 底径 4.2cm	良好	φ 1mm 以下の長石含む	・2.5Y7/3 淡黄色 ・10YR7/2 にぶい黄褐色	・布留 1 ~ 2 式 ・湖岐系「大形複合口縁蓋」	
87 - 64 庄内式土器 二重口縁蓋 第1造構面 潟 2 2区	口径 17.8cm(口縁部残存 1/4 からの回転復原) 底径 4.2cm	良好	φ 3mm 以下の赤色斑紋・長石含む	・7.5YR5/8 明褐色 ・7.5YR5/8 明褐色	・庄内式	
87 - 65 土師器 直口壺 第1造構面 潟 2 2区	口径 13.6cm(口縁部残存 1/6 からの回転復原) 底径 6.2cm(全体 1/10 残存) 内面 ・外面 ナデ・指顎圧痕・貼付突帯 ・内面 ナデ ・外面 ヘラミガキ ・内面 シボリメ・ナデ	良好	φ 3mm 以下の長石・赤色斑紋含む	・10YR7/4 にぶい黄褐色 ・10YR7/3 にぶい黄褐色	・布留 1 ~ 4 (新) 式 ・肩部粘土面貼付による突帯をめぐらせる	
87 - 66 土師器 直口壺 第1造構面 潟 2 2区	口径 14.6cm(残存 2/5 からの回転復原) 底径 13.0cm	良好	φ 3mm 以下の長石・石英・赤色斑紋含む	・10YR6/4 にぶい黄褐色 ・10YR6/4 にぶい黄褐色	・布留 1 ~ 2 式	
87 - 67 土師器 直口壺 第1造構面 潟 2 2区	口径 14.6cm(頭部残存 1/3 からの回転復原) 底径 6.3cm	良好	φ 1mm 以下の長石・赤色斑紋含む	・7.5YR6/6 棕褐色 ・7.5YR6/4 にぶい黄褐色	・布留 1 ~ 4 (新) 式 ・頭部接合部に突帯様の棱をもつ	
87 - 68 土師器 台付壺 第1造構面 潟 2 2区	口径 14.6cm(体部残存 7/10) 底径 8.7cm	良好	φ 3mm 以下の長石・石英・φ 1mm 以下の雲母含む	・2.5Y7/2 灰黄色 ・2.5Y7/2 灰黄色	・庄内 3 ~ 布留 0 式 ・体部中ほどに焼成後穿孔あり ・体部外外面に赤彩あり	
87 - 69 土師器 直口壺 第1造構面 潟 2 2区	口径 14.6cm(残存 2/5 からの回転復原) 底径 12.6cm	良好	φ 2mm 以下の長石・φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR4/1 棕灰色 ・10YR6/3 にぶい黄褐色	・布留 1 式 ・体部外面に焼付有 ・頭部に粘土紐貼付による突帯をめぐらせる	
88 - 70 土師器 小形丸底壺 第1造構面 潟 2 2区	口径 8.4cm(ほぼ完形) 器高 8.1cm 底径 4.0cm(全体 3/5 残存)	良好	φ 4mm 以下の長石・石英・φ 1mm 以下の雲母含む	・2.5Y6/1 黄灰色~ ・2.5Y7/2 灰黄色 ・2.5Y6/1 黄灰色~ ・2.5Y7/2 灰黄色	・布留 1 式 ・体部・底部外面に黒斑あり	
88 - 71 土師器 小形丸底壺 第1造構面 潟 2 2区	口径 8.4cm(ほぼ完形) 器高 8.1cm 底径 4.0cm(全体 4/5 残存)	良好	φ 4mm 以下の長石・石英・φ 1mm 以下の雲母含む	・5YR7/6 棕褐色 ・5YR7/6 棕褐色	・布留 2 ~ 布留 4 (新) 式	
88 - 72 土師器 小形丸底壺 第1造構面 潟 2 2区	口径 7.8cm 器高 8.6cm(全体 4/5 残存) 底径 4.0cm 内面 ・外面 ナデ ・外面 ナデ ・外面 ハケ(6条/cm) ・内面 ケズリ・ナデ ・外面 ハケ(8条/cm) ・内面 指顎圧痕 ・外面 ナデ ・内面 ハケ(8条/cm) ・内面 指顎圧痕	良好	φ 6mm 以下の長石・石英含む	・7.5YR7/4 にぶい黄褐色 ・7.5YR7/4 にぶい黄褐色	・布留 2 ~ 布留 4 (新) 式 ・口縁部~体部外面に黒斑あり	

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部(脚台部・高台)	・口縁部		焼成	胎土	色調 ・外側 ・内側		備考
88-73 土師器 小形丸 底径 第1造構面 溝 2 2 区	口径 8.7cm 器高 8.7cm (全体 3/4 残存) 底径 - ・外側 ナデ ・内側 ナデ ・外側 ナデ ・外側 ナデ ・内側 ナデ	良好	φ 3mm 以下の長 石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む			・7.5R7/3 にぶい 橙色 ・7.5R7/3 にぶい 橙色		・布留 2 ~ 布留 4 (新) 式
88-74 土師器 鹿 第1造構面 溝 2 2 区	口径 8.0cm 器高 8.7cm (全体 9/10 残存) 底径 - ・外側 ナデ ・内側 ナデ ・外側 ハケ (8 条/cm)・穿孔 ・内側 指頭圧痕・ナデ ・外側 ハケ (8 条/cm) ・内側 指頭圧痕・ナデ	良好	φ 2mm 以下の長 石、φ 1mm 以下 の雲母含む			・10R7/3 にぶい 橙色 ・10R7/3 にぶい 橙色		・布留 3 ~ 4 (新) 式 ・穿孔 (円形) 1 孔
88-75 庄内式上器 裸 第1造構面 溝 2 2 区	口径 7.5cm (口縁部残存 1/3 からの回転復原) 器高 6.7cm 底径 - ・外側 ナデ ・内側 ナデ ・外側 ハケ (6 条/cm) ・内側 ケズリ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長 石、φ 1mm 以下 の雲母含む			・7.5R6/4 にぶい 橙色 ・7.5R6/4 にぶい 橙色		・庄内 1 ~ 2 式
88-76 韓式系土器 広 口壺 第1造構面 溝 2 2 区	口径 9.5cm (残存 7/10 からの回転復原) 器高 11.5cm 底径 5.4cm ・外側 ナデ・ハケ (3 条/cm) ・内側 ナデ ・外側 ハケ (3 条/cm) ・内側 ハケ (3 条/cm)・ナデ ・外側 ナデ ・内側 ナデ	良好	φ 3mm 以下の長 石、φ 1mm 以下 の雲母含む			・7.5R5/4 にぶい 橙色 ・7.5R6/6 橙色		・古墳時代中期 ・韓式系軟質土 器 ・口縁部と底部 外側に黒斑あり
88-77 土師器 ミニ チュア土器 直 口壺 第1造構面 溝 2 2 区	口径 4.8cm (完形) 器高 3.5cm 底径 - ・外側 指頭圧痕 ・内側 ナデ ・外側 指頭圧痕 ・内側 ナデ ・外側 指頭圧痕 ・内側 ナデ	良好	φ 2mm 以下の長 石・雲母含む			・10R7/3 にぶい 橙色 ・10R7/3 にぶい 橙色 ~ 7.5R6/4 に ぶい 橙色		・庄内 0 式 ~ 古 墳時代中期 ・体部 ~ 底部外 側に黒斑あり
88-78 土師器 ミニ チュア土器 直 口壺 第1造構面 溝 2 2 区	口径 3.8cm (口縁部残存 1/3 からの回転復原) 器高 3.5cm 底径 1.8cm ・外側 ナデ・凹線文 ・内側 ナデ ・外側 ヘラミガキ・ナデ ・内側 ナデ ・外側 ヘラミガキ・ナデ ・内側 ナデ	良好	φ 1mm 以下の長 石含む			・2.5R5/8 明赤褐色 ・2.5R5/8 明赤褐色		・庄内 0 式 ~ 古 墳時代中期
88-79 土師器 鈴 第1造構面 溝 2 2 区	口径 13.0cm 器高 7.0cm (全体 3/5 残存) 底径 5.3cm ・外側 ナデ ・内側 ナデ ・外側 ナデ ・内側 ナデ ・外側 ナデ ・内側 ナデ	良好	φ 5mm 以下の長 石・赤色斑粒、 φ 1mm 以下の雲 母含む			・5R6/6 橙色 ~ 7.5R6/6 橙色 ・5R6/6 橙色		・庄内 0 式 ~ 古 墳時代中期
88-80 土師器 鈴 第1造構面 溝 2 2 区	口径 12.8cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 器高 5.3cm 底径 - ・外側 ナデ ・内側 ナデ ・外側 ナデ ・内側 ナデ ・外側 ナデ ・内側 ナデ	良好	φ 3mm 以下の長 石・赤色斑粒、 φ 1mm 以下の雲 母含む			・7.5R6/6 橙色 ・7.5R6/6 橙色		・庄内 0 式 ~ 古 墳時代中期
88-81 須恵器 鹿 第1造構面 溝 2 2 区	口径 7.8cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 器高 3.6cm 底径 - ・外側 ナデ ・内側 ナデ ・ - ・ -	良好	密			・2.5R4/1 黄灰色 ・2.5R5/2 増灰黄色		・TK216 型式 ・内外面に自然 釉付看

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
88-82 土師器 蓋か裏 第1造構面 潟 2 2 区	口径 - 残存高 2.9cm 底径 3.3cm（底部残存1/2からの回転復原） ・ - ・ 外面 タタキ（4条/cm）のちナデ 内面 ヘラナデ	不良	φ 5mm以下の長石・赤色斑粒含む	・10YR7/2にぶい黄褐色 ・10YR8/3浅黄褐色	・庄内0～3式
88-83 土師器 器種不明 第1造構面 潟 2 2 区	口径 - 残存高 2.9cm 底径 3.3cm（底部残存1/2からの回転復原） ・ - ・ 外面 ナデ・ケズリ 内面 ナデ	良好	φ 3mm以下の長石・赤色斑粒含む	・5YR6/6 棕色 ・5YR5/6 明赤褐色	・古墳時代中期 ・韓式系土器の特徴を持つ ・底部外面に黒斑あり
88-84 須恵器 球 第1造構面 潟 2 2 区	口径 - 残存高 9.2cm 底径 4.2cm（残存3/4からの回転復原） ・ - ・ 外面 ナデ・列点文・ナデ・穿孔 内面 ナデ・ナデ ・外面 ナデ 内面 ナデ	良好	密	・7.5Y1/1灰褐色～ 7.5Y4/1灰褐色 ・7.5Y4/1灰褐色	・TK21～216 型式期 ・穿孔（円形） 1孔 ・内外面に自然釉付着
88-85 須恵器 球 第1造構面 潟 2 3 区	口径 - 残存高 9.5cm（全体4/5残存） 底径 2.6cm ・ - ・ 外面 ナデ・穿孔 内面 ナデ ・外面 ナデのちハケ（5条/cm） 内面 ナデ	良好	密	・7.5Y7/1灰白色 ・5Y7/1灰白色	・TK216 型式 ・穿孔（円形） 1孔
88-86 土師器 直口壺 第1造構面 潟 2 2 区	口径 10.5cm（口縁部残存5/12からの回転復原） 認高 16.2cm（全体4/5残存） 底径 4.2cm ・ - ・ 外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 ナデのちハケ（8条/cm） 内面 ケズリ ・外面 ナデのちハケ（8条/cm） 内面 指跡圧痕	良好	φ 3mm以下の長石・長石含む	・5YR6/6 棕色 ・5YR6/6 棕色	・布留3～4 (新)式
88-87 土師器 直口壺 第1造構面 潟 2 2 区	口径 11.9cm（口縁部完形） 残存高 17.7cm（全体1/2残存） 底径 - ・外面 調整不明 内面 調整不明 ・外面 調整不明 内面 調整不明 ・ -	不良	φ 2mm以下の長石・φ 1mm以下の雲母含む	・7.5YR8/6浅黄褐色 ・7.5YR7/6 棕色 ・7.5YR8/6浅黄褐色 ～5YR7/6 棕色	・布留3～4 (新)式
89-88 庄内式土器 裸 第1造構面 潟 2 2 区	口径 14.6cm（口縁部残存1/3からの回転復原） 残存高 5.4cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 タタキ（3条/cm） 内面 ナデ ・ -	良好	φ 3mm以下の長石・φ 1mm以下の雲母含む	・2.5Y6/3にぶい黄色 ・2.5Y6/3にぶい黄色	・庄内0式
89-89 庄内式土器 裸 第1造構面 潟 2 2 区	口径 14.2cm（残存1/5からの回転復原） 残存高 3.1cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ナデ ・ -	良好	φ 2mm以下の長石・雲母含む	・5YR5/6 明赤褐色 ・5YR6/6 棕色	・庄内0式
89-90 庄内式土器 裸 第1造構面 潟 2 2 区	口径 16.6cm（残存1/10からの回転復原） 残存高 6.7cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 ハケ（6条/cm） 内面 指跡圧痕・ハケ（5条/cm） ・ -	良好	φ 2mm以下の長石・φ 1mm以下の雲母含む	・10YR6/4にぶい黄褐色 ・10YR5/3にぶい黄褐色～7.5YR6/4にぶい褐色	・庄内1～2式 ・口縁部外側に黒斑あり

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部 / 天井部 ・底部(脚台部・高台)	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
89 - 91 庄内式土器 第1遺構面 2 2区	口径 15.4cm (口縁部は#完形) 残存高 6.0cm (全体 2/5 残存) 底径 - ・外面 ナデのちハケ ( 5 条 /cm ) ・内面 ナデ ・外面 ナデのちハケ ( 5 条 /cm )・ケズリ ・内面 -	良好	φ 4mm 以下の長石、石英、φ 1mm 以下の雲母含む	・5YR5/6 明赤褐色 ・5YR5/6 明赤褐色	・庄内1 ~ 2式 ・頸部内面に黒斑あり
89 - 92 庄内式土器 第1遺構面 2 2区	口径 17.4cm (口縁部残存 1/10 からの回転復原) 残存高 4.35cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ・ハケ ( 6 条 /1.9cm ) ・外面 ナデ ・内面 ケズリ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5YR5/6 明褐色 ・7.5YR5/6 明褐色	・庄内2 ~ 3式 ・ねねあげ口縁
89 - 93 庄内式土器 第1遺構面 2 2区	口径 9.4cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 残存高 7.3cm (全体 1/3 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデのちラミガキ ・内面 板ナデ ・ -	良好	φ 2mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR1/1 黒褐色 ・10YR7/4 に紫・黄褐色 ~ 10YR3/1 黑褐色	・庄内1 ~ 2式 ・口縁部~体部内外面に黒斑あり
89 - 94 庄内式土器 第1遺構面 2 2区	口径 19.0cm (口縁部残存 1/4 からの回転復原) 残存高 4.7cm (全体 1/5 残存) 底径 - ・外面 ナデ・ヘラミガキのちハケ ( 7 条 /cm ) ・内面 ナデ・ハケ ( 7 条 /cm ) ・ -	良好	φ 1mm 以下の長石、雲母含む	・7.5YR5/4 に紫・褐色 ・7.5YR6/6 橙色	・庄内2 ~ 3式 ・ねねあげ口縁
89 - 95 土師器 褐 第1遺構面 2 2区	口径 14.6cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 残存高 5.3cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ ( 6 条 /cm ) ・内面 ナデ・ケズリ ・ -	良好	φ 2mm 以下の長石、雲母含む	・2.5Y4/2 煙灰黄色 ・2.5Y4/2 煙灰黄色	・庄内3 ~ 布留 1式
89 - 96 土師器 褐 第1遺構面 2 2区	口径 15.1cm (残存 1/5 からの回転復原) 残存高 4.0cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ・ケズリ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石含む	・7.5YR6/4 に紫・褐色 ・7.5YR6/4 に紫・褐色	・庄内3 ~ 布留 1式 ・口縁部外外面に煤付着
89 - 97 土師器 褐 第1遺構面 2 2区	口径 16.0cm (口縁部残存 1/12 からの回転復原) 残存高 5.1cm 底径 - ・外面 ナデ・ハケ ( 7 条 /cm ) のちナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ・ハケ ( 8 条 /cm ) ・内面 ケズリ ・ -	良好	φ 4mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5YR6/6 橙色 ・7.5YR6/6 橙色	・布留0 ~ 3式
89 - 98 土師器 褐 第1遺構面 2 2区	口径 13.4cm (残存 1/5 からの回転復原) 残存高 7.1cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ ( 13 条 /1.7cm ) ・内面 ケズリ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石・赤色斑紋含む	・7.5YR7/6 橙色 ・10YR7/4 に紫・黄褐色	・布留2式
89 - 99 土師器 褐 第1遺構面 2 2区	口径 9.2cm (残存 1/5 からの回転復原) 残存高 4.7cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ・ハケ ( 3 条 /cm ) ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5YR6/6 橙色 ・7.5YR6/4 に紫・褐色	・布留0 ~ 4式

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部 / 天井部 ・底部（脚台部・高台）	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
S9 - 100 土師器 裏 第1造構面 潟 2 2 区	口径 14.8cm (口縁部残存 1/4 からの回転復原) 残存高 4.4cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ・ケズリ ・ -	良好	φ 5mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR6/4 にぶい黄褐色 ・10YR6/4 にぶい黄褐色	・庄内3～布留1式
89 - 101 土師器 裏 第1造構面 潟 2 2 区	口径 20.4cm (口縁部残存 1/12 からの回転復原) 残存高 6.3cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ・ハケ (4条/cm) ・外面 ハケ (6条/cm) のちナデ ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 2mm 以下の長石・雲母含む	・10YR6/4 にぶい黄褐色 ・10YR6/4 にぶい黄褐色	・布留0～4式
89 - 102 土師器 裏 第1造構面 潟 2 2 区	口径 10.3cm (口縁部残存 1/4 からの回転復原) 残存高 5.4cm (全体 1/10 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石・赤色斑粒含む	・2.5IR4/3 にぶい赤褐色 ・5IR6/8 横色	・布留0～4式 ・口縁部内面に 保付着
89 - 103 庄内式土器 裏 第1造構面 潟 2 2 区	口径 16.9cm (口縁部残存 1/5 からの回転復原) 残存高 6.5cm 底径 - ・外面 ナデ・ハケ (3条/cm) ・内面 ナデ・ハケ (3条/cm) ・外面 ハケ (4条/cm) ・内面 ケズリ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石含む	・10YR5/4 にぶい黄褐色 ・10YR5/4 にぶい黄褐色	・庄内2～3式 ・はねあげ口縁
90 - 104 庄内式土器 高杯 第1造構面 潟 2 2 区	口径 13.5cm (口縁部残存 1/2 からの回転復原) 残存高 6.2cm (全体 2/5 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (8条/cm) ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石・石英含む	・5IR5/6 明赤褐色 ・5IR5/6 明赤褐色	・庄内0～布留1式 ・挿入付加法による 脚台部接合
90 - 105 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2 区	口径 15.0cm (口縁部残存 1/12 からの回転復原) 残存高 6.5cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石・石英・赤色斑粒、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5IR5/4 にぶい褐色 ・7.5IR5/4 にぶい褐色	・布留0～3式 ・杯部内外面に 黒斑あり ・接合法による 脚台部接合
90 - 106 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2 区	口径 19.0cm (杯部残存 1/3 からの回転復原) 残存高 5.6cm 底径 - ・外面 ヘラミガキ ・内面 ヘラミガキ ・外面 ヘラミガキ ・内面 ヘラミガキ ・ -	良好	φ 2mm 以下の長石・雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄褐色 ・7.5IR7/6 横色	・布留0式 ・有段高杯 ・杯部外面に 黒斑あり ・光埴法による 脚台部接合
90 - 107 庄内式土器 高杯 第1造構面 潟 2 2 区	口径 21.7cm (口縁部残存 1/12 からの回転復原) 残存高 7.9cm (全体 1/3 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 3mm 以下の石英・長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5IR5/6 明褐色 ・7.5IR5/6 明褐色	・庄内3式 ・杯部外面に黒斑あり ・接合法による 脚台部接合
90 - 108 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2 区	口径 16.8cm (口縁部残存 1/2 からの回転復原) 残存高 5.5cm (全体 1/3 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ・ヘラミガキ・ハケ (6条/cm) ・外面 ナデ・ケズリ ・内面 ヘラミガキ・ハケ (6条/cm) ・ -	良好	φ 4mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5IR6/4 にぶい褐色 ・7.5IR6/4 にぶい褐色	・布留2～4 (古) 式 ・充填法による 脚台部接合

図-番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	口縁部 焼成 胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
90-109 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2区	口径 18.4cm (口縁部残存 1/2 からの回転復原) 残存高 5.6cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハラミガキ ・内面 ナデ ・ -	良好 φ 1mm 以下の長石・雲母含む	・10YR6/4 に赤い黄褐色 ・10YR6/4 に赤い黄褐色	・布留2～4 (古)式 ・杯部内面に保付着 ・充填法による脚台部接合
90-110 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2区	口径 16.7cm (口縁部残存 3/4) 残存高 6.1cm (全体 1/5 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (10 条/cm) ・内面 ナデ ・ -	良好 φ 1mm 以下の長石・赤色斑点含む	・7.5R7/6 棕色 ・7.5R7/6 棕色	・布留2～4 (古)式 ・杯部外面上に黒斑あり ・挿入付加法による脚台部接合
90-111 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2区	口径 18.0cm (杯部完形) 残存高 5.9cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (4 条/cm)・ケズリのちハラミガキ ・内面 ナデ ・ -	良好 φ 1mm の長石含む	・5R7/6 棕色 ・7.5R7/4 に赤い黄褐色	・布留2～4 (古)式 ・杯部外面上に黒斑あり ・接合法による脚台部接合
90-112 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2区	口径 18.0cm (口縁部残存 1/2 からの回転復原) 残存高 6.1cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ハケ (4 条/cm) ・ -	良好 φ 4mm 以下の石英・長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5R6/6 棕色 ・5R6/6 棕色	・布留2～4 (古)式 ・接合法による脚台部接合
90-113 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2区	口径 17.2cm (口縁部残存 3/5 からの回転復原) 残存高 6.5cm (全体 1/5 残存) 底径 - ・外面 ナデ・ハラミガキ ・内面 ナデ ・外面 ナデ・ハラミガキ・シリメ ・内面 ナデ ・ -	良好 φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5R5/4 に赤い褐色 ・7.5R5/4 に赤い褐色	・古墳時代中期 ・挿入付加法による脚台部接合
90-114 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2区	口径 17.2cm (残存 1/2 からの回転復原) 残存高 6.2cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・ -	良好 φ 5mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5R5/4 に赤い褐色 ・5R5/6 明赤褐色	・古墳時代前期 末～中期 ・挿入付加法による脚台部接合
90-115 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2区	口径 17.8cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 残存高 5.9cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (6 条/cm) のちナデ ・内面 ハケ (6 条/cm) のちナデ ・ -	良好 φ 2mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR6/4 に赤い黄褐色 ・10YR6/4 に赤い黄褐色	・古墳時代前期 末～中期 ・充填法による脚台部接合
90-116 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2区	口径 17.0cm (口縁部残存 1/3 からの回転復原) 残存高 5.2cm (全体 1/10 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・ -	良好 φ 1mm 以下の長石・雲母含む	・10YR6/4 に赤い黄褐色 ・10YR6/6 明黄褐色	・古墳時代前期 末～中期
90-117 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2区	口径 24.2cm (杯部完形) 残存高 7.4cm 底径 - ・外面 ナデ・ハラミガキ ・内面 ナデ ・外面 ハラミガキ ・内面 板状工具痕 ・ -	良好 φ 1mm の長石・雲母含む	・7.5R6/6 棕色 ・7.5R6/6 棕色	・布留3式～古墳時代中期 ・充填法による脚台部接合

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部(脚台部・高台)	口径部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
91-118 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 2区	口径 - 残存高 3.9cm (全体1/10残存) 底径 13.6cm (瓶部残存1/4からの回転復原) ・ - ・ - ・外面部 内面部 ナデ ナデ	良好 φ 3mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	φ 3mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	・51R5/6 明赤褐色 ・101R6/4にぶい黄褐色	・布留0～2式 ・透孔(円形)2孔 ・瓶部内面に黒斑あり
91-119 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 2区	口径 - 残存高 4.8cm 底径 9.8cm (瓶部残存1/4からの回転復原) ・ - ・ - ・外面部 内面部 ナデ・ヘラミガキ ナデ・ケズリ	良好 φ 2mm以下の長石・赤色斑粒・雲母含む	φ 2mm以下の長石・赤色斑粒・雲母含む	・7.51R6/6 橙色 ・7.51R5/6 明褐色	・布留0～2式
91-120 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 2区	口径 - 残存高 6.2cm 底径 10.2cm (瓶部残存1/2からの回転復原) ・ - ・ - ・外面部 内面部 ナデ・ヘラミガキ ナデ・ケズリ・シボリメ	良好 φ 3mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	φ 3mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	・7.51R6/6 橙色 ・7.51R5/6 明褐色	・布留0～2式 ・瓶部内面に保付着 ・瓶部外面上に黒斑あり
91-121 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 2区	口径 - 残存高 12.7cm 底径 12.6cm (瓶部残存1/3からの回転復原) ・ - ・ - ・外面部 内面部 ハケ(5条/cm)のちナデ ナデ・シボリメ・ケズリ・ナデ	良好 φ 2mm以下の長石・石英・赤色斑粒、φ 1mm以下の雲母含む	φ 2mm以下の長石・石英・赤色斑粒、φ 1mm以下の雲母含む	・7.51R5/6 明褐色 ・7.51R5/6 橙色	・布留0～2式 ・透孔(円形)3孔
91-122 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 2区	口径 - 残存高 6.2cm (脚台部はぼ完形) 底径 11.5cm (残存1/2からの回転復原) ・ - ・ - ・外面部 内面部 ナデのちヘラミガキ ナデ・シボリメ	良好 φ 3mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	φ 3mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	・7.51R6/6 橙色 ・7.51R6/6 橙色	・布留0～2式
91-123 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 2区	口径 - 残存高 7.0cm 底径 10.3cm (瓶部残存1/4からの回転復原) ・ - ・ - ・外面部 内面部 ヘラミガキ シボリメ・ケズリ・ナデ	良好 φ 3mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	φ 3mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	・7.51R7/4に55%褐色 ・7.51R7/3に55%褐色	・布留0～2式
91-124 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 2区	口径 - 残存高 7.6cm 底径 10.1cm (残存1/2からの回転復原) ・ - ・ - ・外面部 内面部 ナデ・ヘラミガキ シボリメ・ケズリ・ナデ	良好 φ 3mm以下の長石・雲母含む	φ 3mm以下の長石・雲母含む	・7.51R6/6 橙色 ・7.51R6/4に55%褐色	・布留0～2式 ・挿入付加法による脚台部接合
91-125 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 2区	口径 - 残存高 8.0cm (全体2/5残存) 底径 11.4cm (瓶部残存1/12からの回転復原) ・ - ・ - ・外面部 内面部 ナデ シボリメ・ケズリ・ナデ	良好 φ 4mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	φ 4mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	・7.51R5/6 明褐色 ・7.51R4/4 橙色	・布留0～2式 ・挿入付加法による脚台部接合
91-126 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 2区	口径 - 残存高 8.2cm (全体2/5) 底径 10.7cm (瓶部残存1/4からの回転復原) ・ - ・ - ・外面部 内面部 ナデ・ヘラミガキ・ケズリ・透孔 シボリメ・ケズリ・ナデ	良好 φ 3mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	φ 3mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	・7.51R6/4に55%褐色 ・7.51R6/4に55%褐色	・布留0～2式 ・透孔(円形)3孔 ・瓶部と脚台部外面上に黒斑あり ・挿入付加法による脚台部接合
91-127 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 2区	口径 - 残存高 6.7cm (全体2/5残存) 底径 10.0cm (瓶部残存5/6からの回転復原) ・ - ・ - ・外面部 内面部 ナデ・ヘラミガキ シボリメ・ケズリ・ナデ	良好 φ 1mm以下の長石・雲母含む	φ 1mm以下の長石・雲母含む	・51R6/8 橙色 ・51R6/8 橙色	・古墳時代中期 ・挿入付加法による脚台部接合

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部(脚台部・高台)	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
91-128 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2 区	口径 — 残存高 7.1cm 底径 10.8cm (残存 1/5 からの回転復原) ・ — ・ — ・ 外面 ナデ・ヘラミガキ 内面 ナデ・シボリメ	良好 石含む	φ 3mm 以下の長 石・石英・赤色 斑紋、φ 1mm 以 下の雲母含む	・ 7.5R5/6 明褐色 ・ 7.5R5/6 明褐色	・ 古墳時代中期 ・ 接合法による 脚台部接合
91-129 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2 区	口径 — 残存高 9.2cm (全体 2/5 残存) 底径 12.7cm (残存 5/6 からの回転復原) ・ — ・ — ・ 外面 ナデ・ヘラミガキ 内面 シボリメ・ケズリ・ナデ	良好 石含む	φ 3mm 以下の長 石・石英・赤色 斑紋、φ 1mm 以 下の雲母含む	・ 7.5R7/4 にぶい褐 色 ・ 5YR5/4 にぶい赤褐 色	・ 古墳時代中期 ・ 瓶部内部外面 に黒斑あり ・ 埋入付加法に よる脚台部接合
91-130 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2 区	口径 — 残存高 7.6cm 底径 13.1cm (残存 1/2 からの回転復原) ・ — ・ — ・ 外面 ナデ・ヘラミガキ 内面 ナデ・シボリメ	良好 石含む	φ 2mm 以下の長 石・石英・赤色 斑紋、雲母含む	・ 5YR6/6 橙色 ・ 5YR5/6 明赤褐色	・ 古墳時代中期 ・ 接合法による 脚台部接合
91-131 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2 区	口径 — 残存高 10.0cm 底径 — (残存 1/2 からの回転復原) ・ — ・ 外面 ケズリのちナデ 内面 ヘラミガキ ・ 外面 ヘラミガキ・透孔 内面 ナデ・シボリメ	良好 石・雲母含む	φ 2mm 以下の長 石・雲母含む	・ 7.5R6/4 にぶい褐 色 ・ 7.5R6/4 にぶい褐 色	・ 古墳時代中期 ・ 透孔 (円形) 3孔 ・ 埋入付加法に よる脚台部接合
91-132 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2 区	口径 — 残存高 11.5cm (全体 1/2 残存) 底径 11.7cm (瓶部残存 3/4 からの回転復原) ・ — ・ 外面 調整不明 内面 調整不明 ・ 外面 ヘラミガキ 内面 シボリメ	良好 石含む	φ 5mm 以下の長 石・石英含む	・ 5YR5/5 明赤褐色 ・ 5YR6/6 橙色	・ 古墳時代中期 ・ 充填法による 脚台部接合
91-133 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2 区	口径 — 残存高 8.7cm (脚台部ほぼ完形) 底径 10.7cm (残存 3/5 からの回転復原) ・ — ・ 外面 ナデ・ナデかヘラミガキ 内面 ヘラミガキ ・ 外面 ナデ・ヘラミガキ 内面 シボリメ・ケズリ・ナデ	良好 石含む	φ 2mm 以下の長 石、φ 1mm 以 下の雲母含む	・ 10YR6/4 にぶい黄 褐色 ・ 10YR6/4 にぶい黄 褐色	・ 布留 0 ~ 2 式 ・ 充填法による 脚台部接合
91-134 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2 区	口径 — 残存高 9.8cm 底径 10.4cm (残存 7/10 からの回転復原) ・ — ・ 外面 ナデ 内面 ナデ ・ 外面 ヘラミガキ 内面 ナデ・シボリメ・指頭圧痕	良好 石含む	φ 3mm 以下の長 石、φ 1mm 以 下の雲母含む	・ 5YR6/6 橙色～ 5YR3/1 黒褐色 ・ 5YR6/6 橙色～ 5YR3/1 黒褐色	・ 古墳時代中期 ・ 杯部内部と瓶 部外面に黒斑 あり ・ 埋入付加法に よる脚台部接合
91-135 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2 区	口径 14.4cm (残存 4/5) 器高 10.7cm 底径 8.9cm ・ 外面 ナデ 内面 ナデ ・ 外面 ナデ 内面 ナデ ・ 外面 ナデ・ハケ (4 条/cm) のちナデ・透 乳 内面 ケズリ	良好 石含む	φ 3mm 以下の長 石・石英・赤色 斑紋、φ 1mm 以 下の雲母含む	・ 5YR5/6 明赤褐色 ・ 5YR5/6 明赤褐色	・ 布留 0 ~ 2 式 ・ 透孔 (円形) 2 孔 ・ 杯部・瓶部外 面に黒斑あり ・ 光埴法による 脚台部接合
92-136 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2 区	口径 16.3cm (残存 4/5 からの回転復原) 器高 11.7cm 底径 10.1cm ・ 外面 ナデ 内面 ナデ ・ 外面 ナデ 内面 ナデ ・ 外面 ナデ 内面 ヘラミガキ 内面 シボリメ	良好 石含む	φ 4mm 以下の長 石、φ 1mm 以 下の雲母含む	・ 7.5R7/6 橙色 ・ 7.5R5/6 明褐色	・ 古墳時代前期 末～中期 ・ 口縁部・瓶部 外面に黒斑あ り ・ 埋入付加法に よる脚台部接合

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部 / 天井部 ・底部(脚台部・高台)	・口縁部		焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
		大きさと、調整・施文	体部 / 天井部 ・底部(脚台部・高台)				
92-137 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 2区	口径 17.3cm (ほぼ完形) 器高 13.1cm 底径 10.1cm ・外面 ナデ ・外面 ナデ ・外面 ナデ ・外面 ハラミガキ ・内面 シボリメ	良好	φ 4mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む			7.5YR6/6 棕色 7.5YR6/6 棕色	・古墳時代前期末～中期 ・充填法による脚台部接合
92-138 土師器 瓢 第1造構面 潟 2 2区	口径 - 残存高 4.1cm 底径 10.5cm (底部残存 1/3 からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ナデ ・内面 ナデ・指頭圧痕	良好	φ 4mm 以下の長石含む			5YR5/6 明赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	・古墳時代中期 ・蒸気孔 6 孔
92-139 土師器 瓢 第1造構面 潟 2 2区	口径 - 残存高 4.0cm 底径 9.3cm (残存 1/10 からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ナデ ・内面 指頭圧痕・ナデ	良好	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む			10YR7/4 にぶい黄褐色 10YR7/4 にぶい黄褐色	・古墳時代中期 ・蒸気孔 2 孔
92-140 土師器 瓢 第1造構面 潟 2 2区	口径 27.0cm (残存 3/10 からの回転復原) 残存高 19.0cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (7 条/cm)・指頭圧痕・把手部: ナデ ・内面 ハラケズリ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石・赤色斑粒、 φ 1mm 以下の雲母含む			7.5YR6/8 棕色 7.5YR6/8 棕色	・古墳時代中期
93-141 土師器 瓢 第1造構面 潟 2 3区	口径 27.7cm (残存 1/12 からの回転復原) 残存高 4.4cm (全体 1/7 残存) 底径 - ・外面 列点文・波状文・円形浮文・ナデ ・内面 ハラミガキ ・ -	良好	φ 8mm 以下のチャート・長石・ 石英・赤色斑粒、 φ 1mm 以下の雲母含む			10YR7/3 にぶい黄褐色 2.5YR6/6 棕色～ 5YR4/1 極灰色	・布留 0～1 式 ・口縁部内面に 煤付着
93-142 土師器 瓢 第1造構面 潟 2 3区	口径 12.1cm (残存 1/10 からの回転復原) 残存高 5.1cm 底径 - ・外面 ナデのちハケ (7 条/cm) ・内面 ナデ・ハケ (6 条/cm) ・外面 ナデのちハケ (7 条/cm) ・内面 ケズリ ・ -	良好	φ 2mm 以下の長石・ φ 1mm 以下の雲母含む			10YR6/4 にぶい黄褐色 10YR6/4 にぶい黄褐色	・古墳時代中期 ・ほぼ同じ口縁
93-143 土師器 瓢 第1造構面 潟 2 3区	口径 13.8cm (口縁部残存 1/12 からの回転復原) 残存高 5.7cm (全体 1/7 残存) 底径 - ・外面 ハケ (7 条/cm) のちナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (7 条/cm) のちナデ ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石・石英・赤色斑粒、 φ 1mm 以下の雲母含む			10YR7/3 にぶい黄褐色 10YR7/3 にぶい黄褐色	・古墳時代中期
93-144 土師器 瓢 第1造構面 潟 2 3区	口径 12.5cm (残存 1/2 からの回転復原) 残存高 7.5cm (全体 1/3 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (4 条/cm) ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 4mm 以下の長石・石英含む			7.5YR4/4 棕色 7.5YR5/6 明褐色	・布留 2 式～古 墳時代前期末
93-145 土師器 広口壺 第1造構面 潟 2 3区	口径 13.6cm (口縁部残存 1/2 からの回転復原) 残存高 9.2cm (全体 1/3 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (5 条/cm) ・内面 ケズリ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む			10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色	・古墳時代中期 ・体部外間に煤付着

団-番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部(脚部・高台)	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
93-146 土師器 漆 第1造構面 潟 2 3区	口径 16.2cm (残存 1/3からの回転復原) 底径 11.9cm 残存高 11.9cm ・外面部 ナデ 内面部 ナデ ・外面部 ハケ (4 条/cm) 内面部 指彫压痕・ケズリ -	不良	φ 3mm 以下の長 石・石英含む	・5Y8E/8 橙色 ・5Y8E/6 橙色	・古墳時代中期
93-147 土師器 漆が運 第1造構面 潟 2 3区	口径 10.6cm (口縁部残存 1/4からの回転復原) 底径 9.0cm (全体 1/5 残存) 残存高 6.0cm (全体 1/5 残存) ・外面部 ナデ・指彫压痕 内面部 ナデ ・外面部 ハケのちナデ 内面部 ナデ	良好	φ 3mm 以下の長 石・石英・φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR7/4 にぶい黄 橙色～5YR4/6 赤 色 ・10YR7/4 にぶい黄 橙色	・古墳時代前期 ～中期 ・口縁部～体部 外面に赤彩あり
93-148 土師器 小形丸 底蓋 第1造構面 潟 2 3区	口径 9.0cm (口縁部残存 1/3からの回転復原) 底径 8.6cm (全体 1/2 残存) 残存高 6.8cm (全体 1/2 残存) 直径 4.9cm ・外面部 ナデ 内面部 ナデ ・外面部 ハケ (7 条/cm) 内面部 ナデ ・外面部 ハケ (7 条/cm) 内面部 ナデ	良好	φ 2mm 以下の赤 色斑紋含む	・7.5IR7/4 にぶい黄 橙色 ・10YR7/4 にぶい黄 橙色	・布留 3 ～ 4 式
93-149 土師器 小形丸 底蓋 第1造構面 潟 2 3区	口径 12.0cm (全体 4/5 残存) 器高 8.6cm 底径 1.0cm ・外面部 ナデ・ヘラミガキ 内面部 ナデ・ヘラミガキ ・外面部 指彫压痕・ヘラミガキ・ナデ 内面部 ナデ ・外面部 ヘラミガキ・ナデ 内面部 ナデ	良好	φ 2mm 以下の長 石・石英・赤色 斑紋含む	・10YR7/3 にぶい黄 橙色 ・10YR7/3 にぶい黄 橙色	・布留 1 ～ 2 式
93-150 土師器 鈴 第1造構面 潟 2 3区	口径 12.8cm (口縁部残存 1/6からの回転復原) 底径 6.3cm (全体 2/5 残存) 残存高 6.3cm (全体 2/5 残存) ・外面部 ナデ 内面部 ナデ ・外面部 ハケ (7 条/cm) 内面部 ナデ	良好	φ 3mm 以下の長 石・石英・φ 1mm 以下の雲母含む	・5Y8E/6 明赤褐色 ・5Y8E/6 明赤褐色	・古墳時代前期
93-151 土師器 小形丸 底蓋 第1造構面 潟 2 3区	口径 - 残存高 7.4cm 底径 1.8cm (残存 3/5からの回転復原) ・外面部 ナデ 内面部 指彫压痕・ナデ ・外面部 ナデ 内面部 ナデ	良好	φ 3mm 以下の赤 色斑紋含む	・10YR7/3 にぶい黄 橙色～2.5R6/1 黄灰 色 ・10YR7/3 にぶい黄 橙色～2.5R6/1 黄灰 色	・布留 0 ～ 4 (新) 式
93-152 須恵器 漆 第1造構面 潟 2 3区	口径 - 残存高 6.5cm 底径 2.7cm (残存 3/4からの回転復原) ・外面部 ナデ 内面部 ナデ ・外面部 ナデ 内面部 ナデ	良好	密	・N5/0 灰色 ・N5/0 灰色	・TK216 型式 ・穿孔 (円形) 1孔
93-153 須恵器 有蓋高 杯蓋 第1造構面 潟 2 3区	口径 11.4cm (口縁部残存 1/2からの回転復原) 器高 5.1cm 底径 - ・外面部 ヨコナデ 内面部 ヨコナデ ・外面部 沈線文・列点文・ナデ、 内面部 つまみ・ヨコナデ・ナデ ナデ	良好	密	・2.5YR7/1 灰白色 ・2.5YR7/1 灰白色	・T6232 型式 ・扁平な宝珠形 つまみがつく
94-154 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 3区	口径 20.0cm (残存 1/3からの回転復原) 底径 15.3cm 残存高 5.3cm ・外面部 ナデ・指彫压痕 内面部 ナデ・ヘラミガキ ・外面部 指彫压痕・ハケ状工具によるナデ・沈線・ ケズリ 内面部 ハケ (7 条/cm)	良好	φ 3mm 以下の長 石・φ 1mm 以下の 雲母含む	・2.5Y5/2 灰灰黄色 ・2.5Y5/2 灰灰黄色	・布留 2 ～ 4 (古) 式

団一番号 器種 出土場所	・口縁部 大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部（脚部部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外側 ・内面	備考
94-155 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 3区	口径 18.6cm (杯部残存 1/2からの回転復原) 現存高 7.2cm 底径 - ・外面 ナデ・ヘラミガキ ・内面 ナデ ・外側 ケズリのちヘラミガキ・ケズリ ・内面 ナデ -	良好	φ 2mm 以下の長 石・雲母含む	・2.5IR6/6 橙色 ・2.5IR6/6 橙色	・布留2～3式
94-156 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 3区	口径 19.7cm (杯部残存 1/2からの回転復原) 現存高 6.5cm 底径 - ・外面 ハケ (7条/cm)・ナデ ・内面 ヘラミガキ ・外側 ハケ (7条/cm)・ナデ ・内面 ヘラミガキ -	良好	φ 2mm 以下の長 石・雲母含む	・5YR6/6 明赤褐色 ・5YR6/6 明赤褐色	・布留1～2式
94-157 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 3区	口径 15.1cm (残存 1/2) 現存高 6.2cm 底径 - ・外面 調整不明 ・内面 調整不明 ・外側 調整不明 ・内面 調整不明 -	不良	φ 4mm 以下の長 石・赤色斑粒、 φ 1mm 以下の雲 母含む	・7.5IR7/6 橙色 ・7.5IR8/6 浅黄褐色	・布留2～4 (古)式 ・充填法による 脚部接合
94-158 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 3区	口径 17.6cm (残存 1/2からの回転復原) 現存高 5.5cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (10条/cm) のちヘラミガキ ・内面 ハケ (7条/cm)・10条/cm) -	良好	φ 2mm 以下の長 石・赤色斑粒、 φ 1mm 以下の雲 母含む	・7.5IR6/6 橙色 ・7.5IR6/4 にぶい橙 色	・布留2～4 (古)式 ・杯部内面に黒 斑あり
94-159 庄内式土器 高 杯 第1造横面 潟 2 3区	口径 - 現存高 7.7cm (全体 2/5 残存) 底径 10.2cm (脚部 1/2 残存) ・ - ・外側 ナデ・板ナデのちヘラミガキ ・内面 ナデ・シボリメ	良好	φ 4mm 以下の長 石・φ 1mm 以下の 雲母含む	・10YR7/2 にぶい黃 褐色 ・10YR4/1 極灰色	・庄内2式 ・脚部内外面 に煤付着
94-160 庄内式土器 高 杯 第1造横面 潟 2 3区	口径 - 現存高 6.0cm 底径 10.7cm (瓶部残存 1/12からの回転復原) ・ - ・外側 ナデ・ヘラミガキ・透孔 ・内面 ナデ・ケズリ	良好	φ 3mm 以下の長 石・φ 1mm 以下の 雲母含む	・7.5IR5/6 明褐色 ・7.5IR5/6 明褐色	・庄内2式 ・透孔 (円形) 3孔
94-161 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 3区	口径 - 現存高 7.1cm (全体 1/2 残存) 底径 10.4cm (瓶部残存 1/4からの回転復原) ・ - ・外側 ナデ・指頭圧痕・ヘラミガキ ・内面 ナデ・シボリメ	良好	φ 3mm 以下の赤 色斑粒・長石、 φ 1mm 以下の雲 母含む	・7.5IR6/4 にぶい黃 褐色 ・7.5IR6/4 にぶい黃 褐色	・布留3式
94-162 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 3区	口径 - 現存高 7.5cm (全体 1/3 残存) 底径 9.3cm (脚部ほぼ完形) ・ - ・外側 ナデ・指頭圧痕 ・内面 ナデ	良好	φ 1mm 以下の長 石・雲母含む	・10YR7/3 にぶい黃 褐色 ・10YR7/3 にぶい黃 褐色	・布留3式
94-163 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 3区	口径 cm 現存高 cm (全体 1/3 残存) 底径 cm (瓶部残存 1/2からの回転復原) ・ - ・外側 調整不明 ・内面 調整不明 ・外側 ナデ・ヘラミガキ ・内面 ナデ・シボリメ	良好	φ 3mm 以下の長 石含む	・5IR6/6 橙色 ・5IR6/6 橙色	・古墳時代中期 ・挿入付加法に よる脚部接合
94-164 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 3区	口径 19.8cm (残存 3/5からの回転復原) 現存高 11.5cm 底径 12.7cm ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ナデ・ハケ (8条/cm) ・内面 ナデ・ヘラミガキ・シボリメ ・内面 ナデ・ケズリ	良好	φ 4mm 以下の長 石・赤色斑粒、 φ 1mm 以下の雲 母含む	・7.5IR6/4 にぶい黃 褐色 ・7.5IR6/4 にぶい黃 褐色	・布留1～2式 ・接合法による 脚部接合

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部 / 天井部 ・底部(脚台部・高台)	口縁部 焼成	胎土	外側 ・内面		備考
				色調	・内面	
94 - 165 土師器 高杯 第1遺構面 潟 2 - 3区	口径 23.4cm(口縁部残存 1/4 からの回転復原) 底径 15.6cm (全体 2/3 残存) 高さ 13.5cm ・外側 ナデ ・内面 ナデ・ヘラミガキ ・外側 ナデ ・内面 ケズリ・シボリメ	良好	φ 5mm 以下の長石・石英・φ 1mm 以下の雲母含む	51R5/6 明褐色 51R5/6 明褐色		・古墳時代中期 ・接合法による脚台部接合
95 - 166 土師器 小形壺 第1遺構面 潟 2 - 4区	口径 6.2cm (全体 4/5 残存) 底径 6.4cm 高さ 2.9cm ・外側 指頭圧痕 ・内側 指頭圧痕 ・外側 ナデ ・内側 ナデ ・外側 ナデ ・内側 ナデ	良好	φ 3mm 以下の長石・石英含む	51R7/6 棕色 51R7/6 棕色		・古墳時代中期 ・手挽土器 ・口縁部外側に黒斑あり
95 - 167 土師器 小形壺 第1遺構面 潟 2 - 4区	口径 6.9cm (残存 1/2 からの回転復原) 底径 6.5cm 高さ 1.5cm ・外側 ナデ・指頭圧痕 ・内側 ナデ・指頭圧痕 ・外側 ナデ・指頭圧痕 ・内側 ナデ・指頭圧痕 ・-	良好	φ 2mm 以下の長石・φ 1mm 以下の雲母含む	2.5R6/3 にぶい黄色 2.5R6/3 にぶい黄色		・古墳時代中期 ・手挽土器
95 - 168 土師器 広口壺 第1遺構面 潟 2 - 4区	口径 13.8cm (口縁部残存 1/12 からの回転復原) 底径 12.5cm (全体 1/12 残存) 高さ 6.4cm ・外側 ナデ・ヘラミガキ ・内側 ナデ・ヘラミガキ ・外側 ナデ ・内側 ナデ	良好	φ 7mm 以下のチャート・長石・石英・赤色斑粒・1mm 以下の雲母含む	10YR7/3 にぶい黄色 10YR7/3 にぶい黄色		・庄内 2 ~ 3式 ・頸部外側に貼付突帯
95 - 169 土師器 二重口 縁器 第1遺構面 潟 2 - 4区	口径 17.4cm(口縁部残存 1/2 からの回転復原) 底径 12.5cm (全体 2/5 残存) 高さ 12.5cm ・外側 ナデ ・内側 ナデ ・外側 ナデ ・内側 ナデ ・-	良好	φ 4mm 以下の長石・石英・赤色斑粒含む	7.51R8/4 淡黄褐色 7.51R8/6 棕色		・布留 3 ~ 4式
95 - 170 土師器 短須壺 第1遺構面 潟 2 - 4区	口径 17.1cm (残存 1/2 からの回転復原) 底径 12.2cm 高さ 12.2cm ・外側 ナデ ・内側 ナデ ・外側 ヘラミガキ ・内側 ケズリ	良好	φ 4mm 以下の長石・石英・赤色斑粒・φ 1mm 以下の雲母含む	7.51R8/6 棕色 7.51R8/6 棕色		・布留 1 ~ 2式
95 - 171 土師器 壺 第1遺構面 潟 2 - 4区	口径 13.4cm(口縁部残存 1/6 からの回転復原) 底径 11.5cm (全体 1/5 残存) 高さ 5.2cm ・外側 ナデ ・内側 ナデ ・外側 ハケ (7 条/cm) ・内側 ナデ・指頭圧痕 ・-	良好	4mm 以下の長石・φ 1mm 以下の雲母含む	7.51R6/6 棕色 7.51R6/4 にぶい褐色		・布留 4式
95 - 172 土師器 壺 第1遺構面 潟 2 - 4区	口径 13.2cm(口縁部残存 1/4 からの回転復原) 底径 11.2cm 高さ 6.2cm ・外側 ナデ ・内側 ナデ・ナデ ・外側 ナデ ・内側 ケズリ	良好	φ 3mm 以下の長石・石英・赤色斑粒・φ 1mm 以下の雲母含む	10YR5/2 淡黄褐色 10YR6/3 にぶい黄色		・布留 1 ~ 2式
95 - 173 土師器 壺 第1遺構面 潟 2 - 4区	口径 16.7cm(口縁部残存 1/4 からの回転復原) 底径 14.3cm (全体 1/5 残存) 高さ 4.3cm ・外側 ナデ・ハケ (4 条/cm) のちナデ ・内側 ナデ・ハケ (3 条/cm) のちナデ ・外側 ナデ ・内側 ケズリ ・-	良好	φ 3mm 以下の長石・φ 1mm 以下の雲母含む	51R6/4 にぶい褐色 51R6/4 にぶい褐色		・布留 0式 ・はねあげ口縁の名残

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部(脚台部・蓋台)	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
95 - 174 土師器 覆 第1造構面 潟 2 - 4区	口径 15.2cm (口縁部残存 1/4からの回転復原) 底径 15.2cm (全体 1/10 残存) ・外面 ナデ ・外面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・内面 ナデ ・内面 ナデ ・内面 ナデ	良好	φ 4mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む	・51R6/4 にぶい褐色 ・51R6/6 橙色	・布留 3 ~ 4 式
96 - 175 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 - 4区	口径 20.2cm (口縁部口縁部残存 1/12からの回転復原) 底径 15.2cm (全体 1/5 残存) ・外面 調整不明 ・内面 調整不明 ・外面 調整不明 ・内面 調整不明 ・内面 調整不明 ・内面 調整不明 ・内面 調整不明	良好	φ 3mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む	・51R6/6 橙色 ・7.51R6/6 橙色	・古墳時代中期
96 - 176 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 - 4区	口径 15.8cm (杯部完形) 底径 15.2cm (全体 6.0cm) ・外面 ナデ ・内面 ナデ・ヘラミガキ ・外面 板状工具痕 ・内面 ハケ (7 条 / cm) ・内面 ナデ ・内面 ナデ	良好	φ 1mm の長石・ 雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄 褐色 ・7.51R6/4 にぶい褐 色	・布留 2 ~ 3 式
96 - 177 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 - 4区	口径 18.2cm (杯部残存 4/5からの回転復原) 底径 15.2cm (全体 7.1cm) ・外面 ナデ ・内面 ナデ・ヘラミガキ ・外面 ナデ ・内面 ナデ・ヘラミガキ ・内面 ナデ	良好	φ 1mm の長石含む	・51R6/6 橙色 ・51R6/6 橙色	・布留 2 ~ 3 式
96 - 178 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 - 4区	口径 19.7cm (残存 1/6 からの回転復原) 底径 15.2cm (全体 5.6cm) ・外面 ハケ (7 条 / 0.8cm) ・内面 ナデ ・外面 ハケ (7 条 / 0.8cm) ・内面 ヘラミガキ ・内面 ナデ ・内面 ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石・ 雲母含む	・51R6/6 橙色 ・7.51R6/4 にぶい褐 色	・布留 2 ~ 3 式 ・はねあげ口縁
96 - 179 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 - 4区	口径 18.2cm (口縁部残存 1/4 からの回転復原) 底径 15.2cm (全体 4.6cm 残存) ・外面 ナデ ・内面 ナデ・ヘラミガキ ・外面 ヘラミガキ ・内面 ナデ ・内面 ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石・ φ 1mm 以下の雲母含む	・2.51R6/3 にぶい黄 色 ・2.51R6/3 にぶい黄 色	・布留 3 ~ 4 式
96 - 180 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 - 4区	口径 15.3cm (残存 / からの回転復原) 底径 15.2cm (全体 6.0cm) ・外面 ナデ ・内面 ナデ・ヘラミガキ ・外面 ナデ・シボリメ ・内面 ナデ ・内面 ナデ	良好	φ 4mm 以下の長石・ φ 1mm 以下の雲母含む	・7.51R5/4 にぶい褐 色 ・7.51R5/4 にぶい褐 色	・布留 2 ~ 3 式 ・楕形高杯
96 - 181 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 - 4区	口径 11.0cm (底径) 底径 11.0cm (全体 7.3cm) ・内面 ナデ ・外面 ナデ・ヘラミガキ ・外面 ナデ・シボリメ ・内面 ナデ ・内面 ケズリ・ナデ ・外面 ケズリ ・内面 ナデ ・外面 ヘラミガキ・ナデ ・内面 ケズリのちナデ・シボリメ	良好	φ 5mm 以下の長石・ 石英、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.51R5/6 明褐色 ・7.51R5/6 明褐色	・布留 2 ~ 3 式
96 - 182 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 - 4区	口径 10.7cm (底径) 底径 9.7cm (全体 2/5 残存) ・外面 ケズリ ・内面 ナデ ・外面 ヘラミガキ・ナデ ・内面 ケズリのちナデ・シボリメ	良好	φ 4mm 以下の長石・ φ 1mm 以下の雲母含む	・7.51R7/4 橙色 ・5Y5/4 にぶい赤褐色	・布留 1 ~ 2 式 ・補入付加法による脚台部接合

図-番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部 / 天井部 ・底部 (脚台部・高台)	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
96-183 土師器 高杯 第1造横面 潟 2-4区	口径 - 残存高 8.1cm (全体1/3残存) 底径 11.6cm (脚台部残存1/2からの回転復原) - - - - - - - 外面 ナデ・ヘラミガキ 内面 ナデ・ケズリ	良好 φ 3mm以下の赤 色斑駁・長石・ 石英、φ 1mm以 下の雲母含む	10YR6/4にぶい黄 褐色 10YR5/3にぶい黄 褐色		・布留1~2式 ・充填法による 脚台部接合
96-184 土師器 高杯 第1造横面 潟 2-4区	口径 - 残存高 9.1cm 底径 11.6cm (残存1/2からの回転復原) - - - - - - 外面 ナデ 内面 ヘラミガキ 外面 ナデ・ヘラミガキ・透孔 内面 シボリメ・ケズリ・ナデ	良好 φ 3mm以下の長 石・石英、φ 1 mm以下の雲母含 む	7.5YR6/5明褐色 7.5YR4/4褐色		・布留1~2式 ・透孔(円形) 3孔 ・挿入付加法に よる脚台部接合 ・瓶部外面に黒 斑あり
96-185 土師器 高杯 第1造横面 潟 2-4区	口径 - 残存高 9.1cm (残存1/2からの回転復原) 底径 11.6cm - - - - - - 外面 ナデ・ヘラケズリ 内面 ナデ・ヘラミガキ 外面 ヘラミガキ・透孔 内面 シボリメ	良好 φ 2mm以下の長 石・石英、φ 1 mm以下の雲母含 む	7.5YR6/4にぶい褐 色 7.5YR6/4にぶい褐 色		・布留2~3式 ・楕型高杯 ・未貫通の透孔 (円形)2孔残 る
96-186 庄内式土器 高 杯 第1造横面 潟 2-4区	口径 16.7cm (口縁部残存1/12からの回転復 原) 器高 12.3cm 底径 10.2cm - - - - - - 外面 ナデ 内面 ナデ 外面 ナデ・ケズリ 内面 ハケのちナデ 外面 ナデ・ヘラミガキ 内面 ナデ・ケズリ	良好 φ 2mm以下の長 石含む	10YR4/1褪灰色 10YR6/4にぶい黄 褐色		・庄内0~1式 ・挿入付加法に よる脚台部接合
96-187 土師器 高杯 第1造横面 潟 2-4区	口径 16.0cm (口縁部残存1/2からの回転復原) 器高 13.2cm (残体4/5残存) 底径 10.7cm - - - - - - 外面 ナデ 内面 ナデ・ヘラミガキ 外面 ナデ・シボリメ 内面 ナデ 外面 ナデ・ナデ 内面 ケズリ	良好 φ 4mm以下の長 石含む	7.5YR6/6褐色 7.5YR6/6褐色		・布留2~3式 ・接合法による 脚台部接合
97-188 土師器 小形丸 底蓋 第1造横面 潟 2-4区	口径 9.3cm (ほぼ完形) 器高 10.5cm 底径 1.2cm - - - - - 外面 ハケ (6条/cm) のちナデ 内面 ナデ 外面 指頭圧痕のちハケ (7条/cm) 内面 指頭圧痕 外面 ハケ (7条/cm) ・ナデ 内面 ナデ	良好 φ 3mm以下の長 石・石英、φ 1 mm以下の雲母含 む	10YR7/3にぶい黄 褐色 10YR7/3にぶい黄 褐色		・布留1~2式
97-189 土師器 小形丸 底蓋 第1造横面 潟 2-4区	口径 8.6cm (ほぼ完形) 器高 8.6cm 底径 - - - - - 外面 ナデ 内面 ナデ 外面 ナデ 内面 指頭圧痕・ナデ 外面 ナデ 内面 指頭圧痕	良好 φ 3mm以下の長 石・石英含む	5YR6/4にぶい褐色 ~ 5YR8/4浅黄色 5YR6/4にぶい褐色 ~ 5YR8/4浅黄色		・布留3式・古 墳時代中期 ・体部・底部外 面に黒斑あり ・口縁部と体部 外面に煤付着
97-190 土師器 茵 第1造横面 潟 2-4区	口径 29.8cm (口縁部残存1/5残存) 残存高 15.8cm (全体1/7残存) 底径 - - - - - 外面 ナデ 内面 ナデ 外面 ナデ 内面 ケズリ - -	良好 φ 4mm以下の長 石・石英、赤色 斑駁・雲母含む	7.5YR6/4にぶい褐 色 7.5YR5/3にぶい褐 色		・布留2~3式
97-191 土師器 繩 第1造横面 潟 2-4区	口径 25.1cm (口縁部残存1/2からの回転復原) 器高 21.0cm (全体3/5残存) 底径 13.8cm - - - - - 外面 ナデ 内面 ナデ 外面 格子目タタキ (2条/cm)・沈線文 内面 ナデ・指頭圧痕 外面 ナデ 内面 ナデ・指頭圧痕	良好 φ 2mm以下の長 石・雲母含む	5YR5/6明赤褐色 5YR4/8赤褐色		・古墳時代中期 前半 ・把手の接合痕 あり ・軟質輪式土器

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（腰部・高台）	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外側 ・内面	備考
98-192 土師器 小形丸底鉢 第1造構面 潟 2 5区	口径 10.1cm (残存 1/7 からの回転復原) 残存高 5.6cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハラミガキ・ナデ ・内面 ケズリ ・ -	不良	φ 2mm 以下の赤色斑粒・長石含む	・51R7/8 桜色 ・51R7/8 桜色	・布留 3 ~ 4 式
98-193 土師器 二重口縁器 第1造構面 潟 2 5区	口径 15.4cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 残存高 4. 9cm (全体 1/10 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石・石英含む	・51R6/6 桜色～ 10YR7/4 にぶい黄褐色 ・51R6/6 桜色	・布留 1 ~ 2 式
98-194 土師器 二重口縁器 第1造構面 潟 2 5区	口径 17.2cm (残存 1/4 からの回転復原) 残存高 11.7cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (6 条/cm) ・内面 指顎圧痕・ナデ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石・石英含む	・51R6/8 桜色 ・51R6/8 桜色	・布留 3 ~ 4 式
98-195 土師器 小形丸底鉢 第1造構面 潟 2 5区	口径 13.8cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 残存高 3.9cm (全体 1/10 残存) 底径 - ・外面 調整不明 ・内面 調整不明 ・外側 調整不明 ・内面 調整不明	良好	φ 3mm 以下の長石・赤色斑粒、 φ 1mm 以下の雲母含む	・2.51R5/6 明赤褐色 ・2.51R5/6 明赤褐色 ～ 10YR6/4 にぶい黄褐色	・布留 0 ~ 1 式 ・口縁部・体部 内外面に赤彩あり
98-196 土師器 ミニチコア土器 第1造構面 潟 2 5区	口径 6.9cm (残存 4/5 からの回転復原) 高さ 5.1cm 底径 3.8cm ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (6 条/cm) ・内面 指顎圧痕・ナデ ・外側 ハケ (6 条/cm)・ナデ ・内面 ナデ	良好	φ 3mm 以下の長石・φ 1mm 以下の雲母含む	・7.51R6/4 にぶい桜色 ・7.51R7/4 にぶい桜色	・古墳時代前期 ・絶滅型の外形
98-197 土師器 小形粗製壺 第1造構面 潟 2 5区	口径 7.8cm (残存 4/5 からの回転復原) 高さ 8.5cm 底径 3.8cm ・外側 ナデ ・内面 ハケ (3 条/cm) ・外側 ナデ ・内面 指顎圧痕・ケズリ ・外側 ケズリ ・内面 指顎圧痕・ケズリ	良好	φ 1mm 以下の赤色斑粒・雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄褐色 ・10YR7/3 にぶい黄褐色	・布留式土器平行期 ・手捏土器 (粗製品)
98-198 土師器 小形丸底鉢 第1造構面 潟 2 5区	口径 8.8cm (残存 4/5 からの回転復原) 高さ 8.3cm 底径 3.2cm ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外側 指顎圧痕 ・内面 指顎圧痕・ナデ ・外側 ハケ (6 条/cm) ・内面 指顎圧痕・ナデ	良好	φ 4mm 以下の石英・長石・赤色斑粒含む	・51R6/4 にぶい桜色 ～ 10YR8/3 浅黄色 ・51R6/4 にぶい桜色 ～ 10YR8/3 浅黄色	・布留式 3 ~ 4 式
98-199 土師器 壺 第1造構面 潟 2 5区	口径 14.8cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 残存高 6.0cm 底径 - ・外側 ハケ (7 条/cm) のちナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (7 条/cm) ・内面 ハケ (7 条/cm) ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石・φ 1mm 以下の雲母含む	・7.51R6/6 桜色 ・10YR6/3 にぶい黄褐色	・布留 0 ~ 1 式
98-200 土師器 壺 第1造構面 潟 2 5区	口径 17.6cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 残存高 4.3cm (全体 1/10 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (6 条/cm) ・内面 ケズリ ・ -	良好	φ 3mm 以下のチャート・長石含む	・51R6/6 桜色 ・51R6/6 桜色	・布留 0 ~ 1 式

団一番号 器種 出土場所	・口縁部 大きさと、調整・施文・体部 / 天井部 ・底部(脚台部・高台)	焼成	胎土	色調 ・外側 ・内面	備考
98 - 201 土師器 製 第1造構面 溝 2 5区	口径 15.9cm(口縁部残存1/6からの回転復原) 残存高 4.3cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (6条/cm) ・内面 ケズリ ・ -	良好	φ 3mm以下の石英・長石、φ 1mm以下の雲母含む	・10YR6/4に似る黄褐色 ・10YR7/4に似る黄褐色	・布留0~1式
98 - 202 土師器 高杯 溝 第1造構面 溝 2 5区	口径 17.8cm(口縁部残存1/4からの回転復原) 残存高 4.4cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (4条/cm) のちナデ ・内面 ハケ (8条/cm) のちナデ ・ -	良好	φ 3mm以下の長石、φ 1mm以下の雲母含む	・10YR6/4に似る黄褐色 ・10YR6/4に似る黄褐色	・庄内3~布留0式
98 - 203 土師器 高杯 溝 第1造構面 溝 2 5区	口径 16.3cm(口縁部残存1/3からの回転復原) 残存高 6.6cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 3mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	・5YR5/6明赤褐色 ・5YR5/6明赤褐色	・古墳時代中期 ・円板を埴法による脚台部接合
98 - 204 土師器 高杯 溝 第1造構面 溝 2 5区	口径 23.3cm(杯部ほぼ完形) 残存高 8.9cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ナデ・シボリメ ・内面 ナデのちハラミガキ ・ -	良好	φ 5mm以下の長石、φ 1mm以下の雲母含む	・5YR6/6 棕色 ・5YR6/6 棕色	・庄内3~布留0式 ・杯部外側に保付着 ・充填法による脚台部接合
98 - 205 土師器 高杯 溝 第1造構面 溝 2 5区	口径 - 残存高 5.8cm(全体1/3残存) 底径 10.5cm(瓶部残存1/2からの回転復原) ・ - ・ - ・外側 ハラミガキ ・内面 ハケ (5条/cm)・ケズリ・シボリメ	良好	φ 2mm以下の長石・雲母含む	・7.5YR6/4に似る褐色 ・10YR6/3に似る黄褐色	・庄内2~布留1式
98 - 206 須恵器 把手付 桶 第1造構面 溝 2 5区	口径 8.2cm(口縁部残存1/6からの回転復原) 器高 8.3cm(全体2/5残存) 底径 5.1cm ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ナデ ・内面 ナデ・ナデ ・外側 ハラ切りのちナデ ・内面 ナデ・ナデ	良好	密	・5Y6/1 灰色 ・5Y6/1 灰色	・TK216型式
99 - 207 韓式土器 製 第1造構面 溝 2 5区	口径 19.6cm(残存3/5からの回転復原) 残存高 32.6cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 タタキ (4条/cm) のちハラ状工具による沈線 ・内面 ナデ ・外側 タタキ (4条/cm) ・内面 ナデ	不良	密	・5Y7/1 灰白色 ・2.5Y7/1 灰白色	・TK216型式 ・韓式系土器
99 - 208 土師器 小形丸底 鉢 第1造構面 溝 2 6区	口径 - 残存高 4.5cm 底径 2.8cm(残存1/7からの回転復原) ・ - ・外側 ナデ・穿孔 ・内面 ナデ	良好	φ 2mm以下の長石・雲母含む	・10YR5/4に似る黄褐色 ・10YR6/4に似る黄褐色	・布留0~2式 ・底部中央に既成削穿孔あり ・底部外側に保付着
99 - 209 土師 小形丸底 鉢 第1造構面 溝 2 6区	口径 8.6cm(ほぼ完形) 器高 9.3cm 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (8条/cm) ・内面 ナデ ・外側 ハケ (8条/cm) ・内面 指頭圧痕	良好	φ 3mm以下の長石、φ 1mm以下の雲母含む	・7.5YR7/3に似る褐色 ・7.5YR7/3に似る褐色 ・10YR8/2灰白色	・布留2~布留4(新)式 ・口縁部~体部外側に煤付着

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部(脚台部・高台)	口縁部	焼成	胎土	色調	外面		備考
						・内面		
99 - 210 土師器 小形丸 底蓋 第1造構面 潟 2 6区	口径 9.6cm (残存4/5からの回転復原) 器高 10.0cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (6条/cm) ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ	良好	φ 2mm以下の長石・赤色斑粒・ 石英、11mm以下 の雲母含む	・7.5IR7/4に554・橙 色 ・7.5IR7/4に554・橙 色	・布留2～布留 4(新)式 ・体部～底外部 に煤付着			
99 - 211 庄内式土器 大 形二重口縁蓋 第1造構面 潟 2 6区	口径 39.0cm (口縁部残存1/12からの回転復原) 残存高 8.2cm 底径 - ・外面 ハケ (6条/cm) のちナデ ・内面 刺突文・刻目・ハケ (7条/cm) ・ナ デ ・一 ・一	良好	φ 3mm以下の長 石・雲母含む	・2.5I7/4浅黄色 ・2.5I7/3浅黄色	・庄内0～1式 ・西国東部の影 響を受ける			
100 - 212 土師器 薄 第1造構面 潟 2 6区	口径 17.3cm (口縁部残存3/4からの回転復原) 残存高 14.0cm (全体2/5残存) 底径 - ・外面 ナデ・ハケ (4条/cm) ・内面 ナデ ・外面 ハケ (4条/cm) ・ナデ ・内面 ケズリ ・一	良好	φ 4mm以下の長 石・石英含む	・10YR7/3に554・黄 褐色 ・2.5I7/3浅黄色	・庄内2～布留 0式 ・はねあげ口縁 ・口縁部～体部 内外面に黒斑 あり			
100 - 213 土師器 薄 第1造構面 潟 2 6区	口径 11.4cm (口縁部残存1/4からの回転復原) 器高 13.1cm (全体2/5残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (7条/cm) のちナデ ・内面 指頭压痕・ナデ ・外面 ハケ (7条/cm) のちナデ ・内面 指頭压痕・ナデ	良好	φ 3mm以下の長 石・雲母含む	・2.5I5/2暗灰黄色 ・2.5I7/3浅黄色	・土墳時代中期 ・脚部～外側部 に煤付着			
100 - 214 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 6区	口径 25.6cm (口縁部残存1/3からの回転復原) 残存高 8.5cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ・ヘラミガキ ・外面 ナデ・ケズリ ・内面 ナデ・ヘラミガキ ・一	良好	φ 3mm以下の長 石・雲母含む	・10YR7/6明黃褐色 ・10YR7/6明黃褐色	・布留3式～古 墳時代中期 ・はねあげ口縁 ・口縁部外面に 黒斑あり ・挿入付加法に よる脚台部接合			
100 - 215 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 6区	口径 13.4cm (口縁部残存1/2からの回転復原) 残存高 6.1cm (全体2/5残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ	良好	φ 5mm以下の長 石・赤色斑粒含 む	・7.5IR5/6明褐色 ・7.5IR5/6明褐色	・古墳時代前期 末～中期			
100 - 216 庄内式土器 高 杯 第1造構面 潟 2 6区	口径 21.6cm (杯部残存2/5からの回転復原) 残存高 8.6cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (6条/cm) ・ヘラミガキ ・内面 ヘラミガキ ・一	良好	φ 1mmの長石含 む	・7.5IR6/6褐色 ・10YR6/4に554・黄 褐色	・庄内3式 ・杯部外面に煤 付着 ・挿入付加法に よる脚台部接合			
100 - 217 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 6区	口径 20.8cm (口縁部残存1/12からの回転復 原) 残存高 5.8cm (全体1/10残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ・ハケ (5条/cm) ・内面 ナデ・ハケ (5条/cm)	良好	φ 3mm以下の長 石・チャート、 φ 1mm以下の雲 母含む	・7.5IR6/4に554・橙 色 ・10YR7/4に554・黄 褐色	・布留2～4 (古)式 ・充填法による 脚台部接合			
100 - 218 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 6区	口径 19.0cm (口縁部残存1/4からの回転復原) 残存高 6.5cm (全体1/3残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ヘラミガキ ・外面 ハケ (6条/cm) のちナデ ・内面 ハケ (6条/cm)	良好	φ 1mm以下の長 石・赤色斑粒含 む	・7.5IR6/6褐色 ・7.5IR6/6褐色	・布留2～4 (古)式			

団一番号 器種 出土場所	・口縁部 大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
100 - 219 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 6区	口径 23.6cm(口縁部残存 1/2からの回転復原) 残存高 8.9cm (全体 2/5残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 4mm 以下の長石含む	・5YR6/6 橙色 ・5YR6/4 にぶい褐色	・布留3式～古墳時代中期 ・はねあげ口縁 ・口縁端部に黒斑あり ・挿入付加法による脚台部接合
100 - 220 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 6区	口径 24.2cm(口縁部残存 1/5からの回転復原) 残存高 7.7cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ヘラミガキ ・内面 調整不明 ・ -	良好	φ 1mm の長石含む	・2.5YR5/8 明赤褐色 ・2.5YR5/8 明赤褐色	・布留3式～古墳時代中期 ・はねあげ口縁
100 - 221 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 6区	口径 23.5cm (残存 7/10からの回転復原) 器高 16.1cm 底径 12.7cm ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ヘラミガキ・ナデ ・内面 ナデ・シリメ	良好	φ 3mm 以下の長石・石英・赤色斑粒、φ 1mm 以下の雲母含む	・5YR6/6 橙色 ・5YR6/6 橙色	・布留3式～古墳時代中期 ・挿入付加法による脚台部接合
101 - 222 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 6区	口径 - 残存高 3.8cm 底径 9.8cm (残存 1/5からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ナデ・透孔 ・内面 ナデ・ケズリ	良好	φ 1mm 以下の長石・雲母含む	・10YR7/4 にぶい黄褐色 ・10YR7/4 にぶい黄褐色	・庄内0～布留2式 ・透孔 (円形) 2孔 ・脚台部外面に黒斑あり
101 - 223 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 6区	口径 - 残存高 6.0cm 底径 11.1cm (残存 2/5からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ナデ・透孔 ・内面 シシリメ・ケズリ・ナデ	良好	φ 3mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄褐色 ・10YR7/4 にぶい黄褐色	・庄内0～布留2式 ・透孔 (円形) 3孔 ・脚台部外面と脚台部外面に煤付着
101 - 224 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 6区	口径 - 残存高 6.5cm (全体 2/5残存) 底径 12.3cm (瓶部残存 1/12からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ナデ・透孔 ・内面 ナデ・ケズリ	良好	φ 2mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む	・2.5Y7/3 淡黄色 ・2.5Y7/3 淡黄色	・庄内0～布留2式 ・透孔 (円形) 3孔
101 - 225 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 6区	口径 - 残存高 7.2cm 底径 11.25cm (瓶部残存 1/12からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ヘラミガキ ・内面 ナデ・ケズリ	良好	φ 3mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR6/4 にぶい黄褐色 ・10YR6/3 にぶい黄褐色	・庄内0～布留2式
101 - 226 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 6区	口径 - 残存高 8.6cm 底径 10.8cm (残存 2/5からの回転復原) ・ - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ・ヘラミガキ ・内面 シシリメ・ケズリ・ナデ	良好	φ 4mm 以下の長石・赤色斑粒、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5YR6/6 橙色 ・5YR5/6 明赤褐色	・庄内0～布留2式
101 - 227 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 6区	口径 - 残存高 8.0cm 底径 12.2cm (残存 3/10からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ナデ ・内面 ケズリ・ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石・石英・雲母含む	・10YR5/4 にぶい黄褐色 ・10YR5/4 にぶい黄褐色	・庄内0～布留2式 ・脚台部・瓶部外面に煤付着 ・光沢法による脚台部接合
101 - 228 土師器 高杯 第1造横面 潟 2 6区	口径 - 残存高 7.9cm 底径 11.4cm(脚台部残存 1/6からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ナデ ・内面 ナデ・シリメ	良好	φ 2mm 以下の赤色斑粒・長石含む	・7.5YR5/6 明褐色 ・7.5YR5/6 明褐色	・庄内0～布留2式 ・脚台部外面に煤付着 ・脚台部外面と瓶部外面に黒斑あり ・挿入付加法による脚台部接合

図一一番号 器種 出土場所	・口縁部 大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
101-229 土師器 高杯 第1遺構面 溝 2 6 区	口径 - 残存高 7.1cm (全体1/3残存) 底径 8.6cm (脚台部残存5/6からの回転復原) ・ - ・ - ・外面部 ナデのちヘラミガキ 内面部 シボリメ・ケズリ・ナデ	良好	φ 1mm以下の長石・雲母含む	・10Y8/3にぶい黄 褐色 ・10Y8/3にぶい黄 褐色	・庄内0～布留 2式 ・光埴法による 脚台部接合
101-230 土師器 小形丸 底蓋 第1遺構面 溝 2 6 区	口径 8.2cm (口縁部残存1/4からの回転復原) 残存高 4.1cm (全体1/5残存) 底径 - ・外面部 ナデ 内面部 ナデ ・外面部 ナデ 内面部 ナデ ・ -	良好	φ 3mm以下の赤色斑粒・長石, φ 1mm以下の雲母含む	・7.5Y8/6褐色 ・7.5Y8/6褐色	・古墳時代中期
101-231 土師器 小形丸 底蓋 第1遺構面 溝 2 7 区	口径 - 残存高 7.0cm (残存1/3から回転復原) 底径 - ・外面部 ナデ 内面部 ナデ ・外面部 ケズリのちナデ 内面部 ナデ ・外面部 ナデ 内面部 ナデ	良好	φ 2mm以下の長石・赤色斑粒, φ 1mm以下の雲母含む	・10Y8/4にぶい黄 褐色 ・10Y8/4にぶい黄 褐色	・布留3～4式 ・口縁部・肩部 外面上に煤付着 ・体部外面上に黒 斑あり
101-232 土師器 小形丸 底蓋 第1遺構面 溝 2 7 区	口径 - 残存高 7.8cm (残存2/5から回転復原) 底径 - ・外面部 ナデ 内面部 ナデ ・外面部 ハケ (6条/cm) のちナデ 内面部 指頭圧痕 ・外面部 ハケ (6条/cm) のちナデ 内面部 ケズリ	良好	φ 3mm以下の長石・石英・赤色 斑粒含む	・10Y8/4にぶい黄 褐色 ・10Y8/4にぶい黄 褐色	・布留3～4式
101-233 土師器 小形丸 底蓋 第1遺構面 溝 2 7 区	口径 - 残存高 7.2cm (全体4/5残存) 底径 - ・外面部 ハケ (7条/cm) 内面部 ナデ ・外面部 指頭圧痕・ハケ (8条/cm) 内面部 指頭圧痕 ・外面部 指頭圧痕・ハケ (8条/cm) 内面部 ケズリ	良好	φ 1mm以下の赤色斑粒・雲母含 む	・7.5Y8/4にぶい褐 色 ・7.5Y8/4にぶい褐 色	・布留3～4式 ・口縁部内面・ 肩部外面上に煤 付着
101-234 庄内式土器 二 重口縁蓋 第1遺構面 溝 2 7 区	口径 - 残存高 6.5cm 底径 - ・外面部 ナデ・貼付突堤・波状文 内面部 ナデ ・ -	良好	φ 3mm以下の長石含む	・7.5Y8/6褐色 ・7.5Y8/5褐色	・庄内0～2式 ・頸部の貼付突 堤に刺突文 ・頸部内外面上に 煤付着
101-235 土師器 小形器 台 第1遺構面 溝 2 7 区	口径 11.6cm (残存2/5からの回転復原) 残存高 2.7cm 底径 - ・外面部 ナデ 内面部 ナデ ・外面部 ナデ・シボリメ 内面部 ナデ・ヘラミガキ ・ -	良好	φ 3mm以下の長石・石英・赤色 斑粒・雲母含む	・7.5Y8/6褐色 ・10Y8/4にぶい黄 褐色	・庄内3～布留 2式
101-236 土師器 壺 第1遺構面 溝 2 7 区	口径 13.1cm (口縁部完形) 残存高 11.1cm (残存1/3からの回転復原) 底径 - ・外面部 ハケ (4条/cm) のちナデ 内面部 ハケ (4条/cm) のちナデ ・外面部 ハケ (8条/cm) 内面部 ケズリ	良好	φ 3mm以下の長石・石英, φ 1 mm以下の雲母含 む	・2.5Y7/2灰黄色 ・2.5Y7/2灰黄色	・布留0～2式
101-237 土師器 小形二 重口縁蓋 第1遺構面 溝 2 7 区	口径 10.1cm (残存4/5からの回転復原) 器高 14.6cm 底径 - ・外面部 ナデ 内面部 ナデ ・外面部 ハケ (7条/cm) のちナデ 内面部 指頭圧痕・ケズリ・ナデ ・外面部 ハケ (7条/cm) のちナデ 内面部 ナデ	良好	φ 2mm以下の長石・雲母含む	・7.5Y8/4にぶい褐 色 ・7.5Y8/4にぶい褐 色	・布留3～4式 ・体部～底部外 面上に煤付着

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部(脚台部・高台)	口縁部	焼成	胎土	外側		備考
					・外側 ・内側	・内側	
102-238 土師器 瓢 第1造横面 清 2 7区	口径 15.1cm (全体 4/5 残存) 器高 25.6cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (7条/cm) のちナデ ・内面 ケズリ ・外側 ナデ ・内面 ケズリ	良好	φ 2mm 以下の長石・雲母含む	7.5IR6/6 棕色 7.5IR6/6 棕色	・庄内3～布留 0式 ・口縁部外側 ・体部～底部内 ・外側に煤付着		
102-239 土師器 短頭壺 第1造横面 清 2 7区	口径 15.1cm (完形) 器高 27.8cm 底径 6.6cm ・外面 ハケ (9条/cm) ・内面 ハケのちナデ ・外面 ナデのち指頭圧痕 ・内面 ナデ ・外面 ナデのち指頭圧痕 ・内面 ナデ	良好	φ 4mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む	7.5IR7/6 棕色 7.5IR7/6 棕色	・庄内3～布留 0式 ・口縁部外側と 体部～底部内 ・外側に煤付着		
103-240 土師器 瓢 第1造横面 清 2 7区	口径 13.3cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 残存高 13.1cm (全体 1/3 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (4条/cm) ・内面 ケズリのちナデ ・-	良好	φ 2mm 以下の長石・赤色斑粒含む	10YB6/4 にぶい黄 棕色 10YB6/4 にぶい黄 棕色	・布留 0～2 式		
103-241 土師器 高杯 第1造横面 清 2 7区	口径 16.4cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 残存高 5.4cm (全体 1/5 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (8条/cm) ・内面 ナデ ・-	良好	φ 1mm 以下の赤色斑粒・長石含む	10YB6/4 にぶい黄 棕色 10YB6/4 にぶい黄 棕色	・布留 2～3 式		
103-242 土師器 高杯 第1造横面 清 2 7区	口径 - 残存高 7.8cm 底径 9.9cm (残存 2/5 からの回転復原) ・ - ・外面 ヘラミガキ ・内面 調整不明 ・外面 ヘラミガキ・ナデ ・内面 シボリメ・ケズリ・ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石・石英・雲母含む	7.5IR6/4 にぶい黄 棕色 10YB6/4 にぶい黄 棕色	・庄内 0～布留 2式 ・挿入付加法に よる脚台部接合		
103-243 土師器 高杯 第1造横面 清 2 7区	口径 16.4cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 器高 11.9cm (全体 2/3 残存) 底径 10.2cm ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ・ハケ (10条/cm) ・内面 ナデ ・外面 ハケ (10条/cm) のちヘラミガキ・ヘ ラミガキ・指頭圧痕・ナデ ・内面 ナデ・ケズリ	良好	φ 1mm 以下の長石・雲母含む	10YB7/3 にぶい黄 棕色 2.5Y7/3 浅黄色	・布留 2～3 式 ・口縁部・瓶部 外側に黒斑あり		
103-244 土師器 高杯 第1造横面 清 2 7区	口径 - 残存高 11.2cm 底径 10.9cm (残存 3/5 からの回転復原) ・ - ・外面 ナデ ・内面 ナデ・ヘラミガキのちハケ (9条/ cm) ・外面 ヘラミガキのちハケ (9条/cm) ・ヘラ ミガキ ・内面 ナデ・ヘラミガキ・ケズリ	良好	φ 1mm 以下の長石・雲母含む	10YB6/4 にぶい黄 棕色 10YB6/4 にぶい黄 棕色	・布留 2～3 式		
103-245 土師器 高杯 第1造横面 清 2 7区	口径 16.8cm (全体 3/4 残存) 器高 13.2cm 底径 11.8cm ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ・ヘラミガキ ・内面 ナデ ・外面 ヘラミガキ・透孔 ・内面 シボリメ・ナデ・ケズリ	良好	φ 4mm 以下の長石、φ 1mm 以下の 雲母含む	7.5IR7/6 棕色 7.5IR6/6 棕色	・古墳時代前期 末～中期 ・透孔 (円形) 3孔 ・杯部外側に黑 斑あり		

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部(脚台部・高台)	・口縁部		焼成	胎土	・外側 ・内面		備考
103 - 246 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 7区	口径 25.3cm (残存 1/3からの回転復原) 器高 17.0cm 底径 14.2cm ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部	良好	φ 4mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む			5YR6/6 横色 5YR6/6 横色		・布留3式～古墳時代中期 ・未貫通の透孔(円形)3孔残る ・杯部内面に煤付着
104 - 247 土師器 小形丸 政道 第1造構面 潟 2 8区	口径 7.4cm (口縁部残存 1/6からの回転復原) 残存高 4.3cm (全体 1/7残存) 底径 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部	良好	φ 2mm 以下の長石・雲母含む			10YR6/4 にぶい黄 横色 10YR6/4 にぶい黄 横色		・布留3式～古墳時代中期
104 - 248 土師器 裸 第1造構面 潟 2 8区	口径 13.2cm (口縁部残存 1/4からの回転復原) 残存高 6.2cm (全体 1/5残存) 底径 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部	良好	φ 2mm 以下の長石・雲母含む			2.5Y7/3 淡黄色 7.5YR7/4 にぶい黄 横色		
104 - 249 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 8区	口径 15.0cm (杯部のみ完形) 器高 5.2cm 底径 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部	良好	φ 1mm の長石・雲母含む			5YR6/6 横色 5YR6/6 横色		・古墳時代前期 ・中期 ・口縁部内外面に煤付着
104 - 250 土師器 小形の 壺 第1造構面 潟 2 8区	口径 7.6cm (ほぼ完形) 器高 9.8cm 底径 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部	良好	φ 2mm 以下の長石・石英・雲母含む			5YR7/6 横色 5YR7/6 横色		・庄内3～布留 0式 ・口縁部内面と 口縁部～底部 外面に煤付着
104 - 251 弥生土器 裸 第1造構面 潟 2 8区	口径 残存高 7.1cm (全体 1/3残存) 底径 4.2cm (底部ほぼ完形) ・ ・ ・ ・外面部 タタキ (3条/cm)・ナデ ・内面部 ナデ・クモの巣状ハケ (5条/cm)	良好	φ 2mm 以下の長石・雲母含む			10YR5/3 にぶい黄 横色 10YR6/4 にぶい黄 横色		・畿内第V様式 ・体部外面上に 煤付着
104 - 252 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 8区	口径 17.8cm (杯部 9/10残存) 残存高 7.1cm (全体 1/3残存) 底径 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部	良好	φ 1mm の長石含む			7.5YR7/4 にぶい黄 横色 5YR6/4 にぶい黄 横色		・古墳時代前期 末～中期 ・挿入付加法による 脚台部接合
104 - 253 土師器 高杯 第1造構面 潟 2 9区	口径 残存高 6.4cm 底径 11.8cm (脚台部残存 3/5からの回転復原) ・ ・ ・ ・外面部 ナデ・ヘラミガキ (不明瞭) ・内面部 ナデ・ヘラミガキ (不明瞭)	不良	φ 3mm 以下の長石・赤色斑紋含む			7.5YR6/6 横色 7.5YR6/6 横色		・布留2～3式 ・瓶部内外面に 煤付着 ・接合法による 脚台部接合
104 - 254 庄内式土器 広 口壺 第1造構面 潟 2 9区	口径 13.6cm (口縁部残存 1/4からの回転復原) 残存高 15.6cm (全体 2/5残存) 底径 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部 ・外面部 ・内面部	良好	φ 2mm 以下の長石含む			7.5YR7/4 にぶい黄 横色 10YR7/4 にぶい黄 横色		・庄内0～3式 ・体部外面上に 煤付着

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
104-255 土師器 小形丸 底蓋 第1造構面 潟 2 10区	口径 10.8cm (ほぼ完形) 器高 7.5cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ケズリのちナデ ・内面 ナデ ・外面 ケズリのちナデ ・内面 ナデ	良好	φ 5mm 以下の長石・赤色斑粒含む	・10YR7/2 にぶい黄 橙色 ・10YR7/2 にぶい黄 橙色	・布留3~4式 ・体部外面上に煤 付着
104-256 弥生土器 踏台 第1造構面 潟 2 10区	口径 - 残存高 7.1cm 底径 10.1cm (脚台部残存 1/3からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ヘラナデ ・内面 ハケのちナデ・シボリメ	良好	φ 3mm 以下の長石・φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5YR6/4 にぶい相 色 ・10YR6/4 にぶい黄 橙色	・畿内V様式 ・透孔 (円形) 1孔
104-257 土師器 小形丸 底蓋 第1造構面 潟 2 11区	口径 7.4cm (口縁部残存 1/5からの回転復原) 器高 8.5cm (全体 4/5 残存) 底径 4.2cm ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石・雲母含む	・10YR7/2 にぶい黄 橙色～10YR7/4 にぶ い黄橙色 ・10YR7/2 にぶい黄 橙色～10YR7/4 にぶ い黄橙色	・古墳時代中期 ・口縁部～底部 外面上・口縁部 ～体部内面に 煤付着 ・体部外面上に 黒斑あり
104-258 庄内式土器 潟 第1造構面 潟 2 11区	口径 10.5cm (口縁部残存 1/2からの回転復原) 残存高 7.9cm (全体 1/3 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (条数不明) のちナデ ・内面 ハラミガキ (不明跡) ・ -	良好	φ 3mm 以下の長石・石英・赤色 斑粒含む	・2.5YR6/3 にぶい黄 色 ・2.5YR6/3 にぶい黄 色	・庄内0~2式 ・口縁部外面上 と体部内面に 煤付着
104-259 弥生土器 高杯 第1造構面 潟 2 11区	口径 11.4cm (口縁部残存 1/4からの回転復原) 残存高 7.1cm 底径 - ・外面 ナデ・ハラミガキ ・内面 ナデ・ハラミガキ ・外面 ハラミガキ ・内面 ハラミガキ ・ -	良好	φ 4mm 以下の長石含む	・10YR6/4 にぶい黄 橙色 ・10YR6/4 にぶい黄 橙色	・畿内V様式 後半～庄内0 式 ・橢形高杯 ・杯部内外面上 と脚柱部内面に 黒斑あり
104-260 土師器 小形器 台 第1造構面 潟 2 11区	口径 - 残存高 5.3cm (全体 1/2 残存) 底径 11.4cm (脚台部残存 1/2からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ヘラ状工具によるナデ・ハラミガキの ちナデ ・内面 シボリメ・ハラミガキのちナデ	良好	φ 2mm 以下の長石・φ 1mm 以下の 雲母含む	・10YR6/4 にぶい黄 橙色 ・10YR6/4 にぶい黄 橙色	・布留1~2式 ・脚部外面上に 煤付着 ・瓶底部外面上 に黒斑あり
104-261 土師器 大形高 杯 第1造構面 潟 2 11区	口径 24.8cm (杯部残存 2/5からの回転復原) 残存高 8.7cm 底径 - ・外面 ナデ・ハラミガキ ・内面 ナデ・ハラミガキ ・外面 ハラミガキのちナデ・ハケ (6 条/cm) のちナデ ・内面 ハラミガキのちナデ ・ -	良好	φ 2mm 以下の長石・赤色斑粒・ 雲母含む	・7.5YR7/6 橙色 ・7.5YR7/4 にぶい相 色	・布留3式～ 古墳時代前期 (新)
105-1 畿文土器 深鉢 第1造構面 南 4区 潟9	口径 13.4cm (口縁部残存 1/10からの回転復 原) 残存高 2.3cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 1mm 以下の長石・雲母含む	・10YR5/2 灰黄褐色 ・10YR4/4 橙色	・畿文時代後期 ・口縁部外面上 に畿文 (LR) を 施す
105-2 弥生土器 壶 第1造構面 南 4区 潟9	口径 12.8cm (口縁部残存 1/6からの回転復原) 残存高 1.8cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 1mm 以下の雲母・長石・赤色 斑粒含む	・10YR5/2 灰黄褐色 ・10YR6/3 にぶい黄 橙色	・畿内V様式 ・外面上に煤付着

団一番号 器種 出土場所	・口縁部 大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部（脚部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外側 ・内面	備考
105-3 土師器 器種不明 第1遺構面 南 4区 溝9	口径 - 残存高 2.8cm (脚柱部破片) 底径 - ・ - ・ 外面 ナデ・ハケ (7条/cm) 内面 -	良好	φ 3mm以下の長石・石英・赤色斑粒含む	・7.5IR8/3 浅黄褐色 ・ -	・土製品の可能性
105-4 弥生土器 高杯 第1遺構面 南 4区 溝9	口径 - 残存高 1.6cm 底径 5.9cm (根据部残存1/2からの回転復原) ・ - ・ 外面 ナデ・ヘラミガキ・透孔 内面 ナデ	良好	φ 1mm以下の長石・赤色斑粒含む	・7.5IR7/4にぶい褐色 ・2.5Y7/3 浅黄色	・畿内第V様式 ・透孔（円形） 2孔
105-5 須恵器 瓢 第1遺構面 南 4区 溝9	口径 - 残存高 5.5cm 底径 18.8cm (底部残存1/10からの回転復原) ・ - ・ 外面 タタキ (3条/cm)・回転ヘラケズリ 内面 指頭圧痕・ヨコナデ	良好	密	・6R7/1 明赤灰色 ・5R6/1 青灰色	・古墳時代中期 ・クロコ回転方 向右回り
106-1 土製品 土管 第1遺構面 沿 路1	口径 8.8cm (頸部残存1/4からの回転復原) 残存高 4.2cm 底径 - ・ - ・ 外面 ナデ 内面 ナデ	良好	φ 2mm以下の長石・赤色斑粒・雲母含む	・10Y86/3にぶい黄褐色 ・10Y86/4にぶい黄褐色	・近世以降
106-2 瓦器 楠 第1遺構面 沿 路1	口径 14.6cm (残存1/5からの回転復原) 器高 3.2cm 底径 3.5cm ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 指頭圧痕 内面 ヘラミガキ ・外面 ナデ・私付高台 内面 ヘラミガキ	良好	密	・N3/0 暗灰色 ・N4/0 灰色	・13世紀後半 ・大和型椀
106-3 弥生土器 瓢 第1遺構面 沿 路1	口径 15.4cm(口縁部残存1/5からの回転復原) 残存高 3.9cm 底径 - ・外面 ナデ・刻目・指頭圧痕のちナデ 内面 ナデ・ヘラミガキ・ナデ ・ -	良好	φ 1mmの石英・長石・雲母含む	・10Y87/2にぶい黄褐色 ・10Y85/8 黄褐色 ・10Y86/3にぶい黄褐色	・畿内第V様式 後半
106-4 土師器 瓢 第1遺構面 沿 路1	口径 8.7cm (口縁部残存1/2からの回転復原) 器高 12.5cm (全体1/2残存) 底径 - ・外面 ナデ 内面 ハケ (7条/cm)のちナデ ・外面 ハケ (7条/cm) 内面 ヘラ状工具によるナデ ・外面 ハケ (7条/cm) 内面 ヘラ状工具によるナデ	良好	φ 5mm以下の長石・石英・赤色斑粒、φ 1mm以下の雲母含む	・10Y87/6 明黄褐色 ・7.5IR7/6 橙色	・布留3式～古 墳時代前期末 ・口縁部～体部 外側・体部～ 底部内面に煤 付着
106-5 弥生土器 瓢 第1遺構面 沿 路1	口径 19.0cm (残存1/10以下からの回転復原) 残存高 6.7cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ナデ ・ -	良好	φ 2mm以下の長石・石英・雲母含む	・10Y84/6 鶴色 ・2.5Y6/3にぶい黄褐色	・畿内第V様式 後半
106-6 弥生土器 瓢 第1遺構面 沿 路1	口径 14.0cm (残存1/7からの回転復原) 残存高 3.4cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 ハケ (7条/cm) 内面 ハケ (7条/cm)	良好	φ 2mm以下の長石・石英・雲母含む	・10Y87/6 明黄褐色 ・10Y87/4にぶい黄褐色	・畿内第V様式 後半

団一番号 器種 出土場所	・口縁部 大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（腰部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
106 - 7 土師器 裸 第1造構面 流 路1	口径 13.4cm(口縁部残存1/3からの回転復原) 残存高 5.5cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ・ハケ(6条/cm) ・外面 ハケ(7条/cm) ・内面 指頭圧痕・板ナデ -	良好	φ 2mm以下の石英・長石・雲母含む	・2.5Y6/3にぶい黄色 ・2.5Y7/3浅黄色	・古墳時代中期
106 - 8 土師器 裸 第1造構面 流 路1	口径 12.9cm(ほぼ完形) 器高 16.1cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ(14条/cm) ・内面 ナデ ・外面 ハケ(14条/cm) ・内面 ナデ	良好	φ 2mm以下の長石・雲母含む	・10Y8E/4にぶい黄色 ・10Y8S/3にぶい黄色	・古墳時代中期 ・口縁部外面、体部～底部内外面に煤付着
106 - 9 土師器 裸 第1造構面 流 路1	口径 19.8cm(口縁部残存1/3からの回転復原) 残存高 4.0cm 底径 - ・外面 ハケ(6条/cm)のちナデ・工具痕 ・内面 ハケ(8条/cm) - -	良好	φ 3mm以下の長石・石英・雲母・赤色斑粒含む	・7.5R8/3にぶい褐色 ・10Y8E/4にぶい黄色	・古墳時代中期
106 - 10 土師器 裸 第1造構面 流 路1	口径 19.0cm(口縁部残存1/10からの回転復原) 残存高 5.2cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ - -	良好	φ 2mm以下の長石・石英・赤色斑粒・雲母含む	・10Y8E/3にぶい黄色 ・10Y8S/3にぶい黄色	・古墳時代中期
106 - 11 弥生土器 裸 第1造構面 流 路1	口径 14.8cm(残存1/10からの回転復原) 残存高 5.8cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 タタキ(2条/cm) ・内面 板ナデ -	良好	φ 3mm以下の長石・石英・赤色斑粒・雲母含む	・7.5Y8E/6褐色 ・5Y8T/6褐色～7.5Y8T/4にぶい褐色	・畿内第V様式 後半から庄内式 ・口縁部外面上に煤付着
107 - 12 庄内式土器 小形裸 第1造構面 流 路1	口径 9.0cm(残存1/8からの回転復原) 残存高 4.3cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 指頭圧痕 ・内面 ナデ -	良好	φ 3mm以下の長石・雲母含む	・10Y8E/4にぶい黄色 ・10Y8S/4にぶい黄色	・庄内0～3式
107 - 13 弥生土器 鉢か 裸 第1造構面 流 路1	口径 - 残存高 1.5cm 底径 3.6cm(底部充形) - - ・外面 ナデ ・内面 ナデ	良好	φ 3mm以下の長石・雲母含む	・7.5Y8E/6明褐色 ・10Y8E/3にぶい黄色	・畿内第V様式
107 - 14 弥生土器 裸 第1造構面 流 路1	口径 - 残存高 2.3cm 底径 3.8cm(底部残存1/4からの回転復原) - - ・外面 タタキ(3条/cm) ・内面 ナデ	良好	φ 3mm以下の長石・石英・雲母含む	・5Y8T/4にぶい褐色 ・2.5Y5/2暗灰黄色	・畿内第V様式
107 - 15 弥生土器 鉢か 蓋 第1造構面 流 路1	口径 - 残存高 2.9cm 底径 4.4cm(底部残存1/4からの回転復原) - - ・外面 ナデ・指頭圧痕 ・内面 板ナデ	良好	φ 3mm以下の長石・石英・雲母含む	・10Y8E/3にぶい黄色 ・10Y8S/3にぶい黄色	・畿内第V様式

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚部部・高台）	口縁部	焼成	胎土	色調 ・外側 ・内面	備考
107-16 弥生土器 豪 第1遺構面 流 路1	口径 - 残存高 9.0cm 底径 9.6cm（底部はほぼ完形） ・ - ・ - ・ 外面 板ナデ・工具痕 内面 板ナデ・指顎圧痕	良好	φ 4mm 以下の長 石・石英・雲母 含む	10Y86/2 灰黄褐色 10Y86/2 灰黄褐色	・ 譲内第III～IV 様式	
107-17 土器類 小形鉢 第1遺構面 流 路1	口径 13.8cm（口縁部残存1/8からの回転復原） 残存高 3.4cm 底径 - ・ - ・ 内面 ナデ ・ 外面 ナデ ・ 内面 ハケ（4条/cm） ・ -	良好	φ 3mm 以下の長 石・石英含む	5Y8/1 灰白色 5Y7/2 灰白色	・ 譲内第III～IV 様式	
107-18 土器類 小形丸 鉢 第1遺構面 流 路1	口径 10.2cm（口縁部残存1/8からの回転復原） 残存高 6.3cm 底径 - ・ - ・ 外面 ナデ ・ 内面 ナデ ・ 外面 ナデ ・ 内面 ナデ ・ -	良好	φ 1mm の長石・ 赤色斑粒含む	5Y86/6 橙色～ 7.5YR5/1 橙褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色～ 7.5YR4/1 橙褐色	・ 布留0～2式 ・ 頸部・体部外 面と体部内面 に焼付着	
107-19 土器類 大形鉢 第1遺構面 流 路1	口径 20.4cm（残存1/6からの回転復原） 残存高 7.7cm 底径 - ・ - ・ 外面 ナデ ・ 外面 ハケのちナデ ・ 指顎圧痕・ナデ ・ -	良好	φ 1mm 以下の長 石・赤色斑粒・ 雲母含む	7.5YR6/8 橙色 7.5YR6/6 橙色	・ 古墳時代中期 ・ 体部外面上に保 付着	
107-20 土器類 大形鉢 第1遺構面 流 路1	口径 33.8cm（残存1/10からの回転復原） 残存高 7.8cm 底径 - ・ - ・ 外面 ナデ・指顎圧痕 ・ 内面 ハケのちナデ ・ 外面 ハケ（6条/cm） ・ -	良好	φ 2mm 以下の長 石・雲母含む	10Y84/6 橙色 10Y85/8 黄褐色	・ 布留2～3式	
107-21 土器類 樽 第1遺構面 流 路1	胴径 25.6cm（残存1/5からの回転復原） 残存高 12.5cm 底径 - ・ - ・ 外面 ナデ・把手部：ナデ・ケズリ ・ 内面 ナデ・織維痕 ・ -	良好	φ 3mm 以下の長 石・雲母含む	7.5YR7/6 橙色 7.5YR6/6 橙色	・ 古墳時代中期	
107-22 土器類 高杯 第1遺構面 流 路1	口径 - 残存高 9.5cm 底径 11.0cm（脚部残存1/5からの回転復原） ・ - ・ - ・ 外面 ナデ・ヘルミガキ 内面 ナデ・ヘルミガキ ・ -	良好	φ 1mm 以下の長 石・赤色斑粒含 む	10Y87/4 にぶい黃 橙色 10Y87/4 にぶい黃 橙色	・ 古墳時代中期	
107-23 土器類 高杯 第1遺構面 流 路1	口径 - 残存高 6.3cm 底径 8.8cm（脚部残存1/2からの回転復原） ・ - ・ - ・ 外面 ナデ・ハケ（15条/cm）のちナデ・シボリメ 内面 ナデ・ハケ（13条/cm）のちナデ・シボリメ ・ 指顎圧痕	良好	φ 1mm 以下の長 石・赤色斑粒含 む	7.5YR5/6 明褐色 5Y86/6 橙色	・ 古墳時代中期	
107-24 土器類 高杯 第1遺構面 流 路1	口径 - 残存高 7.0cm（全体1/2残存） 底径 - ・ - ・ 外面 ナデ 内面 ナデ ・ 外面 ナデ・ヘルミガキ・透孔 内面 ケズリ・ナデ ・ -	良好	φ 4mm 以下の長 石・石英・赤色 斑粒含む	7.5YR6/4 にぶい橙 色 5Y86/6 橙色	・ 古墳時代中期 ・ 透孔（円形） 2孔	
107-25 土器類 高杯 第1遺構面 流 路1	口径 - 残存高 6.9cm（残存2/5からの回転復原） 底径 - ・ - ・ 外面 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ ・ 外面 ケズリのちヘルミガキ 内面 シボリメ	良好	φ 2mm 以下の長 石・赤色斑粒含 む	10Y86/4 にぶい黃 橙色 10Y84/6 橙色	・ 古墳時代中期	

固一番号 器種 出土場所	・口縁部 大きさと、調整・施文・体部 / 天井部 ・底部(脚台部・高台)	焼成	胎土	色調 ・外側 ・内面	備考
108 - 26 土師器 高杯 第1遺構面 滅 路1	口径 12.8cm (残存 1/5 からの回転復原) 現高 4.1cm 底径 ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ナデ ・内面 -	良好	φ 2mm 以下の長 石・赤色斑点含 む	・7.5IR6/6 棕色 ・7.5IR6/8 棕色	・古墳時代中期 後半 ・楕円高杯
108 - 27 土師器 高杯 第1遺構面 滅 路1	口径 23.5cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 現高 5.4cm 底径 ・外側 ナデ ・内面 ヘラミガキ ・外側 ナデ・ケズリ ・内面 ヘラミガキ -	良好	φ 3mm 以下の長 石・石英・雲母 含む	・2.5I5/2 桃灰黄色 ・10YR6/3 にぶい黄 ・棕色	・畿内第V様式 ・口縁部外側に 模付有
108 - 28 土師器 杯身 第1遺構面 滅 路1	口径 13.4cm (ほぼ完形) 器高 4.2cm 底径 ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ヘラケズリ ・内面 ナデ ・外側 ヘラケズリ ・内面 ナデ	良好	φ 1mm 以下の長 石・赤色斑点・ 雲母含む	・7.5IR6/4 にぶい棕 色 ・7.5IR6/6 棕色	・古墳時代中期 ～後期前半 ・底部外側に ヘラ記号(×)あり
108 - 29 土師器 杯身 第1遺構面 滅 路1	口径 12.0cm (完形) 器高 3.6cm 底径 ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ヘラケズリ ・内面 ナデ ・外側 ヘラケズリ ・内面 ナデ	良好	φ 1mm 以下の長 石含む	・5YR5/8 明赤褐色 ・5YR5/8 明赤褐色	・古墳時代中期 ～後期前半
108 - 30 土師器 杯身 第1遺構面 滅 路1	口径 11.2cm (残存 2/5 からの回転復原) 器高 3.9cm 底径 ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ヘラケズリ ・内面 ナデ ・外側 ヘラケズリ ・内面 ナデ	良好	φ 1mm 以下の長 石含む	・5YR6/8 棕色～ 7.5YR6/6 棕色 ・7.5YR6/8 棕色	・古墳時代中期 ～後期前半
108 - 31 乳頭器 小形壺 第1遺構面 滅 路1	口径 10.4cm (残存 1/5 からの回転復原) 器高 4.2cm 底径 ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 回転ヘラケズリ ・内面 ナデ	良好	密	・5YR8/1 灰白色 ・5Y7/1 灰白色	・古墳時代後期 ・クロ回転方 向右回り
108 - 32 乳頭器 有蓋高 杯蓋 第1遺構面 滅 路1	口径 12.5cm (全体 9/10 残存) 器高 5.2cm 底径 ・外側 ヨコナデ ・内面 ヨコナデ ・外側 回転ヘラケズリ ・内面 指頭圧痕 -	良好	密	・5B8/1 青灰色 ・5B8/1 青灰色～ 5B6/1 赤灰色	・TK10 型式 ・ロクロ回転方 向不明
108 - 33 乳頭器 杯蓋 第1遺構面 滅 路1	口径 15.6cm (口縁部残存 1/3 からの回転復原) 器高 3.5cm 底径 ・外側 ヨコナデ ・内面 ヨコナデ ・外側 回転ヘラケズリ ・内面 ヨコナデ -	良好	密	・N7/0 灰白色～N5/0 灰色 ・10Y7/1 灰白色	・TK10 型式 ・ロクロ回転方 向右回り
108 - 34 乳頭器 杯蓋 第1遺構面 滅 路1	口径 13.6cm (ほぼ完形) 器高 3.8cm 底径 ・外側 ハケ (5 条/cm)・ヨコナデ ・内面 ヨコナデ ・外側 回転ヘラケズリ ・内面 指頭圧痕・ナデ -	良好	密	・N7/0 灰白色 ・N7/0 灰白色	・TK43 型式 ・打ち大きさによ る焼成後穿孔 あり ・ロクロ回転方 向右回り

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部 / 天井部 ・底部(脚部・高台)	口縁部 大きさと、調整・施文・体部 / 天井部 ・底部(脚部・高台)	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
108 - 35 須恵器 杯蓋 第1造構面 滅 路1	口径 15.4cm (残存 1/3 からの回転復原) 残存高 3.6cm 底径 - ・外面 ヨコナデ ・内面 ヨコナデ ・外面 回転ヘラケズリ ・内面 ナデ ・ -	良好 密			・N7/0 灰白色 ・N7/0 灰白色	・TK10型式 ・ロクロ回転方 向右回り
108 - 36 須恵器 杯蓋 第1造構面 滅 路1	口径 18.0cm (残存 2/5 からの回転復原) 残存高 4.7cm 底径 - ・外面 ハケ (8 条/cm)・ヨコナデ・平行タタ キ ・内面 ヨコナデ ・外面 回転ヘラケズリ ・内面 ヨコナデ ・ -	良好 密			・N7/0 灰白色～N5/0 灰色 ・10Y7/1 灰白色	・TK10型式 ・ロクロ回転方 向右回り
108 - 37 土師器 杯蓋 第1造構面 滅 路1	口径 10.4cm (口縁部残存 1/3 からの回転復原) 器高 3.8cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ	良好 $\phi$ 4mm 以下の長 石・赤色斑粒・ 雲母含む			・7.5Y7/8 黄褐色 ・7.5Y7/6 橙色	・7世紀中葉 ・TK217型式
108 - 38 須恵器 杯蓋 第1造構面 滅 路1	口径 13.6cm (残存 1/5 からの回転復原) 残存高 3.5cm 底径 - ・外面 ヨコナデ ・内面 ヨコナデ ・外面 回転ヘラケズリ ・内面 ヨコナデ ・ -	良好 密			・7.5Y7/1 灰白色 ・10Y7/1 灰白色	・TK10型式 ・ロクロ回転方 向左回り
108 - 39 須恵器 杯身 第1造構面 滅 路1	口径 12.4cm (残存 1/7 からの回転復原) 残存高 3.6cm 底径 - ・外面 ヨコナデ ・内面 ヨコナデ ・ -	良好 密			・N7/0 灰白色 ・7.5Y7/1 灰白色	・TK10型式 ・ロクロ回転方 向右回り
108 - 40 須恵器 杯身 第1造構面 滅 路1	口径 13.6cm (口縁部残存 1/3 からの回転復原) 器高 4.6cm 底径 - ・外面 ヨコナデ ・内面 ヨコナデ ・外面 回転ヘラケズリ ・内面 当て具痕 ・ -	良好 密			・10G7/1 明緑灰色 ・N6/0 灰色	・TK10型式 ・ロクロ回転方 向右回り
108 - 41 須恵器 蓋 第1造構面 滅 路1	口径 11.2cm (口縁部残存 1/5 からの回転復原) 残存高 7.1cm 底径 - ・外面 ヨコナデ ・内面 ヨコナデ ・外面 ヨコナデ ・内面 指頭压痕 ・ -	良好 密			・N5/0 灰色 ・N5/0 灰色	・TK10型式 ・ロクロ回転方 向右回り
108 - 42 須恵器 器台 第1造構面 滅 路1	口径 39.0cm (全体 1/2 残存) 残存高 13.2cm 底径 - ・外面 ナデ・ナデ ・内面 ナデ ・外面 凸彫 (2本1組が2組)・波状文 (4条)・ 平行タタキ (4条/cm) ・内面 ナデ・ナデ ・ -	良好 密			・N3/0 暗灰色 ・N4/0 灰色～5RP5/1 紫灰色	・古墳時代後期 後半 ・杯部内面に自 然釉
109 - 1 弥生土器 蓋 第1造構面 滅 路2	口径 31.4cm (口縁部残存 1/10 以下からの回 転復原) 残存高 4.1cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 工具痕・ナデ ・内面 ハケのちナデ ・ -	良好 $\phi$ 2mm 以下の長 石・石英、 $\phi$ 1 mm 以下の雲母含 む			・10Y8/2 淡黄褐色 ・10Y8/3 に赤い黃 褐色	・畿内第III～IV 様式 ・口縁部外面に 黒斑あり

図一一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部(脚部・高台)	口縁部 大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部(脚部・高台)	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
109-2 弥生土器 瓦 第1遺構面 流 路2	口径 10.4cm (頭部残存 1/4 からの回転復原) 残存高 5.4cm 底径 - ・外面 ハケ (10 条/cm) 内面 ナデ ・外面 ハケのちナデ 内面 指顎圧痕 -	良好	φ 2mm 以下の長石・石英・雲母含む	2.5Y7/2 灰黄色 2.5Y6/1 黄灰色	-	・畿内第V様式
109-3 弥生土器 瓦 第1遺構面 流 路2	口径 - 残存高 15.7cm 底径 4.2cm (残存 2/3 からの回転復原) - ・外面 ナデ 内面 指顎圧痕・ナデ・板ナデ・ハケ (8 条/cm) ・外面 指顎圧痕・ナデ 内面 ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石・石英・赤色斑点、φ 1mm 以下の雲母含む	7.5Y7/4 に 5Y4 橙色 7.5Y7/4 に 5Y4 橙色	-	・畿内第V様式
109-4 弥生土器 高杯 第1遺構面 流 路2	口径 - 残存高 6.0cm 底径 4.6cm (残存 1/3 からの回転復原) - - ・外面 ケズリのちナデ 内面 シボリメ・ケズリ	良好	φ 2mm 以下の長石・石英・雲母含む	5Y6/8 明赤褐色 5Y6/8 明赤褐色	-	・畿内第V様式の新しい段階 ・脚柱部外間に煤付着
109-5 弥生土器 高杯 第1遺構面 流 路2	口径 - 残存高 8.4cm 底径 13.8cm (残存 1/4 からの回転復原) - - ・外面 ケズリのちヘラミガキ 内面 ナデ・シボリメ	良好	φ 2mm 以下の長石・赤色斑点含む	5Y7/8 橙色 5Y7/8 橙色	-	・畿内第V様式の古い段階
109-6 弥生土器 瓦または甕 第1遺構面 流 路2	口径 - 残存高 2.8cm 底径 5.1cm (底部残存 3/4 からの回転復原) - - ・外面 タタキのちナデ・指顎圧痕 内面 ナデ	良好	φ 3mm 以下の長石・φ 1mm 以下の雲母含む	2.5Y7/3 浅黄色 10Y2/1 黒	-	・畿内第V様式 ・底部内面に黒斑あり
109-7 弥生土器 瓦または甕 第1遺構面 流 路2	口径 - 残存高 2.8cm 底径 4.0cm (底部充形) - - ・外面 指顎圧痕? (調整不明) 内面 クモの巣状ハケ (7 条/cm)・ナデ	良好	φ 3mm 以下の長石・石英・φ 1mm 以下の雲母含む	2.5Y7/2 灰黄色 10Y6/3 に 5Y4 黄褐色	-	・畿内第V様式
109-8 眉済器 杯身 第1遺構面 流 路2	口径 12.5cm (残存 1/8 からの回転復原) 残存高 4.6cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ヨコナデ ・外面 ヨコナデ・回転ヘラケズリ 内面 ヨコナデ -	良好	密	N6/0 灰 N6/0 灰	-	・TK23 型式 ・ロクロ回転方向右回り
117-1 弥生土器 小形 瓦 第2遺構面 北 1区 遺構面上	口径 7.1cm (残存 4/5 からの回転復原) 器高 9.1cm 底径 3.6cm ・外面 ハケ (8 条/cm) のちナデ 内面 ハケ (8 条/cm) のちナデ ・外面 ハケ (8 条/cm) のちナデ 内面 ナデ ・外面 ナデ・工具痕 内面 ナデ	良好	φ 4mm 以下の長石・石英・φ 1mm 以下の雲母含む	5Y8/4 赤褐色 5Y8/4 赤褐色	-	・畿内第V様式の新しい段階
163-1 弥生土器 無頸 甕 第3遺構面 遺 構面上	口径 9.0cm (残存 1/10 からの回転復原) 残存高 4.1cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 扁状文 内面 ナデ -	良好	φ 2mm 以下の長石・雲母・赤色斑点含む	X3/暗灰色 10Y8/4 浅黄褐色	-	・畿内第III~IV 様式
163-2 弥生土器 瓦 第3遺構面 遺 構面上	口径 - 残存高 5.1cm 底径 3.4cm (底部残存 1/10 からの回転復原) - - ・外面 ヘラミガキ 内面 ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石含む	5Y7/1 灰白色 5Y4/1 灰色	-	・畿内第V様式

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚部・高台）	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
163-3 弥生土器 高杯 第3造構面 遺 構面直上	口径 - 残存高 6.1cm 底径 6.8cm (脚部9/10残存) ・ - ・ - ・ 外面 ハケ (4条/cm)・ナデ 内面 ナデ	良好 φ 3mm以下の長 石・石英・雲母 含む	51R7/4にぶい褐色 ・10Y8/3浅黄褐色	・畿内第V様式 ・脚部外面に黒 斑あり	
163-4 弥生土器 蓋 第3造構面 遺 構面直上	口径 - 残存高 5.9cm (全体1/3残存) 底径 11.4cm (底部残存1/4からの回転復原) ・ - ・ - ・ 外面 ナデ 内面 ナデ	良好 φ 2mm以下の長 石・雲母・赤色 斑粒含む	7.51R7/4にぶい褐 色 ・10Y8/4にぶい黃 褐色	・畿内第I様式 ・底部外面に保 付着	
163-5 弥生土器 鉢 第3造構面 遺 構面直上	口径 16.6cm (残存1/5からの回転復原) 残存高 6.5cm 底径 - ・外 面 ナデ 内面 ナデ ・外 面 ナデ・ヘラケズリ 内面 ナデ ・ -	良好 φ 1mm以下の長 石・赤色斑粒・ 雲母含む	7.51R7/4にぶい褐 色 ・7.51R7/4にぶい褐 色	・畿内第V様式	
163-6 弥生土器 蓋 第3造構面 潟 16	口径 16.0cm (口縁部残存1/12からの回転復 原) 残存高 1.6cm (全体1/10残存) 底径 - ・外 面 ナデ・穿孔 内面 ナデ ・ - ・ -	良好 φ 2mm以下の石 英・長石・雲母 含む	2.51R5/3 黄褐色 ・10Y8/3にぶい黃 褐色	・畿内第I様式 ・便成前穿孔 (1孔)あり	
163-7 弥生土器 蓋 第3造構面 潟 16	口径 - 残存高 5.7cm 底径 10.1cm (残存1/5からの回転復原) ・ - ・ - ・ 外面 ナデ 内面 剥離のため不明	不良 φ 2mm以下の石 英・長石含む	10Y8/4にぶい黃 褐色 ・10Y8/3にぶい黃 褐色	・畿内第I様式 中～新段階 ・外傾接合が観 察できる	
163-8 弥生土器 鉢 第3造構面 潟 16	口径 30.6cm (残存3/10からの回転復原) 残存高 8.3cm 底径 cm ・外 面 ナデ 内面 ナデ ・外 面 指顎圧痕・ナデ 内面 ハケ (9条/cm) ・ -	良好 φ 3mm以下の石 英・長石・雲母 含む	7.51R8/4 浅黄褐色 ・10Y8/3にぶい黃 褐色	・畿内第I様式 中～新段階	
164-1 弥生土器 蓋 第3造構面 潟 路3	口径 16.0cm 器高 23.9cm (全体9/10残存) 底径 4.1cm ・外 面 ナデ 内面 ナデ ・外 面 ハケのちタタキ・タタキ (3条/cm)・ ナデ 内面 ハケ (10条/1.4cm) ・外 面 タタキ (3条/cm)・ナデ 内面 ハケ (10条/1.4cm)	良好 φ 1mmの長石・ 雲母含む	7.51R7/4にぶい褐 色 ・7.51R6/3にぶい褐 色	・畿内第V様式 ・口縁部～底部 外面に保付着	
164-2 庄内式土器 裂 第3造構面 潟 路3	口径 16.0cm (全体4/5残存) 器高 27.5cm 底径 4.6cm ・外 面 ハケ (7~8条/cm) のちナデ 内面 ハケ (7~8条/cm) のちナデ ・外 面 タタキ (2~3条/cm) 内面 ハケ (7~8条/cm) ・外 面 タタキ (2~3条/cm) 内面 ハケ (7~8条/cm)	良好 φ 4mm以下の長 石・石英・チャヤ ト・雲母含む	10Y8/3にぶい黃 褐色 ・10Y8/4にぶい黃 褐色	・庄内期の弥生 系裂 ・体部～底部外 面、底部内面 に保付着	
164-3 庄内式土器 裂 第3造構面 潟 路3	口径 18.0cm (全体4/5残存) 器高 21.5cm 底径 4.0cm ・外 面 ナデ 内面 ナデ ・外 面 タタキ (2条/cm)・ナデ 内面 板ナデ ・外 面 タタキ (2条/cm)・ナデ 内面 板ナデ	良好 φ 3mm以下の長 石含む	10Y8/3にぶい黃 褐色 ・10Y8/4にぶい黃 褐色	・庄内期の弥生 系裂 ・体部～底部外 面、底部内面 に保付着	

図一一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部 / 天井部 ・底部(脚台部・高台)	口縁部 焼成 胎土	色調 ・外 面 ・内 面	備考
164 - 4 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 16.8cm (完形) 器高 25.7cm 底径 4.2cm ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 タタキ (3条/cm)・タタキのちナデ 一部ハケ (8条/cm) 内面 ハケ (8条/cm) ・外面 タタキのちハケ (8条/cm)・タタキ 内面 ハケ (8条/cm)	良好 φ 1mm の長石・ 雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄 橙色 ・10YR7/4 にぶい黄 橙色	・庄内期の弥生 系裏 ・口縁部外面、 体部外面に煤付 着
165 - 5 弥生土器 小形 便 第3造構面 流 路3	口径 13.4cm (全体 7/10 残存) 残存高 16.0cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 タタキ (3条/cm) 内面 ハケ (6条/cm) のちナデ -	良好 φ 1mm 以下の長 石・石英・赤色 斑粒含む	・5YR7/4 にぶい橙色 ・5YR7/6 橙色	・畿内第V様式 後半 ・体部内外面に 黒斑あり ・口縁部・体部 外面に煤付着
165 - 6 弥生土器 小形 便 第3造構面 流 路3	口径 15.2cm (全体 1/2 残存) 器高 15.7cm 底径 3.8cm ・外面 ナデ・ヨコハケ (8条/cm) のちナデ 内面 ナデ ・外面 タタキ (4~5条/cm) 内面 板ナデのちナデ -	良好 φ 5mm 以下の長 石・赤色斑粒含 む	・5YR8/4 淡橙色 ・2.5YR7/6 橙色	・畿内第V様式 後半 ・体部~底部外 面に煤付着
165 - 7 弥生土器 小形 便 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 16.6cm (全体 4/5 残存) 底径 2.6cm ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 タタキ (3条/cm)・ナデ 内面 板ナデ ・外面 タタキ (3条/cm)・ナデ 内面 板ナデ	良好 φ 1mm の長石・ 雲母含む	・10YR7/4 にぶい黄 橙色 ・7.5YR7/6 橙色	・畿内第V様式 後半 ・体部外面に煤 付着 ・底部内面に黒 斑あり
165 - 8 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 - 残存高 16.7cm (全体 2/5 残存) 底径 2.7cm ・外面 タタキ 内面 板ナデ ・外面 タタキ・ナデ 内面 ナデ	良好 φ 3mm 以下の長 石・石英・φ 1 mm 以下の雲母含 む	・2.5YR5/2 鮎灰黃色 ・2.5YR6/2 黄色	・庄内期の弥生 系裏 ・体部~底部外 面に黒斑あり ・底部内面に煤 付着
165 - 9 弥生土器 小形 便 第3造構面 流 路3	口径 14.6cm (口縁部残存 1/4 からの回転復原) 器高 18.0cm 底径 4.9cm ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 タタキ (4~5条/cm) のちナデ 内面 指頭痕のちナデ・板ナデ ・外面 タタキ (4~5条/cm) のちナデ・指 頭痕 内面 放射状工具痕	良好 φ 5mm 以下の長 石・石英含む	・10YR7/4 にぶい黄 橙色 ~ 10YR7/3 にぶ い黄橙色 ・10YR7/4 にぶい黄 橙色	・畿内第V様式 後半
165 - 10 弥生土器 裏 第3造構面 流 路3	口径 17.2cm (口縁部残存 2/5 からの回転復原) 残存高 16.0cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 タタキ (3条/cm) 内面 ナデ -	良好 φ 5mm 以下の長 石・石英・赤色 斑粒・φ 1mm 以 下の雲母含む	・7.5YR6/6 橙色 ・7.5YR5/6 明褐色	・畿内第V様式 後半
166 - 11 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 14.6cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 残存高 7.9cm (全体 2/5 残存) 底径 - ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 タタキ (4条/cm) 内面 ハケ (8条/cm)・ナデ -	良好 φ 2mm 以下の長 石・φ 1mm 以下 の雲母含む	・10YR6/4 にぶい黄 橙色 ・10YR6/4 にぶい黄 橙色	・庄内期に属す 弥生系裏 ・体部内面に黒 斑あり
166 - 12 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 13.0cm (残存 3/10 からの回転復原) 残存高 11.55cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 タタキ (4条/cm) 内面 ハケ (5条/cm) -	良好 φ 3mm 以下の長 石・石英・φ 1 mm 以下の雲母含 む	・10YR6/4 にぶい黄 橙色 ・10YR6/4 にぶい黄 橙色	・庄内期の弥生 系裏 ・体部内外面に 黒斑あり

固一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部/天井部 ・底部(脚部・臺台)	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外側 ・内面	備考
166 - 13 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 11.8cm(口縁部残存 1/6 からの回転復原) 高さ 11.3cm(全体 7/10 残存) 底径 4.5cm 底厚 4.1cm ・外側 ナデ ・内面 タタキ(4条/cm) ・外側 ヘラ状工具によるナデ ・外側 指頭圧痕 ・内面 放射状ナデ	良好	φ 4mm以下の長石・石英・赤色 斑紋。φ 2mm以下の雲母含む	・10YR5/4にぶい黄 褐色 ・10YR6/4にぶい黄 褐色	・庄内期の弥生 系壺 ・体部外側・底部内面に黒斑 あり
166 - 14 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 14.0cm(残存 9/10 からの回転復原) 高さ 13.7cm 底径 4.1cm ・外側 ハケのちナデ ・内面 ハケのらナデ ・外側 タタキ(3条/cm)のちナデ ・内面 板ナゲのらナデ ・外側 タタキ(3条/cm)のちナデ・ナデ ・内面 板ナゲのらナデ	良好	φ 5mm以下の長石・ 長石含む	・10YR8/3浅黄褐色 ・7.5YR8/3浅黄褐色	・庄内期の弥生 系壺 ・体部～底部内 外側に黒斑あ り ・体部～底部外 面に煤材着
166 - 15 庄内式土器 大形甕 第3造構面 路3	口径 13.0cm(口縁部残存 3/4 からの回転復原) 高さ 12.7cm(全体 4/5 残存) 底径 3.25cm ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 タタキ(3条/cm) ・内面 ナデ・ハケ(11条/cm) ・-	良好	φ 2mm以下の長 石・雲母含む	・2.5Y7/3浅黃色 ・2.5Y7/3浅黃色	・庄内期の弥生 系壺 ・底部外側に黒 斑あり
166 - 16 庄内式土器 小形甕 第3造構面 路3	口径 13.0cm(完形) 高さ 10.2cm 底径 4.5cm ・外側 ナデ ・外側 ナデ ・外側 タタキ(3条/cm) ・内面 ハケ(6条/cm) ・外側 指頭圧痕 ・内面 ハケ(6条/cm)	良好	φ 2mm以下の長 石・石英・雲母 含む	・10YR5/3にぶい黄 褐色 ・10YR6/3にぶい黄 褐色	・庄内期の弥生 系壺 ・輪台法による ドーナツ底を 呈す ・口縁部～体部 外側に煤材着 ・庄内期の弥生 系壺
166 - 17 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 - 残存高 11.6cm(全体 1/2 残存) 底径 3.5cm ・- ・外側 タタキ(3条/cm) ・内面 ハケ(8条/1.3cm) ・外側(一部)指頭圧痕のらタタキ(3条/ cm)・ナデ ・内面 ハケ(8条/1.3cm)	良好	φ 1mmの長石・ 雲母含む	・10YR7/3にぶい黄 褐色 ・10YR7/3にぶい黄 褐色	・庄内期の弥生 系壺
166 - 18 庄内式土器 小形甕 第3造構面 路3	口径 - 残存高 9.9cm(残存 2/5 からの回転復原) 底径 - ・- ・外側 タタキ(4条/cm) ・内面 ナデ ・-	良好	φ 2mm以下の長 石・石英・φ 1 mm以下の雲母含 む	・2.5Y7/3浅黃色 ・2.5Y6/2浅黃色	・庄内期の弥生 系壺 ・体部外側に黒 斑あり
166 - 19 庄内式土器 小形甕 第3造構面 路3	口径 10.2cm(残存 1/5 からの回転復原) 残存高 8.3cm 底径 - ・- ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ(4条/cm) ・内面 ハケ(5条/0.5cm) ・-	良好	φ 5mm以下の長 石・石英・φ 1 mm以下の雲母含 む	・10YR7/4にぶい黄 褐色 ・10YR5/3にぶい黄 褐色	・庄内期の弥生 系壺 ・体部外側に煤 材着
166 - 20 庄内式土器 小形甕 第3造構面 路3	口径 - 残存高 15.8cm(全体 3/5 残存) 底径 3.4cm ・- ・外側 タタキ(2条/cm) ・内面 ケズリのちナデ ・外側 ケズリのちナデ ・内面 ケズリのちナデ	良好	φ 1mmの長石含 む	・2.5Y7/4浅黃色 ・7.5YR6/4に5Y4 褐色	・庄内1式
166 - 21 庄内式土器 小形甕 第3造構面 路3	口径 16.7cm(口縁部残存 1/4 からの回転復原) 残存高 6.6cm(全体 1/5 残存) 底径 - ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ナデ ・内面 ナデ・指頭圧痕 ・-	良好	φ 3mm以下の長 石・石英含む	・10YR7/3にぶい黄 褐色～10YR2/1黒色 ・2.5Y7/3浅黃色	・庄内0～1式 ・口縁部～体部 外側に黒斑あ り

固一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部 / 天井部 ・底部(腰部・高台)	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
166 - 22 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 17.6cm(口縁部残存 1/4 からの回転復原) 残存高 6.2cm (全体 1/5 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 タタキ (3 条/cm) ・内面 ハケ (4 条/cm)・ナデ ・ -	良好	φ 4mm 以下の長 石・石英・赤色 斑粒・雲母含む	・10YR5/3 にぶい黄 褐色 ・2.5YR5/3 黄褐色	・庄内1式期の 弥生系甕 ・口縁部外面上に 煤付着
167 - 23 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 14.6cm 器高 16.6cm (全体 4/5 残存) 底径 3.2cm ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 タタキ (4 条/cm) ・内面 ハケ (7 条/cm) ・外面 タタキ (4 条/cm)・ナデ ・内面 ハケ (7 条/cm)・ナデ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長 石・石英・赤色 斑粒含む	・5YR8/4 浅褐色 ・5YR8/4 浅褐色	・庄内期の弥生 系甕 ・口縁部・体部 外面上に煤付着
167 - 24 庄内式土器 小 形甕 第3造構面 路3	口径 16.0cm 器高 16.5cm (全体 4/5 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 タタキ (4 条/cm)一部のちナデ ・内面 板ナデ ・ -	良好	φ 1mm 以下の長 石含む	・7.5YR7/4 にぶい根 色 ・7.5YR6/4 にぶい根 色	・庄内期の弥生 系甕 ・口縁部へ底部 外面上の縱方向 に煤付着
167 - 25 土師器 裸 第3造構面 路3	口径 12.4cm 残存高 12.4cm (全体 1/2 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (7 条/cm) のちナデ ・内面 ケズリのちナデ ・ -	や好 良好	φ 1mm 以下の長 石・石英含む	・7.5YR7/6 棕色 ・7.5YR6/6 棕色	・布留0～1式 ・口縁部外面上に 煤付着
167 - 26 土師器 裸 第3造構面 路3	口径 15.4cm (残存 2/5 からの回転復原) 器高 18.9cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (8～9 条/cm) ・内面 ケズリのちナデ ・外面 ハケ (8～9 条/cm) のちナデ ・内面 ケズリのちナデ ・ -	良好	φ 4mm 以下の長 石・石英含む	・7.5YR8/4 浅黄褐色 ・10YR5/2 浅黄褐色	・布留1式 ・口縁部へ体部 内面上に黒斑あり ・体部外面上に保 付着
167 - 27 土師器 裸 第3造構面 路3	口径 10.4cm 残存高 18.5cm (全体 1/2 残存) 底径 - ・外面 ハケのちナデ ・内面 ハケのちナデ ・外面 ハケ (8 条/cm) のちナデ ・内面 ケズリ ・ -	良好	φ 2mm 以下の長 石含む	・10YR8/3 浅黄褐色 ・10YR4/1 鍋灰色	・布留0式 ・「く」の字口 縁 ・体部外面上に保 付着
168 - 28 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 13.9cm(口縁部残存 1/4 からの回転復原) 残存高 3.7cm (全体 1/10 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (6 条/cm) ・内面 ケズリ ・ -	良好	φ 2mm 以下の長 石・石英・φ 1 mm 以下の雲母含 む	・7.5YR5/4 明褐色～ 7.5YR2/1 黑色 ・7.5YR5/4 明褐色	・庄内0～1式 ・口縁部へ体部 外面上に煤付着
168 - 29 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 16.0cm(口縁部残存 1/5 からの回転復原) 残存高 4.75cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ・ケズリ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長 石・石英・φ 1 mm 以下の雲母含 む	・10YR7/3 にぶい黄 褐色 ・10YR7/3 にぶい黄 褐色	・庄内2式 ・はねあげ口縁 ・口縁部へ体部 外面上に煤付着
168 - 30 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 15.0cm(口縁部残存 1/4 からの回転復原) 残存高 6.0cm (全体 1/5 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ・ハケ (7 条/cm) ・外面 ハケ (7 条/cm) のちタタキ (3 条/ cm) ・内面 ナデ・ケズリ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長 石・石英・赤色 斑粒・φ 1mm 以 下の雲母含む	・7.5YR5/4 にぶい根 色 ・10YR5/3 にぶい黄 褐色	・庄内0～1式 ・口縁部へ体部 外面上に煤付着

固一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（腰台部・高台）	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
168-31 庄内式土器 第3造構面 路3 裏 底 液	口径 15.8cm(口縁部残存 1/5からの回転復原) 残存高 7.6cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 タタキ (4条/cm) のちハケ (7条/cm) ・内面 ケズリ -	良好	φ 2mm 以下の長石・角閃石含む	・10YR4/2灰黄褐色 ・10YR5/3にぶい黄褐色	・庄内式 ・生割面難産の 河内形 ・はねあげ口縁 ・口縁部・体部 外面に煤付着
168-32 土師器 裏 第3造構面 路3 底 液	口径 13.6cm (残存 1/7からの回転復原) 残存高 3.8cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (6条/cm) ・内面 ケズリ -	良好	φ 1mm 以下の長石・石英含む	・7.5YR7/4に55%根 色 ・7.5YR7/4に55%根 色	・布留式 ・口縁部外面に 煤付着
168-33 土師器 裏 第3造構面 路3 底 液	口径 14.9cm(口縁部残存 1/3からの回転復原) 残存高 4.15cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ハケ (7条/cm) ・外面 ハケ (7条/cm) ・内面 ケズリ -	良好	φ 1mm 以下の長石・石英・赤色 斑粒・雲母含む	・7.5YR6/4に55%根 色 ・5YR6/4にぶい根 色	・布留期
168-34 土師器 裏 第3造構面 路3 底 液	口径 14.4cm(口縁部残存 1/6からの回転復原) 残存高 6.5cm (全体 1/5残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ・ハケ (5条/cm) ・内面 ナデ・ケズリ -	良好	φ 4mm 以下の長石・石英・φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR5/4にぶい黄 褐色 ・10YR5/4にぶい黄 褐色	・布留 0~1式 ・口縁部～体部 外面に煤付着
168-35 土師器 裏 第3造構面 路3 底 液	口径 14.2cm(口縁部残存 1/3からの回転復原) 残存高 7.2cm (全体 1/3残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ・ハケ (13条/cm) ・内面 ナデ・ケズリ -	良好	φ 3mm 以下の長石・石英・赤色 斑粒含む	・10YR7/4にぶい黄 褐色 ・7.5YR7/6根色	・布留 0~1式
168-36 庄内式土器 第3造構面 路3 裏 底 液	口径 14.4cm(口縁部残存 1/4からの回転復原) 残存高 6.8cm (全体 1/3残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ケズリ ・内面 ケズリ -	良好	φ 2mm 以下の長石・石英・赤色 斑粒。φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR7/3にぶい黄 褐色 ・2.5Y7/3浅黄色～ 2.5Y5/1 黄褐色	・庄内期
168-37 土師器 裏 第3造構面 路3 底 液	口径 17.4cm(口縁部残存 1/4からの回転復原) 残存高 cm (全体 1/3残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ・ハケ (3条/cm) ・外面 ハケ (6条/cm) ・内面 ケズリ -	良好	φ 3mm 以下の長石・石英・赤色 斑粒。φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5YR7/6根色 ・7.5YR7/6根色	・布留 0~1式 ・口縁部外面に 煤付着
168-38 土師器 裏 第3造構面 路3 底 液	口径 15.0cm(口縁部残存 1/6からの回転復原) 残存高 7.1cm (全体 1/7残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (4条/cm) ・内面 ケズリ -	良好	φ 2mm 以下の長石・石英・赤色 斑粒含む	・10YR5/4にぶい黄 褐色～10W2/1 黑色 ・10YR5/4にぶい黄 褐色	・布留 0~1式 ・口縁部～体部 外面に煤付着
168-39 土師器 裏 第3造構面 路3 底 液	口径 17.6cm(口縁部残存 1/6からの回転復原) 残存高 10.1cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ・ハケ (5条/cm) ・内面 ナデ・ケズリ -	良好	φ 2mm 以下の長石・石英含む	・10YR5/1 灰灰色 ・5YR3/1 黑褐色	・布留期 ・口縁部～体部 内面に黒斑あり ・体部外面に煤 付着

団一番号 器種 出土場所	・口縁部 大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（腰部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
168 - 40 土師器 裸 第3造構面 路3	口径 14.0cm(口縁部残存1/4からの回転復原) 残存高 6.3cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ・ハケ (条数不明) ・内面 ナデ・ケズリ ・ -	良好	φ 3mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	・10YR5/4にぶい黄褐色～10YR2/1黒褐色 ・10YR6/3にぶい黄褐色	・布留0式 ・口縁部～体部外間に煤付着
169 - 41 土師器 裸 第3造構面 路3	口径 12.8cm(口縁部残存1/3からの回転復原) 残存高 6.9cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (7条/cm)・刺突文 ・内面 ケズリ ・ -	良好	φ 2mm以下の長石・石英、雲母含む	・10YR6/2灰黄褐色 ・10YR6/2灰黄褐色	・布留1式 ・口縁部～体部外間に煤付着
169 - 42 庄内式土器 裸 第3造構面 路3	口径 16.2cm(口縁部残存1/6からの回転復原) 残存高 5.0cm (全体1/5残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 タタキ ・内面 ナデ・ケズリ ・ -	良好	φ 3mm以下の長石・石英含む	・7.5Y7/6橙色 ・7.5Y7/6橙色	・庄内期
169 - 43 土師器 裸 第3造構面 路3	口径 13.8cm(口縁部残存1/5からの回転復原) 残存高 6.1cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (9条/cm) ・内面 ケズリのちナデ ・ -	良好	φ 2mm以下の長石含む	・10YR6/3にぶい黄褐色 ・10YR5/3にぶい黄褐色	・布留0～1式
169 - 44 土師器 裸 第3造構面 路3	口径 14.4cm(口縁部残存1/4からの回転復原) 残存高 8.5cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (7条/cm) ・内面 ケズリ ・ -	良好	φ 2mm以下の長石含む	・5YR6/6橙色 ・7.5YR5/4にぶい褐色	・布留期 ・体部外間に黒斑入り ・体部外間に煤付着
169 - 45 土師器 裸 第3造構面 路3	口径 13.4cm(口縁部残存1/6からの回転復原) 残存高 5.2cm (全体1/5残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ・ハケ (6条/cm) ・内面 ナデ・ケズリ ・ -	良好	φ 2mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	・7.5YR5/4にぶい褐色 ・7.5YR5/4にぶい褐色	・布留0式
169 - 46 土師器 裸 第3造構面 路3	口径 16.2cm(口縁部残存1/4からの回転復原) 残存高 9.0cm (全体1/3残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (6条/cm) ・内面 ケズリ ・ -	良好	φ 2mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	・10YR7/4にぶい黄褐色 ・10YR7/4にぶい黄褐色	・布留0～1式 ・はねあげ口縁
169 - 47 土師器 裸 第3造構面 路3	口径 13.4cm(口縁部残存1/6からの回転復原) 残存高 6.5cm (全体1/5残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ・ハケ (8条/cm) ・内面 ナデ・ケズリ ・ -	良好	φ 2mm以下の長石・雲母含む	・10YR6/4にぶい黄褐色 ・10YR5/3にぶい黄褐色	・布留0～1式
169 - 48 土師器 裸 第3造構面 路3	口径 15.7cm(口縁部残存1/6からの回転復原) 残存高 6.6cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ・ハケ (7条/cm) ・内面 ナデ・ケズリ ・ -	良好	φ 3mm以下の長石・φ 1mm以下の雲母含む	・10YR5/3にぶい黄褐色 ・7.5YR5/3にぶい褐色	・布留1式

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部 / 天井部 ・底部(脚部・高台)	口縁部 大きさと、調整・施文・体部 / 天井部 ・底部(脚部・高台)	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
169 ~ 49 土師器 大形鉢 第3造構面 液 路3	口径 31.0cm (残存 1/7 からの回転復原) 残存高 6.4cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ケズリ -	良好	φ 1mm 前後の長 石・石英含む	- - - - - -	・10Y86/4 にぶい黄 褐色 ・10Y86/4 にぶい黄 褐色	・布留4式
169 ~ 50 土師器 大形鉢 第3造構面 液 路3	口径 30.2cm (口縁部残存 2/5 からの回転復原) 残存高 14.8cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (7条/cm) ・内面 ケズリ -	良好	φ 3mm 以下の長 石含む	- - - - - -	・7.5Y86/4 に554橙 色 ・5Y84/4 に赤褐色	・布留3~4式 ・二重口縁をもつ外系の鉢 ・口縁部外面に黒斑あり ・頭部内面に保付着
170 ~ 51 土師器 直口壺 第3造構面 液 路3	口径 7.5cm (ほぼ完形) 器高 13.1cm 底径 2.6cm ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ヘラミガキ ・内面 ハケ (6条/cm) ・外面 ヘラミガキ ・内面 ヘラミガキ	良好	φ 5mm 以下の長 石・石英・雲母 含む	- - - - - -	・10Y87/3 にぶい黄 褐色 ・10Y86/4 にぶい黄 褐色	・庄内3式 ・体部外面に黒斑あり ・体部内面に保付着
170 ~ 52 土師器 稚頭壺 第3造構面 液 路3	口径 - 残存高 10.9cm (全体 7/10 残存) 底径 - ・外面 ヘラミガキのちハケ (10条/cm) ・内面 ナデ・ヘラ状工具によるナデ ・外面 ヘラミガキ ・内面 ナデ	良好	φ 1mm 以下の雲 母含む	- - - - - -	・7.5Y86/6 橙色 ・7.5Y87/4 に554橙 色	・布留0~2式 ・体部外面に黒斑あり
170 ~ 53 土師器 直口壺 第3造構面 液 路3	口径 11.4cm 器高 15.7cm (全体 4/5 残存) 底径 2.6cm (底部完形) ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ヘラミガキ ・内面 ナデ ・外面 ヘラミガキ ・内面 ハケ (8条/cm)	良好	φ 2mm 以下の長 石・石英含む	- - - - - -	・10Y87/3 にぶい黄 褐色 ・2.5Y7/3 淡黄色	・庄内~布留0式
170 ~ 54 土師器 直口壺 第3造構面 液 路3	口径 11.4cm (完形) 器高 17.0cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ヘラミガキ ・外面 ヘラミガキ・ハケ (10条/cm) ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ・竹管による押圧	良好	φ 2mm 以下の長 石・石英・赤色 斑紋、δ 1mm 以 下の雲母含む	- - - - - -	・5Y86/8 橙色 ・5Y87/6 橙色	・布留0式
170 ~ 55 庄内式土器 短 形壺 第3造構面 液 路3	口径 12.25cm (口縁部残存 1/2 からの回転復 原) 器高 25.0cm (全体 1/2 残存) 底径 6.0cm ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (7条/cm) ・内面 ナデ・ケズリ ・外面 ハケ (7条/cm) ・内面 棒状工具によるナデ	良好	φ 6mm 以下の長 石・石英・チャーチ ト含む	- - - - - -	・7.5Y86/6 橙色 ・7.5Y87/4 に554橙 色	・庄内1式 ・口縁部外側、 体部外面、底 部内面に保付 着
170 ~ 56 庄内式土器 広 口壺 第3造構面 液 路3	口径 12.6cm (ほぼ完形) 残存高 24.0cm 底径 3.0cm ・外面 調整不明 ・内面 ナデ ・外面 タタキ ・内面 ナデ ・外面 ヘラ状工具による調整・ナデ ・内面 ナデ	良好	φ 4mm 以下の長 石・石英・チャーチ ト・赤色斑紋含 む	- - - - - -	・7.5Y88/4 淡黄褐色 ・7.5Y88/3 淡黄褐色	・庄内3~4式 ・体部~底外 面に二次焼成 を受け磨耗す る(製壺意の 可能性あり) ・底部内外面に 黒斑あり ・上半部と下半 部で異なる胎 土の粘土を用 いる

図-番号 器種 出土場所	・口縁部 大きさと、調整・施文・体部/天井部 ・底部(脚部・高台)	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
171 - 57 土師器 短頸直 口壺 第3造構面 流 路3	口径 12.7cm (残存 1/10 からの回転復原) 残存高 5.8cm 底径 - ・外面 ハラミガキ ・内面 ヘラミガキ ・外面 ハラミガキ ・内面 ハラミガキ ・ -	不良	φ 2mm 以下の長 石・雲母含む	・2.5Y6/6 錆色 ・2.5Y6/8 明赤褐色	・布留期 ・内面著しく磨 減している
171 - 58 土師器 短頸直 口壺 第3造構面 流 路3	口径 13.8cm (口縁部残存 1/3 からの回転復原) 残存高 7.3cm (全体 1/5 残存) 底径 - ・外面 ハケ (5 条/cm) ・内面 ハケ (9 条/cm) ・外面 ハケ (5 条/cm) ・内面 ハケ (9 条/cm) ・ -	良好	φ 2mm 以下の長 石・φ 1mm 以下 の雲母含む	・2.5Y7/3 淡黄色 ・2.5Y6/2 淡黄色	・布留期
171 - 59 土師器 短頸直 口壺 第3造構面 流 路3	口径 14.9cm (口縁部残存 1/12 以下の回 転復原) 残存高 9.1cm 底径 - ・外面 ハケ (8 条/cm)・ヘラミガキ ・内面 ハケ (8 条/cm) ・外面 ハラミガキ ・内面 ケズリ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長 石・石英・赤色 斑粒・φ 1mm 以 下の雲母含む	・7.5Y6/4 にぶい銀 色 ・10Y6/3 にぶい黃 褐色	・布留期
171 - 60 土師器 短頸直 口壺 第3造構面 流 路3	口径 13.8cm (口縁部完形) 残存高 9.5cm (全体 2/5 残存) 底径 - ・外面 ナデ・ハケ (10 条/cm) のちナデ ・内面 ナデ・ハケ (10 条/cm) のちナデ ・外面 ヘラミガキ ・内面 指頭压痕・ナデ ・ -	良好	φ 2mm 以下の長 石・石英・赤色 斑粒・φ 1mm 以 下の雲母含む	・2.5Y6/3 にぶい黃 色 ・2.5Y7/3 淡黄色	・布留期 ・体部背面に黒 斑あり
171 - 61 庄内式土器 直口壺 第3造構面 流 路3	口径 15.4cm (残存 1/7 からの回転復原) 残存高 3.1cm 底径 - ・外面 沈線・調整不明 ・内面 調整不明 ・ -	やや 不良	φ 1mm 前後の長 石・石英含む	・10Y6/4 にぶい黃 褐色 ・10Y6/3 にぶい黃 褐色	・庄内期
171 - 62 庄内式土器 直口壺 第3造構面 流 路3	口径 14.7cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 残存高 5.1cm (全体 1/5 残存) 底径 - ・外面 ナデ・ハケ (8 条/cm) のちナデ ・内面 ハケ (9 条/cm) のちナデ ・外面 ハケ (8 条/cm) のちナデ ・内面 ケズリ ・ -	良好	φ 2mm 以下の長 石含む	・10Y6/3 にぶい黃 褐色 ・10Y6/3 にぶい黃 褐色	・庄内期
171 - 63 土師器 短頸直 口壺 第3造構面 流 路3	口径 15.8cm (口縁部残存 1/2 からの回転復原) 残存高 20.6cm (全体 2/5 残存) 底径 - ・外面 ハケ (5 条/cm) ・内面 ナデ ・外面 調整不明 ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 4mm 以下の長 石・石英含む	・7.5Y6/7/6 棕色 ・7.5Y6/1 灰色	・布留期 ・体部外面に保 付着
172 - 64 土師器 直口壺 第3造構面 流 路3	口径 15.2cm (残存 2/5 からの回転復原) 残存高 14.0cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ハケ (5 条/cm) のちナデ ・ -	良好	φ 2mm 以下の長 石・赤色斑粒・ 雲母含む	・10Y6/4 にぶい黃 褐色 ・10Y6/4 にぶい黃 褐色	・布留期
172 - 65 土師器 直口壺 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 11.0cm (全体 7/10 残存) 底径 - ・外面 ヘラミガキ ・内面 指頭压痕・ナデ ・ -	良好	φ 1mm 以下の赤 色斑粒含む	・10Y6/3 淡黄褐色 ・10Y6/3 淡黄褐色	・布留期

固一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部(脚部・高台)	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
172 - 66 直口壺 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 17.7cm (全体3/5残存) 底径 - ・外面 ヘラミガキ・ナデ ・内面 ヘラミガキのちナデ・ヘラミガキ	良好 φ 1mm以下の石英含む	胎土	・10YR7/4にぶい黄褐色 ・10YR5/2灰黄褐色	・布留期
173 - 67 発生土器 広口 第3造構面 流 路3	口径 17.0cm (口縁部完形) 残存高 5.6cm 底径 - ・外面 ナデ・円形浮文・ヘラミガキ ・内面 ナデ・ヘラミガキ・ハケ (6条/cm) のちナデ ・ -	良好 φ 2mm以下の長石・雲母含む	胎土	・10YR6/4にぶい黄褐色 ・10YR6/3にぶい黄褐色	・畿内第V様式 後半 ・口縁部内面に 黒斑あり
173 - 68 庄内式土器 広口 第3造構面 流 路3	口径 19.3cm (口縁部完形) 残存高 6.5cm (全体1/5残存) 底径 - ・外面 調整不明 ・内面 調整不明 ・外面 調整不明 ・内面 調整不明 ・ -	良好 φ 3mm以下の長石・石英	胎土	・7.5YR6/4に544橙色 ・10YR4/3にぶい黄褐色	・庄内1式 ・「く」の字口縁 ・頭部貼付突唇に 附目を施す
173 - 69 庄内式土器 広口 第3造構面 流 路3	口径 9.8cm (口縁部完形) 残存高 8.8cm 底径 - ・外面 ナデ・ヘラミガキ ・内面 ナデ・ハケ (7条/cm) ・外面 ハケ (7条/cm)のちヘラミガキ ・内面 工具によるナデ ・ -	良好 φ 3mm以下の長石含む	胎土	・10YR6/3にぶい黄褐色 ・10YR6/4にぶい黄褐色	・庄内期
173 - 70 庄内式土器 広口 第3造構面 流 路3	口径 16.8cm (口縁部残存1/2からの回転復原) 残存高 9.0cm (全体1/5残存) 底径 - ・外面 ナデ・軸突文 ・内面 ナデ ・外面 ヘラミガキ ・内面 ナデ ・ -	良好 φ 2mm以下の長石含む	胎土	・7.5YR7/6橙色 ・7.5YR7/6橙色	・庄内1式 ・口縁部・体部 内面に煤付着
173 - 71 土師器 小形の 壺 第3造構面 流 路3	口径 8.6cm (口縁部残存1/12からの回転復原) 残存高 8.2cm (全体1/4残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (8条/cm) ・内面 ナデ・指頭圧痕 ・ -	良好 φ 2mm以下の長石・石英・雲母含む	胎土	・2.5Y6/2灰黄色 ・2.5Y6/3にぶい黄色	・布留3~4式
173 - 72 発生土器 壺 第3造構面 流 路3	口径 12.8cm (残存2/5からの回転復原) 残存高 12.7cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ハケ (7条/cm) ・ -	良好 φ 4mm以下の長石・石英・雲母含む	胎土	・2.5Y6/3にぶい黄色 ・2.5Y6/3にぶい黄色	・畿内第V様式 後半
173 - 73 土師器 二重口 縁壺 第3造構面 流 路3	口径 11.7cm 器高 24.5cm (全体4/5残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (7条/cm) ・内面 ケズリのちナデ ・外面 ナデ ・内面 ケズリのちナデ・指頭圧痕	やや 良好 φ 4mm以下の長石・石英・赤色斑点含む	胎土	・7.5YR8/6浅黄褐色 ・5YR7/6橙色	・布留2~3式 の外來系の壺 ・体部内面と体部へ底部外面に 黒斑あり ・体部外面に煤 付着
174 - 74 庄内式土器 二 重口縁壺 第3造構面 流 路3	口径 16.45cm (口縁部残存1/12からの回転復原) 残存高 3.4cm (全体1/10残存) 底径 - ・外面 ナデ・円形浮文 ・内面 ナデ ・ -	良好 φ 4mm以下の赤色斑点・長石含む	胎土	・5YR5/6橙色 ・5YR6/6橙色	・庄内3式

固一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部（脚台部・高台）	口縁部 大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外側 ・内面	備考
174 - 25 庄内式土器 二 重口縁壺 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 5.1cm(残存1/10以下からの回転復原) 底径 - ・外面 波状文(5条/0.5cm)・波状文(5条/0.5cm)・円形浮文・貼付突帯・ナデ・指頭圧痕・ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ ・ -	良好 φ 3mm以下の長石・石英・赤色斑粒、φ 1mm以下の雲母含む	2.5Y7/4 淡黄色 2.5Y6/2 灰黄色	・庄内3式		
174 - 76 庄内式土器 二 重口縁壺 第3造構面 流 路3	口径 18.7cm(口縁部残存1/6からの回転復原) 残存高 5.8cm(全体1/4残存) 底径 - ・外面 ナデ・貼付突帯・ヘラミガキ 内面 ナデ・ナデ ・ -	良好 φ 3mm以下の長石・石英・赤色斑粒、φ 1mm以下の雲母含む	10Y8/4 にぶい黄褐色 10Y8/4 にぶい黄褐色	・庄内3式 ・口縁部内面に黒斑あり		
174 - 77 庄内式土器二重 口縁壺 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 3.1cm(残存1/3からの回転復原) 底径 - ・外面 ヘラミガキ・ナデ・円形浮文 内面 ヘラミガキ ・ -	良好 φ 4mm以下の長石・石英・赤色斑粒、φ 1mm以下の雲母含む	7.5Y5/6 明褐色 7.5Y5/6 明褐色	・庄内3式		
174 - 78 庄内式土器 二 重口縁壺 第3造構面 流 路3	口径 25.6cm(口縁部残存1/4からの回転復原) 残存高 5.9cm 底径 - ・外面 ナデ・円形浮文 内面 ナデ ・ -	良好 φ 4mm以下の長石・石英・赤色斑粒、φ 1mm以下の雲母含む	7.5Y8/4 にぶい褐色 7.5Y8/4 にぶい褐色	・庄内2式 ・口縁部内面に煤付着		
174 - 79 庄内式土器 二 重口縁壺 第3造構面 流 路3	口径 15.4cm(口縁部残存1/10からの回転復原) 残存高 3.1cm 底径 - ・外面 ヘラミガキ・ナデ・指頭圧痕・ハケ(11条/cm) 内面 ナデ ・ -	良好 φ 2mm以下の長石・雲母含む	7.5Y8/6 明褐色 7.5Y8/4 にぶい褐色	・庄内2~3式		
174 - 80 庄内式土器 二 重口縁壺 第3造構面 流 路3	口径 - (残存1/10からの回転復原) 残存高 3.1cm 底径 - ・外面 ナデ・扇形文(7条/cm)・円形浮文 内面 ナデ ・ -	良好 φ 6mm以下の赤色斑粒・長石・石英含む	10Y8/4 にぶい黄褐色 7.5Y8/4 にぶい褐色	・庄内2式		
174 - 81 庄内式土器 二 重口縁壺 第3造構面 流 路3	口径 - (残存1/10以下から回転復原) 残存高 3.9cm 底径 - ・外面 直線文(8条/cm)・波状文(7条/cm) 内面 ヘラミガキ ・外面 ヘラミガキ 内面 板ナデ ・ -	良好 φ 4mm以下の赤色斑粒・長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	10Y8/4 にぶい黄褐色 2.5Y7/3 淡黄色	・庄内0~2式 ・二重口縁壺の体部 ・体部内面に黒斑あり		
174 - 82 庄内式土器 二 重口縁壺 第3造構面 流 路3	口径 - (残存1/10以下からの回転復原) 残存高 5.2cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 直線文(5条/0.8cm)・波状文(4条/0.6cm)・直線文(5条/0.8cm) 内面 指頭圧痕 ・ -	良好 φ 3mm以下の長石・石英・雲母含む	2.5Y6/3 にぶい黄褐色 2.5Y5/3 黄褐色	・庄内0~2式 ・二重口縁壺の体部か		
174 - 83 庄内式土器 二 重口縁壺 第3造構面 流 路3	口径 - (残存1/10以下からの回転復原) 残存高 5.6cm 底径 - ・外面 直線文(6条/cm)・波状文(6条/cm)・ナデ 内面 ヘラミガキ・ナデ ・ -	良好 φ 2mm以下の長石・赤色斑粒・雲母含む	10Y8/4 にぶい黄褐色 10Y8/3 にぶい黄褐色	・庄内0~2式 ・二重口縁壺の体部か ・頭部外面上に貼付突帯を有す		

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部(脚部・高台)	・口縁部		焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面		備考
		大きさと、調整・施文	体部・天井部 ・底部(脚部・高台)			・外面	・内面	
174 - 84 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 18.2cm (口縁部残存1/12からの回転復原) 底径 - 残存高 9.2cm (全体1/3残存) ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 2mm 以下の長 石・赤色斑粒含 む	・7.5IR6/8 棕色 ・7.5IR6/8 棕色	・庄内0~1式			
174 - 85 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 13.8cm (残存1/7からの回転復原) 底径 - 残存高 6.6cm ・外面 ヘラミガキ・ナデ・貼付突帯 ・内面 ナデ・ヘラミガキ ・外面 横描直線文 (11条/2.2cm)・波状文 (11 条/2.2cm) ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 1mm 以下の長 石・石英含む	・5YR7/6 棕色～ 5YR7/4 にぶい黄 棕色 ・10YR7/4 にぶい黄 棕色	・庄内0~2式 ・二重口縁部の 体部か			
175 - 86 庄内式土器 重口縁蓋 第3造構面 路3	口径 - (残存1/10からの回転復原) 底径 - 残存高 9.2cm ・ - ・外面 直線文 (6条/cm)・波状文 (6条/ cm)・ナデ ・内面 ナデ ・ -	良好	φ 3mm 以下の長 石・赤色斑粒、 φ 1mm 以下の雲 母含む	・10YR7/4 にぶい黄 棕色 ・10YR7/4 にぶい黄 棕色	・庄内期			
175 - 87 庄内式土器 重口縁蓋 第3造構面 路3	口径 - (残存1/10からの回転復原) 底径 - 残存高 7.3cm ・ - ・外面 波状文 (7条/0.5cm)・円形浮文・ナ デ ・内面 板ナデ ・ -	良好	φ 2mm 以下の長 石・石英・赤色 斑粒、φ 1mm 以 下の雲母含む	・5YR5/6 明赤褐色 ・10YR6/4 にぶい黄 棕色	・庄内期			
175 - 88 弥生土器 小形 蓋 第3造構面 路3	口径 - 残存高 5.7cm (全体3/5残存) 底径 3.7cm (底部1/2残存) ・ - ・外面 ハケ (5条/cm)のちナデ ・内面 ハケ (10条/cm) ・外面 ナデ ・内面 ナデ	良好	φ 3mm 以下の長 石・石英・赤色 斑粒含む	・10YR7/4 にぶい黄 棕色 ・10YR7/3 にぶい黄 棕色	・畿内第V様式 後半 ・体部外面に黒 斑あり			
175 - 89 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 - 底径 2.0cm (底部充形) ・ - ・外面 摩耗により調整不明 ・内面 ヘラミガキ ・外面 摩耗により調整不明 ・内面 ヘラミガキ	良好	φ 2mm 以下の長 石・石英含む	・10YR6/3 にぶい黄 棕色～2.5Y2/1 黒色 ・2.5Y2/1 黑色～ 0YR4/4 褐色	・庄内期 ・体部～底部内 面・底部外面に 黒斑あり			
175 - 90 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 - 底径 4.9cm ・ - ・外面 ヘラミガキ ・内面 ハケ (6条/cm) ・外面 ヘラミガキ ・内面 ハケ (6条/cm)	良好	φ 3mm 以下の長 石・石英含む	・10YR6/4 浅黃褐色 ・2.5Y6/1 黄灰色	・庄内期 ・底部外面に黑 斑あり			
176 - 91 庄内式土器 か壺 第3造構面 路3	口径 - 底径 4.0cm (底部残存1/2からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 タタキ (3条/cm) ・内面 ハケ (5条/cm)のちナデ	良好	φ 4mm 以下の長 石・石英、φ 1 mm 以下の雲母含 む	・10YR6/3 にぶい黄 棕色 ・2.5Y2/1 黑色	・庄内期の弥生 系壺の底部 ・底部内面に媒 材着			
176 - 92 庄内式土器 か壺 第3造構面 路3	口径 - 底径 6.0cm (底部充形) ・ - ・ - ・外面 ナデ ・内面 調整不明	良好	φ 2mm 以下の長 石・石英・赤色 斑粒、φ 1mm 以 下の雲母含む	・7.5YR7/4 にぶい黄 棕色 ・5Y6/1 灰色	・庄内期			

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	口縁部	焼成	胎土	外側		備考
					・色調	・内面	
176 - 93 庄内式土器 裸 か壺 第3造構面 流 路3	口径 — 残存高 4.4cm 底径 4.3cm（残存1/3からの回転復原） ・ — ・ — ・外側 ナデ・指顎圧痕 内面 ナデ	良好	φ 3mm以下の角 閃石・赤色斑粒・ 長石、φ 1mm以 下の雲母含む	10YR7/6 明黄褐色 ・10YR7/4にぶい黄 褐色	・庄内期		
176 - 94 庄内式土器 裸 か壺 第3造構面 流 路3	口径 — 残存高 3.4cm（全体1/5残存） 底径 8.1cm（底部充形） ・ — ・ — ・外側 ヘラミガキ 内面 ナデ	良好	φ 5mm以下の長 石・雲母含む	10YR7/3にぶい概 色～5YR6.6 橙色 ・10YR6/4にぶい黄 褐色	・庄内期の壺底 部か ・底部外側に黒 斑あり		
176 - 95 庄内式土器 裸 か壺 第3造構面 流 路3	口径 — 残存高 5.4cm 底径 5.0cm（残存1/10からの回転復原） ・ — ・ — ・外側 ハケ（9条/cm）のちナデ 内面 ナデ	良好	φ 2mm以下の長 石・雲母含む	2.5Y6/3にぶい黃 色 ・2.5Y5/2 緋灰黄色	・庄内期の壺底 部か ・輪台法による ドーナツ底		
176 - 96 庄内式土器 裸 か壺 第3造構面 流 路3	口径 — 残存高 3.7cm 底径 5.0cm（底部充形） ・ — ・ — ・外側 板ナデ・ナデ 内面 放射状板ナデ	良好	φ 4mm以下の石 英・長石、φ 1 mm以下の雲母含 む	2.5Y4/2 緋灰黄色 ・2.5Y4/2 緋灰黄色	・庄内期		
176 - 97 庄内式土器 裸 か壺 第3造構面 流 路3	口径 — 残存高 2.1cm 底径 6.9cm（残存1/5からの回転復原） ・ — ・ — ・外側 ハケ（4条/cm）・ナデ 内面 ナデ・ハケ（7条/cm）	良好	φ 4mm以下の長 石・石英・赤色斑粒、 φ 1mm以下の雲 母含む	7.5Y5/4にぶい概 色 ・7.5Y6/4にぶい概 色	・庄内期 ・底部外側に黒 斑あり		
176 - 98 庄内式土器 裸 第3造構面 流 路3	口径 — 残存高 3.8cm 底径 2.4cm（底部充形） ・ — ・ — ・外側 タタキ（3条/cm）・ナデ 内面 ナデ・タタキ（4条/cm）	良好	φ 3mm以下の長 石・石英、φ 1 mm以下の雲母含 む	5YR6/6 橙色 ・10YR6/2 灰黄色～ 7.5YR7/6 橙色	・庄内期の弥生 系壺 ・底部内面に煤 付着		
176 - 99 庄内式土器 裸 第3造構面 流 路3	口径 — 残存高 3.6cm 底径 2.7cm（残存1/10からの回転復原） ・ — ・ — ・外側 ナデ・タタキ（4条/cm） 内面 ヘラ状工具によるナデ	良好	φ 4mm以下の長 石・雲母含む	5YR7/6 橙色 ・2.5Y6/2 灰黄色	・庄内期の弥生 系壺 ・底部内面に煤 付着		
176 - 100 庄内式土器 裸 第3造構面 流 路3	口径 — 残存高 3.6cm 底径 4.9cm（底部充形） ・ — ・ — ・外側 シボリメ・ヘラミガキ 内面 ナデ	良好	φ 3mm以下の長 石・石英、φ 1 mm以下の雲母含 む	10YR6/4にぶい黃 色 ・2.5Y2/1 黒色	・庄内期 ・体部外側に黒 斑あり ・底部内面に煤 付着		
176 - 101 庄内式土器 裸 第3造構面 流 路3	口径 — 残存高 3.05cm 底径 3.5cm（底部充形） ・ — ・ — ・外側 ヘラミガキ 内面 ナデ	良好	φ 3mm以下の長 石・石英・雲母 含む	2.5Y7/2 灰黄色 ・2.5Y7/3 深黄色	・庄内期		
176 - 102 庄内式土器 裸 か壺 第3造構面 流 路3	口径 — 残存高 2.2cm 底径 4.0cm（残存1/10からの回転復原） ・ — ・ — ・外側 指顎圧痕・ナデ 内面 ナデ	良好	φ 2mm以下の長 石・赤色斑粒、 φ 1mm以下の雲 母含む	2.5Y6/4にぶい黃 色 ・2.5Y6/4にぶい黃 色	・庄内期		

固一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部(脚台部・高台)	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
176 - 103 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 - 残存高 4.7cm 底径 3.8cm(残存 1/10からの回転復原) - - - ・外面 ヘラミガキ・指頭圧痕・ナデ 内面 ナデ	良好	φ 3mm以下の長石・ φ 1mm以下の雲母含む	2.516/3にぶい黄色 2.514/1 黄灰色	・庄内期 ・体部～底部内 外面に黒斑あ り
176 - 104 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 - 残存高 2.7cm 底径 2.95cm(残存 1/10からの回転復原) - - - ・外面 ナデ・タタキ(3条/cm) 内面 ナデ・放射状板ナデ	良好	φ 2mm以下の長石・石英含む	2.516/3にぶい黄色 2.516/3にぶい黄色	・庄内期 ・底部外面に黒 斑あり
176 - 105 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 - 残存高 3.3cm 底径 7.4cm(底部充形) - - - ・外面 ナデ 内面 調整不明	良好	φ 3mm以下の長石・石英・ φ 1mm以下の雲母含む	7.5186/3にぶい褐色 10YR7/3にぶい黄 褐色	・庄内期
176 - 106 庄内式土器 庄内 第3造構面 路3	口径 - 残存高 3.2cm 底径 3.6cm(残存 1/5からの回転復原) - - - ・外面 調整不明 内面 調整不明	良好	φ 6mm以下の長石・石英・赤色 斑粒・φ 1mm以下 の雲母含む	5YR7/6 橙色 5YR7/6 橙色	・庄内期 ・底部内外面に 黒斑あり
176 - 107 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 - 残存高 2.8cm 底径 4.3cm(底部残存 2/5からの回転復原) - - - ・外面 タタキ 内面 ナデ	良好	φ 2mm以下の長石・赤色斑粒含 む	5Y4/6 赤褐色 7.5185/4にぶい褐 色	・庄内期 ・体部外面に黒 斑あり ・底部内面に保 付着
176 - 108 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 - 残存高 3.3cm 底径 3.2cm(底部残存 2/5からの回転復原) - - - ・外面 タタキ(3条/cm) 内面 クモの巣状ハケ(条数不明)	良好	φ 3mm以下の長石・赤色斑粒含 む	5YR6/4にぶい橙色 5YR6/4にぶい橙色	・庄内期 ・底部外面に黑 斑あり
176 - 109 庄内式土器 庄内 第3造構面 路3	口径 - 残存高 2.0cm 底径 5.3cm(底部充形) - - - ・外面 ナデ 内面 ナデ	良好	φ 3mm以下の長石・石英・赤色 斑粒・φ 1mm以下 の雲母含む	10YR6/2 淡黃褐色 10YR4/1 鹿灰褐色 2.515/2 煙灰黃色	・庄内期
176 - 110 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 - 残存高 4.2cm 底径 5.0cm(残存 1/5からの回転復原) - - - ・外面 ヘラミガキ・ナデ 内面 板ナデ	良好	φ 2mm以下の長石・石英・ φ 1mm以下の雲母含む	2.517/3 淡黄色 2.512/1 黑色	・庄内期 ・底部外面に 黒斑あり
176 - 111 庄内式土器 庄内 第3造構面 路3	口径 - 残存高 2.2cm 底径 4.9cm(底部 5/6 残存) - - - ・外面 ナデ 内面 板ナデ	良好	φ 2mm以下の長石・石英・ φ 1mm以下の雲母含 む	2.516/3にぶい黄色 2.516/3にぶい黄色	・庄内期 ・体部外面に黒 斑あり ・底部に轉压痕 あり
176 - 112 庄内式土器 庄内 第3造構面 路3	口径 - 残存高 2.25cm 底径 -(底部充形) - - - ・外面 ナデ・ハケ(10条/cm) 内面 ハケ(10条/cm)	良好	φ 4mm以下の長石・石英・赤色 斑粒・φ 1mm以下 の雲母含む	10YR6/3にぶい黃 褐色 7.5186/4にぶい褐 色	・庄内期 ・底部外面に保 付着
176 - 113 庄内式土器 第3造構面 路3	口径 - 残存高 4.15cm 底径 11.4cm(底部残存 1/2からの回転復原) - - - ・外面 ナデ・ハケ(7条/cm) 内面 ナデ・指頭圧痕	良好	φ 4mm以下の長石・石英・ φ 1mm以下の雲母含 む	10YR6/4にぶい黃 褐色 10YR6/4にぶい黃 褐色	・庄内期

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚部台・高台）	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
177 - 114 庄内式土器 小 利裏 第3造構面 滅 路3	口径 - 現存高 6.3cm (全体 1/5 残存) 底径 4.0cm (底部 5/6 残存) ・ - ・ 外面 ナデ 内面 ハケ (3条/cm)	良好	φ 3mm 以下の長 石・石英・1mm 以下の 雲母含む	・10Y86/4 にぶい黄 褐色 ・10Y84/2 灰黄褐色	・庄内期の弥生 系甕 ・体部外面に黒 斑あり
177 - 115 庄内式土器 製 第3造構面 滅 路3	口径 - 現存高 6.0cm 底径 3.5cm (底部充形) ・ - ・ 外面 タタキ 内面 ナデ・クモの巣状ハケ	良好	φ 3mm 以下の長 石・石英・赤色 斑粒含む	・10Y86/3 にぶい黄 褐色 ・10Y86/3 にぶい黄 褐色	・庄内期の弥生 系甕
177 - 116 弥生土器 製か 廻 第3造構面 滅 路3	口径 - 現存高 5.5cm 底径 5.3cm (残存 1/5 からの回転復原) ・ - ・ 外面 ナデ・指頭圧痕 内面 ハラ状工具によるナデ	良好	φ 3mm 以下の長 石・雲母含む	・10Y84/4 褐色 ・2.5S5/3 黄褐色	・畿内第V様式 後半から庄内 期 ・体部内面に程 压痕あり
177 - 117 弥生土器 鉢 第3造構面 滅 路3	口径 - 現存高 2.3cm (全体 9/10 残存) 底径 3.6cm ・ - ・ 外面 ハラ状工具によるナデ・指頭圧痕・ナ デ 内面 ナデ	良好	φ 2mm 以下の長 石・石英・φ 1 mm 以下の雲母含 む	・10Y86/4 にぶい黄 褐色 ・10Y86/4 にぶい黄 褐色	・畿内第V様式 後半から庄内 期
177 - 118 弥生土器 鉢 第3造構面 滅 路3	口径 - 現存高 3.2cm (全体 1/10 残存) 底径 4.1cm ・ - ・ 外面 指頭圧痕・ナデ 内面 ナデ・ケズリ	良好	φ 4mm 以下の長 石・石英含む	・2.5S6/4 にぶい黄 色 ・2.5S6/4 にぶい黄 色	・畿内第V様式 後半から庄内 期
177 - 119 庄内式土器 製 第3造構面 滅 路3	口径 - 現存高 8.9cm 底径 3.8cm (残存 2/5 からの回転復原) ・ - ・ 外面 ナデ・タタキ (3条/cm) 内面 ナデ ・外面 ナデ・タタキ (3条/cm) 内面 放射状板ナデ	良好	φ 3mm 以下の長 石・石英・φ 1 mm 以下の雲母含 む	・10Y86/3 にぶい黄 褐色 ・10Y86/4 にぶい黄 褐色	・庄内期の弥生 系甕 ・体部外面に保 付着
177 - 120 弥生土器 鉢 第3造構面 滅 路3	口径 - 現存高 4.3cm (全体 4/5 残存) 底径 3.3cm ・ - ・ 外面 ヘラミガキ 内面 指頭圧痕・ナデ	良好	φ 3mm 以下の長 石・石英・φ 1 mm 以下の雲母含 む	・10Y85/3 にぶい黄 褐色 ・10Y85/3 にぶい黄 褐色	・畿内第V様式 後半から庄内 期 ・体部内面に黒 斑あり ・体部外面に保 付着すること から複蓋として 転用か
177 - 121 庄内式土器 製 第3造構面 滅 路3	口径 - 現存高 7.1cm (全体 1/3 残存) 底径 3.6cm ・ - ・ 外面 ハケ (6条/cm) 内面 ナデ	良好	φ 4mm 以下の長 石・チャート・φ 1 mm 以下の雲 母含む	・7.5M87/3 にぶい褐 色 ・5Y86/6 褐色	・庄内式 ・体部外面と底 部内面に黒斑 あり
177 - 122 弥生土器 製 第3造構面 滅 路3	口径 3.6cm (残存 1/5 からの回転復原) 現存高 2.9cm 底径 - ・ 外面 ヘラミガキ・ナデ・指頭圧痕 内面 ヘラミガキ ・外面 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ ・ -	良好	φ 2mm 以下の長 石・石英・φ 1 mm 以下の雲母含 む	・7.5M82/1 黒色 ・7.5M82/1 黒色	・畿内第V様式 後半 ・つまみと頂部 内外面に黒斑 あり
177 - 123 弥生土器 製 第3造構面 滅 路3	口径 13.1cm (口縁部残存 1/2 からの回転復原) 器高 5.75cm (全体 4/5 残存) 底径 - ・ 外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 ナデのちヘラミガキ 内面 ヘラミガキ ・ -	良好	φ 2mm 以下の長 石・石英・赤色 斑粒・φ 1mm 以 下の雲母含む	・7.5M85/4 にぶい褐 色 ・2.5M7/3 浅黄色	・畿内第V様式 後半 ・内面全体に黒 斑あり

固一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
177 - 124 弥生土器 台付 甕 第3造構面 渡 路3	口径 - 残存高 5.7cm 底径 7.2cm（脚台部充形） ・ - ・ - ・外側 ハケ（5条/cm）・ナデ・ナデ 内面 ハケのちナデ	良好	φ 1mm以下の長石・石英・雲母含む	・10YR7/4にぶい黄 橙色 ・10YR6/2灰黄褐色	・外米系土器（東海） ・畿内第V様式 ～庄内期 ・甕内面と脚台 外間に黒斑あり
177 - 125 土師器 小形土 器 瓢 第3造構面 渡 路3	口径 - (ほぼ充形) 器高 5.8cm 底径 - ・外側 指頭圧痕のちナデ 内面 指頭圧痕のちナデ ・外側 タタキ（2条/cm）のちナデ 内面 指頭圧痕のちナデ ・外側 指頭圧痕のちナデ 内面 指頭圧痕のちナデ	良好	φ 1mm以下の長石・石英・チャート・赤色斑粒含む	・7.5YR7/6 橙色 ・7.5YR7/6 橙色	・庄内～布留期 ・口縁部～体部 外間に黒斑あり
177 - 126 土師器 小形土 器 瓢 第3造構面 渡 路3	口径 - 残存高 6.6cm（全4/5体残存） 底径 3.2cm ・ - ・外側 ナデ 内面 ナデ ・外側 ケズリ 内面 ナデ	良好	φ 3mm以下の長石・石英・φ 1mm以下の雲母含む	・7.5YR6/6 橙色～ 10YR3/1 黒褐色 ・5YR6/6 橙色	・庄内～布留期 ・底部外間に保 付着 ・底部内面に黒 斑あり
177 - 127 土師器 小形土 器 瓢 第3造構面 渡 路3	口径 6.6cm (ほぼ充形) 器高 6.1cm 底径 - ・外側 指頭圧痕のちナデ 内面 指頭圧痕のちナデ ・外側 タタキ（2条/cm） 内面 ナデ ・外側 指頭圧痕のちナデ 内面 ナデ	良好	φ 1mm以下の長石・石英・チャート・赤色斑粒含む	・7.5YR7/6 橙色 ・7.5YR7/6 橙色	・庄内～布留期
177 - 128 土師器 小形土 器 瓢 第3造構面 渡 路3	口径 7.6cm (ほぼ充形) 器高 7.7cm 底径 - ・外側 ナデ 内面 ナデ ・外側 タタキ（2条/cm）のちナデ 内面 ナデ ・外側 指頭圧痕のちナデ 内面 ナデ	良好	φ 1mm以下の長石・石英・雲母・赤色斑粒含む	・10YR7/3にぶい黄 橙色 ・10YR6/2灰黄褐色	・庄内～布留期 ・口縁部～底部 外間に黒斑あり
177 - 129 土師器 小形土 器 瓢 第3造構面 渡 路3	口径 - 残存高 6.75cm（全体3/5残存） 底径 4.0cm ・外側 指頭圧痕 内面 ナデ ・外側 指頭圧痕・ヘラミガキ 内面 ナデ・指頭圧痕 ・外側 ヘラミガキ 内面 ナデ・指頭圧痕	良好	φ 2mm以下の長石・φ 1mm以下の雲母含む	・10YR6/4にぶい黄 橙色 ・10YR7/2にぶい黄 橙色	・庄内～布留期 ・体部～底部内 面に黒斑あり
177 - 130 土師器 小形土 器 瓢 第3造構面 渡 路3	口径 - 残存高 7.5cm（全体4/5残存） 底径 2.6cm ・ - ・外側 ナデ 内面 ナデ・指頭圧痕 ・外側 指頭圧痕 内面 ケズリ	良好	φ 3mm以下の長石・石英・赤色 斑粒・φ 1mm以下の雲母含む	・5YR6/6 橙色 ・7.5YR7/3にぶい黄 橙色	・庄内～布留期 ・体部～底部内 面に黒斑あり ・底部外間に保 付着
177 - 131 弥生土器 小形 鉢 第3造構面 渡 路3	口径 - 残存高 2.4cm 底径 3.0cm（底部充形） ・ - ・ - ・外側 ナデ・指頭圧痕・穿孔 内面 放射状工具痕	良好	φ 1mm以下の長石・石英含む	・2.5Y7/3 浅黄色 ・2.5Y7/3 浅黄色	・畿内第V様式 後半～庄内期 ・底部に焼成前 穿孔（円孔1 孔）あり
177 - 132 弥生土器 有孔 鉢 第3造構面 渡 路3	口径 - 残存高 3.1cm（全体1/5残存） 底径 4.7cm（底部充形） ・ - ・ - ・外側 ナデ・穿孔 内面 ハケ（7条/cm）	良好	φ 2mm以下の長石・φ 1mm以下の 雲母含む	・10YR6/4にぶい黄 橙色 ・10YR6/4にぶい黄 橙色	・畿内第V様式 後半～庄内期 ・底部に焼成前 穿孔（円孔1 孔）あり

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
177 - 133 弥生土器 有孔 鉢 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 3.3cm 底径 4.6cm（残存1/7からの回転復原） ・ - ・ 外面 タタキ（3条/cm）・穿孔 内面 ハケ（4条/cm）	良好 φ 5mm以下の長石、φ 1mm以下の雲母含む	10YR6/4にぶい黄 橙色 10YR5/6明褐色	・妻内第V様式 後半～庄内期 ・底部に焼成前 穿孔（円孔1孔） あり ・体部内面に黒斑 あり	
177 - 134 弥生土器 有孔 鉢 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 3.3cm（全体1/5残存） 底径 2.4cm（底部完形） ・ - ・ 外面 ナデ・穿孔 内面 ヘラナデ	良好 φ 3mm以下の長石、φ 1mm以下の雲母含む	10YR6/3にぶい黄 橙色 10YR6/3にぶい黄 橙色	・妻内第V様式 後半～庄内期 ・底部に穿孔（円孔1孔） あり ・底部外面上に黒斑 あり	
177 - 135 弥生土器 有孔 鉢 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 5.5cm 底径 3.7cm（残存1/10からの回転復原） ・ - ・ 外面 ナデ・穿孔 内面 ヘラ状工具によるナデ	良好 φ 5mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	7.5YR5/6明褐色 7.5YR5/6明褐色	・妻内第V様式 後半～庄内期 ・底部に焼成前 穿孔（円孔1孔） あり ・底部内外面上に 黒斑あり	
177 - 136 弥生土器 親 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 8.0cm（全体9/10残存） 底径 3.4cm ・ - ・ 外面 タタキ（3条/cm）・ナデ・穿孔 内面 ハケ（4条/cm）	良好 φ 1mmの長石・ 雲母含む	5YR7/6 橙色 5YR7/6 橙色	・妻内第V様式 後半～庄内1式 ・底部に穿孔（円孔1孔） あり	
178 - 137 弥生土器 高杯 第3造構面 流 路3	口径 27.8cm（口縁部残存1/6からの回転復原） 残存高 2.7cm 底径 - ・外面 ナデ・凹織文 内面 ナデ ・外面 ナデ 内面 指頭压痕	良好 φ 2mm以下の長石・石英、φ 1mm以下の雲母含む	2.5Y5/3 黄褐色 2.5Y5/3 黄褐色	・妻内第三～IV 様式 ・口縁部に黒斑 あり	
178 - 138 庄内式土器 高 杯 第3造構面 流 路3	口径 10.6cm 残存高 5.3cm（全体1/2残存） 底径 - ・外面 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ ・外面 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ ・ -	良好 φ 2mm以下の長石・ 石英、φ 1mm以下の雲母含む	10YR6/4にぶい黄 橙色 10YR6/4にぶい黄 橙色	・庄内期 ・楕形高杯 ・口縁部外面上に 黒付着 ・接合法による 脚部接合	
178 - 139 弥生土器 高杯 第3造構面 流 路3	口径 22.8cm（口縁部残存1/2からの回転復原） 残存高 6.0cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 ナデ 内面 ナデ ・ -	良好 φ 4mm以下の長石・石英含む	7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/6 橙色	・妻内第V様式	
178 - 140 庄内式土器 高 杯 第3造構面 流 路3	口径 12.6cm（口縁部5/6残存） 残存高 7.0cm（全体3/4残存） 底径 - ・外面 ナデ・ヘラミガキ 内面 ナデ ・外面 ヘラミガキ 内面 ナデ ・外面 ナデ 内面 ケズリ	良好 φ 6mm以下の長石・赤色斑粒、 φ 1mm以下の雲母含む	7.5YR6/6 橙色 5YR6/6 橙色	・庄内期 ・楕形高杯 ・杯部外面上に保 付着 ・接合法による 脚部接合	
178 - 141 土器部 高杯 第3造構面 流 路3	口径 22.0cm（杯部残存1/4からの回転復原） 残存高 7.5cm 底径 - ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 ハケ（6条/cm）のちヘラミガキ 内面 ハケ（6条/cm）のちヘラミガキ ・ -	良好 φ 2mm以下の長石・赤色斑粒、 φ 1mm以下の雲母含む	10YR7/4にぶい黄 橙色 10YR7/3にぶい黄 橙色	・布留り式 ・接合法による 脚部接合	
178 - 142 庄内式土器 高 杯 第3造構面 流 路3	口径 14.7cm（口縁部3/4残存） 残存高 10.2cm（全4/5残存） 底径 - ・外面 ヘラミガキ ・外面 ヘラミガキ ・外面 ヘラミガキ ・外面 ヘラミガキ 内面 ハケ（6条/cm）	良好 φ 4mm以下の長石・石英・赤色 斑粒、φ 1mm以下 の雲母含む	7.5YR6/6 橙色 5YR6/6 橙色	・庄内期 ・楕形高杯 ・脚台部外面上に 黒斑あり	

図-番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部 / 天井部 ・底部 (脚台部・高台)	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
178 - 143 庄内式土器 形高杯 第3造構面 路3	口径 11.9cm (口縁部残存 1/4 からの回転復原) 底径 4.05cm 底高 - 外面 ナデ 内面 ナデ 外面 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ 内面 -	良好	φ 2mm 以下の長石・赤色斑粒, φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5YR6/4 にぶい橙 色 ・10YR6/3 にぶい黄 橙色	・庄内1式 ・接合法による 脚台部接合
178 - 144 庄内式土器 形高杯 第3造構面 路3	口径 15.8cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 底径 4.8cm (全体 1/7 残存) 底高 - 外面 ナデのちヘラミガキ 内面 ヘラミガキ 外面 ナデのちヘラミガキ 内面 ヘラミガキ 内面 -	良好	φ 2mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄 橙色 ・10YR7/3 にぶい黄 橙色	・庄内3式
178 - 145 庄内式土器 杯 第3造構面 路3	口径 14.95cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 器高 10.7cm (全体 2/5 残存) 底径 10.15cm (脚部 1/3 残存) 底高 - 外面 ナデ 内面 ナデ 外面 ヘラミガキ 内面 ナデ・ヘラミガキ 外面 ヘラミガキ・透孔 内面 ハケ (6 条/cm)	良好	φ 2mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む	・2.5Y7/3 浅黄色 ・2.5Y6/6 橙色	・庄内1式 ・透孔 (円形) 3孔
178 - 146 土器茎 高杯 第3造構面 路3	口径 21.0cm (口縁部残存 1/4 からの回転復原) 底径 6.5cm (残存) 底高 - 外面 ナデ 内面 ナデ 外面 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ	良好	φ 2mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む	・5YR6/6 橙色 ・5YR6/6 橙色	・古墳時代中期 ・楕形高杯
178 - 147 庄内式土器 杯 第3造構面 路3	口径 18.05cm (口縁部残存 1/2 からの回転復原) 底径 9.55cm (全体 9/10 残存) 底高 6.8cm 外面 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ 外面 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ 外面 ヘフミガキ 内面 ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR6/4 にぶい黄 橙色 ・10YR6/4 にぶい黄 橙色	・庄内1式
178 - 148 弥生土器 高杯 第3造構面 路3	口径 22.0cm (残存 2/5 からの回転復原) 底径 8.05cm 底高 - 外面 ナデ 内面 ナデ 外面 ヘラミガキのち一部指頭妊娠 内面 ヘラミガキ 内面 -	良好	φ 4mm 以下の長石・石英・赤色 斑粒、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR5/3 にぶい黄 橙色 ・10YR5/3 にぶい黄 橙色	・畿内第V様式 後半
179 - 149 庄内式土器 杯 第3造構面 路3	口径 20.0cm (口縁部 5/6 残存) 底径 6.2cm (全体 2/5 残存) 底高 - 外面 ナデ 内面 ナデ 外面 ヘフミガキ 内面 ヘラミガキ 内面 -	良好	φ 4mm 以下の長石・石英含む	・5YR5/8 明赤褐色 ・5YR5/8 明赤褐色	・庄内0～1式 ・接合法による 脚台部接合
179 - 150 庄内式土器 杯 第3造構面 路3	口径 19.6cm (杯部 1/2 残存) 底径 5.2cm 底高 - 外面 ナデ 内面 ナデ 外面 ナデ・ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ 内面 -	良好	φ 1mm 以下の長石・石英含む	・2.5YR5/8 明赤褐色 ・2.5YR5/8 明赤褐色	・庄内0～2式
179 - 151 庄内式土器 杯 第3造構面 路3	口径 21.4cm (口縁部残存 1/2 からの回転復原) 底径 6.9cm (全体 1/3 残存) 底高 - 外面 ナデ・ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ 外面 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ 内面 -	良好	φ 5mm 以下の赤色斑粒・長石・ 石英含む	・10YR7/3 にぶい黄 橙色 ・10YR7/3 にぶい黄 橙色	・庄内0～1式

固一番号 器種 出土場所	・口縁部 大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外側 ・内面	備考
179 - 152 庄内式土器 高杯 第3造構面 路3	口径 — (残存 1/3 からの回転復原) 残存高 4.1cm 底径 — ・外側 ハラミガキ ・内面 ハケ (7 条 /cm)・ハラミガキ ・—	良好	φ 3mm 以下の長石・石英・赤色 斑粒含む	・7.5IR6/4 に 55% 橙色 ・7.5IR6/4 に 55% 橙色	・庄内1式 ・接合法による脚台部接合
179 - 153 庄内式土器 高杯 第3造構面 路3	口径 21.2cm (杯部 3/5 残存) 残存高 10.1cm 底径 — ・外側 ハケのちハラミガキ ・内面 ハラミガキ ・外側 ハケのちハラミガキ ・内面 ハラミガキ ・外側 ハラミガキ・透孔 ・内面 ナデ・ハケ (7 条 /cm)	良好	φ 2mm の長石含む	・7.5IR7/4 に 55% 橙色 ・5IR7/6 橙色	・庄内1式 ・透孔 (円形) 4孔
179 - 154 庄内式土器 高杯 第3造構面 路3	口径 19.6cm (残存 1/5 からの回転復原) 残存高 6.1cm 底径 — ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハラミガキ ・内面 ハラミガキ ・—	良好	φ 2mm 以下の長石・赤色斑粒含む	・7.5IR6/4 に 55% 橙色 ・7.5IR6/4 に 55% 橙色	・庄内1式 ・口縁部外側に黒斑あり
179 - 155 弥生土器 高杯 第3造構面 路3	口径 19.7cm (口縁部残存 1/4 からの回転復原) 残存高 3.55cm 底径 — ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 調整不明 ・内面 ハラミガキ ・—	良好	φ 3mm 以下の長石・石英・φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5IR6/4 に 55% 橙色 ・7.5IR5/4 に 55% 橙色	・畿内第V様式
179 - 156 庄内式土器 高杯 第3造構面 路3	口径 18.45cm (口縁部残存 1/12 以下からの回転復原) 残存高 12.7cm (全体 4/5 残存) 底径 — ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハラミガキ ・内面 ハラミガキ ・外側 ハラミガキ ・内面 ケズリ	良好	φ 3mm 以下の長石・石英・赤色 斑粒含む	・10YR7/3 に 55% 黄褐色 ・7.5IR7/4 に 55% 橙色	・庄内1式 ・有段高杯 ・挿入付加法による脚台部接合
179 - 157 土師器 高杯 第3造構面 路3	口径 — (残存 1/5 からの回転復原) 残存高 8.8cm 底径 — ・外側 ナデ・ケズリのちナデ ・内面 ナデ ・外側 ナデ ・内面 ケズリ・ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石・石英・赤色 斑粒・φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR6/6 明黄褐色 ・10YR5/6 黄褐色	・布留 3 ~ 4 式
179 - 158 庄内式土器 高杯 第3造構面 路3	口径 — (杯部残存 2/3) 残存高 3.8cm 底径 — ・外側 ハラミガキ (単位不明) ・内面 ハラミガキ (単位不明) ・—	良好	φ 1mm 以下の石英・雲母・赤色 斑粒含む	・10R5/8 赤色 ・7.5IR7/6 橙色	・庄内1式
179 - 159 庄内式土器 高杯 第3造構面 路3	口径 21.6cm (口縁部残存 1/6 からの回転復原) 残存高 12.4cm 底径 — ・外側 ナデ ・内面 ナデ ・外側 ハケ (6 条 /cm) のちハラミガキ ・内面 ナデ・ハラミガキ ・外側 ハラミガキ・ナデ・ハケ (8 条 /cm) ・内面 ケズリ・ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石・石英含む	・10YR6/4 に 55% 黄褐色 ・10YR6/3 に 55% 黄褐色	・庄内1式 ・有段高杯 ・挿入付加法による脚台部接合
179 - 160 庄内式土器 高杯 第3造構面 路3	口径 — (残存 1/5 からの回転復原) 残存高 13.3cm 底径 12.6cm ・外側 調整不明 ・内面 調整不明 ・外側 調整不明・透孔 ・内面 調整不明	不良	φ 4mm 以下の長石・赤色斑粒含む	・5IR5/8 明赤褐色 ・5IR5/8 明赤褐色	・庄内1式 ・有段高杯 ・透孔 (円形) 14孔

固一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	・口縁部		焼成	胎土	・外側 ・内面		備考
180-161 庄内式土器 高 杯 第3造構面 流 路3	口径 - (残存1/5からの回転復原) 残存高 5.9cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ	良好	φ 2mm 以下の長 石・石英、φ 1 mm 以下の雲母含 む			・10YR6/4 にぶい黄 褐色 ・10YR6/4 にぶい黄 褐色		・庄内期
180-162 庄内器 高杯 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 9.3cm (全体1/2残存) 底径 12.4cm (脚台部完形) ・ - ・ - ・外面 ハケ・ヘラミガキ・透孔 ・内面 ハケ・シボリメ	良好	φ 2mm 以下の長 石・石英、φ 1 mm 以下の雲母含む			・10YR6/3 にぶい黄 褐色 ・10YR6/4 にぶい黄 褐色		・庄内2～布留 1式 ・透孔(円形) 4孔
180-163 庄内土器 高杯 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 12.1cm 底径 - (脚柱部残存) ・ - ・ - ・外面 ヘラミガキ ・内面 ケズリ	良好	φ 2mm 以下の石 英・長石、φ 1 mm 以下の雲母含 む			・10YR6/4 にぶい黄 褐色 ・7.5YR6/4 にぶい褐 色		・畿内第III～IV 様式 ・器台の可能性 あり
180-164 庄内式土器 高 杯 第3造構面 流 路3	口径 - (残存1/10からの回転復原) 残存高 5.5cm 底径 - ・ - ・外面 ヘラミガキ ・内面 ヘラミガキ ・外面 ヘラミガキ ・内面 ケズリ・シボリメ	良好	φ 2mm 以下の長 石・赤色斑粒含 む			・7.5YR7/4 にぶい褐 色 ・10YR3/6 にぶい黄 褐色		・庄内期
180-165 土師器 高杯 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 7.5cm 底径 13.4cm (残存1/3からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ヘラミガキ・透孔 ・内面 ハケ (7条/cm)・ナデ・シボリメ	良好	φ 3mm 以下の赤 色斑粒・長石、 φ 1mm 以下の雲 母含む			・7.5YR7/3 にぶい褐 色 ・10YR8/3 浅黄褐色		・庄内2～布留 1式 ・透孔(円形) 3孔
180-166 庄内器 高杯 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 8.0cm (全体2/5残存) 底径 11.4cm (振部1/4からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ヘラミガキ・透孔 ・内面 ハケ (5条/cm) のちヘラミガキ・シ ボリメ	良好	φ 2mm 以下の長 石・石英、φ 1 mm 以下の雲母含 む			・10YR6/3 にぶい黄 褐色 ・10YR6/4 にぶい黄 褐色		・庄内2～布留 1式 ・透孔(円形) 3孔 ・接合法による 脚台部接合
180-167 土師器 器台か 高杯 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 5.0cm 底径 - (残存1/5からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ナデ ・内面 ナデ	やや 良好	φ 1mm 以下の長 石・雲母含む			・10YR5/4 にぶい黄 褐色 ・10YR5/4 にぶい黄 褐色		・庄内2～布留 1式
180-168 土師器 高杯 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 7.3cm 底径 13.0cm (脚台部残存3/5) ・ - ・ - ・外面 ヘラミガキ・ケズリのちナデ ・内面 ナデ・シボリメ	良好	φ 2mm 以下の長 石・赤色斑粒、 φ 1mm 以下の雲 母含む			・5YR5/4 にぶい赤褐 色 ・5YR6/4 にぶい褐色		・庄内2～布留 1式
180-169 土師器 高杯 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 6.5cm 底径 - (残存1/5からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ヘラケズリのちナデ ・内面 ナデ・シボリメ	良好	φ 4mm 以下の長 石・石英・赤色 斑粒、φ 1mm 以 下の雲母含む			・5YR6/6 橙色 ・5YR6/6 橙色		・庄内2～布留 1式
180-170 土師器 高杯 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 9.5cm 底径 14.6cm (残存2/5からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ヘラミガキ・シボリメ・ナデ・透孔 ・内面 ナデ	良好	φ 4mm 以下の長 石・赤色斑粒、 φ 1mm 以下の雲 母含む			・5YR6/6 橙色～ 5YR3/1 黒褐色 ・5YR6/6 橙色～ 5YR3/1 黑褐色		・庄内2～布留 1式 ・透孔(円形) 4孔 ・瓶部外内面に 黒斑あり ・接合法による 脚台部接合

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部(脚台部・高台)	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
180 - 171 弥生土器 高杯 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 7.8cm 底径 - (脚部残存 1/2からの回転復原) ・ - ・ 外面 ナデ・ヘラミガキ・透孔 内面 ナデ・シボリメ	良好 φ 2mm 以下の長 石・赤色斑粒含 む	・10Y88/2 灰白色 ・10Y88/2 灰白色	・畿内第V様式 後半 ・透孔(1孔)	
180 - 172 弥生土器 高杯 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 9.4cm 底径 - (残存 1/3からの回転復原) ・ - ・ 外面 ヘラミガキ 内面 ハケ(4条/cm)・ナデ・シボリメ	良好 φ 3mm 以下の長 石・石英・赤色 斑粒、φ 1mm 以 下の雲母含む	・5Y86/6 橙色 ・5Y86/6 橙色	・畿内第V様式 後半	
180 - 173 弥生土器 高杯 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 8.4cm 底径 - (残存 1/5からの回転復原) ・ - ・ 外面 ヘラミガキ 内面 ナデ	良好 φ 2mm 以下の長 石・赤色斑粒含 む	・10Y87/6 明黄褐色 ～10Y84/6 橙色 ・10Y84/6 橙色	・畿内第V様式 後半	
180 - 174 庄内式土器 高 杯 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 4.4cm 底径 9.2cm (残存 1/3からの回転復原) ・ - ・ 外面 ヘラミガキ 内面 ナデ ・ 外面 ヘラミガキ・ナデ・透孔 内面 ハケ・シボリメ	良好 φ 3mm 以下の長 石・石英、φ 1 mm 以下の雲母含 む	・10Y86/4 にぶい黄 橙色 ・10Y86/4 にぶい黄 橙色	・庄内1式 ・透孔(円形) 3孔	
180 - 175 庄内式土器 高 杯 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 2.6cm 底径 13.4cm (脚部残存 1/6からの回転復原) ・ - ・ 外面 ヘラミガキ・ナデ 内面 ナデ ・ 外面 ヘラミガキ・ナデ・透孔 内面 ハケ(6条/cm)	良好 φ 2mm 以下の長 石・赤色斑粒、 φ 1mm 以下の雲 母含む	・10Y86/4 にぶい黄 橙色 ・10Y86/4 にぶい黄 橙色	・庄内期 ・透孔(円形) 2孔 ・脚部外面に黒 斑あり	
180 - 176 庄内式土器 高 杯 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 5.0cm 底径 16.8cm (脚部台部残存 2/5からの回転復原) ・ - ・ 外面 調整不明・透孔 内面 ナデ・シボリメ	良好 φ 3mm 以下の長 石・石英、φ 1 mm 以下の雲母含 む	・10Y86/4 にぶい黄 橙色 ・10Y86/4 にぶい黄 橙色	・庄内期 ・透孔(円形) 2孔	
180 - 177 庄内式土器 高 杯 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 4.2cm (全体 1/3残存) 底径 8.2cm (脚部残存 1/2) ・ - ・ 外面 ナデ・ヘラミガキ・透孔 内面 ナデ・ハケ(8条/cm)・ケズリ	良好 φ 2mm 以下の長 石・石英・赤色 斑粒・雲母含む	・2.5Y6/3 にぶい黄 色 ・2.5Y6/3 にぶい黄 色	・庄内1式 ・透孔(円形) 4孔	
180 - 178 庄内式土器 高 杯 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 3.9cm (全体 1/5残存) 底径 16.4cm (脚部残存 1/6からの回転復原) ・ - ・ 外面 ナデ・透孔 内面 ハケ(5条/cm)	良好 φ 2mm 以下の長 石・石英、φ 1 mm 以下の雲母含 む	・10Y86/3 にぶい黄 橙色 ・10Y86/3 にぶい黄 橙色	・庄内期 ・透孔(円形) 1孔	
180 - 179 庄内式土器 高 杯 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 5.8cm (全体 1/5残存) 底径 15.5cm (脚部残存 1/4からの回転復原) ・ - ・ 外面 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ	良好 φ 2mm 以下の長 石・石英、φ 1 mm 以下の雲母含 む	・10Y86/4 にぶい黄 橙色 ・10Y87/3 にぶい黄 橙色	・庄内期 ・充填法による 脚台部接合	
181 - 180 庄内式土器 鋼 鉢 第3造構面 流 路3	口径 18.0cm (口縁部残存 1/12からの回転復 原) 残存高 5.2cm 底径 - ・外腹 波状文・ナデ 内腹 ナデ・波状文(4条/cm) ・外腹 ナデ 内腹 ナデ・波状文(4条/cm) ・ -	良好 φ 4mm 以下の長 石・石英・赤色 斑粒、φ 1mm 以 下の雲母含む	・2.5Y6/3 にぶい黄 色 ・2.5Y6/3 にぶい黄 色	・庄内期	

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外側 ・内面	備考
181-181 弥生土器 鉢 第3造構面 流 路3	口径 16.2cm (口縁部残存 5.6) 器高 7.7cm (全体 9/10 残存) 底径 5.0cm ・外表面 ハケ (6 条/cm) のちナデ ・内表面 ナデ ・外表面 ハケ (6 条/cm) ・内表面 ハケ (7 条/cm) ・指頭圧痕 ・外表面 指頭圧痕・ナデ・ハラケズリ ・内表面 板ナデ	良好 φ 2mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む	10YR6/4 にぶい黄褐色 10YR6/4 にぶい黄褐色	・畿内第V様式 後半～庄内1式	
181-182 土師器 小形丸 底鉢 第3造構面 流 路3	口径 14.8cm (残存 1/2 からの回転復原) 器高 5.75cm 底径 3.4cm ・外表面 ナデ ・内表面 ナデ ・外表面 ナデ ・内表面 ナデ ・外表面 ケズリ ・内表面 ナデ	良好 φ 3mm 以下の長石・石英・赤色斑粒・雲母含む	7.5R6/6 橙色 7.5R6/6 橙色	・布留期 ・底部内面に媒材着	
181-183 弥生土器 鉢 第3造構面 流 路3	口径 15.3cm (残存 2/5 からの回転復原) 器高 6.6cm 底径 3.4cm ・外表面 ナデ ・内表面 ナデ ・外表面 ハラミガキ ・内表面 ハケ (7 条/cm) のちハラミガキ ・外表面 ハラミガキ ・内表面 ハケ (7 条/cm) のちハラミガキ	良好 φ 3mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む	7.5R5/4 にぶい褐色 7.5R5/4 にぶい褐色	・畿内第V様式 後半～庄内1式 ・ドーナツ底	
181-184 弥生土器 小形 の鉢 第3造構面 流 路3	口径 9.0cm (口縁部残存 1/4 からの回転復原) 器高 5.1cm (全体 4/5 残存) 底径 3.4cm ・外表面 ナデ ・内表面 ナデ ・外表面 ナデ ・内表面 ケズリのちナデ ・外表面 ナデ ・内表面 ケズリ・のちナデ	良好 φ 2mm 以下の長石・赤色斑粒、φ 1mm 以下の雲母含む	10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色	・畿内第V様式 後半～庄内1式 ・脚台をもつ	
181-185 弥生土器 小形 の鉢 第3造構面 流 路3	口径 9.9cm (残存 1/2 からの回転復原) 器高 5.45cm 底径 3.4cm ・外表面 ナデ ・内表面 ナデ ・外表面 ナデ ・内表面 ナデ ・外表面 指頭圧痕 ・内表面 板ナデ	良好 φ 3mm 以下の長石・石英・赤色斑粒、φ 1mm 以下の雲母含む	7.5R6/6 橙色 7.5R6/6 橙色	・畿内第V様式 後半～庄内1式	
181-186 庄内式土器 小 形丸底鉢 第3造構面 流 路3	口径 8.4cm (ほぼ完形) 器高 5.7cm 底径 3.4cm ・外表面 ナデ ・内表面 ナデ ・外表面 ハケ (5 条/cm) ・内表面 ナデ ・外表面 ケズリのちナデ ・内表面 ナデ	良好 φ 2mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む	10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色	・庄内期 ・体部～底部外 面に黒斑あり	
181-187 土師器 小形丸 底鉢 第3造構面 流 路3	口径 10.0cm (口縁部残存 2/3) 器高 4.85cm (全体 9/10 残存) 底径 1.9cm ・外表面 ナデ ・内表面 ハケ (5 条/0.5cm) ・外表面 ハケ (5 条/0.5cm) ・内表面 ナデ ・外表面 ハケ (5 条/0.5cm) ・内表面 ナデ	良好 φ 2mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む	10YR7/4 にぶい黄褐色 10YR7/4 にぶい黄褐色	・布留期	
181-188 土師器 小形丸 底鉢 第3造構面 流 路3	口径 9.2cm 器高 6.8cm (全体 2/3 残存) 底径 3.4cm ・外表面 ナデ ・内表面 ナデ ・外表面 指頭圧痕・ハケ (8 条/cm) ・内表面 ハケ (8 条/cm) ・外表面 ケズリのちハラミガキ ・内表面 ハケ (8 条/cm)	良好 φ 1mm 以下の長石・石英・雲母・赤色斑粒含む	7.5Y7/6 橙色 7.5Y7/6 橙色	・布留期	

国一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部 / 天井部 ・底部 (脚台部・高台)	口縁部 焼成 胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
181 - 189 庄内式土器 小形丸底鉢 第3造構面 液路3	口径 17.8cm (口縁部残存 1/2 からの回転復原) 器高 8.6cm (全体 7/10 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (10 条/cm) ・内面 ケズリ ・外面 ハケ (10 条/cm) ・内面 クモの巣状ハケ (8 条/cm)	良好 φ 4mm 以下の長石・石英・赤色斑粒、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5IR6/6 棕色 ・5YR6/6 棕色	・庄内2~3式 ・体部外面上に黒斑あり
181 - 190 土師器 小形丸底鉢 第3造構面 液路3	口径 10.8cm (元形) 器高 6.2cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (9 条/cm) ・内面 ナデ ・外面 ハケ (9 条/cm) ・内面 ナデ	良好 φ 1mm の長石含む	・5YR7/6 棕色 ・5YR6/6 棕色	・布留期
181 - 191 土師器 小形丸底鉢 第3造構面 液路3	口径 - (残存 1/10 からの回転復原) 残存高 6.0cm 底径 - ・外面 調整不明 ・内面 調整不明 ・外面 調整不明 ・内面 調整不明	良好 φ 2mm 以下の長石・石英・赤色斑粒、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5IR4/4 棕色 ・7.5IR4/4 棕色	・布留期
181 - 192 土師器 小形丸底鉢 第3造構面 液路3	口径 15.8cm (残存 1/10 からの回転復原) 残存高 6.7cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・ -	良好 φ 1mm 以下の赤色斑粒・長石・雲母含む	・7.5IR6/6 棕色 ・7.5IR2/1 黑色 ・7.5IR6/4 に 5Y4 棕色	・布留期 ・口縁部へ体部外面上に煤付着
181 - 193 土師器 小形丸底鉢 第3造構面 液路3	口径 18.0cm (残存 3/10 からの回転復原) 残存高 6.5cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ヘラミガキ ・外縁 ナデ・ケズリ ・内面 ヘラミガキ ・ -	良好 φ 1mm 以下の赤色斑粒・長石・雲母含む	・7.5IR6/4 に 5Y4 棕色 ・10YR6/4 に ぶい黄褐色	・布留期 ・体部外面上に煤付着
181 - 194 庄内式土器 大形鉢 第3造構面 液路3	口径 32.2cm (残存 1/5 からの回転復原) 残存高 17.7cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 タタキ (2 条/cm)・ハケ (11 条/cm) のらナデ ・内面 ヘラミガキ ・ -	良好 φ 1mm 前後の長石・石英・チャート含む	・2.5Y7/3 浅黄色 ・2.5Y7/3 浅黄色	・庄内期
182 - 195 庄内式土器 大形鉢 第3造構面 液路3	口径 29.6cm (口縁部残存 1/3 からの回転復原) 残存高 16.0cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ハケ (7 条/cm) ・内面 ケズリ ・ -	良好 φ 3mm 以下の長石・石英、φ 1mm 以下の雲母含む	・2.5Y7/3 浅黄色 ・10YR6/3 に ぶい黄褐色	・庄内3~布留0式 ・二重口縁をもつ外采系鉢 ・口縁部・体部外面上、頸部内面に煤付着
182 - 196 庄内式土器 小形踏台 第3造構面 液路3	口径 9.4cm (ほぼ完形) 器高 11.2cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ヘラミガキ・シボリメ ・内面 ヘラミガキ ・外縁 ナデ・シボリメ・透孔 ・内面 ヘラミガキ・シボリメ	良好 φ 2mm 以下の長石・赤色斑粒、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR6/4 に ぶい黄褐色 ・10YR6/4 に ぶい黄褐色	・庄内3式 ・透孔 (円形) 3孔

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部・天井部 ・底部(脚台部・高台)	口縁部		焼成	胎土	外側 ・内面		備考
		大きさと、調整・施文	体部・天井部			色調	外側 ・内面	
182 - 197 庄内式土器 小 形器台 第3造構面 流 路3	口径 9.5cm 器高 8.05cm (全体 7/10 残存) 底径 10.35cm ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ・ハケ (5条/cm) ・内面 ナデ ・外面 ナデ・透孔 ・内面 ハケ (5条/cm)	良好	φ 2mm 以下の長 石・右英、φ 1 mm 以下の雲母含 む	10YR7/4 にぶい黄 褐色～10YR6/4 にぶ い黄褐色 ・10YR7/4 にぶい黄 褐色～10YR6/4 にぶ い黄褐色		・庄内1～2式 ・透孔(円形) 2孔 ・脚台内部と脚 台部外側に黒 斑あり		
182 - 198 庄内式土器 小 形器台 第3造構面 流 路3	口径 10.6cm (口縁部残存1/4からの回転復原) 残存高 3.4cm (全体 1/5 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ヘラミガキ ・内面 ナデ	良好	φ 3mm 以下の長 石・右英・赤色 斑粒含む	10YR7/6 明黄褐色 ・10YR7/4 にぶい黄 褐色		・庄内2式		
182 - 199 庄内式土器 小 形器台 第3造構面 流 路3	口径 10.0cm (口縁部残存 5/6) 残存高 2.9cm (全体 1/2 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ヘラミガキ ・内面 墓文風ヘラミガキ	良好	φ 2mm 以下の右 英・長石、φ 1 mm 以下の雲母含 む	7.5Y4/6 橙色 ・7.5Y5/6 明褐 色		・庄内2式 ・口縁部外側に 黒斑あり ・接合法による 脚台部接合		
182 - 200 庄内式土器 小 形器台 第3造構面 流 路3	口径 9.4cm (口縁部残存 1/4からの回転復原) 残存高 2.4cm (全体 1/10 残存) 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ヘラミガキ ・内面 ヘラミガキ	良好	φ 3mm 以下の赤 色斑粒・長石含 む	7.5YR5/4 にぶい褐 色 ・7.5YR5/4 にぶい褐 色		・庄内3式		
182 - 201 庄内式土器 小 形器台 第3造構面 流 路3	口径 - (残存 1/3 からの回転復原) 残存高 5.5cm 底径 - ・ - ・外面 ヘラミガキ・透孔 ・内面 ヘラミガキ・ナデ	良好	φ 5mm 以下の長 石・右英含む	7.5YR7/6 橙色 ・7.5YR7/6 橙色		・庄内類 ・透孔(円形) 3孔		
182 - 202 庄内式土器 小 形器台 第3造構面 流 路3	口径 - (残存 1/5 からの回転復原) 残存高 3.5cm 底径 - ・ - ・外面 ナデ・透孔 ・内面 シボリメ	良好	φ 3mm 以下の長 石・右英・赤色 斑粒含む	5YR6/6 橙色 ・2.5YR5/6 明赤褐 色		・庄内類 ・透孔(円形) 3孔		
182 - 203 庄内式土器 小 形器台 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 5.5cm (全体 2/5 残存) 底径 9.4cm (据置残存 1/4 からの回転復原) ・ - ・外面 ヘラミガキ・透孔 ・内面 ヘラミガキ	良好	φ 4mm 以下の長 石・右英含む	7.5YR6/6 橙色 ・7.5YR6/6 橙色		・庄内類 ・透孔(円形) 4孔 ・接合法による 脚台部接合		
182 - 204 庄内式土器 小 形器台 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 5.9cm 底径 9.0cm (残存 1/5 からの回転復原) ・ - ・外面 ナデ・透孔 ・内面 ナデ	良好	φ 3mm 以下の長 石・右英含む	10YR6/4 にぶい黄 褐色 ・10YR6/4 にぶい黄 褐色		・庄内類 ・透孔(円形) 4孔 ・接合法による 脚台部接合		
182 - 205 土師器 小形器 台 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 9.05cm 底径 12.5cm (残存 2/5 からの回転復原) ・ - ・外面 ヘラミガキ ・内面 ナデ・シボリメ	良好	φ 2mm 以下の長 石・右英・1mm 以下 の雲母含む	10YR6/3 にぶい黄 褐色 ・10YR6/3 にぶい黄 褐色		・庄内3～布留 0式 ・脚台部内面に 黒斑あり ・脚台部外側に 煤付着		
182 - 206 土師器 小形器 台 第3造構面 流 路3	口径 - 残存高 7.2cm (全1/3体残存) 底径 12.8cm (瓶部残存 1/2 からの回転復原) ・ - ・外面 ナデのらヘラミガキ ・内面 ナデ・シボリメ	良好	φ 4mm 以下の長 石・右英・φ 1 mm 以下の雲母含 む	7.5YR6/6 橙色 ・7.5YR6/4 にぶい褐 色		・庄内3～布留 0式 ・接合法による 脚台部接合		

団一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚部・高台）	口縁部 焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
182 - 207 土師器 小形器 台 第3遺構面 滝 路3	口径 - 残存高 8.5cm (全体1/2残存) 底径 11.0cm ・外面部 ・内面部 ナデ ・外面部 ・内面部 ナデ	良好 φ 3mm 以下の長 石・石英・赤色 斑紋。φ 1mm 以 下の雲母含む	φ 3mm 以下の長 石・石英・赤色 斑紋。φ 1mm 以 下の雲母含む	516/6 橙色 2.51B6/8 橙色	・庄内3～布留 0式 ・透孔（円形） 3孔
182 - 208 庄内式土器 鉢 形器台 第3遺構面 滝 路3	口径 - 残存高 6.5cm 底径 14.8cm (底部7/10残存) ・ - ・ - ・外面部 ・内面部 ナデ ・内面部 ナデ・ケズリ	良好 φ 1mm 前後の長 石・石英含む	φ 1mm 前後の長 石・石英含む	10YR8/4 浅黄褐色 10YR8/4 浅黄褐色	・庄内期 ・外来系土器
199 - 1 弥生土器 蕎 甕 第4遺構面 遺 構面上	口径 - 残存高 1.4cm 底径 5.2cm (底部残存1/7からの回転復原) ・ - ・ - ・外面部 ・内面部 ナデ ・内面部 ナデ	良好 φ 3mm 以下の長 石・石英・雲母 含む	φ 3mm 以下の長 石・石英・雲母 含む	10YR5/3 にぶい黄 褐色 2.51B8/4 淡黄色	・畿内第III様式 ・ミニチュア土器 の可能性あり
199 - 2 縄文土器 浅鉢 第4遺構面 滝 路4下層	口径 17.4cm (口縁部残存1/6からの回転復原) 残存高 7.0cm 底径 - ・外面部 ・内面部 ナデ・織文 ・外面部 ・内面部 ナデ・ナデ ・外面部 ・内面部 ナデ・指頭圧痕 ・ -	良好 φ 2mm 以下の長 石・石英・赤色 斑紋・雲母含む	φ 2mm 以下の長 石・石英・赤色 斑紋・雲母含む	10YR7/6 明黄褐色 10YR7/4 にぶい黄 褐色	・縄文時代後期 (北白川上層 式)
199 - 3 弥生土器 蕎 甕 第4遺構面 滝 路4下層	口径 20.4cm (残存1/10からの回転復原) 残存高 7.7cm 底径 - ・外面部 ・内面部 ナデ・刻目 ・外面部 ・内面部 指頭圧痕のちナデ・直線文(3条/cm)・ナゲ ・内面部 ナデ・指頭圧痕 ・ -	良好 φ 3mm 以下の長 石・石英・チャ ト含む	φ 3mm 以下の長 石・石英・チャ ト含む	7.51R6/4 にぶい根 色 7.51R7/4 にぶい根 色	・畿内第I様式 中葉
199 - 4 弥生土器 蕎 甕 第4遺構面 滝 路4下層	口径 20.6cm (口縁部残存1/6からの回転復原) 残存高 10.0cm 底径 - ・外面部 ・内面部 ナデ・刻目・指頭圧痕 ・外面部 ・内面部 指頭圧痕 ・外面部 ・内面部 直線文(3条/1.2cm)・ハケ(8条/cm) ・内面部 板ナデ ・ -	良好 φ 3mm 以下の長 石・雲母含む	φ 3mm 以下の長 石・雲母含む	10YR5/3 にぶい黄 褐色 10YR6/4 にぶい黄 褐色	・畿内第I様式 中葉
199 - 5 弥生土器 蕎 甕 第4遺構面 滝 路4下層	口径 40.0cm (口縁部残存1/10以下からの回 転復原) 残存高 6.3cm 底径 - ・外面部 ・内面部 ナデ・刻目 ・外面部 ・内面部 ナデ・指頭圧痕 ・外面部 ・内面部 直線文(3条/1.7cm)・ナデ ・内面部 ナデ ・ -	良好 φ 4mm 以下の長 石・石英・雲母 含む	φ 4mm 以下の長 石・石英・雲母 含む	2.5Y4/2 煙灰黄色 2.5Y3/2 黒褐色	・畿内第I様式 中葉
220 - 1 弥生土器 蕎 甕 第5遺構面 溝 22	口径 - 残存高 2.1cm 底径 7.4cm (底部残存1/10からの回転復原) ・ - ・ - ・外面部 ・内面部 ナデ ・内面部 剥離のため不明	良好 φ 2mm 以下の石 英・長石・φ 1 mm 以下の雲母含 む	φ 2mm 以下の石 英・長石・φ 1 mm 以下の雲母含 む	2.5Y5/3 黄褐色 2.5Y5/2 煙灰黄色	・畿内第III～IV 様式 ・底部外間に線 刻あり
220 - 2 弥生土器 広口 甕 第5遺構面 溝 22	口径 - 残存高 8.9cm (残存1/10からの回転復原) 底径 - ・ - ・外面部 ・内面部 ヘラミガキ・多条ヘラ描沈線(13条) ・ -	良好 φ 3mm 以下の長 石・雲母含む	φ 3mm 以下の長 石・雲母含む	10YR2/1 黑色 10YR7/3 にぶい黄 褐色	・畿内第I様式 新段階 ・頸部内外面に 黒斑あり

固一番号 器種 出土場所	大きさと、調整・施文・体部 / 天井部 ・底部 (脚台部・高台)	口縁部	焼成	胎土	色調		備考
					・外側 ・内面		
230-1 弥生土器 長頸 広口 壺 第6遺構面 遺 構面直上	口径 - (口縁部残存1/10以下) 残存高 2.3cm 底径 - ・外面 ナデ・波状文 (7条 / 0.5cm) ・内面 ナデ -	-	良好	φ 3mm以下の長 石・石英・雲母含む	・7.5R7/6 棕色 ・7.5R7/6 棕色		・畿内第III～IV 様式
253-1 弥生土器 鉢 第7遺構面 遺 構面直上	口径 - (口縁部残存1/10以下) 残存高 3.1cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ヘラミガキ ・外面 ヘラミガキ ・内面 ナデ -	-	良好	φ 2mm以下の長 石・石英・雲母 含む	・10Y86/3に似い黄 褐色 ・10Y86/2に似い黄 褐色		・畿内第I様式 新段階
253-2 弥生土器 壺 第7遺構面 遺 構面直上	口径 - 残存高 2.3cm (体部残存1/10以下) 底径 - ・外面 ナデ・沈線文 (2～3条 / cm) ・内面 ナデ -	-	良好	φ 3mm以下の長 石・石英含む	・2.5S5/2 灰灰黄色 ・2.5S6/3に似い黄 色		・畿内第I様式 新段階
253-3 弥生土器 壺 第7遺構面 遺 構面直上	口径 - 残存高 2.9cm (体部残存1/10以下) 底径 - ・外面 ナデ・沈線文 (3条 / cm) ・内面 ナデ -	-	良好	φ 3mm以下の長 石含む	・10Y86/3に似い黄 褐色 ・10Y86/3に似い黄 褐色		・畿内第I様式 新段階
253-4 弥生土器 壺 第7遺構面 遺 構面直上	口径 14.3cm (残存1/2からの回転復原) 残存高 3.15cm 底径 - ・外面 ヘラミガキ ・内面 ヘラミガキ ・外面 ヘラミガキ ・内面 ヘラミガキ -	-	良好	φ 3mm以下の長 石・雲母含む	・10Y86/2 灰黄褐色 ・10Y86/3に似い黄 褐色		・畿内第I様式 新段階 ・天井部外面上 に焼成前穿孔 1孔あり
253-5 弥生土器 壺 第7遺構面 遺 構面直上	口径 12.8cm (口縁部残存1/10からの回転復 原) 残存高 4.45cm 底径 - ・外面 ナデ・沈線2条 ・内面 ナデ -	-	良好	φ 3mm以下の長 石含む	・5Y85/6 明赤褐色 ・5Y85/6 明赤褐色		・畿内第I様式 新段階
253-6 弥生土器 壺 第7遺構面 遺 構面直上	口径 24.2cm (口縁部残存1/10からの回転復 原) 残存高 5.45cm 底径 - ・外面 刻目・ナデ ・内面 ナデ -	-	良好	φ 3mm以下の長 石・石英・雲母 含む	・7.5Y85/4に似い褐 色 ・7.5Y86/4に似い褐 色		・畿内第I様式 中～新段階 ・口縁部外面上 に黒斑あり ・体部内面上 に煤・炭化物付 着
253-7 土師器 壺 第7遺構面 遺 構面直上	口径 17.8cm (口縁部残存1/7からの回転復原) 残存高 3.5cm 底径 - ・外面 ナデ ・内面 ナデ ・外面 ナデ ・内面 ハケ (8条 / cm)・ヘラケズリ -	-	良好	φ 1mm前後の長 石・石英・雲母 含む	・10Y85/4に似い黄 褐色 ・7.5Y86/4に似い褐 色		・布唇4式 ・長絞化した塵 ・同造構の他出 土遺物から混 入品と思われる
253-8 弥生土器 壺 第7遺構面 遺 構面直上	口径 - 残存高 5.2cm 底径 7.8cm (底部残存1/3からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 調整不明 ・内面 指痕压痕	-	良好	φ 2mm以下の長 石・雲母含む	・2.5S5/2 灰灰黄色 ・2.5S6/2 灰黄色		・畿内第I様式 外面上に黑 斑あり
253-9 弥生土器 壺 第7遺構面 遺 構面直上	口径 - 残存高 2.4cm 底径 7.0cm (底部残存4/5からの回転復原) ・ - ・ - ・外面 ナデ ・内面 ナデ	-	良好	φ 6mm以下の長 石・チャート含 む	・5Y86/4に似い褐色 ・7.5Y85/1 棕灰色		・畿内第I様式 新段階

団一番号 器種 出土場所	・口縁部 大きさと、調整・施文・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外側 ・内面	備考
253 - 10 弥生土器 蕤 第7遺構面 遺 構面直上	口径 - 残存高 1.9cm 底径 5.7cm（底部残存1/6からの回転復原） ・ - ・外側 ナデ 内面 指頭圧痕	良好	φ 3mm以下の長 石・石英含む	・2.5Y5/2 暗灰黄色 ・2.5Y7/3 淡黄色	・畿内第1様式 ・底部外面に保 付着
253 - 11 弥生土器 蕤 第7遺構面 遺 構面直上	口径 - 残存高 3.9cm 底径 8.0cm（底部はほぼ完形） ・ - ・外側 板ナデのちナデ・ナデ 内面 ナデ	良好	φ 4mm以下の長 石・雲母含む	・10YR5/2 暗黄褐色 ・10YR6/4 にぶい黄 褐色	・畿内第1様式 新段階
253 - 12 弥生土器 蕤 第7遺構面 遺 構面直上	口径 - 残存高 4.3cm（全体1/7残存） 底径 9.6cm（底部完形） ・ - ・外側 ナデ 内面 ナデ	良好	φ 3mm以下の長 石・雲母含む	・7.5YR6/4 にぶい相 色 ・10YR5/3 にぶい黄 褐色	・畿内第1様式 新段階
253 - 13 弥生土器 蕤 第7遺構面 遺 構面直上	口径 - 残存高 5.0cm 底径 8.4cm（底部残存1/4からの回転復原） ・ - ・外側 ナデ 内面 ナデ	良好	φ 6mm以下の長 石・雲母・赤色 斑粒含む	・7.5YR7/6 橙色 ・3YR7/4 にぶい相 色	・畿内第1様式
253 - 14 弥生土器 蕤 第7遺構面 遺 構面直上	口径 - 残存高 2.6cm 底径 2.6cm（底部残存1/4からの回転復原） ・ - ・外側 ナデ 内面 ナデ・指頭圧痕	良好	φ 2mm以下の長 石・石英含む	・2.5Y2/1 黒色 ・2.5Y5/2 暗灰黄色	・畿内第1様式 ・底部外面に保 付着
253 - 15 弥生土器 無頭 蓋 第7遺構面 遺 構面直上	口径 9.0cm（口縁部1/2残存） 残存高 8.1cm（全体3/5残存） 底径 5.35cm ・外側 ナデ・穿孔 内面 ナデ・指頭圧痕 ・外側 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキのちナデ ・外側 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキのちナデ	良好	φ 6mm以下の長 石含む	・7.5YR6/4 にぶい相 色 ・10YR6/3 にぶい黄 褐色	・畿内第1様式 ・口縁部の対角 線上に2孔ずつ の穿孔あり
253 - 16 弥生土器 ミニ チュア土器 鍋 第7遺構面 遺 構面直上	口径 3.8cm（ほぼ完形） 残存高 2.9cm 底径 1.4cm ・外側 ナデ 内面 ナデ ・外側 ナデ 内面 ナデ ・外側 ナデ 内面 ナデ	良好	φ 4mm以下の長 石・雲母・チャーブ 含む	・7.5YR8/2 暗白色 ・7.5YR7/2 明褐色	・畿内第1様式
253 - 17 弥生土器 蕤 第7遺構面 遺 構面直上	口径 - 残存高 4.9cm 底径 11.8cm（底部2/5残存） ・ - ・外側 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ	良好	φ 1～2mmの長 石・石英含む	・2.5Y5/3 黄褐色～ 2.5Y2/1 黒色 ・5Y5/1 灰色	・畿内第1様式
253 - 18 弥生土器 蕤 第7遺構面 清 29	口径 -（口縁部1/10残存） 残存高 5.4cm 底径 - ・外側 刻目・指頭圧痕・ハケ（9条/cm） 内面 ナデ ・ -	良好	φ 3mm以下の長 石・雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄 褐色 ・10YR6/3 にぶい黄 褐色	・畿内第1様式 ・織文系の深鉢 の可能性あり
253 - 19 弥生土器 蕤 第7遺構面 清 29	口径 - 残存高 16.0cm（全体4/5残存） 底径 7.35cm ・ - ・外側 多条のヘラ描沈線（4条）2巡・ナデ・ ヘラミガキ 内面 ナデ ・外側 ヘラミナデ 内面 ナデ	良好	φ 4mm以下の長 石・石英・赤色 斑粒含む	・10YR7/3 にぶい黄 褐色 ・10YR7/3 にぶい黄 褐色	・畿内第1様式 新段階 ・体部外面に黒 斑あり

別表2-3 第4次調査第8遺構面土器棺 細部の観察結果一覧表

機器名	番号	構成部品	口径(cm)	器具高(cm)	口縁部		口縁部 調整 スクリュー	端部部 調整 スクリュー	口縫部 合せの 距離	凸筋高さ 部幅	凸筋高さ 部幅	内面	小面部調整		調節
					上部	下部							上部	下部	
308-1	上部相應01	胸部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	垂直束縛
309-2	上部相應02	口縫部～ 乳頭部	37.8	42.6	縫	0字	2mm	5mm	10mm	2mm	5mm	上部半月形	○	○	長期間初頭
310-3	上部相應03	直部～ 延部	長径 34.4	面	逆D字	7mm	8mm	9mm	3mm	4mm	0字	○	○	○	上部：胸 下部：腹
311-4	上部相應04	口縫部～ 胸部	28.0	-	面	0字	3mm	2mm	9mm	5mm	△	△	△	△	上部：胸 下部：腹
312-5	上部相應05	口縫部～ 乳頭部	36.0	-	縫	逆D字	4mm	7mm	12mm	5mm	3mm	△	△	△	△
313-6	上部相應05	口縫部～ 直部	26.2	43.2	丸	0字	4mm	5mm	12mm	5mm	3mm	△	△	△	△
314-7	上部相應06	口縫部～ 直部	32.0	34.2	面	1字 (竹管)	4mm	5mm	7mm	4mm	△	△	△	△	上部ヨコナード
315-8	上部相應07	口縫部～ 直部	24.7	37.8	面	V字	4mm	7mm	3mm	△	△	△	△	△	外面部上部 内面部下部
316-9	上部相應07	口縫部	34.4	44.7	面	通じ0	6mm	5mm	9mm	4mm	△	△	△	△	△
317-10	上部相應08	口縫部～ 直部	37.2	42.6	丸	通じ0	3mm	5mm	8mm	4mm	△	△	△	△	△

図-番号	遺構名	部位	口縁部				凸唇部				凸脣調整部				調査部				備考
			口径 (mm)	器高 (mm)	口縁部 調整 割み	端部幅 員溝	口縁部 小らぎ	凸唇部 端部幅 員溝	切み	上端 下端	口須部	須脚部界	脚部						
318-11	土器柄裏109	口縁部～ 脚部	30.6	-	前い3 コナデ	4mm	4mm	9.5mm 4mm	2mm	0字	凸唇部 貼り付け 液、割み により貼 り付け	ヨコケズリ	タテケズリ	點土斑合痕目 立つ					
319-12	土器柄裏10	口縁部～ 脚部	21.6	14.6	丸	-	-	-	-	-	-	-	-		外面部ケズリ				底部形変跡
319-13	土器柄裏10	口縁部～ 脚部	25.6	26.8	丸	なし	3mm	5mm	10mm	3mm なし	○	○	ヨコケズリ	曲のみで タテケズリ 表現					底部形 変跡
320-14	土器柄裏11	口縁部～ 脚部	38.2	50.8	面	連続性 円形	6mm	5mm	9mm	3mm	0字	○	○	ヨコナデ	ヨコケズリ	タテケズリ			山ノ寺代に近い 影形
321-15	土器柄裏12	口縁部～ 脚部	22.0	-	丸	なし	2mm	3mm	8mm	新丸三 角	△	二枚貝殻形 刺突	ヨコケズリ	タテケズリ	タテケズリ			深部穿孔なる 部へ三重帆山開 口部分か？合 巻貝殻	
321-16	土器柄裏12	脚部～底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨコケズリ	ヨコケズリ	ヨコケズリ		土器形	
322-17	土器柄裏13	口縁部～ 脚部	32.0	-	丸	0字	6mm	5mm	9mm	4.5mm 3mm	0字	△	タテナデ後ヨ コナデ	ヨコナデ	ヨコケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	須脚部界の段が 不規則	
323-18	土器柄裏14	口縁部～ 脚部	39.4	46.7	面	0字	6mm	5mm	10mm	5mm	0字	○	直ヨコナデ	ヨコケズリ	タテケズリ			口部内面のヨコ ナデが頗る直 面現存	
324-19	土器柄裏15	口縁部～ 脚部	38.0	48.7	面	0字状	8mm	6mm	10mm	4.5mm 5mm	横円形 D字	○	ヨコナデ	ヨコケズリ	タテケズリ	タテケズリ			
325-20	土器柄裏16	口縁部～ 脚部	38.0	46.2	丸	なし	2mm	0mm	10mm	4mm 3mm	0字	△	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			
326-21	土器柄裏17	脚部～底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	タテナデ	ヨコケズリ	ヨコケズリ		土器外側化物 多量に付着	
326-22	土器柄裏18	脚部～底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	底部種子玉頭一 一	
326-23	土器柄裏19	口縁部～ 脚部	18.0	21.1	丸	なし	4mm	0～ 2mm	8mm	4mm 2mm	3mm 4mm	○	○	タテナデ後ヨ コナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	部分的ヨコ ケズリ	
327-24	土器柄裏20	口縁部～ 脚部	31.8	43.0	丸	なし	4mm	2mm	10mm	4mm	0字	○	○	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコケズリ	
328-25	土器柄裏21	口縁部～ 脚部	28.2	32.6	円柱形 なし	4mm	2mm	10mm	5mm	通底D字	○	△	ヨコナデ	ヨコケズリ	ヨコケズリ	ヨコケズリ	ヨコケズリ	底部付着	

別表2-4 第4次調査第9・10遺構面・第5次調査出土土器 観察表

凡例

1. 器面の調整については、以下に示す識別基準にそって記載した。
  - ケズリ：器面の荒れが大きく、砂粒の移動痕跡がみえるもの。
  - 巻貝条痕：細く密で、不均等なスジ状痕跡がみえるもの。
  - 二枚貝条痕：等間隔のスジ状痕跡がみえるもの。
  - ナデ：微細な線状痕跡がみえるもの。
  - ミガキ：にぶい光沢をもち、調整単位が明瞭なもの。
  - 準ミガキ：にぶい光沢をもつが、調整単位が不明瞭なもの。
2. 器壁の厚みについては、口頸部（口縁端部から5～10cm程度下部）、胸部上半（体部最大径付近）、胸部下半（底部から10～15cm程度上部）の三ヶ所で計測した。いずれの部位も、残存部のうちで標準的とみえる部分を2～3箇所選択して計測し、平均値をとった。
3. 沈線については、以下に示す断面形の識別と、沈線幅の計測をおこなった。沈線幅の計測は、標準的とみえる部分を2～3箇所選択して計測し、平均値をとった。
  - U字形：沈線の底部が丸くおさまるもの。
  - V字形：沈線の底部が尖るもの。
  - 四線：沈線内にナデやミガキを加え、幅広の沈線となるもの。
4. 繩文については、撚りの方向と、節および条の幅を計測した。計測に際しては、標準的とみえる部分を2～3箇所選択し、いずれも二つ分を計測したうえで、その平均値をとった。
5. 砂粒については、寺沢黒編『矢部遺跡』（寺沢1986）で採られた方法および基準を援用した。胎土の観察には、30倍のライトスコープを使用し、土器の胎土中に含まれる鉱物の大きさ・量について以下の基準に則して記載した。

[鉱物の大きさ]

  - LL：肉眼でも容易に認識可能な径2.0mm以上の砂粒で、スコープにおさまりきらないほどの大きさのもの。
  - ①：肉眼観察でも径1.0mm～2.0mmの砂粒として確認できるもので、スコープではその多くを占めるもの。
  - L：肉眼観察で径1.0mm弱に確認できるもので、スコープでは巨大な塊として見られるもの。
  - M：肉眼観察において径0.5mm程度に確認できるもので、スコープでは大きな粒子として確実に観察されるもの。
  - S：肉眼では殆ど判明できないか、スコープでは小さな粒子として十分観察しうるもの。
  - ⑤：肉眼では全く分からない。スコープではピンホール程度にかすかに観察できる。

[鉱物の量]

  - 0：観察では全く確認できなかつたか、殆ど存しないに等しい。
  - 1：極めて希少でありスコープ内に入らないこともままある。点在。
  - 2：少ない。スコープ内には必ず入ってくるが、その量は数えられる程度である。散在しない偏在。
  - 3：スコープ内には、必ず入り、数えられる量ではない。普遍的に認められるが、間隔は粗である。
  - 4：多い。スコープ内に際立って目立つ存在である。普遍的に認められ、その間隔は密である。
  - 5：極めて多量である。スコープ全面に密集してみられる。鉱物が互いに接するものもある程度である。
6. 色調については、外面・断面・内面について、標準土色帖をもじいて識別した。

図一一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈線	縦文	砂粒					色調	備考
		・外面 ・内面	・口頭部 ・脚部上半 ・脚部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・盛り ・間隔 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母 角閃石	チャート	赤色斑粒	その他	・外面 ・断面 ・内面	

### 第9遺構面

361 - 1	深鉢 南3区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・7.5 ・— ・—	・U字形 ・4.5 ・—	・LR ・5.5 ・6.0	LL 4	M ① 3	0	L 1	0	花 LL 2	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR7/2
361 - 2	深鉢 南3区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・6.0 ・— ・—	・U字形 ・3.5 ・—	なし	L 2	M 1	0	0	M 1	花 LL 2	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2
361 - 3	深鉢 南3区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・6.5 ・0 ・0	・U字形 ・5.0 ・—	なし	LL 3	S 2	0	L 3	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2
361 - 4	深鉢 南3区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・7.5 ・— ・—	・U字形 ・3.0 ・—	なし	LL 3	M — L 2	0	0	0	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2
361 - 5	深鉢 南1区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・— ・—	・U字形 ・5.0 ・—	・LR	L —	S —	0	0	0	花 LL 2	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1
361 - 6	深鉢 南3区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・5.5 ・— ・—	・U字形 ・4.0 ・—	なし	① 3	M — L 1 3	0	0	0	花 LL 2	・10YR4/1 ・10YR7/2 ・10YR4/1
361 - 7	深鉢 南4区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・6.0 ・— ・—	・U字形 ・4.0 ・—	・LR	L —	S —	0	L 2	0	花 LL 2	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1
361 - 8	深鉢 南3区 遺構面上	・ナデ ・—	・— ・— ・—	・U字形 ・5.0 ・—	・LR	L —	S —	0	0	0	花 LL 2	・10YR7/2 ・10YR4/1 ・—
361 - 9	深鉢 南1区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・— ・—	・U字形 ・3.5 ・—	なし	M — LL 3	S — M 2	0	0	0	花 L — LL 2	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR4/1
361 - 10	深鉢 南1区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・7.5 ・— ・—	・U字形 ・4.0 ・—	なし	M — LL 3	S — ① 3	0	0	0	花 ① 2	・2.5Y7/6 ・5YR2/1 ・10YR4/1
361 - 11	深鉢 南1区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・9.5 ・— ・—	・U字形 ・4.0 ・—	・LR	M —	S —	0	0	0	花 ② 2	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・10YR4/1
361 - 12	深鉢 南3区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・7.5 ・— ・—	・四字形 ・4.0 ・—	・LR	M — ① 3	S — 2	0	S 1	0	0	・7.5YR3/3 ・10YR4/1 ・10YR7/2
361 - 13	深鉢 南1区 遺構面上	・ナデ ・準ミガキ	・6.5 ・— ・—	・U字形 ・4.0 ・—	なし	S — ① 3	S — M 5	0	0	0	0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3
361 - 14	深鉢 南4区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・— ・—	・U字形 ・3.0 ・—	・Lr	S — LL 3	S — ① 3	0	0	0	花 ③ 3	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2
361 - 15	深鉢 南3区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・9.5 ・— ・—	・U字形 ・3.5 ・—	なし	M — LL 3	S — L 3	0	0	0	花 ① 1	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2

図一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈綻	縦文	砂粒					色調	備考
		・外面 ・内面	・口頭部 ・脚部上半 ・脚部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・盛り ・間幅 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート	赤色斑粒	その他	・外面 ・断面 ・内面
361-16 南3区 遺構面上	深鉢 口縁部 I群C類	・ナデ ・ナデ	・8.5 ・— ・—	・U字形 ・4.5 ・5.0	・LR ・— ・—	S LL 3	S L 3	0 0	0 0	0 0	0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3
361-17 南4区 遺構面上	深鉢 口縁部 I群C類	・ナデ ・ナデ	・7.5 ・— ・—	・U字形 ・4.5 ・—	・LR? ・— ・—	M LL 3	S ① 4	0 0	0 0	0 0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1
362-18 南3区 遺構面上	深鉢 口縁部 I群C類	・ナデ ・ナデ	・7.5 ・— ・—	・U字形 ・4.0 ・—	なし	S LL 3	M 2	0 0	0 0	0 0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2
362-19 南3区 遺構面上	深鉢 口縁部 I群C類	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・— ・—	・U字形 ・3.0 ・—	・LR ・— ・—	S LL 3	M 1	S 3	0 0	0 0	0	・2.5Y5/8 ・外間に二 次被熱 ・5YR2/1 ・10YR7/2
362-20 南3区 遺構面上	深鉢 口縁部 I群C類	・準ミガキ ・準ミガキ	・7.5 ・— ・—	・U字形 ・3.5 ・—	なし	M LL 4	S 2	S M 4	0 0	0 0	M ① 2	・7.5YR3/3 ・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3
362-21 南3区 遺構面上	深鉢 口縁部 I群C類	・準ミガキ ・準ミガキ	・7.5 ・— ・—	・U字形 ・3.5 ・—	なし	M LL 4	S 2	S M 4	0 0	0 0	M ① 2	・7.5YR3/3 ・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3
362-22 南3区 遺構面上	深鉢 口縁部 I群C類	・準ミガキ ・準ミガキ	・7.5 ・— ・—	・U字形 ・3.5 ・—	なし	M LL 4	S 2	S M 4	0 0	0 0	M ① 2	・7.5YR3/3 ・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3
362-23 南3区 遺構面上	深鉢 制頭 I群C類	・準ミガキ ・準ミガキ	・— ・7.5 ・—	・U字形 ・3.5 ・—	なし	M LL 4	S 2	S M 4	0 0	0 0	M ① 2	・7.5YR3/3 ・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3
362-24 南3区 遺構面上	深鉢 口縁・脚部 I群C類	・準ミガキ ・準ミガキ	・7.5 ・7.5 ・—	・U字形 ・3.5 ・—	なし	M LL 4	S 2	S M 4	0 0	0 0	M ① 2	・7.5YR3/3 ・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3
363-25 南3区 遺構面上	深鉢 口縁～頭部 I群D類	・ナデ ・ナデ	・7.5 ・— ・—	・U字形 ・3.0 ・—	・LR ・— ・—	M ① 4	M L 2	0 0	M L 2	0 0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1
363-26 南3区 遺構面上	深鉢 口縁部 I群D類	・ナデ ・ナデ	・6.0 ・— ・—	・U字形 ・2.0 ・—	・RL ・— ・—	M ① 3	S M 4	0 M 2	0 0	0 0	0	・10YR7/2 ・10YR7/2 ・10YR7/2
363-27 南3区 遺構面上	深鉢 口縁部 I群D類	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・— ・—	・U字形 ・3.5 ・—	なし	S L 3	S M 2	0 M 2	M L 2	0 0	0	・10YR7/2 ・10YR7/2 ・10YR7/2
363-28 南3区 遺構面上	深鉢 口縁部 I群D類	・ナデ ・ナデ	・5.5 ・— ・—	・U字形 ・4.0 ・—	なし	S LL 4	S ① 3	0 0	L 1	0 0	0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・10YR7/2
363-29 南3区 遺構面上	深鉢 口縁部 I群D類	・ナデ ・ナデ	・5.0 ・— ・—	・U字形 ・2.0 ・—	なし	S LL 3	S L 3	S M 2	S M 2	0 0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・5YR2/1
363-30 南3区 遺構面上	深鉢 口縁～頭部 I群D類	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・— ・—	・門字形 ・4.0 ・—	・LR ・4.0 ・—	S LL 3	M 1	S L 5	0 0	0 0	問 ① 2	・7.5YR3/3 ・10YR4/1 ・7.5YR3/3
363-31 南3区 遺構面上	深鉢 口縁部 I群D類	・ナデ ・ナデ	・7.5 ・— ・—	・U字形(内 面突出) ・4.0	なし	M LL 3	M L 2	S M 2	0 M 1	0 L 1	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2

図一一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈継	縦文	砂粒					色調	備考
		・外面 ・内面	・口頭部 ・脚部上半 ・脚部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・盛り ・凹幅 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート	赤色斑粒	その他	・外面 ・断面 ・内面
363-32 南1区 遺構面上	深鉢 口縁部 I群D類	・ナデ ・ナデ	・6.5 ・— ・2.5 ・— ・4.5 ・—	・U字形 ・— ・V字形 ・— ・— ・—	・LR ・— ・5.0 ・— ・4.5 ・—	S IL 3	S L 3	0 (1) 2	L — —	L — —	0 0 0	・10YR7/2 ・10YR4/1 ・10YR7/2
363-33 南1区 遺構面上	深鉢 口縁部 I群D類	・ナデ ・ナデ	・9.0 ・— ・2.0 ・— ・—	・U字形 ・— ・V字形 ・— ・—	・LR ・— ・M ・(1) 3	M — 3	M — 3	0 (1) 2	L — —	0 0 0	・10YR7/2 ・10YR4/1 ・10YR7/2	
364-34 南3区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 I群E類	・ナデ ・ナデ	・6.5 ・— ・4.0 ・— ・5.0 ・—	・U字形 ・— ・V字形 ・— ・— ・—	・LR ・— ・4.0 ・— ・5.0 ・—	M LL 4	M L 3	0 L 1	M — —	0 LL 2	花 — —	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2
364-35 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 I群E類	・ナデ ・ナデ	・6.5 ・— ・3.0 ・— ・—	・U字形 ・— ・V字形 ・— ・—	・LR ・— ・M ・LL 4	M LL 4	M L 1	0 M —	M — —	0 LL 1	花 — —	・10YR7/2 ・10YR4/1 ・10YR7/2
364-36 南3区 遺構面上	深鉢 口縁部 I群E類	・ナデ ・ナデ	・6.0 ・— ・4.0 ・— ・—	・U字形 ・— ・V字形 ・— ・—	・LR ・— ・M ・(1) 3	S L 3	0 L 3	0 0 0	0 M —	0 O —	花 — —	・5YR2/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1
364-37 南3区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 I群E類	・ナデ ・ナデ	・8.0 ・— ・2.5 ・— ・3.0 ・— ・4.0 ・—	・U字形 ・— ・V字形 ・— ・— ・— ・— ・—	・LR ・— ・M ・LL 3	M LL 3	S L 3	0 M —	M — —	0 O —	花 — —	・10YR4/1 ・397-58 ・5YR2/1 ・同一側体 ・10YR4/1 か
364-38 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 I群E類	・ナデ ・ナデ	・6.5 ・— ・3.5 ・— ・5.0 ・—	・U字形 ・— ・V字形 ・— ・— ・—	・LR ・— ・M ・LL 3	M LL 3	S L 4	0 M —	M — —	0 O —	花 — —	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR7/2
364-39 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 I群E類	・ナデ ・ナデ	・6.5 ・— ・3.5 ・— ・4.0 ・—	・U字形 ・— ・V字形 ・— ・— ・—	・LR ・— ・M ・(1) 3	M O 3	S L 3	0 M —	M — —	0 L 1	— — —	・10YR7/2 ・外面にス ・10YR4/1 ・付着 ・10YR7/2
364-40 南1区 遺構面上	深鉢 口縁部 I群E類	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・— ・3.5 ・— ・—	・U字形 ・— ・V字形 ・— ・—	・LR ・— ・M ・(1) 3	S S L 3	S O L 3	0 M —	M — —	0 O —	— — —	・10YR7/2 ・10YR4/1 ・10YR7/2
364-41 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 I群E類	・ナデ ・ナデ	・5.0 ・— ・4.0 ・— ・—	・U字形 ・— ・V字形 ・— ・—	・LR ・— ・M ・(1) 3	M S L 3	S O L 2	0 M —	M — —	0 M —	— — —	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3
364-42 南1区 遺構面上	深鉢 口縁部 I群E類	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・— ・3.0 ・— ・—	・U字形 ・— ・V字形 ・— ・—	・LR ・— ・M ・LL 3	M S L 3	S O L 4	0 M —	M — —	0 O —	— — —	・10YR7/2 ・内面にコ ・5YR2/1 ・付着 ・7.5YR3/3
364-43 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 I群E類	・ナデ ・ナデ	・4.5 ・— ・2.0 ・— ・5.5 ・—	・U字形 ・— ・V字形 ・— ・— ・—	・RL ・— ・M ・LL 3	S S L 3	S O L 2	0 M —	M — —	0 M —	— — —	・10YR7/2 ・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3
365-44 南3区 遺構面上	深鉢 制部 I群	・ナデ ・ナデ	・— ・5.5 ・— ・—	・U字形 ・— ・3.5 ・— ・4.5 ・—	・LR ・— ・M ・LL 4	S S M L 4	M O L 3	0 M —	L — —	0 O —	— — —	・10YR4/1 ・10YR7/2 ・10YR4/1
365-45 南3区 遺構面上	深鉢 制部 I群	・ナデ ・ナデ	・— ・7.0 ・— ・—	・U字形 ・— ・3.5 ・— ・—	・LR ・— ・M ・LL 3	S S M L 3	S L 2	0 M —	M — —	0 O —	— — —	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2
365-46 南1区 遺構面上	深鉢 制部 I群	・ナデ ・ナデ	・— ・8.0 ・— ・—	・U字形 ・— ・6.0 ・— ・—	・LR ・— ・M ・LL 4	S S M L 4	S S L 2	0 M —	S L 2	0 O —	— — —	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1
365-47 南4区 遺構面上	深鉢 制部 I群	・ナデ ・ナデ	・— ・7.0 ・— ・—	・U字形 ・— ・3.0 ・— ・—	・LR ・— ・M ・LL 4	S S M L 4	S M L 2	0 M —	L — —	0 O —	— — —	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・7.5YR6/3

図一一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈線	縦文	砂粒					色調	備考
		・外側	・口頭部	・断面形	・盛り	石英 長石	雲母	角閃石	チャート	赤色斑粒	・外側	
		・内面	・胸部上半	・幅 mm	・凹み						・	
						・幅 mm	・条幅 mm	・	・	・	・	
365-48	深鉢 南1区 遺構面上 I群	・ナデ ・ナデ	・— ・8.0 ・—	・U字形 ・5.5 ・—	・LR ・4.0 ・6.0	S LL 4	0 ・ 2	0 ・ 2	M L 1	0 L 1	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2	・胎上に表 母を含まな い
365-49	深鉢 南3区 遺構面上 I群	・ナデ ・ナデ	・— ・— ・7.5	・U字形(内 面突出) ・— ・5.0	・LR ・LL 4 3	S ・ LL 4 3	S ・ M L 1	0 ・ 2	M L 1	0 L 1	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・7.5YR6/3	
365-50	深鉢 南3区 制部 遺構面上 I群	・ナデ ・ナデ	・— ・5.5 ・—	・U字形 ・2.5 ・—	・LR ・LL 4 4	S S M L 1	S S M L 1	0 ・ 2	0 ・ 1	0 L 0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3	
366-51	深鉢 南1区 口縁～胸部 遺構面上 II群A類	・ナデ ・ミガキ	・8.0 ・7.0 ・—	・U字形 ・3.5 ・—	・LR ・LL 3 3	S S L L 1	S S M L 0	0 ・ 2	L 0	0 0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3	
366-52	深鉢 南1区 口縁～胸部 遺構面上 II群A類	・ナデ ・ナデ	・6.0 ・5.0 ・—	・U字形 ・3.0 ・—	・LR ・LL 3 3	S S M L 1	S S M L 1	0 ・ 2	0 ・ 0	0 0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・5YR2/1	
366-53	深鉢 南1区 口縁～胸部 遺構面上 II群A類	・ナデ ・ナデ	・7.5 ・8.0 ・—	・U字形 ・3.5 ・—	・RL ・LL 3 4	S S L L 1	S S M L 1	S S M L 1	M M L 1	0 0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
366-54	深鉢 南1区 口縁～胸部 遺構面上 II群A類	・ナデ ・ナデ	・6.5 ・6.0 ・—	・U字形 ・3.5 ・—	・LR ・LL 3 3	S S M L 1	S S M L 1	S S M L 1	0 0	0 0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
366-55	深鉢 南1区 口縁部 遺構面上 II群A類	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・— ・—	・U字形 ・4.0 ・—	・LR ・IL 3 3	S S M L 1	S S M L 1	S S M L 1	0 L 2	0 0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3	
366-56	深鉢 南1区 制部 遺構面上 II群A類	・ナデ ・ナデ	・— ・8.5 ・—	・U字形 ・3.0 ・—	・LR ・LL 3 3	S S M L 2	S S M L 2	S S M L 2	M M L 0	0 0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR7/2	・外面スヌ 付着
367-57	深鉢 南1区 口縁～胸部 遺構面上 II群B類	・ナデ ・ナデ	・6.5 ・6.0 ・—	・U字形 ・5.0 ・—	・LR ・LL 3 4	S S M L 2	S S M L 2	S S M L 2	M M L 0	0 0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR4/1	・太く浅い 沈線
367-58	深鉢 南1区 口縁～胸部 遺構面上 II群B類	・ナデ ・ミガキ ・ナデ	・7.5 ・— ・—	・U字形 ・3.5 ・—	・LR ・LL 3 3	S S M L 1	S S M L 1	S S M L 1	0 0	0 0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
367-59	深鉢 南1区 口縁～胸部 遺構面上 II群B類	・ナデ ・準ミガキ ・ナデ	・7.0 ・7.5 ・—	・U字形 ・3.0 ・—	・LR ・LL 3 3	S S M L 1	S S M L 1	S S M L 1	0 0	0 0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR7/2	・369-63 ・同一
368-60	深鉢 南1区 口縁～胸部 遺構面上 II群B類	・準ミガキ ・準ミガキ	・7.0 ・8.0 ・—	・U字形 ・3.0 ・—	・RL ・IL 3 4	S S M L 1	S S M L 1	S S M L 1	0 L 1	0 L 1	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
368-61	深鉢 南1区 口縁～胸部 遺構面上 II群B類	・ナデ ・準ミガキ	・7.0 ・7.0 ・—	・U字形 ・3.5 ・—	・LR ・LL 3 3	S S M L 1	S S M L 1	S S M L 1	0 0	0 0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
369-62	深鉢 南1区 口縁～胸部 遺構面上 II群B類	・ナデ ・ナデ	・7.5 ・8.0 ・—	・U字形 ・3.0	なし	S LL 4	S S S 2	S S S 1	M M L 1	0 0	・7.5YR3/3 ・10YR4/1 ・10YR7/2	・外面に炭 化物付着
369-63	深鉢 南1区 口縁～頸部 遺構面上 II群B類	・準ミガキ ・準ミガキ	・8.0 ・—	・U字形 ・4.0 ・—	・LR ・LL 3 3	S S M L 1	S S M L 1	S S M L 1	0 0	0 0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2	・367-59 ・同一

図一一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈線	縦文	砂粒						色調	備考
		・外面 ・内面	・口頭部 ・脚部上半 ・脚部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・盛り ・凹幅 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート	赤色斑粒	その他	・外面 ・断面 ・内面	
369 - 64 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 II群B類	・準ミガキ ・ナデ	・8.0 ・— ・—	・U字形 ・3.0 ・3.5	・RL ・2.0 ・3.5	S LL 4	S LL 3	S 2 L 1	M 0	O 0	■ 1	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR6/3	
369 - 65 南1区 遺構面上	深鉢 脚部 II群B類	・ミガキ ・ミガキ	・— ・6.0 ・—	・U字形 ・3.0 ・—	・オオバコ ・— ・—	S S ① 3	S 2 L 2	S M 1	M 0	O 0	■ 1	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・5YR2/1 15.0 MM	
369 - 66 南1区 遺構面上	深鉢 頸部 II群B類	・準ミガキ ・ナデ	・7.0 ・— ・—	・U字形 ・3.5	なし	S S LL 3	S S 1 3	S 2 L 1	M ① 1	O 0	■ 1	・10YR7/2 ・369 - 62 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
370 - 67 南1区 遺構面上	深鉢 脚部 II群B類	・準ミガキ ・ナデ	・— ・7.5 ・—	・U字形 ・3.5 ・3.5	・LR ・3.0 ・3.5	S S ① 4	S S 2 3	S 2 L 1	O 0	O 0	■ 1	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・5YR2/1	
370 - 68 南1区 遺構面上	深鉢 脚部 II群B類	・準ミガキ ・ナデ	・— ・7.5 ・—	・U字形 ・2.0 ・—	・LR? ・— ・—	S S LL 3	S S 2 3	S 2 L 1	L 1	O 0	■ 1	・2.5Y5/8 ・5YR2/1 ・5YR2/1	
370 - 69 南1区 遺構面上	深鉢 脚部 II群B類	・ナデ ・ナデ	・— ・7.5 ・7.0	・U字形 ・4.0 ・4.0	・LR ・4.0 ・4.0	S S LL 3	S S 2 L 2	S M 2 1	M L 1	M M 2	■ 1	・10YR4/1 ・外面に炭化物付着 ・10YR4/1 ・10YR7/2 ・ユビオサエによる凹面著	
370 - 70 南1区 遺構面上	深鉢 脚部 II群B類	・準ミガキ ・ナデ	・— ・7.5 ・8.0	・U字形 ・3.0 ・5.0	・LR ・3.0 ・5.0	S S LL 4	S S 2 3	S 2 L 1	M L 1	O 0	■ 1	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
371 - 71 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～脚部 II群C類	・準ミガキ ・準ミガキ	・8.0 ・7.0 ・7.0	・U字形 ・3.5 ・3.0	・LR ・2.5 ・2.5	S S LL 4	S S 1 3	S M 1	M L 1	O 0	■ 1	・10YR4/1 ・調整幅 ・10YR7/2 15.0 MM ・10YR7/2	
371 - 72 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 II群C類	・ナデ ・ナデ	・— ・6.5 ・—	・U字形 ・3.0 ・2.5	・LR ・3.0 ・2.5	S S LL 3	S S 2 3	S M 2	M L 1	O 0	■ 1	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・7.5YR6/3	
372 - 73 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～脚部 II群C類	・ナデ ・ナデ	・— ・6.0 ・6.5	・U字形 ・3.0 ・2.5	・オオバコ ・— ・—	S S LL 3	S S 0 3	S M 1	M L 1	O 0	■ 1	・2.5Y5/8 ・5YR2/1 ・7.5YR6/3	
372 - 74 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～脚部 II群C類	・ナデ ・ナデ	・— ・7.0 ・—	・U字形 ・3.0 ・4.0	・LR ・3.0 ・4.0	S S ① 3	S S 1 3	S M 1	M L 1	O 0	■ 1	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
372 - 75 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 II群C類	・ナデ ・準ミガキ	・— ・7.0 ・—	・U字形 ・3.5 ・—	・不明 ・— ・—	S S LL 4	S S 0 3	S O 1	L ① 1	O 0	■ 1	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
373 - 76 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 II群C類	・ナデ ・ナデ	・— ・8.0 ・—	・U字形 ・3.0 ・3.0	・LR ・2.5 ・3.0	S S LL 3	S S 0 3	S M 1	M L 1	O 0	■ 1	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
373 - 77 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 II群C類	・ナデ ・ナデ	・— ・7.0 ・—	・U字形 ・3.0 ・—	・LR ・— ・—	S S LL 4	S S 1 2	S L 1	M L 1	O 0	■ 1	・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3	
373 - 78 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 II群C類	・ナデ ・ナデ	・— ・8.0 ・—	・U字形 ・3.5 ・5.5	・LR ・3.5 ・5.5	S S LL 4	S S 1 3	S M 1 1	M L 1	O 0	■ 1	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3	

図一一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈線	縦文	砂粒					色調	備考	
						・外面 ・内面	・口縁部 ・胴部上半 ・胴部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・盛り ・間隔 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート
373 - 79 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 II群 C類	・ナデ	・6.0	・U字形	・LR	S	S	L	M	0	0	・7.5YR6/3	
		・ナデ	・—	・3.0	・2.0	LL	①	3	L	1		・5YR2/1	
		・—	・—	・3.0	・—							・7.5YR6/3	
373 - 80 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 II群 C類	・ナデ	・8.5	・V字形	・RL	S	S	0	M	0	0	・10YR4/1	
		・準ミガキ	・—	・3.0	・2.0	LL	3	3	L	1		・5YR2/1	
		・—	・—	・5.0	・—							・10YR4/1	
373 - 81 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 II群 C類	・ナデ	・6.5	・U字形	なし	S	0	0	M	M	白雲 S M 3	・10YR4/1	
		・ナデ	・—	・5.0		①	3		①	3	2	・5YR2/1	
		・—	・—									・10YR4/1	・特異な脂 上
373 - 82 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 II群 C類	・ナデ	・6.0	・U字形	なし	S	S	0	M	0	0	・10YR4/1	
		・ナデ	・—	・4.0		①	3	2	①	2		・5YR2/1	
		・—	・—									・2.5Y5/8	
374 - 83 南1区 遺構面上	深鉢 制部 II群 C類	・ナデ	・—	・U字形	なし	S	S	S	M	0	0	・10YR4/1	
		・ナデ	・8.5	・3.0		①	3	2	①	1		・5YR2/1	
		・—	・10.5									・10YR4/1	
374 - 84 南1区 遺構面上	深鉢 胴～底部 II群 C類?	・ナデ	・—	・U字形	・LR	S	S	0	①	2	0	・10YR7/2	
		・ナデ	・—	・3.0	・—	LL	L	2				・10YR4/1	
		・—	・6.0			3	2					・10YR4/1	
374 - 85 南1区 遺構面上	深鉢 胴部 II群 C類	・ナデ	・—	・U字形	・RL	S	S	M	M	0	0	・5YR2/1	
		・ナデ	・7.0	・3.0	・—	LL	①	3	①	1		・5YR2/1	
		・—	・—	・4.5								・10YR4/1	
374 - 86 南1区 遺構面上	深鉢 制部 II群 C類	・準ミガキ	・—	・U字形	・L細織	S	S	M	M	0	0	・10YR4/1	
		・ナデ	・6.0	・2.0	・—	①	3	4	①	1		・5YR2/1	
		・—	・7.0									・10YR4/1	
375 - 87 南4区 遺構面上	深鉢 口縁～胴部 II群 D類	・ナデ	・7.0	・U字形	・LR	S	S	0	M	0	0	・2.5Y5/8	
		・ナデ	・6.0	・3.5	・—	①	3	3	①	1		・7.5YR3/3	
		・—	・—	・4.5								・2.5Y5/8	
375 - 88 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～底部 II群 D類	・ナデ	・7.0	・U字形	・LR	S	S	S	M	0	0	・10YR4/1	
		・ナデ	・—	・3.0	・—	IL	①	3	①	1		・5YR2/1	
		・—	・5.5			2	1					・10YR4/1	
375 - 89 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～胴部 II群 D類	・ナデ	・6.0	・U字形	・LR?	S	S	S	L	0	0	・10YR4/1	・調整幅 8.0
		・準ミガキ	・7.0	・4.0	・—	LL	①	3	②	2		・5YR2/1	～ 9.0
		・—	・—	・—								・10YR4/1	
375 - 90 南1区 遺構面上	深鉢 口縁部 II群 D類	・ナデ	・7.0	・U字形	不明	S	0	M	S	0	0	・10YR4/1	
		・ナデ	・—	・2.5		①	2	1	L	3		・5YR2/1	
		・—	・—									・5YR2/1	
376 - 91 南1区 遺構面上	深鉢 口縁部 II群	・ナデ	・7.0	・U字形	・LR	S	S	S	0	0	0	・2.5Y5/8	
		・ナデ	・—	・4.5	・—	①	3	2				・2.5Y5/8	
		・—	・—	・3.5								・2.5Y5/8	
376 - 92 南1区 遺構面上	深鉢 口縁部 II群	・ナデ	・7.5	・U字形	・LR	S	S	S	M	0	0	・7.5YR3/3	
		・ナデ	・—	・3.0	・—	①	3	2	L	1		・10YR4/1	
		・—	・—	・5.0								・10YR4/1	
376 - 93 南1区 遺構面上	深鉢 口縁部 II群	・ナデ	・6.0	・U字形	・Lr	S	S	S	0	0	0	・7.5YR3/3	・376 -
		・ナデ	・—	・2.5	・—	①	3	3				・5YR2/1	94 - 396
		・—	・—	・3.5								・10YR4/1	・54 同 一個体か

図一番号 出土地点	器種 型式・分類	調整	厚み mm	沈線	縦文	砂粒					色調	備考	
						・外面 ・内面	・口頭部 ・脚部上半 ・脚部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・盛り ・凹幅 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート
376 - 94 南1区 遺構面上	深鉢 口縁部 II群	・ナデ ・ナデ	・6.5 ・— ・—	・U字形 ・2.5 ・—	・Lr ・— ・3.0	S	S	S <sup>1</sup>	M	0	0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・10YR4/1	376 - 93 + 396 — 54 と同 一側体か
376 - 95 南1区 遺構面上	深鉢 口縁部 II群	・ナデ ・ナデ	・6.5 ・— ・—	・U字形 ・2.5 ・—	・オオバ コ? ・— ・—	S	S	S <sup>1</sup>	0	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
376 - 96 南1区 口縁部 遺構面上 II群	深鉢 口縁部 II群	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・— ・—	・U字形 ・3.0 ・—	・LR?	S	S	S <sup>1</sup>	M	0	0	・5YR2/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
376 - 97 南1区 口縁部 遺構面上 II群	深鉢 口縁部 II群	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・— ・—	・U字形 ・3.0 ・—	・LR ・3.0 ・—	S	S	S <sup>1</sup>	1	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
376 - 98 南1区 口縁部 遺構面上 II群	深鉢 口縁部 II群	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・— ・—	・U字形 ・3.5 ・—	・LR ・3.5 ・—	S	S	0	M	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
376 - 99 南1区 口縁部 遺構面上 II群	深鉢 口縊部 II群	・ナデ ・準ミガキ	・8.0 ・— ・—	・U字形 ・3.5 ・—	・LR ・2.0 ・—	S	S	S <sup>1</sup>	0	0	0	・5YR2/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
376 - 100 南1区 口縁部 遺構面上 II群	深鉢 口縁部 II群	・ナデ ・ナデ	・6.0 ・— ・—	・U字形 ・2.0 ・—	・LR ・2.5 ・—	S	S	0	M	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
376 - 101 南1区 口縁部 遺構面上 II群	深鉢 口縊部 II群	・ナデ ・ミガキ	・6.5 ・— ・—	・U字形 ・3.0 ・—	・RL深浅	S	S	S <sup>1</sup>	M	0	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・5YR2/1	
376 - 102 南1区 口縁部 遺構面上 II群	深鉢 口縊部 II群	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・— ・—	・U字形 ・4.0 ・—	なし	S	S	0	M	0	0	・10YR7/2 ・10YR4/1 ・10YR7/2	
376 - 103 南1区 口縁～脚部 遺構面上 II群	深鉢 口縁～脚部 II群	・ミガキ ・ナデ	・6.0 ・— ・—	・U字形 ・3.0 ・—	・RL	S	S <sup>2</sup>	S <sup>1</sup>	M	0	0	・10YR7/2 ・10YR7/2 ・10YR7/2	
377 - 104 南1区 口縁～頸部 遺構面上 III群A類	深鉢 口縁～頸部 III群A類	・ナデ ・ナデ	・6.0 ・— ・—	・U字形 ・5.0 ・—	・LR	S	S	S <sup>1</sup>	M	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
377 - 105 南1区 口縁～頸部 遺構面上 III群A類	深鉢 口縁～頸部 III群A類	・ナデ ・ナデ	・7.5 ・— ・—	なし	・LR	S	S	0	M	1	0	・7.5YR3/3 ・10YR4/1 ・7.5YR3/3	
377 - 106 南1区 口縁～頸部 遺構面上 III群A類	深鉢 口縁～頸部 III群A類	・ナデ ・ナデ	・9.0 ・— ・—	なし	・Lr	S	S	0	M	0	0	・7.5YR3/3 ・10YR7/2 ・10YR7/2	
377 - 107 南1区 口縁～頸部 遺構面上 III群A類	深鉢 口縁～頸部 III群A類	・ナデ ・ナデ	・6.5 ・— ・—	なし	・Lr	S	S	0	①	2	0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR6/3	
377 - 108 南1区 口縁～頸部 遺構面上 III群A類	深鉢 口縁～頸部 III群A類	・ナデ ・ナデ	・8.5 ・— ・—	なし	・LR	M	S	0	M	0	0	・2.5Y5/8 ・10YR4/1 ・2.5Y5/8	
378 - 109 南1区 口縁～頸部 遺構面上 III群A類	深鉢 口縁～頸部 III群A類	・ナデ ・ナデ	・5.0 ・— ・—	なし	・LR	S	S	S <sup>1</sup>	S <sup>1</sup>	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	

図一一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈綫	縦文	砂粒					色調	備考
		・外面部 ・内面	・口縁部 ・脚部上半 ・脚部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・盛り ・凹幅 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート	赤色斑粒	その他	・外面部 ・断面 ・内面
378 - 110 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 Ⅲ群A類	・ナデ	・6.0	なし	・LR ・2.5 ・4.0	S M 2 ① 3	S S 0 M 0	S 0 M 0	S 0 M 0	0 0 0	・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3	
		・ナデ	・—		・RL ・— ・3.0	S LL M 4 3	S L L 2	S M L 2	S M L 2	0 0 0	・2.5Y5/8 ・10YR4/1 ・10YR4/1	
		・ナデ	・—		・LR ・8.5 ・7.0	S LL M 4 3	S L M 2	S M L 2	S M L 2	0 0 0	・5YR2/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
378 - 111 南1区 遺構面上	深鉢 胴～底部 Ⅲ群A類	・ナデ	・—	なし	・LR ・— ・3.0	S LL M 4 3	S L L 2	S M L 2	S M L 2	0 0 0	・2.5Y5/8 ・10YR4/1 ・10YR4/1	
		・ナデ	・—		・LR ・— ・4.5	S LL M 4 3	S L M 2	S M L 2	S M L 2	0 0 0	・5YR2/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
		・ナデ	・—		・LR ・7.0 ・— ・6.5	S LL M 4 3	S L M 2	S M L 2	S M L 2	0 0 0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR4/1	
378 - 113 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～胴部 Ⅲ群A類	・ナデ	・6.5	なし	・LR ・ナデ ・7.0 ・— ・6.5	S S S L 3	S S 0 L 1	S 0 M 1	S M 0	0 0 0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR4/1	
		・ナデ	・—		・LR ・5.0 ・7.0	S S S L 3	S S 0 L 1	S M 1	S M 0	0 0 0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR7/2	
		・ナデ	・—		・LR ・— ・4.5	S S S L 3	S S 0 M 0	S M 0	S M 0	0 0 0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
378 - 115 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～頸部 Ⅲ群A類	・ナデ	・7.5	なし	・LR ・— ・4.5	S S S L 3	S S 0 M 0	S M 0	S M 0	0 0 0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
		・ナデ	・—		・LR ・— ・3.5	S S S L 3	S S 0 M 0	S M 0	S M 0	0 0 0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
		・ナデ	・—		・LR ・— ・6.5	S S S L 3	S S 0 M 0	S M 0	S M 0	0 0 0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
379 - 117 南3区 遺構面上	深鉢 口縁部 Ⅲ群B類	・ナデ	・7.5	なし	・ナシ	S S S L 3	S S S M 4	S S 0	S 0	0 0 0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3	
		・ナデ	・—		・ナシ	S S S L 3	S S S M 4	S S 0	S 0	0 0 0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3	
		・ナデ	・—		・ナシ	S S S L 3	S S S M 4	S S 0	S 0	0 0 0	・5YR2/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1 11.0mmの 櫛状工具、 一単位に6 本の沈綫	
379 - 119 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～胴部 Ⅲ群C類	・—	・7.0	・V字形	なし	S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・10YR7/2 ・10YR4/1 ・10YR7/2	
		・—	・—	・1.0		S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・10YR7/2 ・10YR4/1 ・10YR7/2	
		・—	・—			S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3	
379 - 120 南1区 遺構面上	深鉢 胴部 Ⅲ群C類	・ナデ	・—	・V字形	なし	S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3	
		・ナデ	・—	・1.0		S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3 17.0mmの 櫛状工具、 一単位に6 本の沈綫	
		・ナデ	・—			S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3	
379 - 121 南1区 遺構面上	深鉢 口縁部 Ⅲ群D類	・ナデ	・7.5	なし	・RL	S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・7.5YR3/3 ・10YR4/1 ・10YR4/1	
		・ナデ	・—		・RL	S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・7.5YR3/3 ・10YR4/1 ・10YR4/1	
		・ナデ	・—		・RL	S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3	
379 - 122 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～胴部 Ⅲ群D類	・ナデ	・7.5	なし	・RL	S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3	
		・ナデ	・—		・RL	S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3	
		・ナデ	・—		・RL	S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
379 - 123 南1区 遺構面上	深鉢 口縁～胴部 Ⅳ群	・ナデ	・9.0	・U字形	・RL	S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
		・ナデ	・—	・5.0		S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
		・ナデ	・—	・10.0		S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
379 - 124 南1区 遺構面上	深鉢 口縁部 IV群	・ナデ	・8.0	なし	・RL	S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
		・ナデ	・—		・RL	S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
		・ナデ	・—		・RL	S S S L 3	S S S M 1	S S M 1	S M 0	0 0 0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2	

図一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈線	縦文	砂粒					色調	備考	
		・外面 ・内面	・口縁部 ・脚部上半 ・脚部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・盛り ・凹幅 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート	赤色斑粒	その他	・外面 ・断面 ・内面	
379 - 125 南1区 遺構面上	深鉢 口縁部 IV群	・ナデ	・8.0	なし	・LR	S	S	S	M	0	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
		・ナデ	・-		・3.0	① 3	LL	L	L				
		・ナデ	・-		・4.5	4		3	2				
379 - 126 南1区 遺構面上	深鉢 口縁部 IV群	・ナデ	・6.0	なし	・RL	S	S	S	M	0	0	・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3	
		・ナデ	・-		・4.5	① 3	L	M	L	①	3		
		・ナデ	・-		・7.0	3	1	1	2				
380 - 127 南1区 遺構面上	鉢 口縁部 I群 A a 類	・ナデ	・5.5	・U字形	・RL ?	S	S	S	0	0	花 2	・10YR7/2 ・10YR7/2 ・10YR7/2	
		・ナデ	・-	・3.0	・-	① 3	① 2						
		・ナデ	・-	・4.0	・-	LL	L	1	0	0			
380 - 128 南3区 遺構面上	鉢 口縁部 I群 A a 類	・ナデ	・7.5	・U字形	なし	S	S	0	L	0	0	・7.5YR6/3 ・10YR4/1 ・10YR4/1	
		・ナデ	・-	・4.0		LL	L	2					
		・ナデ	・-	・-		3	4	2					
380 - 129 南3区 遺構面上	鉢 口縁部 I群 A a 類	・ナデ	・9.0	・U字形	なし	S	S	S	M	0	0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR4/1	
		・ナデ	・-	・5.0		LL	① 3	L	1				
		・ナデ	・-	・-		3	4	2					
380 - 130 南3区 遺構面上	鉢 口縁部 I群 A b 類	・ナデ	・10.5	なし	なし	S	S	S	L	0	0	・7.5YR6/3 ・10YR7/2 ・10YR7/2	
		・ナデ	・-			LL	L	2					
		・ナデ	・-			3	2	2					
380 - 131 南1区 遺構面上	鉢 口縁部 I群 A b 類	・ナデ	・7.5	・門字形	なし	S	S	S	0	0	0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・7.5YR6/3	
		・ナデ	・-	・2.0		LL	LL	① 2					
		・ナデ	・-	・-		3	2	2					
380 - 132 南1区 遺構面上	鉢 口縁部 I群 A b 類	・ナデ	・8.0	・四字形	なし	S	S	S	M	0	0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR4/1	
		・ナデ	・-	・3.0		IL	① 3	L	1				
		・ナデ	・-	・-		3	2	4	1				
380 - 133 南3区 遺構面上	鉢 口縁部 I群 A b 類	・ナデ	・7.5	なし	なし	S	S	S	M	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
		・ナデ	・-			LL	M	M	L				
		・ナデ	・-			3	2	1	1				
380 - 134 南1区 遺構面上	鉢 口縁部 I群 A b 類	・ナデ	・8.5	なし	なし	S	S	S	L	1	M	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2
		・ナデ	・-			LL	L	2					
		・ナデ	・-			3	2	2					
380 - 135 南3区 遺構面上	鉢 口縁部 I群 A b 類	・ナデ	・9.0	・U字形	なし	S	S	S	0	L	1	0	・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3
		・ナデ	・-	・3.0		LL	① 4	L	3				
		・ナデ	・-	・-		4	3	3					
380 - 136 南3区 遺構面上	鉢 口縁部 I群 A c 類	・ナデ	・6.5	なし	・LR	S	S	S	0	0	0	・5YR2/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
		・ナデ	・-		・5.0	LL	LL	M					
		・ナデ	・-		・6.0	3	3	1					
380 - 137 南3区 遺構面上	鉢 口縁部 I群 B 類	・ナデ	・7.0	なし	なし	S	S	S	M	0	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・5YR2/1	
		・ナデ	・-			IL	M	M	① 2				
		・ナデ	・-			3	2	1	2				
380 - 138 南3区 遺構面上	鉢 口縁部 I群 B 類	・ナデ	・8.0	なし	なし	S	S	S	0	L	1	0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR4/1
		・ナデ	・-			LL	① 3	L	2				
		・ナデ	・-			3	4	2					
380 - 139 南3区 遺構面上	鉢 口縁部 I群 B 類	・ナデ	・7.0	なし	なし	S	S	S	0	M	LL	0	・5YR2/1 ・5YR2/1 ・7.5YR6/3
		・ナデ	・-			LL	① 3	2					
		・ナデ	・-			4	2	2					
380 - 140 南3区 遺構面上	鉢 口縁部 I群 B 類	・ナデ	・5.0	なし	なし	S	S	S	M	0	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1
		・ナデ	・-			LL	LL	L	① 2				
		・ナデ	・-			4	4	2	2				

図一一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈継	縦文	砂粒					色調	備考
		・外面 ・内面	・口頭部 ・脚部上半 ・脚部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・墨り ・間幅 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート	赤色斑粒	その他	
380-141 南1区 遺構面上	跡 口縁部 Ⅰ群C類	・ナデ	・8.0	なし	・LR ・4.0 ・6.0	S LL 3	S ① 2	S ① 2	M ① 2	M L LL 1 2	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR7/2	
		・ナデ	・-		・U字形 ・4.0 ・6.0	Lr LL 3	S ① 3	S M 1	S ① 1	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
		・ナデ	・6.5	なし	・U字形 ・4.0 ・2.5	RL LL 3	S ① 2	S L 2	S L 2	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
381-143 南1区 遺構面上	跡 口縁～脚部 Ⅱ群A類	・ナデ	・6.0	なし	・U字形 ・3.0 ・3.0	RL LL 3	S ① 2	S L 2	S L 2	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
		・ナデ	・5.0	なし	・U字形 ・3.0 ・3.0	RL LL 3	S ① 2	S L 2	S L 2	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
		・ナデ	・-	なし	・U字形 ・3.0 ・4.0	RL LL 3	S ① 4	S M 3	S L 2	花 L LL 1	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
381-144 南1区 遺構面上	跡 口縁部 Ⅱ群A類	・準ミガキ	・8.0	なし	・U字形 ・3.0 ・4.0	LR LL 3	S ① 3	S M 3	S L 2	0	・10YR7/2 ・10YR7/2 ・10YR7/2	
		・準ミガキ	・-	なし	・U字形 ・3.0 ・4.0	LR LL 3	S ① 3	S M 3	S L 2	0	・10YR7/2 ・10YR7/2 ・10YR7/2	
		・ナデ	・8.0	なし	・U字形 ・3.0 ・3.5	LR LL 3	S ① 3	S L 4	S L 2	0	・10YR7/2 ・10YR7/2 ・10YR7/2	
381-146 南1区 遺構面上	跡 口縁部 Ⅱ群A類	・ナデ	・7.0	なし	・U字形 ・2.0 ・2.5	LR LL 3	S ① 2	S ① 3	S ① 2	花 L LL 1	・10YR7/2 ・10YR4/1 ・10YR7/2	
		・ミガキ	・-	なし	・U字形 ・2.0 ・3.0	LR LL 3	S ① 2	S ① 3	S ① 2	0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR7/2	
		・ナデ	・7.0	なし	・U字形 ・3.0 ・2.5	LR LL 3	S ① 3	S L 2	S M 2	0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR4/1	
381-147 南1区 遺構面上	跡 口縁部 Ⅱ群A類	・準ミガキ	・6.0	なし	・U字形 ・3.0 ・2.5	RL LL 3	S ① 2	S M 3	S L 2	0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR4/1	
		・ミガキ	・-	なし	・U字形 ・3.0 ・2.5	RL LL 3	S ① 2	S M 3	S L 2	0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR4/1	
		・ナデ	・6.0	なし	・U字形 ・3.0 ・2.5	RL LL 3	S ① 2	S M 3	S L 2	0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR4/1	
381-148 南1区 遺構面上	跡 口縁部 Ⅱ群A類	・ミガキ	・6.5	なし	・U字形 ・3.0 ・2.5	RL LL 3	S ① 2	S M 3	S L 1	0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR4/1	
		・ミガキ	・-	なし	・U字形 ・3.0 ・2.5	RL LL 3	S ① 2	S M 3	S L 1	0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR4/1	
		・ナデ	・5.5	なし	・U字形 ・4.5 ・2.5	RL LL 3	S ① 2	S M 3	S L 1	0	・5YR2/1 ・5YR2/1 ・5YR2/1	
381-149 南1区 遺構面上	跡 口縁～底部 Ⅱ群B類	・ミガキ	・6.0	なし	・U字形 ・4.5 ・2.5	RL LL 3	S ① 2	S M 3	S L 1	0	・5YR2/1 ・5YR2/1 ・5YR2/1	
		・準ミガキ	・-	なし	・U字形 ・4.5 ・2.5	RL LL 3	S ① 2	S M 3	S L 1	0	・5YR2/1 ・5YR2/1 ・5YR2/1	
		・ナデ	・-	なし	・U字形 ・3.5 ・2.5	RL LL 3	S ① 2	S M 3	S L 1	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
382-151 南3区 遺構面上	跡 口縁部 Ⅲ群A類	・ナデ	・8.5	なし	なし	S LL 3	S ① 2	S M 3	S L 2	0	・10YR7/2 ・10YR4/1 ・10YR7/2	
		・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S ① 2	S M 3	S L 2	0	・10YR4/1 ・10YR7/2	
		・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S ① 2	S M 3	S L 2	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
382-152 南1区 遺構面上	跡 口縁部 Ⅲ群A類	・ミガキ	・8.5	なし	なし	S LL 3	S ① 2	S M 3	S L 2	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
		・ミガキ	・-	なし	なし	S LL 3	S ① 2	S M 3	S L 2	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
		・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S ① 2	S M 3	S L 2	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
382-153 南1区 遺構面上	跡 口縁部 Ⅲ群A類	・準ミガキ	・9.0	なし	なし	S LL 3	S ① 3	S M 3	S L 1	0	花 L LL 2	
		・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S ① 3	S M 3	S L 1	0	・5YR2/1 ・5YR2/1 ・5YR2/1	
		・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S ① 3	S M 3	S L 1	0	・5YR6/3 ・10YR4/1 ・7.5YR6/3	
382-154 南1区 遺構面上	跡 口縁部 Ⅲ群A類	・ナデ	・7.0	なし	なし	S LL 3	S ① 3	S M 3	S L 1	0	・7.5YR6/3 ・10YR4/1 ・7.5YR6/3	
		・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S ① 3	S M 3	S L 1	0	・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3	
		・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S ① 3	S M 3	S L 1	0	・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3	
382-155 南3区 遺構面上	跡 口縁部 Ⅲ群B類	・準ミガキ	・6.0	なし	なし	S LL 3	S ① 3	S M 3	S L 1	0	・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3	
		・準ミガキ	・-	なし	なし	S LL 3	S ① 3	S M 3	S L 1	0	・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3	
		・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S ① 3	S M 3	S L 1	0	・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3	

図一一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈継	縦文	砂粒					色調	備考
		・外面部 ・内面部	・口縁部 ・脚部上半 ・脚部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・盛り ・凹 ・縦幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート	赤色斑粒	その他	
382 - 156	跡 南3区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・8.0 ・- ・-	なし	なし	S LL 4	S LL 3	S L 3	0	0	閃 L 1	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2
382 - 157	壺 南1区 遺構面上	・ナデ ・準ミガキ	・6.0 ・6.0 ・6.0	・U字形 ・2.5 ・2.5	・LR ・M ① 3	S LL 3	S L 1	0	M ① 3	0	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2
382 - 158	壺 南1区 脚部 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・9.5 ・4.0 ・-	・U字形 ・4.0 ・-	・LR ?	S LL 3	S LL 3	S L 1	M L 1	花 LL 2	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2
382 - 159	壺 南4区 遺構面上	・ナデ ・ミガキ	・- ・4.5 ・6.5	・U字形 ・3.0 ・3.5	・LR	S LL 3	S M 2	S M 5	M 1	0	0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・5YR2/1 ・「生駒西麓 産」の胎土 に近似
383 - 160	不明 南3区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・- ・- ・9.0	・U字形 ・3.0	なし	S LL 3	S ① 3	S M 2	M 1	0	0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・10YR4/1
383 - 161	不明 南1区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・- ・- ・7.5	・- ・- ・7.5	なし	S LL 3	S ① 3	S M 1	M 1	0	花 ① 2	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1
383 - 162	不明 南1区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・- ・- ・8.5	・- ・- ・8.5	なし	S LL 3	S ① 3	S L 3	0	0	花 ① 2	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・10YR4/1
383 - 163	不明 南3区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・- ・- ・9.0	・- ・- ・9.0	なし	S LL 3	S ① 2	S L 2	L 1	0	閃 L 1	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・10YR4/1
383 - 164	不明 南1区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・- ・- ・7.0	・- ・- ・7.0	なし	S LL 3	S L 2	S L 2	0	0	花 L 2	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・7.5YR6/3
383 - 165	不明 南1区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・- ・- ・7.0	・- ・- ・7.0	なし	S LL 3	S ① 2	S L 1	0	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2
383 - 166	不明 南3区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・- ・- ・8.0	・- ・- ・8.0	なし	S LL 3	S ① 2	S L 1	LL 0	0	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・5YR2/1
383 - 167	不明 南1区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・- ・- ・8.0	・- ・- ・8.0	なし	S LL 3	S ① 2	S L 1	M ① 1	0	花 ① 2	・5YR2/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2
383 - 168	不明 南1区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・- ・- ・8.0	・- ・- ・8.0	なし	S LL 3	S LL 3	S L 1	M L 1	0	花 ① 2	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR4/1
383 - 169	不明 南1区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・- ・- ・7.0	・- ・- ・7.0	なし	S LL 3	S LL 4	S M 3	M L 1	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1
383 - 170	不明 南1区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・- ・- ・7.5	・- ・- ・7.5	なし	S LL 3	S LL 3	S L 1	M ① 1	0	0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・10YR4/1
383 - 171	不明 南1区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・- ・- ・8.0	・- ・- ・8.0	なし	S LL 3	S LL 3	S L 1	0	0	花 ① 2	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・10YR4/1

図一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整		厚み mm	沈継	縦文	砂粒					色調	備考
		・外面	・内面	・口部	・断面形	・盛り	石英 長石	雲母	角閃石	チャート	赤色斑粒	その他	
		・脚部上半	・幅 mm	・脚幅 mm	・脚長 mm								
384 - 172	不明 南1区 遺構面上	・ナデ ・ナデ ・ナデ	・ ・ ・8.0	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S S 2	M 0	0	0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
384 - 173	不明 南1区 遺構面上	・ナデ ・ナデ ・ナデ	・ ・ ・10.0	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S S 2	0	0	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
384 - 174	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ ・ナデ	・ ・ ・7.5	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S S 1	0	0	0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
384 - 175	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ ・ナデ	・ ・ ・8.0	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S S 1	M L 1	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
384 - 176	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ ・ナデ	・ ・ ・7.5	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S S 1	M L 1	0	0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
384 - 177	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ ・ナデ	・ ・ ・7.5	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S S 1	L ① 2	0	0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・7.5YR6/3	
384 - 178	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ ・ナデ	・ ・ ・7.5	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S S 1	L 1	0	0	・7.5YR6/3 ・10YR4/1 ・7.5YR6/3	
384 - 179	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ ・ナデ	・ ・ ・8.5	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S S 1	M 2	L 2	0	・7.5YR6/3 ・10YR4/1 ・10YR7/2	・底面に指 頭状の圧痕
384 - 180	不明 南1区 底部 遺構面上	・ミガキ ・準ミガキ ・ナデ	・ ・ ・7.5	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S S 2	S L 4	0	0	・5YR2/1 ・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3	
384 - 181	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ ・ナデ	・ ・ ・6.0	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S S 0	S L 2	LL 3	0	・10YR7/2 ・10YR7/2 ・10YR7/2	
384 - 182	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ ・ナデ	・ ・ ・6.5	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S S 1	S L 3	0	0	・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3 ・10YR7/2	
384 - 183	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ ・ナデ	・ ・ ・6.5	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S S 2	M L 2	0	0	・5YR8/1 ・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3	
384 - 184	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ ・ナデ	・ ・ ・7.0	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S S 1	L 1	0	0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・5YR2/1	・外間に種 子状の圧痕
385 - 185	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ ・ナデ	・ ・ ・11.0	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S S 0	S M 4	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
385 - 186	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ ・ナデ	・ ・ ・5.0	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S S 1	M L 1	0	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
385 - 187	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ ・ナデ	・ ・ ・8.5	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S S 1	O L 1	0	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2	

図一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈綻	縦文	砂粒						色調	備考
		・外面 ・内面	・口縁部 ・脚部上半 ・脚部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・盛り ・凹 ・縦幅 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート	赤色斑粒	その他	・外面 ・断面 ・内面	
385 - 188	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・準ミガキ	・-	なし	なし	S LL 3	S ① 2	S M 2	M L 1	O 0	四 2	・10YR7/2 ・10YR4/1 ・10YR7/2	
385 - 189	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S ① 4	S L 1	L 1	O 0	花 2	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
385 - 190	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S ① 4	S Z 2	M L 1	O 0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
385 - 191	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S L 3	S ① 4	M ① 1	O 0	0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・7.5YR6/3	
385 - 192	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S LL 2	S 1	M L 1	L 1	O 0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
385 - 193	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S 1	S 1	M ① 2	O 0	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・5YR2/1	
385 - 194	不明 南3区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S L 2	M ① 1	L 1	O 0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
385 - 195	不明 南3区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S LL 3	S L 1	O 0	O 0	0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・7.5YR6/3	
385 - 196	不明 南3区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S LL 4	S M 2	O 0	O 0	0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3	
385 - 197	不明 南1区 底部 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S ① 3	S 1	L 1	O 0	0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・7.5YR6/3	
385 - 198	直?	・ナデ ・ナデ	・-	なし	なし	S LL 3	S L 2	S 1	M ① 1	L 1	O 0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
386 - 199	深鉢 南4区 遺構面上	・巻貝条痕 ・口縁部 羽島下唇Ⅱ式	・5.5 ・-	なし	なし	S L 2	S L 2	S L 4	M L 1	O 0	0	・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3	
386 - 200	深鉢 南1区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・5.5 ・-	なし	なし	S LL 3	S M 2	S L 3	M ① 2	O 0	0	・5YR2/1 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3	
386 - 201	深鉢 南1区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・-	なし	・RL	S 3	S ① 3	S L 3	M ① 2	O 0	0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・5YR2/1	
386 - 202	深鉢 北2区 遺構面上	・ナデ ・ナデ	・7.5 ・-	なし	なし	S ① 3	S L 3	O 1	L 1	O 0	0	・7.5YR3/3 ・10YR4/1 ・10YR4/1	

図一一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈線	縦文	砂粒					色調	備考
		・外面 ・内面	・口縁部 ・脚部上半 ・脚部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・盛り ・凹幅 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート	赤色斑粒	その他	・外面 ・断面 ・内面
386 - 203 北2区 遺構面上	深鉢 制部 北白川上層 式	・ナデ ・ナデ	・- ・6.5 ・-	・U字形 ・2.5 ・-	・RL ・5.5 ・6.5	S ① 3	S M 1	S 3	O ② 1	0 0	7.5YR3/3 10YR4/1 7.5YR3/3	
386 - 204 北2区 遺構面上	深鉢 制部 北白川上層 式	・ナデ ・準ミガキ	・- ・6.0 ・-	・U字形 ・3.0 ・-	・RL ・2.5 ・4.0	S ① 3	M 3	S 1	O 0	花 LL 2	10YR4/1 10YR4/1 10YR4/1	
386 - 205 北2区 口縁～頸部 後期前葉	・ナデ ・ナデ	・- ・- ・-	なし	なし	S ① 3	M 3	O 0	S 1	0 0	花 LL 1	7.5YR3/3 5YR2/1 代痕 7.5YR3/3	
386 - 206 南1区 遺構面上	費? 口縁～頸部 大和1様 式?	・ナデ ・ミガキ	・7.0 ・- ・-	なし	なし	S ① 3	S L 2	S L 2	M 1	0 0	0 0	5YR2/1 5YR2/1 5YR2/1
386 - 207 南3区 遺構面上	不明 把手 不明	・ナデ ・ナデ	・- ・- ・-	・U字形 ・4.0 ・8.0	・LR ・5.0 ・8.0	S LL 3	S 2	S L 2	M 1	0 0	閃 ① 2	10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2
386 - 208 南1区 遺構面上	ミニチュア 上器 完形	・ナデ ・ナデ	・6.0 ・6.0 ・-	なし	なし	S LL 3	S 3	S L 2	S L 2	0 0	閃 ① 2	10YR7/2 - 10YR7/2
386 - 209 南3区 遺構面上	耳飾り 完形 耳栓形耳飾	・ナデ ・ナデ	・- ・- ・-	なし	なし	S IL 3	S 2	S M 1	M 1	0 0	0 0	10YR7/2 5YR2/1 10YR7/2
387 - 1 南1区 埋設土器1	深鉢 口縁～底部 II群A類	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・7.5 ・7.5	・門字形 ・6.0 ・7.0	・LR ・4.0 ・7.0	S LL 3	S 4	S L 2	M ① 2	0 0	閃 ① 2	7.5YR3/3 10YR7/2 ユビオサ エによる凹 凸
388 - 1 南1区 石西遺構	深鉢 口縁～胸部 II群D類	・ナデ ・ナデ	・6.5 ・7.0 ・-	・U字形 ・4.0 ・-	・RL ・2.0 ・3.0	S ① 3	S 3	O ① 3	S LL 3	M 1	0 0	10YR4/1 10YR4/1 10YR4/1
388 - 2 南1区 石西遺構	深鉢 底部 高台底	・ナデ ・ナデ	・- ・- ・-	なし	なし	S ① 3	S 3	S 3	LL 3	M 1	0 0	10YR4/1 10YR4/1 10YR4/1
389 - 1 南1区 土坑30	深鉢 制～底部 元住吉山Ⅱ 式	・ミガキ ・二枚貝条 痕のちナデ	・- ・5.5 ・4.5	・門線 ・8.0	なし	S L 3	M 1	S 1	S L 3	M 2	0 0	10YR4/1 5YR2/1 5YR2/1
389 - 2 南1区 土坑30	深鉢 底部 晚期前半	・ケズリ ・二枚貝条 痕	・- ・- ・5.0	なし	なし	S ① 3	S 3	S L 4	O 0	0 0	0 0	7.5YR3/3 5YR2/1 5YR2/1 「生駒西麓 産」の船上 に近似
390 - 3 南1区 土坑32	深鉢 制部 II群	・ナデ ・ナデ	・- ・8.0 ・-	・U字形 ・3.0 ・5.0	・LR ・3.0 ・5.0	S LL 4	S 3	O LL 3	M 1	M 1	0 0	10YR7/2 10YR4/1 10YR7/2
390 - 4 南1区 土坑32	深鉢 底部 凹底	・ナデ ・ナデ	・- ・- ・-	なし	なし	S LL 3	S 1	S ① 2	M 1	L 1	0 0	10YR7/2 5YR2/1 10YR7/2

図一一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈綻	縦文	砂粒				色調	備考
		・外面 ・内面	・口縁部 ・胴部上半 ・胴部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・盛り ・間隔 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート 赤色斑粒	その他	・外面 ・断面 ・内面
390-5 南1区 土坑34 I群	深鉢 胴部	・ナデ ・ナデ	・— ・9.5 ・—	・U字形 ・2.5 ・—	・RL ・4.0 ・5.0	S LL 4	S 2 ① 3	S 0 1	0 L 1	0 0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2
390-6 南1区 土坑35 I群E類	深鉢 口縁～胴部	・ナデ ・ナデ	・6.0 ・— ・—	・V字形 ・2.0 ・—	・LR ・3.0 ・3.5	S ① 3	S 2 ① 3	S 0 1	L 1	0 0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 幅 1.4cm ・10YR4/1
390-7 南1区 土坑36 II群A類	深鉢 胴部	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・— ・—	・U字形 ・3.0 ・—	・LR ・2.5 ・4.0	S ① 3	S 2 ① 3	S 0 1	0 L 1	0 0	・10YR7/2 ・10YR7/2 ・10YR7/2
390-8 南1区 土坑36 II群A類	深鉢 胴部	・ナデ ・ナデ	・— ・7.0 ・—	・円字形 ・4.0 ・—	・LR ・3.5 ・3.0	S ① 3	S M 2	S L 2	0 0	0 0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR4/1
390-9 南1区 土坑38 胴部 不明	深鉢 胴部	・ナデ ・ナデ	・— ・4.0 ・—	なし	・Lr (盛り 糸文?) ・— ・3.0	S ① 3	S ① 3	S 0 1	0 0	0 0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR4/1
390-10 南1区 土坑38 底部 平底	深鉢 胴～底部 平底	・ナデ ・ナデ	・— ・— ・10.0	なし	なし	S LL 3	S L 2	S 0 M 2	M 0 0	0 0	・7.5YR6/3 ・10YR4/1 ・10YR4/1
390-11 南1区 土坑40 胴部 II群A類	鉢 胴部	・ナデ ・ナデ	・— ・8.0 ・—	・U字形 ・2.5 ・—	・LR ・2.5 ・3.5	S LL 3	S L 2	S 1 L 1	M 0 0	0 0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2
390-12 南1区 土坑40 底部 高台底	不明 底部	・ナデ ・ナデ	・— ・— ・—	なし	なし	S LL 3	S L 2	S 1 L 1	0 0 0	花 LL 1	・5YR8/1 ・10YR7/2 ・10YR7/2
390-13 南1区 土坑40 底部 平底	不明 底部	・ナデ ・ナデ	・— ・— ・8.0	なし	なし	S LL 3	S M 2	S 1 L 1	M 1 0	0 0	・7.5YR6/3 ・10YR4/1 ・7.5YR6/3
390-14 南1区 土坑40 鉢底	不明 底部	・ナデ ・—	・— ・— ・9.0	なし	なし	S ① 3	S M 4	S 0 L 2	M 0 0	0 0	・2.5Y5/8 ・10YR4/1 ・10YR4/1
391-15 南1区 土坑33 口縁～胴部 I群A類	深鉢 口縁～胴部	・ナデ ・ナデ	・6.5 ・7.0 ・—	・U字形 ・2.5 ・—	・RL ・— ・3.5	S LL 3	S LL 3	S 1 L 2	M 0 0	0 0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・10YR4/1
391-16 南1区 土坑33 口縁～胴部 I群A類	深鉢 口縁～胴部	・ナデ ・ナデ	・7.5 ・7.5 ・—	・U字形 ・3.5 ・—	・LR ・4.0 ・6.0	S LL 4	S L 3	S M 1	0 ① 1	花 LL 2	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR6/3
392-17 南1区 土坑33 口縁部 I群D類	深鉢 口縁部	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・— ・—	・U字形 ・3.5 ・—	・RL ・2.5 ・—	S LL 3	S L 2	S 0 L 2	0 LL 2	0 0	・10YR7/2 ・10YR7/2 ・7.5YR6/3
392-18 南1区 土坑33 口縁～胴部 I群D類	深鉢 口縁～胴部	・ナデ ・ナデ	・8.0 ・9.0 ・—	・U字形 ・2.5 ・—	・RL ・1.5 ・—	S LL 3	S L 2	S 0 L 2	M 0 0	花 LL 2	・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3
393-19 南1区 土坑33 口縁～胴部 III群A類	深鉢 口縁～胴部	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・7.0 ・—	なし	・LR ・5.0 ・6.0	S LL 3	S L 2	S 0 M 1	0 0 0	0 0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2
393-20 南1区 土坑33 口縁部 I群B類	深鉢 口縁部	・ナデ ・ナデ	・6.0 ・— ・—	なし	・Lr ・— ・5.5	S ① 3	S 3	S 0 L 1	0 0 0	0 0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・10YR7/2

図一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈継	縹文	砂粒					色調	備考
		・外面 ・内面	・口頭部 ・脚部上半 ・脚部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・盛り ・凹幅 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート	赤色斑粒	その他	
393-21 南1区 土坑33	深鉢 口縁部 I群D類	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・3.0 ・5.0	・U字形 ・3.0 ・5.0	・LR S S S LL 3 3 3	0 0 0 1 1 1	0 0 0 0 0 0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2				
393-22 南1区 土坑33	深鉢 口縁～頭部 I群B類?	・ナデ ・ナデ	・7.5 ・— ・—	・U字形 ・6.0 ・5.5	・LR S S S LL 3 2 2	0 0 0 M L 2 M 1	0 0 0 1 1 1	0 0 0 0 0 0	・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3 ・7.5YR3/3			
393-23 南1区 土坑33	深鉢 口縁～頭部 III群A類	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・— ・—	なし ・2.5 ・3.5	・LR S S S LL 3 3 2	0 0 0 L 1 M 2	0 0 0 1 1 1	0 0 0 0 0 0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR4/1			
393-24 南1区 土坑33	深鉢 脚部 III群A類	・ナデ ・ナデ	・— ・8.5 ・—	なし ・— ・—	・筋節 LR S S S LL 3 2 2	0 0 0 1 1 1 0 0 0	0 0 0 1 1 1	0 0 0 0 0 0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・5YR2/1			
393-25 南1区 土坑33	深鉢 口縁部 II群A類	・ナデ ・ナデ	・5.0 ・— ・—	・U字形 ・4.0 ・4.0	・LR S S S LL 3 4 3	0 0 0 L 1 L 3	0 0 0 M 1	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・5YR2/1				
393-26 南1区 土坑33	鉢 口縁～脚部 I群A類	・ナデ ・ナデ	・8.0 ・7.0 ・—	・U字形 ・5.5 ・—	・Lr S S S LL 3 3 2	0 0 0 0 0 0 L 2	0 0 0 M 1	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2				
393-27 南1区 土坑33	鉢 口縁部 I群A類	・ナデ ・ナデ	・8.5 ・— ・—	・U字形 ・5.0 ・—	・LR S S S LL 3 2 2	0 0 0 L 1 L 2	0 0 0 M 1	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2				
393-28 南1区 土坑33	鉢 口縁～底部 III群B類	・ナデ ・ナデ	・7.0 ・7.0 ・—	なし なし なし	なし S S S LL 3 3 2	0 0 0 M 1	0 0 0 L 1	0 0 0 L 1	0 0 0 L 1	0 0 0 L 1	0 0 0 L 1	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・ユビオサ 工による凹 凸
393-29 南1区 土坑33	鉢 口縁～脚部 II群A類	・ナデ ・ミガキ	・5.5 ・5.5 ・—	・U字形 ・3.5 ・1.5 ・2.0	・LR S S S LL 3 3 2	0 0 0 M 1	0 0 0 M 1	0 0 0 M 1	0 0 0 M 1	0 0 0 M 1	0 0 0 M 1	・2.5Y7/6 ・5YR2/1 ・10YR4/1
394-30 南1区 土坑33	不明 底部 平底	・ナデ ・ナデ	・— ・— ・7.5	なし なし なし	S S S LL 3 2 2	0 0 0 M 2	0 0 0 M 2	0 0 0 M 2	0 0 0 M 2	0 0 0 M 2	0 0 0 M 2	・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3 ・2.5Y5/8
394-31 南1区 土坑33	不明 底部 平底	・ナデ ・ナデ	・— ・— ・—	なし なし なし	S S S LL 3 1 1	0 0 0 L 2	M S L 2 2	S M L 2 2	S M L 2 2	0 0 0 L 2	0 0 0 L 2	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・10YR7/2
394-32 南1区 土坑33	不明 底部 平底	・ナデ ・ナデ	・— ・— ・—	なし なし なし	S S S LL 3 2 2	0 0 0 M 1	0 0 0 M 1	0 0 0 M 1	0 0 0 M 1	0 0 0 M 1	0 0 0 M 1	・10YR4/1 ・底面外周 に擦れ痕 著
394-33 南1区 土坑33	不明 底部 平底	・ナデ ・ナデ	・— ・— ・7.5	なし なし なし	S S S LL 3 1 1	0 0 0 L 2	0 0 0 L 2	0 0 0 L 2	0 0 0 L 2	0 0 0 L 2	0 0 0 L 2	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・5YR2/1
394-34 南1区 土坑33	不明 底部 高台底	・ナデ ・ナデ	・— ・— ・10.0	なし なし なし	S S S LL 3 3 3	0 0 0 S 1	0 0 0 S 1	0 0 0 S 1	0 0 0 S 1	0 0 0 S 1	0 0 0 S 1	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・5YR2/1
394-35 南1区 土坑33	不明 底部 凹底	・ナデ ・ナデ	・— ・— ・8.0	なし なし なし	S S S LL 3 3 3	0 0 0 S 1	0 0 0 S 1	0 0 0 S 1	0 0 0 S 1	0 0 0 S 1	0 0 0 S 1	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2

図一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈綻	縦文	砂粒						色調	備考
		・外面 ・内面	・口縁部 ・脚部上半 ・脚部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・墨り ・間幅 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート	赤色斑粒	その他	・外面 ・断面 ・内面	
394-36 南1区 底部 土坑33	不明 ・ナデ	・—	なし	なし	S S S I	M M L	M L	0 0	0	0	0	・5YR8/1 ・10YR7/2 ・10YR7/2	
394-37 南1区 底部 土坑33	不明 ・ナデ	・— ・— ・8.0	なし	なし	S S S I	L L L	0 0	0 0	0	0	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
394-38 南1区 底部 土坑33	不明 ・ナデ	・— ・— ・7.0	なし	なし	S S S I	M M L	0 0	0 0	0	0	0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
394-39 南1区 口縁～脚部 土坑39	深鉢 ・ナデ II群C類	・7.0 ・7.0 ・—	・U字形 ・3.0 ・3.5	・LR ・3.0 ・3.5	S S S I	M M L	0 0	0 0	0	0	0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
394-40 南1区 口縁～脚部 II群B類	深鉢 ・ナデ	・6.5 ・— ・—	・U字形 ・2.5 ・3.5	・RI ・— ・3.5	S S S I	M M L	0 0	0 0	0	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
394-41 南1区 口縁部 土坑39	深鉢 ・ナデ II群	・6.5 ・— ・—	・U字形 ・3.5 ・3.5	・LR ・— ・3.5	S S S I	M M L	0 0	0 0	0	0	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR4/1	
394-42 南1区 口縁部 II群	深鉢 ・ナデ II群	・6.0 ・— ・—	・U字形 ・3.0	なし	S M I	S M L	0 0	0 0	0	0	0	・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3	
394-43 南1区 口縁部 土坑39	深鉢 ・ナデ III群C類	・9.0 ・8.5 ・—	・V字形(櫛 状工具)	・LR ・4.0 ・0.5 ・4.0	S S S I	S M L	0 0	0 0	0	0	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
396-44 南1区 口縁部 土坑41	深鉢 ・ナデ I群C類	・8.0 ・— ・—	・U字形 ・5.5 ・4.0	・LR ・3.0 ・3.0	S S S I	S M L	0 0	0 0	0	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
396-45 南1区 口縁部 土坑41	深鉢 ・ナデ I群A類	・7.0 ・— ・—	・U字形 ・4.5 ・4.0	・LR ・2.0 ・2.0	S S S I	S M L	0 0	0 0	0	0	0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3	
396-46 南1区 口縁部 土坑41	深鉢 ・ナデ II群	・7.0 ・— ・—	・U字形 ・4.0	なし	S S S I	S M L	0 0	0 0	0	0	0	・7.5YR3/3 ・10YR4/1 ・7.5YR6/3	
396-47 南1区 口縁部 土坑41	深鉢 ・ナデ III群A類	・7.0 ・— ・—	なし	・LR ・— ・4.0	S S S I	S M L	0 0	0 0	0	0	0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・5YR2/1	
396-48 南1区 脚部 土坑41	深鉢 ・ナデ I群	・— ・9.0 ・—	・U字形 ・2.0 ・4.5	・LR ・3.0 ・4.5	S S S I	S M L	0 0	0 0	0	0	0	・7.5YR6/3 ・10YR4/1 ・5YR8/1	
396-49 南1区 脚部 土坑42	深鉢 ・ナデ I群	・— ・7.5 ・—	・U字形 ・3.5	なし	S S S I	S M L	0 0	0 0	0	0	0	・10YR4/1 ・10YR4/1 ・10YR7/2	
396-50 南1区 脚部 土坑42	深鉢 ・ナデ I群	・— ・8.0 ・—	・U字形 ・2.5	なし	S S S I	S M L	0 0	0 0	0	0	0	・10YR7/2 ・10YR4/1 ・10YR4/1	
396-51 南1区 脚部 II群A類?	深鉢 ・ナデ II群A類?	・— ・7.5 ・—	・U字形 ・3.5 ・4.0	・LR ・2.0 ・2.0	S S S I	S M L	0 0	0 0	0	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1	

図一一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈線	縦文	砂粒					色調	備考	
		・外面 ・内面	・口頭部 ・胴部上半 ・胴部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・盛り ・凹幅 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート	赤色斑粒	その他	・外面 ・断面 ・内面	
396-52 南1区 土坑42	深鉢 制部 II群	・ナデ ・準ミガキ ・—	・— ・7.0 ・—	・U字形 ・3.0 ・4.0	・LR ・2.5 ・4.0	S L 2	S 2	S 1	M LL 2	0 0	0 0	・7.5YR3/3 ・2.5Y5/8 ・2.5Y5/8	
396-53 南1区 土坑42	深鉢 制部 III群A類?	・ナデ ・ナデ ・—	・— ・7.5 ・8.0	なし	・LR ・2.5 ・3.5	S LL 3	S 3	S 1	M LL 2	0 0	0 0	・10YR7/2 ・10YR7/2 ・10YR7/2	
396-54 南1区 口縁部 II群	深鉢 ・ナデ ・ナデ ・—	・7.0 ・— ・—	・U字形 ・3.5 ・—	・LR ・1.5 ・3.0	S LL 3	S 3	S 1	L 1	0 LL 1	0 LL 1	0 LL 1	・5YR2/1 ・5YR2/1 93・94と 同一か	
396-55 南1区 口縁～胴部 I群C類	深鉢 ・ナデ ・ナデ ・—	・9.0 ・— ・—	・U字形 ・8.0 ・—	・LR ・4.0 ・5.0	S LL 4	S 3	S 1	M L 1	L 1	0 LL 1	0 LL 1	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
397-56 南1区 土坑45	焼成粘土壤	—	—	—	—	S M 2	S 1	0 0	0 0	0 0	0 0	10YR7/2	
397-57 南3区 土坑47	深鉢 口縁部 I群D類	・ナデ ・ナデ ・—	・6.0 ・— ・—	・U字形 ・4.0 ・—	なし	S LL 4	S 3	S 1	0 0	0 0	0 0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2	
397-58 南3区 口縁～胴部 I群E類	深鉢 ・ナデ ・ナデ ・—	・8.0 ・— ・—	・U字形 ・2.5 ・—	なし	S LL 3	S 3	S 1	L 1	0 0	0 0	0 0	・10YR4/1 ・364-37 ・5YR2/1 と同一か ・10YR4/1	
397-59 南3区 口縁部 III群B類	深鉢 ・ナデ ・ナデ ・—	・7.5 ・— ・—	なし	なし	S LL 4	S 3	S 1	0 0	0 0	0 0	0 0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・5YR2/1	
397-60 南3区 土坑47	深鉢 制部 I群	・ナデ ・ナデ ・—	・— ・8.0 ・—	・U字形 ・3.0 ・—	・LR ・4.0 ・5.5	S LL 3	S 3	S 1	M 1	0 0	0 0	・10YR7/2 ・10YR7/2 ・10YR7/2	
397-61 南3区 土坑47	深鉢 口縁～胴部 III群B類	・卷貝条痕 のちナデ ・6.0 ・—	・7.0 なし	なし	S LL 3	S 3	S 1	0 M 3	0 0	0 0	0 0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2	

### 第10 遺構面

410-1 南4区 遺構面上	深鉢 口～胴部 I群B類	・ナデ ・ナデ ・—	・5.0 ・6.0 ・7.5	・U字形 ・5.0 ・—	・LR ・4.0 ・5.0	S LL 4	S 3	S 2	L 1	0 0	0 0	・7.5YR3/3 ・2.5Y5/8 ・2.5Y5/8
410-2 南4区 遺構面上	深鉢 制部 III群B類	・ナデ ・ナデ ・—	・— ・— ・7.5	なし	なし	S LL 4	S 4	0 1	L 1	0 0	0 0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2
411-3 南4区 遺構面上	深鉢 口縁部 III群C類	・ナデ ・ミガキ ・—	・9.0 ・— ・—	・櫛歯 ・1.0	なし	S LL 3	S 2	M 2	M L 2	0 0	0 0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1
411-4 南4区 遺構面上	不明 底部 高台底	・— ・— ・—	・— ・— ・—	なし	なし	S LL 4	S 3	0 1	0 2	0 0	0 0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2

図一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈継	縹文	砂粒					色調	備考
		・外面 ・内面	・口部 ・脚部上半 ・脚部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・墨り ・間幅 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート	赤色斑粒	その他	・外面 ・断面 ・内面
第5－1次調査地												
422－1 南5区1ト レンチ 理設土器	深鉢 脚～底部 芥川～北白 川上層式	・巻貝条痕 ・巻貝条痕	・8.0 ・7.5 ・8.0	なし	なし	S L 4	S L 3	S M 1	M L 2	0	0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3
423－1 南5区1ト レンチ	深鉢 口縁部 芥川～北白 川上層式	・ナデ ・ミガキ	・5.0 ・— ・—	・U字形 ・3.5	なし	S L 3	S L 3	S 1	M L 2	0	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10 YR7/2
423－2 南5区2ト レンチ	深鉢 口縁部 芥川～北白 川上層式	・ナデ ・ナデ	・4.0 ・— ・—	・U字形 ・1.5	なし	S L 3	S L 3	S M 3	M 1	0	0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・5YR2/1
423－3 南5区1ト レンチ	深鉢 脚部 芥川～北白 川上層式	・ナデ ・ナデ	・— ・6.0 ・—	・U字形 ・3.0 ・— ・5.0	・Lr ・—	S L 3	S L 2	S 1	M L 1	0	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR7/2
423－4 南5区1ト レンチ	深鉢 頭～脚部 芥川～北白 川上層式	・ナデ ・ナデ	・6.0 ・— ・—	・V字形 ・2.0	なし	S L 3	S L 3	0	S M 1	0	0	・10YR7/2 ・5YR2/1 ・10YR4/1
423－5 南5区1ト レンチ	深鉢 脚部 芥川～北白 川上層式	・ナデ ・ナデ	・— ・7.0 ・—	・U字形 ・3.0	なし	S L 3	S L 2	S M 1	L 1	M L 1	0	・7.5YR6/3 ・2.5Y7/6 ・7.5YR6/3
423－6 南5区1ト レンチ	深鉢 脚部 芥川～北白 川上層式	・ナデ ・ナデ	・— ・7.0 ・—	・U字形 ・3.0	なし	S L 3	S L 3	S 1	M L 2	L 1	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3
423－7 南5区1ト レンチ	深鉢 脚部 北白川上層 式	・巻貝条痕 のちナデ ・巻貝条痕	・— ・7.5 ・—	・U字形 ・2.5	なし	S L 3	S L 3	S M 1	M L 2	0	0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR6/3
423－8 南5区2ト レンチ	深鉢 脚部 芥川～北白 川上層式?	・ナデ ・ミガキ	・— ・— ・6.0	・U字形 ・2.5 ・— ・4.5	・Lr ・— ・— ・4.5	S L 3	S L 4	S M 1	M L 2	0	0	・10YR7/2 ・10YR4/1 ・10YR7/2
423－9 南5区1ト レンチ	深鉢 脚部 型式不明	・巻貝条痕 のちナデ ・準ミガキ ナデ	・— ・— ・6.5	なし	・RL ・4.5 ・7.0	S L 3	S 2	S 2	M L 2	0	0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3
423－10 南5区1ト レンチ	深鉢 脚部 芥川～北白 川上層式	・ナデ ・ナデ(幅 1.5cm)	・7.0 ・— ・—	・V字状(幅 状工具) ・1.0	なし	S L 3	S L 4	S M 1	M L 1	0	0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・10YR4/1
423－11 南5区1ト レンチ	深鉢 口縁部 芥川～北白 川上層式	・ナデ ・ミガキ	・6.0 ・— ・—	なし ・— ・4.0	・Lr ・—	S L 3	S L 3	S M 1	M L 1	0	0	・5YR2/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2

図一一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈綻	縦文	砂粒					色調	備考
		・外面部 ・内面	・口頭部 ・脚部上半 ・脚部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・盛り ・凹幅 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート	赤色斑粒	その他	・外面部 ・断面 ・内面
423-12 南5区1ト レンチ	深鉢 口縁部 芥川～北白 川上層式	・ナデ ・巻貝条痕	・8.0 ・— ・—	なし	なし	S L 3	S L 3	S L 4	M L 2	0	0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3
423-13 南5区2ト レンチ	鉢 口縁～頸部 芥川～北白 川上層式?	・ナデ ・ナデ	・6.0 ・— ・—	なし	なし	S L 3	S M 2	S L 1	M L 2	0	0	・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3
423-14 南5区1ト レンチ	不明 底部 型式不明 平底	・ナデ ・ナデ	・— ・— ・6.0	なし	なし	S L 3	S M 1	0	M L 2	0	0	・5YR2/1 ・5YR2/1 ・2.5YR5/8
423-15 南5区1ト レンチ	鉢 口縁部 芥川～北白 川上層式	・ミガキ ・ミガキ	・8.0 ・— ・—	なし	なし	S L 3	S LL 3	S M 1	L 1	0	0	・10YR7/2 ・10YR7/2 ・10YR7/2
423-16 南5区2ト レンチ	鉢 口縁部 型式不明	・ナデ ・ナデ	・5.0 ・— ・—	なし	なし	S L 3	S L 3	S M 4	0	0	0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3
423-17 南5区2ト レンチ	耳飾り 耳栓形	・ミガキ ・ミガキ	—	なし	なし	S 3	S 3	S 2	0	0	0	・10YR4/1 ・— ・10YR4/1
423-18 南5区1ト レンチ	耳飾り 耳栓形	・ナデ ・ナデ	—	なし	なし	S 3	S 2	S 2	0	0	0	・5YR8/1 ・5YR8/1 ・5YR8/1

#### 第5-2次調査地

432-1 南6区1ト レンチ	深鉢 脚部 I群	・ナデ ・ナデ	・— ・8.5 ・—	・U字形 ・6.0 ・— ・6.0	・LR ・— ・6.0	S L 4	S L 2	0	L 1	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1
432-2 南6区1ト レンチ	深鉢 口縁～頸部 北白川上層 式	・巻貝条痕 ・ミガキ	・7.0 ・— ・—	・U字形 ・2.5 ・V字形 ・1.5	・LR ・— ・3.5 ・6.0	S L 3	S L 3	S M 1	LL 2	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR7/2
432-3 南6区1ト レンチ	深鉢 口縁～頸部 北白川上層 式	・ナデ ・準ミガキ ナデ	・5.0 ・— ・—	・U字形 ・3.5	なし	S L 3	S L 2	S M 1	M L 1	0	0	・10YR7/2 ・10YR7/2 ・10YR4/1
432-4 南6区1ト レンチ	深鉢 口縁～頸部 北白川上層 式	・ナデ ・ナデ	・6.5 ・— ・—	なし	・RL ・— ・5.0	S L 3	S L 3	S M 1	L 1	0	0	・10YR7/2 ・10YR4/1 ・10YR7/2
432-5 南6区1ト レンチ	壺 脚部 長原式	・ミガキ ・ナデ	・— ・— ・8.0	なし	なし	S LL 3	S M 2	S M 2	L LL 2	0	0	・10YR4/1 ・5YR2/1 ・10YR4/1
432-6 南6区1ト レンチ	不明 底部 型式不明 同此	・ナデ ・ナデ	・— ・— ・7.0	なし	なし	S L 3	S L 3	S M 1	L 1	0	0	・10YR7/2 ・10YR4/1 ・10YR4/1

図一番号 出土地点	器種 部位 型式・分類	調整	厚み mm	沈線	縦文	砂粒					色調	備考
		・外面 ・内面	・口頭部 ・脚部上半 ・脚部下半	・断面形 ・幅 mm ・条幅 mm	・盛り ・凹凸 mm ・条幅 mm	石英 長石	雲母	角閃石	チャート	赤色斑粒	その他	
432-7 南6区1ト レンチ	鉢 口縁～頸部	・ナデ ・ナデ ・—	・5.5 ・— ・—	なし	なし	S L 3	S 2	0	S M 1	0	0	・7.5YR3/3 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3
432-8 南6区1ト レンチ	甕 底部	・タタキ ・ナデ ・— ・6.0	・— ・— ・— ・5.0	なし	なし	S L 3	S 1 2	S M 1	M 1	0	0	・7.5YR3/3 ・7.5YR6/3 ・7.5YR6/3
432-9 南6区1ト レンチ	甕? 底部	・ナデ ・ナデ ・— ・—	・— ・— ・— ・5.0	なし	なし	S L 3	S M 3	S 3 1	M L 1	0	0	・2.5YR5/8 ・5YR2/1 ・7.5YR3/3
432-10 南6区1ト レンチ	高杯 口縁部	・ナデ ・ナデ ・— ・—	・5.5 ・— ・— ・—	なし	なし	S L 3	S 2 M 2	S M 2	S 1	0	0	・7.5YR6/3 ・5YR2/1 ・7.5YR6/3
432-11 南6区1ト レンチ	土師皿 口縁～底部	・ナデ ・ナデ ・—	・6.0 ・6.0 ・—	なし	なし	S L 2	S M 2 4	S 2	0	0	0	・10YR7/2 ・10YR7/2 ・10YR7/2

別表2-5 第4次調査第8遺構面出土土製品 観察表

団-番号	地区 出土地点	器種	部位	色調	胎土	残存 長 (mm)	最大 幅 (mm)	最大 厚 (mm)	重量 (g)	備考
333-1	N 2 8層上面	土偶	全身	黒褐 2.5Y 3/1	4.0mm以下の長石多量に含む。1mm以下のチャート少量含む。	134.0	98.0	16.0	198.4	
333-2	N 3 8層上面	土偶	顎部	灰黄 2.5Y 7/2	3.0mm以下の長石、2mm以下の石英多量に含む。1mm以下のチャート少量含む。一部にクサリ縞が認められる。	49.0	53.0	29.5	46.7	
333-3	N 2 8層上面	土偶	腕部	にぶい黄 2.5Y 6/3	3.0mm以下の長石、2mm以下の石英、1mm以下のチャート多量に含む。1mm以下の雲母少量含む。	47.5	26.0	25.5	25.0	
333-4	N 2 8層上面	土偶	腕部	にぶい黄橙 10YR 6/4	3mm以下の長石多量に含む。2mm以下の雲母少量含む。	40.0	28.0	19.5	20.0	
333-5	N 2 8層上面	土偶	腕部 (左)	浅黄 2.5Y 7/3	2.0mm以下の長石、1.0mm以下もしくは4.0mm以下の雲母少量含む。	56.0	31.0	22.5	27.2	
333-6	N 2 8層上面	土偶	腕部～胸部 (右半身)	黒褐 10YR 3/1	2.0mm以下または4.0mm以下の長石、1.0mm以下の雲母多量に含む。	48.5	29.0	22.5	49.7	赤色顔料付着
333-7	N 2 8層上面	土偶	腕部～胸部 (右半身)	黒褐 2.5Y 3/1	2.5mm以下の長石、1.0mm以下の石英多量に含む。0.5mm以下の雲母少量含む。	86.0	79.0	41.5	138.3	赤色顔料付着
334-8	廐土中	土偶	腕部～胸部 (右半身)	にぶい黄橙 10YR 7/4	2mm以下の長石、1mm以下のチャート多量に含む。3mm以下の石英、1.5mm以下の雲母少量含む。	56.0	41.0	28.5	42.7	
334-9	N 3 8層上面	土偶	胸部 (右半身)	にぶい橙 7.5YR 7/3	2mm以下の長石・石英多量に含む。1mm以下の雲母少量含む。1.0mm以下の角閃石ごく僅かに含む。	65.0	27.0	15.3	43.9	赤色顔料付着
334-10	N 3 8層上面	土偶	胸部～脚部 (左半身)	浅黄 2.5Y 7/3	1mm以下の長石多量に含む。2mm以下のチャート、1mm以下の雲母・石英少量含む。	84.0	30.0	23.0	47.9	赤色顔料付着
334-11	N 3 8層上面	土偶	脚部～脚部 (右半身)	灰黄 2.5Y 7/2	3.0mm以下の石英、2.0mm以下の長石多量に含む。1.0mm以下のチャート・角閃石少量含む。	85.0	22.0	21.0	33.0	
334-12	N 2 8層上面	土偶	脛部～脚部 (左半身)	にぶい黄橙 10YR 6/4	1.0mm以下の長石・石英・雲母少量含む。1.0mm以下のチャート・角閃石ごく僅かに含む。	90.0	33.0	30.0	76.6	
334-13	N 2 8層上面	土偶	脚部 (右)	にぶい黄橙 10YR 7/4	2.0mm以下の長石・石英多量に含む。3.0mm以下のチャート少量含む。	70.0	36.0	29.0	57.8	
334-14	廐土中	不明		灰黄 2.5Y 7/2	1.0mm以下の長石多量に含む。2.0mm以下の石英、1.0mm以下のチャート少量含む。角閃石ごく僅かに含む。	49.0	25.5	10.3	19.0	
334-15	北2区 土器棺底 7	土玉		にぶい黄 2.5Y 6/3	1.0mm以下の長石・雲母少量含む。	15.0	7.5	6.5	0.7	穿孔径 2.5mm

別表3 第4次調査出土石器・石製品観察表

図・番号 器種 出土場所	大きさと重量	色調	石材	備考
110-1 砥石 第1道構面 道構面上	最大長 6.35cm (完形) 最大厚 2.1cm 最大幅 6.8cm 重量 72.2g	10Y7/1 灰白色	片岩	板状の三角形
183-1 石鎌 第3道構面 道構面上	最大長 1.5cm (先端・基部欠損) 最大厚 0.3cm 最大幅 1.25cm 重量 0.6g	N3/0暗灰色	サヌカイト	縄文時代 円基式石鎌
183-2 石鎌 第3道構面 道構面上	最大長 4.35cm (完形) 最大厚 0.5cm 最大幅 1.7cm 重量 3.5g	N4/0灰色	サヌカイト	弥生時代中期～後期 有茎式石鎌
183-3 石鎌 第3道構面 道構面上	最大長 4.95cm (ほぼ完形) 最大厚 0.7cm 最大幅 1.2cm 重量 3.7g ・外面	N4/0灰色	サヌカイト	弥生時代中期～後期 有茎式石鎌
200-1 石包丁 第4道構面 道構面上	最大長 3.8cm (全体3/10残存) 最大厚 0.5cm 最大幅 7.4cm 重量 19.0g	2.5GY5/1 オリーブ灰色	片岩	弥生時代 直線刃半月形
221-1 石鎌 第5道構面 道構面上	最大長 2.6cm (完形) 最大厚 0.35cm 最大幅 1.2cm 重量 1.2g	N4/0灰色	サヌカイト	縄文時代～弥生時代前期 平基式石鎌
254-1 石鎌 第7道構面 道構面上	最大長 2.7cm (ほぼ完形) 最大厚 0.5cm 最大幅 1.7cm 重量 1.0g	N2/0黒色	サヌカイト	縄文時代 円基式石鎌
254-2 石鎌 第7道構面 道構面上	最大長 1.8cm (完形) 最大厚 0.3cm 最大幅 1.2cm 重量 0.6g	N2/0黒色	サヌカイト	縄文時代 未成品 円基式石鎌
254-3 石鎌 第7道構面 道構面上	最大長 2.0cm (ほぼ完形) 最大厚 0.35cm 最大幅 1.2cm 重量 0.7g	N2/0黒色	サヌカイト	逆涙滴形
254-4 石鎌 第7道構面 道構面上	最大長 2.55cm (ほぼ完形) 最大厚 0.3cm 最大幅 1.15cm 重量 0.7g	N2/0黒色	サヌカイト	逆涙滴形
254-5 削器 第7道構面 道構面上	最大長 4.4cm (完形) 最大厚 0.45cm 最大幅 1.8cm 重量 3.4g	N2/0黒色	サヌカイト	横長剣片を用いる
254-6 石包丁 第7道構面 道構面上	最大長 5.35cm (全体1/5残存) 最大厚 0.85cm 最大幅 4.6cm 重量 22.2g	2.5Y8/2 灰白色	凝灰岩	弥生時代前期 直線刃半月形 耳成山産
254-7 石包丁 第7道構面 道構面上	最大長 6.9cm (全体2/5) 最大厚 0.7cm 最大幅 5.6cm 重量 27.0g	10YR8/2 灰白色	凝灰岩	弥生時代前期 外湾刃半月形 耳成山産
254-8 自然礫 第7道構面 道構面上	最大長 8.4cm (全体1/5) 最大厚 5.7cm 最大幅 4.85cm 重量 269.1g	7.5Y6/1 灰色	砂岩	加工・使用痕とともに不明

図・番号 器種 出土場所	大きさと重量	色調	石材	備考
335-1 石鑼 第8道構面 道構面上	最大長 2.1cm (基部欠損) 最大厚 0.4cm 最大幅 1.2cm 重量 0.7g	N2/0 黒色	サヌカイト	縄文時代 円基式石鑼
335-2 石鑼 第8道構面 道構面上	最大長 2.65cm 最大厚 0.4cm 最大幅 1.8cm 重量 1.7g	N5/0 灰色	サヌカイト	縄文時代 円基式石鑼 鋸歯縁をつくりだす
335-3 石錐 第8道構面 道構面上	最大長 2.35cm 最大厚 0.35cm 最大幅 1.7cm 重量 1.3g	N2/0 黒色	サヌカイト	逆涙滴形 未成品
335-4 石錐 第8道構面 道構面上	最大長 4.05cm 最大厚 0.7cm 最大幅 0.9cm 重量 2.8g	N2/0 黒色	サヌカイト	原礫面残る 棒形
335-5 石錐 第8道構面 道構面上	最大長 3.1cm 最大厚 0.4cm 最大幅 1.0cm 重量 1.0g	N2/0 黒色	サヌカイト	原礫面残る 棒形
335-6 石錐 第9道構面 道構面上	最大長 4.35cm 最大厚 0.65cm 最大幅 1.05cm 重量 3.4g	N2/0 黒色	サヌカイト	棒形 未成品 原礫面残る
335-7 石核 第8道構面 道構面上	最大長 5.35cm 最大厚 4.05cm 最大幅 7.0cm 重量 163.7g	N2/0 黒色	サヌカイト	原礫面残る
335-8 用途不明 第8道構面 道構面上	最大長 8.9cm 最大厚 0.9cm 最大幅 1.9cm 重量 19.2g	N5/0 灰色	片岩	摩耗がみられるが人為的なものか は不明
335-9 用途不明 第8道構面 道構面上	最大長 11.8cm 最大厚 6.25cm 最大幅 7.35cm 重量 640.2g	10GY6/1 緑灰色	砂岩	石冠の可能性あり
336-10 石冠もしくは御物石器 第8道構面 道構面上	最大長 9.8cm (全体 1/4 残存) 最大厚 3.9cm 最大幅 7.5cm 重量 434.7g	N4/0 灰色	熱変成を受けた砂岩	欠損後敲石として使用される
336-11 用途不明 第8道構面 道構面上	最大長 13.1cm (全体 3/5 残存) 最大厚 2.95cm 最大幅 6.7cm 重量 385.0g	7.5Y6/1 灰色	結晶片岩	摩耗がみられるが人為的なものか は不明
336-12 磨製石斧 第8道構面 道構面上	最大長 7.7cm (完形) 最大厚 1.6cm 最大幅 4.3cm 重量 82.9g	5B5/2 青灰色	砂岩	小形 使用痕など不明瞭 外面に研磨痕
336-13 打製石斧 第8道構面 道構面上	最大長 11.2cm (完形) 最大厚 1.9cm 最大幅 4.5cm 重量 117.0g	5G4/1 暗緑灰色・ 5R4/1 暗赤色	片岩	未成品 礫表面を残す
336-14 台石 第8道構面 道構面上	最大長 8.4cm 最大厚 1.0cm 最大幅 3.65cm 重量 35.8g	2.5GY6/1 オリー ブ灰色	緑泥片岩	台石の破片
336-15 石斧もしくは素材石 第8道構面 道構面上	最大長 13.4cm 最大厚 3.75cm 最大幅 6.4cm 重量 450.3g	5B5/1 青灰色	砂岩	刃部および基部欠損 刃部加工が残る

図・番号 器種 出土場所	大きさと重量	色調	石材	備考
336-16 打製石斧 第8道構面 遺構面上	最大長 18.0cm (完形) 最大厚 2.5cm 最大幅 6.7cm 重量 217.1g	N4/0灰色	片麻岩	全体敲打により刃潰れ
337-17 石鎌 第8道構面 遺構面上	最大長 4.2cm 最大厚 0.3m 最大幅 2.5cm 重量 6.0g	2.5GY5/1 オリー ブ灰色	片岩	内側縁部に細かな敲打
337-18 石鎌 第8道構面 遺構面上	最大長 8.25cm 最大厚 0.3cm 最大幅 4.5cm 重量 19.7g	5B3/1 明青灰色	片岩	内側縁部に細かな敲打
337-19 石鎌 第8道構面 遺構面上	最大長 9.3cm 最大厚 0.6cm 最大幅 3.6cm 重量 28.2g	5B5/1 青灰色	片岩	石包丁の転用? 刃部に細かな敲打
337-20 磨石 第8道構面 遺構面上	最大長 4.9cm 最大厚 2.95cm 最大幅 7.05cm 重量 107.8g	10Y6/1 灰色	砂岩	研磨痕がみられる
337-21 敲石 第8道構面 遺構面上	最大長 8.6cm (完形) 最大厚 3.2cm 最大幅 6.45cm 重量 198.2g	5B7/1 明青灰色	片麻岩	敲打痕がみられる
337-22 自然縫? 第8道構面 遺構面上	最大長 6.2cm (完形) 最大厚 1.3cm 最大幅 3.4cm 重量 40.3g	5Y5/1 灰色	砂岩	被熱? 煤付着 石縫の未成品の可能性あり 外面に研磨痕
337-23 磨石 第8道構面 遺構面上	最大長 3.4cm (全体1/10残存) 最大厚 3.9cm 最大幅 2.85cm 重量 52.2g	10Y5/1 灰色	砂岩	被熱?
337-24 石器石材? 第8道構面 遺構面上	最大長 11.8cm (全体不明) 最大厚 1.4cm 最大幅 3.25cm 重量 65.8g	5B3/1 暗青灰色	結晶片岩	加工・使用痕ともに不明
337-25 敲石 第8道構面 遺構面上	最大長 11.85cm (全体1/2残存) 最大厚 5.3cm 最大幅 5.7cm 重量 475.8g	10GY4/1 暗緑灰色	砂岩	外面に敲打痕・研磨痕?
338-26 燒石 第8道構面 遺構面上	最大長 5.8cm 最大厚 6.3cm 最大幅 5.2cm 重量 206.5g	N6/0灰色	砂岩	煤付着
338-27 磨石転用楔形石器 第8道構面 遺構面上	最大長 5.5cm 最大厚 2.05cm 最大幅 4.55cm 重量 67.9g	N2/0黒色	砂岩	周縁部打欠きあり 楔として使用したものか 外面に敲打痕
338-28 敲石 第8道構面 遺構面上	最大長 11.2cm (完形) 最大厚 6.5cm 最大幅 6.6cm 重量 694.3g	10GY6/1 緑灰色	砂岩	被熱 外面に研磨痕・敲打痕
338-29 磨石 第8道構面 遺構面上	最大長 9.5cm (全体4/5残存) 最大厚 6.5cm 最大幅 5.9cm 重量 455.4g	10GY4/1 暗緑灰色	斑レイ岩	外面に擦痕・敲打痕・研磨痕

図-番号 器種 出土場所	大きさと重量	色調	石材	備考
338-30 鐵石 第8道構面 道構面上	最大長 8.1cm (全体9/10残存) 最大厚 3.9cm 最大幅 6.55cm 重量 250.3g	10Y5/1 灰色	砂岩	外面に敲打痕
339-31 鐵石 第8道構面 道構面上	最大長 9.7cm (全体3/5残存) 最大厚 5.5cm 最大幅 6.0cm 重量 441.9g	10GY5/1 緑灰色	砂岩	外面に敲打痕
339-32 石皿 第8道構面 道構面上	最大長 12.0cm (全体9/10残存) 最大厚 8.55cm 最大幅 12.3cm 重量 1819.9g	2.5CY6/1 オリーブ灰色	砂岩	外面に研磨痕
339-33 鐵石 第8道構面 道構面上	最大長 15.0cm (完形) 最大厚 6.0cm 最大幅 7.8cm 重量 859.6g	10GY4/1 暗緑灰色	斑レイ岩	外面に敲打痕
340-1 石鑼 第8道構面 燃土5	最大長 2.3cm (基部欠損) 最大厚 0.3cm 最大幅 1.0cm 重量 0.6g	N2/0 黒色	サヌカイト	円基式石鑼
340-2 石鑼 第8道構面 燃土5	最大長 2.7cm 最大厚 0.35cm 最大幅 1.9cm 重量 1.7g	N2/0 黒色	サヌカイト	未成品。製作中に欠損、廃棄されたものか
340-3 削器 第8道構面 土器棺墓21	最大長 7.4cm 最大厚 1.3cm 最大幅 3.6cm 重量 42.1g	N2/0 黒色	サヌカイト	原礫面残る
340-4 鐵石 第8道構面 上坑9	最大長 9.25cm 最大厚 4.3cm 最大幅 8.2cm 重量 615.3g	10Y7/1 灰白色	安山岩	外面に敲打痕
340-5 鐵石 第8道構面 上坑20	最大長 16.0cm (完形) 最大厚 6.45cm 最大幅 6.9cm 重量 953.4g	10GY4/1 暗緑灰色	砂岩	外面に敲打痕
398-1 石匙 第9道構面 道構面上	最大長 3.8cm (全体1/2残存) 最大厚 0.7cm 最大幅 3.7cm 重量 7.0g	N5/0 灰色	サヌカイト	原礫面残る
398-2 石匙 第9道構面 道構面上	最大長 7.9cm (完形) 最大厚 0.8cm 最大幅 3.4cm 重量 21.0g	N6/0 灰色	サヌカイト	
398-3 石匙 第9道構面 道構面上	最大長 6.5cm (完形) 最大厚 1.3cm 最大幅 7.6cm 重量 45.9g	N4/0 灰色	サヌカイト	
399-4 石鍤 第9道構面 道構面上	最大長 4.7cm (完形) 最大厚 1.25cm 最大幅 3.65cm 重量 31.1g	N6/0 灰色	片岩	打欠石鍤 外面に擦痕
399-5 石鍤 第9道構面 道構面上	最大長 4.7cm (完形) 最大厚 1.1cm 最大幅 3.5cm 重量 31.3g	5BG5/1 青灰色	砂岩	打欠石鍤 外面に擦痕

図・番号 器種 出土場所	大きさと重量	色調	石材	備考
399-6 石鍤 第9道構面 道構面上	最大長 6.1cm (ほぼ完形) 最大厚 1.1cm 最大幅 3.8cm 重量 47.0g	10G5/1 緑灰色	泥岩	打欠石鍤
399-7 石鍤 第9道構面 道構面上	最大長 6.3cm (完形) 最大厚 1.7cm 最大幅 2.85cm 重量 48.5g	10R5/2 灰赤色	チャート	切目石鍤 外面に擦痕・打欠
399-8 石鍤 第9道構面 道構面上	最大長 6.92cm (完形) 最大厚 1.45cm 最大幅 3.0cm 重量 41.9g	N6/0 灰色	片岩	切目石鍤 外面に打欠
399-9 石鍤 第9道構面 道構面上	最大長 6.9cm 最大厚 1.1cm 最大幅 3.3cm 重量 38.8g	N4/0 灰色	片岩	切目石鍤
399-10 打製石斧 第9道構面 道構面上	最大長 15.5cm 最大厚 1.7cm 最大幅 5.1cm 重量 157g	5G6/1 緑灰色	片岩	基部に抉りあり
399-11 石皿 第9道構面 道構面上	最大長 14.0cm 最大厚 4.2cm 最大幅 6.0cm 重量 513g	7.5GY7/1 明緑灰色	凝灰岩	外面に研磨痕
399-12 磨石 第9道構面 道構面上	最大長 11.2cm 最大厚 3.82cm 最大幅 4.7cm 重量 251.9g	10Y8/1 灰白色	花崗岩	外面に研磨痕
399-13 敲石もしくは磨石 第9道構面 道構面上	最大長 7.85cm 最大厚 3.85cm 最大幅 5.0cm 重量 263.3g	10CY4/1 暗緑灰色	斑レイ岩	外面に研磨痕・敲打痕
399-14 台石 第9道構面 道構面上	寸詳 - 残存高 3.0cm 底詳 - 重量 77.5g	10Y6/1 灰色	安山岩	朱付着 外面に敲打痕
399-15 敲石もしくは磨石 第9道構面 道構面上	最大長 4.8cm 最大厚 3.3cm 最大幅 4.15cm 重量 93.7g	N4/0 灰色	砂岩	外面に研磨痕・敲打痕
400-16 磨石 第9道構面 道構面上	最大長 6.0cm 最大厚 2.9cm 最大幅 8.6cm 重量 130.1g	10GY6/1 緑灰色	砂岩	外面に研磨痕
400-17 敲石 第9道構面 道構面上	最大長 6.85cm 最大厚 2.5cm 最大幅 5.1cm 重量 85.7g	5BG6/1 青灰色	砂岩	外面に敲打痕
400-18 敲石 第9道構面 道構面上	最大長 6.85cm 最大厚 3.1cm 最大幅 10.1cm 重量 268.3g	10Y7/1 灰白色	凝灰岩	外面に敲打痕
400-19 磨石 第9道構面 道構面上	最大長 11.55cm 最大厚 2.9cm 最大幅 10.0cm 重量 427.0g	7.5GY8/1 明緑灰色	凝灰岩	外面に研磨痕
400-20 敲石 第9道構面 道構面上	最大長 4.8cm 最大厚 3.05cm 最大幅 10.1cm 重量 157.9g	10G5/1 緑灰色	砂岩	敲打痕がみられる

図-番号 器種 出土場所	大きさと重量	色調	石材	備考
400-21 敲石 第9道構面 道構面上	最大長 9.55cm 最大厚 3.8cm 最大幅 3.9cm 重量 156.8g	5B7/2 明青灰色	砂岩	外面に敲打痕
400-22 敲石 第9道構面 道構面上	最大長 11.9cm 最大厚 3.8cm 最大幅 9.8cm 重量 700.9g	10Y8/1 灰白色	流紋岩	外面に敲打痕
400-23 敲石 第9道構面 道構面上	最大長 6.25cm 最大厚 6.85cm 最大幅 8.5cm 重量 327.7g	10GY5/1 緑灰色	砂岩	外面に敲打痕
401-24 敲石もしくは磨石 第9道構面 道構面上	最大長 11.5cm 最大厚 6.4cm 最大幅 9.9cm 重量 1060.0g	10GY6/1 緑灰色	砂岩	外面に研磨痕
401-25 敲石 第9道構面 道構面上	最大長 10.1cm 最大厚 2.8cm 最大幅 11.5cm 重量 477.3g	2.5Y7/1 灰白色	凝灰岩	外面に敲打痕
401-26 敲石 第9道構面 道構面上	最大長 11.9cm 最大厚 2.1cm 最大幅 5.1cm 重量 956.0g	7.5GY8/1 明緑灰色	砂岩	外面に敲打痕
402-27 敲石 第9道構面 道構面上	最大長 11.5cm 最大厚 7.5cm 最大幅 10.7cm 重量 1322.9g	5GY6/1 オリーブ灰色	砂岩	外面に敲打痕
402-28 磨石 第9道構面 道構面上	最大長 11.7cm (全体2/3残存) 最大厚 3.45cm 最大幅 3.3cm 重量 568.4g	10GY6/1 緑灰色	砂岩	外面に研磨痕
402-29 磨石 第9道構面 道構面上	最大長 13.5cm (完形) 最大厚 6.95cm 最大幅 10.3cm 重量 146.4g	10G5/1 緑灰色	砂岩	外面に研磨痕
402-30 柱状礫 第9道構面 道構面上	最大長 25.1cm 最大厚 1.9cm 最大幅 6.1cm 重量 1243g	5Y6/1 灰色	片麻岩	加工・使用痕とともに不明
403-1 敲石 第9道構面 土坑22	最大長 11.3cm 最大厚 3.1cm 最大幅 6.5cm 重量 299.8g	7.5Y8/1 灰白色	凝灰岩	外面に敲打痕
403-2 砥石 第9道構面 土坑35	最大長 12.92cm 最大厚 2.9cm 最大幅 5.65cm 重量 21.6g	2.5Y7/2 灰黄色	凝灰岩	外面に研磨痕
403-3 石鍤 第9道構面 土坑36	最大長 7.35cm 最大厚 1.5cm 最大幅 4.0cm 重量 61.6g	N5/0 灰色	泥岩	切目石鍤
403-4 石鍤 第9道構面 土坑36	最大長 8.4cm 最大厚 1.3cm 最大幅 3.15cm 重量 52.7g	N4/0 灰色	泥岩	切目石鍤
403-5 台石 第9道構面 土坑39	最大長 39.0cm 最大厚 6.65cm 最大幅 25.1cm 重量 7.4g	5BG5/1 青灰色	片岩	外面に敲打痕

図・番号 器種 出上場所	大きさと重量	色調	石材	備考
404-1 石柱 第9道構面 土坑30	最大長 66.6cm 最大厚 13.0cm 最大幅 19.6cm 重量 24200g	10Y7/1 灰白色	片岩	
404-2 敲石 第9道構面 土坑30	最大長 6.0cm 最大厚 3.45cm 最大幅 9.1cm 重量 264.4g	N6/0 灰色	安山岩	外面に敲打痕
404-3 磨石 第9道構面 土坑30	最大長 16.4cm 最大厚 9.6cm 最大幅 15.1cm 重量 1800g	N6/0 灰色	砂岩	外面に研磨痕
404-2 磨石 第2トレンチ 第2 層	最大長 13.4cm 最大厚 5.1cm 最大幅 11.0cm 重量 916g	10Y8/1 灰白色	流紋岩	外面に研磨痕

別表4 第4次調査出土木製品・木片等一覧表

- 木製品等については、護岸材として用いられた加工木が圧倒的多数を占めているので、その計測値等を一覧するに際して、「護岸材一覧表」(別表4-1)と護岸材以外の木製品・木片一覧表(別表4-2)に分けたて作成した。
- 別表4-1 護岸材一覧表の「型式」・「類型」・「a (cm)」・「b (cm)」の項に記した、護岸材の型式分類・類型分類および寸法の計測箇所については、藤田和尊氏が御所市鴨都波遺跡出土護岸材に対して行った分析に際して設定したもの(藤田1992)に従った。これは、同一地域における同種遺物について、統一的な視点で観察・分類することで、今次調査出土遺物についても将来的に分析を行うための基礎資料と成すためである。
- 藤田氏による護岸材の型式分類は、下記に引用する藤田氏作成表のとおりである。

形 式	型 式	規 定 基 準	断面模式図	類 别	類 别 基 準
丸 板	A 丸木板			1 2 3	
					1 → a = 2 cm以下
					2 → a = 3 ~ 6 cm
	B 平底杭			1 2 3	3 → a = 7 cm以上
	C 四分割杭 (a ≈ b)			1 2 3	
	D 角 板 (a < b × 2)				
矢 板	A 斧材の芯側に面を持つもの (a > b)			1 2	a = 1.0 cm以下 a = 1.1 cm以上
	B 斧材の芯側に面を持つもの (a ≈ b × 2)			1 2 3	a = 1.1 cm以下 a = 1.2 ~ 1.7 cm a = 1.8 cm以上
	C 原材の表面を削り取る板山材				
木頭構木	A 丸木構木				
	B 平底構木				
	C 四分割構木				
	D 角構木				
	E 斧材の芯側に面を持つ板				
	F 原材の芯側に面を持つ板				

護岸材の型式分類(藤田1992)

- 出土木材は、可能な限り樹種同定を行った。同定は株式会社 吉田生物研究所(※1)、パリノサーヴェイ株式会社(※2)が行い、それぞれの記号を表中に記した。

番号	実測図 等番号	遺構	出土状況 況閑	形式種別	類型	残存 長(cm)	a (cm)	b (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	木取	樹種	樹種 同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
第1遺構面(5層上面)														
1		井戸 <sup>3</sup>	図41	井戸 <sup>3</sup> 材	—	97.0	—	—	8.0	2.0				南区 第1遺構面 井戸 <sup>3</sup> 井戸材
2		井戸 <sup>3</sup>	図41	竹	—	30.0	—	—	5.0					南区 第1遺構面 井戸 <sup>3</sup> 井戸内
3		井戸 <sup>3</sup>	図41	竹	—	20.0	—	—	5.0					南区 第1遺構面 井戸 <sup>3</sup> 井戸内
4		ピット <sup>28</sup>	図50	柱材	—	22.0	—	—	13.5		板目	ヒノキ科ヒノキ属	※1 NI-1 P-004	
5	111-2	流路1 渠 <sup>1</sup>	図75	杭	A2	82.0	4.0				心持	ヒノキ科アスナ ロ属	※1 S1	流路1杭列1 10
6	111-3	流路1 渠 <sup>1</sup>	図75	杭	A2	41.0	4.0				板目	クヌゴ科クヌ ゴ属	※1 S1	流路1杭列1 15
7	111-3	流路1 渠 <sup>1</sup>	図75	矢板	B1	41.0	7.0	3.0			板目	ヒノキ科アスナ ロ属	※1 S1	流路1杭列1 18
8		流路1 渠 <sup>1</sup>	図75	杭	A2	24.0	4.0						S1	流路1杭列1 1
9		流路1 渠 <sup>1</sup>	図75	杭	D	11.0	3.0	3.0					S1	流路1杭列1 4
10		流路1 渠 <sup>1</sup>	図75	杭	A2	18.0	6.0						S1	流路1杭列1 5
11		流路1 渠 <sup>1</sup>	図75	杭	A2	9.0	3.0						S1	流路1杭列1 6
12		流路1 渠 <sup>1</sup>	図75	杭	A2	22.0	5.0						S1	流路1杭列1 7
13	別表 I-1	流路1 渠 <sup>1</sup>	図75	杭	A2	24.0	6.0				ツバキ属	※2 S1	流路1杭列1 8	
14		流路1 渠 <sup>1</sup>	図75	杭	A2	14.0	3.0						S1	流路1杭列1 9
15		流路1 渠 <sup>1</sup>	図75	杭	A2	38.0	3.9						S1	流路1杭列1 11
16		流路1 渠 <sup>1</sup>	図75	杭	A2	25.0	6.0						S1	流路1杭列1 12
17		流路1 渠 <sup>1</sup>	図75	杭	A2	39.0	9.0						S1	流路1杭列1 13
18		流路1 渠 <sup>1</sup>	図75	矢板	B1	30.0	6.0	3.0					S1	流路1杭列1 14
19		流路1 渠 <sup>1</sup>	図75	杭	C2	21.0	3.1	3.0					S1	流路1杭列1 16
20		流路1 渠 <sup>1</sup>	図75	杭	A2	35.0	6.0						S1	流路1杭列1 17
21	111-4	流路1 渠 <sup>2</sup>	図76	矢板	B1	67.0	6.0	2.0 ~ 3.0			板目	ニレ科ケヤキ属 ケヤキ	※1 S1	流路1杭II 16
22	111-5	流路1 渠 <sup>2</sup>	図76	杭	B2	38.0	4.6	6.5			板目	ブナ科クリ属タ リ	※1 S1	流路1杭II 17
23	111-7	流路1 渠 <sup>2</sup>	図76	杭	A2	17.0	4.0				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ並属	※1 S1	流路1杭II 20
24	111-6	流路1 渠 <sup>2</sup>	図76	杭	A3	55.0	9.0				心持	イチイ科カヤ属 カヤ	※1 S1	流路1杭II 31
25		流路1 渠 <sup>2</sup>	図76	杭	A2	15.0	4.0						S1	流路1杭II 1
26		流路1 渠 <sup>2</sup>	図76	杭	A2	12.0	5.0						S1	流路1杭II 2
27		流路1 渠 <sup>2</sup>	図76	杭	C1	10.0	2.8	5.0					S1	流路1杭II 3
28		流路1 渠 <sup>2</sup>	図76	杭	A2	17.0	4.0						S1	流路1杭II 4
29		流路1 渠 <sup>2</sup>	図76	矢板	B1	8.0	4.0	1.5 ~ 2.0					S1	流路1杭II 5
30		流路1 渠 <sup>2</sup>	図76	杭	A2	9.0	3.0						S1	流路1杭II 6

番号	実測図等番号	遺構	出土状況	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
31		流路1 堰2	図76	矢板	B1	8.0	3.0	3.0					S1	流路1杭II 7
32		流路1 堰2	図76	杭	D	9.0	5.0	3.0					S1	流路1杭8
33		流路1 堰2	図76	杭	D	10.0	5.0	4.0					S1	流路1杭II 9
34		流路1 堰2	図76	杭	C1	7.0	2.0	4.0					S1	流路1杭II 10
35		流路1 堰2	図76	杭	A2	22.0	3.0						S1	流路1杭II 11
36		流路1 堰2	図76	杭	C1	26.0	2.0	3.0					S1	流路1杭II 12
37		流路1 堰2	図76	杭	A2	34.0	5.0						S1	流路1杭II 13
38		流路1 堰2	図76	杭	A2	18.0	4.0						S1	流路1杭II 14
39		流路1 堰2	図76	杭	B1	33.0	2.5	4.0					S1	流路1杭II 15
40		流路1 堰2	図76	杭	D	45.0	3.0	5.0					S1	流路1杭II 16
41		流路1 堰2	図76	杭	A2	35.0	4.0						S1	流路1杭II 17
42		流路1 堰2	図76	杭	A2	18.0	4.0						S1	流路1杭II 18
43		流路1 堰2	図76	杭	B2	39.0	3.7	6.3					S1	流路1杭II 19
44		流路1 堰2	図76	杭	A2	42.0	6.0						S1	流路1杭II 20
45		流路1 堰2	図76	矢板	A2	32.0	3.0						S1	流路1杭II 21
46		流路1 堰2	図76	杭	B1	38.0	2.8	5.2					S1	流路1杭II 22
47		流路1 堰2	図76	杭	A2	28.0	4.0						S1	流路1杭II 23
48		流路1 堰2	図76	杭	A2	17.0	4.0						S1	流路1杭II 24
49		流路1 堰2	図76	杭	A2	27.0	4.0						S1	流路1杭II 25
50		流路1 堰2	図76	杭	A2	28.0	5.0						S1	流路1杭II 26
51		流路1 堰2	図76	矢板	A1	31.0	7.0	2.0					S1	流路1杭II 27
52		流路1 堰2	図76	杭	A2	29.0	4.0						S1	流路1杭II 28
53		流路1 堰2	図76	杭	A1	29.0	2.0						S1	流路1杭II 29
54		流路1 堰2	図76	杭	A2	25.0	4.0						S1	流路1杭II 30
55		流路1 堰2	図76	杭	A2	11.0	4.0						S1	流路1杭II 31
56		流路1 堰2	図76	杭	A2	15.0	3.0						S1	流路1杭II 32
57		流路1 堰2	図76	杭	A2	29.0	4.0						S1	流路1杭II 33
58		流路1 堰2	図76	杭	A2	26.0	5.0						S1	流路1杭II 34
59		流路1 堰2	図76	杭	A2	32.0	4.0						S1	流路1杭II 35
60		流路1 堰2	図76	杭	A1	6.0	1.5						S1	流路1杭II 36
61		流路1 杭列1	図77	杭	A2	13.0	5.0						S1	流路1杭III 1

番号	実測図 等番号	遺構	出土状況 記述	形式 種別	類型	残存 (cm)	a (cm)	b (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	木取	樹種	樹種 同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号		
62		流路1 杭列1	図77	杭	A2	9.0	3.0						S1	流路1杭 III	2	
63		流路1		杭	A3	84.0	9.0							東区	第1遺構 面 流路1	1
64	112-10	流路1 杭列2	図78	杭	A3	120.0	7.0				心持	イチイ科カヤ属 カヤ	⇒1	S4	第1遺構 面 流路1	杭1
65	112-8	流路1 杭列2	図78	杭	A3	50.0	7.0				心持	マキ科マキ属イ ヌマキ	⇒1	S4	第1遺構 面 流路1	杭3
66	112-9	流路1 杭列2	図78	矢板	B1	75.0	14.0	7.0			板目	ヒノキ科ヒノキ 属	⇒1	S4	第1遺構 面 流路1	杭4
67		流路1 杭列2	図78	杭	A2	30.0	6.0				心持	マキ科マキ属イ ヌマキ	⇒1	S4	第1遺構 面 流路1	杭2
68		流路1 杭列2	図78	杭	A3	58.0	11.0				心持	マツ科ツガ属	⇒1	S4	第1遺構 面 流路1	杭5
69		流路1 杭列2	図78	杭	A2	25.0	6.0				半裁	ツバキ科サカキ 属	⇒1	S4	第1遺構 面 流路1	杭6
70		流路1 杭列2	図78	杭	A3	95.0	8.0				心持	イチイ科カヤ属 カヤ	⇒1	S4	第1遺構 面 流路1	杭7
71		流路1 杭列2	図78	矢板	B1	85.0	7.0	3.0			板目	ヒノキ科ヒノキ 属	⇒1	S4	第1遺構 面 流路1	杭8
72		流路1 杭列2	図78	杭	B2	22.0	3.6	4.5			板目	モクレン科モク レン属	⇒1	S4	第1遺構 面 流路1	杭9
73		流路1 杭列2	図78	杭	B1	59.0	3.5	4.6			板目	エゴノキ科エゴ ノキ属	⇒1	S4	第1遺構 面 流路1	杭10
74		流路1 杭列2	図78	杭	B2	39.0	3.3	4.4			みかん割 り	ブナ科シイ属	⇒1	S4	第1遺構 面 流路1	杭12
75		流路1		杭	A3	117.0	9.0							3-2tr	2層 河道	
76	南1区1 トレンチ 北端部	図33	杭	A1	9.0	1.5								3-1tr	N 2層	杭3
77	南1区1 トレンチ 北端部	図33	杭	A2	25.0	3.0								3-1tr	N 2層	杭2
78	南1区1 トレンチ 北端部	図33	杭	A2	43.0	3.0								3-1tr	N 2層	杭1
第3造模面(7層上面)																
79	184-1 別表 1-2	溝11 導水施設	図136	導水管	-	136.8	-	-	23.2	19.6	板目	クスノキ科タブ ノキ属	⇒1	N1-4	拡張区	導水管 2+4+9+ 10+11
80	185-2	溝11 導水施設	図135	杭	A2	62.0	4.0				心持	ツバキ科ツバキ 属	⇒1	N1-4	拡張区B 列	D-114
81	185-3	溝11 導水施設	図135	杭	A3	70.0	7.0				心持	ブナ科コナラ属 コナラ属クヌ ギ属	⇒1	N1-4	拡張区B 列	D-39
82	185-4	溝11 導水施設	図135	杭	A2	56.0	4.5				心持	クスノキ科クス ノキ属	⇒1	N1-4	拡張区D 列	D-10
83	185-5	溝11 導水施設	図135	杭	A2	55.0	5.0				心持	クワ科クワ属	⇒1	N1-4	拡張区D 列	D-19
84	185-6	溝11 導水施設	図135	杭	A2	41.0	3.5				心持	マメ科フジキ属	⇒1	N1-4	拡張区D 列	D-41
85	185-7	溝11 導水施設	図135	杭	A2	29.0	4.0				心持	ウルシ科ウルシ 属	⇒1	N1-4	拡張区D 列	D-35

番号	実測図等番号	遺構	出土状況図	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
86	185-8	溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	28.5	3.1				心持	クワ科クワ属	※1	N1-4 拡張区D D-113 列
87	185-9	溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	24.0	4.0				心持	ブナ科コナラ属	※1	N1-4 拡張区D D-12 列
88	186-10	溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	44.0	5.0				心持	ブナ科コナラ属 コナラ亜属クヌギ館	※1	N1-4 拡張区D D-37 列
89	186-11	溝11	図135 導水施設 図136	横木	F	45.0	8.0	2.0			板目	ヒノキ科アズナロ属	※1	N1-4 拡張区D D-77 列
90	186-12	溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	34.0	5.0				心持	クワ科クワ属	※1	N1-4 拡張区D D-75 列
91	186-13	溝11	図135 導水施設 図136	杭	A1	47.4	2.6				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1	N1-4 拡張区D D-113 列
92	186-14	溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	41.5	3.5				心持	ツツジ科ネジキ属ネジキ	※1	N1-4 拡張区D D-43 列
93		溝11	図135 導水施設 図136	矢板	A1	77.0	5.5	4.5						N1-4 拡張区D D-1 列
94		溝11	図135 導水施設 図136	横木	A	51.0	8.0							N1-4 拡張区D D-2- ① 列
95		溝11	図135 導水施設 図136	横木	F	51.0	7.0							N1-4 拡張区D D-2- ② 列
96		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	19.0	4.0							N1-4 拡張区D D-4 列
97		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A1	40.0	2.5							N1-4 拡張区D D-5 列
98		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	34.0	3.4							N1-4 拡張区D D-6 列
99		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	57.0	3.0							N1-4 拡張区D D-7 列
100		溝11	図135 導水施設 図136	杭	B1	31.0	3.0	4.5						N1-4 拡張区D D-8 列
101		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A1	24.0	2.5							N1-4 拡張区D D-9 列
102		溝11	図135 導水施設 図136	横木	F	34.0	10.0	2.6						N1-4 拡張区D D-11 列
103		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	41.0	3.0							N1-4 拡張区D D-13 列
104		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	17.0	3.0							N1-4 拡張区D D-14 列
105		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	25.0	4.0							N1-4 拡張区D D-15 列
106		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	22.0	5.0				心持	クワ科クワ属	※1	N1-4 拡張区D D-16 列
107		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	18.0	3.0				心持	ツバキ科サカキ属サカキ	※1	N1-4 拡張区D D-17 列
108		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	58.0	3.0				心持	ウルシ科ウルシ属	※1	N1-4 拡張区D D-18 列
109		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	31.0	4.0							N1-4 拡張区D D-20 列
110		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	14.0	4.0							N1-4 拡張区D D-21 列
111		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	46.0	4.5							N1-4 拡張区D D-22 列
112		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	16.0	5.0							N1-4 拡張区D D-23 列
113		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	25.0	5.0							N1-4 拡張区D D-24 列
114		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	61.0	3.5							N1-4 拡張区D D-25 列
115		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A3	24.0	7.0							N1-4 拡張区D D-26 列
116		溝11	図135 導水施設 図136	杭	A2	66.0	3.0				心持	ブナ科シイ属	※1	N1-4 拡張区D D-27 列

番号	実測図等番号	遺構	出土状況	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号	
117		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	32.0	3.5						N1-4	拡張区 D 列	
118		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	10.0	3.5						N1-4	拡張区 D 列	
119		溝 11	図 135 図 136	横木	F	20.0	2.2	4.0					N1-4	拡張区 D 列	
120		溝 11	図 135 図 136	杭	A1	26.0	2.5						N1-4	拡張区 D 列	
121		溝 11	図 135 図 136	横木	B	57.0	2.5	4.0					N1-4	拡張区 D 列	
122		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	32.0	3.0				心持	イイギリ科イイギリ属イイギリ?	?:1	N1-4	拡張区 D 列
123		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	39.0	3.0				心持	マメ科フジキ属	?:1	N1-4	拡張区 D 列
124		溝 11	図 135 図 136	横木	F	57.0	6.9	2.5					N1-4	拡張区 D 列	
125		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	55.0	6.0				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ垂属	?:1	N1-4	拡張区 D 列
126		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	33.0	3.4						N1-4	拡張区 D 列	
127		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	15.0	3.0						N1-4	拡張区 D 列	
128		溝 11	図 135 図 136	杭	D	15.0	4.4	2.5					N1-4	拡張区 D 列	
129	明表 1-3	溝 11	図 135 図 136	杭	A2	67.0	4.0					サクラ属	?:2	N1-4	拡張区 D 列
130		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	99.0	5.0						N1-4	拡張区 D 列	
131		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	52.0	3.5						N1-4	拡張区 D 列	
132		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	46.0	3.0						N1-4	拡張区 D 列	
133		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	27.0	4.0						N1-4	拡張区 D 列	
134		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	76.0	3.0						N1-4	拡張区 D 列	
135		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	28.0	3.5						N1-4	拡張区 D 列	
136		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	40.0	5.0						N1-4	拡張区 D 列	
137		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	81.0	4.0						N1-4	拡張区 D 列	
138		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	29.0	3.5						N1-4	拡張区 D 列	
139		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	55.0	3.5						N1-4	拡張区 D 列	
140		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	46.0	3.0						N1-4	拡張区 D 列	
141		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	79.0	6.0						N1-4	拡張区 D 列	
142		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	28.0	3.5						N1-4	拡張区 D 列	
143		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	12.0	3.0						N1-4	拡張区 D 列	
144		溝 11	図 135 図 136	杭	A1	21.0	2.5						N1-4	拡張区 D 列	
145		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	56.0	4.0						N1-4	拡張区 D 列	
146		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	31.0	4.0						N1-4	拡張区 D 列	
147		溝 11	図 135 図 136	杭	A2	53.0	5.0						N1-4	拡張区 D 列	

番号	実測図等番号	遺構	出土状況	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
148		溝II	sondage	国135 国136	杭	A2	34.0	3.5					N1-4	拡張区D D-67 列
149		溝II	sondage	国135 国136	杭	A2	41.0	4.5					N1-4	拡張区D D-68 列
150		溝II	sondage	国135 国136	杭	A2	25.0	4.0					N1-4	拡張区D D-69 列
151		溝II	sondage	国135 国136	杭	A2	49.0	4.0					N1-4	拡張区D D-70 列
152		溝II	sondage	国135 国136	杭	A2	55.0	4.0					N1-4	拡張区D D-71 列
153		溝II	sondage	国135 国136	杭	A2	83.0	5.0					N1-4	拡張区D D-72 列
154		溝II	sondage	国135 国136	杭	A2	30.0	3.0					N1-4	拡張区D D-73 列
155		溝II	sondage	国135 国136	杭	A2	34.0	3.0					N1-4	拡張区D D-74 列
156		溝II	sondage	国135 国136	杭	A2	74.0	3.5					N1-4	拡張区D D-76 列
157		溝II	sondage	国135 国136	横木	B	34.0	7.0	12.0		心持	クワ科クワ属	±1	拡張区D D-78 列
158		溝II	sondage	国135 国136	横木	A	23.0	4.0					N1-4	拡張区D D-79 列
159		溝II	sondage	国135 国136	横木	F	26.0						N1-4	拡張区D D-80 列
160		溝II	sondage	国135 国136	杭	A2	52.0	4.0					N1-4	拡張区D D-81 列
161		溝II	sondage	国135 国136	矢板	B1	9.0	7.0	2.5				N1-4	拡張区D D-82 列
162		溝II	sondage	国135 国136	杭	A1	23.0	2.5					N1-4	拡張区D D-83 列
163		溝II	sondage	国135 国136	杭	A1	18.0	2.0					N1-4	拡張区D D-84 列
164		溝II	sondage	国135 国136	杭	A2	23.0	4.0					N1-4	拡張区D D-85 列
165		溝II	sondage	国135 国136	杭	A2	31.0	5.0					N1-4	拡張区D D-86 列
166		溝II	sondage	国135 国136	杭	A1	24.0	2.5					N1-4	拡張区D D-87 列
167		溝II	sondage	国135 国136	横木	F	14.0	6.8	3.0				N1-4	拡張区D D-88 列
168		溝II	sondage	国135 国136	横木	E	87.0	7.1	3.5				N1-4	拡張区D D-89 列
169		溝II	sondage	国135 国136	杭	A2	84.0	5.5					N1-4	拡張区D D-93 列
170		溝II	sondage	国135 国136	杭	B1	40.0	2.0	4.0				N1-4	拡張区D D-94 列
171		溝II	sondage	国135 国136	杭	A2	49.0	4.0					N1-4	拡張区D D-95 列
172		溝II	sondage	国135 国136	杭	A2	57.0	3.5					N1-4	拡張区D D-96 列
173		溝II	sondage	国135 国136	杭	A1	9.0	2.0					N1-4	拡張区D D-97 列
174		溝II	sondage	国135 国136	杭	A2	48.0	3.5					N1-4	拡張区D D-98 列
175		溝II	sondage	国135 国136	杭	A2	7.0	3.0					N1-4	拡張区D D-99 列
176		溝II	sondage	国135 国136	横木	A	70.0	4.0					N1-4	拡張区D D-100 列
177		溝II	sondage	国135 国136	板材	—	100.0	—	—	13.0	7.5		N1-4	拡張区D D-101 列
178		溝II	sondage	国135 国136	板材	—	97.0	—	—	7.0	5.0		N1-4	拡張区D D-102 列

番号	実測図等番号	遺構	出土状況	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構名現地での取上番号	
179		溝11 導水施設	図135 図136	横木	F	48.0	6.0	4.0					N1-4	拡張区D	D-103
180		溝11 導水施設	図135 図136	横木	B	51.0	2.0	3.1					N1-4	拡張区D	D-104
181		溝11 導水施設	図135 図136	横木	A	23.0	3.0						N1-4	拡張区D	D-106
182		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A2	71.0	5.5						N1-4	拡張区D	D-107
183		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A2	46.0	4.0						N1-4	拡張区D	D-108
184		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A1	38.0	2.5						N1-4	拡張区D	D-109
185		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A2	26.0	4.0						N1-4	拡張区D	D-110
186		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A2	74.0	3.0						N1-4	拡張区D	D-111
187		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A2	48.0	4.0				心持	ツバキ科サカキ 属サカキ	NP1	拡張区D	D-112
188		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A2	35.0	3.0						N1-4	拡張区D	D-115
189		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A2	30.0	4.0						N1-4	拡張区D	D-116
190		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A2	52.0	3.0						N1-4	拡張区D	D-117
191		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A2	46.0	4.5						N1-4	拡張区D	D-118
192		溝11 導水施設	図135 図136	杭	B	38.0		4.0					N1-4	拡張区D	D-119
193		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A2	54.0	4.0						N1-4	拡張区D	D-120
194		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A2	69.0	3.0						N1-4	拡張区D	D-121
195		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A2	30.0	4.0						N1-4	拡張区D	D-122
196		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A2	38.0	4.5						N1-4	拡張区D	D-123
197		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A2	92.0	3.5						N1-4	拡張区D	D-124
198		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A2	27.0	4.0						N1-4	拡張区D	D-127
199		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A2	15.0	3.5						N1-4	拡張区D	D-128
200		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A2	77.0	4.0						N1-4	拡張区D	D-130
201		溝11 導水施設	図135 図136	杭	A1	16.0	2.5						N1-4	拡張区D	D-131
202		溝11 導水施設	図135 図136	横木	F	63.0	6.2	3.9					N1-4	拡張区D	D-132
203		溝11 導水施設	図135 図136	横木	F	85.0	19.3	1.8					N1-4	拡張区D	D-135
204		溝11 導水施設		杭	A2	49.0	4.0						N1-7	杭列④ 7-33	1
205		溝11 導水施設		杭	A1	34.0	2.0						N1-7	杭列④ 7-33	2
206		溝11 導水施設		杭	A2	43.0	3.0						N1-7	杭列④ 7-33	3
207		溝11 導水施設		杭	A2	54.0	4.0						N1-7	杭列④ 7-33	4
208		溝11 導水施設		杭	A2	54.0	5.0						N1-7	杭列④ 7-33	5
209		溝11 導水施設		杭	A2	39.0	3.0						N1-7	杭列④ 7-33	6

番号	実測図等番号	遺構	出土状況図	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
210	溝11 導水施設			杭	A2	45.0	3.0						N1-7	杭列④ 7-33
211	溝11 導水施設			杭	A2	32.0	4.0						N1-7	杭列④ 7-33
212	溝11 導水施設			杭	A2	31.0	3.0						N1-7	杭列④ 7-33
213	溝11 導水施設			杭	A2	35.0	5.0						N1-7	杭列④ 7-33
214	溝11 導水施設			杭	A2	23.0	4.0						N1-7	杭列④ 7-33
215	溝11 導水施設			杭	B1	34.0	3.0	5.1					N1-7	杭列④ 7-33
216	溝11 導水施設			杭	B1	8.0	2.5	3.5					N1-7	杭列④ 7-33
217	溝11 導水施設			杭	A2	21.0	5.0						N1-7	杭列④ 7-33
218	溝11 導水施設	図136	板材	—	50.0	—	—	7.0	0.5	板目	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	幸1	N1-4	欽張区 導水管1
219	溝11 導水施設	図136	板材	—	26.0	—	—	8.0	1.0	板目	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	幸1	N1-4	欽張区 導水管3
220	溝11 導水施設	図136	板材	—	4.0	—	—	17.0	0.5	板目	バラ科サクラ属	幸1	N1-4	欽張区 導水管5
221	溝11 導水施設	図136	板材	—	62.0	—	—	5.0	0.5	板目	バラ科サクラ属	幸1	N1-4	欽張区 導水管6
222	溝11 導水施設	図136	板材	—	20.0	—	—	2.0	1.0	板目	バラ科サクラ属	幸1	N1-4	欽張区 導水管7
223	186-15 溝11 渡岸杭	図135 図138	矢板	B1	63.0	9.5	2.0			板目	モチノキ科モチ ノキ属	幸1	N1-4	欽張区C 列
224	186-16 溝11 渡岸杭	図135 図138	矢板	A1	67.0	8.0	4.5			板目	モチノキ科モチ ノキ属	幸1	N1-4	欽張区C 列
225	溝11 渡岸杭	図135 図138	杭	A2	24.0	4.0							N1-4	欽張区A A-2列
226	溝11 渡岸杭	図135 図138	杭	A2	22.0	3.0							N1-4	欽張区A A-4列
227	溝11 渡岸杭	図135 図138	杭	A1	21.0	2.0							N1-4	欽張区A A-5列
228	溝11 渡岸杭	図135 図138	杭	A2	18.0	3.0							N1-4	欽張区A A-6列
229	溝11 渡岸杭	図135 図138	杭	A2	17.0	3.5							N1-4	欽張区A A-7列
230	溝11 渡岸杭	図135 図138	杭	A2	37.0	5.0							N1-4	欽張区A A-8列
231	溝11 渡岸杭	図135 図138	杭	A2	21.0	3.0							N1-4	欽張区A A-11列
232	溝11 渡岸杭	図135 図138	杭	A1	29.0	2.5							N1-4	欽張区A A-12列
233	溝11 渡岸杭	図135 図138	杭	A2	26.0	3.5							N1-4	欽張区A A-13列
234	溝11 渡岸杭	図135 図138	杭	A1	66.0	2.5							N1-4	欽張区B B-1列
235	溝11 渡岸杭	図135 図138	杭	A2	28.0	3.0							N1-4	欽張区B B-7列
236	溝11 渡岸杭	図135 図138	杭	A2	47.0	3.5							N1-4	欽張区B B-8列
237	溝11 渡岸杭	図135 図138	杭	A2	34.0	3.5							N1-4	欽張区B B-9列
238	溝11 渡岸杭	図135 図138	杭	A2	27.0	3.5							N1-4	欽張区B B-10列
239	溝11 渡岸杭	図135 図138	杭	A2	21.0	3.0							N1-4	欽張区B B-11列
240	溝11 渡岸杭	図135 図138	杭	A1	59.0	2.5							N1-4	欽張区B B-12列

番号	実測図等番号	遺構	出土状況	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構名現地での取上番号	
241		溝 11 溝序杭	図 135 図 138	矢板	B1	37.0	6.0	3.0						N1-4	拡張区 B B-16 列
242		溝 11 溝序杭	図 135 図 138	矢板	A1	45.0	5.0	2.5						N1-4	拡張区 C C-1 列
243		溝 11 溝序杭	図 135 図 138	矢板	B1	40.0	5.0	2.0						N1-4	拡張区 C C-8 列
244		溝 11 溝序杭	図 135 図 138	矢板	A1	58.0	6.5	3.5						N1-4	拡張区 C C-11 列
245	187-1	溝 12 墓 付近	図 140	勘先	-	24.9	-	-	18.1	1.6	桙目	ブナ科コナラ属 アカガシ属	⇒ 1	N1-4	拡張区 E E-20 列
246	187-2	溝 12 墓	図 135 図 140	杭	A2	23.5	5.5				心持	モクセイ科トネリコ属	⇒ 1	N1-4	拡張区 E E-48 列
247	187-3 別表 1-4	溝 12 墓	図 135 図 140	杭	A2	53.0	5.0				心持	ヤマグワ	⇒ 2	N1-4	拡張区 E E-51 列
248	187-4	溝 12 墓	図 135 図 140	杭	A2	40.0	3.0				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ属	⇒ 1	N1-4	拡張区 E E-11 列
249	187-5	溝 12 墓	図 135 図 140	杭	A2	44.0	3.0				心持	カエデ科カエデ属	⇒ 1	N1-4	拡張区 E E-63 列
250	187-6	溝 12 墓	図 135 図 140	杭	A2	25.0	4.0				心持	クスノキ科クスノキ属	⇒ 1	N1-4	拡張区 E E-13 列
251		溝 12 墓	図 135 図 140	杭	A2	75.0	4.0							N1-4	拡張区 E E-1 列
252		溝 12 墓	図 135 図 140	杭	A2	41.0	3.5							N1-4	拡張区 E E-2 列
253		溝 12 墓	図 135 図 140	杭	A2	100.0	3.5							N1-4	拡張区 E E-3 列
254		溝 12 墓	図 135 図 140	横木	A	67.0	4.5							N1-4	拡張区 E E-4 列
255		溝 12 墓	図 135 図 140	横木	A	37.0	3.5							N1-4	拡張区 E E-5 列
256		溝 12 墓	図 135 図 140	横木	A	34.0	3.0							N1-4	拡張区 E E-6 列
257		溝 12 墓	図 135 図 140	矢板	B1	25.0	6.0	2.5						N1-4	拡張区 E E-7 列
258		溝 12 墓	図 135 図 140	横木	A	47.0	4.5							N1-4	拡張区 E E-8 列
259		溝 12 墓	図 135 図 140	杭	A2	7.0	3.0							N1-4	拡張区 E E-9 列
260		溝 12 墓	図 135 図 140	杭	A2	70.0	3.5				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ属	⇒ 1	N1-4	拡張区 E E-12 列
261		溝 12 墓	図 135 図 140	杭	A2	66.0	3.5				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ属	⇒ 1	N1-4	拡張区 E E-14 列
262		溝 12 墓	図 135 図 140	杭	A2	32.0	3.0							N1-4	拡張区 E E-15 列
263		溝 12 墓	図 135 図 140	杭	A2	55.0	3.0							N1-4	拡張区 E E-16 列
264		溝 12 墓	図 135 図 140	横木	A	44.0	3.0							N1-4	拡張区 E E-17 列
265		溝 12 墓	図 135 図 140	矢板	B2	99.0	13.5	4.0						N1-4	拡張区 E E-18 列
266		溝 12 墓	図 135 図 140	杭	A2	31.0	4.0							N1-4	拡張区 E E-19 列
267		溝 12 墓	図 135 図 140	矢板	C	30.0	10.0	4.5						N1-4	拡張区 E E-21 列
268		溝 12 墓	図 135 図 140	矢板	C	29.0	4.5	3.0						N1-4	拡張区 E E-22 列
269		溝 12 墓	図 135 図 140	横木	E	19.0	5.5	1.5						N1-4	拡張区 E E-23 列
270		溝 12 墓	図 135 図 140	横木	A	35.0	5.0	3.0						N1-4	拡張区 E E-24 列

番号	実測図等番号	遺構	出土状況図	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
271		溝12堰	図135 図140	横木	E	44.0	2.0	4.3					N1-4	欽張区E E-26列
272		溝12堰	図135 図140	横木	A	28.0	3.0						N1-4	欽張区E E-28列
273		溝12堰	図135 図140	矢板	B2	83.0	15.0	4.5					N1-4	欽張区E E-29列
274		溝12堰	図135 図140	横木	A	82.0	4.0						N1-4	欽張区E E-30列
275		溝12堰	図135 図140	矢板	A1	63.0	5.5	1.0					N1-4	欽張区E E-31列
276		溝12堰	図135 図140	杭	A2	37.0	5.0						N1-4	欽張区E E-32列
277		溝12堰	図135 図140	杭	A2	39.0	5.0	4.0					N1-4	欽張区E E-33列
278		溝12堰	図135 図140	横木	A	33.0	7.0	4.0					N1-4	欽張区E E-34列
279		溝12堰	図135 図140	横木	A	36.0	4.0						N1-4	欽張区E E-35列
280		溝12堰	図135 図140	横木	A	35.0	2.0						N1-4	欽張区E E-38列
281		溝12堰	図135 図140	横木	A	33.0	3.0						N1-4	欽張区E E-39列
282		溝12堰	図135 図140	矢板	A1	23.0	7.0	3.0					N1-4	欽張区E E-40列
283		溝12堰	図135 図140	杭	B	41.0	2.5	3.0			心持	マキ科マキ属イヌマキ	寺1	N1-4 欽張区E E-41列
284		溝12堰	図135 図140	杭	A1	20.0	2.0						N1-4	欽張区E E-42列
285		溝12堰	図135 図140	杭	C2	24.0	3.0	3.4					N1-4	欽張区E E-43列
286		溝12堰	図135 図140	杭	B2	20.0	3.0	5.7					N1-4	欽張区E E-46列
287		溝12堰	図135 図140	杭	A2	43.0	4.0						N1-4	欽張区E E-47列
288		溝12堰	図135 図140	杭	A2	46.0	4.5						N1-4	欽張区E E-49列
289		溝12堰	図135 図140	杭	A2	31.5	3.5						N1-4	欽張区E E-50列
290		溝12堰	図135 図140	杭	A2	21.0	4.0						N1-4	欽張区E E-52列
291		溝12堰	図135 図140	杭	A2	46.0	5.0						N1-4	欽張区E E-53列
292		溝12堰	図135 図140	杭	A2	45.0	5.0						N1-4	欽張区E E-54列
293		溝12堰	図135 図140	杭	A2	15.0	3.0						N1-4	欽張区E E-55列
294		溝12堰	図135 図140	杭	A2	19.0	5.0						N1-4	欽張区E E-56列
295		溝12堰	図135 図140	杭	A2	53.0	5.0						N1-4	欽張区E E-57列
296		溝12堰	図135 図140	杭	A2	78.0	4.0						N1-4	欽張区E E-58列
297		溝12堰	図135 図140	杭	A2	40.0	5.0				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	寺1	N1-4 欽張区E E-60列
298		溝12堰	図135 図140	杭	A2	17.0	4.0						N1-4	欽張区E E-61列
299		溝12堰	図135 図140	杭	A2	54.0	3.0						N1-4	欽張区E E-62列
300		溝12堰	図135 図140	杭	A2	57.0	3.0						N1-4	欽張区E E-64列
301	188-1	溝16堰1	図142	杭	A2	50.9	2.8				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	寺1	S1 V-14

番号	実測図 等番号	遺構	出土状況	形式種別	類型	残存長 (cm)	a (cm)	b (cm)	幅 (cm)	厚 <sub>ア</sub> (cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称		
														現地での取上番号		
302	188-2	溝16 堰1	図142	杭	A2	60.0	3.0					心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1	S1	V-5
303	188-3	溝16 堰1	図142	杭	A2	90.0	3.5					心持	ブナ科シイ属	※1	S1	V-22
304	188-4	溝16 堰1	図142	杭	A2	79.0	4.0					心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1	S1	V-27
305	188-5	溝16 堰1	図142	杭	A1	36.0	2.5					心持	バラ科サクラ属	※1	S1	V-37
306	188-6	溝16 堰1	図142	杭	A1	33.0	2.5					心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1	S1	V-38
307		溝16 堰1	図142	杭	A2	51.0	3.0								S1	V-1
308		溝16 堰1	図142	杭	A2	16.0	3.0								S1	V-2
309		溝16 堰1	図142	杭	A2	51.0	3.0								S1	V-3
310		溝16 堰1	図142	杭	A2	74.0	3.5								S1	V-4
311		溝16 堰1	図142	杭	A2	59.0	3.0								S1	V-6
312		溝16 堰1	図142	杭	A2	22.5	4.0								S1	V-7
313		溝16 堰1	図142	杭	A1	59.0	2.0								S1	V-8
314		溝16 堰1	図142	杭	A2	52.0	3.0								S1	V-9
315		溝16 堰1	図142	杭	A2	51.0	3.0								S1	V-10
316	別表 1-5	溝16 堰1	図142	杭	A2	31.0	5.0					心持	アカガシ亜種	※2	S1	V-13
317		溝16 堰1	図142	杭	A2	56.0	3.0								S1	V-16
318		溝16 堰1	図142	杭	A2	34.0	4.0								S1	V-17
319		溝16 堰1	図142	杭	A2	47.0	3.0								S1	V-18
320		溝16 堰1	図142	杭	A2	13.0	3.5								S1	V-19
321		溝16 堰1	図142	杭	A2	42.0	4.0								S1	V-20
322		溝16 堰1	図142	杭	A2	82.0	3.0								S1	V-21
323		溝16 堰1	図142	杭	A2	76.0	4.0								S1	V-23
324		溝16 堰1	図142	杭	A2	38.0	3.0								S1	V-24
325		溝16 堰1	図142	杭	A2	23.0	3.5								S1	V-25
326		溝16 堰1	図142	杭	A2	27.0	3.0								S1	V-26
327		溝16 堰1	図142	杭	A2	51.0	3.0								S1	V-28
328		溝16 堰1	図142	杭	A2	80.0	3.0								S1	V-29
329		溝16 堰1	図142	杭	A2	63.0	3.0								S1	V-32
330		溝16 堰1	図142	杭	A2	67.0	3.0								S1	V-33
331		溝16 堰1	図142	杭	A1	51.0	2.0								S1	V-34
332		溝16 堰1	図142	杭	A1	51.0	2.0								S1	V-35

番号	実測図等番号	遺構	出土状況図	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
333		溝16 壁1	図142	杭	A1	37.0	2.5						S1	V-36
334		溝16 壁1	図142	杭	A1	19.0	2.0						S1	V-39
335		溝16 壁1	図142	杭	A1	21.0	2.0						S1	V-40
336		溝16 壁1	図142	杭	A1	25.0	2.0						S1	V-41
337	188-1	溝16 杭列	図142	杭	A2	49.0	3.0				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1 S1	V-14
338		溝16 杭列	図142	杭	A2	42.0	3.5						S1	V-11
339		溝16 杭列	図142	杭	A2	47.0	4.0						S1	V-12
340		溝16 杭列	図142	杭	A2	49.0	3.0						S1	V-15
341		溝16 杭列	図142	杭	A2	26.5	4.0						S1	V-30
342		溝16 杭列	図142	杭	A2	61.0	4.0						S1	V-31
343		溝16 杭列	図142	杭	A2	89.0	3.5						S1	V-42
344	188-7	溝16 壁2	図143	杭	A2	93.0	4.0				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1 S1	VI-7
345	188-8	溝16 壁2	図143	杭	A2	73.0	4.0				心持	クスノキ科クス ノキ属	※1 S1	VI-5
346		溝16 壁2	図143	杭	A2	55.0	4.0						S1	VI-1
347		溝16 壁2	図143	杭	A2	84.0	3.5						S1	VI-2
348		溝16 壁2	図143	杭	A2	75.0	4.0						S1	VI-3
349		溝16 壁2	図143	杭	A2	78.0	3.0						S1	VI-4
350		溝16 壁2	図143	杭	A2	89.0	4.0						S1	VI-6
351		溝16 壁2	図143	杭	A2	65.0	3.0						S1	VI-8
352		溝16 壁2	図143	杭	A2	46.0	4.0						S1	VI-9
353		溝16 壁2	図143	杭	A2	68.0	3.0						S1	VI-10
354		溝16 壁2	図143	杭	A1	24.0	2.5						S1	VI-11
355	189-1	流路3 木橋	図149	木橋	—	103.7	—	—	18.8	1.1	板目	ブナ科シイ属	※1 N1-	木橋1 I-2
356	189-2	流路3 木橋	図149	木橋	—	103.2	—	—	15.7	1.3	板目	マツ科モミ属	※1 N1-	木橋1 I-3
357	190-3	流路3 木橋	図149	杭	A2	55.0	4.0				心持	ブナ科シイ属	※1 N1-	木橋1 I-15
358	190-4	流路3 木橋	図149	杭	A2	45.0	3.0				心持	ブナ科シイ属	※1 N1-	木橋1 I-18
359	190-5	流路3 木橋	図149	杭	A1	49.6	2.0				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1 N1-	木橋1 I-16
360	190-6	流路3 木橋	図149	杭	A1	17.0	2.0				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1 N1-	木橋1 I-16
361	190-7	流路3 木橋	図149	板材	—	58.0	—	—	8.0	1.0	板目	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1 N1-	木橋1 I-6
362		流路3 木橋	図149	杭	C1	54.0	2.0	2.4					N1-	木橋1 I-1
363		流路3 木橋	図149	杭	A1	118.0	2.0						N1-	木橋1 I-5

番号	実測図等番号	遺構	出土状況	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
364		流路3 木橋	図149	板材	一	57.5	—	—	5.0	2.0	板目	ヒノキ科ヒノキ属	専1	N1- 木橋1 1-7
365		流路3 木橋	図149	杭	A1	57.0	2.0							N1- 木橋1 1-8
366		流路3 木橋	図149	杭	A2	63.0	3.5				心持	ブナ科シイ属	専1	N1- 木橋1 1-9
367		流路3 木橋	図149	杭	A1	88.0	2.0							N1- 木橋1 1-10
368		流路3 木橋	図149	杭	B1	20.0	0.3	1.0						N1- 木橋1 1-11
369		流路3 木橋	図149	杭	A1	57.0	2.0							N1- 木橋1 1-12
370		流路3 木橋	図149	杭	A2	82.0	3.0				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	専1	N1- 木橋1 1-13
371		流路3 木橋	図149	杭	A2	69.0	3.0							N1- 木橋1 1-14
372		流路3 木橋	図149	杭	A2	63.0	3.0							N1- 木橋1 1-17
373		流路3 木橋	図149	杭	A2	53.0	5.0				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	専1	N1- 木橋1 1-19
374		流路3 木橋	図149	杭	A1	51.0	2.5							N1- 木橋1 1-20
375		流路3 堰1	図151	杭	A1	28	2.2							I-1tr 河道2 杭1
376		流路3 堰1	図151	杭	A1	92.0	2.5							I-1tr 河道2 杭2
377		流路3 堰1	図151	杭	A2	21.0	3.0							I-1tr 河道2 杭3
378		流路3 堰1	図151	杭	A2	78.0	3.0							I-1tr 河道2 杭4
379		流路3 堰1	図151	杭	A2	35.0	3.5							I-1tr 河道2 杭5
380		流路3 堰1	図151	杭	A1	61.0	3.0							I-1tr 河道2 杭6
381		流路3 堰1	図151	杭	A2	58.0	4.5							I-1tr 河道2 杭7
382		流路3 堰1	図151	杭	A2	56.0	3.5							I-1tr 河道2 杭8
383		流路3 堰1	図151	杭	A2	78.0	3.0							I-1tr 河道2 杭9
384		流路3 堰1	図151	杭	A2	59.0	3.5							I-1tr 河道2 杭10
385		流路3 堰1	図151	杭	A2	51.0	3.5							I-1tr 河道2 杭10
386		流路3 堰1	図151	杭	A2	50.0	3.4							I-1tr 河道2 杭11
387		流路3 堰1	図151	杭	A1	18.0	2.5							I-1tr 河道2 杭12
388		流路3 堰1	図151	杭	A1	38.0	2.5							I-1tr 河道2 杭12
389		流路3 堰1	図151	杭	A2	69.0	3.5							I-1tr 河道2 杭13
390		流路3 堰1	図151	杭	A2	70.0	3.3							I-1tr 河道2 杭14
391		流路3 堰1	図151	杭	A1	34.0	2.5							I-1tr 河道2 杭15
392		流路3 堰1	図151	杭	A2	63.0	3.0							I-1tr 河道2 杭16
393		流路3 堰1	図151	杭	A1	18.0	2.5							I-1tr 河道2 杭17
394		流路3 堰1	図151	杭	A2	27.0	3.5							I-1tr 河道2

番号	実測図等番号	遺構	出土状況	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
395		流路3 堰1	図151	杭	A2	11.0	6.0						1-ltr	河道2
396	191-8	流路3 堰2	図152	杭	A2	58.0	3.0				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1	N1-4 河道2 S11-14
397	191-9	流路3 堰2	図152	杭	A2	43.0	4.0				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1	N1-4 河道2 S11-38
398	191-10	流路3 堰2	図152	杭	A2	85.0	5.0				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1	N1-4 河道2 S11-63
399	191-11	流路3 堰2	図152	杭	A2	78.0	6.0				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1	N1-4 河道2 S11-22
400	191-12	流路3 堰2	図152	杭	D	28.0	3.0	2.0			板目	ヒノキ科アズナ ロ属	※1	N1-4 河道2 S11-31
401		流路3 堰2	図152	杭	A1	15.0	2.0						N1-4	河道2 S10-1
402		流路3 堰2	図152	杭	A2	52.0	3.0						N1-4	河道2 S10-2
403		流路3 堰2	図152	杭	A2	63.0	5.0						N1-4	河道2 S10-3
404		流路3 堰2	図152	杭	A2	18.0	3.0						N1-4	河道2 S10-4
405		流路3 堰2	図152	横木	A	80.0	5.0						N1-4	河道2 S10-6
406		流路3 堰2	図152	杭	A2	48.0	3.0						N1-4	河道2 S10-7
407		流路3 堰2	図152	杭	A2	46.0	3.0						N1-4	河道2 S10-8
408		流路3 堰2	図152	杭	A2	41.0	4.0						N1-4	河道2 S10-9
409		流路3 堰2	図152	杭	A2	36.0	3.0						N1-4	河道2 S10-10
410		流路3 堰2	図152	杭	A2	6.0	3.0						N1-4	河道2 S10-11
411		流路3 堰2	図152	杭	A2	49.0	3.0						N1-4	河道2 S10-12
412		流路3 堰2	図152	杭	A1	21.0	2.0						N1-4	河道2 S10-13
413		流路3 堰2	図152	杭	A2	54.0	3.0						N1-4	河道2 S10-14
414		流路3 堰2	図152	杭	A2	80.0	3.0						N1-4	河道2 S10-15
415		流路3 堰2	図152	杭	A2	55.0	5.0						N1-4	河道2 S10-16
416		流路3 堰2	図152	杭	A2	63.0	4.0						N1-4	河道2 S10-17
417		流路3 堰2	図152	杭	A2	20.0	3.0						N1-4	河道2 S10-18
418		流路3 堰2	図152	杭	A2	54.0	4.0						N1-4	河道2 S10-19
419		流路3 堰2	図152	杭	A2	51.0	4.0						N1-4	河道2 S10-20
420		流路3 堰2	図152	杭	A2	88.0	4.0						N1-4	河道2 S10-21
421		流路3 堰2	図152	杭	A2	開口なし 40以上	4.0						N1-4	河道2 S10-22
422		流路3 堰2	図152	杭	A2	43.0	3.0						N1-4	河道2 S10-23
423		流路3 堰2	図152	横木		116.0	4.0						N1-4	河道2 S10-24
424		流路3 堰2	図152	杭	A2	56.0	3.0						N1-4	河道2 S10-25
425		流路3 堰2	図152	杭	A2	32.0	4.0						N1-4	河道2 S10-26

番号	実測図 等番号	遺構	出土状況 開闢	形式 種別	類型	残存 長 (cm)	a (cm)	b (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	木取	樹種	樹種 同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
426		汎路3 堰2	図152	杭	A2	90以上?	4.0						N1-4	河道2 S10-27
427		汎路3 堰2	図152	杭	A2	96.0	3.0						N1-4	河道2 S10-28
428		汎路3 堰2	図152	杭	A2	53.0	3.0						N1-4	河道2 S10-29
429		汎路3 堰2	図152	杭	A2	76.0	4.0						N1-4	河道2 S10-30
430		汎路3 堰2	図152	杭	A2	50.0	4.0						N1-4	河道2 S10-31
431		汎路3 堰2	図152	杭	A2	44.0	3.0						N1-4	河道2 S10-32
432		汎路3 堰2	図152	杭	A2	45.0	3.0						N1-4	河道2 S10-33
433		汎路3 堰2	図152	杭	A1	10.0	1.0						N1-4	河道2 S10-34
434		汎路3 堰2	図152	杭	A2	39.0	4.0						N1-4	河道2 S10-35
435		汎路3 堰2	図152	杭	A2	72.0	3.0						N1-4	河道2 S10-36
436		汎路3 堰2	図152	杭	A2	58.0	3.0						N1-4	河道2 S10-37
437		汎路3 堰2	図152	杭	A2	56.0	3.0						N1-4	河道2 S10-38
438		汎路3 堰2	図152	杭	A2	40.0	3.0						N1-4	河道2 S10-39
439		汎路3 堰2	図152	杭	A2	17以上 上	3.0						N1-4	河道2 S10-40
440		汎路3 堰2	図152	横木	A	37.0	5.0						N1-4	河道2 S10-41
441		汎路3 堰2	図152	横木	A	84.0	5.0						N1-4	河道2 S10-42
442		汎路3 堰2	図152	杭	A2	44.0	4.0						N1-4	河道2 S10-43
443		汎路3 堰2	図152	杭	A2	58.0	3.0						N1-4	河道2 S10-44
444		汎路3 堰2	図152	杭	A2	81.0	3.0						N1-4	河道2 S10-45
445		汎路3 堰2	図152	杭	A2	90.0	3.0						N1-4	河道2 S10-46
446		汎路3 堰2	図152	杭	A2	79.0	3.0						N1-4	河道2 S10-47
447		汎路3 堰2	図152	杭	A2	101.0	3.0						N1-4	河道2 S10-48
448		汎路3 堰2	図152	杭	A2	106.0	3.0						N1-4	河道2 S10-49
449		汎路3 堰2	図152	杭	A2	92.0	3.0						N1-4	河道2 S10-50
450		汎路3 堰2	図152	杭	A2	28.0	3.0						N1-4	河道2 S10-51
451		汎路3 堰2	図152	杭	A2	95.0	3.0						N1-4	河道2 S10-52
452		汎路3 堰2	図152	杭	A2	53.0	3.0						N1-4	河道2 S10-53
453		汎路3 堰2	図152	杭	A2	96.0	3.0						N1-4	河道2 S10-54
454		汎路3 堰2	図152	杭	A2	66以上 上	3.0						N1-4	河道2 S10-55
455		汎路3 堰2	図152	杭	A2	7.0	4以上 上						N1-4	河道2 S10-56
456		汎路3 堰2	図152	杭	A2	72.0	3.0						N1-4	河道2 S10-57

番号	実測図等番号	遺構	出土状況	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
457		流路3 堰2	図152	杭	A2	32.0	4.0						N1-4	河道2 S10-58
458		流路3 堰2	図152	杭	A2	39.0	4.0						N1-4	河道2 S10-59
459		流路3 堰2	図152	杭	A2	14.0	4.0						N1-4	河道2 S10-60
460		流路3 堰2	図152	杭	A2	95以上	6.0						N1-4	河道2 S11-1
461		流路3 堰2	図152	横木	A	77以上	3.0						N1-4	河道2 S11-3
462		流路3 堰2	図152	杭	A2	44.0	6.0						N1-4	河道2 S11-4
463		流路3 堰2	図152	横木	A	66.0	6.0						N1-4	河道2 S11-5
464		流路3 堰2	図152	杭	A2	40.0	4.0						N1-4	河道2 S11-7
465		流路3 堰2	図152	横木	A	46	6						N1-4	河道2 S11-8
466		流路3 堰2	図152	横木	B	88.0	4.3	11.0					N1-4	河道2 S11-9
467		流路3 堰2	図152	杭	A2	99.0	3.0						N1-4	河道2 S11-10
468		流路3 堰2	図152	杭	A2	47	4						N1-4	河道2 S11-11
469		流路3 堰2	図152	杭	A2	86.0	3.0						N1-4	河道2 S11-12
470		流路3 堰2	図152	杭	A2	81.0	4.0						N1-4	河道2 S11-13
471		流路3 堰2	図152	杭	A2	60.0	3.0						N1-4	河道2 S11-15
472		流路3 堰2	図152	杭	A2	37.0	6.0						N1-4	河道2 S11-16
473		流路3 堰2	図152	杭	A2	58.0	3.0						N1-4	河道2 S11-17
474		流路3 堰2	図152	杭	A3	78.0	7.0						N1-4	河道2 S11-18
475		流路3 堰2	図152	杭	A2	63.0	3.0						N1-4	河道2 S11-19
476		流路3 堰2	図152	杭	A3	41.0	7.0						N1-4	河道2 S11-20
477		流路3 堰2	図152	杭	A2	90.0	4.0						N1-4	河道2 S11-21
478		流路3 堰2	図152	杭	A1	51.0	2.0						N1-4	河道2 S11-23
479		流路3 堰2	図152	杭	A2	60.0	3.0						N1-4	河道2 S11-24
480		流路3 堰2	図152	杭	A1	29.0	2.0						N1-4	河道2 S11-25
481		流路3 堰2	図152	杭	A1	72.0	2.0						N1-4	河道2 S11-26
482		流路3 堰2	図152	杭	A2	72.0	5.0						N1-4	河道2 S11-27
483		流路3 堰2	図152	杭	A2	70.0	4.0						N1-4	河道2 S11-28
484		流路3 堰2	図152	杭	A2	74.0	4.0						N1-4	河道2 S11-28
485		流路3 堰2	図152	杭	A2	55.0	4.0						N1-4	河道2 S11-28
486		流路3 堰2	図152	杭	A2	51.0	4.0						N1-4	河道2 S11-28
487		流路3 堰2	図152	杭	A2	140.0	4.0						N1-4	河道2 S11-29

番号	実測図 等番号	遺構	出土状況 開闢	形式 種別	類型	残存 長(cm)	a (cm)	b (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	木取	樹種	樹種 同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
488		汎路3 堰2	図152	杭	A2	86.0	6.0						N1-4	河道2 S11-30
489		汎路3 堰2	図152	杭	A2	58.0	3.0						N1-4	河道2 S11-32
490		汎路3 堰2	図152	杭	A2	104.0	4.0						N1-4	河道2 S11-33
491		汎路3 堰2	図152	杭	A2	65.0	3.0						N1-4	河道2 S11-34
492		汎路3 堰2	図152	杭	A2	49.0	3.0						N1-4	河道2 S11-35
493		汎路3 堰2	図152	杭	A2	58.0	4.0						N1-4	河道2 S11-36
494		汎路3 堰2	図152	杭	A2	87.0	4.0						N1-4	河道2 S11-37
495		汎路3 堰2	図152	杭	A2	84.5	3.0						N1-4	河道2 S11-39
496		汎路3 堰2	図152	杭	A1	79.0	2.0						N1-4	河道2 S11-40
497		汎路3 堰2	図152	杭	A2	64.0	4.0						N1-4	河道2 S11-41
498		汎路3 堰2	図152	杭	A1	28.0	2.0						N1-4	河道2 S11-42
499		汎路3 堰2	図152	杭	A2	59.0	3.0						N1-4	河道2 S11-43
500		汎路3 堰2	図152	杭	A2	56.0	3.0						N1-4	河道2 S11-44
501		汎路3 堰2	図152	杭	A2	48.0	4.0						N1-4	河道2 S11-45
502		汎路3 堰2	図152	杭	A2	30.0	4.0						N1-4	河道2 S11-46
503		汎路3 堰2	図152	杭	A2	93.0	6.0						N1-4	河道2 S11-47
504		汎路3 堰2	図152	杭	A2	30.0	4.0						N1-4	河道2 S11-48
505		汎路3 堰2	図152	杭	A2	93.0	6.0						N1-4	河道2 S11-49
506		汎路3 堰2	図152	杭	A2	58.0	3.0						N1-4	河道2 S11-50
507		汎路3 堰2	図152	杭	A1	49.0	2.0						N1-4	河道2 S11-51
508		汎路3 堰2	図152	杭	A2	54.0	3.0						N1-4	河道2 S11-52
509		汎路3 堰2	図152	杭	A2	50.0	3.0						N1-4	河道2 S11-53
510		汎路3 堰2	図152	杭	A2	72.0	4.0						N1-4	河道2 S11-54
511		汎路3 堰2	図152	杭	A2	34.0	3.0						N1-4	河道2 S11-55
512		汎路3 堰2	図152	杭	A2	49.0	4.0						N1-4	河道2 S11-56
513		汎路3 堰2	図152	杭	A2	91.0	3.0						N1-4	河道2 S11-57
514		汎路3 堰2	図152	杭	A1	42.0	2.0						N1-4	河道2 S11-58
515		汎路3 堰2	図152	杭	A1	67.0	2.0						N1-4	河道2 S11-59
516		汎路3 堰2	図152	杭	A2	62.0	3.0						N1-4	河道2 S11-60
517		汎路3 堰2	図152	杭	A2	82.0	5.0						N1-4	河道2 S11-61
518		汎路3 堰2	図152	杭	A2	104以上	6.0						N1-4	河道2 S11-62

番号	実測図等番号	遺構	出土状況	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
519		流路3 堰2	図152	杭	A2	46.0	4.0						N1-4	河道2 S11-64
520		流路3 堰2	図152	杭	A2	41.0	3.0						N1-4	河道2 S11-65
521		流路3 堰2	図152	杭	A2	104.0	3.0						N1-4	河道2 S11-66
522		流路3 堰2	図152	杭	A2	112.0	4.0						N1-4	河道2 S11-67
523		流路3 堰2	図152	杭	A2	110.0	3.0						N1-4	河道2 S11-68
524		流路3 堰2	図152	杭	A2	62.0	5.0						N1-4	河道2 S11-69
525		流路3 堰2	図152	杭	A3	46.0	8.0						N1-4	河道2 S11-70
526		流路3 堰2	図152	杭	B1	29.0	2.0	3.6					N1-4	河道2 S11-71
527		流路3 堰2	図152	杭	A2	61.0	6.0						N1-4	河道2 S11-72
528		流路3 堰2	図152	杭	A2	108.0	6.0						N1-4	河道2 S11-73
529		流路3 堰2	図152	杭	A2	22.0	3.0						N1-4	河道2 S11-74
530		流路3 堰2	図152	杭	A2	88.0	3.0						N1-4	河道2 S11-75
531		流路3 堰2	図152	杭	A2	71.0	3.0						N1-4	河道2 S11-76
532		流路3 堰2	図152	杭	A2	82.0	3.0						N1-4	河道2 S11-77
533		流路3 堰2	図152	杭	A2	36.0	3.0						N1-4	河道2 S11-78
534		流路3 堰2	図152	杭	A3	65.0	8.0						N1-4	河道2 S11-79
535		流路3 堰2	図152	杭	A2	72.0	3.0						N1-4	河道2 S11-80
536		流路3 堰2	図152	杭	A2	79.0	3.0						N1-4	河道2 S11-81
537		流路3 堰2	図152	杭	A1	65.0	2~3						N1-4	河道2 S11-82
538		流路3 堰2	図152	杭	A1	82.0	2~3						N1-4	河道2 S11-82
539		流路3 堰2	図152	杭	A1	65.0	2~3						N1-4	河道2 S11-82
540		流路3 堰2	図152	杭	A1	74.0	2~3						N1-4	河道2 S11-82
541		流路3 堰2	図152	杭	A1	70.0	2~3						N1-4	河道2 S11-82
542		流路3 堰2	図152	杭	A1	73.0	2~3						N1-4	河道2 S11-82
543		流路3 堰2	図152	杭	A1	28.0	2~3						N1-4	河道2 S11-82
544		流路3 堰2	図152	自然木	—	81以上	—	—	3.0				N1-4	河道2 S11-83
545		流路3 堰2	図152	自然木	—	74.0	—	—	4.0				N1-4	河道2 S11-83
546		流路3 堰2	図152	自然木	—	63.0	—	—	4.0				N1-4	河道2 S11-83
547		流路3 堰2	図152	自然木	—	55.0	—	—	6.0				N1-4	河道2 S11-83
548	192-15	流路3 堰3	図154 図156	矢板	A1	77.0	7.0	3~5			柵目	ブナ科コナラ属 コナラ悪風クヌギ 半節	△1	N1-4 河道2 S7-2

番号	実測図 等番号	遺構	出土状況 開闢	形式種別	類型	残存長 (cm)	a (cm)	b (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	木取	樹種	樹種 同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
549	192-16	流路3 堰3	図154 図156	矢板	A2	60.0	11.0	3.0			柱目	ブナ科コナラ属 コナラ亜属クヌ ギ節	寺1	N1-4 河道2 S1-1
550		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	B	13.0	3.5	2.0						N1-4 河道2 S1-2
551		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A1	27.0	2.0							N1-4 河道2 S1-3
552		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	44.0	3.0							N1-4 河道2 S1-7
553		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	B2	50.0	3.1	4.0						N1-4 河道2 S1-8
554		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	63.0	4.0							N1-4 河道2 S1-9
555		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	35.0	4.0							N1-4 河道2 S1-10
556		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	62.0	3.0							N1-4 河道2 S1-11
557		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	矢板	B	24.0	8.5	2.5						N1-4 河道2 S1-12
558		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	15.0	3.0							N1-4 河道2 S1-13
559		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	66.0	4.0							N1-4 河道2 S1-14
560		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	67.0	5.0							N1-4 河道2 S1-15
561		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	32.0	3.0							N1-4 河道2 S1-16
562		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	32.0	5.0							N1-4 河道2 S1-17
563		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	28.0	3.0							N1-4 河道2 S1-18
564		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	81.0	3.0							N1-4 河道2 S1-19
565		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	55.0	4.0							N1-4 河道2 S1-20
566		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	70.0	4.0							N1-4 河道2 S1-21
567		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A1	46.0	2.0							N1-4 河道2 S1-22
568		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	74.0	4.0							N1-4 河道2 S1-23
569		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	70.0	6.0							N1-4 河道2 S1-24

番号	実測図等番号	遺構	出土状況図	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
570		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	41.0	3.0						N1-4	河道2 S1-25
571		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	104.0	4.0						N1-4	河道2 S1-26
572		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	43.0	4.0						N1-4	河道2 S1-27
573		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	88.0	3.0						N1-4	河道2 S1-28
574		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	51.0	3.0						N1-4	河道2 S1-29
575		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	大板	A1	31.0	7.0	2.0					N1-4	河道2 S1-30
576		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	36.0	4.0						N1-4	河道2 S1-31
577		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	21.0	4.0						N1-4	河道2 S1-32
578		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	29.0	4.0						N1-4	河道2 S1-33
579		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	69.0	4.0						N1-4	河道2 S1-34
580		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	B1	12.0	0.2	2.0					N1-4	河道2 S1-35
581		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	90.0	5.0						N1-4	河道2 S1-36
582		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	85.0	3.0						N1-4	河道2 S1-37
583		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	59.0	3.0						N1-4	河道2 S1-39
584		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	83.0	3.0						N1-4	河道2 S1-40
585		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	73.0	5.0						N1-4	河道2 S1-41
586		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	53.0	3.0						N1-4	河道2 S1-42
587		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	47.0	4.0						N1-4	河道2 S1-43
588		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	54.0	4.0						N1-4	河道2 S1-44
589		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	65.0	4.0						N1-4	河道2 S1-45
590		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A1	43.0	1.0						N1-4	河道2 S1-46

番号	実測図 等番号	遺構	出土状況 開	形式 種別	類型	残存 (cm)	a (cm)	b (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	木取	樹種	樹種 同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
591		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	29.0	3.0						N1-4	河道2 SI-47
592		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	39.0	4.0						N1-4	河道2 SI-48
593		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	19.0	3.0						N1-4	河道2 SI-49
594		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	51.0	3.0						N1-4	河道2 SI-50
595		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	43.0	4.0						N1-4	河道2 SI-51
596		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	64.0	4.0						N1-4	河道2 SI-52
597		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	103.0	4.0						N1-4	河道2 SI-53
598		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	48.0	5.0						N1-4	河道2 SI-54
599		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	23.0	4.0						N1-4	河道2 SI-55
600		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	63.0	4.0						N1-4	河道2 SI-56
601		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	58.0	5.0						N1-4	河道2 SI-57
602		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	31.0	3.0						N1-4	河道2 SI-58
603		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	52.0	4.0						N1-4	河道2 SI-59
604		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	53.0	3.0						N1-4	河道2 SI-60
605		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	28.0	5.0						N1-4	河道2 SI-61
606		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	80.0	4.0						N1-4	河道2 SI-62
607		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A1	55.0	2.0						N1-4	河道2 SI-63
608		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	109.0	3.0						N1-4	河道2 SI-64
609		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	106.0	4.0						N1-4	河道2 SI-65
610		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	62.0	4.0						N1-4	河道2 SI-66
611		流路3 渠3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	96.0	4.0						N1-4	河道2 SI-67

番号	実測図等番号	遺構	出土状況図	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
612		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	50.0	4.0						N1-4	河道2 S1-68
613		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A1	43.0	2.0						N1-4	河道2 S1-69
614		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	31.0	4.0						N1-4	河道2 S1-70
615		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	36.0	5.0						N1-4	河道2 S1-71
616		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	52.0	4.0						N1-4	河道2 S1-72
617		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	44.0	4.0						N1-4	河道2 S1-73
618		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	37.0	3.0						N1-4	河道2 S1-74
619		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	60.0	4.0						N1-4	河道2 S1-75
620		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	42.0	3.0						N1-4	河道2 S1-76
621		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	70.0	5.0						N1-4	河道2 S1-77
622		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	95.0	4.0						N1-4	河道2 S1-78
623		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	56.0	3.0						N1-4	河道2 S1-79
624		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	49.0	3.0						N1-4	河道2 S1-80
625		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	49.0	4.0						N1-4	河道2 S1-81
626		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	64.0	3.0						N1-4	河道2 S1-82
627		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	横木	A	49.0	17.0				心持	ブナ科コナラ属 コナラ亜属クヌギ属	寺1 N1-4	河道2 S1-83
628		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	44.0	4.0						N1-4	河道2 S1-84
629		流路3 堰3 北 杭列	図154 図156	杭	A2	54.0	4.0						N1-4	河道2 S1-85
630		流路3 堰3 北 杭列	図154 図155	自然木	—	54.0	—	—	10.0	4.0			N1-4	河道2 S1-1
631		流路3 堰3 南 杭列	図154 図157	矢板	B1	32.0	3.0	0.5					N1-4	河道2 S3-1
632		流路3 堰3 南 杭列	図154 図157	杭	A2	35.0	4.0						N1-4	河道2 S3-3

番号	実測図 等番号	遺構	出土状況 開削	形式 種別	類型	残存 長(cm)	a (cm)	b (cm)	幅 (cm)	厚 J <sub>h</sub> (cm)	木取	樹種	樹種 同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
633		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	杭	B1	40.0	0.2	2.5					N1-4	河道2 S3-4
634		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	杭	A2	77.0	5.0						N1-4	河道2 S3-5
635		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	杭	A2	37.0	3.0						N1-4	河道2 S3-6
636		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	杭	A2	41.0	4.0						N1-4	河道2 S3-7
637		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	杭	A2	40.0	3.0						N1-4	河道2 S3-8
638		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	杭	A2	51.0	4.0						N1-4	河道2 S3-9
639		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	横木	A	55.0	17.0				心持	ブナ科コナラ属 コナラ亜属クヌ ギ節	⇒1 N1-4	河道2 S3-11
640		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	横木	A	52.0	14.0				心持	ブナ科コナラ属 コナラ亜属クヌ ギ節	⇒1 N1-4	河道2 S3-12
641		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	横木	E	93.0	5.5	7.6			樅目	ブナ科コナラ属 コナラ亜属クヌ ギ節	⇒1 N1-4	河道2 S3-14
642		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	矢板	B1	99.0	3.0	0.7			板目	ヒノキ科アスナ ロ属	⇒1 N1-4	河道2 S3-15
643		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	杭	C1	34.0	0.3	1.0					N1-4	河道2 S3-16
644		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	杭	A2	21.0	3.0						N1-4	河道2 S3-17
645		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	杭	A2	54.0	3.0						N1-4	河道2 S3-18
646		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	杭	A2	52.0	3.0						N1-4	河道2 S3-19
647		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	横木	A	100.0	6.0						N1-4	河道2 S3-20
648		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	杭	A2	36.0	3.0						N1-4	河道2 S3-23
649		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	杭	A2	41.0	4.0						N1-4	河道2 S3-24
650		流路3 渠3 南 杭列	図154 図157	杭	A2	33.0	3.0						N1-4	河道2 S3-25
651		流路3 渠3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	21.0	4.0						N1-4	河道2 S2-2
652		流路3 渠3 南 杭列	図154 図158	杭	A1	23.0	2.0						N1-4	河道2 S2-3
653		流路3 渠3 南 杭列	図154 図158	杭	B1	36.0	1.0	3.5					N1-4	河道2 S2-4

番号	実測図等番号	遺構	出土状況図	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
654		流路3 堰3 杭列	図154 図158	杭	A2	50.0	3.0						N1-4	河道2 S2-5
655		流路3 堰3 杭列	図154 図158	杭	B1	41.0	2.0	3.9					N1-4	河道2 S2-6
656		流路3 堰3 杭列	図154 図158	杭	A2	41.0	3.0						N1-4	河道2 S2-7
657		流路3 堰3 杭列	図154 図158	杭	A2	46.0	4.0						N1-4	河道2 S2-8
658		流路3 堰3 杭列	図154 図158	杭	A2	45.0	3.0						N1-4	河道2 S2-9
659		流路3 堰3 杭列	図154 図158	横木	A	79.0	4.0						N1-4	河道2 S2-11
660		流路3 堰3 杭列	図154 図158	杭	C1	8.0	0.5	3.1					N1-4	河道2 S2-12
661		流路3 堰3 杭列	図154 図158	横木	A	105.0	7.0						N1-4	河道2 S2-13
662		流路3 堰3 杭列	図154 図158	天板	B1	46.0	7.0	3.0					N1-4	河道2 S2-14
663		流路3 堰3 杭列	図154 図158	杭	A2	47.0	4.0						N1-4	河道2 S2-15
664		流路3 堰3 杭列	図154 図158	杭	A2	24.0	4.0						N1-4	河道2 S2-16
665		流路3 堰3 杭列	図154 図158	杭	A2	16.0	3.0						N1-4	河道2 S2-17
666		流路3 堰3 杭列	図154 図158	杭	A2	17.0	4.0						N1-4	河道2 S2-18
667		流路3 堰3 杭列	図154 図158	杭	A2	11.0	3.0						N1-4	河道2 S2-19
668		流路3 堰3 杭列	図154 図158	杭	A2	31.0	4.0						N1-4	河道2 S2-20
669		流路3 堰3 杭列	図154 図158	杭	A2	33.0	3.0						N1-4	河道2 S2-21
670		流路3 堰3 杭列	図154 図158	杭	A2	38.0	6.0						N1-4	河道2 S2-22
671		流路3 堰3 杭列	図154 図158	杭	A2	33.0	4.0						N1-4	河道2 S2-23
672		流路3 堰3 杭列	図154 図158	天板	A1	49.0	6.0	3.0					N1-4	河道2 S2-25
673		流路3 堰3 杭列	図154 図158	杭	A2	40.0	4.0						N1-4	河道2 S2-26
674		流路3 堰3 杭列	図154 図158	杭	A2	37.0	6.0						N1-4	河道2 S2-27

番号	実測図等番号	遺構	出土状況	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
675		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	A2	70.0	4.0						N1-4	河道2 S2-28
676		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	A2	26.0	4.0						N1-4	河道2 S2-29
677		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	A2	46.0	4.0						N1-4	河道2 S2-30
678		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	A2	48.0	4.0						N1-4	河道2 S2-31
679		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	A2	21.0	6.0						N1-4	河道2 S2-32
680		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	A2	40.0	4.0						N1-4	河道2 S2-33
681		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	B1	37.0		4.0					N1-4	河道2 S2-34
682		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	矢板	B1	32.0	6.0	1.0					N1-4	河道2 S2-35
683		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	A2	46.0	4.0						N1-4	河道2 S2-36
684		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	A1	9.0	2.0						N1-4	河道2 S2-37
685		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	A2	17.0	5.0						N1-4	河道2 S2-38
686		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	A3	38.0	9.0						N1-4	河道2 S2-40
687		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	A2	14.0	4.0	2.0					N1-4	河道2 S2-41
688		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	A2	53.0	5.0						N1-4	河道2 S2-42
689		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	B1	21.0	0.6	2.9					N1-4	河道2 S2-43
690		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	A2	24.0	4.0						N1-4	河道2 S2-44
691		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	B1	9.0	0.3	2.9					N1-4	河道2 S2-45
692		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	A2	8.0	6.0						N1-4	河道2 S2-46
693		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	A2	20.0	3.0						N1-4	河道2 S2-47
694		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	C1	7.0	1.9	2.7					N1-4	河道2 S2-48
695		汎路3 渠3 杭列	図154 図158	杭	A2	30.0	4.0						N1-4	河道2 S2-49

番号	実測図等番号	遺構	出土状況図	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
696		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	17.0	3.0						N1-4	河道2 S2-51
697		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	19.0	3.0						N1-4	河道2 S2-52
698		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	47.0	4.0						N1-4	河道2 S2-53
699		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	34.0	4.0						N1-4	河道2 S2-54
700		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	26.0	3.0						N1-4	河道2 S2-55
701		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	18.0	4.0						N1-4	河道2 S2-56
702		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	49.0	5.0						N1-4	河道2 S2-57
703		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	35.0	5.0						N1-4	河道2 S2-58
704		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	46.0	5.0						N1-4	河道2 S2-59
705		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	15.0	3.0						N1-4	河道2 S2-60
706		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	D	23.0	2.9	3.5					N1-4	河道2 S5-4
707		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A1	22.0	2.0						N1-4	河道2 S5-6
708		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	24.0	5.0						N1-4	河道2 S6-1
709		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	55.0	4.0						N1-4	河道2 S6-2
710		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	54.0	4.0						N1-4	河道2 S6-3
711		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	69.0	6.0	2.5 ~4					N1-4	河道2 S6-4
712		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A1	30.0	2.0						N1-4	河道2 S6-5
713		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A1	12.0	2.0						N1-4	河道2 S6-6
714		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	19.0	4.0						N1-4	河道2 S6-7
715		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	29.0	4.0						N1-4	河道2 S6-8
716		流路3 堰3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	36.0	3.0						N1-4	河道2 S6-9

番号	実測図 等番号	遺構	出土状況 記載	形式 種別	類型	残存 長(cm)	a (cm)	b (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	木取	樹種	樹種 同定	地区・遺構名 現地での取上番号
717		流路3 渠3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	56.0	3.0						N1-4	河道2 S6-10
718		流路3 渠3 南 杭列	図154 図158	杭	B1	17.0	1.0	3.0					N1-4	河道2 S6-11
719		流路3 渠3 南 杭列	図154 図158	杭	C2	53.0	3.4	4.0					N1-4	河道2 S6-12
720		流路3 渠3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	47.0	3.0						N1-4	河道2 S6-13
721		流路3 渠3 南 杭列	図154 図158	横木	A	77.0	14.0						N1-4	河道2 S6-14
722		流路3 渠3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	46.0	4.0						N1-4	河道2 S6-15
723		流路3 渠3 南 杭列	図154 図158	杭	A2	55.0	4.0						N1-4	河道2 S6-16
724		流路3 渠3 南 杭列	図154 図158	杭	A1	43.0	2.0						N1-4	河道2 S6-17
725		流路3 渠3 南 杭列	図154 図158	杭	A1	27.0	2.0						N1-4	河道2 S6-18
726		流路3 渠3 南 杭列	図154 図158	杭	A1	17.0	2.0						N1-4	河道2 S6-19
727		流路3 渠3 南 杭列	図154 図158	杭	A1	30.0	2.0						N1-4	河道2 S6-20
728		流路3 渠3	図154	杭	A2	17.0	5.0						N1-4	河道2 S4-1
729		流路3 渠3	図154	杭	A2	11.0	5.0						N1-4	河道2 S4-2
730		流路3 渠3	図154	杭	A2	76.0	3.0						N1-4	河道2 S4-3
731		流路3 渠3	図154	杭	A2	58.0	5.0						N1-4	河道2 S4-4
732		流路3 渠3	図154	杭	A2	67.0	5.0						N1-4	河道2 S4-5
733		流路3 渠3	図154	杭	A2	72.0	5.0						N1-4	河道2 S4-6
734	193-20	流路3 渠3周辺	図154 図156	地	-	56.4	-	-	12.3	2.5	柱目	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	⇒1 N1-4	河道2 S1-4
735	193-21	流路3 渠3周辺	図154 図157	木槽	-	80.0	-	-	8.0	7.0	横木	ヒノキ科アスナ ロ属	⇒1 N1-4	河道2 S3-26
736	194-22	流路3 渠3周辺	図154	木槽	-	82.2	-	-	23.2	4.2	横木	マツ科モミ属	⇒1 N1-4	河道2 S4-7
737	195-23	流路3 渠3周辺	図154 図158	木槽	-	45.3	-	-	21.9	2.5	横木	コヤマキ科コ ウヤマキ属コウ ヤマキ	⇒1 N1-4	河道2 S6-5
738	192-17	流路3 渠4	図159	杭	A1	89.0	2.5				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	⇒1 N2-5	S1 S2- S1-6
739	192-18	流路3 渠4	図159	矢板	A2	87.0	11.0	4.0			柱目	ブナ科シイ属	⇒1 N2-5	S1 S2- S1-8
740	192-19	流路3 渠4	図159	矢板	A1	54.0	7.5	3.0			柱目	ブナ科シイ属	⇒1 N2-5	S1 S2- S1-9
741		流路3 渠4	図159	横木	A	92.0	8.5				心持	バラ科サクラ属	N2-5	S1 S2- S1-1

番号	実測図等番号	遺構	出土状況	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
742		流路3 堰4	図159	矢板	B2	64.0	13.0	3.0			板目	ブナ科シイ属	N2-5	S1 N2-S1-2
743		流路3 堰4	図159	矢板	A1	38.5	7.5	3.0			板目	ブナ科シイ属	N2-5	S1 N2-S1-4
744		流路3 堰4	図159	杭	A2	20.0	6.0						N2-5	S1 N2-S1-5
745		流路3 堰4	図159	矢板	B1	28.0	10.5	3.5					N2-5	S1 N2-S1-7
746		流路3 堰4	図159	矢板	A1	79.0	7.0	4.0					N2-5	S1 N2-S1-10
747		流路3 堰4	図159	矢板	A2	76.0	11.0	4.0					N2-5	S1 N2-S1-11
748		流路3 堰4	図159	矢板	B1	47.0	9.0	3.0					N2-5	S1 N2-S1-12
749		流路3 堰4	図159	横木	A	31.0	11.0						N2-5	S1 N2-S1-13
750		流路3 堰4	図159	矢板	A2	7.5	11.0	3.0					N2-5	S1 N2-S1-14
751		流路3 堰4	図159	矢板	B1	25.5	10.0	1.0					N2-5	S1 N2-S1-16
752		流路3 堰4	図159	杭	A2	39.5	5.0						2-itr	3層
753		流路3 堰4	図159	杭	A2	37.0	5.0						2-itr	3層
754	191-13	流路3 護岸杭列	図161	杭	B1	68.0	2.6	4.5			板目	ツバキ科ツバキ属	※1	N1-4 河道2 S8-5
755	191-14	流路3 護岸杭列	図161	杭	A2	54.0	4.0				心持	ツバキ科ツバキ属	※1	N1-4 河道2 S8-6
756		流路3 護岸杭列	図161	杭	A2	37.0	3.0						N1-4	河道2 S8-1
757		流路3 護岸杭列	図161	杭	A2	60.0	4.0						N1-4	河道2 S8-2
758		流路3 護岸杭列	図161	杭	A2	65.0	3.0						N1-4	河道2 S8-3
759		流路3 護岸杭列	図161	杭	A2	51.0	6.0						N1-4	河道2 S8-4
760	195-24	流路3		木構	—	27.3	—	—	10.2	3.4	横木	ヒノキ科ヒノキ属	※1	N1 河道01
761		流路3		自然木	—	38.0	—	—	9.5				1-itr	河道2

第5追標面(9層上面)

762	222-1 流路5 a-a'	図217	杭	A2	15.0	4.0					心持	ツバキ科ヒサカキ属	※1	西区 第3遺構面 流路9杭列A	18
763	222-2 流路5 a-a'	図217	杭	A2	21.0	6.0					心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1	西区 第3遺構面 流路9杭列A	26
764	222-3 流路5 a-a'	図217	杭	A2	26.0	4.0	6.0				半裁	ツバキ科ツバキ属	※1	西区 第3遺構面 流路9杭列A	27
765	流路5 a-a'	図217	杭	A2	18.0	4.0					心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1	西区 第3遺構面 流路9杭列A	17
766	流路5 a-a'	図217	杭	A1	11.0	2.0					みかん割り	広葉樹1	※1	西区 第3遺構面 流路9杭列A	19
767	流路5 a-a'	図217	杭	A1	12.0	2.0					板目	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1	西区 第3遺構面 流路9杭列A	20
768	流路5 a-a'	図217	杭	A2	11.0	3.0					心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属コナラ属	※1	西区 第3遺構面 流路9杭列A	21

番号	実測図等番号	遺構	出土状況	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構名	現地での取上番号	
769		流路 5 a-a'	図 217	杭	A2	49.0	4.0				心持	ブナ科シイ属	※1	西区	第3遺構 面 流路 9 杭例 A	22
770		流路 5 a-a'	図 217	杭	A1	22.0	2.0				心持	ヤナギ科ヤナギ 属	※1	西区	第3遺構 面 流路 9 杭例 A	37
771		流路 5 a-a'	図 217	杭	B1	10.0	1.7	3.0			板目	広葉樹 2	※1	西区	第3遺構 面 流路 9 杭例 A	木 27 木 37 の近く
772	222-4	流路 5 b-b'	図 217	杭	A2	38.0	3.0				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1	西区	第3遺構 面 流路 9 杭例 C	33
773	222-5	流路 5 b-b'	図 217	杭	A2	54.0	3.0				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1	西区	第3遺構 面 流路 9 杭例 C	36
774	222-6	流路 5 b-b'	図 217	杭	A2	31.0	3.0				心持	クスノキ科	※1	西区	第3遺構 面 流路 9 杭例 C	35
775		流路 5 b-b'	図 217	杭	A2	12.0	3.0	1.5			心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1	西区	第3遺構 面 流路 9 杭例 C	28
776		流路 5 b-b'	図 217	杭	A1	17.0	2.0				心持	ブナ科クリ属ク リ	※1	西区	第3遺構 面 流路 9 杭例 C	29
777		流路 5 b-b'	図 217	杭	A2	25.0	3.5				心持	ヤマモモ科ヤマ モモ属ヤマモモ	※1	西区	第3遺構 面 流路 9 杭例 C	30
778		流路 5 b-b'	図 217	杭	A2	29.0	4.0				心持	ブナ科シイ属	※1	西区	第3遺構 面 流路 9 杭例 C	31
779		流路 5 b-b'	図 217	杭	A1	22.0	2.0				心持	ブナ科シイ属	※1	西区	第3遺構 面 流路 9 杭例 C	32
780		流路 5 b-b'	図 217	杭	A2	30.0	3.0				心持	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	※1	西区	第3遺構 面 流路 9 杭例 C	34
781		流路 5	図 217	杭	A1	25.0	1.0							西区	流路 9 杭例 E	23
782		流路 5	図 217	杭	A1	42.0	1.5							西区	流路 9 杭例 E	56
783		流路 5	図 217	杭	A2	28.0	3.8							西区	流路 9 杭例 E	56
784		流路 5	図 217	杭	A1	11.0	1.0							西区	流路 9 杭例 E	57
785		流路 5	図 217	杭	A1	27.0	2.0							西区	流路 9 杭例 E	58
786		流路 5	図 217	杭	B1	22.0	2.0	4.0						西区	流路 9 杭例 E	59
787		流路 5	図 217	杭	A1	7.0	1.0							西区	流路 9 杭例 E	60
788		流路 5	図 217	杭	A1	22.0	1.0							西区	流路 9 杭例 E	61
789		流路 5	図 217	杭	A1	10.0	1.0							西区	流路 9 杭例 E	62
790		流路 5	図 217	杭	B1	19.0	1.0	2.0						西区	流路 9 杭例 E	63
791		流路 5	図 217	矢板	B2	70.0	14.0	3.0						西区	第3遺構 面 流路 9	9
792		流路 5	図 217	杭	A3	65.0	7.0							西区	第3遺構 面 流路 9	10
793		流路 5	図 217	杭	B3	42.0	7.0	6.8						西区	第3遺構 面 流路 9	11
794		流路 5	図 217	杭	B2	35.0	3.7	4.2						西区	第3遺構 面 流路 9	12

番号	実測図等番号	遺構	出土状況	形式種別	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称 現地での取上番号
795		流路5	図217	杭	C1	20.0	0.5	3.4						西区 第3遺構面 流路9 13
796		流路5	図217	矢板	B1	9.0	3.0	0.5						西区 第3遺構面 流路9 14
797		流路5	図217	矢板	B1	10.0	7.0	2.5						西区 第3遺構面 流路9 15
798		流路5	図217	矢板	B1	23.0	5.0	1.5						西区 第3遺構面 流路9 16
799		流路5	図217	杭	A1	10.0	2.5							西区 第3遺構面 流路9 24
800		流路5	図217	杭	A1	20.0	1.5							
801		流路5	図217	杭	A2	2.2	5.0							西区 第3遺構面 流路9 53
802		流路5	図217	杭	A2	26.0	6.0	3.5						西区 第3遺構面 流路9 54
803		流路5	図217	杭	B1	18.0	1.0	2.5						西区 第3遺構面 流路9 55
804		流路5	図217	杭	B1	21.0	0.5	2.0						西区 第3遺構面 流路9 39 杭列D
805		流路5	図217	杭	A1	41.0	2.5							西区 第3遺構面 流路9 49 杭列D
806		流路5	図217	杭	A1	26.0	1.0							西区 第3遺構面 流路9 41 杭列D
807		流路5	図217	杭	A1	15.0	2.0							西区 第3遺構面 流路9 42 杭列D
808		流路5	図217	杭	A1	42.0	1.5							西区 第3遺構面 流路9 43 杭列D
809		流路5	図217	杭	A1	30.0	2.0							西区 第3遺構面 流路9 44 杭列D
810		流路5	図217	杭	A1	31.0	1.5							西区 第3遺構面 流路9 44付近 杭列D
811		流路5	図217	矢板	B1	19.0	4.0	0.5						西区 第3遺構面 流路9 45 杭列D
812		流路5	図217	杭	A1	27.0	1.5							西区 第3遺構面 流路9 46 杭列D
813		流路5	図217	杭	A1	28.0	1.5							西区 第3遺構面 流路9 47 杭列D
814		流路5	図217	矢板	B1	11.0	4.0	0.5						西区 第3遺構面 流路9 48 杭列D
815		流路5	図217	杭	A1	14.0	2.0							西区 第3遺構面 流路9 49 杭列D
816		流路5	図217	杭	A1	25.0	2.0							西区 第3遺構面 流路9 50 杭列D
817		流路5	図217	矢板	B1	24.0	5.0	1.0						西区 第3遺構面 流路9 51 杭列D
818		流路5	図217	杭	A1	14.0	2.0							西区 第3遺構面 流路9 52 杭列D
819		流路5	図217	自然木	—	22.0	—	—	6.0	9.0				西区 第3遺構面 流路9 58

番号	実測図 等番号	遺構	出土状況図	形式種別	類型	残存長 (cm)	a (cm)	b (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	木取	樹種	樹種 同定	地名・ 遺構旧名称 現地での取上番号
820				杭	A2	7.0	6.0	2.5						西区 第4遺構面 64
821				矢板	B1	19.0	4.0	1.5			板目	マツ科ツガ属	寺1	東区 第3遺構面 杭2
822				矢板	B1	33.0	4.0	2.0			板目	マツ科ツガ属	寺1	東区 第3遺構面 杭3
823				杭	A1	12.0	2.5							西区 第3遺構面 4
824				杭	D	21.0	3.5	2.0						西区 第3遺構面 5
825				杭	A2	20.0	6.0							西区 第3遺構面 6
826				杭	A2	13.0	4.0							西区 第3遺構面 7

第6遺構面 (10層上面)

827	溝25	図24	杭	A2	21.5	4.0						1-4tr	4層	
828	溝25	図24	杭	A2	35.0	3.0						1-4tr	4層 溝	杭1
829	溝25	図24	杭	A2	14.0	5.0						溝	アゼ2	1層

第7遺構面 (11層上面)

830	溝27 東杭例	図250	杭	A2	25.0	3.0						N1-7	杭列② 7-31	4
831	溝27 東杭例	図250	杭	A2	6.0	3.0						N1-7	杭列② 7-31	5
832	溝27 西杭例	図250	杭	A2	24.0	4.0						N1-7	杭列③ 7-32	3
833	溝27 西杭例	図250	杭	A1	30.0	2.0						N1-7	杭列③ 7-32	4
834	溝27 西杭例	図250	丸太 材	164.0	—	—	10 ~ 6 ~ 23 16					N1-7	杭列③ 7-32	2
835	北1区		杭	D	9.0	4.0	4.0					N1-7	杭列① 7-30	1
836	南1区2 トレンチ 南端部		杭	A1	17.5	2.5						2-2tr	3層	木1
837	南1区2 トレンチ 南端部		杭	A1	12.0	2.0						2-2tr	3層	木1
838	南1区2 トレンチ 南端部		杭	A1	7.0	2.5						2-2tr	3層	木1
839	南1区2 トレンチ 南端部		杭	A1	14.0	2.0						2-2tr	3層	木3
840	南1区2 トレンチ 南端部		杭	A1	12.0	1.6						2-2tr	3層	木3
841	南1区2 トレンチ 南端部		杭	A1	10.0	1.5						2-2tr	3層	木3
842	南1区2 トレンチ 南端部		杭	A1	10.5	1.4						2-2tr	3層	木2
843	南1区2 トレンチ 南端部		杭	A1	10.5							2-2tr	3層	木2
844	南1区2 トレンチ 南端部		杭	A1	16.0							2-2tr	3層	木2
845	第7遺構 面南3区		自然 木	25.0	—	—	16.0					西区	第4遺構 面	65
846	第7遺構 面南3区		自然 木	21.0	—	—	8.0	6.0				西区	第4遺構 面	66

番号	実測図 等番号	遺構	出土状 況図	形式 種別	類型	残存 長 (cm)	a (cm)	b (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	木取	樹種	樹種 同定	地区・遺構名 現地での取上番号
<b>第8遺構面 (12層上面)</b>														
847	341-1	土坑16	図292	杭	A2	19.0	5.0				心持	イスガヤ科イヌ ガヤ属イヌガヤ	※1	N3-8 土坑2 2
848	341-2	土坑16	図292	杭	A2	15.0	4.5				心持	イスガヤ科イヌ ガヤ属イヌガヤ	※1	N3-8 土坑2 15
849	341-3	土坑16	図292	杭	A2	33.0	5.5				板目	イスガヤ科イヌ ガヤ属イヌガヤ	※1	N3-8 土坑2 18
850	341-4 別表 1-9	土坑16	図292	杭	A2	39.0	5.5				心持	イスガヤ科イヌ ガヤ属イヌガヤ	※2	N3-8 土坑2 17
851	土坑16	図292	杭	A2	31.0	5.5								N3-8 土坑2 1
852	土坑16	図292	杭	A2	13.0	4.0								N3-8 土坑2 3
853	土坑16	図292	杭	A2	19.0	3.0								N3-8 土坑2 4
854	土坑16	図292	杭	A1	10.5	1.0								N3-8 土坑2 5
855	土坑16	図292	杭	A1	25.0	1.5								N3-8 土坑2 6
856	土坑16	図292	杭	A2	11.0	5.0								N3-8 土坑2 7
857	土坑16	図292	杭	A2	10.5	2.0								N3-8 土坑2 8
858	土坑16	図292	杭	A2	10.5	3.0								N3-8 土坑2 9
859	土坑16	図292	杭	A1	7.0	1.5								N3-8 土坑2 10
860	土坑16	図292	杭	A1	14.0	2.5								N3-8 土坑2 11
861	土坑16	図292	杭	A2	11.0	3.0								N3-8 土坑2 12
862	土坑16	図292	杭	A2	14.0	3.5								N3-8 土坑2 14
863	土坑16	図292	杭	B2	14.0	3.0	4.0							N3-8 土坑2 16
<b>第9遺構面 (13層上面)</b>														
864	土坑26	図352	杭	B2	66.0	3.5	7.5						S1 IV	2
865	土坑25	図352	杭	B2	36.0	6.5	8.0						S1 IV	3
866	土坑25	図352	杭	A3	33.0	7.0							S1 IV	4
867	南1区		杭		104.0	11.0							S1 IV	1
<b>南5区</b>														
868	425-1	南1区		杭	A2	28.3	4.2						南5 区	ITr 杭1



## 玉 手 遺 跡

—京奈和自動車道建設に係る発掘調査報告—

〈第2分冊〉

御所市文化財調査報告 第52集

平成29年(2017年)2月28日

編集・発行 御所市教育委員会

御所市1-3

印 刷 株式会社 笹田印刷所

奈良県御所市16-3